

## 名取市民震災の記録

3年前の3月11日の夜は星がきれいだったそうです。それを見た人は東北地方では少なかつたと思います。人々はそれどころではなかつたのです。津波で流され瓦礫の中で何かにつかまって漂っていた人や、家ごと流されて滑るのを堪えながら屋根に登っていた人を除いては……。その3月11日は長い冬も終わりに近づき、人々は今年の桜はどこでどう見るのかなどを心待ちにしていました。東北の春です。しかし、皮肉にもその年の桜を見る心の余裕は人々にはありませんでした。ある仮設では、入所したときにあまりにも桜が綺麗に咲いていたので桜を仮設住宅の名前にしました。しかし、入居者は桜には気づかず、1年後に初めてそのことに気づきました。

この記録は2013年夏から冬にかけて名取市民で被災された方に直接インタビューしたものの記録です。その際に心がけたことがあります。まず、20歳以上の人に限定すること。記録はその人の語りを方言も含めてできる限り生かすこと（これはその人の語りこそが真実であるという社会的構成主義の影響もあります）。原稿は必ずその話者の校閲を得ることなどです。またネット公開であることから全員匿名にしました。

伺ったお話からは、その方がいかに大変な思いをされたこと、後世に伝えたいという気持ち強いことがひしひしと伝わってきました。ご本人の話聞いたものしか伝えられないものがあると、ころして記録しました。

最近ビックデータがはやります。情報量から言えばこの記録はスモールデータです。しかし、生の語りから得る知識、知恵の深さは測り尽くせません。例えば、閑上の人々は閑上に津波は来ないと信じていた。避難の多くは直接互いに声を掛け合っただけでなされた。直後

は100%来ると言われていた宮城県沖地震が終わったと錯覚し、ほっとした気持ちがあった。テレビが人々の多くの情報源であり、停電でその情報源は断たれていた。電話で安否確認が出来ず多くの人は直接安否確認しにいった。皆で避難することでひとまず安心していた。避難所では、少ない食糧を分け合った。仮設住宅では、地区ごとに入居した安心感があった。などです。いずれにせよ地域の結びつきの強さが伝わってきました。また、ふるさとのよさを聞くたびに、タイムスリップして震災前の、人々の暮らしぶりを見たかったという気持ちに強くなりました。

最後になりましたが、被災された方の健康と幸せをこころから願うと共に、心地よくインタビューに応じて下さった方々に感謝いたします。最初の部分には同一の被災者が作られた詩を数編載せました。尚綱学院大学大学院総合人間科学研究所を代表して

水田恵三

目を閉じて想い出そう閑上を

朝5時に漁港のサイレンなりひびき  
五十集（いさば）のおばさんせりの声  
カモメも一緒に起き出して  
市場の活気があふれだす

名取川でのアサリ採り  
重いぎよれんを投げ入れて  
こがらし吹こうがなんのその  
ザツサザツサと引き上げる

地引き網  
みんな声掛けヨイコラシヨ  
ピチピチ魚が踊ってる  
子供も一緒に飛び跳ねる

閑上ビーチも賑やかに  
水着の花がまぶしいね

若者サーフィンかっこよく  
大波小波をスーイスーイ

ヨットハーバー何艇も  
スuisイ風受け気持ちよく  
大海原へ出航だ  
閑上名物朝市は

買ってがせー んめがらやー（買って行って おいしいからさ）  
なんぼしゃー ほしいっけさい （いくら？ それちようだい）  
閑上弁の威勢のよい声とびかっつ  
ついついよけいに買いこんだ

緑の松原遊歩道

散歩しながらキノコ採り  
サイクリングセンタースuisイと  
親子で楽しむ変わり自転車  
さわやかな汗がにじみず  
広い砂浜散歩して  
釣り人に何匹釣れたのー？  
カレイ二匹だあ 等と会話する  
ハマボウフウの白い花  
流木に腰を下ろして眺めたね  
浜の人間祭り好き  
湊神社の秋祭り  
神に感謝のごちそうを  
大判振る舞い太っ腹  
神輿（みこし）の行列待ちかねる  
町内会の盆踊り  
仮装大会大笑い  
ご先祖様もびっくりで  
くじ引き大会 大当たり  
なんと言っても夏祭り  
大漁旗をなびかせて

閑上太鼓もドンドンと  
祭り気分をかき立てる  
ビンゴゲームにステーション  
屋台もたくさん夢いっぱい  
サイフのひももゆるみます  
夜は花火の大乱舞  
ゆかたのカップル指からめ  
肩よせ合って見つめ合う

日和山、加工場、幼稚園、保育所  
小学校、中学校、公民館  
貞山堀、開運橋  
地区民運動会、敬老会  
お楽しみ町内のバスツアー（商工会）

あーあ閑上  
頭の中がグルグル  
走馬灯のようにつめぐる  
目を開けると何も無い  
ささやかな生活が  
いつまでも続くと信じてた  
いつか復旧復興することを  
みんなの絆でがんばろう

## 心の岩石

津波が全部さらっていった  
なんとむごいことだ  
悲しみ 苦しみ 絶望感  
どんな言葉でも表現できない  
心の中に黒く 重い 鉛のような岩石  
ずっしーんと居座っている  
でもいつか  
時間という時の流れ  
自然のうつろい  
空には輝く太陽  
頭をなでるやさしい風  
雨上がりの虹  
小鳥のさえずり  
暗闇で光を届ける星達  
赤ちゃんの純真な笑顔  
無邪気に遊ぶ子どもたちのはずんだ声  
皆さんからの暖かいご支援  
そうだ そうだ  
負けてはいられない  
氷河の氷がコップの中で  
かすかな音と共にほじけるように  
熱い涙で泣くだけ泣いたら  
いつの日にか心の中の大きな鉛の岩石も  
少しづつ ちよつとづつ 砕けるだろう  
そして小さな砂粒となり

鳴き砂の浜に流れ着くだろう  
踏まれてキュッ キュッと音を奏でて  
人々を楽しませるだろう  
いつの日にか軽くなった気持ちで  
あーあんな事もあったなあ  
振り返る日が早く来れば良い。

## 叫んでみよう 泣いてみよう

津波がさらっていった平凡な生活  
誰だって ワーツと全身を振りしぼって  
腹の底から叫びたいはずだ  
山のとっぺんから大っきい声で  
叫びたいはずだ  
誰に遠慮することなく  
大粒の涙を流して  
ワアワア泣きたいはずだ  
叫んでも泣いても帰ってこないけど  
でも大っきいな声で  
叫びたいはずだ  
泣きたいはずだ  
大声で叫んで  
大声で泣いて  
少しはすつきりするだろう  
どこかの山で  
どこかの場所で  
はずかしがらず  
心の底から腹の底から  
叫んでみよう 泣いてみよう



## 集会所に来るのは仕事のようなもんだ

閑上二丁目

### すぐに避難した

仙台、仙台から閑上さま来て50年になったんだからわねー去年になつて。まず地震来てねえ外さ避難したつちや、一回出たのね。婆ちゃんはその中にいたのね。だけど何回も来るつちやねえ。強い地震ねえ。もうねえ。ほんでほら、外で車でおっきい津波来つから避難しろつて言われたから、俺は外さ逃げて婆ちゃんはその中で何か仏壇のところでぼそぼそぼそやってたんだよねえ。だから早く出て早くーつて、とにかく玄関の自転車2台、タイヤも倒れたから車こすつて出すのにも心してやつと出したの。表まで。それで逃げたのねーみんなさ声かけて。今津波おっきいの来るつていうから早く避難すれーつて。だけつと辺りではねー道片付けたの。避難しなかったのねえ。だから隣近所みな亡くなつたんですよ。うーんそうなの。離れてんのうん。あの堀もあるからねえ。そいでとにかく押して逃げたのねえ、で公民館に避難して私はほら、地震がある十日ぐらい前に自転車で転んだばかりで、婆ちゃんより逃げんの少し遅かったの。婆ちゃんは車越してさっささつて行くからね、んだから棒拾つて杖の代わりにしてねえゆーつくりと逃げて行ったのねうーん。んで私が公民館に着いたときは婆ちゃんもう公民館の中に入つて座つてたの。うーん。して今度公民館でだめだーつて言われて、今度ばあちゃん探してまた車はどこさ置いたかわかんねーから車っこも探して、とにかく連れて中学校に逃げたのね。そして中学校さ逃げた時はもううらやすの年寄りたちもこう乗せてくる車は一斉に出はるでねえ。やつと車っこ押して逃げて、中学校のどこ。階段の下さ、婆ちゃん荷物置いたつちや、車っこ置いたつちや、そこからカーディガンとつと来ようしたのねえ。そしてこう振り返つ

た時生協のどこまで来てんの。うん波が。んだからそんなもんいい、この車っこどうすんのつて婆ちゃんが言うから、そんなもんいいんだつて。そこまで水来てんだから早く上がつてーつて言つて、階段上がつて、教室さ入った時にガーつともうかたまり来たのわ。うん一階にね。そして手すり持ったのね、なんあー教室入る一階の手すりだと思ふんだ、んだから婆ちゃんさもう手離すなよーつて言つて、そんなときはもう波被つてたから、私、俺とほら婆ちゃんとかう離れてしまつたの。あいださ男の人が入つてさあ。そしてこの階段の真ん中さ男の人が倒れてて、なかなか足は震えて上がんないしダラダラだしさあガクガクつて。後ろから騒がれるんだつちやねえ奥さん早く早く上がれーつて。何してんねんつて。うん、動かんねーの。手すり持つて上がつたかと思つたけどガクガクなつてわさあ、婆ちゃんと離れてしまつたしさあ。でとにかく上さ上がつて3階さ行つたの。して3階で・違うんだな、2階さ行つたのか先、そしてら2階も危ないつて言われて、上さ上がつたの。今度屋上さ行つたの。そして雪は降つてるね。毛布一枚もらつて、町は燃えてつとこだし、もう雪は降つてるしさあ、あの光景本当にすごかつたんだ。そしてもう夕暮れなつちやわ時間も時間だから、ここさいらんねえから下に暗くななんいうち降りて下さいつて言われて3階に降りて、けど俺は婆ちゃんのとこ手かさねかつたから、だから誰か婆ちゃんのとこ手貸してくださいつて言つて、ここにいる○○さんつていう人なんだつけども、閑上さいた時から知つてるね。その人たち婆ちゃんば手連れて、あのーうらやすつていう年寄りいつとこの部屋さ連れて行つてくれたみたい。私は別なとこさ行つたのね、部屋、だからちよつと分かんねかつたの。2日くらい過ぎてから探しさ行つたのねえ離れ離れだつたから、うーん。もしほらトイレさ行くのもやつとでさあ。ほんとにどこの人だか知らねえけども世話んな

つたんだわいつも。トイレさ行くのに手持ってけらつてさ。窮屈なとこさぎゆうぎゆうみんな詰めたつてたからわ教室にさあ。ほんつとに世話になったんだみんなに。

### 避難所での生活

うん、中学校さいた時は一晚そこさいたの。そして次の日の午後から一中さ行つたの。うーん。婆ちゃん、うん。でねえ知つてる人さ聞いたのよ、婆ちゃんさ見なかったーって。したつけ分かんねえなーって言われてさ。でも一中さ来た時はバスあれだったからな。うん。一緒だった。とにかく泥だらけの荷物。あの道路までバスさ乗るまでもうドロドロつてとこ歩かせらつて、バスさ乗せられて一中さ来たんだからね。そして一中さ来てから、新聞と段ボールみたいな敷いて、ずーつとそこで布団もなしにね。いたんだよねえ。うーん、体育館でない。一中の三階だった。うん三階。そしてうちのお父さんの弟が、全部探したけつどどこ探してもいなくて、死亡届出して来てたのね。で何日か経つてから、姉様と婆ちゃん三階さいたつて教えらつたつたつて。そして来たんだつちや、なんだよオラ死亡届出してきたんだぞわーって言われて今度取り消しさ行つたのね、うーん。そしておつちやんだつちもね、ここさいたんで一週間もいたらいていへんだつて、だから俺の子供たちさ皆声かけて、誰か連れて行けつて。そして娘のとこさ、一中さほらいてから。だけつどもうちが連絡付かねえから、連絡付くまでダメだつて言つて動かなかつたの。んで次男もやつと探してきてくれたからみんなして、安心して娘のとこさ行つたのわ。一週間たつたのかなあー。うーん。んで娘のとこさ三か月いてきたの。うーんとね、仙台の成田町つていうとこ。うん、うーん。一高近いんだつてね。道路出て歩くとい高あるんだつてね。一高。うーん違う。学校あつたよ。うーんだから街中だねえ本当に。三か月いてきたね、うん。

### 仮設住宅に移る

ほいでこの仮設さ来たのが6月8日。その前に連絡来たのね、んだけつども箱塚だつて言わつたの。そして孫に乘せらつて、見に来たつけ店が一軒も無いの。曲がり角さセブンイレブンだかなんだかローソンみてえなのあつて、んでダメだあつて。とつても買ひ物もできねえからつて。愛島さ建つから一か月待つててけさいつて言われて、うん。そしてここに来たつけ、病院も近いし、イトーもムサシもあるからここに決めたわけ。ここ愛の杜。歯医者もあるしね。ここヤマザワもあるしね。うーん。んだから住み心地はいいのね。ここね。うーん閑上さ戻るよりはね。

ここに？ここに来たときねえ、見に来たときに、あのー一緒に働いた人がいたの。んであらーあんたここさいたのーって言つたつけ、んだよーつて。その人もうちなくしててみたいだけつども、ああ知つてる人いて良かったなあつて思つてさ。そして年寄りだからほら、スロープあつとこ、一番端さ入れらつたのね。だから引つ越す前の日に、来てちよつと・・・日にちを見て大安の日をみて、引つ越しすつから。それから引つ越して荷物少しづつ運んで、うん。

### お婆さんの様子が・・・

今はね、うん。お父さんは地震の時事故に遭つて入院してたから、うん。連絡も取れなかつたししばらく。取れなかつた死んだとばかり思つてたつて、うん。落ち着いてからみんなして行つたから車でねえ。娘たちもねえ避難してつ時ねえ、ガソリンもないつちや、だから家族4人して夜自転車で来たんだよー。あつちから。成田町から。一時間以上かかるのにさあ。来てくれたの。そして婆ちゃんのとこさ行つて、婆ちゃんのとこで娘のとこさいてさ、5月、5月中頃かなあ、ちよつと婆ちゃんの様子がおかしくなつてきたのねえ。こうなんかあそこの屋根の上さ人いるだのねえ、こつち見て睨みつけて

るだのって言い始まったのよ。いつだか分かんないけどもさあ、二人でテレビ見てるうちに、眠ってしまったんだね、お茶飲んでる。んでねえ婆ちゃん湯飲み茶わんが無いの。そしてどこさ行ったんだいと思ったら車っこも無いのよ。そしたら湯飲み茶わん持って、その車っこ持って、じーっと都会の。都会ってね、あのね何号線って言うのかなあ。ベニマルっていうところあるんだけど、その信号のときさみんなして手分けして、警察さまで行ってわ探したんだっちゃんね。したらそこさぼつんと座ってたの。孫娘見つけて、連れて来たの。大騒ぎになったの。そんな時から徘徊始まってたんだわねえ。だからねえ。でこつちさ来てからはもう夜は寝せらんねえしさあ。夜んなくてもう台所食ったもの片付けてっどいなくなってるだもん裸足で。んで夜中目覚めっと今度ポットから急須 お茶のねえ、あいつからみな玄関のときさ運んで、どこさ行くのって言ったら、閉上さ帰るからってねえ。んだから東京に娘いるんだけども、温泉さ連れてってもらってるのよ、一年に1回2泊3日でねえ。んだから温泉もいいけども、少し連れっつてみてけねすかーって頼んだの。少し・・なっってしまったから。んだから連れっつてもらったんだけど、ダメなんだって閉上さタクシー呼んでける語って、タクシーで帰るばり語って。だから娘だから婆ちゃんそんなにひどくなってると思っつてなかった。ほんな日中なっつてねえ。だから実際見てみねーと分かんねえからねえって言ったの。でさーあんなにひどくなると思わなかったーって。んでもね、ひか月かのか月ぐれーで元さ戻ったのね。マネージャーさんもびっくりしてたの。要支援にねーから介護さなっただからね。うーん。ほんんと徘徊してあなたの婆ちゃんこつちさ行っつたって、私も腰曲げて探して歩くうちもうタクシー呼んでいなくなっただからわさ。お金は自分で持つて歩いてたからねえ。どこさ行っつて来たのって言うと、分

かんねーからつてさあ。だから運転手さんも運転手さんだっちゃんあーって言われてさあ。だがらあどこのタクシー使っつるとこの、タクシー会社さね運転手来たとき言っつてやったの。この棟の何号室の誰っつて言われたら受け付けないでけるって言っつて、頼んでやったのね。ホントにびっくりするよねえ♡万使っつて来るなんてさあ。ホントこの年寄りおかしいと思わなきやねえっちゃん。本当だったらねえ。何もねえとこ閉上ぐるぐる走ったりさあ。ホントに、そういうこともあつたしね。でもね電気っつていうの始まったすべ、ヘルストロンっつていうね。私こさ連れてくるようにしたのよ。少し落ち着いてからね。みんなさ混ざった方がいいんでねーかなあと思っつて、すつとほらやっぱり、なんぼ町名違っつても知っつてんのよ、婆ちゃん元氣だねーって。だんだん良くなっつてきて、うーん。今は本当に元氣。いっぱい食べるしご飯も。93。うーん。ほんつとに元氣だよ。年取っつてから食うっつていうけど本当だね。残さずぺろつと。お父さんより食うから。うん。びっくりするくらいだから。火、木、土とデイサービス。そうそう。あれにね、あの一俺がおかしくなつたとき、あのなんていうのオレンジの着た人たち。そうそう。あの人たちが見回りに来て、婆ちゃんよりもお母さんの方がダメだっつて言われたの。何か悩み事言っつて言われたから、こういうんだーって言っつたらば、で私の方で動いていいですかーって言うから、ここにちようど閉上さいた時のマネージャーさんいたの。だからマネージャーさんと相談して話進めてくださいって頼んだのね。そして火、木、土とデイサービスに行くようにしてもらっつて自由な時間ができたのね。やっぱりね来たばりの頃この電気でねえ、○さんっつて人付いてただけっども、ひどかったって。俺の後ろさ背後霊でも付いたんだべなあっつて冗談は言っつたけども、全然違う。変わったねーって言われんの。やっぱり何かあるたんび来るっ

ちや。今日みたいにさ。歌でも映画でもそう。お茶のみさも来てるし仮設通い仕事だから。はははは。楽しんでっから。集会所。うん。だからうちさいたらば本場に・・・テレビばり観てたってね。しゃーねーからこうやって出てきてんだ。

### 銀婚式のはずが

50年だよわ。ホントはねえ震災ねければ市役所さ行くとねえ、夫婦茶碗、湯呑み？けられるらしいんだけども、50周年で。何式っていうんだっけ。銀婚式だかなんだかってね。けられんだけど。

〇〇さんって人いるんだけど、貰ってきたとこだって言ってたんだっけ。でも俺行かねかったから、そんなとこでねかったからさ。車も無いしね。お父さんここさ来てから二回倒れて救急車の世話になってんだもの。うーん。脑梗塞のちよつと軽いの来て、トイレの前で倒れてさあ。もうよだれ垂らして左だらーんとなってっから。おしっこは漏らしてさあ。だからこれ普通でねえなあと思っただからすぐ救急車呼んだのよ。やつぱりダメだったんだね。少し来たんだね。軽くな。救急車呼ぶな呼ぶなって言うんだけど、私は呼んだんだ。だからそれ言ったらば、先生の方から注意されたんだ。ダメだよーって。奥さんの言うこと聞かねえとって。今度二回目は夜になってから腹痛え腹痛えってねえ。腹痛み止めの薬飲ませて治んねかったのね。腸閉塞だったの。うーん。

親子して大変だったの。本当に。俺はこの通りの身体だしさあ。でも俺よつぽど歩くようになったんだこれで。でも買い物するときは車っこないとできないからねえ。荷物持って来らんないから。そこさ店あるから助かってんだあ。

うん、車で行ってる。一か月に一回。ううん、車ってあの押し車。シルバーカーって言うの？うん。あれはできねえよ。自転車さは乗ってたけど、今も乗りたい気持ちはあるの。だっけっどもまた転ん

だらどうすつぺと思うから。おつかねえのよ。んで先生さ言ったら、乗れないほういいって言われたから。そういう気持ち持ってる限りは乗んねえほういいって言われたから。自転車だどどこまでも行かれないだよー。閑上さいたとき増田まで行って来たんだから自転車。バス待ってるよりいいからさあ、40分ぐらいで実家まできつたんだから。うーん。増田。大手町ってとこさあった。だから自転車であつたの。うーん、危ね。川もあるしね。

### 閑上の良いところ

閑上のいいところって何なんだい、魚新鮮なところでねえのかなあ。私は魚嫌いだから。だから骨っこなく脆くなつて、転んだらもう復活しねえんだと思うんだ。噛めないから小さいときから。うーん。だからあのー調べてもらったら、骨粗しょう症。あれがずいぶん年寄りの間さ流行ってんだわ。骨ボロボロだもん。だから寝たきりになつたら、転ばないように気を付けて歩いてんだあ。

うーん。だなー、お祭り。閑上。私のうちの目の前神社だったからお祭りね。あれが楽しかったね。楽しい一年でね。あのやぐらの上でカラオケ大会つて上がつて歌つたりさ。これはね、10月ね19日って決まってるの。そこの港神社の祭りはね。だっけっど平日だと、みんな勤めてっからや。あのおみこし担ぐ人がいなくて、第三日曜って決まってるのね。うん、あの夏祭りとは違うの。あの夏祭りだつて賑やかだったよー、うーん。閑上の中みんなねえ。太鼓あいずして回って歩いてんだからなあ。いいところって言われたってなあ。本当にとにかく働く一方で、うちとかまぼこ屋行ったり来たりするだけだから。どこさも出はんねかったから。仕事場。行ったり来たり30年。働いたの。んで60なって定年になつて。一応夏の忙しいお盆だけは頼まれるんだつちや、手伝いお願いすつからーって。だからねえ、あのー津波来たときに、金曜日だったす

ぺ。あれ土曜日だったらば、毎週ねえ次男の嫁さん働き始まったから、孫頼まつたの。一日ね。だからあれ土曜日だったらどうなつたべなあー。年寄りと孫抱えてなあーと思つてさあ。ざわざわする。思つただけで。金曜日だったし日中だったからよかつたつす。夜だったらねえ。そいつを思うと。

うーん、海辺だからねえ。自転車だのは錆びたよ。潮風つていうの？ 自転車は錆びたなあ。うん。湿気。湿気っぽいんだねえ。しけっぽいんでね。湿気剤押入れさ入れてもすぐ溜まつて。あと除湿機。あれ買つてもやっぱり水溜まつてもんねえずいぶん。

こつちは除湿機無いけども、あの一押し入れさだの服入れるとこさ、入れるとくのね二つ三つ。やっぱりなってるね。うん。・・・時期はダメだね。うーんこつち寒さ感じない。だつて閑上さいつときね、あんか入れて寝てたんだよ。こつちさ来てから入れてないよ。うん。こつち全体の先生に、あの足のほら、あつたかくなる体操教えらつたの。それをやってるから、お風呂で。足伸ばしてね。そうすつとお風呂あ、布団さ入つてから足ほかぽかになつてくんのよ。だからこつちさ来てからあんかしない。婆ちゃんだけしてる。

### 今後のこと

災害にはあつたけどどこ（仮設）は住み心地いい。だから建ててもらうんだらどこさしてもらいたい。閑上さは行きたくないなあと思つて。うーん。だから五年契約であと三年だつちやー。ていうから、三年たつたらやっぱ出んのかなあつて思つてさ。そしてほらないだ調査で、一戸建てが災害公営住宅が出来上がったけど、たとえ一戸建て借りたつて、庭つてものがあるす。そうすつと草むしりだのしなきやねえつちや。ちよつと無理だつちやそういうのねえ。草むしりだのつてさあ。だから災害公営住宅のアパートみたいなのさ、一応は頼んだの。どこさも行くところ無いから。子供さも迷

惑かけたくないからさあ。次男の嫁さんうちさ来てもいいんだよーつて言われつけつども、お母さん、来づれーつすかあつて言われんの。だけでもなあ、丈夫なうちは大丈夫だからつては言つてあるけつどさあ。とにかくなるようにしかなんねえからね。閑上早く建ててもらわないことね。

まだ。一応個人面談のときは聞いた。どう無くなるんだろう、うち・・・の坪なんだつけど、なんぼぐらいになるんだかつて。けど安いみたいだねー。なんだかねえ。だつて建てたつて、誰も入る人いねえす。わ。私らになくなつたら。子供たちみなめいめいのうち持つてからわさ。だから来ないつちやわ閑上さんか不便なもの。本当に不便で。うーん。うーんだねえ。みんなはどう思うか知らないけども、思うな。この辺いいなあと思つて。店も近いからねえ。なによりだ。一番いいのやっぱりこさ来るの一番楽しみだ。何か行事はははは。うーん集会場。こさ集まつど電気かけたり、マッサージしたりお茶飲んだりね。うーん。違う。そうそう。だつてこつちみんな三丁目のうん。二丁目の人いないんでねおそろく。一丁目二丁目つて。いない、うん。おそろくいねえと思つて。だから箱塚だつたかもしれねえんだよ。二丁目だから。うーん。でも良かったここで。建物も立派だつていうからこれね。ちよつとぐらいの地震で倒れない建物だつていうから。下の仮設はなんかプレハブ？あれなんだつて話聞いたけどもね。こないだバスで見つたつて、屋根なんかこういう風な屋根だつてもんね。だから雨なんかふつとすこい音すんだつてねえ。とにかく狭いけど三人で暮らしてます。夜トイレさ起きつ時、こうやってさ行かないと足踏んじやうからははは。お父さんの足のとこさ踏んだりして。婆ちゃんトイレ近いから、テレビのとこさ寝せてつから。お父さんはいびきうるさいからあとつぎになつて寝てつから。なんでもねえいびきかくからさ。

頭と頭逆。お父さん南で私は北向きになって。そうそうだからうるさくって。豚と一緒に寝てるようなんだ。うーんあとほら、無呼吸症候群っていうの？息止まってんだよねえ。んだから布団こうすんの。バサーってねえ。はたいたり。何って言われつけどもさあ。息止まってつから動けって言うの。うーん。そういう病気持ちでねえんならいいんだけどさあ。なんだって事故にあったり倒れたりして。手がかかる親父ががす。ははははは。

閑上に津波は来ないと言い伝えられていた　でも尋常な揺れではない  
閑上一丁目

私が地震になって「まーなんて揺れだ」これは直感にね、津波くると自分が直感で入ったんだね、そんな揺れでは津波くると、でも私は小さい時から閑上には津波来ないんだと。なんでかっていうと金華山沖があるから。金華山沖あるからこっちに來るので皆分かれて閑上には來ないで、気仙沼や三陸の方に行くっていうこと小さい時に教えられたから、そういう問題はなかったの。みんなそうだと  
思う閑上の人たちは、それでそうだと思ってたんだけどもとにかくこれ半端じゃないっていうことで、それと自分の家のことイメージあつたのね。職を忘れて自分の家が、潰れたんじゃないかと思つて。

というのは、うちのうちも50年以上の築50年になるのかなあ、50年ぐらい建て替えてからするんだね。もう下が皆虫喰つてて、ここはもうアイツしないと、耐震、あいつしないとだめだつて言われたのね、大工さん俺の友達にね、「あんたの家震度Ⅲになると一番最初に潰れる」っていう最初から言われてたものだから(笑)

おれも、そろそろこれでは地震ばっかり來てるからね、この前も來たからね、そろそろ大工さんお願いするかなって思ったことで、その頭があるから家に行つてうちで女房と娘と孫二人いたから、多分潰れたらうってずーっと最初通つていったら、小畑床屋さんのあの辺で皆道路に立つてたわけだわ。「なんだあんたたちここ、避難所、ここにいちや危ないよ」とにかくとっさに私言つた記憶ある。「津波來るからね」って私が消防も來ないうちに言つて歩いたんだよ。そして「どこに避難すればいいの」ってある何人かが言うから、

「あなたたちそんなこと言つてられないさ、避難訓練で上町町内会で前にやつてるでしょ」って、避難所は中学校か公民館だつて、上

町の関上中学校に行きなさいよって、言っただのね、そこでそういうこと言ったから「ああそうなの」って言って「とにかく早く避難しなさい」って言って家に行ったら、うちの駐車場、そこに20人ぐらいいたんだね、おれの女房から。「ああ俺のうち建ってたんだな」って思っただのね、建ってたんだからちゃんと。他のお家の瓦がみんな傾いてるのに俺の家こう、なんていうか瓦をトタンにしたものだから、宮城県沖の最初の時に瓦倒れたものだからトタンにしたのね、地震に強いっていうことで。それで立ってたんだね。それで俺行ったらあの、孫まだ帰ってこないんだって、うちの孫5年生のときだからね、それで学校にっ、おじいちゃん行ってみろって、とにかくお前からこの隣の人ばあちゃん80歳の人もいるんだから、とにかく車に乗せて行ってってくれって言って俺の母ちゃん送って行っただね、皆。そして20人は皆避難させたの俺。そして私が今度またあの、自転車屋からがーつとあの、空港通りの道路をいったっけあの辺みんな立ってたんだね、「とにかく地震来て津波くるんだから、お宅の場合小学校近いんだから小学校に避難しなさい」って騒いで歩いて学校に入ったわけ。したら3階に避難してるのね、おれの孫も泣くような顔して5年生だからみんなね。じいちゃん心配してた、じいちゃん心配することないから子供は私が守るからって、その前に小学校ではね、1回地震起きてから体育館に避難させたらしいのね、小学校で、したらある人がね、あの、長町だの、あの名取が丘の、水が全部なくなってたっていう、それで、沖に来たんだと、必ずこれでは津波くるからって、そしてわらわら（急いで）今度あの、3階かな、3階に避難させたんだね、そのとき子供たちの靴皆校庭にぶん投げてるんだね、ほら慌てて行ったから。そしてそれで安心して私で、「じいちゃん守るから」って今度また小学校ぐるーつと降りてきて、北区ね、あのあそこの裏側に40軒ぐらい建

ってるのかな、そこでみんな立ってるのその人たちに騒いで（言っ）歩いてとにかく小学校にすぐ近いんだ小学校に逃げろって騒いで今度うちの方に行ったの。したら家が今度ほら、みんな倒れたから、あの、家の中の玄関みて「ああこれで通帳と、あれだけ、権利書もあるな」って思っに入って玄関開けたっけ倒れても入れないんだ二階にね。そんでああこれはヤバイなって思っただの俺が今度自転車で中学校に私が避難したの。したら10分後かな、もう、見えるんだから流れてくるの。私たち上上がって三階に上がったから、俺の女房だの皆避難してたから、全部、したらねもう全部、なんていうのこう、空が真っ黒かったの。それへドロのあれなんだってね。津波自体は。もう膨れてね、そして今度「あらー津波だ」ってみんな騒いでびっくりしてる形になったのね。そして私たち今度上上がって屋上から見たっけ今度、庭、庭っていうのですかあれ、ばーつと青い津波、青いやつだったよ本当に海の、これは飲みこまれるんじゃないかってガタガタしたさ。そしてつげ貞山堀におちたっていうのねあれ、そうしたらね、ばーつとみんなゴンゴンゴン船から家から皆流れてくるのそれ丸見えなんだから。そして「助けてください」って誰も助けられないさ、っていうのは二階がそのままぼんって抜けて二階に上がってくるんだここに、船はね、中学校ぶつかるとんだね、お寺だのもあったからね、中学校こう縦になつたからね、海に、横だったらこうダメだったって言ってたね。縦だから、そしてなんとか残って今度あの、プールのところにあの、穴、金網張ってるのねそいつにガレキがみんなぶつかってさ、そして家がポンって言った人が、上がってこう、居た人もいたんだね。あと向こうあの、南側バンバン川でバンバン流れたんだよ。人何人死んでるか、その前に後問題は一つは消防署の裏側に空港に抜ける道路あるんですね。五叉路が地震ともに車で止まったから、それで

車がパニックになっていったんだね、その2階から見たら車が車の大きい波くるので、降りて逃げるんだ。それがみんな囲まれたんだ。そういう経験あったの。そしてそういう色んなことあった経験あって、私が一晩中そこで暮らして、停電になったから寒かったんだよあのときは。そして何人かがでんぐりぐって車に入って、同じ区長さんが夫婦して、そして中学校の玄関にびたつと止めて、ドア開けて助かったって、それをこんど全部で囲って寒いから、皆着るもの脱がせて、何が、四世帯位助かったのかな。年取った人、それで電気暗いので、一人荒木さんっていうのいるんだけど荒木ヤスコさんの息子が、たまたま私の部屋で学校の三階の理科室かどつかでね、そこで頭につける炭鉱でするやつ電気持ってたのね。あれをまっすぐ照らしたんだけど、誰だか「上を向かせるとみんな明るくなるよ」ってあの、天井にむかせたんだね。そして全体に薄暗く明るくなってね、そして水だの持ってきたつけ、携帯ラジオ、情報聴くのね、そのおかげでずいぶん助かったね。そういう経験です。

#### 中学校に避難その後

次の翌日小学校まで歩くっていうのでバスを、迎えに来たっていうのは道路が今の閉上県道が船でふさがったんだね、道路が、船から材木で。それで自衛隊が来て、取っ払って、それであいつしたんだね。そのあと、その前にはもう助かった人がいたからね、こういうやつ、2階だてぶつかって、その人3人を助けて、それであと連れてって私たちがこういうことあってって避難するようになったからどうぞって今度中学校からみんな小学校まで歩いたの。そのとき水がまだあって、小学校（閉上）ね。小学校まで私たちは歩いて行ったのね。そしてあの時中学校に何人かいたのかな、ずいぶんいたのかな、200、300人近く、かね。いっぱいいて何台もバスきて。何号車は、そのとき子供たちもみんな一緒に連れて行ったんだ

ね、そして小学校に降りてまだ水あったんだあそこね、そこを今度裸足で濡れながら、バスに乗せられて、「あんたらは一号車は一中に避難して下さい」って指示あったのね。ところが一中まで行つたっけ一中がいっぱいで館腰公民館、いや、館腰の小学校、の体育館の方に移動してくださいって言われて小学校の体育館におりたら、バスの中でみんな誰も立つ人もいないでぐーっといってね。そしてたまたま館腰に行つたら500人ぐらいいたのかな体育館に、500人いたんだよ。500人の人がさ、みんな風呂にも入れない御飯も食べれない水も飲まなくていて、体育館にいったつけない寒かったのねあの頃。小学校の体育館。私は小学校の方にも何十人いったのかな、一中にもいっぱい。館腰小にもいっぱい増田にも全部分化されたのね。私は、館腰の、体育館。あそこに500人いて、あんまりひどいっていうので館腰小学校が間に出て、教室こっちの方かいほうしてもらって200人ぐらい移動したのかな、で、おれらばかり残ったのが300人。自分も残って、上町、大体上町の人はこの今は上町ここですけど昔の上町内会の人が多かったようだね、それのときが大変だったね。一番ひどいのが女性のトイレ、もちろんなんていうんですか、電気止まってるからね水道も。そしてたまたま体育館の裏側にプールあったんですね。そこであと防火、学校には防火のあいっあったのかな、バケツ、30以上ぐらい集めて、そこでプールから水汲んで、たつた場合、まあ大便の場合流してね、それを一か月間続けましたね。そして初めて、自衛隊が来てもらって、二日目かな、自衛隊さんが来て、これまであのパンとかいろんなのばかり配布があつて、コンビニはもちろんないからね、あの頃あつても、物がなかつたから、大変だったんですよ。そして一番最初がこの体育館、ここにありますがね、こう体育館の中ね、それで真ん中のここが舞台、ここがトイレなんですよ。ここにプールあったのね。

ここに真ん中だけあけたんだね。そして私が何班何班つてきめて、こう決めたんです。ここね。そして私らがちょうどこの一番前のあたまのどこなんですね。皆がここに行くのにトイレに行くのにバンバンバンバンって毛布赤十字から一枚ぐらい二枚貰って寒くてね、で、最初何もなく灯油もなかったから、あとはストーブ付けたんだけど寒くて。そういうことを1週間か2週間続いたのかな、防寒もやっとなさげないけど風呂にも入れないから、トイレが一番心配で。水と配布来たね、段々ほらほからペットボトルね。それで俺たちもこう上で役員やっただから区長でね、会長が亡くなったけどもあれ、花屋さん、あの人が会長で。役員やって医療班とかつてあけてもらって、ここにいたんだね。あとそのうちいるんなところからこう札幌ビールさんとか支援されてね、色んなの持ってきたけども、その一週間の間は大変だったですね。とにかくこのゴミがみんな外から来たもので風呂にも入れない、着の身着のままだから、ゴミがすごいんだね。マスク渡されてマスクかけて寝たんだね、ちょうど寒いからよかつたけども、それじゃないとみんな空気を吸ってしまつてね、そして今度、出っつて俺たちもして当番制とトイレ掃除を最初つけなさいって当番と、で、トイレ掃除ね、あとゴミ。拭くようにってあと掃くようにって掃き方ね、朝必ず、っていうことで、中にはあの班で決めてもこう、掃除するところ外に出ていくって人いたっていうことになって、そいつを今度会長に話して、そういうことをみんなが注意してたんだから、っていうことで話してもらつてこう決めてもらったのね班ごとに。こう1班2班つて決めたから。そしてトイレ掃除して、そしてそのあとにこれは乾燥してるのを掃いたらだめだからモップで拭くべつてなつたの、モップでこう絞つてね。あれだと絶対埃でないからつてあれがはじまつたのが、一つのあるね。そして一週間色々今度自衛隊さんきて、御飯が炊き出

しご飯ね、あれはほんとに自衛隊つていうのはあんときほど有難味つていうのはなかったね、今まで俺たち散々、自衛隊は税金泥棒だ、あんなもの何にするのなんて語つて、やっばり戦争ばっかりじゃなく人助けはあの人たちは大したものだなんて思つてね。皆ね。一か月以上いたのかな、あんどきもみんな感謝して涙ながらね。もう見送つたの今でも記憶あるんだね。本当に自衛隊と警察官、あと職員、市の職員もみんな全員でやっただから今でも感謝してます。皆がそうだと思うよね。ただ復興遅れて市の市長の悪いこと言つて、市長だつて大変だと思ふのね。でもトップは悪いこと言われてよくて悪いんだからなんでもね。だからそれはやむを得なくて市の職員も頑張つたからね、今まで税金泥棒だのつてそんなこと語つたけどもやっばり、俺は一番痛感したね。私としては、皆もそうじゃないかなつて思ふね、あの白いご飯は本当に未だに、今まで食べたの全然食べられなくてね、パンも。そしてそれからこれから今度パンだの配布して貰つて、物はカレーライスだのつていうので、ものは不断になつたんだね。色々から支援あつたからね。最後に「今度今回風呂に行くようになったから」つて言つたつて、みんながわーって騒いでさ、風呂つて言つたつて極楽湯だつてなつてね。そしてバスでね。何台何台だつて送られた経験あるのね。うん、それが一番風呂に、第一回のふろに入つたのはうんとよかつたね。ところが風呂も30分つていう時間なの。次々と待てるものだから。そうすると30分間当たりいったら風呂に、風呂の入り口に行つたら、下着だの、色んな無料で配布してたんだね、どっからかきたの、その下着探すので皆欲しいからほら、投げるようにね。下に女の人なんか特に俺の女房なんかパンツだのみんな欲しいの取つてるわけ、靴下だのね。その間10分ぐらいかかるんだね、20分で風呂に入らなくちゃいけないんだ今度。だからあれができると思ふ、体どこま

でざんぷりしてあがるように。次の回待ってるから、それが第一回目ね。後二回目は一時間ぐらい多かったのかな、ゆっくり体流してね。それがほんと世の中っていうのは、自分でも戦争の時代になったらどうなるのかな。パニックだなんて思ったね、パニックになったね。物と風呂に入れないのと水と。それが第一の実感ですね。で、あと、その生活一か月過ぎたのかな。そしてこの第一回目の公募が、仮設住宅だから。

第一回目はこの、避難所で、仮設へつあるけどおれのところが一番先早かったのね。そしてここに建ててもらって、その時何々やってって向こうから言われて、体育館で「ああいいな」ってみんなであく上町を主催に入ったんだね。それで俺はここに入ってたのが実感です。この団地の名称決めてくれて言われたわけさ、したらその時桜満開だったのね、5月のなんだっけな、「5日だと思っただね、ここ遅かったんだね。それで満開で、それじゃあ桜ってつけるべってなって、桜団地って名前付けたのがその日。この来たばかりに、サッシは二重サッシじゃない寒さはあるので、もうありあわせで作ったものだから、全然設備ないのね、トイレはウォッシュジャーじゃなくあれはないし、あのただの便座で温度がないっていうので、後問題は風呂、追い炊きがなかったのね。あれがみんなの苦情有ってね、私がいつてやったのね。あの、とにかく風呂は寒いときなんかシャワーなんか年寄りシャワーなんか浴びてられないよっていったの。とにかく早く追い炊きって言って、追い炊きすぐつけてもらったのここ。あつちは最初から出たからね、美田園だね。ここと屋敷がなかったのね、同じメーカーだから、だから屋敷もそいつお願いして、俺のそこはやく、そのほかに今度あれ、断熱材っていうのはいってないんだねここに。それで断熱材っていうのを今度入れてもらって、それも時間かかったのね、あといろんなの

をこう、整備だのは全部完全にしてもらおうの一年ぐらいかかったのかな、今はもう直すところ、そして今度雨降ると、とよ（樋）がないから。ここがザーツと流れてきてみんなびちよびちよになったんだね、側溝もないから。そして側溝と、とよ（樋）つけてくれたって言ったつけ、水浸しにならなくてね、ここもあと集会所は暑いと、それで上に、こう通らないようにして今度水かけてやってるんだねほら、涼しさを出すために水かけるといいんだっていうからホースでね、そのホースもかけたりして。あとあつちはだいたい今の住宅、中は良いから、あとエアコンももう一つ欲しいと、それでエアコンもつけてもらった一つしかなかったから。それで今二つ使っているんだね。それで万全だね。

あと、うんと色々だんだんなって今度あれ、子どもたち、あの頃子供30人ぐらいいたからね。それで子供たちが、あの、なんていうんだ飛び出すので、そしてその時間帯で子供たち遊び場っていうの大脇会長が付けて、まっすぐに今度ちびっこ広場っていうの二時から9時までって車は通ってダメで、こつちの方を車通るっていうことで全部に一時止まれって我々が今度ペンキかってきてね、あと安全協会からこうステッカー貰って今付けてるんです。あと市の用事、今度市が一番おっかないのは火事なんですここ。一件燃えたらもう上が伝わってみんなダメになるから、それが恐ろしいっていうので絶対火の用心ってのは注意してここはストーブ炊かないです。前に炊き出し二、三軒あつて注意したからね、じいちゃんたち寒いぞってさ、エアコンあるんでしょって言ったつけもつたないって言うんだよね。でも、火事になった場合みんな無くなるからって言って、出てまた行くところ炊いてるんだね。大体決まってるんだね、でもやむを得ないって思ってるけどね年寄り、年寄りが危ないからってね。それが一つです。絶対石油は使わないと、っていうことで

徹底してるんですよ。だからここが安全だと思うねそういうことがあると。そういうことで現在まで至ったんです。

### テレビが盗まれる

あと屋敷とね、美田園だね。いつだったかなあ、ちよつと記録に書いたけどもあれ、うーんと、去年、去年じゃないな今年（2013年）の1月から2月ごろかな。ガラスをぱんつと割られて、あと、防犯カメラ準備して取り付けてるんだね。そして電気はつけっぱなしずっと。電気代今大丈夫じゃないですけどまた見つからないからダメだつていうんだね。電気代の問題じゃないんだつて言ったらああそれではいいのかつてね。まだ見つからないんだつてね。で、もともとは向こうで一回石巻であつちの方であつたんだね。石巻かな、それからこつちに来て、このテレビ特殊だかなんだかつて全部そこから持つてかれたの下のあれもあるから、あれこのビデオのやつも。もう全部そつくり持つてかれちゃったよ。あとあれ、空調、それちよつと今俺のところでしまつてたけども、この、空気清浄器。あいつも持つてかれた、あいついましまつてるからいいけども、冬だけだから。だからいまだにあいつだつて別なテレビ使ってるんだつて、それから市から見られて、電気付けて、で私が朝晩しめてるんですよ。一応6時にきて、あと6時ごろだからその時一回見まわつて、だから6時にはほとんど見回るんですよ。ここあたりね。その前にこの街灯、特別あの車悪戯されるつていうことだつたんで、今あのおそこに書いてあるけども、車のいたずらこうやつてみんな書いてあるけども。車傷つけられてるのね、うんと。それで街灯ほら、横に街灯ありますね、こつちにここに明かりをつけるつて、だからそういうことをしてもらつたのは私が言つたんですよ。車を傷付けたり、あとはワイパー後ろのワイパーにいたずらしてさあ、そのワイパー同じものだからこの人たちじゃないかなつていう、後ろに

なくてね、だからひとつばかり一本ばかり持つてくのもおかしい悪戯にもほどがあるつてなつてから本当に欲しいんだなつていう、あれだのねみんな全部、だから防犯カメラ、防犯カメラ取付中つて言うのも描いてあるんだよここに、見たことありますか電信柱に、電信柱に、ここにあるのね。ほんとは嘘なんです(笑)。警察に行つたら、しよつちゆうまわりますからつていつたつて泥棒つていうのは警察こういう風にしてくるでしょ？そしてやつぱりよけるからね行つたあとなるとだめだつて言つたつて、「だねー俺たちどうもないから」つて市役所に行つたら「じゃあこいつつけてやるから」つて言つて、一応あのカメラみたいなのあるのね、カメラ付けてもらつた。

### 高齢者が多い仮説

あと、今の水、雨の強い時の今防波堤のとこ歩くことになつて、あとあの高齢者多いからね、62歳、80歳からので13人いるから、最高で96歳。そして70歳以上はね今200人を割つたんだね。200人割つて198人、90人かな、そのうち76歳60人ぐらいいるのかな、約半分近くまではいないけども、それ年寄りばかり多いんですよ。あと一人暮らしとかね。だからそれはあと市できて、そういう人たちが回つたり、あと民生委員か、あと市からの依頼の人が一人暮らしのとこを回つて歩くんだね。それはあと我々の役目じゃないから、それをやつてくれるから今のところは後孤独死だの少し頭、なんていうのか認知症になつた人で今のところ一人ぐらいいるかな。でも大丈夫しつかりしてるから家に帰つてくるのは大丈夫なんだね。そういう人居るんでそれをみんな万全でできるつてことは今やつてるんですよ。

苦労したのは、人間関係だね。私はですよ、皆さんどうだかわからないけど、やつぱり中にはね、知らないけども派閥つていうのあ

るのかな、こういう今傾聴の会だのいろいろあるけども、知ってる人は大体同じなのメンバーね。そしたっけ元気いい人たちっていうのが来て、人はたまに来る人、「あーなんだあれそれさんきて寄って」っていう力の強い人が、力強いつていうかそういう人をみんなでいじる性格もつてればいいんだけども、自分だけでいいつて考えもつてるからなかなかあそこにはいられないつて言ってる人がずいぶんいるんだね。それは私は中立だから全部同じように扱ってるからつて。だからそういう人はそういうことも言えないし、それが今でも苦労してるね。うん、でもぼちぼちそういう人たちだんだん弱くなってるから抑えないとだめなのね。そしてみんなある程度、そしてこの一番苦しいのは男たちがね、色んな行事に混ざらないんだね。やっぱり女の人たちが多いから女の人たちに入れないつていう考えもあるなけどね。みんな集めたの私たちね。私が呼んでこないと呼びに行かないとこないんだね、そして2日3日なつて上町の町内会の方に行かないといけないからそれ出られなければ、「いやー区長さんがこないから」つて、そんなことないんだよつて、俺は自立つていうのを自分で行くつていう癖を性格を持ってもらわないと、なかなか人を当てるより自分で行きたいときに行つた方がいいよつて言うんだけど、「いや俺行きたくないから」つてすぐ言われてさ、俺どうにもならないから、そういう話してくるのね。みんなそういう人たち来始めてる人寄せたいのね本当は。だけど声かけないとだめなんです男は。女の人もしま大体限られてる人しか来ないの、中にやっぱりあの人たちの中には入れないつてつていう人居るのね、だからそんなことないからみんなでワイワイしてくださいつていうから、だからもう少しね、人間関係はいいんだけどそういう力の強い人ね、こう、「あー誰それさんきた」なんて歓迎するようにすればねうんと入れるんだけどね。

## 震災後すぐに炊き出しを始めた

### 地震の時

地震のときはね、ちようど、託児所の前にいたんですよ。そして地震と同時に子供たちが抱きかかえられて出てきて、一回目収まったら中に入ろうとしたから、だめだと、まだ来るから中から布団と毛布を出してきて駐車場に敷いてついでいうことで先生たちをお願いして、中からひっぱりだしてきて、子どもたちの頭の上から毛布かけたのかな、その時二回目来てサッシが飛ぶんです。そして途中民生委員さんが走り回って、独居老人かな、それをチェックしてる人たちに会って、手伝ってて言われて、じゃあちよつと、15分だけで必ずここに戻ってこいよというような形でね、探しながら来たものですかちようど1時間ぐらいだったんですね。だからここにもう、いっぱいずらつと並んで、わいわい騒いでる状況に来ただけで、なんでここにいるのと、公民館が避難所になってるから皆公民館に移動した方が食料も手に入るし、あつちがいいんじゃないって言っても、入れない。館腰駅に止まった電車のお客さんが皆入っちゃったから、もう、入れないんだっていうことで、その時にはもう少し薄暗くなってきたんだよね。したら、じゃあもうこれではもう少して、米の調達とそれからあの、家に入れなくていいことだったから、その、夜露をしのぐ場所っていうことでビニールハウスの中に畳を敷いて、そして8人ぐらいでしたかね、この中に入ってもらって。ほとんど近所の人ですね。あとは一部、あの、岩沼の工業団地から逃げてきた人たちもいましたけども、皆電車に乗って帰ろうと思うから駅に来るんだよね。そうするとここは何にも食料もないから、みんな公民館に行きなさい、と、駅員の誘導でここ歩いてくるんですけども、発電機でここ電気付けたんですよ。あの、工業用の大きな発電機あったから、で、ここの屋根をあの、盆踊りのあれ

で巻いて、それで一応明るくだけはしたのね。逆に公民館だと思つて間違つて入ってくる人も中には居たんですけども。で、うちの自宅の方で、あの、選挙のための釜、とガスを用意してたんですよ。それでそこでごはん炊き始まつて。ところがいくら炊いても足りない。どうしてこんなに避難民多いのかなって思うぐらい多かつたんですけども。そのうちお寺さんでもごはん炊いてやるよと、いうことで、三升釜ですかね、それを薪で向こうは炊いてくれたし、こつちはガスで炊いて、夜11時ごろまでですかね、もうずつと切れ間なくおにぎり作つて、近所から梅干しとかをいただいて、炊き出しやつてた。

初めて自動車のテレビ、テレビをつけてみたらその津波の凄さがようやく分かつたつていう感じで、だからもうそれ11時頃でしたね。私のところに行くとき米米してもらえらるというので、仙台の老人ホームとか、たぶんそのメールのやりとりだと思っただけでね、で、二人の人が朝から晩まで付きつきりで米突き始まるんですよ、そんなこんなでやつてるうちに一番最初のボランティアの人たちが入ってくるんだね。

翌日、それが、飛騨高山の方だったんですけど、私とは面識はないんです。ただ館腰小学校でケンカしてると、そのボランティアらしい人が、おじいちゃんみたいな人がケンカしてるから、中に入ってくれて市役所から、市役所の秘書課から電話はいつたんですよ。でいいよ行つてみるからつて言つたら、お前は何者だと向こうから、「いやこの地域の住民で、今は被災者を何とか応援しようと思つてる人間だ」と話したら、「そうか、おれは飛騨高山から来たのに野菜もつて来たらここの連中酷いんだ」と、「腐る物はいらぬ」そんなバカな話あるかつていう怒り方なんです。で、その職員の方に聞くと、「野菜を持ってきても処理できない」と、だから置いておくと

腐らせるからという意味なんだっていうことで、ところが持つてきた方にしてみればね、飛騨から徹夜で来て、玉ねぎとジャガイモが中心だったんですけど、じゃあうちに倉庫あるからまずそこにおおして、そして民生委員さん、区長さんに、避難してる人たち分けてもらうように家で預かるからっていうことで来てもらったの。で、おばちゃんたちとその飛騨高山の会話をしているうちに、えらく気分良くなったんだね。いやいやいや、安心して帰れると、で、また応援に来るからっていうことで帰っていったんですけど、東京に帰ったのかな、飛騨に帰らないでね。そしたら倉庫に行ってみたら米粉が二万食あると、その二万食を、今から持つていくから受け取ってくれるかというふうなことで、もう次の日にはまたトラックで来たんですね。うどんですね、あの、カレーうどんにすると一番いいような。で、それを持つてきて、その人はその何度となく入ってくるんです、で、いろんな場面での八戸から相馬まで自分で歩いて、沿岸部とかをやった人なんですけども、今回の、これらも飛騨高山で作って名取にいっぱい送ってよこしたんですね。

#### ボランティアのこと

やっぱりつながりが欲しいんだと思うんだよね、入ってくるポジション、あの、アンテナを高くしてここきたらどこに振り分けるよってというのが欲しいような気がするんだよね、名取でも。大学の人もここに、名取にずっと入ってたんだけども、単独で動いてタクシーを使ってやってた、で、支援物資一つ運ぶのにタクシーで、あんたらなにやってるのそんなに金ばらまいてって話したら、いやあ、レンタカーを借りちゃいけない、というふうなことがあって。自分たちでお金出してタクシーを言うような話なのね。じゃあうちの区長さんのトラック、区長さんに運転させるし、あとは乗車もうちのあるやつでいいからそれで配達しろということと大学の子

がね。一

この支援センターこういう活動してるの分かって、なんでもいいから使ってやって言う、支援者が何人かいるんですよ。私は赤十字と、NPO という形で補助金貰おうと話をしたら、そんな補助目当てでやってるんじゃないと、いらぬから、自分たちが金出していいからっていう、人たちがいて。それでもうほんとにね、何かっていうと20人30人、その人たちが集まってきて、館腰の方ですね。俺たちボランティアに出れないけども、ボランティアの人たちの食事代にしてくださいとか、そういう支援で来るのもいくらありますから。最初はここが支援センター、その当時は全部ポスター外して、支援センターでやって、支援物資はこの倉庫、に、だからどうしてここがそういうのやってるのかっていうね、当時私らあの、発信するすべなかったんですよ、もう夜12時1時ごろまで動いて、朝の時からでしたから。だから一日一食でやってたものでね、だから多分来た人がブログとかね、で、ツイッターなんかでやったと思うんですけどそれが多分広がっていったんだらうなと思ってますね。それで支援物資がどんどんどんどん入ってきた。

もうそのまま応援をずっと続けてる、支援っていうよりもそばに寄り添わないといけないっていう活動ですよ。今は、今一番必要なことは、やっぱり一番は傾聴でしょうね。

若い方もつながりを求めていると感じている

#### 閑上四丁目

#### 地震の時は

地震のときは自宅にいました。私その40分前まで仕事で、閑上公民館にいたんですけど、ちょうど職場の勤めてた幼稚園の卒園式があったので、2時までには公民館にいたんですね。で、そのあと、自宅に戻って、地震来たのが46分だったので、本当に自宅に戻って、ちよっとお昼過ぎから頭痛が、急に頭痛があったので、ちよっとやっぱ横になりたいなっていうのと、でも保育所に息子がいるので、その前にちよっと迎えに行こうかというので本当に2キロぐらいの距離をすごく悩んで、もう迎えに行ったらいいか、でも一回自宅に戻って休んだらいいのかわからないかというので悩んだんですけど、行ってもちよっとお昼寝の時間にぶつかってっていうのもあるし、服もちよっとあの、ワンピースっていう服も着てたので、一回家に帰って着替えてから迎えに行こうかなっていうので、大体家についても2、30分もない間の地震だったんですね。ちよっと家について、お湯沸かして、横にはなつたんですね、ちよっと珈琲を一口、一回横にはなつたんですけど、やっぱ洋服のしわが気になったので起き上がって、上着、ジャケットを脱いで、履いてたタイツを脱ぎ始めたら、ぐらぐらぐらっていうのが突然来て、でも本当にもうその揺れ方が尋常じゃないもう大きい揺れだったのでちよっと自宅も古い築50年ぐらい経ってた家だったので、ちよっと自宅にいるのも怖いなと思ってすぐ外に裸足で飛び出して、飛び出したんですけど今度立ってられなくて、自宅の前にちよっと古井戸があったので、その井戸にもうこうしがみついて、地震が収まるのを待ったんですけどその間本当にもうガラスががたと揺れる音と、おばあちゃんちの瓦屋根が、落ちてパリーンって割れると音しか聞こえない

くて、自分もこうきやーとかわーとか騒いでるんですけど、自分以外の悲鳴とか、そういうのはまったくこのお宅からも聞こえなくて、間にちよっと揺れが一回揺れが収まったので、自分の家から、おばあちゃんちが同じ敷地にあったので、おばあちゃんちに行こうと思って、表に出たんですけど、もうその途中で自分の自宅のプロパンガスがあるので、そのプロパンガスがすごく斜めに傾いて、で、いつも止めてる車の車庫の、車庫自体ももうすごく斜めに傾いて、間にまた二回目の余震がきて、で、また瓦屋根が落ちるのを自分の目で見て、あぁなんかここにいても危ないなって思っただけで道路に出たんですね。道路に出たら誰かはお出てるかもしれないと思っただけで、やっぱり人を探すっていうんですかね、一人では怖かったんで、誰かに会いたいって、とにかく人を探すのに、道路に出たんですけど出てもまだ人っこ一人もいなかったんで、もしかして私今閑上に一人なのっていう本当にもう本当にそういう錯覚に陥った時に、あの、うちから3軒4軒先のお宅にお魚屋さんがあったんですけど何年前にもうおじいちゃんさんが亡くなって、おばあちゃん一人暮らしのお魚屋さんがあったんですけど、そのお魚さんの店舗が、ばちゃんって潰れて、潰れたと同時に砂煙が自分のところにふわってこよう流れてきたんですね。でもあそこには確かに一人暮らしのおばあちゃんがまだ住んでたっていうのも、自分の記憶にもあったので、うわーちよっととんでもないことが起きてるって、でもそのおばあちゃんのところにも、潰れてるのはみてるんですけどそのおばあちゃんのところにはもう怖くて行けない状態だった道路でもうただただ立っただけが精いっぱいだったんですね。間にうちの道路挟んだお向かいの中学生のお姉ちゃんがやっぱり出てきたんですね。声はかけないんですけど出てきたので誰か大人の人居ないの？って聞いたたら、だれか二人の名前を言ったんですね、おじいちゃ

んとおばあちゃんっていったのか、お父さんとおばあちゃんっていったのか、とにかく誰と誰はいるっていうのを聞いたので、とにかく大人の人のそばにいきなさいって言ったんですね。こうばらばらにならないで、大人の方のそばにいきなさいってその子をまた外ではなく、大人のどなたかいる大人の方のところとにかく戻して、間におばあちゃんが、うちのおばあちゃんが、結局自宅にいて、まだ炬燵があったので、炬燵の下ですつとおばあちゃん揺れが収まるのを待ってみたいんですけど、おばあちゃんも慌てて外に飛び出して、私もちようど職場、仕事が終わって自宅に帰ったんですけど、おばあちゃんにはただいまって声をかけてなかったの、おばあちゃんが私が帰ってきたのは気づいてなかったみたいなんです。そこでママ帰ってきてたの？っていうので、私は家族に会えたので、そこでちよつとだけ一安心、ようやくこう、人に触れられたっていうか、ようやく一安心したと同時に今度あの、七十七銀行が閑上にもあるんですけど、銀行からおじいちゃん、逆方向から旦那の車が同時に帰ってきて、自宅のある場所におじいちゃんの車と旦那の車が同時に止まったんですね、旦那はすぐ私に6メートルの津波が来るから公民館に逃げろっていったんですね。そして息子が保育所にいるので息子のところだけ先に行くねってすぐに公民館にいかないで、すぐに息子のところに保育所に行くねっておばあちゃんにいつて、そのままいつもお迎えに行っている道なり、道のコースで、こう閑上保育所まで向かったんですね。それでも時間的には30分もたつてない、15分とか20分とかすごい短い時間だったと思うんですけど、もう自分の先生と生徒さんが車が道路にもういっぱい先生たちの車が並んで、どんどんどんどん子供さんを先生たちが車に詰めて乗れるだけ詰めて、どんどんどんどん車が発車していつてたんですね。

私が車から降りて、顔見知り、他人の先生に、あのうちの息子はっていうことをいったら、ああもう一台目の車で小学校に行きましかつて言われたので、ああそうですかっていうのでまた息子を追いかけるようにまた自分の車に戻ろうとしたんですけどせつかくここに来たのだから、もしよかったらうちの車にも乗ってくださいっていうことを先生に伝えて、ちようどあの先生一人とお子さん一人を後ろに乗せて車をまた小学校に向けて走らせたんですね。その途中にお母さん友達がちようど二人いたので、そのお母さんたちにも声をかけて、もう閑上小学校に避難してよっていうことを声かけてとにかく乗ってつて、その小学校に行く経路沿いに、お友達のアパートがあったので、とにかく家の車に乗ってつてそのアパートまで乗せてくからつていうので乗せようと思つたんですけど、なんかそういう日に限つて車の中つてぐちゃぐちゃになつて普通にシートには座れなかつたので、トランクを開けばなしでトランクを開けてもうここに乗りなわつていう感じでお母さん二人をトランクに乗せてトランクを開けたままそのお母さんたちの住むアパートの前まで行つてとにかくお母さんたちを下ろして、すぐ自分も旦那にタオルケットを持って来いつて言われたので、私もその友達に、タオルケットとか持つてきたほういいよつていうことを言つて、お友達を下ろしてそのまままた公民館の前を通つて、子どもがいつも小学校に通つていけるルートをそのまま、私も通つて行つたんですね。で、行く間にその職場の先生の自宅も一瞬見たし、公民館にいて、まだグラウンドで立ち話してのお母さんたちも見かけたんですけど、自分ももう息子が今ここにいないつていうので必死でとにかくもう知つてる方がいても車は止めずにそのままぶーんてとにかく走つたんですけど道路的には全然混雑してなかつたのですぐその巨理塩釜線に抜けたんですけどもそこは渋滞だったんですね。だったんですね。

ど私がウインカーを上げたら自然とあけてくれて小学校にスムーズに入ることが出来たんですね。私が小学校についたときには保育所の先生の息子が乗ってた車が一番最初で、私が二台目の車だったので本当に私は、避難が早かったですね。そこから先生と合流して、息子もお友達四人と手をつないでいたので、まず息子のところに駆け寄って先生にちよつと声をかけたら、どんどん今から保育所の子供が来るっていうことだったので、じゃあ私がこの子供たちを三階まで連れてきますねっていうので、自分の子供とその親御さんがまだ迎えにきていないので、残りの三人の子供と一緒に小学校の三階まで上がっていったらちよつと小学校も小学校で、ちよつどあがったところが娘の五年二組のクラスだったんですね、そこに小学生の子供たちも廊下にランドセルをしまったまま座らせられてそこに担任の先生もいて、そこで担任の先生に娘がいるのを声かけていますかっていうので声かけて、いますよっていうので私はひとまづ自分の家族がいるっていうことで安心してずっと小学校にはいたんですね。その間にどんどん保育所の子供たちが避難してきたので、どんどん自分自身が誘導して五年二組の隣の部屋がちよつと多目的室っていう教室だったので、学校の先生から一般の方はそちらのほうにどうぞおはいりくださいっていのを声かけてもらって、とにかく玄関は避難してきた人でいっぱいになっちゃったので、保育所の子供たちはすぐその多目的室っていうところにまた先生と一緒に今度誘導して自分たちも行っただけですけど、今度私がおばあちゃんを助手席に乗せてそのままだったので、ちよつとおばあちゃんを呼んできますっていうので息子は保育所の先生にお願いして、おばあちゃんを迎えにいったら、私もそのおばあちゃんがいっぱいおばあちゃんを抱っこしながら、犬、ワンチャンはいいのって言われたんですけど、もう既にでっかいワンチャン

も学校に入ってたので、ああ全然大丈夫だよっていうので、皆で三階に上がったんですね。その間に、今度その津波の到達時刻が10分を過ぎたのでお子さんを引き渡しますっていう風に学校から連絡が先生から言われたので、じゃあとりあえずじゃあそのお母さんと息子とお母さんはそのまま多目的室に置いて、私だけ三階からまた、校庭に出て、校庭から外から学校の体育館の方に子供迎えに行っただけですね。迎えにいいって体育館に入ったら今度すぐ女の方が「なに、あれは」みたいな感じで外を指差したので、「え、なに」みたいな感じで外を見に行っただけですね。そしたらもうその海側が茶色い砂煙がぶわーと空まで上がって、でも私もそれが津波とかというのも全然感じなくて、なんだろうあれはって初めてみる光景だなんて思って何だろうあれはってみたら学校の先生が「津波だ逃げろ！」って言ったので、娘も目の前にはいるんですけど、逃げなきゃ自分も子供たちにこう押しつぶされて邪魔になるのでとにかく娘はそばにいますんですけど私も向きを変えて、校舎の方にそのまま土足でだーと校舎の三階に駆け足で登って行っただけですね。でも登ってる間に娘とは会えて一緒に合流はしたんですけどでも三階にのぼって、また正面のガラスっていうか窓を見たらもう目の前は海になっちゃって、お家だったり屋根だったり車だったりもう流れてる状態で何が起きたのかも全然、これが津波なのかもその時も全然分からなくて、ただ事ではないっていのだけは自分の中で葛藤して、三階にのぼったらすぐに三階も危ないからすぐ屋上に上がってくださいって言われて本当にすぐだったんですね。で、三階に上がってその屋上に行くにも屋上に行ったことがないので学校に入ったことがあるんですけど、屋上に入ったことがないので学校に入ったことに行けばいいのかっていうのでとにかく子供がいたので、もう子供といっしょに子供に今度誘導されながら、ああここから登っていく

のねって感じで屋上に上って行ったんですね。そしたらもう屋上に上った時にはほとんど丸見えの状態で自分も見たくないし、子どもにもちよつと見せたくないっていうのがとっさに思い立って、本当に屋上の入り口のドアの陰のところ私たちはいたんですね息子とあと自分の娘と親御さんの来てないお姉ちゃんのお友達と一緒にちよつとここで待ってようねっていうので、そのドアの陰のところに、いるんですけど音だったり見てる方の声だったり聞こえるのもう大丈夫ですかとかもうそんな声がとにかくずつと見てないけどずつと聞こえてる状態で。私は泳げるけど子供も助けたいし、でもお友達もいるし、何を優先にどうしたらいいんだろうっていうのもうそれだけがもう泳げるけどはたして泳ぎ切れるのかとかどうやって助けられるのかとかも、そんな、死んでしまうのかとか、次の大きい余震が、とにかく余震は大きかったので、次にまたそういう起きい余震が来たら、こんな小学校だって絶対次には流されてしまいうつていうので、どうしたら助けられるどうしたらいいんだろうっていうのでずつと屋上でそんな葛藤で、屋上には居たんですね。にも、空も暗くなって雪が降ってきて、みんな真白くなってたんですね、つたら、先生が、閑上保育所の子供たちは三階にあの、避難しますので、屋上に残りたい方はまあそのままでもいいんですけど、保育所の子供たちは三階におりたいので、すいませんが道を開けてくださいっていう、一言を発したら自然とこう道がバーツとできて、私もその声聞いているし、私も寒いし、三階に下りたいんですね。地震の直後公民館に逃げた方がよさそうだったっていうのでまあ公民館に逃げなくてよかったなあっていう話にはなつたんですね。でもその前にチリ地震があったときも、公民館に逃げたので、私も公民館以外の避難場所は分からなかった。閑上にいても、小学校とか鉄筋コンクリートの三階建ての建物に逃げないといけないっていう

うのは、全然考え付かなくて、チリ地震のときも公民館に私は子ども連れて逃げたので。6メートルの津波来ても公民館までは大丈夫だろうって思ってしまったね。私自身6メートルが肩ぐらいかなとか、そういう次元だったんですけど、はるかにもう6メートルって高いんですけど、その時6メートルの津波が来るからって言われても、6メートルっていったって肩ぐらいでしょってその時思ってた。

ご主人には側にいて欲しかった

そうしている間に、人はいなくなつて、でも自分のところには誰もちよつと迎えにきてくれなくて。っていうので、12時、お昼ぐらいですかね、たまたま廊下をちよつと歩いたときに消防服を着た旦那とすれ違つて、お互いあらつていう感じ、旦那は私に公民館に行けつていったので、公民館にいると思つてたみたいなんです、私は旦那やおじいさんがそのあとどこに行つたかは全然分からないんですけどまあ多分どこかで大丈夫なんだろうっていう頭ではいたので、小学校にいたんだつていうので、お互いああここにいたのつていうので、久しぶりに再会果たしたんですけど。旦那はまたすぐ救助活動に行つてしまったので、消防団員だったんですけどもう救助活動に行くので、もう何の会話もせずにああここにいたんだつていうので、すぐまた別れてしまったんですね。でも小学校にいるつていうのだけでも私が分かつたので、何回か足を運んで、旦那の方に皆を迎えに来てもう教室にどんだん人がいなくなつてるんだよつていうことをとにかく伝えて、とにかく自分も寂しいし怖いし助けてもらいたい気持ち一心で旦那には訴えかけた。泣きながら訴えかけたんですね。でも旦那もここにいてみんながそうなんだつて。おんなじ思いでここにいてるんだつて俺だけ行けつて言われて、皆さん顔分かる、知つてる方ばかりなので、確かにそうだよなあつて思つてそれでも旦那を恨みながら教室に戻つて、自分たちの避難できる

順番をこうずっと待ってたんですけど、こうちようど3階の五年二組っていうと三階で一番端だったんですね。なので声かけられるのが最後の方で、ようやく午後にあつて人はとにかく少なくなってきたんですけど夕方まではいかないんですけど二時か三時ぐらいにようやくちよつと五年二組にも声がかかって、ようやく移動、五年二組から出て、移動が始まったんですね、でもその間に一回音楽室に一回皆さん集まって残ってる人だけで、音楽室に集まってくださいって言われたので、音楽室に行ったら私たちよりも前に声かけられてまだ避難できてない方もいたので、そこでまたたくさんの人と合流して、そこにまだ余つてて誰も持つて行かない菓子パンがダンボール一つにあつたので、えっこれ持つていいのっていったら「うん好きならこれ持つていいんだってよ」っていうので、なにがあるかわからないって思ったので私も袋も何もないんですけどどうやって、ごみ袋かなんかに入れてたんですね、とにかく食パンだったんですけど、三袋ぐらい袋に入れてそれをもって、次のバスが来るのを待ったんですね、でも今度バスを待つてる時に、そこで旦那がちようど皆さんを誘導して、あの、安全にバスに乗せてたので、そこでまた旦那と会って、で、気を付けて行けよみたいな感じで、私たちはそのままバスに乗って、そのあとどこに行くかは分からなかったたので聞けなかったんですけど、まあ私とおばあちゃん息子と娘と、ワンチャンと一緒に同じバスに乗って、で、バスに乗ってそういうガレキだらけの場所を見ながらもその時には赤でばってんって書いてある車もあつたりだとか、そんなのをこう見ながら、とにかく閑上からはやく出たかったので、ああようやくバスに乗って安心できるところに行けるって思つてバスを、バスに乗つて移動したんですね。

おじいさんは見つかる

おじいちゃんは、我々がアパートに、アパートに引越せるのが決まつて4月の、一か月はたなかつたんですけど、4月の本日に6日か7日あたりに引越すつて言つた日のその日の夕方に、いつもこう空港ポウルは必ず家族が探しに行くんですけど、多分遺体は上がつてたんですけど、たぶんちよつと家族が見れるようにするまでにちよつと時間がかかつてようやく遺体安置所には来るらしかつたんですけど、そのあたりだったですね、引越しが決まつたと同時にその日におじいちゃんが見つかつて、だったんですね。

#### アパートに引越す

そのときもやつぱりそのいつまでも体育館生活してられないっていうのと、あと皆さんの行動がとにかくまわりが早かつたので、お子さん連れで若い世代のお母さんたちがどんどんやつぱりアパートを探して出られてたつていうのもあつての多分なんかつまでも体育館にいられないつていう、そういう焦りもあるし、多分ここ（避難所）が生活ができる場ではないつていうのも自分で多分思つて、急いでアパートは探し始めたんですね。仙台市柳生ですね。何軒も何軒も回つて、私の実家が仙北なので、仙北の親にもそちらにある不動産に仙台が何か物件がないかとか、そんなとにかく電話は無料でいくらでも使えたので、とにかく知つてる人に電話はかけてアパート探してるんだけどつていうので、探してもらつたんですけど、結局じゃあ今日見に来てくださいつて言われても足がないのですぐには見に行けなかつたりつていう状態で、口頭だけだと、結局そのもう今日決めますつていう方が優先になつてしまつて、二時間ぐらいたつて、あつ先ほど電話したものですけどつて電話すると「あつすいませんもう決まつちやいました」つていうのがほとんどで、全然ダメでした。でもようやく見つけたのがそこだったんですね。ただうちそのワンチャンがいるので、ペット可のところも、優先的

に探してたのでなかなか名取にペット可のアパートがなくて、ただ自分がペットを助けたんですけど、そこも自分の中の葛藤で、ペットがいなければすぐアパートがみつかったのについていうもう、そういうなんかどんどんどん自分が冷たい人間になっていくんですよね。で、その柳生のアパートも最終的には二部屋だったらおぼあちゃんたちとは別で生活するっていうことだったんですけど行ってみたら6畳の3部屋だったので、じゃあアパートも一緒に住もうかっていうので始めたの同居が、始まったんですけど、

### 仮設住宅に移る

アパートに移って三か月ぐらいは生活したんですけど、その間にはいろんな今度また保育所に提出する書類があったんですね。それに仙台市柳生っていうそのときの現住所がそこだったので、それを書いて出した時に仙台の住所ではだめ、名取市の保育所なので、仙台市の住所ではちょっとダメなのよって言われたのがあって、で、急遽市役所の方にそのお話をさせていた দিয়ে、まああの息子がまだ保育所に行ってるのと、娘が閑上小学校に通ってるっていうこととお話して、時期的にはかなり遅かったんですけど、ああそういうことでしたらっていうのでまた何日間かたって市役所のほうから電話いただいた、愛島の仮設が空いてるので、そちらに移ってくださいっていうので、連絡いただいたんですね。でも最終的にはこういう被災してるような状態だったので、あの、住民票は移してなかったの、その書類にも閑上の住所を書けばよかったですらしいんですけど、柳生の住所で書いたの、市役所のほうから、仙台市の住所では名取市の保育所に入れないんですっていうのでこうそういうふうにして、仮設には移ったんですけど。私がアパートに移ってから、初日からもう泣き始めてしまって、今までは泣きもしなかったんです、怖かったりもししたんですけど、泣くまでは

いかなかったんですね。それがようやく避難所を出れたのに、別に嬉しくもなんともなくて、逆にその閑上の方たちがいた集団に自分もいたの、なんとなくみんなが同じ気持ちでいたっていうのを自分がぽつとアパートに移って、上も下も誰だかもよくわからない。挨拶は行ったんですけど、だれだかも分からないところにぽつと自分たちがその閑上の集団からぽつと行って、別に嬉しくも結局はよくやく出たのになんともその喜びが全然味わえなくて、逆に寂しさだけが募ってしまって。で、その、もう行って荷物をまず片付ける前から泣き始めたんですよね、なんで私もなんでその時何で涙が出たのかは自分もよくわからないんですけど、とにかくもうなんか寂しさと、なんかで、今まで泣けなかったっていうのもあったのか、もうとにかく泣いて泣いて、夜っていうともうとにかく泣くのが当たり前になって、日中は仕事に行くので一瞬そういうのも紛れるんですけど、また暗くなって、夕方になってお風呂も済ませてじゃあ寝ましようってなったときに、やっぱりまた、涙が自然と出て、子どもたちも寝ついてないんですけど、もう帰りたいとか、帰りたいは実家なんですけど、自分の親元に帰りたいとか、そんなんですと泣いてたんですね。で、その三か月間そんな生活をアパートで生活して、仮設にいったら、泣かないんですねまた。涙はやっぱ全然でなくて、悲しい気持ちとかそういうなんか涙が全く今度また出なくなつて、またそういうその一か月間みなさんで共同生活みたいなのできたなんかつながりっていうかそんなのから自分が離れてしまった寂しさ辛さがまた仮設に行つたと同時にまた周りが閑上の方で、皆さん同じ気持ちでここで生活してるんだってたぶん自分なりにそれを思って、変に安心したんですけど、お友達の中ではああいう仮設みたいな集団生活は苦手っていう方もいるんですけど、逆に私はたぶん苦手なタイプではなくて逆に私はああいう集団の中

でいる方が安心感があつたりだとか、ほんと孤独感でしたね。仮設の方が住環境はよくないと思うんですけど、でもやっぱり安心した。

### 仮設住宅での生活

最初は私がこの愛島仮設に入る前に、仮設住宅の中の集会所の中の託児所に一年勤めたので、イベント云々とかそういう情報も早かったのもあるし、お手伝いする機会会長さんともそこで顔見知りになって仲良くなったので、そういうのでお手伝いする機会が増えたので、主に平日のイベントはほとんど出たんですね。土日も極力出れたんですけど、息子が一年生、去年の5月のゴールデンウィーク明けからサッカーチームに入ったので、入ってからはちよつと土日のイベントにはなかなか参加が出来なくなってしまいましたね。今でもこういう人住んでたつていう感じで、あんまりわからないですけど、ただ主にね、三丁目四丁目の方がそこに居るつていうので本当に閑上るときもよくは知らないですけど、ご近所だった方がやっぱいるみたいですね。

### 名取サポートセンターに勤める

私は集会所の中に支援員ではないんですけど、結局あの支援員さんがいないときにお年寄りの方々が窓口に使うつていうんですかね、「何とか借りたいんだけどどこにある」とか、なんとかちゃんいなんで、支援員さんではないんですけど色々聞いてくるつていうのを結構そういうのを自分が一年通してそんなのをやって、まあお子さんもいるときはお子さん中心なんですけど、そんなのをこうやって住民さんと関わりを持つようになつた時に、あの、ああひよりつてどうやって入るんだらうつて思つたんですね最初に。ひよりさんの仕事は私福祉の学校出たわけでもないしそういう資格がないので、多分無理なんだらうけど、このひよりさんはどうやったら入れるの

かなつてすぐこう、興味を持ち始めたときにたまたまた〇〇先生が、一回あの退職されたので、市役所は離れたんですけど、このジョカの二人のスタッフをちよつと集会所に連れてきて紹介してくれましたですね。そのときに今こういう仕事をやるのよつていうのから、また先生元気ですかつていう感じはずつと佐竹先生とそんなでつながつて、で、それが一回目だったんですけど二回目にまた別な二人の女の支援員さんをこう連れてこられたときに、その時にその女性スタッフの支援員さんと私初対面なんですけど、帰り際になんか頑張ろうねとかそんなやりとりをした時に、先生があらつて、あらまだ支援員つて募集してるわよねつていう話を振つてきてくれて、で、そうなんですかつていうので、あとじゃあ電話するわつてそのあと、私1年だったので、12月31日で契約期間が切れたんですね。で、その一月からどこか決まってるの？つて言われて、いや決まつてないですつて言つたら、ああじゃあちよつとまつてつて後で電話するからつていうので、そこから次の日かまたもうその次の次の日あたりに、先生から電話きて、ジョカのホームページひらくと、復興支援員とはとかなんかそういう論文各用紙があるので、それを描いて履歴書を用意して、ここの本部事務所に何月何日に来れる？つていう電話で、私ひよりを気にしながらも、もしお仕事頂けるのだったらつていうので、ここに来た。先生よりも先にひよりさんのどなたかに、どうやって入るんですかとか、なんか支援員空きありますかとか多分行つてたら多分ひよりさんのほうに、行つたとは思つてます。

### 若い方もつながりを求めている

閑上保育所のお別れ会先生が定年退職するつて行つたときに、お別れ会を親御さんが集めて公民館を借りてやつたんですけど私は皆さんに10年後にまたお会いしましょうつていうので閉めた

んですけど、その時にその当時役員をやってくれた方にまた声掛けをして、役員会みたいな感じで皆さんにこんなことあんなことそんなことしたらいいかねーねんて言って皆さんにこう役割を割り振ってお別れ会を企画したんですけどその時も皆さん本当にばらばらの保育所に被災して、その時にもうその若いママから、あのこのメンバーっていうか閑上の方たちがいるのってやっぱり安心できますねって。やっぱりちよつと外に出ると空気が冷たかった、私もそれは手倉田保育所で感じたので、そうだよねって。なんかその義援金一つにしても、こう嫌味っぽく言われたりとか、手倉田に行った時も、郷ひろみさんから義援金をたくさんファンクラブの方とかも募ってくれて、頂いたんですけど、それをじゃあどういう風に使い、どういう使い道をしようかっていうのを閑上代表で一人私が役員に入ったんですねその当時、だけど皆さんはエアコンつけたとか、芝生がこうだからああしたいとか、まあ子供のためには使わないんですけど、何となく悲しかったんですね。で私は、閑上保育所再建のために使ってほしいっていう風に書いて提出したんですけど、色んなこう現実にはねやっぱりちよつと違うんだなって思ってた。

### 今後のこと

今後ね、今後はまだその私たちも被災した後は今まで別世帯だったっていうのもあって、お店と自宅が今までも一緒だったっていうのもあって今後、今お店がさいかい市場にあって、主人は昔燃料とか米とか調味料とかプロパンガス扱ったりだとかっていう仕事をおじいちゃんとかふたりで手掛けてて、で、うちの旦那はおじいちゃんがいるときは主に自動販売機の方の仕事をしてくんですけど、おじいちゃんが亡くなってしまったので、自分が今ガスのほうの配管のできる資格を取ったりだとかして、おじいちゃんのを引き継いで、おばあちゃんがいま代表取締役なのでその下になって旦那が一

緒にやってるんですけどお店がさいかい市場にあって、おばあちゃんも旦那も一度さいかい市場に出勤をして、朝は牛乳配達もしてるので、早朝に牛乳を取りに行つて、皆さんのところに配達をしてそれを回収してまたさいかい市場に戻つて今度は愛島の自宅に戻つてまたさいかい市場に出勤するっていう生活をここ二年続けてるんですけど。やっぱりちよつと家族が今まで自宅と店が一緒だったので、その通うっていうのが今すごいもう苦痛らしいんですけど、今後はその自宅と店をまた昔みたいに自宅と店を一緒に構えたいっていうのでまた土地も探してるんですけど、前は同じ敷地内に世帯別でお家があったっていうことで、そう広い土地を求めてじゃあまた二世帯で建てて行こうかっていうことにはなつたんですけど、なんか私がそのはじめて三カ月間だけ柳生のアパートで、お母さんたちと生活した時に、なじめなかつたんですね。それも生活リズムが全く違うのもあるし、お母さんに、娘がその娘さん看護婦さんなんですけど、お母さんその娘さんのサイクルで生活をされてるので、やっぱりそのサイクルじゃない生活で私たちが生活してるのでサイクルの違うものが同じ空間で生活するっていうのがやっぱりちよつと難しくってっていうのもあったりして、今後はちよつと同じ名取市内だけでも、別でっていう。今は仮設の前の棟にお母さんたちがいるんですけど、同居は難しいかなーと思つて。アパートみたいにくう、いやだからじゃあ引越すわっていうのがお家は再建したらもうできないじゃないですか。なので、子どもたちはねおばあちゃんがおそばにいたりとかそのモコちゃんがいるので、モコちゃんのお世話をしたいっていうのでそばがいいってはいうんですけど、やっぱりこうやっぱり近くに同じ名取市内にいますのでちよつとの距離があることでやっぱり近くもめ事もそういうのもちよつと避けられるのかなんて思つて、いつでも駆けつけられる距離には居ようかなって思

って、閑上にいたときみたいに同じ敷地内ではないけど、ちよつと別で、でも同じ名取市内では生活していきましようっていうので、そういうのもですごく揉めたんですけど、家族の中で。主人は、そのもう閑上に戻りたかったんですね。でも私はようやく閑上から逃げてきたので、その閑上に、戻るっていうのがやっぱり私はできないっていうので、旦那は戻りたいけど、私は戻りたくないで、家の中でもちよつと揉めて、で、私の職場が閑上ならいいよ、って私が閑上に住むのではなくお仕事でいくのはいいけど、住まいは閑上じゃないやっぱり今後津波が来ないって誰も保証できないんだから、いずれ私たちがいなくなつて、子どもたちが自分たちの世代になつた時にまた、こんなのが来るかもしれないって、その時にまたゼロになってしまうのっていうことをまあ考えちゃうんですね。

主人はずつと閑上で生まれ育つたので閑上に戻りたいんですね。だつたんですけど私もそれをずつと言いつつ、その家をどこにする閑上に戻る戻らないでも毎日口げんかが絶えなくなつてしまつて、そんな感じで私が閑上にお勤めに行くのは全然、私が閑上にくのはいいけど住まいは閑上じゃないところの方がいいっていうことをこうずつと言いつつ、最近はその閑上に戻る方がどんだんだん減つてつていうのもあつて、うちは店を再建したので、ちよつとお店を閑上に自宅とお店を閑上に構えるのはちよつと人が戻らないのに、ちよつとうちも厳しいかもねっていうのでどんだんだん旦那の気持ちも閑上から少しづつ離れてはきたんですね。でも私が今お茶会で、在宅サロンで閑上の4か所の集会所に行き、今日もそうなんですけど、いくとやっぱりなんていうかこう、自分がやっぱり10年も住んでたので懐かしさとか、そんなことを言つた自分が申し訳ないとか、そんな気持ちになるんですね。今までは私去年の10月から行ってないんですね閑上に、去年の10月

もちよつと湊神社に秋祭りっていうイベントがあつた時にいったぐらいで、楽しいイベントがないといつてもなにもないし自宅も雑草だらけだし、どこが家だったかもしまいち分からないし。何にもないところにいってもまた絶望感と、寂しさで帰ってくるので、去年のお祭り以来全然行つたことなかったんですけど、今回その在宅サロンをジョカでやつていきますっていうので、いま閑上にお茶会で行くようになったんですけど、まあでも嫌ではなく。閑上でも小塚原っていうところなんですけど、小塚原で二か所、あと今日は牛野地区、巨理塩釜線のところなんですけど、牛野地区で一か所。あと杉ヶ袋南っていう下増田寄りなんですけど、その四か所を今後ジョカがちよつと10月はやつていくつていうことになつたので、ただ杉ヶ袋南はちよつと下増田だとは思うんですね。

#### 閑上の良いところ

どうですかね、気性が荒いつていうところがいいところでもあり、悪いところでもありますよね。よその人から聞いたら、その普通の会話の中に閑上の方が話される訛りっていうかその口調が怒つてるのか怒つてないのかとか。でも閑上つてこつちの同じ名取市でも、ちよつとこう独特なイメージがすごく、私自身はあんまりわからないんですね、増田にちよつと住んだことはあるんですけど、閑上がちよつとかなりこう海の方にはいくんですけど、そんなに閑上が独特っていうのはあんまり住んでる時は感じなかったんですけど、離れてみて、ああ独特だったんだなっていうのは感じましたね。住んでる時はあんまり思わなかったんですけど、ちよつとこう離れすぎてつていうか。でも公民館でやつたお祭りなんかは、こつちの地区だと人が多いので、みなさん公民館の運動会つていうと公民館の運動会と小学校の運動会が一緒だったらしいんですけど、閑上は小学校の運動会は小学校、閑上の公民館の運動会は公民館主催の

運動会つてもう別物で、それをみなさんもうどの地区からもみなさんがその公民館に集まって、その運動会の対決をするっていうのがすごい盛り上がりだ、私もそれ唯一楽しみのイベントの一つだったんですね。それがねいまでできないっていうのがやっぱりすごく悲しくて、私愛島にいて、愛島の地区の方から運動会愛島の地区の運動会どうですかっていう自治会でお誘いを受けたんですけど、やっぱりいまいち乗り気になれなくて、結局人集まらなくて閑上は参加しなかったんですけど、また閑上の方たちがこう集まってあんな運動会、盛大な運動会ができたらなあなんて、それはこのお茶会を通して、皆さんのところに私会いに行ってるので、そういうのはそういうみなさんとの会話の中だとか。

家ごと流されて救助を待った  
元閑上六丁目

### 地震の時は

当日地震のときは私と奥さんとあと息子も上の息子がちようど私と一緒に仕事してたんですよ。当時で22歳（息子さん）かな。私と仕事してたんですよ。地震の時私と奥さんがちようど今の美田園くらのところで仕事してまして、ちようど地震になったときに息子は現場からたまたま戻ってきたんですよ。現場終わったっていうことで、ちようど地震がありました、家にじいちゃんばあちゃんいましたので、とりあえずじいちゃんばあちゃんの様子見てきてくれやうってことで奥さんをまず閑上に行かせたんですよ。そこに息子が現場から戻ってきました、息子も「今かあちゃん行ったから、閑上に行かってちよつとじいちゃんばあちゃんの様子見てきて」ってことで行かせたんですよ。私はほらその仕事場の片づけをしなさいといけないなあと思つて残ってたんですよ。そこでまず私は片づけしなきゃいけないなつていうことで様子をみてたわけです。んで、20分30分たつても連絡も取れないし閑上どうなってるんだべつていうことで、気を揉んだんで、ちよつと閑上俺も見て来るかということ、30分ぐらいしてから車で閑上に向かったんですよ。閑上に行ったらスムーズにね渋滞もなく田んぼ道を閑上までいったんですよ、閑上に行ったら案の定家の中ごちやごちやになってまして家に入れなくて、じいちゃんばあちゃんと奥さんと息子二人、中学生の息子とあと近所のおじちゃんおばちゃんが家の前にいたんですよ。私が帰ってきたらじいちゃんばあちゃんが寒そうにしてたんで、とりあえずその20になる息子に、あと中学校の息子と、じいちゃんばあちゃんをまず避難所に置いて来い、暖かいとこに降ろして来いってことで行かせたんですよ。すぐですね俺行つてからすぐ向かわせたんで、

んで、私と母ちゃんは家の中を被害状況確認っていう形で見てたんですね。そしたらもう見て何分もたないうちに消防さんが、家の近くをとにかく津波来るから早く逃げなさい逃げなさいっていうことで大声で騒いでいたんで、で、うちらも母ちゃんとふたりで俺らも避難所に行くかっていうことで、家の玄関に出ましたら津波見えたんですね。まず足、くるぶしぐらいまでの波見えまして、そこで車に乗るべって言ったら、すぐ腰ぐらいまでの波見えたとんで、「あつこれはだめだ」と思つてすぐ玄関を閉めて二階に上がったんです二人で。

### 家ごと流された

二階に上がつて二階に上がったらもう大丈夫かなつて意識で上がつて行つたんですけど、そしたらもう二階に上がった途端にどーんっていう波が来て、一瞬どういう風になつたかわからないんですけども、家ごと流された状態だったんですね。で家ごと流されて窓開けてみてたらばとにかく水は来てるし自分たちはどうなつてるかわからないですしね、たまたま俺のうちつてというのが三階に屋根裏部屋あつたんです。部屋ではないんですけど屋根裏の倉庫みたいなのが、もう二階でも水入つてきそうになつたんで、ここじゃだめだつてことでまず屋根裏に上がりまして、で今度屋根裏の窓を開けてみたらばほんとにまた流されてどこにいるかわからない。そこまでも水入つてきそうになつてたんで、そうこうしてるうちにですわねいっらか流れが緩やかになつたんですよ。でそこでまず屋根裏にも水が入つてきそうになつたんで、これはだめだということ流れが緩やかになつたところを見て、がれきに上がつてがれきに上がりながら屋根の上のぼつたんですよ。で、結局屋根の上が上がつて回り見渡して、その時にはもう波もいくらか緩やかになりました、なんか助かつたかなつて気持ちにはなつたんですよ。でその時はもう

どこまでいったのか、もう周りの状況も水だらけでわからないですし、とにかくして家もまだ揺れてますし、余震もありましたし、とにかくおつかないからということ屋根の上に座つてたわけですよ、でそうこうしてるうちに雪降つてきましたね、屋根の上も今度凍つてしまつたんですよ。凍つたんですよ屋根の上ね。母ちゃんと結局屋根の上にそこから動けなくなつてそのまんまという形になつたのね。寒かつたですねとにかく。10号線があるんですけど、ファミリーマートあつてここが小学校で、その間まで流されたんですね、2キロぐらい流された感じなんですかね。まあそれも次の日分かつたんですけどね大体このへんだつてのは。その日は分からなかつたです水がとにかくあつて。夜も人がそこでしたね。寒かつたですね。ちようど俺家の中を見てたものですから家に上がるときに靴脱いだんですよ、だから家に入るときに靴下でいて、屋根の上に上がるときに靴下濡れたんですよ、がれきに上がったんで、そんなに、屋根の上が上がつて安心したんでしょうね、もう足が冷たいつてことで靴下を脱いで投げてしまつたんですよ。がれきの中に。まあそんなときには結局周りも見えなし流れも緩やかだったんで後は水が引けばもう逃げられると思つたんですよ自分は。んで靴下脱いで靴下投げてしまつたんだけど結局水が引かなくてそのまま屋根の上のいた状態だったんで裸足だったんですよ、だから次の日はね足倍ぐらいに腫れましたね両足も。一年かかりました元に戻るのに。もう感覚がなくて一年ぐらいかかりましたね。まるつきり普通になるまでは。歩くのも酷かつたですし感覚もなかつたです。

夜もねへりは飛んでましたし、でも救助するっていうようなへりではなかつたですよ。もうはるか遠く、上の方ずいぶんひつきりなしに飛んでましたね、夜も。サーチライトとかも当ててましたし、ずいぶんいたんですけど、もともとがなんか救助するっていう目的

じゃないのかなど。ずいぶん手も振ったんですけどね。手振ったり携帯の電気付けて振ったりなんてずいぶんしたんですけど結局誰も気づいてくれませんでしたね。

### 翌日救助された

救助されたのが次の日の4時、夕方4時ぐらいです。まるつきり25時間ぐらいいましたね。体育座りして。屋根の上に体育座りしてこのまんまでですよ。動けないんですもん滑って。奥さんと二人でね、くっついてれば暖かいんでしょうねいくらかね。でも二人もうっめートルぐらい離れてるんですよ、そこから動けなくなっちゃった。で一回こつちに寄ろうと思ったんだけど滑って落ちそうになったんですよ。もうそれからは動けなくてね。もちろん家も家がどういう風になってるかはわかんなかったんで、あんま動けないんですよ、家が転んでね、傾いたりしたらっていうのもあってね。ただその辺で全然動けなかったんですね、次の日の四時ですね。自衛隊のボートで救助されたんですけど、まあそれまでもね、いっぱいいろんな人が、ちょうど私10号線のすぐ脇に流されたものですから次の日の朝7時8時ごろになったらねその10号線が見えてきたんですけど、いくら引いて水が引いて、その10号線をその7時頃にはねいくらか歩いてる人居たんですよ。家の様子を見に行くとかね、あとは中学校に避難、小学校に避難した人たちが帰っていくとかっていう人が歩いていました。そういう人がもう行きたび私たちにすぐ見えますから声かけてってくれたんですね。消防さん呼んでくれるからとか自衛隊に話してやるからとかみんな言ったんですけど、結局来なくて。で、もうほんでもね、4時ぐらいでも来なかったんですけど自衛隊も消防も。で最初朝私たちに声かけて閑上の様子を見て帰ってきたおじさんが、「なんだまだいたのか」っていうことで「さつきほらあそこで消防と自衛隊の人に話してやったぞ朝にね」とだから

「あそこに屋根の上に二人一晩いたから早く救助してくれって言うてきたぞ」、って言ったけど来なかったんですね。それでまだ来ないぞってそのおじさんがわざわざ近くの、その当時その近くのファミリーマートが自衛隊の基地みたいになってたんですよ、仮にね。そこにわざわざ行ってくれて、それで自衛隊と役所の人間を連れてきてくれて、わざわざ私の前まで屋根の前までね、一応救助っていう形で頼んで、でやっと救助してもらったんですよ。

そのあとですね、自衛隊さんに救助してもらって、自衛隊のジープさん、ジープが迎えに来てくれたんですよその近くまで。当初足が、足が感覚無いしこんな腫れてたし俺もちよつと心配だったのでとにかく病院なんか診てもらえる、医療っていうかそういう見てもらえるところに連れて行ってくださいませんか、って自衛隊の人に言ったんですよ。だけどその時やっぱ情報が錯綜しててね、病院がダメ、あとそういう医療関係のところもわからなかった、つかめないんですよ。その運転手さんが、ジープの運転手さんが。だから色々すったもんだしてたんです。なんか無線やあといろんな人に聞きに行ったりして、でも、こつちはとにかく横になりたいしとにかく休みたいんで、じゃあもうめんどくさいからいいから、とにかくじゃあ横になれる避難所、どこでもいいから避難所に連れて行ってっていうことで、避難所に連れて行ってもらうってその時は文化会館とか、そういうのがいっぱいあって言われて、だから増田小学校、に連れて行ってもらいました。とにかく増田小学校ですぐ寝ましたね。

### 感動の対面

家族たちやっぱり、まあ助かってたというのは分かってもね、皆無事だったっていうことでね、うん。子供たちも11日に閑上から連れてこられて、文化会館に当初連れて来られてだけでも親父たち分からないっていうことで、いてもたってもいられなくてね。

市役所あたりに行ったららしいんですね。市役所に行けば何か情報を得られるかっていうことで行ったんだけど、そしたら俺の同級生なんかいっぱいいたらしいんです。同級生のやつらが。俺の息子だっ  
てわかって呼んでね、色々こうなんだ、昨日の夜屋根の上にいるっ  
てことで連絡取れたけどもそれ以来とれてないんだって話をした  
ら、まあほらうちの同級生からも、「大丈夫だお前の親父ならなん  
とか生きてる」って言われてずいぶん力になったってあとからいっ  
てましたね。俺らはほんとにラッキーだったんですね。ほんとにね。

### 自治会のこと

会長さんが、選出されたっていうのはここ来てもう何週間かぐら  
いのうちにはもう自治会っていうものを立ち上げて、で会長さん選  
出っていうことになったんですけど、まあ私たちはあんまり会長さ  
ん選出って言われたってどのおんちゃんかどういう人かってのは私  
は分からないんで、あんまり口出しもしなかったんですけどね、た  
だ今の会長っていうのはうちと親戚なんですすよ遠いんですけど。親戚  
になってるんです。まあその当時みんなここに集まって、会長誰  
にするのっていうときに、家の今の会長の名前がいくらかあがって、  
もう会長は決ってはいたんですけど、そこで会長とかみんなで協力  
するからお願いしますよって言って、一応会長になってもらったん  
です。そんな時会長から「じゃあお前もなんか手伝えよ」って言われ  
たんでそのまま私も総務って形で、ずっと入って、総務って形でず  
っと入ってたんですけどね。

### 犬を飼うことに

いまはね、じいちゃんばあちゃんと一部屋で、隣妹夫婦がいて、  
あと私たちが、要は私と奥さんと娘と息子二人と五人いたんです、  
それで二部屋と、だから4つあったんですよ。4つあるんです。4  
部屋ですね。今までは一つの家に住んでたんです。ただ妹たちは別

ですけど。要は今まで何するにしても、みんな、ですから何人だお  
れのところで、6、7人家族だったんですか、7人家族でねご飯食べ  
るも何も一緒ですよ。まあそれなりにテレビ、子どもたちは自分  
の部屋にはいつて行くにしてもある程度みんなテレビ見るのにい  
ちちゃんばあちゃんも一緒だったんでね、なんかあわわわっていま  
したから。この仮設に來ればね、じいちゃんばあちゃんたちもち  
ろん別ですわ。ここに居るのはね、あと、俺たちも息子娘たちと夜  
ご飯は一緒に食べますけど、食べるともう息子たちは隣の部屋に行  
くわけですよ。そうすると部屋に残るのは俺と母ちゃん（奥さん）  
二人だけなんです。最初の方はね、いろんな話して色んな震災の  
話したり何々話して話すことあるけど段々やっぱ半年一年ってな  
ってくると話することないんですね、うん。でね苦しくなって犬飼  
ったんですよ、今まで飼ったことないんですけど。ほんとに間が持  
たないんですよ。それでじいちゃんばあちゃんともすぐに大体一緒  
に暮らしたんで二人になったことってないんですよ。ずっと。だか  
らね、ほんと。それで犬飼ったんです。犬だって一年、一年ちよつ  
とぐらいになりますわ。かわいい、だから犬と話してるのが多いん  
ですよ。でもまあそういう犬が話題になって二人で話するっていう  
こともあるんで、なかなかね。

### ボランティアのこと

結構ボランティアとかも、来ましたね。そういういっぱいおつき  
いバスの人たちはみんなここにきましたんで。やっぱ力つけてもら  
いましたね、ボランティアっていう人たち。今までボランティアっ  
ていうものに対しての関心ってボランティアかっていうふうぐらい  
にしか思ってたんですけどね、すごいことですね。ボランティ  
アっていうのはほんとにすごいことだと今でも思いますね。今でも  
ほら、この仮設にずっと、まあ一回きりできた人はいっぱいいます

よ、まあそれでもいいんですけど嬉しかったですけど、一回だけでもねみんな頑張ってくれて来てくれたのはほんと嬉しいことなんですけど、やっぱいまこう2年数カ月たってみると、うーんやっぱり長く来てもらえる人っていうのは少なくなってますし、貴重な人たちですよ。みんなよくしてもらってほんとにもうほんとと家族みたいな形になってますからね、顔見れば誰々さんってわかるし、何だ今日調子悪いんじゃないの、っても分かってくるようになりますしね、だからねそれはうんとありがたいです。

ボランティアの人ってほんとにやってあげたい、あげたいっていうんじゃないかってほんとに力になりたくて来てる人たちなんですよ、だからボランティアしようがなにしようがほんととみんなうまいんです。あつたのは1回だけなんです。あれは酷い。ほんと酷かった。あの人たちはボランティアじゃないですね。あの人たちはボランティアじゃないです。要はね、あの、学生たちは悪くないんですよあれは。あの、××っていうあれといっしょにボランティア、コラボしてやりましたよね。あの××さんの考え方がおもしろい。あの人たちは、だってここに来たって最初だからボランティアするってわかって、俺は市役所のSさんと相談して、丹波からこういう人たちが来るよっていうのそっちからSさんが××はこういうのくるよと。それでどういうことやるのって、こっちはこういうことやるよ、こうやってあれやってタコ作りして、あつちはタコ作りをして、あとどんと焼きを焼いて、みんなと交流するよと、おれのほうは丹波からきて、何々つくりをしてこうして、この集会所で半分ずつ分けてやりましょうと、いいんじゃないのっていうことになって始めたんです。それでいざはじまってみたら、この集会所この広さっていうのも皆分かってるわけですよ、この広さに、で、「始めますか」って言ったたら、大学生、それも30、大型バス。もちろん尚

綱さんも来たし、Z大も来ましたし、その他大学生が30人以上ここに入ってきてダダダダって来たんですよ。それでなにをするかって思ったら、なんか自分たちだけ机ダーツと並べて、で、「タコ作り始めます」って始まったんですよ。俺はタコ作りするっていうから、俺と会長は子供たちを集めたわけですよ。タコ作りするから、その子供たちはいれないでやってたんですよ。自分たちだけで。最初俺は黙ってみてたんですよ。Sさんももちろんいまして、黙ってみてたの。したつけ途中ブチ切れて、「でも私いえないから言ってきて」っていうからなにをしたのって来たつけそういう状態だったの。で、よくよく後から聞いたらば、そのタコ作りの先生もどういう趣旨で来られたのか聞いたんですよ、そしてその先生は、「仮設の子供たちに教えるんじゃないかって、大学生にタコつくりを教える」って趣旨で来たんだって、もう最初から。だから俺そいってたんです。××の人にね、「あんたたちなんのためにここでやんの」って、「あんたたちがこんなことを仮設でみんなにやってるんだよ、っていうただ単に自分たちの実績作りだけだったら、こんなことするんだしたら市役所の体育館でやって」って言ったの。だからこんなのないんでないのって話をしたんですよ、で、ほらそんなこんなして子供たちも混ぜてもらったりしたんだけど、今度子供たち混ぜたらいいけど自分たちだけ並べた机でやって、子どもたち地べた座らせてやらせてるんだよ？そして今度丹波の人たちが来て一緒にやったの。丹波の人たちはもう端っこによせられて、その人たちが何をやってようが関係ないんだよ、で、丹波の人たちが、年寄りの髪とか切つてくれてたんですよ。髪切ってるからあんまりそこ歩くとだめだっていうことで囲いして、そこでやってもらってたら、そこもおかまいなし走って歩くし学生たち、あれは酷かった。

午前中にそれがあって、学生たち二人ここにきて謝りに来て申し

訳なかったと、だから「あんたたち趣旨が違うよ」という風についてね、色々やってみて、午後からはこういうふうにするから一緒にやろうなど。せっかく一緒に来たんだし、こっちで丹波でもやっている人いるんだからみんな楽しくやろうなって言って午前中お昼にここでお話して。で、よろしくお願いしますって午後から始まったのね、そしてついで今度××が連れてきたこのなんかメディアの人居るんですよ、復興支援なんだかメディアとかって名刺貰ったけど、こんどその人たちが、俺のところに来て、午前中申し訳なかったですと、皆さんに断りもなく撮影してしまっただと、午後からもちよつと録らせてもらっていいですかっていったのね。だからまずね、最初はいいよって言ったの、みんな楽しくやってるんだからわいわいと楽しくやっていると録って行ってね。あんたたちもそういう復興支援なんかメディアっていうんだから、せっかく丹波からああやってきてるんだから、あの人たちだってもう2回目に来てやってくれてるんだから、あの人たちだってもう2回目に来てやると発信してやってよって俺いったの。したつてそのメディアの人は、「いや、私たちはね、M大学さんの方からお願いされたんでM大学さんしかとらないんですよ」って始まったの、「なにそいつ」って言ったの。「それならば、一切この、この人たちは取らないで」って言ったの、絶対撮らないでって。住民の人たちも一切ダメって言ったの。M大学の学生だけ映しなさいって言ったの。それは許可するから、そのかわりこの中では撮らないで、外でM大学の学生さんたちだけ撮ってって言ったの。そしてついで今度いやほんしんがりの××の先生が出てきたんですよ。「いや申し訳なかったうちのメディアが」いやもうそんな話じゃない、見なさいって。してこつちで丹波の人たちすみっこで一生懸命やってるのに、おたくの学生たちとかさ、みんなケツ向けてやってるんだぞって、誰一人ここに

声かけた奴いるかっていったの。誰も声かけないんだから。そして尚綱のいっつも来てる女の子3人ぐらいいたのね、それは俺もここでずつと何回もあつてる人、その女の子たちは、ちゃんとそつちに入ってくれてんの。でも、その女の子も、ああここにいると怒られるかなとか言ってるんだよ。ちゃんとやっぱやりたい人は分かるの見てて。申し訳ないですよねせっかく丹波からやってきてる人たちにさ、ケツ向けて自分たちだけわーわーわーってやってさ、ちよつと違うなってM先生、そんなときはもうここにこの住民の人も何十人もいたけどもうめっちゃくちゃ怒ったんだおれ。「あんたたち最低だ」って、「こんなだったらもう2度と来なくていいから」って、もうこんなことするんだったら市役所なりあつちの体育館なりでつかいとここでやってってくれて言ったの。おれたち何にも朝からね、あんたたちのために手伝う何者でもない」って言ったの。で、会長から止められたの(笑)だつて丹波からきてね、もう何十年もボランティアしてる皆さんが、「この人たち何？」って言ったんだから、この人たち何しに来てるのって、びっくりした。

ほんとに一生懸命やろうとしてるボランティア、ほんとに分かってやってくれる学生のボランティアさんは、俺たちが言わなくたって、もういいからあのおんちゃんっていうぐらい住民の人たちと交わるよ。だから俺もN年何カ月みてきて、色んなボランティアの人たちみてきたし、今まではそういうの全然分からなかったけど、こうやってN年間見てきてもう大体やtingることだけでわかるよね。その人たち本気でやってるっていうのと、なんだこいつ自分のあいつ実績作りたがってるんだなあって。

結局大学の方で復興支援ってことで予算貰って、まあ学生の体験にはなるかもしれないね、バスで来て。で、みんなでもあ遠足気分ですよ。やって帰って、被災地見てきたみたいにして報告して

るのいるでしょ？だからねそれはもう見て分かる俺たちは。あれはただそういうね、ほんとに旅行気分に来てる学生たちって自分たちのためにもならないと思うよあの人たちは。だから俺一番思ったのが、1年後ね、1年後の3月11日閑上中学校でそういう1年のね、一周忌イベントみたいなのやって、そこに俺ここの集会、仮設でも、今年もしましたけど一周忌だつていうことでみんな集めて献花をして黙祷して、その花を持って俺と会長が日和山に納めに行ったんですよ。その帰り、日和山の帰り中学校でもそういう催しをやつてるっていうことで行つたのね、そこでびっくりしたのが、ほんとに一生懸命やってくれてる人もいっぱいいましたボランティアの人たちいて、なにか灯籠並べたりね、なにかしたりって一生懸命やってくれた人もいて、なんか涙出そうになったんだけど。で、校庭の方でもなんかやってたつていうことで、さつと見に行つた、そしたつてなんかその舞台作つてステージ作つてだれか歌手なのかわからないけど歌うたつてね、しかも大学生のお姉ちゃんたちがキャピキャピつてあの、ミニスカートはいてさ、真つ赤なジャンパーおそろいで着てさ、まあそういうと多分大学生だからこの大挙つてわかるとかないけど、全員真つ赤ジャンパー着てね、おそろいのジャンパー着て、まだ1年ですよ1年。みんな泣いても泣ききれないような時にさ、これは違ふなつて思つたの。一番最初、ほんと1年後に。あれはちよつと違ふなつたね、だからほんとにそれで一生懸命やつてくれてる人たちまでさ。ああいう人たちと一緒に思われるのがうんと悲しかった、まだ1年もたつてない。そしてそういう被災地にね、そういう1年のやつ一周忌のイベントに来るのにさ、あんどときあの国でやつてる一周忌でもちゃんと天皇陛下だつてあの黒い服着てね、いたのにさ、真つ赤つかなジャンパー着てさ、それもケツ見えるようなミニスカート穿いてる女の子いっぱい

さ、がっかりしたの。あれはちよつと違ふなつて思つたね、赤いジャンパーだからすぐわかるよ。今でも、なんか少なくなつたね、今年行つたときはあの赤いジャンパーあんま見なかつたな。一周忌の時にいたんだあの赤いジャンパー。で、そういうこともあるね、そういうのつくづくほんとに最近ね、思うようになった、見て。だから自分も考えないといけないあつて。何かするときは。もちろんボランティアだからさ、もちろん奉仕だからやってくれてるのは重々わかるよ、それがやつてやる気持ちほだめだね、終わりだね。

#### 神戸の人たちも同じことで悩んできた

だからあの、私4月から神戸に行つてきたんですよ。神戸に4日間行つてきたのね。やつぱりいろんなそういう復興してきた、地域の人たちの自治会の人たちの話聞いてきて、ただ同じことなんですよねあの人たちは。俺いまおれたちが悩んでることもあの人たちは悩んできたわけですよ。やつぱり聞くと、やつぱり1年2年経つとボランティアのことね、あつちにもあつたつて、1年ぐらい、2年ぐらいたつとやつぱりそういう違うボランティアの人たちがいっぱい来て、そのある自治会の会長さんが言つてた話の人もその復興からずつと携わつてきたことで、やつぱりはつと思うボランティアの方がいて、あんたたちなにしに来たのと。聞いたことあるんだつて、あんたたちなにしに来たつて、なにしたかは言わないけど。いやボランティアに来たんですよと。なんかこうおつきな顔して言つてたらしいのね、その人たちが、だからね、「あなたね」と、「ボランティアつていうのはそんなおつきな顔してボランティアつていうんじゃないよ」と、「ボランティアは、誰も知らないうちに来て、誰も知らないうちに物事をやつて、誰も知らないうちに帰つていくのがボランティアなんだ」つてこんなおつきな顔してね、私ボランティアにきてますなんて言うやつ誰もいないよつて言つたつけさつと帰つ



だから市長さんはそれを残すためにあそこに行くんだよと、言ってるんだけどね、だけど場所があそこだからってこの閑上の文化はもうできないですね。人がいなければできないと俺は思ってますから。だから人がいればそれが小塚原だろうが大曲だろうが高柳だろうが、閑上の文化ってそのまま継承していけるのかなって思ってるけどね。もう半分以上いないよわあ。半分以上も外に出たから。だからもう閑上の、復興公営住宅の中だけだろうね。今どういう風な形に公営住宅が落ち着くかわからないですけど、結局その公営住宅にはいるってことは今うちのおやじたちみたいに閑上のおんちゃんおばちゃんたちで、自分たちではどうも自力再建できないよってという人たちが行かざるをえない人たちだから、そこはね。どうしても閑上の人たちが集まる場所になると思うのですね。それだけそこだけだ。だからそこに住んでる人がいずれ何十年も生きる人たちじゃないだろうから、ねえ、その人たちがいなくなるときってというのがこの閑上の文化はなくなるんだろうね。寂しいねほんとに。

家ごと津波に それが河北新報に

小塚原

地震の時は

家にいました。午前中は公民館でグランドゴルフやって、妻が午後から病院に行つて来るって、バイクで出かけた。そして、私に家に来てこういう風に腰掛けていた。そして地震が来てテレビから何から倒れた。その頃私も病氣やつてあまり歩けなかった。だから妻が帰ってきてから片付けようと思い、構わないのでいたの。そして妻が帰ってきてテーブルにバックを置き座るか座らないうちに真っ黒い煙。まるで夜になったかのように。そして妻がこれ何つて言うので、私は立って貞山堀を見たら壁のような水が松の木を越してきました。「津波だ。二階に上がれ」と叫びました。二階に上がったらまわりは水、まるで海の中の家になっていました。それでも隣に老人ホームうらやすの3階建てだったので、波がそれにぶつかって我が家は流れされずに済みました。家は流れてくる、船はものすごい勢いで流れ家の屋根の上で助けを求めている人まるで地獄を見ているようでした。夕方になると雪が降ってきました。暗くなると七丁目から火が出て次から次へとまるで映画でも見ているように骨組みまで見え、それが燃え尽きると次々と朝になっても燃えていたね。こんな私たちは一晩中パニック状態でした。飲まず食わず二晩過ぎました。幸い2回には子どもたちのためにと夜具7組がありましたので、寒さは堪えられました。

13日の朝になりヘリコプターが来ました。水も引いていたので私は外に出て手を振り助けを求めました。隊員が降りてきて「うらやす」の職員の方も見えられて夜具を見て、実は二階まで水が来て布団が足りない、貸して欲しいと言われて職場の方5人くらいで夜具を全部持つて行きました。私たちは取りあえずうらやすに行き、

中は大勢の老人、近所の方でごった返していましたね。私には息子が二人います。上の長男は3月1日付で転勤になりおらず、次男が避難所を探してくれたそうです。でも12日の河北新聞に我が家が写っていたので、もしかしたらうらやすにいたのではと方に一つの望みを持ち、胸まで水に浸かりながら来てくれました。

### 仙台へ新潟へ名取に戻る 皆の傍にいたいんだ

その日のうちに仙台市錦ヶ丘の息子の家へ。15日になり福島の原因が出て、息子の奥さんの兄が外資系の製薬会社に勤めていて、会社の家族、子ども等に影響が出るということで避難することになり、私たちも連れていかれました。夜二時過ぎ仙台から大型バスに乗り朝着いた地は新潟でした。ゆつくり体を休ませてくださいと言われ、一部屋を与えてくださいました。私たちが涙がこぼれるほど感動したことがあります。それは雪の降る中を東北の災害に対し募金を声を枯らしている姿がとても嬉しかったです。何日か過ぎ、情報集めを始めた時に地元の方の死亡が次々と出てきたのです。妻は地区の民生委員を引き受けていたのでみんなの確認をしなければと気をもみ始めました。それで単独で帰るので仙台へのバスの時刻表を調べたり、そしたら支援物資を積んでいる仙台へのバスが出ると聞き、どうか二人乗せて欲しいと頼んだの。支援物資はバスでいっぱい後席二人分空けてくれて仙台にきました。たまたま長男が戻っていて、俺の家空くからお父さん母さん来たらと優しく言うてくれました。でも地元の人たちの傍にいないければ申し訳ない気持ちがいっぱいだったので、いや避難所に連れて行ってと言ったら悲しそうな顔を「避難所暮らさすの？」と言うから気丈に「いいんだ、皆の傍にいたいんだ」と息子に頼んで文化会館に連れて行ってもらいました。

### 文化会館の避難所に

15日も遅れて行ったので、避難所は90名もの人で溢れていました。大事なペットも一緒。それにホールの囲いは総ガラス張り、夜気がビリビリ感じました。私たちは入る隙間もありませんでした。知っている人がいてやっと二人居るだけの場所を確保、その中であってでもコンコン、こちらでもゲホゲホ、妻はすぐに風邪をひいてしまい、三階の部屋に3日間隔離されました。その中、ペットを飼っている人は二階に移り、段ボールが支援されて周りを囲みするようになってから、風邪をひく人も少なくなりましたね。

### 仮設住宅へ

5月の末頃になると仮設へ移る人が多く、ポツンポツンと空間が出来る。そうすると職員の方が片っ端からブルーシートを外し始めた。寂しかったですよ。5月末荷物を持って別々の避難所に行くようにと言われたときは悲しかったです。残されたもの同士で法務局に行ったら東部仮設ということで喜び勇んで移動しました。

### 自宅のこと

平成元年に新築した家は隣の老人ホームの3階建てに遮られ、辛うじて流出しませんでした。私たちは市の鑑定をしてもらい土台も柱もしっかりしているからと言われ、私たちが戻るところでポランテアさんを頼み泥をとったり片付けをしてさあ直そうとなったら、お宅の場所は危険区域になるので家は解体しないと聞かれたときは目の前が真っ暗になりました。妻もガツカリして自宅に通う張り合いいもなかったです。解体と決まったら妻は辛いから行けないとそれ以来自宅の近く迄行って、戻ってきて行けません。

### 仮設住宅では

ここは閉上3、4丁目の方たちが住んでいます。それでも私たちが知っている方に声かけしてもらいどんなに心強かったことか、嬉しかったです。感謝しています。私がここに来て心がけたことはボ

ランティアさんが集会所に来てくれる時は積極的に参加し妻にも出るように言っています。遠方から私たちを心配し励ましてくれる方々に感謝の心、それは参加することだと思っておりますから。

昔は

私の生まれは下増田、妻は閑上つ子。小さいときに養女に出され農業をしていたので一生懸命働きましたよ。住んでいたところは田んぼ、畑、左手の方には松林、右の方を見ると蔵王が山々広々として戸をいっぱい開けて外出したりしてね。とにかくのんびりしていたね。閑上は海が近かったから夏は涼しいし、冬は暖かい。雪も滅多に降らなかった。とにかく時間がゆつくりと過ぎていった。妻などは私は街中で暮らせないと行ってたね。とにかく閑上の人は元気がある。口はズバツと言っても心は暖かいものを持っているからね。

今後は

自宅は危険区域で隣組の10軒くらいがあったけど流出していきまっつて戻って再建する人はいません。別の地区に移ったりしているから、私たちも自分が生まれた地区の人たちと集団移転に入れてもらって移るつもりです。私は実家も親戚も兄妹もいるし、でも妻は不安がってうまくいくんだらうかなんて言っていますかね。前に進むしかありませんものね。

ゆりあげってこんなに小さかったんだ

閑上四丁目

震災の時は閑上4丁目で、日和山の北側に住んでいました。地震の後は何回ぐらいいしか行ってません。更地がここが自分の家だったんだなあと思うと悲しくなりますね。

### 震災の時

隣の息子さんが津波来るからすぐ逃げろって来たんです。お父さんも一緒に逃げようと思って引つ張ったんです。でも二人先に行けって言われて父の大事にしていた書類等をぼつと渡され、それを持って隣の息子さんたちの車に乗せられて、車をよけながら進んでくれました。父はバイクで後から行くから先に行けという言葉が最後になりました。私たちももうちょっと遅かったら駄目だったね。息子は自営業だったので消防団へ入ってました。地震の後息子はすぐ家に来て「ああ大丈夫だな」と言ってすぐ帰り、消防の仕事で町内の人たちを誘導したり、助けたりしていたそうです。後で分かったのですが、自分の後ろにいた消防の人と台の車がなくなつたそうです。長男はすれすれで命拾いました。父の母いわゆるおばあちゃんは100歳でした。三日前にうらやす（老人保護施設）に入つたんです。でも助けられていまでは施設の世話になっています。

### 津波が

中学校に避難してから15分位経つた頃、ものすごい勢いでガレキや船が流れてきました。みんな窓の外、あっちこっち見て、みんなびっくりしてもう無我夢中でした。

### 避難所

中学校から小学校に移動するように言われ、小学校へ行くことになりました。ビニールと袋をもらい、結んで歩いたが滑ってころんだりする人もいました。母も階段のところで転んでしまった。一晩中余震もあったし、すごく怖かった。

その後名取一中へ行かされました。近くに父の妹がいるので、名取一中には名前だけ書いて妹の家に行った。妹は「姉さん、いままではばあちゃんを見てくれたんだからはずっと家にいていいよ」と言ってくれました。仮設に入るまでずっとお世話になりました。

### お父さんは逃げなかった

重いくらい重要な荷物を私たちに預けた父は6月21日に見つけられました。次男がお世話になっている家から自転車で遺体安置所へ午前と午後通つて探して「ああ今日もみつからなかった」っていたら、6月22日の午前中、「お父さんみただから来てみて」と言われ、家族みんな集まって確認しました。近くのセラホールに火葬をお願いしました。火葬は一週間か20日位かかるって言われたのでそれでは駄目だと思い、白石にしんせきがあるのでそこに頼んで4月2日に火葬しました。荷物には必要な書類が入ってました。

### 仮設に移動

仮設に入ったのが6月28日で小雨が降る日だった。トラックに40シートをかぶせ、父の弟にも手伝ってもらった。仮設は狭いし、いろいろ考えるとイライラして困るときもあるけど、みんな同じなんだな」と落ち着かせています。

### これからのこと

閑上であんなに大きな津波を見たので行きたくないです。すごかったんです。ガレキから船から自転車や車。なんだか人も流されて来て、ものすごい光景でああいうの見たんだものね。5月9日にお祭りと朝市があつて行つたんです。それが最後ですね。閑上の更地を見ると閑上ってこんなにちっちゃかったんだなと思いました。

東部道路の西側に建つことを希望しています。この前の役所の説明の時に3K

の一戸建てを希望しました。そしたら100件につき200件の希望があつたんですって。

そしたら100件にもれた人はどうするんですかと聞いたたら東部道

路の東側が災害復興アパートに入るようになると言われた。それは保証してもらえませんでした。聞いていたら「それはできると思う」と言われた。何百人も同じ思いをしているんだから皆の希望が叶うようにしてくださいってお願いしたんですよ。

### 閑上のよいところ

閑上のよいところは浜風が涼しい。あと子どもの頃遊んだ日和山、上へ登ると海が見えた。日和山の斜面をダンボールで滑って遊びました。おっつるばつばという駄菓子屋があつて幼稚園から帰ると「はい100円」と言ってくじ引きしたり楽しかった。あと港町でおいちちゃんが漁師だったので活きの良い魚がたべられて良かった。人間関係も良く、友達もたくさんいた。閑上の人たちとみんな仲良く暮らしています。

閑上に帰るんだったら、仮設から出て行けって言われるまでいてもよいと思つてます。今は集会所でお茶飲みしたり、踊ったりして楽しんでいきます。

子どもいれば何をしても食わせていかなければならないそう思ったが、泣いたこともあった

元閑上四丁目

## 地震の時は

ちようどあの閑上の魚市場の前、なんですよ。だから海が目の前って感じ、だったんですね。その当時、当日結構夜の予約とかあとお通夜の注文とか入ってたんですよ。仕込みやって、まあ地震が来ましたよね。店の中はもうめちやくちやになりましたからね。地震当時は車の中にいました。ちようど車で信号で止まって閑上の信号で止まってる時だからね、ちよつと用足しがあつて、ちよつと出かけた。車を置きに行ったんだね。修理しに。すぐあのお店の方に戻ったんですね。店っていつたつても五分ぐらいで行ける距離にいたんだよね。二、三分。車ですぐ、もう日和山の信号のところに行ったんだよね。

やはり店、やはり仕事柄店が一番心配だったんですよ。店に入つてもう中がめちやくちやでも、もう夜のこう仕事のこと頭がいつぱいだったんだよね、あの時な。どうしてもお通夜とかそういう、まさかねこんなに大きな被害が出るとは思わなかったものですか。それで、片づけ方してたのかなあの時な。でもしばらく、外で近所の人たちと話をしてた。みんなやっぱり出てくるんですよ地震後。津波くるって話もしてたんだよね。もう津波っていうと私生まれも育ちも閑上でね、もう津波は絶対来ないっていう頭しかなかったものですか、早く店を片付けて仕事しなくちゃダメかなっていうのをずっと思ってたんですよ。で、やはり家内とじゃあ店片づけようってなったんですけどやはり隣近所の人みんな出てきますよね、で、早く逃げるかどうかって悩んでたんだよね皆。

まあ逃げた方は逃げたんですけども。  
じゃあこれではだめかなって、あのなんていうんですか、予約いただいたところにこれじゃ仕事にならないよなあって断りに行った

んだよね直接的な。まあ正直言ってねえ、そこで家内と喧嘩になったんですよ。やはりうちの嫁、やはり子供三人いるんですけど、その当時は保育所だったんですよ。あと二番目が小学生なもんで、まあ上はもう大学になったんですけど、やはり家（うち）らは、私は商売のこともう頭が「これからどうしよう」ってね。こっちは家内はやはりもう子供のことで頭がいつぱい。じゃあどうしようってそこでちよつと口喧嘩になりました、私の方が折れたって感じですね。じゃあしようがないってお通夜のやつてるところにいつて、いつたのはいいんですけどやはり、その家もやはり祭壇がみんな崩れてたんですよ。喪主の方も「今日は絶対無理ですよ」ってまあここで「じゃあすみませんけどうちの商売は出せないもので」って言って、やはり謝りに行って、お断りの、一回戻ったんだよね店の方に。戻った時漁師の方とかそういう人が店の前に集まったんですよ。そのときはもう隣近所の人皆避難しちゃったんですね。うちの4、5人かな、集まったのな。どうしよう逃げようか逃げないかそういう話になってたんだよね。けつこう時間はたつたかもしれないですけどね。もう家内はもう子供の迎えに行かないとだめだつていうので頭いつぱいになってたんですよ。私はやはり店のことをね、子どものことは家内にいったんお前一人で、保育所に入ったのかな一緒に。保育所に行ったつけちようど園長先生がいたのね。最後に出られるところだったんですよ。一人で、園長先生がすぐ小学校のほうに、行ったよつて。すぐに避難しましたっていうことでじゃあ小学校に行けば二人いるんだねつて、そこでまず一つ安心して、一回家に帰ったんだね。一回戻ったんだね。片付け方したんだな。じゃあ。私はやはり家とかそういう店のことがあれだったもんですから、そしたつけそこで家内が「じゃあ今から子供迎えに行くから」ってなつたんですよ。「お前一人で行つてこい俺店の片づけ方してるから行ってこい」って言ったつけ、やはり一人では怖いっていうことになつたんですよ。そこでやはり私も一緒に行ったのかな。そ

れだつてやはりこう偶然っていったらおかしいですけど。一回公民館の方に入ったんだよね。行くときにちょうど隣の方がいらつしやるんですけど、その方の奥さんが公民館に行かれて、迎えに来るのを待ってたようだったんで、そういう話をしたんです。その時偶然なんですよ。私が外に出ましたよね、車に乗り込んだんですよ。

「じゃあ行くか」って言ったつけちようど、隣の方〳さんなんですけど、ちようど顔を出したんですよね。ひよつと見たつけちようど目が合ったんだよね。あいつほんとに一分二分の差だったら家らはもう行つた。何気なく「俺らと一緒に乗っていくか？」っていったけうんって言って乗ったんだよね。それであいつは助かったんだよね。それで奥さんが公民館にいるついで私たちも一度公民館に行つたんだよね。降ろすために。それで一回公民館で〳さんつていう人を下ろして、「じゃあ今度こそ子供を迎えに行くか」つてもう私はそういう子供を迎えに行くことより店のほうがね、こういう商売してますので、収入源ですから。うちの生活の問題。じゃあ子供を迎えに行つたらまた戻って片付けようつて俺は考えだつたんだよね。私は違つてたけど(笑 奥さん)。今度学校行つても引き渡さなかつたんですよ学校が。ちようど子供たちが上から下に降りてきたときだったんです行つたときは。引き渡しの前だったんですね。で、下の、真ん中の子は確認してああるなつて思つたので、今度下の子を確認するのに私は校庭で探して、(夫)は車のところで待つてたんだね。校庭で待つた。でやはりそのとき子供引渡したらいいんじゃないかなとかつてやはりこう思つてたんですけど、ちようどこう子供たちが体育館に集まつてきて「あーこれなら戻れるなあ」と思つて、そしたつけ上からこう二階か三階かな?みんな上がれ上がれつて言われたんだよね。そこでちようど嫁が走つてきて俺と一緒になつたんだよね。そしてこう一緒に二階三階に上がったんですよ。で、こつちは子供を探し回つて、まあ長男は長男でやはり仙台の方に遊びに行つていなかつたものですから、やはりどうです

かね、こつちを探し方してたんだな。園長先生がちゃんどやつてくれたつていうのが頭にあつたものですから、「あの園長先生ちゃんどやつてくれるよなあ」とかな、思つてたんだよね。屋上で見つけたのかな?そしたら、それでやつと二人見つけて。

#### 長男のことが心配に

今度長男の方の心配になつたんですよ(涙ぐむ)。ちようど長男が苦勞して大学に、ちようど受験で合格して、それでね、それもやはり、舞い上がつてた時。ちようど二日ぐらい前に発表だつたんだね。水曜あたりに発表だつたんだな。長男は携帯電話持つて歩くような子じゃなかつたので、連絡が取れなかつたんです。でもたまたま友達から、たまたま私の電話に入つたんだよね、あれ偶然に。なかなかつながらない状況の中で、たまたま入つて話できたからねえ。もう電話通じて、とにかくこつちに帰つてきて何もなければね。もつてね。実家に行きなわつて。実家仙台なんですけど。うん、だから出先から直接実家に行きなつていう風に一言言つて、それからしばらく結局もう連絡とれなかつたんだよね。ちようどあの時な、受験で合格して、それなんかもいろいろね、長男にあんまり手をかけられなかつたんだよね。手はかけたんでしようけどやはりこう、受験だとやはりこうね。食事とかいろいろ考えて、そういうのもやりたいんだけどできないんですよ。そういうのをな、そして手を借りないで合格したものですから。予備校とかそういうところには行かなかつたんですよ、そういうのもやはり家のことを思つて、だからああいうところに行けばお金もかかりますよね。でも閑上にいなかつたから逆に津波には巻き込まれてないなつていう思いだつたから、地震でなんともなければつていう安心感私はあつたんだな。

戻つてくることだけが心配だつたんですよ。戻つてきて巻き込まれたら大変だつて言つて。

まあ最終的に実家には行かず友達のところ泊まつて、次の日名取

の避難所に来てね、探してたよって私たちのこと。まあとにかく親はきてもしようがないから探しようもないだろうしね。居場所が自分たちも今度どうなるかわからない状況だったので、まず実家に行けばなんとかなるかな連絡も取れるかなって思ってたからね。言っただけでいいんだけど、そのまんまほんとに連絡取れなかったからね。

### 小学校に避難

その日は一晩小学校の方にいまして、まあそんなときはもう今後のこととかそういうのは全然頭にはなかったです。うちの方は三階にいたんですね。まあねえやはりあの場面を見たらやはりうちらはうちら家族は家族と全部再会できませんでしたので、やはりもうみんなは子供とかね、旦那さん奥さんと再会できないで、心配っていうかな、そういうのがあったもんですから、うちらも喜んで、まあ喜んででもいられないし、複雑な心境だったんですよ正直言って。「おれの息子まだ会えないんだ」とかこうなんというんですか、そしてやはり次の日市役所なんかのあのバスでみんな避難所に行ったのかな？すぐでうちらもやはり、うちらは最後だったんだな、夕方だったんだね。うちらやはりまだ五十過ぎで若いから、最初年配の人、年取ってたりした人から最初にやったんだ。そしてうちら最後で夕方だったよな。

### 館腰小学校に

避難所に行つて。まあすぐいったつけあそここの避難所の町内会の人たちがおにぎり、小さい、冷たいおにぎり、あれを食べたときはこんなにもまいものかなって思ったよな。私たちがあの当時薄着だったんですよ。正直言って「シャツ一枚と同じだったんですよ。ジャンパーはもう子供にやって、子ども体育着、真ん中は体育着だし下の子はパジャマだし。ちょうどその時館腰の町内会の人たちがもうグラウンドにジャンパーをみんな集めてくれたんですよ。そこでうちらジャンパーを探して、ジャンパーを着てそこでやはりまあね、

避難所に行ったときはみんな閑上の方、閑上に住んでるもんが多かったもんで、そこでこう世間話、世間話って言ったからおかしいですけど、やはりこういういろいろお話して、それからがうちらはもう苦労って言ったからおかしいですけど、そこから落ち込んだよなあ俺はな。もうその時点でうち収入が途切れたんです。そこでもう収入が、もうね、お金も全然持っていないし、だから二日三日目あたりからな、今後どうするってなったよな。私はですね。もうあの時点でもう収入がこうほんとにね、個人営業ですから、どつからももう入ってこないっていうのがもう目に見えたものだから。今後どうするかっていうのを悩んだんだよな……。それからだよな、それから大体一週間二週間過ぎてからだいたいぶ落ち着いてきたんだよな。

長男とは三日目に、避難所、巡って来て会った。結構館腰だと離れてるんで一中とか二中とか行つたんでしょね。歩いての移動だったのでもちよつと時間かかったみたいで、こつちでもある程度探したんですよ。でもすれ違いだったんですね、ずつとね。でもね生きてるっていうの私たちの中であつたもんですからやはりこう焦つたりとかはなかったですね。うちの息子亡くなったとかいうのもそういう話がいっぱい流れてきたものだから。それからやはり、なんですかね。もうやることがないっていうか、やはりね、人の手伝いとかそういうことしてたな。みんなお互いに助け合つてやってたからね。

### これからどうやって生活していく

やはり二週間ぐらいすぎると勤めにサラリーマンさんとかそういう人が職場の方にみんなこう出勤って言ったからおかしいですけどいきまますね。うちらみたいなのが取り残さされてるっていうか、だから私が一番つらかったのは朝なんです。だからみなさんはやはり仕事持つてるからねえ、毎朝8時半9時頃、みんなやはり会社に出勤するんですよ。うちらみたいなのはそういうのから、

もう避難所でぼーっとしてるしかないんだよな。まさかね、子どもまだうちの小さいもんで、これからどうして生活しようかっていうのがもう、それだけでそれだけが頭いっぱいでしたね。だから朝が一番私が、私はあれですけど朝が一番辛かったんですよ。まあどっかにねアパートを借りてみんなが入るっていうよりもやはり仕事が亡くなったっていうのが一番つらかったですね。

三日目に家を見に行った。車持ってる方が避難所において、その人に乗って確認しに行ったので、私（奥さん）は行かなかったんですけど。三日目か？震災後三日目かな。やはりゴミ過ぎるところぢやないですか。でもやはり話来ても時給なんぼとかそういう話しかないですね。それにやはり同業者って言うとうちらぐらいになると使い辛いつていうか敬遠しちゃうんですよ。だからもう寿司屋は絶対働けないなつてなつたんだよな。そうもうね。そしていろいろ考えて、何週間後だったかな、一か月過ぎてからかな？私（奥さん）仕事したのは。私（夫）内心はもう働きたいっていうか収入を得たかったですよな。もうなんにも、避難所いれば何にも心配ないんですよ食べるものとか着る物とか、そういうのをやはりこうね、ボランティアさんがいろいろ物資費いますので、それがあんまりこうそれに依存しない、なんていうのかな、

今後のこと考えないとねやっぱり。そしたつけたまた、向かいの人かな、土木の関係の仕事の話が入ったんですよ。そしたつけやはりその向かいの方も板前さんやってお店やつた方なんですけど、やはりこうプライドっていうのありますよね。正直今して、私もそうなんですけど、やはりこうね、土方、職業で差別するのは大変失礼なんですけど自分でやつてることと180度違いますよね？正直言つてうちらなんかもやつたこと、高校出てずつとこういう職業だったものですか。ただ私力仕事っていうものが出来ないんですよ。でもまあこのまま遊んでたつてしょうがないなあって思つてたんだよ

なあ。やはり家庭のため、家族がいるからやるしかないのかなあとかつてこうなんていうんですか、そして働いたのかな。仕事はゴミ拾いですよ。ゴミとかやはりスコップを持って泥を掃いたり。そういうのを掃けて、私には苦痛だったんですよ。大げさなんですけど、鍋より重たいものは持ったことない。手なんかにも私は豆なんかつくつたことないよな。寿司屋なんか手が一番大事なものですからそういう汚い仕事とかやりたがらない、だからうちではもうこういう寿司屋っていうのは油ものとかは絶対やりませんから匂いが付きますから。そういうあのちよつとこだわりのうかね寿司握れば寿司の匂いが付きますから、そういうのもやはりあの当時はほんと泥、へドロつていうんですか？そういうのをね、平気であの時は無我夢中だった出来たつていうのはなんなんだろうな。そういうのをやらなければやはりお金が貰えなかつた。今度自分に情けなくなつちゃうんですね、寿司屋を取つたら何もできないつていうこうなんつていうんですかね、そういう、この四十年間つていうのはなんだったんだつてこう、それが自分自身の核となるんですよ。これで一生こういう仕事をやるしかないのかなとかそういうね、そしてやはりこう四、五人グループでこうそういう仕事させられるんですよ。やはりなんていうのかな、考え方がみんなやはり違うんですよ。四、五人おんなじ仕事してると、俺はこのままでいいんだわつてそういう人が多いんですよ。はつきり言つて楽しんで一万以上の賃金貰いますんで、私はそういう考えで全然なかつたもんですから。場所は空港の方、あたりですね。やはりこうごみ拾いなんかこう、瓦礫ですか？瓦礫拾ひしてますよね、あと、自分自身に情けなくなつてくるんですよ。自然とこう涙が出てくるんですよ。うん。それでも家族がいて家族を食わせて行かないとだめだ。仕事は、そういう、格闘ですか？まあね自分の仕事だから、こう嫁にもあまり愚痴こぼさなかつたよな。でもね、自分自身のことですから、やはりね子供三人もいれば子供食わせていかなつてつていう、そういうのがやはりね、

課題だよなおれのな(笑)。こつちからあのね、あの家内の家族、実家からおれのどこにこいつていわれたんですよ。でもそこまで甘えて、そういうのも私あんまり好きじゃないんですね。

正直言ってほんとに慣れてというのは怖いもんです。最初はやはりねそういう仕事してこう自分自身で情けないとか、それが一か月過ぎるとなれってというのはほんとに楽な、楽っていうんですか？ こういうこととして一万以上の賃金をもらって、ほんとにこうこういう生活も悪くないなって気持ちが変わってくるんですね。まあうちらこういう商売した時はあの、金額は入ってきますけど出ていくのも多いんですよ。それがあの、あの当時は入るだけはいるんですね。出ていくっていうことないんですよ。仕入れとか一切ないもんで、だからこういう生活もいいよなってそういう話になったんですよ。当時うちらはもう何十年って盆正月休んだことないんですよ。土曜日曜なんか休んだことないんですね。だからあのね、一年の間もう土曜日曜盆正月休みですよ、だからこういうのもいいよなあってこう、そういう気持ちになったよな。

#### 店を再開しよう

その一方で今度、お店いつやるのっていう話になっちゃうんですよ。だからその時点ではもう店は諦めたんですよ。なんていうんだもうやり終わってこう思ったのな。今度そういう人たちのこう、しよつちゅう電話よこすようになったんですよ。それも地元じゃなく県外のこういろんな沖繩北海道あたりから私たちを探して電話してきてくれるんですよ。で、いろいろ話すとやはり今度いつやるのどこでやるのって話になるんですね。ほんとにあの点でもう、あれほんとはやめると思ってたもんな。もう私はやる気はないんだけど周りでもう盛り上がっちゃって、はつきり言ってるね、家のお金もそんなに持ってないもんで、50過ぎて店またやったらやっていけるかどうかっていうのが一番悩んだよな、店やる時はな。私が18からだから、48年に開業で私で二代目なんですよ。で、店がやりまっす

て話になって周りが盛り上がってるんだもんなあ。後戻りができないように自分で、すつとやはり準備中って書くところ、でこうね、周りの方もやはり「おーやるのか」って、なんてこうなんていうんだこういうのは。元店の敷地に杭を打っていた。若草寿司と。それがインターネットに流されちゃったんですよ。でそれを見た方が結構その問い合わせが、やはりこう子供には弱いところ見せたくない。その反面やはり自分自身が弱くてなんだよね。なんていったらいいのかなあ。ただぜんぶ子供のためかあって。でも子供はそう思っていないところが憎たらしいとこだ(笑 奥さん)。子どもは今ちようど反抗期だし。最初はねえ。店やる時もどうせ誰も助けてくれないうろなって自分自身でやるしかないだろうなって思ったんだけどやはりこう、みんなが協力してくれるんですよ。

#### 仮設住宅

仮設は愛島東部の仮設に、五月ぐらいかな。当時はアパートとかそういうの一切考えられなかったんですよ、もうあの時点で収入がもう途切れたものだから家ら、あの当時借り上げていのはなかったものですから、もうアパート代は払えないね、払えないよなっていうのが一番。親戚の人が心配して、借家探してくれて、結局借りるっていう気にはなれなくてね。仕事を見つけないことにはねしようがないから、ね。仕事見つけても結局アルバイトとだから、いつまでも続くかどうかっていうのも保証がなかったから、安定した仕事があればねえ、そういう面も考えられたんだけども。ほんとに瓦礫とか仕事してた時はつらかったですよ正直言って、だつてやはりああいう土木関係の用語とかいろいろありますよ、うちらそういうの一切わからないですから。そうすると今度年下のお兄ちゃんたちからこんなこともわかんないのかお前って、なんていうんですか。やったことないから全然分かりませんよね？まさかそこでケンカもできないし、まあね、それは割り切るしかないんだな。そういうのは年下の二十歳そこそこの

お兄ちゃんたちもうね。そういうのがやはり一番辛かった。でもね自分が我慢すればね、やはりまあいいことなのかなって。そういうことがあってもやはりお金な。お金なんだよな。真面目に一日働けば日当で一万貰えるっていうこう、それしかなかったんだすね。だから正直言ってやはり一緒に働いた土木会社の社員なんかうちらをはつきり言ってバカにしたと思いますよ。こんなことまでわからないのかおめえって言われて。もうな、俺もな分からないもんね、何十年でこういう職業で土木関係の用語もね、言われたって。だからこういうのがやはりこういつかは見返してやるっていうんですか？この店をやって、そういう気持ちもあつたし。私そういう性格なので叩かれれば叩かれるほど燃えるタイプなんですよ。それでもうやってきたって感じだから俺な。そういう気持ちでやってるものですから、だから人からこう馬鹿にされても何しようが、いつかはお前の上を行ってやるからっていうのでやってきたような感じな。うちらみたいなこう小さいお店っていうのはやはりこう名も知れてないし世間的にもそんなに名の知れてない寿司屋なんですよ。やはり大きな名の知れた店っていうのはなんていうんですかね、お客さんの入りもいいし。うちらみたいなこぢんまりしてるっていうところはやはりこう客入れは、まあ全然ないっていうわけではないんですけども、大手と比べたら全然違うんですよ。それなんかもやはりな、いつかはいつかはって言って頑張ってるんだよな。

でもなんか避難所にいるときから仮設商店街そういうような施設ができるっていう話は聞いてたんだよね、それが、もしできるんだしたら入りたいなって気持ちはあったんだよね。引き渡されたのが鍵貰ったのが2011年12月だったんだよね、二十何日、クリスマスあたりのときに引き渡されたんだけどね、それよりも、秋口あたりですかねそういう、でもなかなか話が進まなくてやつとその時だったんだね。ほんとにこう、あんどきはほんとにこう

人間、なんていうんだ人間、人の付き合いっていうのがこんなに大事なんだなあって思ったよな。だって協力してくれるんですよ。こつちがこう恐縮しちゃったんだなもうな。だからもうそういう人に、なんていうんですかね、そういう人のためにでも頑張りましょうっていう気持ちになってきたんだよな。岐阜の方からたくさん支援を受けたんだよね。もうそれこそ厨房道具から食器から、テーブルもだし。たくさんの方から支援受けて、買ったの少なかつたもんね。その人のためにもやるしかないっていう気持ち、今でもそうなんですよ。「あそここの寿司屋さんだめになったんだ」とかそういうことは絶対言われたくないですから。それだけで今頑張ってる状態だな。このままでいいやっていうんだっただけはつきり言っているんですよ。それ以上にうちらはこう、お店をよくしたいものですから。今でもやはりそういう気持ちが続いてるからな。

#### 頑張っていることをアピールしたい

みんなにだからがんばってますってアピールしたいわけですよ。私はもうここで、なんていうか頑張ってるっていうことを皆さんに伝えたい。いや簡単なんですよ、やはりこうすぐっていうのはテレビ局に電話してテレビ局に来てもらって、そういう、簡単にできることはできるんですよ。それでは意味がないんですね。あいうテレビなんかに出るとはつきり言って一週間ぐらいはお店の方に来てくれるんですよ、でも長続きしないんですね。それやはり一回来てもらって、それを気にいってもらって何回も何回も来てもらうっていうのがうちの営業の在り方なんだな。だからもう店のお客さんでも何十年の付き合いの方が結構いるんですね、長男が生まれ、長男はたちかな、生まれる前から来る方がもうずいぶんいるよな。そういうお客さんっていうかそういう人を大切にしたいですね。だからもう家族と一緒になんですわ。そういう営業でやってきたものだ

やはり今は頑張れば頑張るほど、頑張った見返りもあるんですよ。まあ今はそういう、震災に被災者ってなったからってそれもあると私は思ってるんですよ、でもやはり頑張れば頑張るなりこう、お客さんが来てくれるとか、来てもらってもやっぱりうちら商売っていうのではないんだよね。してもらったからやはりお金は、なんていうんですかね、寿司の値段設定を高くしたりっていうのもそういうのも嫌いなんですね。だから来て食べてもらって、「おいしかったまた何年後には必ず来るからね」ってそういうのがやはり言われるのが私は嬉しいんですよ。やはりそういう方っていうのはやはりいらっしやるんですね。だから結構女の子一人でいらっしやるとか来てくれるとかそういう方多いよな。

商売ではないんだなうちはな、来てもらって笑顔を、なんていうんですかね、でまあまた来たいよねって言うって、って今度来ますよね。するとうちらのほうがかう嬉しくなるんだよね。そういう感じで、震災前もそうだったけどな、そういうスタイルでやってたんだよね俺らな。まあ家はいつかは立てなくちゃだめだっていうのはやはりあるんですけど。それだけうちは頑張ってるっていう人以上に頑張ってるんですよ。正直言って。私毎日朝五時半に起きて、仕入れは仙台の中央市場っていうとこ。でね、今は女の方一人手伝い来ていただいでるけどその来る前は二人きりでやってたから、もうてんでこまいなんですよ。だからそういうのをなあ人を頼まないで頑張ってきたからな、二人でな。

#### これからのこと

正直言って私は戻りたいですよ。でも家内は戻りたくありません。子どもも戻りたくない。やっぱりあそここの場所に住むのは考えちゃいますもんね(奥さん)。ただやはりね、あそここの市場の斜め向かいなんですけど、どうしても早いうちに親が苦勞して苦勞してようやく手に入れた土地なんですよ。埋め立ての土地。ど

うしてもやはり親が苦勞してようやく手に入れた土地なものですから、私は手放したくない。だからその葛藤なんです。どうしてもやはりね親を見るものですから。両親はもうなくなりました。

戻る人数が少なければ行って商売できるかどうかっていうのもわからないですよ。人がいるところでの商売なので。そういうのもあるから余計ね。だから私としては閑上以外のお店を構えてほしいなっていうのもあるんだけど実際にそういう風になるとなると相当お金が必要なんですよね、それを考えるとちよつとそれも無理なかなって、ねそういうところが今悩んでるところなんです(奥さん)。たとえばこのへん(ゆりあげ再会市場)にそれを求めるとなるとけっこうな金額になっちゃうんですよ。だから私としてみればもうここで何年やれるかわからない、一応5年って決められてるんですけど。ここでもう最後にしたいなって気持ちもあるんですよ、だからここでもう体力とか全部使い果たして。一応ここ5年って、5年が10年に延びたとしてもはたして十年間今の状況が続くかっていうとそうではないと思うんですよやはりね、復興も決まればまた変わってくるだろうし、さいかい市場の出入りも出てくるとなると雰囲気も変わってくるし建物も古くなってくるし5年が10年になったところで長くできるかっていうと、たぶん今みたいな状況は続かないと思うね。それを考えればやっぱりどっか早いうちにお店を構えて、すこしでも早く借金を返せばいいのになあって私は思うんですけど、でも結局実際どっか建てようかって思った時点でちよつと今の状況ではねなかなかそれも難しく。二人ともあの借金とかそういうのあんまり好きでないんですよ。息子は息子の人生があるもんで、だからうちらは子供には迷惑をかけたくないっていうのが本音なんです(奥さん)。正直言って息子の名前を借りてまあお金を借りて、で、店を立てましょうって言ったらできることはできるんですよ、そ

こまでしたくないんですね。

長男は一応あの仮設のあれを二つ借りてるんですよ。で、長男一人であと四人で、でも長男もう大学で、学校に近いところにアパートを借りているので、2、2ぐらいに分けようと思えば別れるけどまだ小さいので、まだ中学校に上がったばかりでまだ一人で、震災の影響もあると思うんですけど、一人でいたがらないんですよ。なんかやつぱり死に直面してるのを見てるからかなのかもしれないだからそういう面がやつぱり怖い部分がどっか子供の面でどっかあるのかなって思うんですけど、とにかく一人で部屋によりね、寝られないんですよ。まずねられない。中学校に入ったけど一人で寝ることができないのねまだね。まだ二人で寝てくれればいいのになって思うんだけどね、そういうなんかまだなんかそういうのがあるんじゃないかなって。

### 閑上の良いところ

閑上の良いところってやはり人間関係じゃないですか？私はやはり人が人の付き合いがいいと。ただうちらとしてみればそういう頼り、店自体の頼り、頼りになってる方、なった方がみんなこういなくなっただんですよ、亡くなったんですねそれがうちらが一番あれかな、そういう人を頼りにしてみないなくなっただん、口は荒いんだけどいろいろアドバイスとか。そういう人がみんな亡くなっただんですよ。うちらとしてみれば商売上の相談っていうのがあまりする人がいなくなっただ、そういうサラリーマンの人に相談してもなにもならないですから、そういう商売上のなんというんですか、そういう人に相談すると一番早いですよ、気持ちも分かってくれるし、それをやはり同業者とか、そういうのに相談してやはりこう、相談にもならないんですね。ましてや年下のやつに相談しても何もならない。だからいまほんとにこう経営アドバイザー的な方紹介ちょっとされたんですけど、そういう方にこういろいろアドバイスをいただいて、そういうのが一番あ

れかないまな。商売上の相談相手がなくなっただっていうんですか？これなんかもいいタイミングでそういう活動と知り合ったから、ね、やはり経営、なんていうんですかねアドバイザーって言うような仕事してるんでしょあの人。わからないことはいつでも聞いてくださいって現れたものですか。

悪いところ(笑)いいところもわるいところも結局一緒なんですけどもね、人とかかわりが深いですよね閑上はね、それがいい時と悪い時とあるんじゃないですか？(笑)でも別に悪い思いはあんまりしてないので、結構お互いにね助け合いながらやってきてね。避難所にいたところから助け合い、ほんとにももの分かち合ってたな、結構やはりじぶんだけもらいましょうっていうんじゃないで自分がもらったらほかの人にみんなこうくばって、みんな一緒に食べましょうって気持ちなんですな閑上の方っていうのは。なんでもそうだったよな避難所の時な、独り占めをしないと。子供なんか今でも避難所暮らしたのしかたってたな(奥さん)

でもほんとに人間関係っていうのはほんとにこう震災になってようやく一年過ぎて落ち着いて、そうすつとやはりこう震災前のこうほんとに店の雰囲気っていうのが全然今できてるな、やはりこうまえからいらっしやって家族でこう家族の付き合いっていう感じの客さんが来てくれるよな、それがやはり俺は嬉しいんですよ。ほんとに会うともう涙流して手握ってこられたりするからねこつちがもうやつぱり、ここにきて涙流して、女の子なんか泣いていくんですよ、「よく頑張ったね助かったね」とかって、やはりうちらそういうの。一回とかしか来たことなかったような人が言うんですよだからうちらやはり一回しか来たことないからわかんないんですね。そういうのやはりうれしいことなんですよ。

被災した人の顔を見てスイッチが入る。朝市を始める。

元関上四丁目

### 地震の時は

ちよūd子ども卒園式だったんですよ。それで、卒園式の後午後1時から場所を移動して公民館で謝恩会をやりまして、1時から2時までです。たまたま2時から後片付けをしまして、2時半までやりました。ちよūtと30分だけ手伝って工場に戻ろうと2時半に、公民館を出ました、そのとき子供の友達が、一緒に遊びに行くということ、車に乗って、私の家まで来て、二階で遊ぶっていうことで、二階に子供二人あがって、私ちよūtと自宅でじゃあ工場へ行こうかなって、隣が工場だったもんで、その時にドーンときまして。えっと思つて、二階に走つて行つて、子供二人ベツドの下に隠したんですけどもうなんかこうジャンプする感じになつて、その時に感じたのは「うちが壊れる」と思つたんです。で、子ども首根っこ掴まえて二階から階段下りたら下もテレビは壊れるは、金魚鉢はぐちゃぐちゃ状態で、うーんそれを足でけりながら外に道路に出してその時には工場に三人のおばちゃんいたんですけど、道路に這いつくばつた感じで三人とも泣いてる状況でした。それとにかく家に帰れという風に言つて、あとおふくろがまだ家にいたので、引きずり出して、そのまずその時考えたのはその、預かつた子供を返さなくちゃいけないって頭があつたもんで、だから避難するとかそういう頭はなかつたんだけどちよūtと異常な感じがしたので、最悪の場合は妹がゆりが丘に住んでたもんですから最悪はゆりが丘にいかなくちゃならないだろうと思つたので、おふくろ車に乗せて、公民館に向かいました。公民館に向かう途中あの時はもう道路が割れてたりとか、まあ車は走れましたけど、道路が割れててあと水がピューピューピュー出てて、まあそんな時見たのはその町内会長が道路とか見てて、近所の人たちがみんな家から出てて、まあ道路の歩道のところでみんな心配そうに見てたのをゆつくりこ

う走りながら公民館に向かいました。

### 何言っているんだという顔をされた

そのときその時間が2時、3時前後だと思えますね。降ろして子どもを預けて、で車に戻ったら10メートルってラジオ聞いたもんで、ちよūtと10メートル、二桁って今まで聞いたことないなって思つて、そこで車止まりながら、その止めたまんまずっとラジオを聞いてたら岩手、宮城、福島と来たっていうね。10メートルの津波、ちよūtとやばいかなって思つて、その時に窓を開けて、200人ぐらいいたと思うんだけどな、10メートルの津波来るからもう逃げろ。ということ、三回ほどおっきい声で外に向かって騒いだんですけど。その時はあの、「この馬鹿何言ってるんだ」って顔されちゃってね。まあ、そのとき自分相当危機感感じたんですよ。だから「逃げろ！」っていうふうに大きい声で騒いだんですけど、誰一人反応した人はいなかつたですね。「えーくそ！」って思つて何言つたってわからなくなつて思つてもう一回車出したんですけど、ちよūtとまた気になつてまた止めて、「とにかく車に戻つてラジオ聞け」と二回ほど言つて、そんなときも反応なかつたんですけど、子どもを帰したその幼稚園のPTAの会長のお母さんは私の声を聴いて、車に戻つて、ヤバいと思つて子どもを乗せて自宅に帰つて、中学生の娘を乗せて小学校に避難したと。私は消防署があつたところから、火葬場、斎場のところと道路を走つて、右に折れて、あとあの美田園方面に行つてイオンモールのところから左に抜けて田圃道をずっと岩沼方面に行つて、空港につながるあのバイパスの大きい橋、あそこに車ずっと止まつて、あとちよūtとやっぱり渋滞状況になつて、それでもこの間揺れてました車。「あー大丈夫かな」って思つて、まあなんとか抜けられて、愛島の方に行つて、山道を行つてゆりが丘の妹のうちに着いたっていうところがその日でした。まあ妹の家で電気もなかつたのでとりあえずろうそくで、まああと冷蔵庫とかにはちやんと食べ物もあつたんで、そこで水が来なくなつて、おーって

思つて、とりあえずラジオずつと聞きながら、やってみましたけど名取の情報は全然なかったですね。

### スイッチが入る 三月二十日に朝市

次の日行つた避難所で周囲の人が「今日はパン一個だ」なんて言つて、「明日は？」言つたつて、「ああおにぎりかパン一個ぐらいだ」つていうことで、それでちよつと、スイッチが入つちやつて、「いやいや朝市この人たちに三十何年間も食わせてもらつたんだなあ」つて思つて、それで中学校の屋上から見た人は、「こつちはなんにもないよ」つて言つて、「えっなんにもないよつてどういふことだ」つて言つたら、「何にもない」つていうわけ、「朝市とかは」つて「全部流されて何も無い」つて「俺んちこのへんなんだけど」「あああのへんも全部何もないから」「えっ!？」つて話になつて、まあちよつと朝市がどうのこうのつてもう何年やれるかやれないかもわからないし、組合がもう諦めたつて言えばそれで解散しなくちやいけないなど、いふふうな頭もちよつとよぎつたんですけど、「この人たちにお世話になつたからなんとかしてやらなくちや」つて思つて、たまたま組合に金があつたもんで、「15日の朝バイク出して、仙台の中央市場に行つて、中央市場ももうぐちやぐちや状態で、従業員も何も働ける状態じゃないし、もう通勤できない状況で、できる人だけが来て、あとその荷物がその商売できる状況じゃなくて、いわゆる、金曜日だったので、本来であれば土曜日に魚来るものも交通遮断されてきてないという状況になつてまして。ところが金曜日に仙台から各東北の地区に出荷する品物が全部止まつてしまつたので、いやこれはあれだなつて思つてとにかく買い、すぐ食べられるやつ、火とか必要ないカマボコとか、あとその珍味類だとかさういふのあの全部買いまくつて、買つたのはいいけどトラックがないんだなつて思つたけど、その問屋さんもトラック結構持つてたんだけど、「当分一か月ぐらいは商売無理だろうから、使つても十何台使うとかはないから、いいよ使つて」つてこと言われたんで、そこに積み

込んで、それでまた全部館腰小学校に持つていきました。全部荷物降ろして、そこにおいた荷物であと、その次に配つたりして、あとその次の日からあと、文化会館と、あと保健センターと、名取北高と、増田中学校と、増田小学校を回りますして、品物を置いていくようにずつとしました。で、一週間ぐらいたつてからかな、名取一中、二中、増田西小学校つていふのかな、そこにも品物回すようにして、まあそこらぐるぐる配達とにかく仙台市場行つて買付して。毎日行つてあと知り合いかとかつていふことで、高館の農家で米少し貰つてくかつていふことで米買いに行つたりとか、山形のうちの組合員で蕎麦、乾麺やつてるとこあるんで、とにかく乾麺全部買うつて言うことで「出さないでくれ」つて言つて。

人のためとかなんとかじゃなくて、ただ、体育館の館腰小学校の体育館の中のろうそくで見た、朝市に買いに来たおやじどとか、この人たちに俺食わせてもらつてたんだなつて思つたんで、なんとかしなくちやいけないなつていふ、ことだけなんですよ。3月20日何日に朝市やつたのはたまたま一回こつきりでもいいと思つたんです。ただ、街中つていふか名取市中が困つてるんであれば、なんとか、今まで商売してたそのルートとかさういふのを利用して、なんでもとにかく値段はどうあれ食べ物だけは集めてまあ少しでも供給したいつていふ、ボランティア精神とかさういふの全然頭になかつたしね、まあそれだけでした。で、3月17日にやつたら、お客さんいっぱい来てくれて、もう商売にはならなかつたですね。ありがとも言えなかつたですね。握手されまして、「がんばれよ」とか言われてもほとんどみんな泣きっぱなしでしたね。とかつてああやつと終わつたつて品物は売りました。まあ売つたつてほとんど赤字ですけどね。

### 仮設住宅に

1か月だけはゆりが丘にいて、そのあとは上余田の一軒家を姉と一緒に借りて、ちよつとマンションに移つたんです。大町の。大町

のマンションに行ったらうちの母が80歳過ぎでマンションに籠もりきりになってなんか、おかしくなっちゃって、仮設住宅に行きたいつて話になって、まあそれでまた引越して、仮設住宅空くの三カ月待って、愛島東部にやっと入れたという状況でした。

まああとその間はずっとにかく朝市を復興するしかないもんで、それから、まあとりあえず9月いっぱいまで話があったので、イオンモールが三階まで全部直るのが9月いっぱいということだったものですから、どこでやるうってもうその代替地、ここを貸してくれという話をしたら、ダメだって断られたりとか、あっちこっち途中借りると色々探したりとかしよっちゃゅうしてたんですけどね。なかなか見つからなくて。結局うまくいってイオンモールに朝市は2013年の4月、丸々二年ですね。ただで貸してもらいました。挙句の果てに近くに仮設トイレまで用意してもらって。

### 関上朝市を海辺で

去年の10月なんですけども、住民説明会みたいなのが文化会館であつて、大揉めに揉めたときに、夜11時過ぎかな終わったの。そのあとちよつと話があるからついで舞台裏に呼ばれて、「何の話かな」つて思ったら、「実はカナダからこういう話があるんだ」つていう話になって、「ええー」つてなつて、受けるかつて言われたから受けると。上下水道通してくれるのかつて言つたつてすぐやると。すぐ受けるつていう話になって、今まではここ貸してくれいうふうで、話にならなかつたんですけど、カナダの方から聞くつてなつて、それで即市の方がオッケーしてくれて、そうすると土地が、土地の確保が出来たつていうことで県にも補助金申請やりまして、今工事してるところがその県の補助金、グループ補助金でやる、そつちに三棟建てますけど、まあやつてまして、カナダとはなんの縁もなかつたんですけど。

### 名取市の復興のこと

名取市を別にまとめようとはしなかつたんです。ただあまりにも

その、同じ町で色んな団体、批判のし合いだったり、自分だけ主張して批判して、人の主張を聞かないとかつていうことがずっと続いたもんで、まず確実に確かなことは一人一人が、状況が違つと。家族亡くなつてないのもあるし、死んだ人もいるし、家族、あと住宅ローンを残したまま亡くなつちやつた人もいるし、地震保険に入つてるつていうと保証できる人もいるし、一人一人全部違うわけなんです。だからただし被災した住民として、ここだけはまとまつて要求できるつていうのが必ずあるはずなんですけどね。

### 今後は

関上に、換地してもらつた土地で住むしかありません。津波来たら逃げればいいつていう頭で。前回の津波でもその逃げたんで助かつたつてイメージがあるんで、まあ避難所に行つて、家族を亡くした人にはそういうようなイメージはおそらく絶対湧かないと思うんですけど、逃げたもんでそういうイメージ簡単に湧くんで、どこに住んでも来たら逃げればいいと、次回はちゃんと地震保険津波保険はあれば何も問題ないなつて思つてますので、もうちよつと感情的なものが落ち着いたので、ゆつくりその街の人間と話し合ひできるんじゃないかな、つて思うんですけどね。だからアンケート調査ももつともつと突つ込んだ話し合ひとか、あの、やつぱり一番大事なことはどつちが得するとか経済的な面でもうきちつと説明しないとだめだつたんですよ。それがその感情論だのおつかないどうのこうの。それも大事ですよ。道路がどうのこうの、大事ですよ。でもやはり、この国の税金百パーセント使つて今まで住んでた土地の価値を、あげることができるとつていうのは大きいメリットですよ。市も仙台と空港の間なんです。南三陸町じゃないんですよ。街を大きくするする大きなチャンスだつたんですよ。何処に住んだつて自分が土地を持つてれば坪十万のやつが15万20万になる可能性があるんですよ、そういうことをきちつとやつぱり説明してやればもつともつといい街できたんですけど、まあ最初からボタンのかけ違い

とかね、まったくね。これは我々ほんとに有権者が悪いことはもうしょうがないだけだね。もともとやっぱりの職員とか行政をうまく使い、なんていうんですかね、その知恵っていうのを住民が持たなくちゃいけないって思いますよね。簡単なんですよ市役所の悪口言うのは。それは何にも進まないですよ。少しでもやっぱり優秀なやつとその気になつてる奴らを育て上げなくちゃいけないし、行政の在り方をきちきちを市会議員だけに任せるんじゃないかと、やっぱり普通の民間でやっぱりいろんな人を集めながらいろんな話をしていかななくちゃいけないって言うふうには思いますね。

### 閑上の良いところ

閑上の良いところって言うのは、なんですかね環境ですね、松林無くなつちやつたけど、この広いあと貞山堀は何としても観光地として残しておきたいと、いうことですね。あとやっぱり気候がいい。内陸の方は暑いですね、ここは涼しいもん。だってほとんどクーラーいらなかったもん閑上では。暖房もそんなにいらなかったですからね。海が近いってことは海水の温度であれですからそんなに寒くないし、雪降つてもすぐ溶けるし、環境だけだな。人間関係はあんまりよくないなあ。いや人間関係というよりも、衰退する街の典型的な例なんですよ。漁業が衰退してきて当然ここに住んでる人は閑上出身の人間多くて仙台に働きに来る。そういう人たちは町の色んな催しには参加できない。参加できる人はお年寄りとか閑上出身だけど公務員とかそういう風な安定的な仕事した人とか引退した人たちがやるということで、どうしてもその若い人たちの一体感が出来ないと、色んな子供が神輿とかやるけどある程度固まった人たちだけしかやらないということ、あの、住んでる人間の大半があので元産業じゃない人が多くなったので、ある程度街として形成されているので、やっぱりそのいい意味でのその都会型、きちつとした話し合いをするだとかっていうふうなね、やり方を取れなかったんだね。年寄りのそのまとめ役がいて、長老がいてね、今回

の津波でこれがダメだったってことがはっきりしたわけですよ。だからこれからはメールとかパソコンとかのねネットの社会なんでやっぱり町の住民の中心って言うのは60代とか70代の専業主婦がやらないと、絶対だめですよ。連絡取れないだもんだってメールとか携帯で。60、70代でやるから若いのついてこないんだから。60、70代のいっぱい専業主婦じゃないとだめだねやっぱりね、そういう人たちを選んでその人たちがうまく街の人間関係を作つて、母ちゃん同士がうまく行けば男なんてみんな言うこと聞きますよ。だから、そういうふうな方向でやっぱりやつて行かなくちゃいけないっていうことと、あと商店街もシャッター通りになるにもかかわらずイベントばっかして、イベントで儲けた金で飲み会ばかりしたんですよ。これは閑上だけじゃないんです。山形の魚屋に聞いたけどみんなそうだって言うわけ、消防団も、ね。結局その活動ちよこちよこつては練習はしてたんだけど、もうなくなつてこんなこと言いたくないんだけど、現実として、あの遊び半分みたいな、あの訓練して結局飲み会なんです。よく話聞くと消防団詰め所で飲み会して間違つてサイレン鳴らして、集まつて「いやいやいやごめん鳴らしちゃった」なんて言つて皆で笑いごとで済んでたんです。そういう風な消防団だったんです。日本全国そうなんですよ、で、年に一回研修と称して国内旅行行つて、二泊三日行つて、一か所だけ見て、あとは夜はキャバレーかなんか行つて、もうどんちゃん騒ぎする。これが日本の、消防団の実態なんです。それを悪いとは言いません。でもこれからちよつと変えてかないとまずいですね。みんなそうだからなんか変わるなって思ったんだけど、変わらないね。みんな戻っちゃったね皆ね。

だからまあほんとね、街は変えるためには、専業主婦のしつかりした女性グループを主体としなきゃいけないなど。お年寄りとか男とかはそういう人たちを支えていける恰好したほうが町がスムーズにいくし、防災に関したつて、機動力とかにも使えるし、機能も果

たせるし、やっぱりネットとかパソコン動かせるのは女の方強いから、主婦の方がね、それをうまくやっていかなくちやいけないなど思ってたんだけどなかなかちよつと俺の方関われないし。

### 朝市のこれから

朝市の方これからっていうのは、やっぱりあの、基本的にはあと三年は人が住まないと思うことがまず最初であって、やっぱり閑上っていうのは昔は魚水揚げあったのでやっぱり魚を食べる文化があったので、ちりぢりになっちゃったんだけど。その文化を継承していききたいということ。あと今度、8月2日、温麺出るあれするんですけど、昔食ってたんだよね温麺汁ね。そういう味でまあうちは干しシイタケとか油揚げとか豆腐だとかあとおくずかけていってあんかけにしたやつうちは食べなかつたけど、他では県南の食文化としては白石温麺の温麺汁、あのお盆には結構食つてたりあと昔お葬式っていうのは自宅でやつたもんですから、そこに行つてお膳出ると大体油揚げの煮たやつと、温麺汁が結構出たので、なんとかあの温麺汁飲む、そういう県南のソウルフードみたいな感じで、そんなにめっちゃくちやうまいもんじゃないけど、昔から食つたものつていうのは残しておきたいなど。それがなんか閑上とか被災した地区を将来によつても思い出すようなきつかけにしたいし、あとやっぱりじいちゃんとかばあちゃんたちが作つた料理とか結構ここにいっぱいあるんでそういうやつも残していきたいし、やっぱり食以外に文化あったのかなつて思う位なんだけど、俺が考えるのはその大したうまい料理とかそういうのじゃなくて、昔から食つた料理つて言うのをどんどん掘り起こして行って、その発信基地にしていきたいなという風に思ってます。

なぜか公民館には避難しなかった

※本人は2013年夏にお亡くなりになっています。ご夫人にインタビューして記録を作成したところご主人の方がきちんと話していたから「ちらを使ってお下さいとの申し出がありました。この体験談は、記録映像集「連作 閑上録」(制作：細谷修平・砂連尾理、協力：名取市文化会館)の発言内容のテキストを「E」がついにちをわすれないためにセンター(せんだいメディアテーク)から提供を受け、編集者がその内容を一部修正・加筆したものです。

## 地震当日

震災当日、3月11日、店で仕事をしてたんです。花屋なんですけど、その中で不祝儀の花って、亡くなったところに花を届けて。前日に届けて、そしてまた注文もらって、店開けて仕事始めつかなってときに起こったの、1回目の揺れは。そして蘭系統をね、倒れたから拾って、使えつかなって思って1回拾って器に戻して。で、仕事を始めたところなんです。ところが2回目は、そういう拾うとか、なんていうかも立ってられなくて、たぶんもう家つぶれんじゃないかなと、店も。だめかなっていうぐらいの揺れだったのね。外にちよつと出たら店の端の方のマンホールから水、噴出してたわけさ。それは、え！これはさつてすごいもう定かじやないなっていう感じだね。いままで私も経験したことがない、身体で感じたから。それでとりあえずもう女房と2人でいたから、逃げようと。女房はね、普通一般的にはさ、家に帰ってね、位牌持つとかさバッグ持つとかいうのあるんだけど、俺はいいつつたの。とにかく逃げるからつつつて。で、車2台で女房の方が早く行って俺がケツからトラックで追いかけるような感じで行ったのね。一応閑上の避難所というのが閑上公民館、中学校、小学校、あとはちよつとあるけれども(津波)大きいので高さがあるのはそれぐらいちゅうか。女房がウインカー上げて公民館に曲がろうとしたのね。で、俺は駄目だったのさ。後ろからクラクション鳴らしてね。私クラクション鳴らしたの。私はなぜかこう避難するんだったら小学校までと頭にあつ

たわけさ。これも親の教えかこう昔からなぜかこう身体で感じたっていう話なんです。今度、中学校に曲がろうとしたの、中学校曲がってしまったのね。私もくつついて行って。やっぱ私があればまっすぐ行つてるともう駄目だったの。一緒にして校庭でぐりつと二人して回したの。どんどん入ってくんだよ。そこから行って小学校まで行って。小学校まで行って若干、増田の方に市役所の方に向かう道路がね、ちよつと混んでたかなと思つたんですけども、裏から入って行って。お母さんとはかくこつちにいると、私はちよつと実家みてくつからと。その時にね店でラジオかけたときにね、3時40分っていうのが言葉で耳に入ったの、ラジオかけてすぐに。だから、これはどこだかわかんねえよ、石巻だか仙台港だか閑上だかもわかんねえけども、3時40分と。そのラジオの中で3時40分というのだけ頭に入ったから。その中で今度行って、ちよつと時間あるんだと思つたから実家を回ってきて。そしたらうちの娘がね、児童センターに子供頼んでんだつしや。行つたつしやもう駄目だつて、壊れて今日はもう駄目だつて。たまたまだから実家を見に行つて、みんな避難したなど、幼稚園は卒園式で若い人たちがいたから。ちよつとお姉さんが足不自由だから、なかなか難しいと思つたんだけどもつしや、そんなかどう行つて、娘を拾ってきたと。下の野郎っ子は休みで、免許書換えに行つたのつしや。で、地震を、バイパスあたりでなつて、そんで閑上に向かつてきたんだつて。ところが、なぜか恐ろしくなつたつて、閑上向かつて。それでUターンして、市役所まで戻ってきたつていう感じなんです。だからなんて言うかな、動物的感つていうか、まあインスピレーションまではいかなくても、とにかく恐ろしいと。肌で感じる、そういうこう思いがあったんでね。だから下の子供も逃げたと。何も連絡してないので、そんなか娘を拾つてね。3階に上がつていったんです。その中でね、一瞬だけ、プールサイドあるでしょ小学校の。そこね2尺、60センチぐらい高いんですよ、サイズがこうずーっと。そうすると

車1台乗つけられるとこにあったのね。そこに一瞬置こうかなって考えたの、3秒くらい。ここに止めようかなって。そうすると津波来たってだいじよぶだべなど。でも、あとでこなかったらね、なんで花屋さんの車、1台こんななってんのよって、ほら言われてもあれだなと思って、普通に校庭において3階までのぼって。3分くらいできた。それが、津波って我々が小さいときから来てるのね、閑上にもね。でも漁師の子供でねえから、あんまりこ深く見てないわけさ。だから川をこ上したのもチリ地震、いまから30、40年ぐらい前かな、その時も見たって名取川だから上がっても1メートルぐらいで大して。堤防が高いからね、ほんと感じなかったんですけども。そんななかでこう、どんって10何メートル、高さがね、ずーっとこういう縦に壁が寄ってくるような。最初真つ黒にこうがーっとなってるつしや。真黒くなったって、そしたら津波がぼんとこ縦になってきたっていうような感じがあったわけね。それには船から車から家から全部のってきつから。そんで一瞬ずーっとしてるうちに水かさが増えて、もう車がちやがちやって流されてもう。アニメの世界っていうか、嘘っていうか。あのね、何とも言葉出ないし、よく模型でゴジラとかねえ、そういう中で潰したりね、やってる感じすつけれども、そういう感じ。あの車もちよごちよごちよごちよって流れていって、すっかり見えなくなつたし。女房の車はちよつと高級なのかな、浮いてしばらくずーつと回って学校の前にいったと。トラックはやっぱし気密がねえのかな、水すぐ入って、あまりこ動かなかつた。避難所に行ったときに、「花屋さんよかつたね、車助かつた」って、ほら外傷ねえから。みんなぼこぼこついたり、ガラス割れたりあるんだけど。その中でこうやってきたわけね。それがどうかなっていう、初めての経験で初めて見て何これっていうか。自然っていうか、もう見てらんなかったな。道路にもほら小学校の前にこ止まって、たぶん運転してる人とも津波見たんだね、そんなときちょうど渋滞してたから。そんで

学校に走ってギリギリセーフだったですよね。あとね、子供たちも小学校で体育館に避難させてたんだね。それも、私登ったから、ほんとに1分2分くらい前かな。先生がなんだかトイレトパーパーないから行ってたぶん情報入ったと思うんだよ。それで体育館でなにこれっていうことで体育館から校庭をまっしぐら、校舎まで。それもギリギリ。あれが一瞬遅れたら、体育館も駄目だし、子供たちもやられたのかな。だからもうねえ、1分2分の生死をわけたことだったなと思って。いろんな話も聞いてもね。

#### 避難所へ

その日は一晩小学校に泊まって。音楽室に1台ストーブあったんですよ。それは年配の方に。ちよつと寒かったからね、雪も降ってきたし。屋上に上げるって、雪降ってきて寒くて。教室ちよつと寒かったからつって、音楽室の楽器室も寒かったんだけど、そこにはちよつと。と、今度、小学校の先生がトイレトパーパーからロール紙とか、カーテンとかなんだかだぶん引っぱって取ってきたんだか。これ使つてねつって置いてつてね、それさ包まつてね。

#### 避難所を移動

館腰は次の日。次の日ね、「このバスは一中に向かいます」っていう最初の話ね。私は一中に行くのかなって思ってたんです。ところがバイパス走ってきたら、ずいぶん南さ行くんですよ。どこでターンスんかなって思つて、一中は越したちやなって。今度また連絡があれだったんだね、「館腰小学校に入ります」って、そこから歩かせらつたんです。当初ね、避難所には一千人以上。12日のときは、体育館がもう体体くつつくくらい。2日目に800人くらいになったのかな。みんな親戚とか実家とかに行つて。そこではね、2週間くらいかな。今度、校舎も借りれるようになって、それで半分半分。子供たちは校舎の方が暖かいということで。我々は体育館で。大体、400の350くらい。校舎がね、350くらい、

我々体育館の方が400くらいで。

### 避難所で自治会長に

館腰小学校の自治会長っていうかたちで、うちの避難所に来たのが、市役所のね、職員たちがすごく優秀な人たちであってね。まあみんな仕事して当然のことでわかんじよ。運営委員会を作らないとうまくないっていう指導があったらしいんです。私いなくて、4日、5日かな、集められて何か決められたんです。そのときにだから、重大な役職を取ったとかそういう感覚は全然ないの。OKも出した覚えもないの。なんだかこう話していくうちに、「会長なつてくれる？どないっちゃ」つうね、返事もしねえんで、だからこれから400人800人をどうすつかつていうことも考えなかったの。でもなんだかそういう風に成り行きでなつてしまつて。いろいろこう。

うちの避難所が1番、運営委員会として立ち上がるのに早かったの。NPOさんあんですけども。北九州かな、〇〇先生っていう医者先生の先生がいるんですけども、それがスーダンに行つて、たまたま帰つてきてその地震を知つて、たまたまうちの避難所に入ったわけなのね。で、その中で会長としていろいろやつたけども。当時、寒かったし、体育館開けとくにも開けとけないし、換気が悪いとかね。もう座つてるばつたかだからエコノミー症候群があるとか。どうしましょうかつつうことで、ラジオ体操、朝に。ラジオ体操終わったら、戸を開けて掃除しようっていう。あとはその辺こう歩いたりね。無理になにも全員歩けとかじゃなくて、行くよーつて歩いて、だんだん少しずつ増えてね。ラジオ体操は全員。時間、8時半だったかや。テープ持つてきて、スタツプが来るんです。最初、えーラジオ体操か？やつて思ったんだけど、でもやつてみるとラジオ体操操つてすごいんだね。全身にこういう運動になるね。全部動かすんだ、やつぱしね。その中でやつぱし自律神経が出てきて、少し安定したかなつていう場面は見たね。それで片づけて、今度、掃除したり。雑巾で、掃いて拭いて、トイレ掃除もして。その前には

暗幕をこう開けて。もう寝てるのにガーガーってカーテンさ引つぱつてさ、暗幕開けると明るいでしょ、うわあ、まだ早いのにつてさ。

うちの方はね、何かつていうとあんまり壁をつくんなかつた。段ボールとかに關して

ボランティアさんも来たんだけど、断つた。ただ、少しは貰つた。あの出入り口の大きな戸のときだけ。風、少しでもやわらぐように。だけど高くしなかつた。ほんのちよつと。自分の荷物が、もう着の身着のままだから何にもないに、いろんな応援もらつて、物資入つてきたときに。そしたら少し荷物増えつから、そんなかで自分のエリア。うちの方はね、三家族がちようどこうして、この脇はなくて後ろの家族との塀だけ。それがね、かえつて目が届いたつていうか。だからステージに上がれば、だいたい全部見えたし。私個人が好きじゃないから。だから言つた言葉はね、まあ1つの大家族だからつていうことで、最初ね、しゃべつた記憶があるんですよ。

なんだかわかんねえけど。だから要するにみんなしてね、家族中過ごさないとうまくないからつて、こういうときだから。そんな偉そうなこと言つた覚えもねえんだけど。だからやつぱし、いろんな話でくるし、いろんな問題でくるし、それがいがつたの。あとまあ市役所のね、先生方つていうか職員たちもいがつたし。私たちの2番手、役員さんがいかつた。で、毎日、運営委員会。運営委員会終わつて、今度、班長をつくつて。運営委員会終わつたら班長会と。市役所の職員がね、いろんな持つてくるでしょ、今度そんでうまくいかないからまとめておけとかつてして。いろんな応援、たとえば歌聴かせつとか民謡聴かせつとかあれば、踊りみせつからつて言えば、ちゃんと入れて。ダブねえようにしつていた方がいいよつてお願いして。そんなかで応援もらつたところに入つていくから、誰が電話取つても、「あ、駄目です、この日は入つてますけどもどうしますか？」つて、また後日とか。それ終わつてからいつするかとか、調整はいくらでもできた。

## みんな協力し合えた

みんな経験がないことだけでも、まあ1つの家族になるってことで、いろんな思いがあつたんでしょね。なんでまとまったかつていうのも、1つは、食事。最初はね、パンだったんです。パン並んでずーっと。はいはいって役員さんが配って。牛乳あると牛乳も1本だよ今日はと。ずーっといったのね。自衛隊さんが入ってきて、炊き出ししてもらったようになったの。そんなかでみんな喜んだわけさ。パンばっかで。特に年配の方はご飯食べれるって。あつたかいご飯でしょ。で、何もないからおにぎりを握ろうと。おにぎり握るのに、とにかく女性は出ると。何人か、班長から2人出ると。で、学校、校舎側も出もらったのね。そうすると女性がおにぎり握るんだって来るでしょ。もう大きさ違うし、自分の感覚で違うでしょ、おにぎりって。そんなかで、ずーっと並ばせて、もちろんグローブしてサランラップかけて。何もないのって、何もねえって入れんのさ。(笑) ちよこつと塩だけつけて握らせたの。最初ね、みんな一生懸命握るっちゃ。数足らないと、どうしても伸ばさないと駄目なのよ。俺この通り声高けえからさ、「駄目！こつち400のこつち350だから全然足んない」っていうとき、今度それをこう伸ばすのね。一回握ったおにぎりを少しづつ取って。最初でもね、女の人もびつくりしたと思うんだ。「えーこの人、何考えてんだよ」って思ってた。だって足んねえと行き渡んないんだからさ。名取市では、話に聞くと、おにぎり1個と水少々だそうです。避難所生活っていうのは。だから物資としてね、水はペットボトルで結構入ってきてたんだけれども。その中で数が足んないつつって。1日目はほんとに難しい怒った顔してたの、みんな。で、2日目。少しメンバーチェンジで来つから、その日もたぶん多くなる。3日目からね、すごくほら、みんなが教えるようになって。たぶん私がこう握ってこの大きさでたぶん昨日足んねかつたんだから、「あんた少しこいつおっけくこさえてよ、ちやつこくしたらいいよ」って、仲良くやってね。で、

今度だんだん女の人から、「会長、今日は大丈夫？」って言うから、「結果発表、まだ！とにかく全部終わらせろ」つつって言ってさ。それでパンのパレットみたいのにさ50個ずつか、100個ずつこう重ねていくと、「なんぼ？」「8段400だ」ってやってね。仕事してからこう楽しむ、だから少し余裕ができたのかな。10日目だとか、1週間過ぎとかはさ。落ち着いてきたっていうか。そうするとね、「今日はだいたいどうぶ？ 数多いの少ないの？」ってみんな聞くようになるの。で、俺こう腕組んでね、「結果発表は待つてろ！」って言うとき、「なんぼある？ 数えろ」つつってさ、「こつちは380です」って、「こつちはなんぼある」つつって、「こつちは420です」とか言うのと、あ、んじやいいっちゃ。だけれども、1回それぞれ、名取市は1個って言ったんですよ。だけれども食べる人は2個でも俺はいいと思つたのさ、俺は。子供たちはね、食べさせてえなと思つたからさ、我々1個でもさ。だけど、ちよつと難しい問題ができたから、大したことないんだけどもさ。それが今度は数びつたり58に。出入りはあつたんですよ。やっぱそういう協働作業っていうのはね、最初は「役員さ、もう、こだもの」ってほら、たぶんそういう視線での睨んだと思うんだ。「余計なこととして、おにぎり1つ食べばいいんだ」ってさ、思い思いはあつたの。そこがだんだんわかってきたから、やっぱ1個1個だつていうことで数はびつたしにねえともめる原因になるし。ほんで1個1個。だんだんこうやってるうちに、もうおにぎり握るのね、楽しくなつてさ、「あんだあんだ、おつきいど」ってさ。(笑) 手の大きさもあるしな、だんだんこん中さ入れるもんも出てきたし。楽しくやって、数と。運べつて。こつちも運べつてさ。汁もね、自衛隊さんの方で出してもらつたから。つくつてもらつたからね。今度一般なら一般からアナウンスして、ずーっと並ばせて。1個1個って渡して。その中でね、「会長、何欲しいですか」って言われるのね。会長何欲しいって、俺から言えねえっちゃもんね。だから、今よりも私は3ヶ月後が心配だと、

半年後が心配だと。今はもうみんな応援来るって、それ言葉だけさ言った。いろんな団体が来て応援もらうんだけど、「会長、何か欲しいものあったら」って、欲しいものあったって言うわけねえさねえ。ご飯食べるだけでいいんだもん、だって。だんだんとご飯になって、自衛隊さんの方で炊き出しして、米も入ってきたからっしや。今度はおにぎりではないから。これも私個人としてはずるいんだよね。おにぎりは1個って決まってるんだから、ご飯はもう一膳って決まってるんだけど、この一膳がどういう判断ってできないからさ。一膳っていうのは、軽とかあるからさ、いろいろ。若い人はね、「おかわりできる人？」って言って、若い人に並ばせて若い人にやって、無くなったら今回は終わり。自分の前で無くなっちゃって終わり。だからその生活やると、我々がちっちゃいときの生活かな。今の若い人だとわかんない生活かな。兄弟でけんかしながらご飯食べたっていうの、多々あるし。ぶついたり泣いたりして食べねえと、あと菓子はないと。そういうなんか我々の物ない時代で育ったことは、すごくいいかな。

### 商売やっている経験が生かされた

意外とでもさ、商売人って、そういうのが意外と気利くからほら。そして、尻軽いから、商売人っていうの。お客様と結局、喧嘩できないでしょ。自分が花買ってもらうとか、そんなかでやってると。でもやっぱし、駄目だなって。怒るときは怒んねえと駄目だし。みんなから言われるの。言われるけど、そのへんの、かつこよく言うとなウハウは若干知ってつから、みんなよりかも。だからストレートに言われたって、ストレートに怒らないで、一呼吸、1日ならおくと。もう1回、やっぱしあの人こうやってると。たとえば、たばこほかで捨てて吸殻を投げてたとかさ。で、いいさと、一歩ひいて。そしてもう1回吸ってたって言うのと、じゃあやっぱしビシツと。それこそ朝からマイク持って。でも、個人攻撃はしなかった。得意の巻で。こういう人がいるからって、絶対駄目だって。「わざわざ

ぎ校長先生にお願いして喫煙所をつくってもらったんだから喫煙所で吸え！」って、「誰だ便所で吸ってんの！」って。「昨日もあつたそうだな」って、ほれから過去をこう、「何、4日前もあつてねえか」って。「特に女性のトイレであるっていうから、誰やこの！」って言うてさ。だけど、知ってんだけど言わない。そうするとだんだんとたばこは、たばこ吸う人はたばこ吸うし、仕方ないからさ。でも遠くさあるものを近くに、校長先生にお願いして、吸殻ちゃんと用意してさ。作ったたわけだっちゃ。

\* \* \*その後 花屋さんを出されている。ご冥福をお祈りいたします。

以下は奥さんのインタビュー結果

### 仮設住宅へ

愛島東部の方は5月の下旬、5月25日かな。あつちはね、閑上の㊦丁目の方が多いのね。うちら㊧丁目だったんだけど前ね、店舗このへんにあったのね。店出した頃が㊦丁目と㊨丁目のところにいたから、まず知らない人はあんまりないわけさ、だから別に不自由もしく、なんで花屋さんここにのって言われたぐらいいで(笑) うん、㊧丁目なのに、ね、㊦丁目の人と一緒だったから。本当は美田園なのねこつちがね。でもほら、子どもがほら、不二ガ丘小学校、間借りして、中学、小学校、そのために孫二人いるために、私らこつち(愛島) なんだって娘たちがほら、勝手にそつちに決められたんだわ。それもよかつたけどね今思えばね、今もう隣にいるから、

そして私もこのさいかい市場始まってからは朝出て夜しか帰って来ないからあんまり、接点もないけどね。ただその辺で会えばあ今帰ってきたのとか、今からとかってそんな感じで。閑上のじいちゃんばあちゃんたちはまず知り合い、大体。ただなかなかお客さんに至るまではないけど(笑)。前は閑上は袋町だから、結構そこでね、あれしてただけど、もう今、あつちに行けばムサシでも花は

売ってるしどこにでもあるもの。こっちっていったってうん。そして閑上の人たちはこんなに大きい花瓶にね、本当にこう、二つぐらい上げて花大きくなつて、あげたのみんな友達だから。ところがね、今小さいからこんな小さいのさ、菊、本で終わるもの、だからそんなにね、なかなかやつぱり大変、大変です。

### さいかい市場のこと

お店のことなんか、さいかい市場なんかは夫が中心となつて。そしてここはやつぱり商工会と市役所かなで話し合つて。でなんか前はさいかい、避難、仮設？の会長さんやつてて市から何回も来たのね、東部の会長さんの話ね。「あーこれはうけられないダメだダメ」だつてなんかずいぶん珍しく断つていた、断る人じゃないから。珍しいなつて思つてたのね、そうしたらなんで？つて言つたらこの話が出てたんだねその頃。さいかい市場が出るつて。そうするとほら閑上で、あの、商店街の会長してたから、結局閑上商店街の人がここ（さいかい市場）に入るつていうことだから、やつぱり自分がしなきゃないつていう風には自分で思つてたんじやないですか。だからなんていうの、理事長さんはまずね、受けないで、こつちの話になつて今度商工会の人となんだかんだつて話して始まつたんじゃないですかね。その点は私もよくわからないのよ、なんか出て行って帰つてくるだけだから、あんまりしゃべらないから、聞けばいいんだけどね。まあこういう風になつて市がメインで国のあれでやつたみたいだね、建物がちよつと不満もずいぶんあつたようだけど。この作りね、だつてこつちから出て行って入口があつて出口がないで商売あるところどこにあるのつて、これうんと困るんですよ私らみたいなもの荷卸ろしするの。どこだつてそうでしょ？裏から、ないんです。そうしてあつちの裏側、はパーマ屋さんとあれでしょ？なんなんだねつて。手すりつけてこんなところに外にも我々はみ

んな春先になれば苗ものとか鉢物外に出して、そして売る商売だよ、それが出せないんだもの邪魔になつて。

結局なんていうの、一級、一流な建築士が設計したんだからつて言われたつてお父さんが、そしたら市役所に怒鳴り込んでいった。何回も大きな声出してたみたいだけど、どうしようもないよね、こうなつた以上。だから本当はみんな話合つて、衣料屋さん魚屋さん床屋さん、こんな人たち色んなあるんだから、やつぱり服屋さんの隣にね、油ものやさん置いて油ものが跳ねるとかさ、そういうところも、匂いが行くとかつていうの感じないとだめだつて、同じ魚屋さん並べたら閑上の人はいりづらいし。そういうのどこでもいろんなところの店舗に聞くとみんなして相談してやつてたつて、ここは一切なくてどういう風にして決まつたのつて、抽選したわけでもなく、だからみんな市役所で決めたんじゃないのかなつて思うんだけど、私らこじやなかつたんですよ最初。向こう側に床屋さん二軒パーマ屋さん一軒あるでしょ？一番端に、一軒あつたでしょ？あそこだつたの。これのうーんと、ガラス二枚、あの上がないの。だから狭かつたのね。そしてここがずっと閉まつたの。閑上でガソリンスタンドやつたところなのね、佐々木商店つて、ガソリンスタンドで何売るのがなつて思つたけどずっとしめてたわけ。そして今度こつちが死んでるつて言うわけお父さんがね。こつち全然だめだつて。そしてじゃあ来ないなら俺行くからつて始まつたんです。そうしたら市役所では何も言われないからお互い話し合つてしてくださいつて言われたの。去年の暮れ代えて、お父さんでも壁張つたりなんだりして、結局仕事しないで終わつたんですよ。私にこんな広いところ預けて、狭くてよかつたのにつて思つて、こんなに

### 夫の死

本当に2012年10月からちよつと体調崩したから、だから年頭のお正月のあいさつはね、ここでしたんだけど、一周年二月十七日、

ここでやったんだけど、2月4日去年できて、2013年14日に一周年したんだけどその時にはもう俺だめだって言われて、挨拶はできなかつたんです、それで2月25日に体調崩して、2ヶ月丁度かな、4月29日に亡くなつたんだけど。胃癌だね。そしてやっぱり末期だったんだね。自分でもなんていうんだね、もう少しね、自分の身体大事についていう分かつてたんでしようけどなんかね、痩せてきてたんだ。んで潰瘍って言われて治してたんだけど、その時にちよつとね、早めに病院変えてみるか、カメラでも飲んでみるか何かすればよかつたんだけど。ちよつと転移してたんでもうみるみるうちになんかね、がたがたっていつてしまつてね、まあまずでも信じられない本当に。

ここ開店するとき、した日かな、した日かその、こつちの家の写真は、その震災のその年の8月ごろにね、うーんと、ブラジルじゃなइटツツか運動会しに来たんだ友達。あつちの小さい子どもきて、その時の司会か何かした時の写真なんだね。だからその時はまずね、まだまだ、もうがたがたつて来たのが一か月か二ヶ月だね。うん。なんかね、病気の原因は震災もあるんでしようけどどうなんだかね、ガン系もあつたしね、うちのお父さんはね。もう兄弟もみんな胃癌なんだね。けどやっぱり手術して、みんなうん、あれなんだけどお父さんの場合やっぱりすぐに手術できません。だったから病院行くとすぐにね、だからやっぱり進行してたんじゃないかなって思うのね。

やっぱりそういう仏花、亡くなったところに持つていくのはあるけど、でもお父さんいれたいで仕事だけ私いての仕事とまたやっぱりね、仕事もお父さんいないからなる時があるんだよね。できないわけじゃないんだけど大体教わってたから、仕入れもできるしうん。大体でもお父さんいても店タッチしてなかつたから(笑)買ってきて。うん。なんだかんだってね、本当に閑上にいるときから本当に家にいるつていうのがないんだよね、仕事るときよばれて

帰ってくるぐらいで(笑)でもまだね、ありがたいことにはね、やっぱりそれなりのお客さんにも来てもらつたりね、なんだかあるわ懐かしいつていう人がぼこつとあらわれてくれたりね。

いまだにお父さん亡くなつたの分らないでこの間も来てお盆も来て、そしてけつこうあらならんて言われたけどね。あんまり知らせることもないけどね、新聞なんかにも載つたんだけどやっぱり知らない人がけつこういるみたいでね。でもやっぱりいらないとだめだよねやっぱりね、なんでもね。二人でないとね。だからなんかいろんな手続きもまだなんですよ本当に。

#### 今後のこと

お父さんが、結局ほら閑上に戻るつていうみんなのね、あの頑張つてたんで、やっぱり最後の最後まで閑上に戻るつて戻つて、やっぱり子供たちも近くにおいて、住むからな、つて言うのは口癖で、まず今も子供たち皆近くにいるから、で、うちのところこつちだからもう住めないところだからわ、こつちね。だからその土地61を買取るような状態だからまず店は店舗は借りてたから、自宅だけなんだけど、まあ五十何坪の土地なんだけどそこ買取つてもらつて、あとはやっぱりもつとお父さんが思つてたように行こうかなつて思つてね、

なんか閑中のこのへんあたりにはいつてただけどね、だからその辺まず、一応は考えているんだけど、娘はもう一緒に帰るつて、娘は閑上、うん。お父さんはもとと閑上にいるのね、お父さんはね、私があつちの仙北なの。そこから父親のあれでこつちに引越してきたから、あれしたけど。お父さんが婿に入ったの。だからうちには、はいつて、私女兄弟3人なの。そして一番下で、姉たち好きないように出て行ってしまつて、残されてどうしましよつて、親たちが慌てていくな行くなつて言われて。それでお父さんも男三人兄弟だったのそっちもね。そっち一番下なのよ、だからまずね、どうぞつて感じじゃないですか、いやちよつとこの三十何年前は嫌だった

んじゃないお嬢さんって言うのは。嬢は死ぬまで嬢だつてよく、嫁はまず嫁としても、嬢は死ぬまで嬢とかつていうなんか、でも結構ね、商工会で商売やつてる人もお嬢さん結構いたんですよ。だから結局商工会で旅行だのいろんなところに行つたんですよ、みんな大きくなつちやつたけどね、30にもなつて小学校あたりはみんなおんなじような子供たちいっぱいいて、結構楽しかつたんですよ。頃は、うん。

閑上は9歳ぐらいのときから住んでいるので、ほとんど閑上育ち。ほとんどほとんど、うん。ほとんどなの、だからこつちつて、と、思つてる人が多いんだけど、この頃になつてなんだかそういう話すると「えー知らなかつた」なんて、もうこつちと同じなんだけどね。

### 閑上の良いところ

私山育ちなんだけど、山育ちなんだけどね、なんかね浜のあれがね、いいんだよね。浜風つて言うか浜の匂いと、そして閑上にちようど引つ越してきたときに何もなかつたのねあの辺が。この、自宅の方が。だからね、波の、たつおうーんたつぷーんつていうの聞こえたり、こつちの鉄道のカンカンカンまで聞こえたんですよあの建物の中から、東北本線。

嘘みたいな本当なんだけど。だつてあそこにいたつてなんにもないんだから小学校しかなかつたし、それから今ウラヤスだいつぱい建つて、中学校小学校しか見えないんだもの、あの貞山堀のここの橋に立つとね。うん、だからやつぱりなんかさういうのね、浜風にね、普通だつたら山恋しくなるんだけど、そして今愛島の山に行つてうんと海が恋しくなる。

そしてね、趣味で写真撮つてたのね、写真撮つてて、やつぱり閑上はすてたもんじゃないなつて仙台から友達なんかよく撮りにきてて、朝は朝日である綺麗だし、そして今度夕日なれば夕日で蔵王連峰沈んでいくのが綺麗だし、そして今度名取川つていえば名取川。なんかね、本当にね、いいつていうか貞山堀のあのなんていう

んだろうね昔ながらのね、いいとこいっばいあつたんですよ本当に今思うとね。なんだかあんまり嫌いじゃないんだな閑上私はね。それで嫌な、怖い思ひしたらいかないけど、ただ全然怖いつていうことはなかつたんだよね。

### いろいろな思い出

津波は小学校のあの下の、階段で見たんだけどみんなしてみてたんだけど、津波わーつて来たのは見たんだけどみんなシーンとしてね「えつなに起きたんだ」つて言うような感じだよ。だからみんなもそう思つてたつて後から言うけど映画のシーンを見てたようだつてみんな言つてるでしょ？だつてふつう水来たつてちやぶちやぶちやぶつて足こういくんらしいけど、だから起きてね、たぶん地震が起きて、こう、もこもこもこつてなつて、段々水がこう重なつてだんだんこうなつてなつて、最初からこんなしてきたんだもの。もう目の位置でもうずつと、だつて屋根だの上でプカプカ浮いてきたから、で、次の日お父さんがね、言つたのはね、避難所に行つて、花屋さんつて、閑上何にもないんだつて、言つたんだつて、なんにもないつてなんだやつて。あんなに水きても、自分のうちだけは残つてると思つてたんださ、ところがあの屋根流れてきてるんだからないはずだよ。そしたら土台だけ残つて、うちなんか三日四日後に見に行つたんだけど、土台だけ残つて、そして掘りごたつだつたのねうちで、堀、でその中の堀のあの、電気の、あれだけが残つたの下に、本当の土台だけ、なんか本当にびたつとくつつけたのがね離れたような感じでね、流れてて。なにもないんだぞやつて言われた時にお父さんも本当に何もなかったつて後からね、騒いでたのよなんか自転車で見にいたりしてた人居たのね、あの結構ね。だから車もなかつたりすれば歩いて行つたんだか自転車借りていつたんだか皆いつて、「閑上何にもない何にもない」つて騒いでたのよ。

うん、あの、館腰小学校でね、閑上何にもないわって、なんにもないって言うのなんだやって、想像もできない。そしてそのあと友達娘さんがさ、閑上に行くから、行ってみないって言うから、行きたくないけどまあいってみるかなって、そうしたらこの五叉路？この五叉路まで行ったらば、そうしたらこのね、日和山が見えたのね。がれきがちよこちよこちよこ、なんとなく小高い山があったのよここに、あれなんだいあれってなって、日和山しかないと、なんだあんなに低かったの？って結局地盤沈下したようだからね、この辺ががれきでがれきでここまで来て店みれば店がない。そうしたらこの店の隣に集会所あったんだけどみんなコンクリートが残ったからね、漁民アパートからこのアパートからここに、集会所あったんだけど集会所も、その集会所の上に、バス、宮城バス、宮城バスがちよつと上につかっていたの。うわー何したんだって(どうしたんだ)。宮城バスね、ここに一つとね、あとここから入ってこちのところだな、こちの通りのここだね、バツテンになってたの、ここに一軒。どっちかは分からないけど地震あった時ちようどここにね、バス来たのね。宮城バスが、そしてどうするか言って会社に電話してたみたい。どうしたらいいんだべねーって言ったらお父さん、とにかくあつちに逃げろって言ったの。助かったんだか助かってないか分からないけど、お父さんも乗つけてくるとかそういう余裕がないのよねやっぱり。余裕はなかったね。やっぱり慌てるっていうのもあれだべね。だからさ、乗ってくべっていうようなこともなく、うちのお父さんも消防に入ってたんだけど、だからもし消防で仕事も何もなければ半被で消防署に行ってるのよ。ところが仕事してたからたまに、それでそれをしなくちゃいけないらっていうんで、行かなかったんださ。もう間に合わないっちゃ。もうその時にもうここ消防署が走ってたんだもの。そのときに、お父さんが声掛けられて乗ったらお父さんは亡くなったのよ。このこ通った人たちが亡くなってるから、お父さんも第四部で、閑上消

防団第四部だったの、そこでもちよつと何人かなくなったの。そこにまあ声かけられなくて車に乗った時なんだか通ってみてなかったんだか、だからやっぱりちよつとした、タイムミングでね、本当にね、そんな人みんなこうして助けたんだけどもう最後に病気で(笑) うん。まずこれもね、しょうがないって言うか、なあしょうがないんださね、これもやっぱり運命なんでしょうね。

主人は、おんなじ61。還暦だからね、還暦で、ちようど60になって、次の年になつてから61貫つたんだね。還暦お祝い同級会して、そして4月にも子供たちにもお祝いしてもらって、なんか本当にトントントントンっていったような初めてで。ほんと震災後ね、子どもたちと孫たちと一緒に食事して、写真撮ってもらって、うん、なんかそれがそれこそ一枚の写真なつてしまった。うん。その時もね、体調ちよつと崩してたのね、7月25日だったんだけど、大丈夫なお父さんっていったつけ、いくつちやーなんて。とにかく弱音吐かない人なのよ本当に。最後まで本当にガンだけ痛いつて言ったこともないし、弱音吐いてこうするとかもないし、もうなくなつてやつとおれ亡くなつたって思ってるんじゃない本当に。全然亡くなる本当に一時間か二時間までみんなして喋ってたからね、馬鹿云いながらね。本当に、いやーどういいう思いつて亡くなったのかしらねって思うくらい。そういう性格だったんだべね、とにかくこぼさないし、人のことも言うわけではなく、自分ね、どう思われてるんだかもわからないけど人のことも言わないしね、本当に人の悪いこと言つたことなんて聞いたことないね。私の方が言つてる(笑)。私の方があの人こうだこうだこうだこうだつて言うとお母さんそう言うとお母さんそう、お母さんがそう思つてるとみんなもそう思つてるもんだ、なんて、いいこと言うね、なんて笑つてたけど確かにそうだね。本当に褒めるわけじゃないけどね、本当に言わない人だね、Tくんなんかほら、よく知ってるのよ、もうお父さんになんぼこき使われたんだか。

## 仮設をまとめるのは大変

閑上三丁目在

### 地震当時のこと

前に住んでたところは、閑上3丁目。あの1日和山の近くなんですわ。日和山と目と鼻の先なの。歩いて2分で山まで到着するんですね。家族構成はとりあえずそのときは5人だったんですね。5人で生活してて、うち個人事業やってたんですね、仙台の方で。今度の震災で取りあえず仕事が減って。やりくりできなくなつて、事業をやめました。その震災の日は私病院に行つてまして、薬もらつたりなんだから、午後からは防火クラブの、閑上地区の役員会だったんですね。ちょうど公民館のところにいまして、閑上公民館で震災にありました。息子と娘たちがちょうど休みだったのかな。それでいたんですね。地震が来てすごかったからにげっぺっぺっぺっぺとで、うちの娘と息子がとりあえず公民館に来て、娘だけ公民館に置いてつたのね。自分は会社のほうに行つてみるつてことで行こうとしたんだけど、もう行けなかつたみたい。閑上大橋がもう混雑してたみたいですね。それで戻つて、津波が来たつてことだったんですね。私は公民館でここはもう一杯だから中学校に行つてくれつて言われて、中学校に行つたのね。行つて、正面玄関の昇降口から入つて階段で私半分まで濡れて、それから2階、3階つて上がつてつたんですね、もう娘は先に中学校についてたからね。それからだね、その日のうちに娘と合流し、その日は娘とわたし二人で。そこで一晩過ごしたら次の日に息子来たんですね。息子はやっぱり近場の場所で2階で助かつたつてことなの。次の日そしたら中学校まできて会つて、そのもうちよつとした後にうちのお父さんと、もう一人の娘が来たんですね。中学校に避難してるからつて、その前の日にもう連絡してたから。携帯で。メールだけは繋がつたみたいなんです。私メールわかんないもんだから、娘にメールはさせてたんですね。そしてうーんと。その日は何にもご馳走なかつたもんだか

ら、ちょうど中学校に逃げた子がお菓子持つてたんですね。それを皆さんで食べたつて形なんです。それは夜だったのかな。朝は息子が持つてきたお菓子みんな食べて。

### 避難所に移動

で3時ころかしら。ここは危ないから、とりあえず名取一中とか館腰小学校に避難するつてことで、私たちは館腰小学校に行つたんです。あのねバスも来たんだけど、うちのお父さんその日、震災の時は会社で働いてたんですね。それでそのときに閑上戻つてこようとしたんだけど、その閑上戻れなくて、高速道路のところで、津波が来たのを見て、少し津波が引いた後に車で仙台の方に行つたみたいで、街の中に。もうひとりの娘が泉に行つたもんだから、泉から仙台駅まで向こうの人が送つてくれて、あとうちの人がお父さんと合流して、うーんとどこで車駐車したつていったのかな。パチンコ屋さんで駐車場で一泊したつて言いましたよね。そんだけでもとりあえずメールではやりとりは、娘同士でやりとりしてたから、心配はなかつたみたい。それでそのクルマで来てたもんだから、そのクルマで館腰小学校まで行つたんですね。その館腰小学校で何日ぐらいたのかなあ、12日から23、24日までのかしら。私たち教室の方に入つちやつたもんだから、あけ渡さなくちやなかつたもんだから、あけ渡してくださいつてことだったので、教室にいる人たちは全員高館小学校の体育館に移動になつたんですね。その館腰のほうでは自衛隊がそこでちゃんとねえご飯たいみそ汁も作つてくれた。私たちはおにぎり握るくらいで済んでたんだけど、今度高館に行つたら自衛隊も何もありませんよ。でちよつとみたらガスボンベとお鍋があつたんで、私たちが作れつてことなのかしらつて思つて、私たちはもう思つちやつてね。じゃあ作つてつてことで、材料あるものでその日の夜から何とかつてつて、ご飯はおにぎり来ましたから当然。それでなんとかおかずだけを作つたりなんだから。あと朝はパンでパンだったけどみそ汁は作つたし。なんぼかはあつ

たんです。わかめとか玉ねぎとか、あとなにあっただべ。最初、米までありました。でも米はなかなかあれが、うーんと炊飯ジャーがなくて炊けなかったんですね。そしてボランティアの人達が来て、ボランティアさんなんですけど、米はあるんですけど炊けないんですよねーって言ったたら、私たちが調達してきますって言って。5月のはじめくらいに持ってきてくれたのかなー。その持ってきた後からなんとか炊いて、食べさせたりなんだけりしました。ちょうどそのとき、住民さんAグループ、Bグループと班分けしたんですね。A、BからABCDEFまでかな。あのAとBが一階グループ。あとCとDが二階の人達って形で分けたんですね。そして3階まであって。教室組の人達だから。その教室で班を組んだりしたんですね。それで月曜日はどこどこ、火曜日はCDとかって班ごとでやってたんですけど、結局はあの一誰かかれか出てるんですけど。食事当番。あと生活係とかさあ。作ってあと体育館の方にシャワー室あったんですね。シャワー室が使えたもんだから皆さん時間帯を作って、名前記入して、使ったんですね。でも私たちは入ってはいなかった。シャワーはしなかったんですけど。風邪引いたら私はおしまいだと思ってるから。風邪だけ引けないなと思ってるね。だからシャワーだのは浴びなかったんですけど。糖尿病だから。もう肺炎になったらダメだよーとかってあったのね。だからなるべくインフルエンザの注射は必ず受けている。ちようど受けたばかりだからちよつと熱っぽいなってときはあつたけど、インフルエンザになつて隔離されるんかーってね。結構隔離された人がいたから。かかってはダメだなーって思つてシャワーだのやめて、あとほら極楽湯の無料券だけだけたんだよね。それで入ったり。あと自分でお金出して入ったりなんだけりしました。そのときなんか仕事あったからね。でもだんだん少なくなつてきては。去年の3月にやめたんだ。丸1年過ぎたんですわね。

## 仮設住宅に入居

入居はえーつとね。5月21日だよ。そうです最初。どんどんとその日に、皆さんだいたい同じくらいに入ってきたんですね。でもちよつと遅かった人もいたけど、家片づけたりなんだけりして、でもこつちに方も何か、なんて声掛けしたのかな。とりあえず。もと会長さんがまとめて、私の顔見てあー・・って言われて、ふあーつって行つたらここにちよつと集まって、もの貰ったから区分けしてくれないかつつて、そのまま区分けしたりなんだけりして、役員やんないつすかつて言われて、あー手伝うんだつたらしいよつて言つて役員にはなつたんですねその時は。こういう仕事だつたらいいよなんぼでも手伝うからつてはさあ、やったつけそしたどつぶり。どつぶりとなつちやつてわ。ふふふ。それで1、2年は会計で会計して、今度初代会長も家建てて引つ越したもんだからね。皆さんからも・一個配んのもわざわざ向こうからこつち来て配達して、それももう厳しくなつたんでないつすかつて。みんなどつちから聞いたんでないのかな。ここの周りの人でないんだけど他のこつちの人から言われたみたいなんです。そしたらそれ聞いて誰か区長する人いないかあーつて言つて。

## 3代目会長に

阿部さんの旦那さん前会社であのーそう組合の。上のトップだったんだから、あんたのお父さんに頼んでみたらつて言われて私聞きにいったら、俺しねーつて言われたの。しないつてつて言つて。でもまた新たにもう一度聞いてみてつて言われてもう一回聞いたら、俺しねーつてお前するんだつたらやつてもいいぞつて言わつてね。ははははは。それ言つたらじゃ決まりねつて言わつてわ。はははは。区長さんと、ほら他の人達は区長さんと一緒のとかだからいいんでないのとかつて言われてたんだつて。会長だった。でその会長のときに区長さんが2年続けてやつてたの。2年やつたんです。その2年目で、ほら引つ越したりなんだけりしたから、ちよつとあれだなーつてことで、うんやつぱり自分年齢もあつたもんだからそ

ういう形でやめたのね。1年間だけだった・・会長。だからここ入ったときにはAさんで、2年目がBさんで、3年目が私と。それだなとかあのー4月からだったから。本当はダメだから自治会長の方も変えて、区長さんやりながら、皆さんやってるから、Cさんやれるんじゃないかなって言われて、いやーって言ったんだけど、もう他の人達から言われてやらざるえなくなつて、会長も。区長が先。4月1日から区長だったの。ここは会長は5月の20日からだから。なり立てだから。でも次回は来年からは4月から交代しましようにってことになったの。年度替わり。区長さんが4月であの4月から変わるってことだから、いつもね、だから。これもそうすることになったのね。始めの年ね、私もう身体もクタクタだったかなあーって思つて。あるとき支援物資も結構来ましたよね。そのときももうみなさんに声かけて分けたりなんだから、あとちようどいっぱい貰つた時、・・だったりなんだから、説明したりして、あとくじ引きしたりしてなんとかはかしたりなんだからしてたけど。その後冬のときの毛布いただいたんですよ。あとこうあの、あんときペレ、サッカーの人が来て、あんとき電気カーペットと毛布いただきましたね。あときは仮設全部の行き渡るくらい来たもんだから、みんなに平等にやつたんだけど。もう全部平等にできないから困つたのね。いろんな支援物資が入って、ここ満杯になつて。うーん、配布するのにもとりあえず呼んで配布したりあとくじ引きさせて、あともらったもの袋にいろいろ、手分けして入れて、シャンプー、リンスセット、あとなにかセットにしてぶっこんでわ。あといろんなの入れて番号付けてくじ引きさせて。そんな感じでもやつたし、イベントなんだべなそういうのもね。で社協さんのほうからもらつた毛布と、持つて来てくれた毛布もあつたんですね。それで・・も結構あつたもんだから、私たちがいないとあれだから、社協さんに頼んで一人一人渡して、ここに来てもらつて渡したつていう形なんです。いいものを渡せないのなんでこういうのつて言われてっ

から私たちの場合はさあ。だから一切タッチしないでそのやり方はやつてもらつたんですね。

### 集会所でのイベント

生活支援さんは最初の年の9月から入つたんですね。8月には入ろうと話し合ひはしてて、なんていうの講習受けてみたいで、9月から完全に来て、この予定表書いてきてもらつて、うん。10月頃かなこれ持つて来たの。その9月はなかったんで。ほら普通の一般の予定表、あれでやつてもらつて。手書きです。そうですね。あのー消えるんですね。うん、ホワイトボードみたいな形のやつみたいで。うん、あれは市役所でもらつて、外と中から。あのね、外だけの中に入つてこない人は、ホントは中だけあればいいだろうけど、中に入つてこない人は外で見てるんですね。だから外と中。ここであればここで明日あるねとかなんとかいながら皆さん集まつて。そうそうそう。入ってくる人は入ってくるんだけど、入つてこない人は入つてこないから。外でこうやつて見て。ただ一軒一軒渡してるものもあるんだけど、あれじゃあちよつと小っちゃいのね、字がね私たちは見れるんだけど、年配の方ね、見えないつてわざわざこつち来てうん。太字の方が見やすいんだと思つて。でもあのこの仮設に入つてない人も散歩がてら見て行くんですね。ここね。わたし達、8月じゃないですかね。8月頃から目いっぱい入つてましたからね8月。毎日、あの行事つていうかなんていうのかな。お茶会もあつたし、あとなにやるからーつてあとで騒いで来てましたからね。急遽入るからつて。あと寿司屋さんのイベント、ごちそうされたり。あとまるせいじゃぼん？あのー野菜とか配布したりなんだから。そんな感じで目いっぱい行事あつて。でほらみんなさ、何かあるよつてイベントあるよつていうと食べ物とかももらえるよつていうと必ず来るからね。へへへ。そんな感じで顔見だし大丈夫だな、血行いいねつて私たちは捉えたのね。でもだんだんとそれが少なくなつちやうと、今度イベントも少なくなつて、お茶会だつて少なく

なりましたよね。ほら今までお茶会が毎週あったのが、隔週になったりとかそんな形で。だからうん。で今度その無くなったからってカラオケでもしようかっていうと、私たちの負担が今度大きくなるでしょ。だから今まで通りって形で。うーん。あとほら子供たちの寺子屋、スカイルームあれもなくなっていったでしょ4月から。

### 仮設でのトラブル

子供たちもスカイルームが無くなって、そこらへんでボール遊びしたりして壁に当たるときありますよね。それでその音が気に食わないって出ていく年配者の方もいるらしいんです。違う違う怒りに。子どもたちはわざとではないんだけど、うるせーって。うん。去年あたりにボールをぶつけた子どもに石を投げたり、同じ人なんだけどね。今回は投げるなよーって奥さんのなんだのに言われて。騒ぐだけ騒いで。やっぱりその人ちよつと心の病みたいなの、家族の人がいるもんだからやっぱり気遣ってるのかなーって思ったりしたんですけど。ここはちよつと。でもちよつと度がすぎるかなーって。ちよつとかわいそうかなって思ったの。でほら託児所も無くなったでしょ。貸してあげたいんだけど、そのまんま帰らなきゃ。まあ片づけてますよさつと。もうちよつちよつもの落ちててもそのまんま。私たち見つけて片づけて。あと本見たら見たでそのまま。きちつとこ揃えないと、そこまで教えないといけないのかなあって思ったりもするんだけど、まあしようがないなあと思つて、うん。もうめんどうくさいからそのまんましてますわ。ははは。ちよつと悪くなった人もいますし、良くなった人もいます。部屋なんかね。狭いせいか皆さんそんな感じで。狭いし、トイレに行くまでが10歩で行く。ははは。今の私たちの部屋はさ。お風呂場も11歩12歩で行くし、うーん。もう・・・だいたい届くっていう形で。ははは。ちよつとここから出たとき酷いかなあって。ははは。便利さがなくなつてね。ははは。あの一部屋とか二部屋とかですよね。その一部屋の人達の見ると、台所つてのが洗うとこ広いのね。ただあの刻んだりなんだ

りするところがない。ないんです。だから洗うとこいっぱいあるんだっけどもちよつと何か置くのも不便だつて形でしょ。私たちは私たちが、洗うとこは狭いし、刻むところはあるんだけど、こう洗つてつと脇に水がぼたぼた落ちてですね。そこが私は難点かなあーって思ってるんです。でもあの水もこぼれ無いように思っただけれども、やっぱ洗つてて、やっぱこぼれてるんで、そこ今もうゴミ箱置いといてそこにゴミ箱の中になんぼか入るようになって、入ってるんですね。やっぱりね。開けといてやったりなんだりしてのね。床拭くの嫌だから。もうお腹つかえてとつても拭けないんですよね私。あの膝をこうして拭かないと。もともとモップ派だから。モップも狭くて必要ないからやっぱり手で拭くしかないし。大変なんです。便利なところは便利便利。だつて病院だつて二カ所かけられたもん午前中。いままではできなかった。バスで来て一カ所しかできないんだもん。私ねえ前内科にいつて薬もらつてきて足怪我した時に、外科に行ったのね。二カ所行けたから午前中。あー行けるんだこれいいなあ。もう二カ所、三カ所その日に何カ所も行けるつて形、ホントにいいね。仙台の病院に行つてるときは一カ所しか行けないんですよ、午前中行つてあと戻つてきて、その午後からまた病院に行けるつてことはあるんだけど、それはなんていうのかな。それは病院の行く日がずれなきゃ一緒になんていうつて形ですよ。仙台の病院予約制で、月制に予約とつた。あとこの名取の駅前クリニックさんのゆうクリニックさんに行くんだけど、月初めなんです。やっぱりこう薬がね、うまく合わないでやっぱり一日でつてことできないです。でもそこはね、なんとかクリアしてるんで。

### 変わったこと

元の通りだねあんまり。変わったつう形ないもんね。ただね、市役所との連絡が多くなつたね。まずは集会所の前の木のこの倒れそうなどこ。風で倒れそうだったんで、連絡したりなんだり。た

まには来ますけど。そうそう。全部生活支援センター、生活課に電話して、来てもらえるって来てもらって、あとあこれは切んなくちやないねって言ってもらったり。今度はライトが消えてるんですね、ここの四力所のやつ。修理してもらってたんで、もうそろそろ来んのかなって言ってたところ。その話で来てくれましたし。

### 今後のこと

今後のことねー。はやーく名取に何とかしてもらいたいなと思う。私は戻りたい。ええ、戻る側ですね。なに若い人さみんな戻ってき、閑上をね。いい街にしたいなと思って、はははは、います。

たまにね。このあいだ朝市出てた時にありましたよね。あんときも行って、自分の目の前のあやっぱりすごいねえ、草取んなくちやなんないねえと思ったりなんんだりしてたけどもそのままなんだね皆さんね。だからいいやーと思って戻ってきたけど。あそこはもう三丁目、四丁目のところは住めない。工場地帯になるんだってねえ。だからそのまんまでもいいよなあってことで。あの一名取市の復興住宅、できればそこに入ると。だって私たちもう建てられないものわ。息子だつてもう俺、お母さんたち俺の力で建てねわ、みんなで住みたいってことだから、名取市の復興住宅に入ろうかって。まあね結婚して出てくかもしれないしね。まだ分かんないもんだからね。そんなこと言ってるからね。とりあえずは一緒に入ると。

### 閑上の良いところ

よいところ、なんだろうね。私はね、良いところっていうよりお祭り。結構ね祭りが良かったなーって。全部ですね。私たちほら町内会の盆踊りやったりなんだりねえ。そんな感じのものもあるし、えーと閑上港祭りもありましたよね。あと日和山の祭り5月の。5月と10月あったのかな。5月は子供の日で日和山のほうでやったし。でほら日和山のところで盆踊りやったっていうのは、日和山地区さんと中島町地区の合同でやって。あーいうのも。私お婿さん取りです。ははは。うち姉妹二人なんだけど、姉が嫁に行ったもんだから。

もうこっちは出れなくなっちゃったもんだからね。そう。なんかねえ町内会の役員やってるもんだから、手伝ったりなんだり。結構ね面白いですよ。私ああいうの大好き。いいですよねー。今回の5月5日のときちよつと行けなかったですねー。行きたかったけど、車出してくれないもんだからねー。車ってバスは出たのね。ただあの一で行くのがちよつと難題だなーって思ってたの。でも子供たちに、俺行かぬーって言われたから、いいわと思って諦めたんですけど。そのときみんな閑上祭りに来てたって人結構いたからね。そこでみなさんと顔合わせたりなんだりしたかったなあと思っただけど。今回は。

閑上で？はー。あれだね。うーん。明日は明日で何かあった気がする。ここの草取りあるでしょ。そうそう。回覧回したり。みなさんで。でも結局仕事だーって言った人も来れないし。それはそれで。ゴミ拾いかな。

畑の履歴は長いよ。50年くらい

閑上一丁目

## 震災の時は

震災時の生活は、俺無職だからね、だからまあ畑が趣味。でも3月だからな。そっち行ってるわけではないよな。健康状態はいいからさ、心配は無いんだけど、うーん、あれだな。よく耳にするのは地震ね。地震のことは耳にタコよる（できる）くらいよく話は聞かされたよね。ほら宮城県地震確率なんパーでって、そういう話はあるけども、うーんあれだなあ、こうして津波に会うとね、なんで津波の話なかったのかなあって。やっぱり三陸沖とか、昭和7年か。あれは閑上だって小さいけれど津波があったんだよな。徳川時代にも大きな被害があったんだつちやなあ。そういうお話はほとんど地域でわかんなかったから、津浪つてもものに対する警戒心は無かったのな。思わない。津波起きた後いろいろね、うん、学者がそういうあれをお話してるわけだからね。ただ科学的にはら、うーん、根拠がないお話だから、やっぱり公けにしつかり話せる問題でなかったのかなあって思うんだけどね、うん。全く無防備だったな。若い人のほうが敏感だったって言われる。そういう観念だったから、大きな地震だなあと思つて、どれくらいうち、あるいは自分の周りがねえ、痛んでるかなあつと思つて。最初そのぐらいでいて、それで回つてたらね、屋根瓦、ぐす瓦つていうんだねあれね。あれが半分くらい落つこちてたのね。あと古いブロック塀心配したやつがね、うーん崩れないんだよなあ。あんまり高くないブロック塀だったんだけどね。外回りは大して痛まないと思つてたんだけど。うちの中は、二階はやっぱりタンスがひっくり返ったり倒れたりして、二階に入れないつていうような状態で、前の大きな宮城県沖地震のときは、あの今の茶ダンス、ガラス入った棚もひっくり返つてね。粉々にみんな割れたから散々たるもんだつたけどね。そのときは会社についてよくわからなかったけど、今回はうちにいたからね。大きい地

震だったから外に出て屋根瓦落ちてきて怪我するよりも、うちの中にいた方がいいなあと思つて、揺れ収まるのを待ってたの。で家族は5人暮らしたんだよな。4人か。あの向かいの方の所に声かけられて、会社の社長さんに津波来るから自宅に帰るようにつて言われたんだよ。そして白浦つていう浦があるんですよね会社の。その水が無くなつてると。ああこれ間違いないくるなあつてのは2人とも、よもやあんな大きいのが思わなかったね。そんなときはみんな車で退避するとか、公民館とかにぞろぞろ避難してる姿見えたんだろな。俺はうちの中だから知らなかった。うーん。だから気を取られて逃げまじうつて引つ張りだされた感じ。だからあれだ、火の始末なんかね、ガスボンベうんぬんなんてのは全然頭になかった。戸締りもしないで逃げたんだな。小学校までのくらいあるのかな、500mくらいあるのかな。まあそこまで行こうかと思つたんだけど、50mくらい先に横断歩道橋があるのよ。そこ足踏みかけたつて、いっぱいいるんだ上の方に。人がうん。あーこれじゃあ行けねえなつて考えてるとこさもう足元に水が来たんだよな。だから親子3人して、母ちゃんは犬が好きで犬飼つてたんだけど、財布よりも犬の方が大事だったんだべなあ。犬抱いて。まだ寒かったんだよなあ雪は降ってくるし、ああこれ一晩もつかない。小学校じゃない。私はね薄暗くなるころにね、ヘリが上空飛んで来たの、歩道橋の上だね。人命救助始めたんだな。それで俺二回目か三回目辺りに、うちの嫁さんが、年寄りいるからなんとかつて、いっぱい乗つてるよ本当は。したら女の人がねえ、20代そこの人が遠慮してもらつて、乗せて貰つたのよ。ヘリコプターに乗らつて。だから残った人がどうなつたかはその時は分からなかったね。どこに連れて行かれるか分からなかったのね。仙台の駐屯地なのかね、そこに着陸して、あそこに病院があるのよ。そこに着陸して、あと病院は患者が入ってくるように待ち受けてたんだね。俺は元気だから座つた

つけ、やっぱり子供連れとあ赤ん坊連れとかね、元気がない人はそのまま病院で診てもらってたっけな。そこで一晩毛布貰って、何も心配なく一晩過したんだね。病院で。

## 翌朝は

翌朝まあどこも悪くねえ元氣だから、看護士さんにじゃあおいとまするからわ、って言って。どこに行こうかなあ、仙台に原町におぼがいたっけなあって。あそこまでなら歩いて行けるなあと思つたら、小一時間以上かかったんだなあ。うーん、近いと思つたらな。うん、そこに行つて、ちようどいとこが名取が丘にいる姪っ子がちようど訪ねてきていたんだっけな。これからどうすんのおんちゃん、なんて。だからおぼさんのとこ泊めてくれとも言わんねえから。増田に妹がいるからそこ行つて、そこ車で乗せてつもらつて、でひと月その妹のとこいて、そのあと娘が出産で、……。ありやこれまた別なとこ探さなくちやないと思つて、今度は次女のとこに行つて街中だから。こういうわけで厄介になるからやあつて頼んだっっちゃわ。そこで半月くらいいさせてもらつたかな。でその後実の娘が千葉にいるから、こういうときでなきや親父のとこ面倒見ることできないんだらうなあって、千葉さ行かねえか。まあ増田でも良かったんだけど、娘もそういうつもりだろうと思つて千葉へまた。もうそれは春先。畑仕事も待つてるからやあなんて、5月の初め頃かな。だから避難所の生活つつうのは無かつたの。ただあの娘とかつちやんは、やっぱり知り合いの友達に車で乗せて貰つて、あつ最初は集団で移動したんだなあ。仙台の四郎丸小学校つていうところ。そこ一晩明かして翌日、かつちやんの知り合いの人が訪ねてきたらしいんだよね。そんじや乗せてつからつて言われて。で乗せらつてどこさ行つたんだっけ。ああ姪っ子、娘が結婚さして増田の千田つてとこ所帯さ持つてたから。そこでうん。親子みんな厄介になつたんだよね。運もよかつたのかなあ。

## 現在の生活

現在の生活は、まあ小さいだけで、あとはみんな設備が良いからさあ。うん、何昔小さい時のこと考えたらね、天と地の差だよな。昔は一軒のうちに二軒所帯持つてて、電灯付けるのどつて壁ぶち抜いて、真ん中さ、一軒の家で一つの電燈。八畳一間。井戸も一つ。昔を考えると今の生活良しとしなければ。だろー。

## 今後の事

今後のことはね、やっぱり俺は閑上に帰れば土地があるから経済的にいいなあと思つてる。ところが若い人達、孫たちだのかつちやんたちは、閑上なあおつかねえなあって、うん。一回あるとねえ。てな具合で、増田の土地探してるんよ。いろいろ情報も入つて、隣近所こういう良い人ばりあるところのうちが今空いてんだつて。でそこんとこ不動産を通して、まだ入んねえんだ。今直させてもらつてんだよね。だからそういうことだから、今後のことはこの地で生活することになるだろうね。すぐ近いのよ。一生懸命今改築してるから、手伝いに行つて来たり。うーん閑上、運転免許はあるけど、車放したからね。自転車で閑上往復すると帰りのこと心配だからねえ。行くときはいいんだよな。

## 閑上のよいところ

閑上の良いところ、思い出はいっぱいあるさあ。閑上の地は先祖伝来、五代目かな俺が。まあそういうことはいっぱいあります。よいところはねえ、海あり山あり川ありねえ、ホントに自然の恵みつていうのかな、それがいいねえ。あとは人がざつくばらんでさ。言葉悪いんだよな。野郎どもとかガキどもーなんて言ってくるからね。俺も船乗りしてたから、船の上で仕事すつときはもうけんか腰だったからね。何やつてんだあーつてなこと言つて。漁切り上げて港に入れば一杯飲みながら・・つて具合だし。あとまあ長いこと仙台の会社、まあ自動車の整備工場なんだけど、そこに40年ぐらい住んでたのかな。同じとこじゃないけどもね。仕事には恵まれてた、楽な仕事だったんだな。あとは定年退職、そこで結構働いたからな、

まあ10年近く働いたから。だいたい70で辞めて、10年間はボランティア団体をして、あとは自分の好きなようにと。71歳まで会社で働いてあとは町内会とか老人会。うん、畑をやりながらだな。だから畑の履歴は長いよ。50年ぐらい、うん。

今も自転車で往復30分ぐらいで、午前中眠かったんだけども区長さんに声かけられたから、これお世話になつてる区長さんの言うこと聞かなくちゃねえと思つて今日来たのよ。ははは、これでええか。

大変なことは誰ともじゃべられなかったこと

閑上一丁目

地震の時は

うちにいたの、自宅。一人、俺一人住まいだから。あのね、俺は  
独居老人と障害者で登録されてるんだ多分。そして民生委員が「避  
難しなさい」と言ってるうちの玄関に来たの。そして回って歩いて、  
はーいなんて言ってるんだけど行く気しなかったの、だるくて。  
なになんて思ってるね、一緒に行くって言ってるね、玄関離れないん  
わ。困ったなって思って、一緒にいばいんー(行こう)、いっしょに  
いばいんと。そしてね、困ったなこのおばさん、でも離れないから  
ね、余震きたりもしたんだな、そしてしかたなくて避難したの。歩  
いて中学校へ。歩いて、避難してそれつきりだつちや。中学校の三  
階に入ってる。そしてね、感じたのはね、さっぱり世話しないんだな。  
世話しないっておれたちよく見たけども。そのうち段々一人二人と  
具合悪くなる人が出てきてるって教室に横になってるから机片づけ  
ないといけないの。そして震えだして、寒くて震えてね、なんにも  
かけるものないんだね、そしてカーテンはずしたんだな若い人たち。  
そしてカーテンあけて薄いカーテンだよ、薄いカーテン外してね、  
気は心だなって思って。そしてね、行政だかなんだかはわからない  
けどもね、名前書けて大学ノート一冊配られたの。そして誰くば  
ったの分からなんだおれ。そしてね、行政はいない、そして大  
学ノート一冊渡してね、ボールペンも渡したのかな、名前書けて、  
そして一人ずつ書いて行って、俺書けないから書いてくれて女の  
方書いてくれたんだ、それつきり。そういう行政みたいなのから接  
触あったっていうのは、そして水飲みたいんだけど水はないんだな。  
寒くても毛布ないしね。なんだなーって思ったの。そして二階に先  
生たちがいたんだな。

次の日は

次の日ね、息子が探しに来たの、なんでかっていうとあの、閑上

で上町でね、避難のときは赤いこのハンカチみたいな赤いきれ渡し  
ておいたの。それをあの玄関にばちんこつてとめて、そして避難し  
たの。そいつ見たから子供はね、避難してるって見て学校の教室探  
して歩いたのね。家はうちは流れて無いの。そして次の日10時ご  
ろかな、自転車で来たんだ南仙台駅から。そして土手のね、橋のち  
よつと向こうに自転車止めて歩いてきたんだな。そして俺、うつら  
うつらとしてたら肩たたかれて、あと車で迎えに来るからって言っ  
て、帰って行ったの。そして4時ごろかな、車通れるとこまで来て、  
迎えに来てそこに歩いて、そんなとき一般の人はね、あの、館腰の小  
学校に移動するって言ってる、騒いで、声かけられたの、それ行政だ  
ねあの声かけられたのは。館腰に移って炊き出しもできるから向こ  
うに移しますって、バス来ますって言ってる、そんな時に次の日だかな、  
何時ごろかな、行政の接触受けたの、そして津波の日はね、明日自  
衛隊が来てあの道路整備して救援物資持ってくるからって、ああ津  
波の日かな、朝かな。そして自衛隊が道路整備して救援物資持っ  
てくるからそれ待ってくれていうようなはなしあったの、次の日  
だねそいつ。だけでも自衛隊目の前にいるんだけど何も救援物資こ  
ないの、もう道路開通しても。

避難所には行かなかった

おれは行かないのそのまま4時ごろ中田に子供迎えに来て乗用車  
で中田に移ったの。

一か月ぐらい、五月のね、21日までかな。全然あの仮設の申し込み  
も何もわからなかったから、そして入ったっていうの聞いてじゃあ  
俺も申し込むって言って、申し込んだら向こう(屋敷)に。5月の  
22日だ。あのね、中田では窮屈で入ってられないの。あのね、  
日中一人になるの、みんな出ていくから、働きに行ったり学校に行  
ったり、そして人ね、朝7時ごろから夜9時ごろまでぼつんと一人  
で、つらいよ。隣近所に行かれないし行くところないんだもの。

仮設に移ったならば知らない人ばつかなの。顔なじみいないの。

だからこつちにばっかり来て遊んでたの。だからね、あの知らないボランティアはね、あの人にこつちでも会うし屋敷でも会うし。こつち来るとこつちおしやべりできるからね、やーやーって、あつちいともう他人行儀でもわからなくて口こつちぐんでね、そして人となりも分からないし何やってるのかも分からないし、だから話しかけられないの。そしてやっぱりね、男っていうのはね、なかなか途中から込み入った話までいかないの。おはようさようならって、元気がってぐらいなものだね。

### ヘルパーさんの話

ヘルパー頼んでる。週に二回。まああのね、転んだの。趣味合わない人居るね。趣味ないんだろね、あの、料理の味ね。気に入らないの。薄いんだね。塩制限してると感じだな。そしてうまくなくてうまなくて。だから今はね、味付しないでくださいっていうの。だからしょうゆもソースも入れないでそのまま炒めたり茹でたりでたままで、そして勝手にこつちでかけて。

移動するときは自転車。自分中心で危ないのひやつとするときあるけども。買い物ここの買い物バスに乗っていくのと、生協の配達便頼んでるの。でもしかたないねやっぱりね。来るときおしやべりするから配達に来るとね。

### 大変だったことはしゃべられなかったこと

仮設に入って一番大変だったことは喋られなかったことだね。見たこともない人に「こんにちはあんた何してるの」なんて、同じ仮設にいてもね。話しかけられないのって聞いたから。家にいたときは毎日喋ってたから。家に一人しかいないから、いろんな人集まってきたの。そして五人、まずおしやべり仲間五人いたのうちでお茶飲みながらしゃべるのが、そのうち三人死んじゃったの津波で。そして一人は施設に入ってるの、だから誰もいないんだわもう一人しか。

### 閑上の良いところ

よそで暮らすのよりな、よそでコミュニティに、新しいコミュニティに入っていけないもの。俺とにかくその学校にはいったばかりのときの消極性がね、一生尾を引いてるんだね。どこに行ってもいまからなら一人なんだおれ、一人ね。そしてアパートに入ってやっぱり一人でポツンってしてるんだからね、新しいところに、アパートに入ってる人もひとり、壁に向かってもしもしなんかいつてるような感じに。それで最初はねビデオ、DVDを買って、そしてあのプレーヤーを買って、あの、子どもたちに日本語吹き替えのやつ買わせたんだけどなかなかないんだな。そうするとひどいの、同じとこ何回も何回も繰り返してみても、どっちみてるんだかっという、字みてるんだか絵見てるんだか、でもね、三回四回見て理解しています。

## 仮設に来て閑上の印象が変わる

### 地震の前の話

昔は、日本通運のトラックやってたんですよ。そしてね、定年後ね、建築会社の運転手やってたんですよ。そこで14年やってたんだね。トラックね、ユニックついたやつね。あれ免許いるものだからね。トラックの場合は普通車の大型でもいいんだけど、ユニック付くとクレーン免許っていうのいるの。その免許取らなかつたら資格とらなかつたらあれなんだね。捕まるし、事故起こしたらね、もうその会社もやられるし、事故起こしたら俺もやられるし。震災前は閑上の七丁目。天理教のすぐ近くのアパートにいたの、アパート、〇〇アパートっていうところに、住んでたのね。二階建てだけど俺下の方にいたんだけどね。戦争は、行かなかつたけどね、学校は青年学校っていうのがあつたからね昔はね、訓練はうけた。まああと兵隊だけ行かないで、終わったけどね。私産まれたところ海軍の基地だったから飛行場がすぐそばだからさ、飛行機はいつも。ああ、北海道だから生まれ。それ海軍の第三基地でさ、兵隊さん結構いたし飛行機がしょっちゅう戦闘機から爆撃機から、いっぱいありましたね。こっちに来たのはね。えっとー何年に来たのかな、平成12年に来たの。うん。12年に来たんです。それまではね、ずっと北海道で旭川に今度旭川に日通にいて、定年になって建築会社と、ずっと、いたんだね。就職は旭川で。いやここ家内がね、腎臓と糖尿の合併症起こして、旭川の日赤で、入院しておっただけどね、ここにあれ、透析の血が通わなくなっちゃってさ、熱持ってそれで何回もね、外しては手術し外しては手術し、それではもうだめだつて言つてね。それで仙台行くわつて言つて。ここ娘が嫁にきてたの。娘がね、閑上に嫁にきてたからさ、別々に暮らして。で、まあ近いほうが安心だからということ

### 地震の時は

地震のときは家にいたの。これが運よくね、病院から退院して、

ちやうど入院してたもんで、退院してね、なんぼ、一週間ぐらいたつてからね、地震きたんだね。それで俺、地震で、俺寝てるんだけどもやつと起きて洋服ダンスの前に寝てたものだから、倒れたら俺下になつちやうからつて起き上がつてこう抑えてたら孫が高校、二年生の孫がね、来てね、「爺さんそんなことしてたら下になって死んでまうから、はやくそんなものから手離して外に逃げろ」つて言つて、そして外に逃げて、「今お母さんの車呼んでくるから」つて、そして車呼んできてそして着の身着のまま結局、閑上の小学校に避難したんだね。

婆さんは、平成12年の2月にね、2月に亡くなったんだ。俺が手術したのが、そしてあの、ばあさん倒れてすぐ俺今度具合悪くなつて入院したんだから。俺ばあさんの49日も何もおらんで、病院に正月も、病院にずっといたの。

おれね、あの、十二指腸潰瘍、全部は取つてないけどね、部分的に、胃は二か所、手術して、胆のう、それから臍臓全部取つて。74  
インシュリン朝晩やらないとだめなんだね。だから飲み薬とインシュリンは毎日。インシュリンもみんな流しちゃつたものだから、避難所からすぐ救急車でね、赤いの（注 トリアージ）縛られてこう縛つてたら、「とりあえずこう縛つておいてください」つてそして「一番にこういう人は救急車で運んでくれるから」つて言つて、そして来られて。

閑上小学校に避難して、次の日に避難所に、増田。増田のね、名取北高に一応はいつたの、北高に入つて、北高から今度増田の中学に。10日ぐらいいつたかな、10日ぐらい北高にいて、それから増田中学に。もう救急車で一応北高の体育館に来たけど、こういうわけ俺薬ないから夕べから飲んでないんだから、もうとにかくその処置して、病院行きたいんだつてとにかくインシュリン持たないからつていって、そして市役所の車で今度中央クリニックに連れて行つてくれさ、うん。市役所の車でね、連れて行つてくれて看護師さ

んついてね、そして中央クリニックで今度インシュリンうってさ。薬もどんなのか、あれだつて、いやそんなこと言われても薬の種類いっぱいあるからつて言つたらまあ一応、あの、病院でインシュリン打つたんならこういう薬の方がいいなって出してきてさ、そしてつてよく後で検査してからまた明日検査してから薬だしますからつて言つてね、一応次の日また検査してさ。増田中学にはね、しばらくくいたな。あれ、俺ここに来たのが9月の20日だから、それまでいたからね、北高から出てから増田、ずいぶんいた。

### 仮設住宅へ

仮設には、申し込んでね、それがね運よくね。娘の家もみんな流されたよ。娘らはね、別なあれ、借家借りて入ったんだけどね、俺は仮設、申し込んで仮設に。

全然知らない人ばかりだよここは。同じ閑上だったつて、もう町内班が別だったらわからないからね。だから覚えてる人だれもいなかったね。それでも仮設来た時ね、歩けなくてさ、大体あその避難所にいたときも歩けなくて後から看護婦さんがね、看護師さんつてあの、あれ、看護学校いつてる学生さん、あの人なんていつたつて、なんだつてヘルパーさんじゃなく、なんていうか、看護学校の生徒がほら、学校行けないから福島だつて学校行かれないからつて、アルバイトに来てたんだね、その人がもう病院送り迎えてくれてさ。うん。目も眼科に連れて行ってくれたりその中央クリニックも往復ついで歩いて、目が見えないもの危ないから、だからもう、ついで歩いてきてさ、ずいぶん世話になったな。ほんとにもう、名前忘れたけどあの、看護師さん本当に親切に。親指、これ親指がね、そしてレントゲン取ったら骨何ともないつていうんだ、そして突き指だつていうことで、ああもう、あの、看護師さんつていうか、学生さん毎日ほら、シップ取り替えてきてさ、ほんとに。この自治会長さんがおれのこと一番心配してたね。送り迎えしてくれてさ、集会所になんかあるつていつたら呼びに来て、また終

わったら送つて行つてくれる。食事とかは、まああの、元々家内が具合悪いから自分で作つてたから、まあなんとかかんとか。病院はタクシー。

ここにきてなんて言うか気持ちが悪く落ち着いたつていうか、逆にね。ほとんど知らない人ばかりだけどみんな親切だから本当に気持ちは仮設には入れて落ち着いたよ。かえつてあの、避難所にいるより気持ちの面ではずいぶん落ち着いたよ。集会所ではおれカラオケとかさ、お茶会とかね。この仮設来てからもね、一週間ぐらいね病院入つたのね。自分で電話かけて救急車よんだの。今は調子いいですわおかげさまでね。

### 今後のこと

今後ね、この仮設が仮設がなくなれば市営住宅か公営住宅につて、この前も一応ね、ここであのきてたときに申し込みはしたんだけどね。あの、HDKでいいからつて言つてね。いやほんとにいま、正直言えばここみなさんね、大体顔覚えてきたからね、あのね、生活するのはうん。なんていうか安心してはいれるけどね。またバラバラになるからね。そうそう、顔覚えるまではね。それこそあの公営住宅の五階建てのアパートなんて当たつたら、あれだよ、全然分からなくなるよ。ほんとさ、一軒家ならね、ここ付き合いができるかもしれないけど、あれあのね、五階建てのアパートになったら隣の人ぐらゐとは、付き合いできるかもだけど離れたらもうあんまりね。

### 閑上の印象

印象はね、まあ印象は隣の印象はあんまりよくなかつたんだけど、はつきり言つて。あんまりもうね、いつもあれだよああだこうだつて文句つけられてたからね。まああそこにいるときはあんまり、近所の印象はあんまりいいつてはいえない。家内亡くなったのはここに来て八年、九年目になった時、突然逝つたんだもん。こちらにきてからは、ちよつと変わり、みんないい人だね、なんか。俺がちゃ

んとね、あの、ちゃんとね会ったら朝おはようってね、晩はこんばんはっていうし、昼はこんにちはって言って皆さん声かけるからね、うんまあ自分も極力そういう風に声かけるようにしてるけどもね。

若い人たちの意見を吸い上げてもらいたい  
閑上七丁目

### 地震の時は

自宅ですね。かなり揺れました。母親がガンセンターに入院してたんです。11日(金曜日)先生の検診がないということなので外泊の許可がでて、おふくろを家に連れてきて、一時間足らずで地震が起こったっていう感じですね。地震の際は家の中で家具を抑えていて収まったら母親が腰を抜かしていたので、外に連れ出そうとしたら、小物が散らばり、片づけて外に出しました。そのあと家の前で親戚の人と隣人で、三人で隣の家の瓦が落ちそうので、危ないみたいな話しをしていたんです。家の前のマンホールも20センチ〜30センチ浮き上がっていたんです(地盤沈下したのか?)。親戚のばあちゃんも避難したという事なので、うちもということ、隣のばあちゃんと母親を車に乗せ、一応公民館に向かい、2人を避難させ、家に帰ろうと戻る途中で、近所のばあちゃんたちがいたので、車に乗せ、また公民館にいきました。公民館の門の手前で、よそで10メートルの津波が来てるって、ラジオで言ってたんで、消防署員の人に「10メートルの津波来るけど大丈夫か」って声かけたんだけど、消防署員は同級生なんだけれども、後から話聞いたら記憶がないっていうんだな。まあだいぶパニックだったのと思うけど、結局は、10メートルの津波が来るっていう話になってたので、中学校にいった方がという雰囲気になって、先に公民館にいた母親たちをもう一度車に乗せ、中学校に向かうことにしました。公民館の出口も三方向から来るんですけどそれぞれ譲った状態でわれ先っていう感じはなかったんですよ、中学校の南側の玄関で降ろし、みんなで上に上がっているように言って、家に行こうと思えば道路に出たら片側(西)に向かう車線が渋滞していたので、生協さんの駐車場に車を止め歩道に出たら海側に砂埃が舞っていて眺めていると、誰かが「津波だー!」って騒ぎ始めたんです。それを聞いて我に返り中学校に駆け込みました。だから

直接水を被ったわけではなく、足を少し濡らす程度で

二階に戻ってみると、校庭に駐車してあった車が流されそのあと家や瓦疎が流されるのを窓から見ていただけでした。流されていくのを見ていた女性たちの悲鳴がなんとも情けないような、悲痛な悲鳴が印象的だったですね。まあ何人かは濡れた人もいたんでカーテンを剥がして被ってました。夕方は7丁目の南側付近で火のてが上がり、ガスボンベの爆発があり―晩中爆音と共に燃えていました。後から解ったのですが、親類の人は走って公民館の二階までたどり着き、辛うじて助かり、隣人の人は港に行ったのではないかというところで帰らぬ人になりました。

### 中学校から避難所へ

私はそうでもなかったのですが、濡れた人は三月だから相当震えていましたね。公民館にも何人か居るようでした。中学校には食べ物等はなかったのですが、小学校では食べ物が出たとかいう噂だけ伝わってきました。次の日ですよね自衛隊が来てくれたのは。道路の瓦疎が撤去され小学校の方に歩いていく人、バスを待つ人、私は母親がいたのでバスが中学校の近くまで入れるまで待つてバスで避難所に向かいました。最初館腰に行く予定だったので満員で一中の方にお世話になりました。母親が手術したばかりで薬も無くの状態だったので、何とか車の手配があったので、母親をガンセンターにお願いしました。最初は教室を使わしてもらい、後講堂に移りました。各班ごとに役割を行い、大したトラブルもなく過ごしたかと思えます。二ヶ月半くらい、学校関係者、生徒さんにはご迷惑をおかけしました。

### 仮設住宅に

私は屋敷住宅に転居するのは5月20日に決まっていたんですが私のグループに単身の高齢の人が仮設が決まらなかったんで、28日まで掛け退出しました。仮設の自治会も新町7丁目、小塚原と行政等に関係していた人達で運営していて各ボランティアの支援に対

応をしてくれていました。日が経つにつれ行事等に参加される方も決まった人達になりつつあり、自治会の発促に携わった区長、会長、総務と仮設を去る事になり、協力してくれる人も出てこない、仮の住まいという気持ちが強いのか。あと2〜3年か悲しい事のないようにやっつけていきたい。

### 心がけていること

仮設にお世話になっている間、トラブルなきようにと思うばかりです。できれば協力できる方を見つけ出したい。

### 閑上のこれから

閑上に住んでいたところは行政、自治会と係わった事がなかった身ですが、市でも街作りの参加者を募集しているようですが、どの様に街並み形成をすればいいのか。案もないし、若い人達の意見を吸い上げてもらいたいです。自分としては、まず金融機関、病院、買い物との交通のアクセスをどの様に対応すればいいのか？それを詰めた。人間関係、つながりを大事にして、街作りを進めていけたらと思います。

### 閑上の良いところ

私は記憶にあるところで、閑上3丁目、漁民アパート7丁目と移り住み、それぞれに愛着も思いでもあります。閑上ではエアコンなんてなく、仮設で初めて使うようになりました。気候的にいいのか生活しやすい土地柄です。海の潮風が心地いいのか、香かな。なにしろガキの頃から住み遊んでいたところ、理屈でなくホットするところ、落ち着くことかな。故郷の概念はそれぞれあると思うがやはり落ち着くことに住みたい。

## 竹で盆栽作りました

閑上二丁目

### 地震の時は

地震の時は自宅にいました。下の娘がこの地震は今までと全然違うからすぐ逃げなきゃだめだよと言ったので、犬を最初に車に乗せて、慌てて娘と戸締りをして非常用のリュックだけ持って急いで家を出ました。真ん中の娘は子どもたちがまだ小学校にいるかもしれないってと言って家族で小学校へ行きました。地震後は携帯も通じなくなり、誰とも連絡が取れなくなりました。私たち家族は避難所の閑上中学校へ行きました。犬は教室に入れることができないだろうと思っただので、おしっこをさせて、繋ぐところがあればと思い、うろうろしてた時、次来た人たちが、9メートルの津波来てるって言ってますね。それを聞いて、じゃあここにいたら車がダメになっちゃってしまうと思いきやすぐ増田方面に向かって、逃げました。ところが出た当時はスムーズだったんですが、閑上小学校越えたあたりから渋滞し始めて、七キロの道のりが∞時間ぐらいかかったような気がしました。上の娘から仙台から歩いて帰って来て今名取駅に着いたけどどうしようかなというメールが入り、近くに居るから駐車場待っててと返信をして会えました。私たちは増田公民館に行き閑上の者ですけどいいですか？いいですよと言われ、そこで何日間か泊めていただきました。2週間ぐらいいたかしらね。増田公民館は和室もありますが、そこは小さい子どもさんがいる方とか、お年寄りとかが休んでいるので、他の部屋でと言われ、パイプ椅子で四日間ぐらいいました。ストローブがあっただけでもよしとしないといけないんですね。その後避難していた方々が自宅へ戻られてからは家族∞人でお世話になりました。地震で公民館にも被害が出て、地震があるたび外へ出ました。ここは避難所としては適していないので、どちらかを探してくださいと言われました。それで市役所で、聞きましたら増田小学校の体育館が、空いています、いいですよと言

われて、情報もすぐ市役所から聞くこともできると思い、移りました。ここに来るまでですから5月の20日まで増田小学校の体育館に避難していました。

### 仮設住宅に移る

増田小学校の体育館では、家族8人で。そしてここにも一緒に来ました。今は別々の世帯で暮らしています。向かい合いです。

閑上は冬は暖かいし、夏は涼しく、扇風機もたまにしか使いませんでした。うちは貞山堀沿いだったので、そういう点ではとっても恵まれていました。ここに来て、閑上の良さが分かりました。今まで当たり前のように過ごしてきましたけどやっぱり違うなあって、この頃は感じてます。生活するうえではこの場所すごく便利です。

### 仮設での暮らし

仮設は5月の21日からです。ここは、閑上二丁目、三丁目あと七丁目、一丁目小塚原、増田の人もいます。主人がソフトボールでこのグラウンドに何度か来て試合をした場所でもあったのでここに決めました。

避難所からここに移った当初は、よかったなあっては思ってたんですけど、だけど段々、もう少しようしてもらえるとよかったなあっていう面はありましたね。建物がプレハブの材料ですから、寒くなると結露がすごくてね、毎日モップ糸でふかないとだめなんです。天井がそうです。だから湿気でカビが出たりとか、それが一番の悩みですね。

### 集会所での活動

集会所は最初の頃、物はあまりありませんでしたが、色々皆さんに支えてもらい、とても感謝しています。本当に辛い思いをしてここに来ましたが、これと同等に皆さんから優しくして頂き、少しずつ元気を取り戻すことができました。ボランティアの皆さんにも感謝の気持ちで一杯です。

住民の皆さんが部屋から一歩出て集会所に来て楽しんでほしい、

元気になって次のステップを踏めればと思っっています。その都度声がけをしています。どうしても「いや、いいよ、行きたくない」とか、いくら言ってもこちらに気が向かない。時間がたてば、来るようになるかなって思っています。集会所では毎週カラオケをやっています。歌の好きな人達がサークルで楽しんでいきます。

集会所の中も雰囲気が変わるように椅子とテーブルを置きました。結果はよかったようでした。困ったことがあっても社協の人たちがいてくれるので、私たちは心強く思っています。

#### 竹で盆栽を作る

ここにきてこんなに竹林があるんだっただらび作りたいたいと思ってました。たまたま秋保の方で竹林のイベントがあり、竹をもらうことができて、一つ願いがかなって、ほんとうに嬉しかったです。この辺は結構竹林あります。竹は同じ長さのものを本用意します。上の部分を節から節の所を長方形に切り、本合わせて鉢にします。植えるのは正月用の松竹梅ですので、松梅竹、南天と、植え終わったらコケを張り、少し化粧砂を敷き、鶴や亀を飾り完成です。

#### 今後のこと

家を建てる力もないので、集合住宅を希望しています。集合住宅に入り先のことをゆっくり、考えたいと思います。東部道路の西側を希望しています。閑上に戻るといふ人たちは、東部道路の西側を希望してみたいですね。何年後にここを出るようになるかは分かりませんが、だんだん年を取って、今度はどうなるか分からないと思うとやっぱり安全な場所、望みますよね。

#### 閑上のよいところ

閑上のよいところ、そうですね、まあ夏は涼しく冬は暖かく、やっぱり魚や野菜等新鮮なものが食べられたことです。母が行商したこともあるって、私も魚をえるようになります、何年間か市場へ魚を買いに行っていました。魚市場では漁師さんがとってきたものをすぐ、買えましたので、ほんとうによかったなあと思っっています。閑上は漁

師の町なので中には言葉が悪い人もいるけど気持ちには皆暖かい人ばかりです。

自分が体験するとこんなに不便なものかと思った  
閑上七丁目

震災前は七丁目に住んでいて、で、家が全壊全流。被災前は一戸建て。親は行方不明。

### 地震の時は

震災の時は津波にのまれて流されました。家について先に父親を避難所に行くって言ったから貴重品持たせて、閑上公民館に行くって親が行って、それっきり。あとあんまり言いたくないけど閑上公民館でね、来た人たちが、中学校にいかされて。公民館に行くって言ったから、公民館ならある程度人とかもいっばいいるから大丈夫かなって思ってた、で、自分が今度避難すると思った時にはもう水きてたから、そのまま流されて、水に流された。

自宅は七丁目のウラヤスのそば。新興住宅。自分が避難するときにはもう、水きてたんだよね。道路濡れてたそのとき。で、そのまま水に流され。で、一晩中こころ辺まで流されてたんだなあ。次の日の夕方、次の12日だよ、12日の夕方ヘリコプターで引き揚げてもらって、夕方ギリギリだなー暗くなるかならないかごろ、あの時引き上げてもらって。多分このへんあたりなんだよな。皆こうがれきとかこう、湖みたいになつてたから。寒かったですよ、その日星綺麗に見えてました夜。あの、がれきにこう掴まってた状態。下手に動いたり泳いだりするよりも、がれきに一晚だろうな。そんな時に星がきれいでしたよ。まあそういう方すると怒られるんですけど。その日のヘリコプターの救助は無理だから、次の日になつてから救助始まるんです大体。どうしても流された人、ある程度まともってあればまともったところから救助始まるから、どうしても一人とか、の状態の場合だと最後になると思うんですね。あの先に救助した人から、こっちの方に流された人居るよ流された人居るよっていう感じでこう探してくるから。どうしてもある程度固まってる

人が先になりますよね。そうするとその人たちから聞いてこっちの方に流された人居るこっちの方に流された人いるって。だから結局一人でいる人たちっていうのは一番最後になってしまっただけですよ。救助が。だから先に救助された人から聞き取りしてあつちのほうに流された人居るっていうのでこうたどってくるから。もつとひどい思いした人居るから。なんていうのかな、モロにね。中学校とか、中学校とか小学校にいた人っていうのは、見なくてもいいようなものを見た人たちが多いから。

### 自衛隊病院へ

次は自衛隊病院。仙台駐屯地。あの民間の、病院にはもう収容不可能だから、直接自衛隊の駐屯地に降ろされて、点滴うたれたから。自衛隊病院の方にいったとき、今回は大臣名で、民間の人はほんとは受け入れないんだけど、今回は特例で受け入れるっていわれて、結局ある程度大きな病院っていうのももう満杯なんですよね。だから自衛隊病院が、あの被災者は受け入れる。点滴とあれ、やっぱ80り低体温症になつてたんです。逆に言うと水の中に浸かってたから、ある程度下手になつてたんだ。逆に言うと浸かってた部分である程度よかつたと思うんですけど。浸かってたいうかガレキに掴まってる。うん。下手に。結構。結構あつち、流されてるとき方角がわからなかったから、言葉悪いですけど、あの、街が燃えてるのである程度こっちの方が、閑上の街、自分は多分こっちの方にいるんだなっていう感じで。あの夜燃えてたの見えましたから。燃えている状態で自分のいる場所が分かつたっていうか。大体。うんと、たぶん大橋の上に赤色灯ついている車こう見える、赤色灯の車あつたから多分このへんが大橋なんだな、って。だから暗くなった時、あの、暗いのが怖いんじゃないですよ。あの、自分がどの方向にいるっていうか場所がわからないから、で、ある程度、燃えてましたよね閑上。でたぶん閑上の街っていうのは自分から見るとこっち側なんだなっていう感じで。多分こっちのあのほうに流されたんだな

て。自衛隊病院には一週間以上はいた。一週間以上は。そのあとは自衛隊の人に送ってもらって避難所に。

### 避難所に移る

避難所は文化会館、最終的に。私は後から行った方だから、分かんなかったんですけど、やっぱり最初の方は人も多かったですってました。最初からいた人から見ると。「文化会館はかなり多かった」って、自分が行ったときはある程度落ち着いて。場所もあった状態だったから。やっぱりあの避難所での食べ物ややっぱりあったと思いますよね、結局きちんとした食べ物じゃないですよ。要するにおにぎりとかよつとした缶詰だったから。よく見るとやっぱりそれで結構栄養状態が悪くなって体調悪くした人が多かった気がします。結局あの、何か、菓子パンが、朝菓子パン昼も菓子パン夜は缶詰とか、うん、結局あの、偏った食事になるんですよ。萩の月もありましたね(笑)。昼萩の月とか。

なんていうのかな、それしか食べ物がないからしょうがないんですよね。あとは適当になんかコンビニ行ったりして自己調達。結局体一つしかないから、そこから始まった、うん、着の身着のままぐらいいです。あああと結構お風呂は入れなかったですよ。うんやっぱりお風呂っていうかあの、なんていえばいいのかな、お風呂も毎日行けたってわけじゃないですからね。あんときまだ、三月の終わりがごろっていいのは。男性の場合はある程度我慢できますけど、女性の人はつらいだろうなと思って。あとなんていうのかな、なかなかあと替えの下着とかああいうのも手に入らない状態ですよ。着替えとかは貰ったり。貰うっていうか支給だね、一人何枚までとかそういう感じでした。ただあの、文化会館だったから、ペットを飼ってる人と結構ぶつかりましたね。あの、なんていえばいいのかな、ペット飼ってる人たちとのなんていえないのかな。鳴き声あと匂い、あとうーん、あとは、結局あの、文化会館のまま犬猫飼ってる人、こういうような状態だからなおさら大変だったと思います

よ。あの犬猫。そのまんまあの、避難所の中に動物も一緒にいたら、おんなじスペースに。おなじスペースって言えばいいんですかね。ある程度五月ごろになった時は上と下で別れましたね。五月ごろだよな多分。あの動物飼ってる人たちは二階。風邪ひいてる人たちには隔離するっていうか、あれでずいぶん体壊しましたよね。結局まだ寒い時期だから、四月とか。避難所のほうは一番最後まで残ってたから、五月の、五月いっぱいはいはあれですよ、まだ避難所でも一番最後に出て行ったから、9月ごろですよ避難所。どうしてもあの若い人居ないと物資とかこう、手伝いとか、だから最後まで残ったんです。避難所では物資を運んだり、あとゴミ片付けとか、結局自分たちでやらざるを得ないから、結局ある程度若い人居ないと手伝いせんよね。自主的にっていうか、やらざるを得ないんですよやっぱり。結局見てる特定の人しか誰だってやりたくないですよ、避難所生活疲れ切ってます。

### お父さんは見つからない

お父さんを探した。避難所にいるときは毎日バスに乗って。でも見つからなくて。分からない状態だから。避難所に行ったときあとから公民館に言った人たちはなんていうのかな、どういう状況かは分からないんです。だから、なんでそういうふうになったかって、結構多いんですかやっぱり。中学校に行く途中に、津波にのまれたのか。

### 仮設に移って

今一戸建てとの違いはつきりと分かりました。今まで一戸建てにいたから、一戸建てと仮設住宅での違い。仮設住宅での夏の暑さ、冬の寒さ、季節感完璧ですよ、違う意味で(笑)

もう閉上はずっと生まれたときから、閉上だったから。やっぱり自分が初めて、仮設に入って、仮設の生活っていうのがこんなに大変なのかなっていうのがわかりました。よくあのテレビとかニュースで災害起きたとき大変だなんて感じて見てたんですけど、自分がお

んなじ体験して初めてわかるっていうか、ああこういうのが、被災を受けるっていうのはこういうことなんだって。なんていうのかな、テレビとかでよく災害起きて避難所にいるとか仮設にいるとかかっていう映像見えますよね、そうすると、見た感じは「大変だな」っていう感じなんですけど、実際に自分が体験すると、こんなにも大変でこんなにも不便だっていうのがわかったんです実際体験してみても結局空間が大きいわけじゃないですよ、今までみたいに一戸建てにいる時みたいじゃなく、ご飯食べる場所くつろぐ場所、寝る場所、あと一番なんっていうのかな、風呂、お風呂の狭さ。うん。お風呂が狭いんで、まあこんな言い方すると怒られるんですけど、買い物に行ったとき、あの、極楽湯に行って大きいところにたまに入ってます。結局、やっぱりうん、なんていうのかな、やっぱりいつも狭いお風呂に入るっていうのとまたあいう大きな空間に行くのでは違いますから、あとお風呂のふろ炊きがしばらくできなかったこと、追い炊きの機能がしばらくなかったから。今は着いたんですけど、いつごろでしたっけね、追い炊き機能付けたの。しばらくたってからですよ。確か冬一回越したんだよな。夏前あたりじゃなかったかな。あの追い炊き機能付いたの。

閑上っていうのも、お互いあの、面識はあるんですよ、ああ見たことある人だなんて思ってた。で、面識はあるんですけど、初めて仮設に入った時、ああこの人はもともと何丁目の人だったんだっていう。うん。面識はあるんですけど実際生活してみるようになって、初めてああだれだれさんだったっていうの。顔は分かるんですけど名前まではっていうの多かったですよ。で、結局この仮設っていうのは丁目関係なくみんな入ってますから。仲良くなるっていうか、しばらくはあれだよ、みんなただ挨拶するぐらいです。ゴミ出しに行つたぐらいで。ようやくお互いになって集会所であって話するようになったぐらいで。たまたま集会所の前通った時

声かけられた時中に入っていくっていう感じで、今回みたいに「ちよつと作ったのあるから食べていけ」みたいな。

### これから

結局はなんていうのかなもとのああいう街の状態をわかってるから、今後のことっていうと結局いつになるかは分からないことをまつついていう状態ですよ。だから、現地復興がいつになるのかっていうのですよね。やっぱりみんな気にしてるのは結構、見えた形での動きっていうのが無い状態ですよ。あのまんなまの状態がずっと二年半。二年半ぐらい続いているから。だからいつになればはつきりするのかなって。だからとにかくあれですよ。目に見えた形で始まってほしい。結局みんなあれなんですよね目に見えた形ではじまってないからみんななんていうのかな、困ってるんですよ。何年後にどうなって何年後、なりますよっていうのがわからないから。結局あの仙台と岩沼に挟まれてるから、仙台の進み具合と岩沼の進み具合がわかるから、どうしても自分たちの閑上っていうのはどういう状態でできるのかなっていうのがわからない感じですよ。

うん結局はあの、戻りたくないんですよ余裕があるわけじゃないから、結局なんていうのかな、みんながみんな余裕ある人は一戸建てとかマンションとか買うことができるんですけど、結局は余裕なければ探すこともできないし買うこともできないから結局元の閑上に戻るしかないんですよ。戻ってもう一回閑上に住むって、ことしか。結局災害起きて、再建するっていうことは、自己再建の部分が大きいですよ。でも。だからそれはどうしようもないんですよ。余裕のある人もいれば余裕のない人もいるっていうの、世の中の流れだから、ただあれですよみんな思ってるのは、いつになれば戻れるか、目に見えた形でわからないですよ。

### 閑上の良いところ

夏はよかったですよあの、あの窓開けてれば風来たから涼しかったですよ。あとはあれですよ、夏祭り、閑上でやった花火。閑上

でやるから意味があったんですよねあの花火は。1月の終わりごろですよ毎年、だから一番早かったですよねこの辺で。まあ懐かしく思う。あと閑上ビーチかな、ありましたよね。やっぱり閑上っていうと港町だから夏の賑わいが印象的でしたよね。寒くないっていうか、うん。結局もともと港の街だからどうしても夏の印象が強いんですよね。あとはあれですか日和山。日和山から、上にのぼってみると町があつた状態、あれが覚えてますよね。今の状態みるとほんとの更地だけしかないから。で、そんなところですね。

閑上行く気になれない

閑上一丁目

## 地震の時は

生まれは福島だ。うーん、昭和25年に来たのかな。だから60年ちよつとになるかなあ。若いとき来たからね、うん。

勤めてたからね、うん。勤めてね。定年になったんだわ。定年になつて家にいたんだね。そうそう。ほら揺れが大きかったから、家の中めちやくちやになつてしまつたんだよね。それでほれ家内がここには大変だということ、片づけ始まつたんだ。したらまた大きい地震が来たんだよね。うん、また来たんだわ。家の中のめちやくちやに倒れちやつて。これはどうするかつてこと二人で話して。そのうちにほれ津波が来るぞつて。で避難つてことにね、うん。隣近所の人が避難すつからつてことで騒いでたから。そのときに遠く見る暇も何も無んだからねえ、もうめちやくちやになつてたから、家の中。書棚から冷蔵庫からみんな倒れてしまつてたからねえ。それでじゃあ避難しようつと、なつてほれ二人で避難したわけだ。それで外、こう東の方見たら、ものすごく黒いのが見えるんだよね、黒いのが。なんだなあつて、うちの家内ちよつと足悪かつたんだよね、足腰きつかつたんだね。痛いなあつて言つてたから。あんまり急いで歩けないんだよ。それで手引っかけて二人、少ししたら歩けるようになって。したところを津波、どかんと津波にやられてしまつて。二人とも波に飲まれちやつて。で私は泳いで状況に流されて（そのままの状態）。ものすごい勢いで来たからね、ビシャビシャーンつて。で私は泳いで、しばらく流されて。それでちよつと植木に掴まつたんだよ。植木に掴まつてもう離さないんだ。じつと我慢してね。寒いけど我慢、うん。それでももううちの家内もわかんねえどこ行つたかね。でその植木に掴まつているうちに雪が降つてきたからねえ。寒くてもうガタガタ震えちやつて足。着る物も無いでしょ。着る物うちの中もうめちやくちやでびしょびしょだから。どこ

かのうちの二階だったかね、ズボンが二つあったから、それを借りて、いないけれども借りて、自分の着てるもの投げたつたわもう。びしょびしょだからね。その二階がちよつと水浸しになつてなかつたんだよね、二階だから。それでそこで動けなくなつてしまつたのね。でそこで眠つたんだかねえ、眼開いてたか、なんぼか眠つたんだかねえ疲れてわ。

## 避難所へ

今度避難者が避難した中学校に行つてみたらほれ、うちの妹がいてねえ、家内の妹がいて。あー兄ちゃんとかつて言つて。妹が姉ちやんどこ行つたの？つて言つて。何ぼ探してもわかんねえんだつて言つて。どこにもいねえから。探しても何もいからねえ。そのうち今度館腰小学校さあれするつていうことで、バスが来たから、それに乗つて行つたんだよ。館腰小学校、避難所に。

私はねえ避難所にいたのは4日から5日くれえだ。息子のとこの部屋借りたところに移つたから。着る物も何もなかつたからねえ。息子探して来たから。息子は長町。うん。それでここに来るまでは。5月の3日かな。だから一か月ちよつといるのかな。一か月ちよつとはいたな。でもやつぱり長くいらんなかつたんだよね。やつぱり親じやなく息子と契約してつからね、そのままそこに泊まつてるつてわけいかないのよ。やつぱりでもねえ、ここに申し込んでたから、そうしてここに来たんですよ。結局あつちにはたつて家内のほら探してたりしたからねえ。毎日通つてたから、息子と二人でねえ探して。で車はあるんだけどガソリンがなくなつて。歩いていって、長町から飛行場の空港ボーリングまで。そうだよねえ。でもやつぱりねえ探さなきゃいけねえから。毎日だったんじやないかね。で岩沼の方も行つてみたけど、いないから。ただ頼んだり、警察に行つて頼んだりもしたんだ。またこつちの空港のほうさ来てねえ。そしてそれでも見つかんなくて。死亡届出したのかな。で7月の25日だったかな。分かつて。電話来てわかつて。で引き取り

に行つたんだ。だから4ヶ月もかかったんだね。そのあと8月にお葬式。・。だったねやつぱり。あのまま行かせたくないねえ。かたかたかたかたつて入れ歯割れてしまつてたんだよ、寒くて。震えて、うん。それだけやつぱり寒かつたんだね。もう二度としたくないね。

### ここでの生活は

酷いねえ。ここの生活の上に食事作んなくちやなんねえから、酷いなんてもんじゃやないねえ、うん。まあ自分の食べるもんだからね、作んなきゃないけど。結局出てつて買つて来るしかねえ。自転車でも、自転車も買つて。車も無いから。流れてしまつたつて、それから買わない。ひどいんだけどねえ車ねえと。

### 今後の事

閑上はねえ、行かない。なんだか行く気になんない。もうねなんか行く気になんねえんだよ。みんな閑上行つてくつから何て言つて行くけど。行つてる人もいるねえ。けどなんか嫌なんだよだなあ、なんとも言えなくなつてくる。嫌んだね、うん。うーん、結局この住宅できるの待つてね、そこで入れてもらつて、生活するしかないんだけどね、もう年だから。この年になつて何するわけにもいかないしねえ、できないでしょ。だから入れてもらつてお世話になつてわ。行くしかねえんだね、うん。80過ぎてねえ、もうできねえ。うん、過ぎてるよとつくに。頑張つてるんだ。ははは。まだこれ閑上さ建つなんていうんだけどね。だけどねそうなつたつてうんと不便ですよ。店もなしに交通もね。ここより酷くなんじゃねえか。だつた簡単だつて、戸数が少なから店もできないでしょ。そうすつとどつから今度買い物していいかわかんないでしょ。生活すんの増田まで出てくるんだよ。そしたら不便になるでしょう。市の人に聞くことができかもしれないつて言うけど、当てになんねえからね。それで考えるとまた車つてことになつてしまふんだかね今度。生活できなくなるから。簡単にここに入つてけるなんて言われたつて入つたつて、生活できなくなるもの。若いものならいいけども、我々みたい

に年取つちや、すぐにあそこ行つて買つて来るからつてことできねえから。閑上暮らしても。もう病院もないんだからねえ。やつぱり全部こつち出てこなきゃだね。

本当あつちさ行きたくねえんだけどね。うーん。最初に住むとこさあつちさ建てればねえ。うーん行くようになるかもしれないからね。閑上にできればね、結局ここ（仮設住宅）にいられなくなるから。できるまではここに置いてもらうんどうけど、できれば入んねえとつてことになるからね。そうすつとどうしても向こうさ入ることになると思うね。ねえ。いやー交通悪いし、店は無いし、病院は無いんではやつぱり。ねえ。買い物でバス来るの待つてたつて。・。では何もできねえつちや。外で仕事してたつて帰つて来れない。

### 閑上のよいところ

いいところつてのは無えね。うん。魚が食べられてつてくらいだねえ。田舎町だから。

小塚原

頑張れという声に励まされた

### 地震の時は

私は一人でお茶を飲み、テレビを見ていて地震に驚き、家を飛び出し、庭先をウロウロしていた所に、町内の副会長さんが来て、「5分ほど地震のことを立ち話した後、一応老人世帯の安否確認のため、2人で軽トラックに乗ってラジオを付けたら津波が来ていることを知り、急いで「5世帯ほど回っている途中で、何人かの人にどこに避難したらいいのかと聞かれました。私は自宅の2階か谷地の高台に逃げた方がいいと言い、また走り出したら貞山堀の方から黒い砂煙が見え、橋の上で津波だと泣き叫びながら公民館の避難所に向けて走って行きましたが、途中副会長は車から降り公民館の方へ行きました。」

### 津波に流される

公民館の前の道路を走っていると、自宅に向けて波が流れていて、私は自宅にいるばあちゃんのが気になって、無我夢中で軽トラックを走らせたけど、橋が地震で壊れて交通止めになっていたので、車から降りたら腰まで水に浸かり、目の前に小さな小屋の上で、人の人が見えたので助けを求めたけれど、その後津波がまた来て流されてしまい、無我夢中で近くの瓦礫にしがみつき手を離さないよう必死でした。

### 頑張れという声に励まされた

東部道路の上から電気を持っている人が見えたけど、声を出す力も無かったのです。瓦礫の上にながろうとしても中々木が揺れて大変だったけど足を使って少しづつ上に乗っていったら車が浮いているのが見え、そこに上がろうとしてもツルツル滑って上がれないから今度は左右見渡したら、大きい船が見えて、その上に行けば助かるんじゃないかと思って、必死になって四つん這いになって「5分くらい歩いたと思います。気づいて電気を付けて「頑張れ」と声を

掛けてくれた時、やっと助かったと思ひ安心しました。その人が消防隊に連絡してくれてクレーン車でボードを下ろして助けてくれました。その後バスに乗って折立小学校で濡れた服のままストープに一晚あたたかたけど、寒くて柔道着を一枚貸してもらい朝が来ました。次の日ボランティアの人たちが安否確認という事で住所と名前を言ったら、偶然にも愛子小学校にばあちゃんが居ることを知らされました。今度は愛子小学校に「日間お世話になりました。」

### 避難所に

その後は名取の文化会館にずっとお世話になりました。その間はあちゃんは品署生活に慣れなくて体調を崩してしまい、頭痛い頭痛いと毎日毎日言っていたので、友達の貸家を借りたのです。私自身はばあちゃんを残して文化会館に行ったり来たりしながらお互いの情報交換をしながら会話していました。

### 雇用促進住宅へ

今はばあちゃんと2人で住んで、息子夫婦は別の棟に住むことになりました。上を見れば切りがないけど自分は車の運転が出来るし、また健康なもので仮設の友達の方に回って色々な話をする中で、農家をやっていた人は野菜を作りたいでも作る場所がないというけど、健康でこうして生きているだけで幸せと口々に言っています。

私も今は一つ小さな機械が残ったので、修理をして自分の土地で畑を耕してトマト、キュウリなどを作っています。ただ毎日通いですけどね。みんなに「おいしい」と声を掛けて貰えるだけで幸せです。

### 小塚原の良いところ

津波の前は近所の方が家族のような付き合いが出来て、毎日朝、昼とお茶のみに行ったり来たりして楽しく暮らしていました。色々な行事に参加も協力的な人が多かったですね。

小さくてもいいからちよつとした家が欲しい  
元閑上七丁目

### 地震の時

ヨークベニマルにいました、そこで、買い物かごをたがえて（持って）、買い物しようとして店内に入ったら地震になっちゃって、もうシヨーケースに掴まっちゃってさ、時間はちよつとわからないな。それであの店の入り口のガラスも壊れて、もうしばらくお客さんたちと駐車場に寄せられて、それで余震もあつたでしょ。余震が大体終わって家に帰ろうかと思って思ったのが大体一時間後ぐらいですね。地震が落ち着いたんで、スーパーから自宅へ戻ろうとしたんだけど、あんまり普通の地震と違うから、市役所に寄って情報を聞いていくかっていうことで市役所に寄つたんです、そしたらもう帰らないでくられて言われて。市の職員の方に体育館の方にちよつと移つてくたさいって言われて、その晩はそこで車中泊して、次の日そこは遺体安置所になるっていうんで、増田小学校のほうに移つてくたさいっていうことで。

小学校が避難所になり、それからずつといて、もう学校が始まりますよね。で、体育館の方に移つてくれられて、移動しました。増田小学校の町内会の方がすぐ動いてくれました。他の避難所よりもずつといいと記者の方に言われました。三度のご飯が食べられるというのとは一番安心感があつたんですよ。

### 雇用促進住宅へ

入居したのは5月16日です。とりあえず2年間ということでは長を引き受けました。5号棟のほうからだんだんこつちに住んできたんで、雇用促進って分かんと思うんですけど、国の建物なんですよ。でサッシじゃない網戸もクーラーもついてなかったんですよ。署名なども集めやつとクーラーが付いたのは10月でした。もう夏終わってますよね。何をするのも時間がかかり、草刈りや駐車場、集会所の使用方法など様々な問題がありその都度会長として解決し

てきました。ひよりさんが入ることにより大分楽になりました。

### 今後のこと

私自身若い頃からずつと苦勞して、それで家を建てました。あのやっぱり私こうなってみると閑上そのものじゃなくてもいいですから、その近辺あたりでもいいかなって思ってるんですよ。さっき言った通り労働者だから、パソコンとかそういうのはだめですから、どうしても外でいろいろやるようになるんで、まあ小さくてもいいからちよつとした家が欲しいかなって思っている。いや地震災前5年ぐらい前に建て替えたんですよ。全部流されて、他県で震災があるたびに国の基準もうるさくなつてきたんで、あの床だけは残ってるんですよ。それで通行許可貰えるようになって、ガソリンも手に入るようになってから毎日行つてましたね、増田小学校から。そしてちよつと掘つてみて、いろんなものがあれば持ってきました、ただ機械とかはみんな出たんだけどだめですよ、砂が入っちゃって錆びて。ただ使えるものはお皿とかそういうものがあれば、自分のうちのやつは持つてきて使つたけども何枚もないんですよ。道具も出てきました。

### 閑上のよいところ

閑上はすべて私はいいいと思いますよ。子供のときはどこでも同じですけどね、故郷は。まあ閑上ばつかりじゃなく塩釜であろうと三陸であろうと皆子供のときは遊び場は同じだと思つたんですよ。ただ今後に関しては閑上、名取市に空港がありますよね。この空港を利用しない手はないと思いますよ。それで東部道路のインターもあるんですよ。だから閑上、漁業としては今大変厳しい状況なんですけども、加工品が多いですよ。だからあのカマボコのすり身なんていうのはアラスカで取つてもう船内でみんな処理してすり身に冷凍加工品にする。だから海沿いでなくてもいいので、商業その危険区域っていうか貞山堀から西の一部漁港など商業地帯にしたほ

うがいいんじゃないかなと思って。だからそれはもう行政で（が）寝ないで頑張ってもらわないとしょうがないですよ。

閑上のたこ焼きを再現したい

閑上四丁目

### 地震の時は

その朝ちようどごみの日だったんですよ閑上地区は。で、ゴミ投げに行く朝に、すごいカラスの鳴き声がすごかったんですよ、弱い鳴き声から強い鳴き声からそれからなんかこう弱ってるような鳴き声が一斉にむわつときて。サイレンは一度もなりませんでした。あの鳴ったっていう人がいましたけど、一度もなりませんでした。なんでかっていうと、うちはもう魚市場ですから目の前にサイレン鳴るんですよ。魚取れたとかなんとかかって時には必ずサイレン鳴らして。その時めちゃんと、情報鳴るんですけど、その時に普通だったらやっぱり危ないと思ったらこう、おかしいなって思ったらサイレン鳴らしてもらえればみんなよかったんでしょけど、それが一切鳴らないんで、もう表に出て、もう10秒かそこらですよ、一瞬止まってから今度急にどーんと下から突き上げるようなで、炊飯器がもう飛び上っちゃって、落ちて、で蓋割れちゃったんですよ壊れたんですよ。近くのところでは液化化現象になってましたから、これは逃げるしかないって思って、で、お父さんからもらった形見のラジオ、このラジオで津波の警報がきたんですね。聞いたんですね。それで公民館まで逃げたんですが、公民館まで逃げたのはいいんだけど、津波がここではだめだって言って今度また中学校に。もうここでダメだって。逃げて自転車において、昇降口、昇降口っていうか玄関先において、階段のぼって二階に上がって三階に行くか行かないかのときにはどーっと津波がもう、その時は車とかガチャガチャ、もうばりばりめりめり、それでみんなそこであれだからって三階屋上まで逃げろっていうことで今度屋上が鍵かかったものですかから急いで持って来いって言って、で、早くはやくって言ってね、私も叫んで、あけて、屋上に上がりました、屋上に上がった途端にもう放心状態でしたね。

本当に現実にみたのが、上がまず白い真っ白でした。屋上からはつきり見ました。後ろ上が一番上が真っ白。潮吹いて、その次に真っ青、サックス色つていうか三段目が薄い水色、その次に薄茶色。下がもう真っ黒い泥がうわーときて、で、津波のところでは薄い茶色の砂埃がばーって電信柱がバタバタってなぎ倒されてきたんですよ。それも全部見て、これ、夢なのか現実なのか映画なのか、撮影これで終わりだつていうようなものなのかも、何もわからない。はい。でそこで閑上中学校のところにいたのは約1000名の方、が避難して、主人も一緒です。

お母さんが亡くなったんですよ、ウラヤスで。あと一歩というところで助かったんですけど、重いコートを着せちゃったんで。館腰小学校のときかな、3月の16日にお母さんが見つかったつて言ったんだからそうですね。あの館腰小学校にいたときに、お母さんが亡くなったつていうのが知らされたんですよ。

### 雇用促進住宅での生活

5月の28日に来たんですけど、最初からここにきたわけじゃなくて、5号棟にいたんです。そこでトラブルがあつて移った。そのうちに主人が病気で亡くなって自分も鬱になりました。怒りはあるわ鬱にはなるわ、氷川きよしさんのDVDやNHKの出演見て随分励まされました。被災地からの声で私も出たんですよ。二月8日の日にカラオケ大会つて仮設対抗でもきよし君の歌歌つて優勝しました。のど自慢に出場したいです。局名氷川君のに決まっています。

### たこ焼きを再現したい

閑上でタコ焼きをやつてたおばちゃんがいたんです。レシピを残してないんだけど私自分でレシピを作ったんです。再現したんです。だから今調理師の資格目標、必ず閑上のたこ焼きの再現これだけはやりたいと思つてます。

### 今後のこと

高柳と大曲は閑上地区にあつてますよね、そこが閑上のまち、そ

こで街を作れないのかつて。あれだけの土地があるんだから、田んぼも国で買うなりなんなりしてやつてくれてそこで家を建てるなりしてもらつたら逆に東部、東の方、ある程度小塚原で家建ててる人たちはそれはまあ自分たちの責任で生活するんだからそれは申し分ないと思うんですけど、閑上の町つていうのは本当は全部危険区域なんです。一丁目から。

今回津波は皆初めての経験ですよ。いかにどうやつたらあの津波に遭わないで今度は本当に安心して安全に住めるかで、その場所を考えるべき、東に考えなくて西に考えて、そこで生活を建ててそつちはもう津波来ても防災でなんとかしてもらえような状況にしてほしいつていう、みんなそう願つてると思うんですよ、「メートル高台作つたからいいもんじゃやないもん」。

### 閑上のよいところ

まず、口は悪いのは一丁前なんです。馬鹿野郎この何やつてるんだつて言うのが閑上なんです。でもそこで、なあこうだからなつて、いうのと馬鹿正直つていうか、あと口は悪いんだけど情があるつていうか。昔はじいちゃんばあちゃんとかで育つた人が多かったので、やつぱりね、優しい優しいつていうか情があるつていうか。まあ全員が全員ではないですけど。口は悪いんだけどまあ性格がいいその中でまあ特徴ね、色んな性格の方がいるんで、楽家みたいな人もいるし、でも人の面倒見はやつぱり半端じゃないですね。

避難所でその日に鍵を渡され出て行ってくれと言われた  
閑上五丁目

### 地震の時は

家についてテレビ見てたら揺れだしたからあわてて「あーこいつ強いな」って思ってた外に飛び出したら隣の家の家だったから、姉も飛び出してきて、あとなんだ、姉の旦那が散歩からゆっくりして帰ってきたんだな。揺れた、立つてられないもの。そしたら今度液状化になってきたんだな。水が溢れ、水っていうのか泥っていうのか溢れ出してきたんだよね、もう立つてられないもの。それで車が行ったり来たりしてるんだよね、行く車来る車。車が何でもないのでかな本当にどのくらい揺れたのかは分からないけどさ、普通な感じで行ったさ。ラジオでは言ってるから、ラジオでは言ってたんだけどまさかあっちまで来るとは思わないのさ、まあ大津波警報だったからなあの時確か。

それで俺車で姉と兄を乗せて公民館まで避難したのさ、それでそこではもうほら町内会の前会長した人が車の誘導してて「こっちに入れる」とかってやってたから俺も少し手伝ったのさ。日和山町内会って、一番多い町内会かな、600ぐらいあったと思うよ。公民館に避難して、でも中には入らない。みんな外でほら、車止めて車のそばで何か喋ってたのかな、子ども小さいのもいたし、大人がほとんどかな、車の誘導したんだそれで。それで俺今度ほら、甥っ子の嫁も一緒に合流したから、今度俺が小学校に、8年のやろっこ（男の子）いたから、じゃあ小学校に見てくるから行って行ったのさ。小学校まで、そしたら小学校三階にみんな整列していたんだ。

で、「大丈夫だな」って今からほら、体育館に行くって言ってるからさ。それで俺、ちゃんということ聞いていろよって戻っていったんだ、そしたら屋根が空飛んでくるのさ、小学校からこっちのほうまで戻っていったんだけどさ、そしたらあっちからみんな走ってくるのさ、それで知り合いとなんかと会ったら「ダメだ戻って津波来てる」って言うわけさ。それで公民館あたりの前だから交番、生協あたりまで戻ってきたんだよね。そしたらもう、津波なんだべな、屋根が空飛んでくるような感じできたから「あれが津波だ」って思ってたさ、今度は走って逃げたらば、戻っていったよこっちに、そして小学校に逃げようと思ったけどその前にほら、もう、津波のほう早く、追いつかれそうになって、もうだめだもの、こう、右と左からこう来て、もう水来たからああダメだわって思ったんだけど、ちようどそこにね、鉄の箱があったんだ、ごみ入れる箱、四隅にこう、フックかけるやつあるさ、鉄の、そいつに飛び乗ったつけ、上まであがったのな、屋根まで行ったのかな、屋根って平屋でも結構あるな。

### あんどん松のところまで流された

そしてそのまま今度流されていったの、箱だってほら、水抜き穴空いてるわけだから、何か所か水抜き穴空いてるでしょ？それたっけ今度沈み始めてきたのね。仕方ないから飛び降りたんだよね。偶然に高いとこだったんだからな、田んぼとかだったらもうこうなってたけどさ、ここいらまでつかったんだ。それたっけ今度車が流れてきたから、今度車にほら、後ろのガラスが壊れててここ掴まっでバンパーに足かけて、車に乗ったのさ。それで東部道路の方まで、東部道路があつて、あんどん松あつて、そこらなんだよね。今度車も沈み始め、引っかかかってちようど道路のガードレールの間に引っかかって止まったわけさ、それたっけ今度車も沈み始めたんだよ、仕方ないから今度車の上にかうして乗って。もう水被るぐらいですか？たまにはこう波で水被ったのかな、そしてそこにずっと、次の

日の1時ごろまでかな。ローソンあたりからだから、あんどん松あったあたりかな、あんどん松あって東部道路あって、そっちの方まで流された、早い早い。もうジェットコースターみたいなものじゃないかな。

土手のところを消防車が回して、行ったり来たりしたけど「もうちよつとがんばれー」「もうちよつとがんばれー」って言われるけどさ、全然来る様子もないんだ。ヘリコプターもね、照らすけどさ、あの人大丈夫だなんて思えば□ターンしていくんだな。だから何台、何台ってヘリコプター来たんだかね、だいぶ来てるけどパツと照らして大丈夫だなんて思うと□ターンしていくんだから。それでほらそっちこつちから助けてーとかつて、それで車の上にいると、いたら今度プロパンガスしゅーつと音するんだ。何の音かなって思ったら今度臭ってくるのさ、それでちぎれてホースちぎれて出てるんだつちやな、今度、燃えた車だの来るわけさ、わー来るな来るなと思つてさ。ヤバいなんて思つて来たら、燃えてるんだ車の中で、まあ燃えるべなあでもなあ、そんでほれ、一時ごろまで一時ごろになつてからゴムボートで消防署の人来て、赤ん坊の泣き声だのしてたから、先赤ん坊あつちにいるから先に行つてくれつて言つただけども「ダメだ行かれない」つて瓦礫でいかれないんだと。だから瓦礫よけながら超えてくるわけさ、ゴムボートから俺乗つてた車の上まで結構あるんだけどさ、はしごで、もう立てないのさ、どうしようもないの。立たれなくてもう、力こうして入れるんださ、だからもう固まつたんだな、寒いしき。だから、這いながらゴムボートさ移つて、でもうあつちに人居るからつて行つたら♡人いたんだけど、じいちゃんは上で凍死してたもの。それでじいちゃんはそのまま置いていくからわつて親子のおばちゃんと娘さんと三人でゴムボートに乗せられて、こつちのあんどん松の土手に、救急車はいなかったけども、赤い乗用車みたいな、消防署の車だな。それに乗せられてサイレン鳴らしながら北高までいった。北高に行つたけど発電機で

ストーブあれ、こういう丸いのでつかい、なにもないんだ。やつぱり、そんなとき北高のジャージ一枚だけ、ああその前に毛布一枚消防車からもらったつていうか借りたつていうか。だつて下着だの濡れてるから何ぼはおつたつて駄目さ。やつぱり下着だの取り替えてから、毛布被るならだけどさ。で、まあジャージを貰ったのかな(笑) それで俺そのまんまさ、一晩ずつと当たつてたさストーブに、そんなもんかな。その時は、気張つてるから痛いところも何もなかったのさ、それで二日たつてから痛くなつてきたんだ。そしたら体中あざだらけ。体中ほんとあざだらけだ。

北高に三日か、四日、いたのかな。何もないんだ食べるものもな。こんなおにぎり一個であと水だつたかな?こんなちやつこいおにぎりだつたんだ。市役所に通つたんだ、探すのにさ、それで名前があつたからさ、館腰小学校にいるつてなつてたからいつたのさ。その二人は大丈夫だつたのさ、それで今度、で、あと三人探さないといけないから市役所に近い文化会館に今度来たわけさ。

#### 文化会館に避難

文化会館に避難して、場所あつたんだ、ちようどね、ちようどほら、一緒に助けられた人もいてさ(笑) また会つたねとかつていうことでき、あとは避難所の生活。最初は仕切りもなかつたけどね。あとでほらダンボール入つてきて今度ダンボールで、仕切つたりして。いなくなる人もいた、アパート借りたとかだの、まだほら仮設できてないからね。

その時文化会館にいたとき、じいいと、じいいて兄貴と嫁は見つかつて、火葬にしたの。亡くなつてたの。逃げ遅れて。甥っ子と甥っ子の子供とは小学校に避難して、館腰で会つて、それから文化会館に一緒に。探すのにさ、市役所近いと便利だと思つてさ。それで文化会館に来たわけなんだけどさ。それから俺、空港ボウルに毎日通つて探し方さ、もう諦めるわなつて言つてたんだわ、なんぼ見たつて生存のところの名前ないから、あとほら病院に運ばれた人

の名前もないしき、で、空港ボウルに毎日探しに行った。それが一番辛いね、毎日死人の顔見るのってば、辛かったね。開いてたりするから普通の顔の人は開いてるけど、ほら、痛んでる時はもう蓋されて「開けないでください」ってなってるのさ。開けられないのさ。だからこういう紙に特徴とか指輪してたとか書かれてるんだけどもさ、そんでほら、じじいと甥っ子の嫁は探し出したんだけどさ、今度は姉さ。姉はもう空港ボウルにいたって言うんだけども探し出されなかったものな。それでここにきてからほら、警察から電話あってDNAで姉見つかったっていうから、やっぱりDNAしておくものだね。だから三人亡くなってるんだ。

それからだから5月の14日か15かな、鍵よこされたの、その前にほら、こういうアンケートっていうかどこがいいか、どこに、この仮設とかつていう話じゃなかったのかな、書いたんだ。だからもうどこでもいいから仮設でも雇用促進とかつてなってるわけさ、それでほら二つに丸したのかなおれな、それで前の日そういう説明会あって、鍵渡したらすぐ出て行けみたいなこと言われるのさ、何言ってるの、引越すのだから何日か時間貰わなきゃだめだべっていったんだ。でも決まりだからすぐ引越してくださいとかつて言いやがるからさ(笑)。ちよつど市の応援の人もいたんだけどさ、あたり前だよつて言うんだ。合わせてくれたのかどうなのかは分からないけど二、三日時間貰わなきゃ引越せない」つて言ったのさ。結構荷物もあったしき。それでほら、明日から晩飯だの出ないからつて言われてさ、だからすぐ引越してくださいって言うことであつたつちや。

文化会館からえつと、此方に来るときはあとでない、すぐだから13日あたり鍵貰つて15日には来たんだわな。ここに決まったけどもやだつて言う人もいたしき、こんな古いところやだとかさ。どこでもいい、あんなところにいるよりは。ほら、ちゃんとした部屋あつてね、ほらプライベートにちゃんとできるからさ、そのほうがいいん

じやないのかつて、なんぼ古くてもさ(笑)。でも別にさ、住めないような具合でもないからね、まずさ。

あと空いてるのさ、だから一階から四階まで直してるんだよちやんと、カーテンつけて畳だの入ってるんだよ、約200戸入る予定してたんだけどもね。だからほらみんな換気扇だって直してるんだからみんな、三階四階もさ、新しいのにさ。ほらカーテンも入ってるさ、だから畳だのも入ってるのさ。なんでこういうもつたいなことするんだかさ(笑)。その分シャワーでもつけてくれれば。

#### 人間関係は

いい人はいいけどな、あんまりあの、まあここだけの話違う人もいるからな。自分でやれつて言うさ、何もしない人と陰で文句言うのさ、だから大変だ。そういう人もいるしき。自治会6月だからできたのが、5月にきて6月の1日からのあいっだったからね、その間俺皆あの、俺のところを持ってきたんだパンでも何でも、そして俺のうちほら、6畳と4畳半しかないんだから、四畳半なんか荷物いっぱいだし、こいつ配らなきゃならないって置いとけないからだからあつちから配つたりほら、パンなんかも来るとも明日200持つていくから受けてくれとかつてくるわけさ、そうすると200じやないんだ、300きたりするのさ、いや多いぶんにはいいけどさ、だから配つたんだね。個人的に知ってる人の知り合い、とかパンでも何でもさ、あと掃除機でもさ、取りに来いって電話きて取りに行つたりしてさ(笑)。こいつも20個しかないのどうするべつて言つて、じゃあ五号棟から、あとから市から来るかもしれないからつていうから。大変だ、やるもんじやないなって思ったね。だけどだれかやんなきゃダメなんだもんね。

#### 今後のこと

今後の俺はほら、そこに名取市のあの壊れかけた住宅いっぱい建つてるの平屋で木造のあるんだけどさ、一丁目、あそこ壊してそこに集合住宅を建ててくれつて陳情してるんだけどさ、それがなかなか

か市長さんがうんって言わないんだね。名取が丘の一丁目だな。だからそこはもうほら、水道でもガスでも来てるさ。だからすぐ嵩上げすることもないし、すぐ整地してしまえばそれ建つにいいさ、あんなかさ上げしてるより早いと思うんだよね。そこ名取市の土地だからいいと思うんだけどね。だからそこにできたらそこに引越すかなってのは思ってるんだけどなかなか市長さんが首を縦に振らないんだもんね。

やっぱり高台いいな、高台っていうか(笑) で、どうしてもそこ作らないんなら、東部道路からこつちに西に集合住宅建てればさ、そこに行けるかなみたいなの、だからここがすっかりだめになったらだけどね、

#### 閑上の良いところ

良いところね、みんなほら隣近所仲は良かったよ、だから。うんとよかったんだ。漁師なんかも知ってればね魚持ってきてくれたしさ(笑) 売り物にならないような魚、カレイでも傷ついたようなのあるっちゃ、そういうの持ってきてくれたのさ。

## 避難誘導中「閑上に津波は来ない」と呼び止められた

閑上一丁目

### 地震発生

地震に遭ったのは増田、市内の中心部で地震に遭って、お菓子屋さんの、駅前にあるお菓子屋さんでお話をした時に地震が来たんです。その後、結局店の中の物が全部落ちてきたんで、これじゃ危ないってことになって店先に、外に出て、そしたら今度外は電柱がもうすごい勢いで揺れてるって感じでしたね。かつてないですね、三分間ぐらい揺れてましたんで、ほんとにもう終わりなのかなと思いましたがですね。ほんつとに電柱が折れるんじゃないかなっていう状態で、電線もねピンと張ってあるんだけどもやっぱりこうたるみがあるんでね。こういう形で動いてましたね。で、車は止まるわ、歩っている人はなんていうんですか、もうしやがんで、歩ける状態じゃなかったんです。すぐ停電になりましたね。で、目の前に車があったんで、すぐ飛び乗って、その人になっていかお菓子やさんに、「帰るのか、戻るのか？」って言われたから「戻る」って言ったら、「じゃあ気を付けて戻れな、たぶん津波来るからな」って言って「気を付けなきゃだめだぞー」なんて言われてすぐ戻って、それでちょうど車の中に消防のヘルメット付けてたので、もうヘルメット被ってまた地震になったら危ないなって思って、そしたら一番難関だったのがこのバイパスなんですよね。横断しないとダメなんで、もしたらこううまくトラックの人たちも、私ヘルメット被ってるのを見せてくれて、全部止まってくれて、やっぱトラック止まってくれると乗用車も止まってくれるんですよね。クラクション鳴らしながら行ったら、止まってくれてすんなり行けて、いつもだったら15分ぐらいで行くところが、やっぱり30分ぐらいかかりましたね。途中でやっぱり電柱が倒れてて、そうしたら大型トラックの人が、もう、ねえ、なんていうんですかね。トラックが運良くこう、運良くね、なんかどっかにひっかけて電柱倒れてるのはうまくこうよけたんで

すね。そして私もすんなり行けたっていう。五叉路は事故が発生して、タンクローリーっていうかあれは、けん引車、3mの土管積んでたのが、対向車線に落ちこちて、対向車線に乗用車二台のつちやっただんですね。運転手さんは即死だったようですね。それで渋滞がもう発生してて、私の道路は渋滞っていうのはなかった、まあちよこつとはあったんですけど、うまく逃げられた。うまく、渋滞にはまる前に五叉路通れたんです。

### 消防団員としての活動

それで私はポンプ（車庫）の小屋の鍵持ってたものですから、鍵開けて消防車引っぱり出した感じですね。ポンプ自体は今の閑上の「閑上カフェ」って知ってます？あそこにあっただんで。あそこ上町の町内会の集会所になってたもんで。で、鍵を開けて、消防車を引っぱり出して、それで誰か来るかなあって思ったら、一人しか来なかったんですね。で、とにかく二人で。巡回しようってことで、マニュアルがあるので、消防の、震度4以上になったら自主的に消防の詰所に来て、本部からの指示を仰げってことなんですけども、仰げって言うても何も来ないんですよ。でも、マニュアルに従って消防車に乗って、自分の管轄の巡回をした形になってますね。管轄は上町です、上町区域になります。ただ現場、現場に何も指示が来なかったんで、結局私たちがマイクで、「大きな地震がありましたので、津波が来る恐れがありますので、自主的避難をお願いします」って言うしかなかったんですね。何メートルの津波が来るとかはそういうことは、言わなかった。余計パニックになっちゃうので。上司と一緒に来た人と「とにかく自主的避難をお願いします。」っていうことで、ただその時に避難してもらおう前に、電気のブレーカーと、プロパンのガスボンベの方の元栓を閉めて逃げてくださいってお願いしたんですね。知ってる人とかは声掛けてきて、「どうすればいいの？逃げたほうがいいかな？」とかって言うから、「何かあると困るから、指定の避難所に逃げたほうがいいよ。」って、車で逃げてく

れた人もいるし、「一緒に隣のうちのガスのボンベ閉めてあげるから」とか言って、閉めてもらった人たちもいますね。後それ終わって、一部の人やっぱり逃げていましたね。やっぱり閑上っていうのは隣近所大事にしていますので隣の人と一緒に車で逃げたり、ただみんなどこに逃げたかっていうのは分かんないですけどね。

### 閑上には津波は来ない

どのおばあちゃんかは記憶にないんですけども、消防車止められて、「あなたたち津波来るって言うてるけど、ここと津波来ないんだよ」って、こう怒られた記憶あるんですね。というのはいかならずっていうと昭和八年の三月に、同じく津波来てるんですよ。三陸沖の、そんな閑上半分津波来てて、上町って津波来なかったんですよ。だからやっぱおばあちゃんの記憶の中にそれがあつたのかなって。でおばあちゃんに、「何もなければいいけども、もし津波来て命亡くなったらどうしようもないよ」って、「逃げて何もなければ家に帰ってくればいいでしょ」って言ったたら、「ああ、そうか」って言われて、逃げてつたんですね。そのおばあちゃんはちよつとどうなつたか分かんないんですけど。悪気じゃなく、ただ、いい方向で、結局はほら、質問じゃなくお話して、でも結構ねそれでもあれだったのが、皆でこう喋ってるからラジオの電源を入れたか入れないか分かんない。ラジオって頭がなかったんですね。ラジオ入れれば即座に大津波警報出てるの分かつたと思いますよ。大津波警報、大津波ですね。で、どこで分かつたかかっていうと、皆が話してるうちに、仙台市の防災無線で、風で全部閑上の方に聞こえたんですね。仙台市の方はもう大津波警報が発令されていたので、もう避難勧告指示まであがつてました。で、そこからマイクの方は「大津波警報が発令されているから避難所に逃げろ」と、そういう形になってからみんながもう血相を変えて車で逃げ出したっていう感じですね。

### 再び消防団としての活動

うちの前、バス通りつてあるんですけど、旧道、あそこは渋滞してないんです。私が確認したのは私が逃げる時に確認したんですけど、私が最初巡回してて、閑上のほら、私の自宅の前の、閑上線の宮下橋つてあるんですけども、水門あるんですけど、今も水門残っているんですけど、あそこの橋消防車に乗った途端にもう名取川が津波で溢れ出しました。で、向こう側にはもう津波が。で、これではもうだめだから逃げろっていうことで、どうやってターンのしたかはちよつと記憶にないんですけど、ぐるっと回つてたんです。そこから今度サイレン慣らして、マイクで「津波来たから逃げろ！」ってマイクで騒ぎながら、そんな時に、逃げたと思つた商店街のひとちが戻つてきてたんですけどね。逃げなかつたのか戻つてきたのかはちよつと分らないんですけど、だから商店街の人たちは私分かりますから、サイレン慣らしながら「逃げろ！」って言ったけども、確かにブレーキを踏んで、その人たち助ければいいんですけど、もう後ろに津波来てますし、もうその人たちを見捨てた形になってしまった。結局その人たちも私の顔覚えてるから、後でノイローゼ気味になつたのがそれで、夜もちよつと夢の中に出てくる。その亡くなつたつていうのも分かつてますので、その人たちが結局俺の顔見て、「高野、お前は見捨てて逃げつた」って思つたまま死んだのかなつて考えてしまう。で、そういうので、その時はそのまま逃げてつて、そしたら私のマイクの騒いだ声で二階に上がつて助かつた人もいるし、七十七銀行の人たちも、あの消防車が、サイレン鳴らして来たから、二階か屋上に上がつて助かつたつていう。だからうん、4日か5日した時に、文化会館に行った時に、避難所になつたので、そんな時にも「高野さんのマイクでうちの娘助かつたんです」って言われたし。旧道通つて逃げてつて、途中から私も中学校に逃げなきゃだめだつて思つて、中学校に逃げる途中で、うちの閑上線と、中学校の前の新しい道路の間にもう一つ細い道路がありますよね。そこにこう横断するとき煙が見えたんですよ、最初火事

かなって思っただけで消防車このまま入れてしまったんですね、そしたら今度津波で家そのまま目の前に押し寄せてきて、してみんなも津波来たんで走るんですけど、車に乗れって言っても、やっぱりみんな必死だから乗る気配もないんですね、今度私たちも危ないっていうことで中学校に逃げようって思っただけで中学校に逃げる途中で、その渋滞見つけて、もうこれじゃ絶対入れないってことで「ターンして小学校に入った。で、サイレン鳴らして、中学校に。確かに渋滞したのは分かっているんですけど、でも、私は間に合わないって思ったから、小学校に逃げようと、で小学校に逃げる時もサイレン鳴らして、マイクで「津波来たから逃げろ」って言って、そんな時に渋滞、さっき言ったあの閑上大橋でもトラックから何かから身動き取れないんですけど、小学校のグラウンドに消防車止めてたら、小学校の体育館から子供たちが逃げてきた。っていうのはなぜかっていうとあの、親御さんたちが迎えに来るといふことで、引き渡しの準備してたようなんですよ。で、親、PTAの役員さんが、「津波来た」って、先生たちが三階に上がってということ、私がそれに直面して、まさか小学生より先に逃げられないんで、下で、とにかく「上に上がれ！」って全部、止まらないで教室に上がって上がらせて、で私も上がった途端に津波が来たからなんです。ただその時に大人の人たちが途中の階段で、指差して「津波来た」って、子どもたちが逃げるのを妨げてるっていうのがちょっと頭にきましたね。で、そういう形で、指差してほら、子どもが逃げてるんです階段に、その途中のところで止まって指差して、「あ、津波来た来た」って指差して、子どもたちがだから止まってしまふんですよ。狭まってしまってるから一人二人しか登れなくて。その時注意した記憶があるんですよ。そのまま上がって、上がって津波来たって言うてる時に、消防のうち今のね、その時は副分団だったの、副分団長がちようどいて、あの、逃げ遅れた人が学校の校舎に掴まってるんですよ、流されないように、それを上司から、「助けるぞ、救助するぞ」って言われ

て、で、消防車も何も全部流されてるから、何もない。装備がないっていう時に誰が考えたのかちよつと分らないですけど、非常ベルの下にある消化ホースって付いてますよね。あれ全部二階と三階から持ち出して、繋げて一本垂らして、一本は私だったんですけど、上司に「手上げる」って言われましたから、私も真面目に手を上げたらホースをくると巻かれて、「行ってこい」って言われたんですけど、二階から下に落っこちて救助活動して。私がちようど降りたところが入口があつて、雨よけのサッシっていうかこう、そこにポンと乗ったから私は濡れなかったんですけど、ほかの人たちも消防団がやり始めた時は、もうどつぷりつかつて、やってきましたね。私はその上に乗つかつて濡れないで、その下に若い男の子がじーちゃんとかばーちゃん両脇に抱えて、津波に立ち向かってたので、ホース、一本持たされたやつを、「それに掴まってる」ってしたらその人が、「この人上げられないから、私教室の中に無理やり入れますから」っていうこととおじいちゃんを私がホースと一緒に上げましたから、をつかまえて、そしてそのお兄ちゃん帰ってこないと思つたんで、上げようと思つたけどやっぱり、雪降ってきてしまつて私も段々手がびびれてきた時に、その男の子が戻ってきたんですよ。しておばあちゃん渡して、したら今度次の人たち「どこに逃げればいいの」って、濡れてますから、で、もう少し頑張れば津波も収まるっていうことで、収まってから教室の中に入れて、中の階段から、上に上がって行った。

それから一回上がって、それからまた上司からもう一人いるからっていうことで小学校からなんでしょうね、150mぐらい離れたところに70代ぐらいのおばあちゃんが、あの、境っていうかブロック塀の上に乗つかつてたんですよ。で、その人救助して来いって言われて、もうどぼーん入って。竹の竿みたいなよこされて、なんでよこされたのかなって思つたら、「そこにドブあるから、ドブに落っこちたらもうスポーンと落っこつてく、それでこう検索し

ながら行け」って言われて、それで行って、途中で車が流れてきて、もう山になつてからその二台ぐらいに飛び乗って、でホース足りなくなつても段々ホース次々付け加えてもらいますけど、やっぱホース重いので、体とられるんですよね。で、おばあちゃんのことたどり着いて、「救助に来たから一緒に逃げよう」って言ったたら、「やっぱ水冷たいから降りたくない」って言われて、そんなことやつてるうちに後ろから早くしろって言われて、とにかく血相変えて私も、その人下りないから、無理やり落として、そしてもうずぶ濡れにさせました。けど、そのおばあちゃんこう途中まで行ったら、もうおばあちゃんも寒くて小学校までたどり着ける様子もないから、そしてたらちようど隣のうちの上から男の人がなんていうんですか、首出してたんで、そしてらそのおばあちゃんが、何言うのかなって思ったら、「あれうちの旦那」って。で、旦那さん呼んで、「奥さんもう連れていけないから、この上にあげるから手伝って。」って言って、必死こいて二階にいった、そしておばあちゃんと二人に、「このうちの毛布何でも使つてもいいから、次の朝まで救助来ないと思うから、もうくるまつて、寒くないようにしてね」って言って、私は小学校に戻ったんです。そういうのもやりましたね。そして今度私がずぶ濡れだから、そして消防団とか学校の先生たちは、職員室に全部集められて、どうすつかつて話をした時に、学校側から、「白い紙とペンで各教室ごとに名前と病氣持つてるかつていうのを書いてもらいましよう」っていうことで、書いてもらったんですね。で、教室のところ貼つて、この人はここにいますよっていうの分かるようにして。そしてらそんなことやつてる時間にはもう、次の日かな、次の日になつたつて、「今日中に透析しないと私死ぬ」って言う人見つかつて。その人は次の朝になつてから、じゃあ救助隊来たときに一番最初に誰を出すか、健康な人を出すより、病氣持ちの人がいいべつていうことでそれをやつた。でその夜も結局私たちずぶ濡れになつてたんで、学校の先生たちが、かわいそうだと思つて、先生たち

のジャージだなんだつて置いてあるんで、それを全部出してきて、着替えてくださいつて言われて着替えたんです。そしてら一つだけないのがパンツなかつたんで、あの使つてない教室に行つて、消防団の人裸になつてパンツも全部脱いで、絞つて、どうするかなつて思つたら「また穿かないとだめかな？」つて穿いて、着替えたんです。で、学校の先生たちがすごかつたなつて思うのが、子どもたちがいるんで、まさか先生たちがいないとだめだつてなつて、先生たちが教室に、どの教室に何人いたかは分からないですけど、教室に先生たちが順番で、一時間おきに交代で入りましようつていうことで、子どもたちを安心させようつていうことで、そういうことありました。で、親御さんいる人は、親御さんに渡すつていうことで、なんかやつてましたね。そして朝になつて、私は音楽室の方に入つたんですけど、濡れてるから、ほんとはお年寄りしか入れなかつたんですけどやつぱり消防の人たちも寒くて、今後どうしようも活動できなくなるとあれだから、入つていいよつて言われて、そんなやつつてるうちに七丁目の方がもう火災になつて。それを見てみんなして、「ああ、街も燃え出したわ」なんてやつぱり言つてましたね。引火したのは車のガソリンもありましたね。あとうーん、船の重油。船も流されてるんで。あとね、何が火元つていうのかは分からないんですね。バッテリーがショートしてなつたつていう説もあるから、全然分かんないです。まあそんなことやつてるうちに、名取インターの方が、夜中にパツと明るくなつたんですよ。救助活動始まつたんですよその時に、そんな時に自衛隊とか消防：消防も入つてたけど、一番最初はやつぱり、名取市が協定結んでる、建設業組合の人たちが、重機出してもらつて、それで重機で道路のがれき除去して、ただなんか話聞くと、そのがれき除去してると絶対出てくるものつて遺体なんですよね。遺体も、処理つていうかそういうので困つたつて言いますけどね。だから遺体見つかるつとすぐ警察が来て見聞して自衛隊が安置所に運ぶ、そんなことやつてるうちに今度警察の方か

ら先に進めなくなってくるんで遺体を横において先に進んでくれっていうことになってやってたって言ってましたけどね。

12日のもう夜中っていうか朝からもうずーっと、明るくなるとみんな屋上に上がっていくんですね。それで学校の屋上から「町がなくなっちゃわー」なんて、中にはずぶ濡れになっても「こっから出たい」って言って出て行った人もいますね。それでそこで今度なんだかんだってやってるうちに、やっぱりあの自衛隊が入ってきて、自衛隊ここまで入ってきてもらったんですけど、何も装備も持ってこないっていうことで、そんなことやってるうちに自衛隊の人と話してるうちにある人が、この七丁目の火災燃えてるとこに、中学生がいるかもしれないって始まって、自衛隊の人に話して、自衛隊の方が「じゃあ分かった」って言って、調べてみるからっていうので、調べてもらって助けてもらったっていう話は聞きましたね。で、そういうして自衛隊が、がれき、自衛隊っていうかがれき除去してもらった道路を自衛隊が先頭になってきて、後ろから、市役所のトラックに食事運んでもらってきたんです。そしてその食事を全部二階にあげて、学校の先生たちと、数が決まっているからパンも半分ずつとか、ちょうどコココーラのボトリングカーが、学校の近くに横倒しになってたんです。で、運転手さんも助かってたんで、運転手さんが「非常時だから、あそこにあるジュース全部使ったいいです」っていうんで、私たちが全部運び方して、学校の先生が濡れティッシュで飲み口全部綺麗にしてくれたんです。で、それと一緒にパンとかも全部。で私たちはもう自分たちも食べられると思ってなかったんで一番最後っていうの分かってたんで、「どうせ食えないな」って思ってたたら、学校の先生たちが、市が運んできた中に弁当入ってたそうなんです。コンビニの、その弁当をみんなに見えないように箱に入れて横にソラしてて、配布するときに二回も三回も並ばれると困るっていうことで、取りに来る人はこっちの方向からで、帰る人はこっちから帰るってルート作って、で、次の教室の人が終われば、

前の教室の人が終われば次の教室の人呼びに行って、っていう形です。そういうのを繰り返しました。そして終わってから、「あー俺たち何もなかったなあ」って思ってたたら先生たちが箱をよこして、「これ食べてください」っていうことで、「ただその代わり隠れて食べてください」って言われて端の方で、食べて、それから先ほどのほら、透析の人とか、寝たきりのお年寄りの人とか先に出不さないとだめだっていうことになって、それでやってるうちに今度警察にほら、あの輸送……護送車みたいなおっきいので来て、その人たち遺体探しに来たんですけど、そういう車もそのまま置いてあるんで、その隊長さんに「小学校に避難してる人がいるんだけど、どうかしてこの人を街の方に連れて行きたい」なんていったら、「じゃあその護送車に運転手の警官つけるから、それに乗っていくから」っていうことで準備してたんです。そしたら今度消防が来て、救急車が来て、「何やってんの」って言われたから、こういうんですって言ったたら、「いやそれは私たちがやる仕事だから、勝手なことばやめてくれ」ってそこで問答始まったんです。そして何だかんだやってるうちに、もう私たちも呆れてその消防署の人たちに、「じゃあ勝手にしてください」っていうことで、下まで降りしてた人たちをも一回上に上げるって、「上げてくれ」って消防隊員に言われて、「ふざけるんじゃない」って、「下に濡れないようにいん人かの人でベツドを持ったまま待ってるんだよみんな」って「それを何？また上げろって言うの？」って言って、それで「ちよつと待ってください」ってそこで消防の救急隊が話聞いたりして、「なんのためにやってんの？」って、とにかく救急車の中に入れて、そういうことやってるうちに次から次へと私何悪いんだかんだって始まったんです。消防署がまた俺のとこに来て、「さっきの警察の車も出してもらえるんだしたら、貸して欲しいんです」って言われて、警察の方はもう出ないと思っただから車を別のとこに持って行って、署員もいないんです。で、また現場に歩いて、中隊長さんか小隊長

さん見つけて、「すいませんまだいいですか」って言って「いいよ」って言われて、それで3……5回ぐらい輸送してもらいました。消防暑の方に。

でそんなことやってる、その時、市の方でもバス、大型バスから何からみんな出してもらったので、それに順番に乗っけて、してるうちに、やっぱりバスがなかなか戻って来ないので、もう応援隊の他の地区の消防団の、分団長さんが、消防車っていうかポンプ車？消防団のポンプ車が置いたままになってたので、「これにポンプ車？いいから、ピストンすればいいべ」っていうことになって、その人の判断で、消防車にポンプ車乗っけて、ピストン輸送したんです。そしたらやっぱり本部の方から「勝手な行為はやめろ」って来たんです。そしたらそこにちようどいた消防本部の方がいて、「本部からこう言うふうに使われてるんだ」って言ったから、その分団長さんが、「いやそれは俺の指示でやってるから、何かあったら俺が責任取るから、あんたも見ないふりしてくれ。俺責任取るから」っていったらその人が「いやそういう訳にもいかない」って。「でも、確かに分団長さんがやってることはいいことだから、私も目つぶりです」っていうことで目をつぶってもらって、そしたらやっぱり消防本部の大役の車が来たんです。ずーっと、それをみんなで睨み返したら、そのままスルーして行ってしまっただけで、あれがあったから人も結構さんなり救助活動が終わった形になりますね。で、私たちそこで、ある程度終わって初めて「じゃあお前ら中学校行こう」って言われて、中学校に行っておふくろ見つけたって言うことです。そうして戻って来てまた救助活動って言うことで人を次々乗っけて、連れて行って、そしてバスにもう乗るのなかなか来ないので、やっぱり歩いて行く人もいますね。途中で誰かに乗っけてもらって。そういう人もいたし、主に、館腰小学校と、一中かな、に。距離はちよつとありますね。館腰小学校と一中、に確かかっていう感じですね。で、私たちが一番最後にに残されたかっていうと、

私たちが救助した、10ぐらいのおばあちゃんが、低体温症で亡くなつちやっただけですね。で、その人たち、その人をまさか健康な人のところに置けないから、教室のカーテンを剥がして、鍵のかかる理科の実験準備室、薬品庫があるところに入れて、学校の先生が鍵かけてもらってたんです。でその遺体をどうするかって言うことでなんか本部とのやりとりがうまくいなくて、消防隊に残ってるっていうことで残ってたんです。そして後迎えに来るからって言われたから、待つても、もう12日の夜中で、もう13日になるよってぐらいいまで残ってたら、もうどうしようもないっていうことになって、そしてバスがちようど一台来たんです。市の。中学校の方から。そして止めて、「もう、この車で終わりだよ」って運転手さんに言われて、「乗れわ」って言うことで乗って、遺体は後日誰かが収容してくれたようですけども。

#### 再び消防団としての活動

私は消防団だから、マニュアルに従って地域の避難活動をして、ただその時に、大津波警報が発令？発令されたの全然分かんなかったんだ。結局あのいろんな方が、後で言っていたけれど、防災無線が壊れてたんです。それで私たちはただマニュアルに従って、活動して。でそんなことやってるうちに、色々避難活動してるうちに津波が来て、それで30秒遅かったら私は死んでたんです。それでおふくろはもう死んだと思っただけです。途中まで。店舗兼自宅の家は残ってました。ただ一階部分は壊滅ですけどね。3mの津波だったの。避難して私も小学校に逃げて、おふくろは公民館に逃げる途中で、なんか知ってる人か誰かに、公民館に逃げるんじゃないか、逆に逃げてきてる人がいたので、「どうしたんですか」って言ったたら、「公民館は人がいっぱいいて、逃げたって無理だよ」って言われて中学校に逃げて助かったんです。あれで、もし公民館にいたらだめだったって。そういう時に運命感じますよね。私と同じように消防活

動した人も亡くなってますからね。おふくろは私は死んだものだと思ってたんですけども、「消防団壊滅した」って言われたって。

訓練っていう訓練は確かにあの、三年に一回だけ、心肺蘇生と人工呼吸の講習だったり、あと年に一回まあ消防大会だなんだっていういろあるんですけど。特に組織だった訓練っていうのはそれくらい。あと私の場合はやっぱ消防団だから機械の操作っていうのがあるので、一泊二日で消防学校に行ったり。あと消防団に入る時に、基礎教育っていうって、二日間、私の時は消防学校の教官が名取に来て60人規模でやらせるっていうのだったんですけどそれ終わって、私三年ぐらいしてから消防学校に行って機械の操作の、あと消防車の運転の仕方だの、そういう教育受けて来いって言われて、名取市内から年に三人か四人ぐらいしか出て行かないってそういうのに選ばれて。活動としては、活発な方じゃないですか？街のこつちに来れば、ほらこつちは火災とか、台風とかそういう水害はないですけど、閑上に行くとそのれに水害救助入りますんで、あとなんていうんですかねやっぱりの、仙台と名取の境に竹やぶっていうかやぶがそういうのが火災になってたんで、それに出動させられましたね。手当は確かに、少ないがでも私の消防学校に行つて色々、教官からこう教えられると名取はいい方ですね。年に56000円の一応手当が出るんですけど、まあそれ56000円も手元には来ないんですけど、消防活動っていうことで結局はあの団員たちの集まりで飲み会をしたり、あとは年に一回、それから備品とかほら、手袋買ったたり、そんなのでお金が飛んでいきますもん。あと出動手当っていうものもあるんですけど、それも一回2000円なんぼぐらいかなあ・・・

### 商工会議所の活動

商工会の活動は会計や面倒見たりそういうのばっかりですね。あとはよくあるのが、震災の絡みで結局ほら店を直すとかそういうのの補助金。閑上にもあの商店街っていうの、増田にもありますし、まあ商店街っていうのほんとは二つあったんですけど、今は名取は

増田だけしかないでしょう。閑上にも商店街あったんですけど、震災前にどうするかってあの、商店街が解散するかどうかでなく、ポイントっていうスタンプ、っていうかそういうカードシステムやってたんでそれをどうするかっていうので揉めてたんで、今回の震災であとはもうできなくなったっていう。でもさいかい市場の方で店舗のお店が始めたので、そちらでもあのスタンプカードを今始めていますからね。地元繋がりでいろいろ交流とかありますね。で、私の場合あの商店街の役員もやってたし、商工会の青年部の部長なので、やっぱり今この増田の商店街の人たちとも仲良くさせてもらってるし、無理難題と色々振りますけど、色々相談……逆にこつちが相談に乗ってもらったり。さいかい市場も担当してますので、でも、もう一年経つたんで正直自分たちで全部やらせようっていうことで、私たちはあんまり手を出してないんですけど。そうしないと地元に戻った時に何もできなくなるっていう。

名取の被災者の人たちは恵まれてると思いますよ。今被災地で名取は人口が増えてます。

内陸の方に借りられて住む方が多いし、あと福島から入ってきた方とかですね。さいかい市場も5年で出ないとだめですからね。まああと4年ですか？閑上がどうなるか分からないのに出て行けっていうことを言えないだらうって今騒いでますね。いざ蓋を開けて、じゃあ閑上に戻りますよって言っても何事業所が戻るかっていう。でも住民に聞くと、「戻るのはいいけども、商店街、病院、銀行がないのに、戻るっていうことはできないでしょ？」って言うのと今度は、商店街の人たちは「住民が戻って来ないのに戻れないでしょ」って。どっちが先かって。今行政が考えてるのは名取は、あの閑上って昔震災前ってお店と、住宅って一緒だったんですね。二階と、一緒になってるんですね、それをね、今は別々にしようっていう構想をなんか、出てきてるんで、ちよつと二重の負担がかかるんですね。店作って別な場所に住宅を作つて。あとはもう一つは、グループが補

助金をもらっちゃったんで、今後閑上に戻っても補助金が付くのかどうか、それもある。だから、あのグループは補助金ほんとは、現地に返るっていうための補助金だったんですけど、閑上は先が見えないのでどうしようもないですね。

店、住宅は住宅とを考えを、最初に話は出てきたんですけど今はどうなったか。名取を出れば、土地はいっぱいあるんですね。やっぱり閑上が好きだから、気軽に、住もうとはおも、住みたいけども、あの気持ちももう味わいたくないので、とかってみんな周りに住んで人口流出が少ないんですね。名取って。市長が、そういうんだったら戻したいと思って今一生懸命やってるんですね。このあいだ市長にね、「若い人たちがどうしたいんだか聞きたい」って。ははは(笑)さいかい市場の店の作りは地元の人たちは嫌がってる。閑上っていうか、結局魚屋さんに入って、隣で買って、なんか自分のところで買ってもらえないってこう、って言う人がいるんですね。もう最初あれできたときに、引き渡しの時にしこたま文句言われましたもんね。「なんでこんな作りにしたんだ」って。位置とかは全部行政が決めた。東京の、霞が関にいますお役人さんが設計図を、現地も見ないで。

2011年7月から商工会議所で臨時職員として働き、ほんとはその年だけだったんです。12月31日付で終わりの予定だったのが、3ヵ月間延長するって言われて、3ヵ月間延長になったんです。そして、たんならなぞか知らないけど、「また1年いらないか」っていう話になって、で「1年いたらもう終わりだなと思ったら」「もう1年いらない?」ってなって、延長できるって言われて、ただほら、私日給計算なんです、やっぱり所得は低いんですよ。それで上司のほうからも、「いい職、仕事あるんだしたらそっちに移ってもいいんだぞ」って言われてるけども、確かにほらお菓子屋も最初やるうって気力はあつたけども、もうおふくろから、もう私はいいわって、少しねえ、ゆっくりしたいって言われたし、俺一人ではできないし、まして今から家

も立てないといけないし、ローンにローン抱えて、今の生活で払えるかって言われると払えないし、兄貴からはもう「商売辞めていいから、辞めてもいい。お前好きなことやれ」って言われたんで、だから今のうちは来年の3月までは今の職員を、で、結局復興支援っていう形で、仮設からなんだってやってますんで、そっちでいいかなって今ちよつと考えてるんです。ただ今、仕事やって一番残念だなんて思うのが、うちの職場で震災にあつて家がなくなつたとかそういうのって誰もいないんです。だから結局外から、俺の見方でしょうけど外から見ると、もう震災は終わって普通の生活をやってるんですよ。結局、仕事終われば自分ちに戻って休める、だからほらある人にも言われてるんです。「商工会議所職員なんて、俺たちの気持ち分らない。」って、だから普通一般の職員が何か話したって「あいづら話したって通じない」ってやっぱり言われるんです。「でも俺だったら分かるからいろいろ言えるんだ」ってしつかり

聞いてると話してはくれるんです。職員の悪口も言われるし、「商工会のなんでこういう対応なんだ」って怒られる時もあるし、そしてやっぱり一般の職員から言われるより、今のうちの課長がそれをやっぱりいいのかなって思ってた俺をこのまま置いてるんですね。悪役になるっていうことで。それで行政の方からも結局俺がいると色々パイプ役になって「やっぱりあなたから言ってもらおうほうがいい話も進むし」っていうことになって、だからもう今年、あ、来年3月まではじゃあいようかなっていう、気はあるけども、確かに仕事量から見れば、まあお金の話になって悪いですけど、仕事量から見れば私は日給でボーナスもない。仕事もほんと遅くまで、5時55分になればもう終わりですから。そこからはもう手当付きませんから私。でも私は仕事終わらない限りは帰らないって主義だったから、仕事終わらせて、そういう形になって。仕事は去年までメインにしてたのはその案内ですね。結局その案内の、なんていうんですか、色々パイプ役ですかね。あとさいかい市場でイベントをやった

り、あとなんだかんだったっていま、補助金申請は職員が全部やるんで、私の場合そこまですぐに、話し付けたり、あと行政に行って「さいかい市場で、こういうことに困ってるけど少し力貸してくれない？」とか、やっぱ事務的なことですかね、あと一般の職員の手伝いとか。パソコンの打ち込みとかいろいろするんですね。確かに今もう10年経つんで、職員の間でも薄れてますね。震災。市の職員もやっぱり自分は被災してない人はやっぱりちよつとほら、やっぱり分かるんです態度が、職員のなんか、温度差有りますね。確かに去年も、あの東部道路から、向こうが震災地で、こちらは本当に、ある人が言っていました。「東部道路から海側は地獄、こっちは天国」って。そういうのがあって、確かに温度差も出てきたなあって。ましてや今、今度ね南海の地震があった場合はもう、散っちゃいますので。

### 今後の住居

うちのおふくろはもう戻りたくないって言ってますので、別な場所今買おうかなっていうことで、物件今探してるところなんですけど今物件ないんですよ。でうちの兄も、閑上に、最初は戻れって騒いでたんですけど、今この状況で戻れっていうのはもう無理だと、そしたらやっぱりおふくろのためにも、少しでも安らげるところにちやんとした家を建てると、閑上はその後考えたってよくないかと、今から見たって10年かかるぞって言われてしまいましたもんで、そのうちにおふくろだつて病気になるた亡くなつたっていうんだつたら、家を買って少しね、呑気に暮らした方良くないかって。そのためにうちの兄貴が、金の工面は全部俺が責任持つって言われてんで、物件だけ見つけたら金かからない、言われたんで。

私も閑上好きなんで、やっぱりすぐ閑上に行けるでしょ、だからやっぱり最初に探してるのはせきのしたとか美田園。美田園はもう一杯なんで。閑上に住みたくなけど、やっぱり名取市内。で「山の方に行くべ」って、言ったら「山は嫌だ」って、やっぱりおふく

ろもね、先が短いっていうから、あまりもうあれなんで思うようにさせてやれつてうちの兄貴のあれもあるし、叔母たちからも、ちゃんと考えてやれよとは言われてるんで、そうするとやっぱり考え出すと、今の仕事をやっていいのかなって。

ストレスが強いので閑上には戻らない

元閑上一丁目

## 地震の時は

震災の時は、私仙台の方、西多賀っていか鉤取っていうところ、郵便局なんで、あっちの方をまずちよつと配達してたんですね、当日。286号線を挟んで向こう側って感じですかね、山の方って言うたらいいんですか、あっち側をちよつと配達してて、それで地震直後はまずそのまま配達は続けてたんですね。あの地震の後も、なんであってというところ、あの向こう側はちよつと壁が崩れたとか瓦落ちたとかっていうところ、配達地帯のところは何もなかったもんですから、これはそんなに大したことはないんだなって。長かったけども。地割れとかは一切ないでしょう。西多賀病院ってあるんですけど、あの近辺でちよつとあったものですから。あそこらへんはちよつと地盤固いせいかなにもなかったんですね。周りの建物自体が。そのまま配達続けてちよつとまあ向こう行った時に、あの、階段崩れたり地割れしたり瓦落ちたりとかっていう状態になって、その時にたまたまタクシーの運転手の人が車でテレビ見てたら女川に10メートル以上の津波きてるっていうのを聞いてすぐに局の方、郵便局のほうに戻ったんです。ちよつとあの鉤取の新仙台郵便局っていうところなんで、そこに戻ってそれでそこから多分これは閑上もやられてるだろうということで、ただうちの家族は、メールで嫁さんと連絡取れたのでそれで、うちの娘とうちの嫁さんは中学校で、うちの下の息子の方は小学校にいるよっていうのは確認できたので、助かってる避難してるっていうのは分かってたのでそれで、まずとにかく帰らなくちゃって思ってた。ただ、車の鍵とか局の更衣室にあったもんでそこから着替えて、局の中とかくガスが充満していて中に入れない状態だったんですね、何とか中に入って全部荷物を持って、それで車でこっち側に向かおうとしてたんですけども、それでただこっち側から行くところ、あ、そのこのホームマックです

か？あそこから渡る橋みたいなの、あそこをちよつと結局渡りきれなかったんですね渋滞で。それでじゃあちよつとこれではとてもじゃないが行けないっていうことで一回戻って、家の実家の方がちよつと鉤取の方にあつたので、一回戻って行って、とにかく実家にある物をとにかく布団とかもう飲み物とか、私小学校のPTA会長をやったものですから、その時学校で避難してる子たち多分飲み物とかもないだろうって思ったので実家から飲み物とか集められるだけ集めて懐中電灯とかも集められるだけ集めて、布団とか、そういうやつも全部車に積み込んで、それで夜にこっち側に閑上の方に向かったんですけど、多分閑上街道の方はだめだろうっていうことで川沿いの裏の方から入ろうって思ったら結局警察に止められてその時にはもうそこもみんな親とかどうなってるんだって状態になって、この先にはもう進めない、どこまで津波来てるんだって聞いたから警察の人はすぐ目の前まで来てるんだって言われたんですけど、実際に来ないでみんな「こんなところまで来るわけないだろう」っていう顔で、それで結局そんな時には皆携帯の充電とかも切れてる状態で顔見知りの母親とかに携帯貸したり、俺の車はほら充電器ついてたから、そういうのやってから今度はちよつと閑上の通りですか、そこから移動したんですけど、そこでも警察は止めてたんですけど警察にとにかく「小学校に飲み物届けるんだからとにかく入れる」と。「どうなっても知りませんよ」って言われたんですけどいから行けるとこまで行くからっていうことで、とにかく閑上の方までちよつとあの、この四号線のなんだっけかな、この先辺りに小学校ずつと行くとこからへん、交差点っていうか信号あって車屋さんとかミニカーショップみたいな小さい店とかあるところ。そこで止めてたんですけどそこにとにかく、警察に無理やり入れてもらって入った瞬間にもう船とかがある状況でそこでもう頭が真っ白になったんですね。結構、んで今度車で行けたのが結局ミニストップの100メートル手前ぐらいかな、そこまでぐらいでちよつともう行け

ないと車ではだめだってなってそこでとにかく飲み物だけでもってことでリュックとか持ってたんで、リュックに詰めるだけの飲み物とか詰め込んでそこからちよつと歩き出したんですけども、結局夜で真っ暗でとにかく分かんない状態だったんで道路を外れるのは危険だって、側溝にはまったら浮き上がってこれない。俺なんか泳げないんで、だから多分ダメだろうっていうことでとにかく直線で行くしかないって思ったんですけども、とにかくがれきが何重にも横にこうずつという状態で道路にふさがってたんでどれくらいの時間かかったんだろ、あと火災が起きてたんで、そこで火が道路をふさいでる状態とかもあつたんで、ちよつと、その状態で回ってたんで、そしてとにかく向かってたんですけどインタビューの方からかな、懐中電灯見えたんで声かけたたんで「だれ？誰くるんだ」って思って、そしたらたまたまうちの副会長で小学校の。で二人で向かったんですけどそこから火災とか起きてるところとかよけるのに結局副会長が側溝にはまったような感じで、大丈夫だったんだけど、俺は反対側の方に向かおうかかって思ってたら火の周りにプロパンガスとかボンボンシューシューいいながらあるものだからちよつと危なすぎで、なんとか端の方ぎりぎりを通って行って、何とか小学校までは辿り着いたんですけど。

### 何とか小学校に辿り着いた

小学校辿り着いて私のイメージ的には結局小学校には小学生しかないってイメージしかなかったので、そこに三百人ぐらいだったんで生徒数が、三百人だったら背負ってきたものでなんとか一杯ずつでも飲ませられるんだろうと思って、教頭先生に、聞いたら800だか900避難してるっていうわけで結局それで飲み物回せない無理だっていうことで職員室に置いてくって話で、そこからとにかくまず最初に聞いたのが「子供たち皆いるの？」っていう話を聞いたら二十八人だか、帰ってるっていう話聞いた瞬間にもう頭真っ白で私的には、そこからちよつと身動きできない状態になってしまったん

ですけど。もう学校になくて下校してた。あの時間帯ちよつと下校ギリギリの時間帯だったので、それが私のイメージ的にはとにかく小学生が助かってれば中学生助かってるだろうって、まだ8時分とかそこらだったから中学生は学校にいるって頭があつたんで、中学生皆助かってるから、と思ってたんですけど、結局その状態で、職員室とかには居たんですけど下の子はどこにいるのか分からなくてちよつと果然として、そしたら職員室で話し合ってたのがその死にそうな人がいると、音楽室で、AEDがないかな。学校の一階にAEDあったものですからやられちゃって、だれかこれを外に報告しないといけない。だれが行くんだったっていう話し合い。それで俺とか結局俺と一緒にいった副会長とか果然として聞いてて、そしたら結局うちの副会長がじゃあもう一回戻って話になって、俺も戻るかって言ったら、いや大丈夫今来たから一人で行けるっていうことで俺もちよつとそのとき果然としてたものですからそうだな一人で大丈夫かって思って行かせちゃったんですけど考えてみたらまずかつたなって後から考えて、それからすかねちよつと子供少し探して、そして見つけて、それから子供とはあんまり一緒にいれなかったんですけど職員室とかに張り付いてたりしてたもんで。じゃあとにかく何かできないかっていつてその時たまたま、氷砂糖の袋を持っていつてたんでこれだったら一粒ぐらいずつ配れるかって思ってる程度配れて、そしてほらみんなに声かけて大丈夫だ、大丈夫だっていうか今俺はほらここまで歩いてきたんだから大丈夫だ、明日になれば自衛隊の人たちそこらへんまで来てるからあそこのインターにまで来てるから明日になれば大丈夫だってみんな助けに来るから待ってる、朝になれば大丈夫だって話をして。次の日の朝になってから自衛隊の人が来て食料を置いていったんですね、校長室に。それから校長室で小学校の分と中学校の分という風に分けたわけですよ。そこで、小学校の分をとにかく配るっていうことでその手伝いをしてたんですよ。各クラスごとにや

らないとつていうことでじゃあこのクラスとかつてやつてたわけですよ。全員に配ってから、小学校の前まで道路が通ったんですよ。みんな歩いてるのが見えたんで。車を置いてあつた場所に車を取りに行ったんですよ。先生たちの携帯とかも全部携帯電源なくなつたんで、俺の車持って来れば充電できるだろうっていうことで学校の前まで持ってきて充電してその間に知り合いの人が中学校から歩いてきて、「歩いてくれるのか」って言ったら歩いてくれるって言って、それでじゃあうちの嫁さんとかこっちに来てくれ、家の下の子がいるから、俺忙しくてできないから見えてくれってことで来てもらってそつからですかね、そつからバスの避難が始まつたんですよ、そこで避難誘導してたんですね。避難誘導っていうか乗せるのをやってたんですよ。そして結局小学校側800人900人っていうことでバスでどんだん乗つけて、最初館腰小学校に行くっていうことで行つて、じゃあつてどんだん乗つけて行って、じゃあ今度一中に行くよつてなつたんだけどそれがじゃあ最初に乗つた人と後に乗つた人別れる、家族別れるだろうっていつた時にも「とにかく一中に行く」っていうことで一中に代わつて、その間に今度はこのバスはどつちに行くか分からない。また館腰に行くのか一中に行くとかごちやごちやになつてきて、その間にもう中学校側からはみんな歩いて避難してきてたんですね結局。それでそしたらあの、なんか放送機器が復活したんですよ。その時なんぞなつたかは分からなかつたですけど、その時に小学校側で歩いてる人たちに、小学校側に飲み水と食料がありますからつていう放送があつたのを聞いて、「あつ中学校側に食料いってないんだ」つて分かつて、そこで俺ちようどここの入り口側でバスに乗つてたので、中学校から歩いてくる人たち、「中に入つてくれとにかく飲み物と食い物はあるから」つていうことで誘導とかしてその間に津波警報出たからつて「とにかく小学校に入つて上がつてくれ」つて誘導とかしてたから結局一回人数が減つたところにまたどかつと避難の人が増えて。それでその間に

ほんとは小学校側から避難することになつていたバスが来なくなつた。中学校側がバスが行つてしまつた。それで「なんだ最初小学校から避難じゃないのか」とか話してて、そして全然来なくなつてしまつて。そしてら名取市の消防団館腰とかの消防団の人たちが来てくれてたんですよ。それでその中には、名取市のPTA会長さんとかちよつと顔見知りの人とかいろいろちよつと来てくれて、その人たちが消防車で、人でも、人でも乗つてとにかくピストンやつてくれたんですけど、その間に消防車を使うなどかつていう上から指示がきたとかつて、俺がプツツとキレちゃつて、お前らふざけんな何考えてるんだみたいな。それでとにかく暗くなる前には避難完了しないとやばいつていうあれで、なんとか暗くなる前にはなんとか終わつたんですけど小学校側は、それで校長先生と俺とで最後校舎内全部見て回つて誰もいないつていうの確認して、亡くなつた方一人理科室において、それで完全に皆先生たちもバスに乗つて、俺が車でとにかくうちのあれが館腰に行つたつていうことで館腰に向かつたんです。

#### 館腰小学校に避難

結局自分ちの方は、大丈夫だと正直言つて思つてたんですよ、他のところよりも。ちようどわかば幼稚園のここだったんで、それで他のところよりも「メートルぐらい土盛りをしてたんですよ、それで土台からすると、メートルぐらい高かつたんですよ、うちが。だからうちは大丈夫だろう、かぶつたとしても流されたりはしてないだろうつて思つてたんでそのまま館腰のほうに向かつた。そしてら館腰のほうも結局800か900ぐらいいたのかな、最初体育館にいて、布団はほら持つて行つたんだけど結局うちの家族分のワンセットだけにしてあとは全部周りにばら撒いたものだから、俺の分がなくなつて毛布一枚で寝る状態になつてしまつたんだけど、それで館腰の小学校では結局その、なんていうのかな、食料とか大量に来てたんだね確かに、ステージの上にパンとかずらーつと並んでたものだけ

ら食料の心配はないけどもただどういう風に配布するんだみたいな市の人に、いやこれはどうやって配布するんだって言ったときに、市の職員が「適当に」って言われた瞬間に俺が切れてしまつて、「お前らには任せられない」って結局そこで俺が指揮をとるような感じになつたんですね。勝手にやつてただけでも、勝手にやつただけでもただあの時ああいう状態で、適当にやつたらもう暴動みたくなるって、俺的には思つてたんですよ正直言つて。とにかくみんな一切何も持つてない。だから自分の持つてるものっていうのは自分の身に着けてるもの以外何もない状態だったんで。だからその適当について言つたらみんな今でもちよつと変わらないんですけど、適当にもつてけつて言つたらもうババツつて持つて行つてしまふというのが結局その全部なくしてるからそういう状態なんです。ただ館腰でずつと叫びまくつてただけで、言われたことには従えてやつてただけでも、それでほら結局その俺はもともと地元ではないんで、俺はもともと仙台なんで、10年ぐらい前に引越して、うちの嫁さんはあれ（閑上）だったんだけど、その知り合いも結局いない、幼馴染もないし、ただそのPTAの会長を四年やつて、上町つて一丁目の町内会の役員もその時同じぐらい一緒にやつてたものですから、それで結局ああいうの指揮するのはその実会長とかそういうことやつてた経験のある人じゃないとできないだろつて思つたんで、最初私は町内会長とかが出てきてやつてくれる、出てくるだろつて感じのイメージを受けてたんで、俺なんかいくらPTA会長つて言つたつてよそこから来た人で知り合い誰もいない。ほんとに館腰行つた時にほとんど知つてる顔がいなくてほんとにこの人は閑上の人なんだろうかと思ひました。なんていうんですか結局PTAやつて町内会やつてあと町内運動会とかつていうのも必ず全部出てた状態のはずなのに、あそこに行つたときに「あの人たち顔も見たことない人たちばかりほんとに閑上の人なのか」つていう人ばかりだったんですよ正直言つて、「は？」みたいな、それで町

内会長とか区長とかつていうのも一切、いやうちの区長は一人いたんだけど、扱えなかつたから、いや区長とは話にならないつて思つて、でも町内会長ぐらいは出てくるんだろつて思つて、出てこなくてつつきり俺的にはじゃあここにいないんだ町内会長は、そういう指揮とれるやつはいないと思つたんで俺がちよつとやつてたんですけど。まあ余計なことだったかもしれない。結局一週間ぐらいしてから館腰はその世話役とかが決まつたと思つんですけどただ俺的にもう焦つてたんですよ。正直言つて、仕事休んでずつともうかかりつきりになつてたんですけどそのあいだ家とかももう一切どうなつてるか分からない状態のままやつてたんで、それで、三日後か四日後ぐらいに一回うちの家族はもううちの实家の方に鈎取の实家の方に移したんですね、それで俺だけ戻つてやつてたんですよ正直言つて。

### 避難所での仕事

避難所では食料の配分とかもう、今晚何にするのかとか、人数、三百人分のあれのおかず、結局まとまつてきてるわけじゃないから、それを今日はこれ明日はこれとかあと何か炊き出しつて言つたらじゃあこのことから取りに行けとか一気に行くとか、あとともうそういうことですかね、結局毛布とかつても結局体育館なんで古かつたんでとにかく寒かつたんですよ。それで毛布とか中古の布団とか大量に来てたんですけども、結局はそのずうずうしいやつはバンバンもつてくんだけども遠慮する人たちは結局もらえないつていうかみんなのためにつていう人が逆に床に毛布一枚ぐらい引いてあの体育館にいる状態とかだったんで、夜とかに回つて、日中とかもグルグルまわつてとにかくその回つて確かめて、「これは固いからダメだ、持つてきてやるから待つてろ」つて言つて全部、それで夜寝てる時も一個一個まわつて、ああ毛布足らないと思つたら上から持つてきてとかそういうことやつてたんですね。あと携帯もほら充電器が足りないとか言つて、それで充電するのに「みんな置いてけ

充電してやるから」って言って夜にずっとこうやって充電こうやってとやって、そういうのやってみましたね。結局テーブルすらないから、飯食ってるのもそのまま毛布の上で食べている状態だから、「ダンボールをテーブルにするって」って言って「ダンボールの上で食え」とかって、そういうのもやってみましたね結局。そこからですかね、それやってそれで会社も、「いつ出てくんか」ってやいのやいの言われてたんで、とにかく休ませてって、年休って休みなくなったら欠勤でもいいから休ませてくれって言って、いざとなったら辞めさせてもらってもいいからって、それでギリギリまでそこでやってて館腰を。そして最後に三日ぐらいだけ空けてちよつと家の方、その前にはもう家ぶつ潰されてたのは分かってたんですね。

### 自宅がなくなっているのを知る

家の方は四日目か五日目に上町集会所ってここにあるんですけどその小屋が残ってるっていう話を聞いたんですね。それで中にほら、防災用の炊き出しのやつとかあったので、それ取りに行けって言われて行った時にちよつとうちまでちよつと行ってくれって行って行ったときに家がなくなってたんで、それでその二日前ぐらいに、俺の家流されてるよと、流されてるけど立ってるみたいな感じに言われてたので、流されたのかと思って、でも流されて家残ってるんだったら、結局うちの、ここからだから海側こう来てるんだから、こつち流されてるから幼稚園の敷地に流されてるべと思ってたんです俺的には。じゃあ大丈夫だと思ってる荷物なんかは後で取りに行けばいいと思ってやり続けて、そして酒屋の小屋にくつついてたらしいんですね。それで酒屋から「片平さんち隣り合わせになった、隣同士だよ」って言われた意味が分からなくてその時に、ほかのうちが無くなって、うちと酒屋だけなのかと思ってたから。そしたら違ってたらしくて、結局道路側に流された。ぶつ壊されてたんですね家が、それで道路の脇に家の残骸があるわけですよ、それではーって思って、でもまあいっかって、ほんととはほら、何かし

ら物取りたかったんだけど、そんなことやってる暇もない。それで後から取りに来ればいいやってそのまま避難所でやり続けて、で、結局ずつと避難所で、で避難所でもみんなに手伝ってくれとかあえて言わなかったんですね私的には、なんでかっていうとちら家族助かってたから、それで当初千人やられてるって話だったから閑上って何千人いたんだっけって、6000とか7000っていうことは三人に一人やられてたらね、家の中で誰かかれか死んでる。それを結局探しに行ってるだろうと思っていた。日中とかいなくなる人たちにはあえて聞けないし、誰が助かっているのかとかも一切。だから単純に皆探してるんだって思って、ただ俺の方が、俺は家族が助かっているからと思ってるので、そしてたっけ実は家の片づけとかしてたらしくて(笑)、あつなんだそうだったんだみたいな。俺もやってりやよかつたみたいな、まあ探しに行ってた人たちもいっぱいいたんだけど、ほら知ってる人とかは実際は自分ちでの持ち物とりに行ってた人もいたらしくて、あーやっぱりするんだなあ、って思ってあえて何にも云わなかったけど、それから4月入ってそれでやめて、それでその4月の3日ぐらいあけて家のほら、取れるかなって思って行って見たんだけど結局その頃にはもうがれき撤去して、家の瓦礫が運ばれていた。だからそこ別に急ぐ必要ないんじゃないかみたいな、ただね、遺体探してるのかなって思うと、無理になんにも言えないしね、やめるとも言えないし。俺だってほら「何やってんだ俺んちのおめーまだ品物取ってないのに何やってんだ」みたいな思うんだけども亡くなった人探すの最優先だから仕方ないなと思って、ただ残ってるがれきからとか一応探してみただ娘の雑誌とかそういうものしか結局取れない、もうなんにもほんとは取れなかったですね結局。綺麗な状態のまままで結局出てくるから、残ってたなあみたいなの。ただ単にぶつ壊されてやられただけなんだ俺は、ってちよつと腹立たしくもあるんですけどね、結局は。だからもうほんとにボロボロになった写真だけですから家的には。

鉤取の実家に移ってからも休みの日には館腰には手伝いに行っていたんですよ。おれはその、PTAの会長っていうのは、その年度で終わりだったんですよ四年目で、予定では。次期会長さんもう決まってる、引き継ぎすれば終わりだよっていう状態だったんですけども、その次期会長さんはもう引越しちゃって、転校しちゃったもんですから、じゃあ俺が続けるしかない、役員もとにかくやる人だけ集めてやるうっていうことでやったことが運のつきだったんですよ俺的にはね。

### 復興会議が始まる

そっからがもうその、結局は復興会議とか結局あったから、復興会議、未来への会議だかなんだったっていうのに出席しました。なんともいえないねえあれは。若いメンバーは小・中学校のPTA会長が入ったんだけど、会議やりますよっていうのは結局日中なんですよね、平日の10時とか、それが9日前とかに言われるんですよ正直言って、そいつと普通に働いている若い人たちっていうのは出れないわけですよ正直言くと。普通に考えたって四日とか五日前に、「じゃあこの日休ませてくれ」っていつて俺休みなんか取れなかったんですよ実は、最初の方。それで出れなかったんですよ正直言って、それで休みついていてももうその震災の時に有休は全部使ってしまったから一切もう休みが取れない。最初の二、三回ぐらいは出れなくてまったく、その後は予定組んでもらってそれに非番って、平日休みあったんでそれを組み込んでもらって出れるようにはなっていたんですけども、それとかやってたものですから私は震災からそれを復興会議は8月ぐらいですか、まだとにかく休みがなくて一切、ほとんど毎日夜仕事終わってからはもう会議とか。いろんな団体とか出たりなんかしたりPTAやったりとかだったから結局、夜ほとんどもう仕事終わってからそういうのに全部取られて、もう月二日か三日ぐらいしか予定入らないとこないっていうぐらい、それが8月頭までずーっとあって、結局私はほら反対してた、現地再建の反

対してたあれだったから、そんな危険なとこに住まわせられないっていうんで、一貫して反対してた、それで散々やられたんですけどね私は。「なにおめー、そんなこといってんのや」とか、だから会議っていうのは私最初出れなくて私やっと出れた時にはもうなんか、あの案ありますよね、あの案でなんか進んでるような話だったんですよ。だから私が「これ決定したんですか？」っていう話をしたんですよ。そしたらどっかの社長が「おめー会議出てきてないのにおめーなに今更そんなこといってんのや」みたいな話、「おめー出てきてないんだから口出しするな」みたいなことも言われましたし、あとはそのあとちょっとPTA内部でもやられましたし、ほかのところからも「お前は地元じゃないんだから」みたいなやられましたし、さんざんやられましたね。今は仮設の会長やってますけどもこどもも散々叩かれてますからね。だからもうやる必要ないのかなって、もう思って。体も壊しちゃいましたし、髪の毛も全部、眉毛も全部なくしたし、こっち睫毛も全然なくなってる。それ、結局俺的には必死こいて何とかしようって思ってたのをやられちゃったもんだから一気に精神的にやられちゃったんですね。だからどうにでもしてくれと、市の方がもう、鼻で笑うしかないなみたいなみたいな。たとえ、危ないのあと思ってるのですねいまだに、前より危険度は増してると思うんですよ、だからその仙台側で、その亘理線のメートルだけあげると言ってるじゃないですか、ってことはそっちの津波全部こっち側に川の方から押し寄せてくるわけですよ、ってことは初期はそれを考えてない状態のシュミレーションにしても、「メートル以上津波が来るって言われてるところですか」から実際そういう風に、現段階でメートルあげられたらこっちに全部津波が押し寄せたら前よりも危険な状態にはなってるはずなんですよ。それをおざなりにして結局今話を進めて意地で、そこがもうおかしいんだ。「メートルの津波っていうのは建物が流されなにから安心でしょ」って言われたんですよ。それを私は「メートルつ

て子供の身長何センチあるんですか？」って、「あんた多賀城とかの  
あっち映像見ましたか？30センチ40センチの高さで車流されてい  
くんですよ」って言うってたんですけども結局は無理だったんですね。  
だからもう諦めましよう。今更どうなってももう遅いと、もう若  
い人戻らないんですよ。だから今からたとえ話し合おうとしても、  
いつしましようって言ったってもう遅いと。もう若い人たちもう出  
ちやつたもん。実際は。その私がダメでこの人だったら将来閉上を  
背負って立つっていうのは大げさなかもしれないけどこの人たち  
がいれば閉上こうやって盛り上げていけるっていう人たちみんな出  
ちやいましたからもう、自分的にはもうだめだな。閉上小学校も  
今現状見ても分かる通り復旧してるのかね。8人いれば、8人でし  
たっけ5人ぐらいしか、半分ずつ減って行ってる状態なんですよ。  
毎年、ってことは来年四人、その次ふたり、その次どうなるのって  
ゼロってなると、それでこの復興が5年6年経ったときに私閉上小  
学校って生徒いるの？いないでしょ？ってどうしたって年寄り連中  
しか戻らないとか、小学校なくなっただって、なんなんですかね結局。  
どうしようもないなあこれは。はたから見えてこれってどうなん  
ですか？面白いですよねほんとに、なんかどうなんでしょうね、いや  
内部から見るとじゃなくて外部の人ってこれを見たときに、今こう  
いう風になってるのを見てどう感じてるのかなって思っただ。復興会  
議のときも裏から手を回されたからね市から。漁協関係もそうだし、  
漁協関係どうなんですかって行っただけに「うちらは無理に移った  
って、車で行けばいいことなんだから住む場所は移ったって別に  
かまわないですよ」って言うって次の週に「やっぱ潮風感じないとだ  
めだ」ってコロッと変わったんですから多数決で、それでなんだって  
おもったら市の方が裏で手を回してるんですよ。そういう状態  
でしたね。

## 仮設での生活

この仮設に来たのは去年、おとしの五月、六月あたりかなあ確

かそれぐらいだと思いますよ、うん。一丁目二丁目がここだとい  
うこと。一応申請はしてるんですけどだぶんうちらは後だろうと思  
ってたんですね正直言うと、一丁目だし。まず最初にはこっちでし  
ようと。一丁目でしょ、うちも奥にあつて、ましてや市長んちすぐ  
近くになるし、うちら遅れても覚悟の上だと思っただんですけど、  
一番最初になつたんですねうちらが。なんかわからないけど、結局、  
私的にはほら鉤取も実家だし、家は母親しかいないんで、あのあつ  
ちに住むっていう選択もあつたんですけど、PTAの会長もやってる  
し出ちやダメでしょと、みんなと一緒にいなくちやダメでしょと思  
つたから結局ここにきたんだけど、結局それが失敗だった。い  
やーこんなところに来るんじやなかったほんと。酷いもんですよ。  
夏は暑いし冬は寒いし、あとほら、プライベートっていうかなんて  
いうの、そんなもんじゃないしね、だから精神的にやられてからは人  
目がとにかく気になる今は。だからここに戻ってきたくないって  
いうのがあるんですよ正直言うと。じいちゃんばあちゃんたち結  
構出てるじやないですか外に、あれがだんだん嫌になつてくるん  
ですね。疲れてとにかく帰りたいんだけど、いるから、とにかく  
暗くなるまでちよつとそつちのほうであれしてみたいな。そういう  
状態ですね最近は特に。だれにも会いたくないな。去年、髪  
の毛とか抜け始めたのは去年の10月あたりですかね9月かな。9  
月に一回医者行つたんだ、髭とか生えなくなつたんですよ全部、最  
初髭生えない鼻毛も生えないなおかしいな思ってたら、俺  
元々ここは上げてたんでそれで坊主にしてたんで髪なかつたんですけ  
どそれが手でなでたときに全部ぬけてる、一面真っ黒になつちやつ  
て、ほんとに休みたかつたんだけど仕事も忙しいんです皆さん特  
に俺いるところは。配達が専門で。それですと去年の、今年の二  
月あたりからとにかく休ませてくれて言うてるんですけどまとめ  
てちよつと休みくれ、医者に行くから休み取らせてくれって言って、  
いまだにちよつとそういうのができないので。それでもうだめだっ

て言っでなんとか医者に行ってる状態なんですけど。そのストレス  
っていうか精神的なもうだからもう解決策がないんでしようね、多  
分ねこれね。とにかく朝とか体動かないですもん。だからちよつと  
困っで今。だから早く出ようかと思っで一生懸命探してるんです  
よ家の方は。

### 復興会議の進み方

まあ妻の方がずつと閉上で、家建てるべつて思っでこつちに来た  
から、ただ、最初は震災がなければいい街だったのかもしれないけ  
ど、いざ震災あつてこういう状況になつてみると、悪いところばつ  
かり目につくね。あの、なんていうのかなあこうたとえ、若いや  
つが出てこない、出てこないっていうか頭押さえつけられちゃうん  
です。結局上によつて。だからあえて復興の会議とかつてやつて  
ここの現地再建間違つてるじゃんつて若いやつが思っでもその会  
議をやつてる奴が結局誰々の父ちゃん、誰々だ、あの人には逆らえ  
ないんだよつて言っで結局言えない、若いやつらは言えない。つて  
いう状態なんです。つくづく思いましたよ。今回のいろいろ話し  
て、ああこれ悪いみたいな。んで、そしたら若いやつが何か言う  
もんなら押さえつけるつていう。そういうのがこの閉上です。俺  
も口が悪いからズケズケいうからね、だからなんだつてなるんだろ  
うけど、ただ、やつてるとはそんな間違つてるとをいつてる  
つもりはないんだだけ。実際。だから復興に關してはそう、余所  
者がなんだかんだつて言われたからそれでほら、俺が反対してるこ  
とで「PTAが復興を邪魔してる」つても言われたんですよ、だから  
私は復興のことには一切かかわらない、PTA内部からも言われまし  
た「復興になんかにかかわつてないで PTA やつてくれ」つて、そ  
の人たちが何か月後には「やつぱ復興にかかわらないとだめだ」と  
か言いだしてるとな街ですからここは、平気で。だから私は一切  
かかわりを持たないようにして、そうして今の人たち、やつてる人

たちが作つた街がどういふ街になるのか見てるだけです。どれだけ  
立派な街を作れるのかあんなら、みたいな、あんなら作つた街  
にどれぐらい人が戻つてくるのか見てやろうと思っで一切口は出し  
てないんです。ね。

話し合つたらと言われてもね、結局はいくら話したつてね、市の  
方で聞き入れないからね。俺は最初からわかつてましたよ正直言つ  
て、市はこのままいくんだつていうこと。五月のあたりでもう、復  
興会議だかつていうのはある前の時点でもうわかつてましたもん。  
なんでかつていうと PTA と結構話してたんです。どういふふう  
になつて、あの案を出されてたんですよ初期の段階で。私たちは、  
「いやこれ危ないだろ。こんなの話にならない、移転案とかさうい  
うのも出してくれ」と、これじゃあ危ないどうしてこれが安全だつ  
て言えるんだ、つてさんさん言つてました、それで「はい」つて返  
事したままいくんです。そしてまた次に会議あつて、市はまた  
同じ資料だしてくるんです。それで私たちは「ああこの間言つ  
たことこいつはちよつといまいち理解してなかつたんだ」と、そ  
してまたこうして説明するわけですよ「これじゃだめだ、移転案と  
か色々あるだろ」つて、「じゃあこれ、はい」つて言つて戻つて行  
つて、それで三回目、もう一回同じの全く同じやつだしてくるん  
ですよ。それを見た瞬間に「ああこいつらもうこれですすめる気だ」と、  
うちの話は一切聞く気がないつていうのはもうわかつてました。  
ああこいつはそういう態度をとるんだと。未来会議とか現地再建で  
決定つてなられたらもうその時点でアウトだつていうのは分かつて  
たんで、だつてどんなに移転案とか出してたつて「いやそれでも  
決まつてたでしょ」とか言われればもうアウトだもの。市の方でそ  
ういわれたらあとともうだめだと思つてましたね正直言つて。

### 八人会議決定の内容

八人会議は復興会議のメンバーですよ結局は、それで私的には、  
八人、だからあの時のメンバーが結局漁協関係とか農業関係、漁協

農協、民間会社社長、あと町内会長、あと誰いたかなあと、中学校のPTA会長、あと俺と、あともう一人誰だっけ、誰だかいたんですよ。それでそういうメンバーでしたね、結局。だからその司会進行してたどっかの大学の教授だかなんか多数決でとかって言い始めたんですね結局は、それで私的には五分五分に持って行けるとは思ってたんですね正直言うとな、とにかくその時点でおれはあっち側の意見通しちやたらもうだめだつて、こっちの市民の方がこう上に立たない限りはこれはやられるって思ってたんで、ただ結局はあの、最後に多数決とる前に私は今回その子供が心配で戻ってきて、それでやられた人がいっぱいいるんだよ、たとえここが今度来たときにまた戻ってくるでしょ、必ず親は戻ってくる。そしたらまたやられるよと。そういう話をもう最後に、これが最後だと思ってたんで、それで賛同してくれる人が一人いたんで、それで賛同してくれて、あの美田園があっちの方が、「どうする閑上」っていう会議みたいなのあったの知ってますか？あれ館腰から出たんです。館腰小学校の避難所の、避難所で立ち上がった団体なんです。あそこ一貫して集団移転のそこだったんですね。いろんな資料持ってきて「ほらこんなに危険でしょ」っていうのは言ってたんで、じゃあこっちがいけると思ってたんですけどね、いざふたを開けてみたらビックリみたいなの。育成会のほうも、全部現地再建オツケーだと、漁協すらもオツケーだと、この間まで「潮風が潮の香りがしないと閑上じゃないと閑上じゃねえ」とかなんかとんでもないこと言い始めてたから、結局は「んー」みたいな、結局はだめだった。だれに何言われても俺は曲げなかったから、そのままいろんな人とかに「そんなこと言うな」となんだかんだってさんざん言われるんだけど呼び出しくらつてたし、全然変えなかったものだから俺は、結局それでやられたんでしょね。なんともいえないんだね。

貞山堀があるから安全であるという感覚があった

閑上字新鶴塚

### 地震の時

当日、自宅にいたのね、であの遅いご飯を食べてゆったりしてテレビ見てたわけ。んで、当日の14時26分ですか？あんどきに大きな地震が来て、いや、14時46分。そんときに、テレビが俺の方に向かってどーんって吹っ飛んできたわけね。それでこれはいかんっていうことで、外に出たらやっぱりあのその時点でも車が渋滞してるような状態だったのね。こっちの巨理線のね、ここのところが完全に渋滞してるわけさね。んで、身動きが取れなかったのね。で、そのうちにね、俺が外に出て外があんまりにも騒がしいんで、ここにも駐車場があるんですけども、駐車場にいっぱいはいってきちゃったんですよ。んで、何だろうなあって思ってたって出て行ったら、そこで人がいっぱいいたのね。「早く上がれ」っていうことで、そして三階まで上がったと同時にもう津波がここまではいってきただね、ここまでね。この辺まで黒いやつが、きて、あのその状態っていうのが静かだったんですよ。えーつとね、40分ぐらいありましたかね。津波黒いね、水がね静かに上がってきたんですよ。方角がこっち（北側）から入ってきてるんですよ。あの、仙台沖でしよ地震がね。こっちからこういう風に、こっち海ですよ。こっち海なんだけどこっちから。小学校、北からこうはいってきてるんだね。川の方から。こっちからびゅーんとあがつてきてるから、で、今回はね。だからこっちのほうは当然多くやられてるわけですよ。そしてあのみんなここの道路でね、立ち往生してるから危ないっていうことで「みんな逃げろ」って言ったんだけど、逃げ遅れた人もいっぱいいるんですよ。そんで、車止まってたやつがみんなこの学校の方にみんな押し寄せられて、ここに入ってるんです。校庭のところ。で、校庭っていうのが、「字型の感じの校舎と体育館立ってて、そのところにみんなはいってきたと、そして、入った状態

で渦巻いたりも、そんな感じで、中に入った車が外に押し出されてる恰好。ここでぐるんとなってこっちのほうに皆押し出されて、で東道路の手前でみんなとまって、そのへんでみんなごちゃってなってる感じかな。

で、この辺で亡くなった人っていうのはいないんだけど、ここにね、小学校からここのところにコンビニ（ローソン）があるんですよ、ここのあの三角のところね、人がかなり入ってるみたいだったね。亡くなった感じの人かな、7人か8人ぐらいいたのかね。今回はこういう風にして宮城県沖っていうって、北から入ってきてるから、これが逆にね、茨城とか福島とかこっちの方で大きな地震があった場合車が入ってくるわけね、だから今回の被害よりもまた違った被害の方が大きかったのかなって、こっちから入ってくればね。こういうふうだね。今回はこっちからだったからそうでもなかったみたいなんだけど。

普通はね、この名取川っていうのあるから我々は今までほら何回かね、津波とかそういうの経験はしてるんだけど、貞山堀があるためにそんなに大きな被害っていうのはなかったんですよ。今までもね。おれら感覚でいくと、「あーこれがあるから安全だ大丈夫だ」っていうことで、あのある程度の安心感もあったわけですよ、大きな地震にしてはね。それがやっぱ命取りになったのかな。

今回は仙台沖で宮城県沖でね、あの起きてるんで、それが逆にこっちの茨城とかね、こっち千葉とかこっちの方で大きな地震起きた場合に、宮城県にね、こういう風な格好で逆に入ってくるんじゃないかって、そうした場合に被害がね、今回の被害とはまた違った面でのね、被害っていうのが出てくるんじゃないかってことなんです。

### 避難その後

学校に、小学校に一晚泊まりました。ただこういう時の状態っていうのがね、お腹がすかないんですよ。三月の時点での寒さも感じ

ない、やっぱり気が動転してる関係なのかなあ。自分がですよ、で、一晩泊まって次の日のねお昼過ぎですかね、救助されたのが。館腰の方に行った、入ったんですね。館腰に行つて、その時ほら甥っ子の子供たちが学校に行つてたから、甥っ子二人を連れて、一緒に避難をして、親たちにあの子供渡して、俺もほら、それと一緒に文化会館の方に避難をした。

文化会館人がいっぱいいましたね。ただほら、おれの場合はいとことかいたからだからそこるところにポーンと入っちゃった感じ、4日ぐらいいましたかね。4日いて今度息子の嫁の実家に居候して、20日ぐらいいましたかね。大手町。大手町に20日ぐらいいいて、今度息子が家の実家にアパートにいたから、だからそっちの方に今度移動して。1か月ぐらいいいて、そして今度こっちの方の仮設の方に移つたと。

### 仮設住宅に

こちららの仮設には9月ですかね。どちらかというところ一丁目の方、上町の方が多い。

俺小さい時からいるから、ほとんどが知ってる人が多いですよ。だからあの寂しいとかなんとかそういうものはなかったかな。一人、単身で入ってます。あの引きこもり方じゃないんで、なるべくだつたら人のところの輪に入つて、バカを語つて、騒いでる方がいいのかなと思いますけどね。だからその点に関しては孤独感とかそういうものは一切ないですね。昔みたいな長屋形式のとまた今は違うんですけども、よくいつたらきりがいいから、よくいつたらきりがいいんです。だからまあ現状で満足まではいかないだろうけども、みんなと和気あいあいとやればいいかな、ただ一番よかったのはね、前のね、閉上にいれば、みんなと馬鹿話したりなんだから、話し合うつていうつていうことはまずなかったとおもうね。だからこういうところに入ったおかげでね、みんなとも話し合いをして、いろんなことほらきいたりなんたりできる、それが一番いい

のかな。

### 自分の体験を伝えたい

あの津波の時あの、学校ほら、湧水とかね、雨水とか流す側溝、地震起きたでしょ？すぐぐらいいにね、ペットボトルがなくて紙パックのジュースとか最後の残りずずずってやるおと、あの音がしたんですね。あの音がしたのずずずと、吸い込まれるような音にして、そのあとちようどこに川があるんですよ、この川、こつちね。やっぱり水嵩あがつてきたのズズと。で、小学校のね、かなり吸い取られるそんな感じの音がずずとしたんですね、そして川が段々水嵩あがつてきて。それと俺はね、だいたいそういう風な体験なんだけども、一つだけね、なんかみんなは俺の間も聞いたんだけど、地震の日の朝、朝焼けの状態のところ鳥が何千何万、そういうふうな光景を見てるんですよ。前にあの地震がありましたよね、その時も同じ光景を見てるんですよ。大体同じぐらいの時間で、すごいカラスなんですよね。で、それが北上していくような格好で、みんな見てた「わー」つてそういう風な感じ、だから俺だけ見たわけじゃないだろうなと思つたんだけど、なんか昔からよくカラスね、夜鳴き声とかなんかかかってあるとなんか大変なことがあるんじゃないかとかかってよく言ってますよね。あの光景なのかなつていう風に一応見たんですよ。そのあと全然なくなると。すつと数だつたんですよ、あの朝焼けの綺麗なところに、その黒いのがすごい数だつたんですよ、で、このところほら、木が結構生い茂ってるんですよ、学校の木もあるし、俺のところの木もあるし、ほらそこにあの、すごいカラスが止まってるんですよ。そして鳴き声がおかしかつたかな。だからなんかおかしいなちよつとちがうなつて思つたら、やっぱりあんな感じになつたんですよ。だからやっぱりなんかの知らせなのかなつて自分なりにはね、解釈したんですよ。

### 今後のこと

一応ね、子供と同居してそしてもう今年中にはここ出ようと思つてます。もう今月の末から、できればここを出る、卒業するようなかつこうで。俺的には戻りたいんだけどやっぱり、うん。なんだけどやっぱり段々々歳行くからね。だからやっぱ子供のこと聞かきやならない時期にもなってるし、それから今が一番いい時期なのかなって自分では判断したのね。いつかじゃなくて。

### 閑上のよいところ

閑上の良いところってやっぱりね、あの土地柄ね、住みやすいっていうのが一番でしょうね。やっぱり六十何年もあそこに暮らすと、やっぱりあそこがいいところっていうのはやっぱりわかるんですよ。人柄とかなんとかってみんないいしね。本当なら俺的にはもどりたいと。でもやっぱり一人で生きていけないから、やっぱりいつかは子供に世話にならないといけないというふうに生きてると思うのね。だからこの辺がいいところなのかなって思つて。

今後、引越したら寂しくなるということ、それはない、意外と誰とでも話し合わせることでできるから、だからそれはないと思いません。

大好きなハーモニカごと流された  
元閑上一丁目

### 震災前は

家で洋裁の内職をしていました。又ハーモニカが大好きで教室に通ってました。津波がなければいままだやっていたんだけどね。みんな家ごと流されたから。実家は仙台市青葉区芋沢、そこからこちらに嫁に来てもう20年だね。閑上は住みよい所だと思つてたね。

### 地震で

家はね流されたんです。勝手の方だけちよつと残つてね。この辺(丁目)はみな残ったんだけど、家は前も後ろも道路で前は田んぼだったのでそつちからもこつちからも津波来てごちゃごちゃにされたんだわね。地震の時は家は倒れなかったのね。古い家だったんですけどもいつ倒れるか倒れるかと思つて外で見たんだけど倒れなかったのね。だから津波さえこなければ住まれたのになあ。みんな持つて行かれてしまつて・・・それで家の2階が道路にたまったガレキの上にポコンと乗つていたのね。1階が流されて2階がね。

### 地震の時は

揺れはすごかったです。その時テレビ見てたんだけど、それでわらわら(慌てて)外に出て、家の前が草むらになってたからそこに腰掛けてしまったんだね。そして余震も多かったからしばらくそこに腰掛けていたんです。そのうち向かいの方が「今おっきな津波が来るから避難した方がいいよ」と言われて初めて家の中に入り、ジャンパー着てリュックをしょつて閑上中学校に行つたんです。歩いて200位の所だったので生協のとなり通つてね。

### 閑上中学校では

津波は見ました。中学校の3階に行つたんだけどその時はもう各教室ともいっぱいになってたのね。15分位立つてからだね、津波が来たの。家やら車やらガレキやら水もどす黒い色で「あらー」つて思つて、本当に映画でも見てるみたいだったね。この先どうなんの

かと思つたね。中学校には何も食べ物が無いから、食べないで次の日  
の日の午後〇時頃大型バスが、〇台が東部道路までしか来なかった  
のね。ガレキで閉上まで来れなかったのね。自衛隊が人通れる位に片  
付けて東部道路まで歩かせられたのね。ずい分遠かったね。それに  
兎に角どのバスでもいいから乗ってどこに連れて行かれるのか分か  
らなかつたのね。そしたら館腰の小学校の体育館に入れられたのね。

#### 避難所へ

私は主人が亡くなってから1人暮らしだったんですね。7年ぐら  
い前にね。不安だったけど皆んな近所の人たちだったので避難所  
は。着の身着のままだから、でもお風呂やなんかは10日に1回く  
らいづつかな。あの極楽湯とか秋保に連れて行かれたけれど、あと  
その間は妹が迎えに来てくれて入ったりはしたけれどね。着替えが  
ないので出かけた時買ってきたり、皆に貰ったりしてね。食べ物はお  
りと不自由はしなかつたね。自衛隊の方々が炊き出ししてくれたの  
で、うんとありがたかつたね。12日の夜、おにぎりをたべさせら  
れた時は本当においしかった。また、水も電気もつかないので大変  
でしたね。

#### 家を持って行かれるとは思わなかった

よもや家まで流されるとは思わなかったもんね。大好きなハーモ  
ニカもね。震災前はハーモニカの発表会でララホールとか福祉会  
館等で年に一度会ったんだけど、今はもう出来ないで淋しいね。  
ここに来て民生委員している方にハーモニカ1本頂いて今はそれで  
少し吹いたりしています。何もかもなくなつたんだから仕方ないね。  
お盆の時は皆泊まりに来て楽しかったのに今は出来ないね。

#### 婦人会の活動

仮設住宅には平成23年5月3日に入居。ここは仮設には1丁目、  
2丁目の人たちが住んでいるのね。婦人会の人たちもみなばらばら  
で何をするにも大変なんだね。閉上婦人会というのは各地区に別れ  
ていて、その中に各支部長がいるんです。私もその中の1人で上町

婦人会の支部長を勤めていました。震災の年は何も行事はなかつた  
が平成24年25年と市婦連大会また閉上保存会といつて閉上大漁  
踊りをしたりしたね。増田西公民館で踊ったり、名取が丘公民館で踊  
ったりね。閉上にいた時は公民館祭りとか町民大会とか行事はいろ  
いろあったから、その度に婦人会でバザーをするため弁当を作つた  
りね活動していました。

#### 仮設住宅では

仮設に入った時は荷物はあまりなかつたので、まあ1部屋でもい  
いと思つていたが、月日がたつにつれて荷物も増え、4畳半一間で  
はとても狭くなつたね。もう2年5ヶ月もたちますからね。週一回  
ボランティアで買い物に連れて行かれるので助かっています。集會  
所でお茶会があるので行って楽しんでいます。

#### 閉上のよいところ

バス停留所が近い、病院、生協、郵便局、店屋も近いし、道路も  
平らなので自転車でもな用足し出来たね。浜風も夏は涼しくてほ  
んとうに住みよい町でした。

#### 今後のこと

自分の帰る所、閉上だね。一日も早く復興してもらいたい。それ  
まで健康に注意して過ごしたいと思つてます。

閑上は全滅と聞いた  
元閑上宇新狐島

### 地震の時は

ちようど仕事してたのね、そのでね、ちようどその瞬間、俺「4時5分発車で、ちようどね、地震、揺れ始まった時はバスにいたの。津波は、2メートル近く来たんだなこれもね。俺の背の上ぐらゐまで来てるから、深沼行きのバスだったのね。地震来る前に大体五分前に停留所に付けるから、その駐車場で待機してて、うんそして地震来たのがね、二回か三回ぐらゐまで揺れた時点でもう発車時間来たから、停留所に着けて、発車したわけだね。そして、停留所に着ける「分ぐらい前から、こう、感じて、そして一回なつて二回で収まるんじゃないかなつて思つてそれでも収まらなくて。そこで発車時間に間に合うように停留所に着けて、で、深沼行きだったのねそのときちようどね。で、深沼行き発車して、そして定禅寺通りに入った時にはもう一般の会社員とかそういう人たち定禅寺通りのあそこのケヤキ並木の下にもう全員避難してたんだね。あれ、すごいんだなつて思つて。これ仙台駅の方まで行つたのね、その途中も仙台駅近辺もやっぱみんなそういう状態で、30分ぐらゐはかかったね、仙台駅まで3、40分かかっているはずだね。仙台駅まで行つて、お客さん乗せて、そして五橋のね、停留所の近くがNTTのね、会社あるね。そののね、五橋の停留所あるわけね、そこに剥がれてきた外壁がすぽーっと停留所の真ん中に落ちてたわけ。「あーこれお客さんそこで待つたら大変だな」って思っているうちに、今度営業所の方からね、運行中止の無線入つたのね。それまではね、うん、入らなかつたの。そしたらあの辺から五橋、あの辺からね、情報が入つて、運行取りやめるような無線も入つてね、そして荒町に入つた時も、全部、運行中止つていう連絡入つたわけね。その頃荒町に行くか、いたまでもほんとに、結構時間はかかつたね。場所の良いとこでお客を下ろすように、あと上り側はその当時全行中止した

から、下りの分だけだからほとんど何十台か、4、50台ぐらゐですか？それで大体終わりだったのね。それで私も従つて、お客さん降ろして霞の目営業所に帰つて、着いたときはね暗くなつてね、5時半かな。それぐらゐになつてたのねうん。それで営業所に行つて停電だしまあ当時はほんとにねびっくりしたやっぱね。電信柱、あの、トランスさ、もう途中途中みんなぶらさがつてさ。もうほとんどトランスね、落ちてたね。ぶら下がつてる状態だったの。そんでなんとかかんとか営業所に着いて、それから今度ほら、なんだ閑上のこと、仕事かね、閑上のは全然頭になかつたのやっぱね、そして営業所についてから、なんだ今度俺たちのうち大丈夫かなーなつてなつて、そしてそんときね、テレビで、ちようどおれ自家発電でやつてテレビだの映つたのね。営業所ではさ、そん時の流れてた映像つてのがやっぱり仙台市の映像だけすぽーっと流れてたのね。閑上の映像つていうのはほとんど流れてなくて「なんだこれ閑上大丈夫かな」って思つてたのね。

### 閑上は全滅？

でもねなんだこれ閑上ね、閑上全滅だつていうわけさね。そして残つてるの閑上小学校と中学校とね、消防署ぐらゐしか残つてないつて話だったのね。何人か閑上の人、7、8人いたから霞の目営業所にね、そして「あらー」つたつて、ほんとにかつて聞いたつて「なんかほんとだぞ、間違いないんだつて」つていうわけさね、そんなもテレビに全然閑上のこと、それでちようどね、藤塚のね、ちようどそこ、閑上行くとき必ず停留所コースの、そしたつてねその畑ね画面に出たの。なんだ見たことあるとこだなーつて思つてね。そこがちようど藤塚の、そつちのほうはテレビに映つてたの、何回も流れてるから。「見たことあるとこだなー」つて思つてるうちに「なんだここの藤塚だ」つてなつたのね「なんだ」つてなつてさ、「あーこれじゃあ閑上もだめだな」つてそこで初めて俺もね、初めてその時閑上もダメだなつて気づいたのね。そして、営業所に着いてね、

まあ何時間ぐらいいたかな、でぼちぼち帰って見ようかなって思っ  
て一応ね、行くところまで一回夜帰ったのね。そしてバス、インター、  
あの辺に行ってね、夜だからあれも9時か10時ごろかね、そしてた  
ら田んぼね、やっぱりちようど月出てたんだな、水面光って見える  
んだね。塩水来たのねそこまでね。そしてバリケードはられて、俺  
は「ターンしてまた後ろに帰ってさ、そしてまず、家にも帰れない  
からって」いうことでもう営業所に泊まってもいいとなってるね。

震災後はある程度あの、走れるとだけ走ったのね。だから閑上  
とか藤塚こつち、あの、ほとんど走れないからさ、仙台バイパスの  
下は全然走れないから、ただほら、霞の目から、あの、大和町とき、  
あと荒町経由とか、そういうのは走ったのねある程度。次の日から  
もやっぱり走れる路線だけね。だからやっぱ無線っていうのはほん  
と、便利だったね。あの頃すぐ無線であいつ、無線なかったらやつ  
ぱりかなり全車両ストップさせるっていうのは大変だったもんね、  
やっぱり無線ですぐ一発でね、運行中止。回送で帰ってっていうそう  
いう指示出たからね。だからそれだけは便利だなって思ったね、だ  
からあいつは無線つけて正解だったね。うん。信号が停電してやつ  
ぱり、そいつはやっぱ進むのも、左右確認はね、信号ついてないか  
らそれは徐行したり色んなことして、バスは運行したね。うん。

営業所には一日だけ泊まって、次の朝ね、9時ごろもう一回行っ  
たけどだめだから、あの、増田にね、そこんとこいったの、そして  
つけやっぱり途中大曲っていう村があるのね。あの辺でやっぱバリ  
ケードあって、そんでね、まあ途中でまた戻ってきて、そして会社  
に、もう働かないからまず家も子供心配だから今日休ませてくれっ  
ていうことでもまあそういうことになってね。その日からもうちよう  
ど3月31日で辞めるつもりだったのね。その嘱託さ、だからちよ  
うどね、宮城交通はあんまり関係なかったのね。定年退職してそれ  
であの嘱託で、五年働けるの。だけでもほら、こつちの年金とかの  
関係でさ。だから5年働くと満期になるってことだったから、そん

で、あの、3年、3月31日いっぱいやめる予定だったのね。そし  
てやっぱりその前に、その家族との連絡ね、それが大変だったの。  
それでね3月11日のね11時頃までは家族とみんな連絡取れてたの  
ね。うん、で、まず一安心してそしてちようどおれ霞の営業所に泊  
まるからって思っただけで、次の日からまた今度連絡が取れな  
くてね。そんでほら、その間俺は次の日から女房と連絡も取れたか  
らそういうこと連絡してて、それで娘のね、娘とも連絡取れたん  
けどほらあの、美田園の保育園に行ってたのね孫がね。美田園。そ  
んで、あのほら、10時ごろにならないと引き取り出来ないって状況  
だったのね子供たちまだ水引かなかったからね美田園。とにかく連  
絡取れないのは10時ごろ引き取りに行くんだっていうことだけあ  
ってね、そしてね、それからもう次の朝になっても何回も何回も連  
絡取ろうと思っただけで連絡取れなくて、仕方ないからもう女房と二人  
で美田園に聞きに行ったの。そしてらやっぱ11時ごろ、レスキ  
ュー隊に頼んで、増田小学校の方に届けてありますから間違いな  
いですって言われて。まあそれでもって一安心して、うん。そん  
でね、次の日の何時ごろかな、遅い時間だね、連絡取れてまずみん  
な無事だったこと分かって安心してね。それから今度また大変な  
んだね。うん。そんでそうなるうちにね、避難所が文化会館だ  
ったのね、

### 文化会館へ

そしてそこ（文化会館）でまずここ（桜仮設）に来るまでお世話  
になってあと4月10日だか、連休のとき。文化会館は、人数いっぱ  
いいたね。それでもねやっぱりよその避難所に比べるとね、トイレ  
なんかもすぐよかつたの、イベントするからさあそこで。だから  
トイレの数は多かったから、便所の心配はなかったんだね。知り合  
いもね、この辺の近くの人、小塚原地区のちようど小学校、小塚原  
地区ってあるのねここにね、この人たちとちようど一緒にあってね、  
あとはなんとかかんとか現地のやつだったね。うん。

## 自宅は

自宅は浸水してもね、海から離れてるから二階の人は二階は残ったのほとんど、下はだめでも。だからこの東部道路ですか？ここ。ね、ここでみんな俺、東部道路でみんなとまったからさ、おれのあれ、知ってる人、ハウス作ってる人たちけっこう知ってたから、この人たちも一緒に避難、俺と一緒にあったもんで、力強かったのね。うん。いや直してもね、やっぱり1200万から1300万かかるっていったの。二階は確かに家残ってたの、下は挟られてさ。外壁は外れてるわもうこういうふうになってるからもう。三回位見に行ったのね。でね、やっぱり三日目だね震災後の三日目にちょうどついたのうちのどこ。そして屋根見えたからね「あー俺のうち残ってたな」って安心してほっとしたのね、だんだん近づいたつけさ、こんななっていたの。下挟られてさ、「あーやっぱりだめだったな」って。その時やっぱり、最初遠くから小塚原地区から、この辺から見たときね、屋根残ってて見えたからさ、「あーうち残ってたな」って思って安心してた、だんだん近づくに従ってね、玄関は一つぶんぬけて外れてたんだね、覗いてみたつけもう何も無いんだわ。今度、下の部分は何ね。それでもまず安心したことは安心したのね。おやじの代で、まあ建てただけど金払ったの俺なの(笑)

## 仮設での生活

同じ町内の人が多かったからね、ある程度心強いことで心配することはほとんどなかったですね。家族で住んでいる。四人で。入居当時は、買い物するって言ったってなんか買い物するって言ったって一時間に時間も待っていったつちや、避難当時は、それに比べればね、うんと楽だったや、すぐ行けばねすぐもの買えるし、だから別にまず不便っていうのはないね、並んで買うわけでもないし。すぐいってほら、スーパーはあるし、今のところは全然不自由ない。かえって閑上帰ると不自由になるんじゃないって逆に心配なのね。生協ぐらいか閑上では。でもね、生協でもみんな今車の時代だから

ね、四郎丸とかね、ヤマザワだみんなほか行ってたね。閑上生協やってもみんな生協通り越して、こっちの人たちみんな内陸方に買物に行ってたんだね(笑)

## 今後は

今後やっぱり閑上に帰りたいうって元の場所にね、かさ上げして一応行くつもりなんだけど、なんか娘たちがねもう帰らないっていうことで、そいつが悩みの種。まあ土地買うね、退職して年金だしもう、だから土地あるところに土地買って、土地あると、でも二キロぐらい離れてるから家が残ってもねえ、なんだか娘たちはやだっというんだな。いやー100万円だけっていうのなんか。最初は市で国と県と市で出すから嵩3メートルの嵩上げはタダだっというわけね、それが何か月、年たつごとにね、100万円になって、今度50万ぐらいまた上がったんだな。150万な、だから擁壁組んで、「メートル以上嵩上げしても、とにかく150万って、最初100万なんだけども50万増えたんだ。だからただね、二重生活になるとあれだから、戻ってもらえと一番いいんだけど。閑上の復興遅れてるからなおさらね、あの、みんな若い人たち帰りたいないんだね。早く学校できる、店は店できますよ病院もできますよってなってるんなら若い人も、病院も来る店も来る学校もできるからってね、学校もできないんだね、病院もね、店もないんだってなればね、戻る人も少ないよね。

ああこの辺では何軒かね、あの、この辺の人たちは残ったのね、この辺の30軒位はね。そしてね、やっぱり、ここからこっちの人は結構うち残ってるね、亘理塩釜線、こっちの人のはこの辺の根こそぎ、でやっぱりこっちの上町分はこの辺から何ぼかずつね、こっちのほうは直してけっこう入ってるね。

だから俺もね、段々日が経つにつれ、「あー閑上に住めるんじゃないかな」って思ってた、「おれもけっこうな(帰るかな)」ってやっぱり閑上で生まれて閑上育ちだからさ、帰ることにしたんだけど今度娘

が帰らないってなったからさ。だからね、学校とかこのね、間違いなく早くできるとなれば帰る人たちだって、あースーパードもできる学校もできるなんでもできるって、戻ってくる人いると思うのね。

### 閑上のよいところ

やっぱりね、夏はうんと涼しくてね、海には近いしね、やっぱりこつちとはやっぱりまるつきり違うね。真夏のあつついときはあつついラーメン食べたって汗流れてこないんだからね。うん。涼しいんだから。真夏のあつついときに温かいラーメン食っても汗出てこないんだ、それだけやっぱ涼しいんだもんね。冬は冬でね、逆にほとんど、ここところは結構寒いんだね、ここもね、フロントガラス一週間に三回も四回も冬は凍るの。閑上の場合はね、月に二、三回ぐらいしか凍らないの。でもここに来ると一週間のうち三日も四日も凍るんだもん。だからそれだけ違うんだね。だからやっぱりおれは前にあったとこ行きたいんだけど、娘に反対されて、何回説明してもだめなんだな。やっぱり帰らないっていう気持ちでね、だからやっぱりうと一週間、一か月も二ヶ月も話ししない状態なんだね。だから悩みの種なんだけども、今後またできるだけ帰ってもらおうに話はしなくちゃダメなんだけども・・・。

ここに来て和氣藹々と過ごしている

## 新鶴塚

### 震災前は

震災前は閑上宇新鶴塚、閑上小学校前、この辺に給食室があつてこの目の前あたりかな。

夫は出身は茨城です。閑上に来たのが15年だね、私(妻)は閑上からある程度二十歳すぎになってから仙台の方に、働きに出て、私が茨城の方から学校に来たんですこつちの。それで、まあひよんなことで、出会いがあつた。

### 地震の時は

地震の時主人は自宅に、私(妻)は小塚原つていうこの辺のあたりにアルバイトパートにいつてて、そこで地震にあつたんです。カーネーションを作っているところで、手伝つて。地震のときは、確か私(夫)は家にいました。うちで、テレビを見てたつていう感じですかね、それで地震が結構長かったですから、いったん外にでてました。そしたらその、隣のおばあちゃんがやつぱり出てきまして、地震が長いねつていうような話をしました。一旦揺れが収まつたようでしたので、帰ろうかなと家にまた入ろうかなつて思つてた時にまたきたんですよね、一回揺れてそういうようなところが二、三回続いたと、隣のばあちゃんも入つたり出たりという感じでして、それからかみさん、いつもはあれなんですけど、その時はたまたま迎えに行かなくちゃならないかなあつて思つて500メートルか700メートルぐらいのもんですから、そういう風に思つて車で行ったわけです。そのときにその隣のうちの、ちよつとブロック塀みたいな三段ぐらい積んであるところがあるんですけど地震でその、なんぼか壊れて道の真ん中あたりに結構大きい破片となつておつこつてたもんですから、で、その時にお母さんたちが車で子供を迎えに行つたのかな、邪魔になるだろうなつて思つて一応大きいものだけ二、三台、道端においてそうして迎えに行つたわけです。それで迎えに

行つて、その時には道路はそんなに混んではいなかったんですけど、500メートルぐらいですかね。700メートルぐらいなのかね、そのぐらいでその時は行くときも戻つてくるときも道路はそんなに混んでなかったんですよ。それで一旦戻つてきましてね、それでおばあちゃんなんかとまたあつて、なんかそのばあちゃんしばらくそこで話してたんです、そしたらその、ワンセグで、ワンセグつていうんですか？携帯電話の、あとでその、津波が来てますと、いうような音が聞こえたわけですよ。それで一応バス通りまで出て、閑上のほう見ました。それでもう車が流されてますとか言つてたけども、車流されてるような感じはなかったんです。それで一旦また戻つてきて、そのうちおばあちゃんの、ひ孫かな？曾孫さんなんか来て、隣が避難所ですんで、小学校ですから、それに避難しようというところで、おばあちゃんもあんまり避難所には行かないような感じだったんですけど、今から行くつていうんで、ばあちゃんを連れていくとしてたんです。私はその時は着てるものがパジャマだったもので、ズボンだけ取り換えて行こうと、取り替えていくというところで家にいったん入つてつて、それでズボン取り替えてきて、そしたらうちのネコ、飼いネコがその時炬燵の中にいたのかな、それで妻が、炬燵から引つ張り出してキャリーに入れて、出てきたわけですよ、その時にその時に出て。

私(妻)が戸を開けたらもうぴちゃぴちゃと水が来てたのね小塚原のほうからね、「ぴちゃぴちゃ来てたよ」つていつて、そのうちに行つてるうちに私は外に出たのね一歩先に、キャリーはこの人がたがえてたのね、持つてたのね、そしたら私が膝下まで来たのね。その時に、膝下にきたらねもう足とられたのね。そのままさつて流されていったのね。20メートルか30メートルぐらい流されたのかしら。そしたらこう流されたら今度そのブロックに足つつかえたんだね。この人があのたてかえておいた道路、通学路に、ブロックに足がつつかえて、立つたのね。立つたところでブロックにすがつた

わけ、そこにぼつと縫(すが)ってって、水はいっぱいあるけどグーとあがつて、助けを呼んだのね、そつちからもこつちからも助けて助けてっていうすごい声、学校の上屋上ではがんばれがんばれっていう音。主人が直したブロックが幸いにもそれに足がつつかえて、流されてるうちに、こういうふうには足の方から流されたんだね、こうね、こうだーと流れていったのね、ブロックが足に引つかかかって、ぼつとそこに縫つたからだから運だね。そのときはあの、車が七台ぐらい入って来ましたんでバタバタと、それですぐにある程度まで水が一杯になって、車の上にもう、なにかなあれは大きな板というか木が重なってそれにぶらさがって、少しいたんです。そのうち、その時には「ああ俺はこの黒い汚い水の中で死ななくちゃならないのか」って思ってたんですけど、これ以上水が来なくて、その水が引いてくれれば大丈夫かなって思っていたんです。それでそのうちにどこからか、あの隣のうちのベランダの方へ上がったほうがいいよとかって、聞こえたんで、その車の屋根に折り重なってましたからね。だからその屋根を伝って隣のうちのベランダへ上がったんです。それで、しばらくベランダでいたんですけども、そのうち「おじさんがばれー」「がんばれー」とかなんとかかって声が聞こえたんで、自分のこと言ってもらえてるのかなって思って、大丈夫だよってどうもありがとやなんていってたんですよ、そして、あとで聞いたらちよつと学校の桜の木あたりに引つかかかってたおじさんそういう、そのおじさんに声かけてたようなんですけど(笑) おれじゃなかったようで(笑)

(妻) そしてどこの人かね、誰かがねボーンと川の中ね、ほんとに水かぶるぐらいにあるとこにきたんですよすよね助けに、ガボガボってダラダラで、自分もダラダラになってそして誘導したのブロック塀に上がれとかこうそこ渡れとかかってね、そのうちにだんだん少し水が下がってきて、首が出せるようになったのね、ブロック塀をこう這い上がって、おつかないおつかないと、私救急、リュックサ

ック背負ってたのね、それ捨てろって言うのね、これは大事なものだから捨てられないって言ったのね。「何入ってるの」って言われたから一か月分二人分の薬、一か月分をちゃんとそれを薬だけは大事だからお金だったら借りられるけど、薬は絶対に人のものは借りられないからって一か月分余計貰ってきて、その中に入れてたのね、水とかなんかとか、それ捨てろって言うから捨てられないって言ったの。そういう風にしてだんだん誘導してくれて、あとも車がこう螺旋状に階段見なくなってたから、こう、登れとかなんとかってつるつるして登れないんだね。そうして「うちの人は大丈夫ですか」とかって聞いたなら「人のことなど考えてられない自分のことだけ考えろ」ってその人に言われて、そして上に(主人が)二階にベランダにいたのね、パンツ一丁でね。脱げたんじゃなくて脱いだんですよ(夫)。びしょびしょになったから。隣のうちのおばあちゃんの一部屋も窓ガラスが開いてたものだから中へ入って、毛布でもうなんかあったものですからそれを借りて、とりあえずはそのまゝほかのお家へ入って助かった。ただ猫だけがちよつとだめに、キャリーの中で死んでたの。開けられないからね、自分ではなんか。一番むごいことしたな。

私(夫)はゆっくりとぐつすり眠りました。私(妻)は寝なかつたね一睡も。早く朝に、時計はない何もなし、携帯は水にぬれてなくなつたし、なんにもないしほかのうちだしどこになにがあるんだかもわからないし真つ暗でさ、早く朝になればいいなって窓はこうあれで壊れるから風は入ってくるし寒かったのね。次の日学校に行けば誰かね、携帯でも持ってた連絡ぐらいしたいなって思ってたけど誰も貸してくれる人居ないのよね。

#### 学校へ

次の日、それでも膝ぐらいいまでまだ水あつたのね。学校だつて20歩ぐらい歩けば学校なのね。ねーこんなに近くにいてね、ばかだったなほんとに。それから小学校に行つて館腰のバスに、バスで館腰

に一応行ったんです、行ったんですけども、その近くにこいつの兄貴のお家があったんです。実家に向かいますよ。館腰小学校にバスで行ってそれから歩きで、それ兄貴のうちに、10日ぐらいいた。しばらく厄介になって、それからその兄貴のうちの近くに貸家があったもんですから、そこ借りまして一か月ぐらい、それからこの仮設住宅にまいりました、ですから避難所っていう生活はしなかったんです。貸家は一中の後ろ。兄貴のうちに長いことはお世話になるっていうわけにもいかないですから。

そして私たちはボーッとなんにも考えられない、兄貴とか姉さんたちは家から持ってくるものを持ってきなさいとかガチャガチャしたけど私たちは二人でボーッとしてさ、何ぼーっとしてるんだって思われたかもしれないけど何にも考えられないの、ただぼーっとしてたの。それで部屋借りて、部屋借りたけどやっぱ食べるものとか何かっていうのすぐにあれだからって一中は避難所ね、あったんだけど夜だけでも食べさせてくださいって言ったの。いったん外にでたものは部屋借りてるものは自活しないといけないっていわれて、うん。食べさせられなかったのは悲しかったね。

少し落ち着くまでね、朝と昼は何とかね、パンとかなんか食べたけど夜だけご飯食べさせてくれないですかって言ったら「市役所の方でだめだ」とかって、言われて、だからなんか避難所にいた人がもういっぱい豊富でこういうダンボールにパンだとか缶詰だとか持ってきてくれたの。

ガスとかなかにはあったから、お風呂にもだから入れた。一中の人たち入れない人とかって入りにおいでとか洗濯とかしにおいでって、道路挟んですぐだから、洗濯しにきたりしててたのね。

## 仮設へ

仮設に来たときよ喜んで来たよね(笑)。一番最初に当たったでしょ？一番最初だからこれはラッキーと思って。そしたら意外と狭すぎだと。ほんとに今までね、一部屋とか∞つぐらいとかに二人で住

んでたんだからさ、なんかいま苦しい。そして今まで気張ってたけれどもなんか今になってやっぱこの頃なんぼよくなっただけ調子崩しちゃって、だからずいぶん俺たちは恵まれたほうだと思いませんよ。そんなに苦労はしてるとは私は思わないです。私たちはそんなに食べるものでもなんでも豊富にあったから、そんなに苦しいとかなんとかっていうあれはないね、避難所にいた人たちよりはね、その点は。部屋もすぐにすんなりとね。衣類とかってなんかみんなこの人の幼友達とかみんななんかわーっとなんかね、私の兄弟とかだって、全部送ってくれて生活できるばっかりに器とか皿とか釜とかそろっちゃって、だれそれが炬燵持ってくる炬燵布団持ってくるとかって全部こう集まったんですよ。私たちは子供居ないから二人きりだから。

一か月ぐらい後に行ったら先生もね、びっくりして、「もうなくなったんじゃないか、こんなにこなくて薬も切れてるだろう」と思ってた、そして行ったら、「あー生きてたの」って言われてもう診察どころじゃなく看護婦さんたちもみんないて「よかったねよかったですね」って先生「薬どうしたの」っていうから「こういうわけで一か月分救急のリユックサククに入れてたんです。」って言ったわけ、「いい心がけだったね」って言われて、私甲状腺だからあの、福島原発のね、あれで甲状腺の薬がすごく足りなかったんですよ。絶対私(妻)は薬は離れないものね。財布持たなくても薬は持つて歩くのね今どこに歩くのにも。

不便ってやっぱ私たち離れてて、あんまりこっち町(閉上)の方に行かないのね。だからここに引越してきたって大体閉上一丁目、二丁目みんな固まって引越してきた閉上の町のほうの人たちはみんな知ってる人が多いかもわからないけど私たちは誰も知らないと同じなのねここにきてね。さつきもある人が言っていましたけど、その顔がわかるようになるのがそれが一番いいことだって、すごく私も思いますそれはいままでほとんど付き合いをやったことが

ないので、そのみんなと交流して話してできるようになったっていうことだから自分にとつても。

あとこうね、あの通路のところは長腰掛、あそこに夕方と金日中とか涼しいとき皆であそこに座っておしやべりしたりする。そういうところはいいなあって思ったね閑上にいるときよりも。だけれどあんまりやつぱりこうあんまり聞こえすぎて別にね、不便もあるけどね。

### 自宅での避難のこと

二階に行けばなんでもなかったんだよね、まさか二階に逃げるっていうこと考えないで外だけ考えてたね。二階にいればみんなで助かったんだよね。ブロックがなかったらさーっと体持っていかれてこう流れていくと思うのね、だってあの津波わーっとだものね、ピチャピチャピチャピチャってほんとに。やつぱりこうなんかこうがーってくるよりは水かさがこう増してく。

そう、そしてあの強さね、私NHKでよくあの地震でね、どのくらいで人間が倒れるかっていうのよくやってたのみてたことあった、あのへんひざ下何センチぐらいで倒れるかしらって笑ってたのね。ほんとに倒れるんだね、だから強いんだよね津波っていうのは。さーっと持ってたかされたもんね。

### 今後の事

私(夫)はその現地復興っていう話だったんで、それでやればいいのかと思ってるんですけどかみさんの、あの津波を見てるものから、その恐怖のほうが大きいです、ですから今迷っているところですね。家は壊した。だからこの人(夫)は今の、今のところにあのそんなに大きくなくてもいいから平屋で、だんだん年取ってくるんだから平屋で小さく建てたほうが、っていう希望なのね。私(夫)は故郷というものが、ふるさとっていうものがある程度ないと、寂しいんじゃないかな。そう思ってるんです、ですから区画整理をやって換地をやって、それで災害復興住宅でも建てるって話で

したんで、そのほうが皆さんにとつてもいいんじゃないかなって私は思ってるんです。しかしね、肝心の、その生まれ故郷であるかみさんのほうは、ね、あんまりそれには乗り気じゃないようなんで、ここ自体が閑上自体が怖いのもう。閑上から離れたらいいの、そうすると故郷を捨てるのかっていう。こんなに簡単に故郷を捨てるのかっていう、ここ自体がだからこつち(内陸)のほうがいいもの、今住んでるところ。いいしね、津波くる心配はなし、実家は近いし、どうせあれだったらこのへんについていう感じ。

だから私(夫)は市の方で計画っていうのもっとはつきりさせてもらいたい、ですよ。

### 閑上のよいところ

お魚がうまい。魚がうまいという。私は海が好きだったね閑上の、穏やかで。うん、松林の気持ち、あれには戻れないねもう、気持ちからして。

(夫)あんまり土地の人とは、もう、言葉づかいも違いますし気象も違いますんで、よく衝突をするんですよ、衝突をしてたんです。ところがここにきて話してみるとそんなに悪いひとじゃないと、悪い人たちじゃないんだなとよくわかりましたから、そういう意味でも感謝してる。和気あいあいしてるね。

閑上に戻って逃げろといった人はみな亡くなった

元閑上一丁目

### 地震の時は

最初は地震になった場合は仙台の深沼っていうところ、あそこで地震になったの。それで、家も潰れたんじゃないかっていうことで、来たつけ端がああ、通行止めだったんですよ。五叉路、閑上大橋、トレーラーが荷崩れして、それでバイパス回ったの。回って、そしてうち周辺見たりさ、あとみんなも見てたから話したりしてさ、このほらあっちの神社の方見たら名取神社ってあるのね、そこ見たらもう潰れていくの分かったのさ。うんでもうその辺、潰れて潰れてみんな、ごみと一緒に、すごいよだからこう覆いかぶさるようにしてきたから、それで逃げろって言ってしゃべってるのね、∞人ばかりいたのさ、知らない人がね、それで逃げろって言うてももう子供のとこばあちゃんとかいたから、その床屋さんも逃げろって言ったんだけど、床屋さんがもう二回から毛布たがえて（持って）来るからなんていって、すぐにやられたのさ。このところからもう二階の屋根をつぶす、きたの。それを逃げろって言って、逃げたところここでパーマ屋さんあるのさ、もう亡くなったのかな。さあ逃げろって言って、逃げろほら来たからって、んで、俺らは車だからその時はもう30センチぐらいの水来たのさ。おれの前の、前って後ろだな、後ろのところにあるパーマ屋さんだから、うん。それであとみんな、∞人いたんだ、ところがほら逃げろ！っていつでももうゆっくりさ、その人たちがみんな亡くなってるはずなんだ、もうとにかく来たんだからわ、水。

もうそこに車置いてたから、うん。で、って言って五叉路まで来たときには、もうゴミと一緒にまた追いかけてきたのさ。で、五叉路のところでもう行き止まりになったわけさ、もう。そこで右側走ったの。とっさに右車線、追い越し車線ださ。それで俺らは助かったの。もうとにかくうしろ見ればごみは来るわ詰まってるわで、そ

してほらタクシー回してる（注　タクシーの運転手をされていた当時）から、道がわかるから、だからそれでぐるーと影道っていうか、そっちのほう、だからあの、飛行機で撮った自動車あったのね、それが写ってたのそこに。だからもう事故なんかないさ。うん。もうとにかく水きてるものそれどころじゃないわ、自分の命大切だからねやっぱり。だから並んでる車は全部やられたんじゃないですか？うん。あのままやられ、やられたらばもういたらば止まっていたらね、完全にやられてたから。増田の方に。うんまっすぐ。こっちはもういけないから通行止め、うん。この辺に道路あるのさ、これかな？これ。これを曲がっていったの。

わき道を。それで俺らは助かって、ここに並んでる人はみんなやられてる。だからあの、わかんないひとつっていうのはさ、よそから来た人がみんな並んでるからここ全部、こっちもね。行くともう止まってるんだから車。だからあの知らない人も死んでるっていうのはそこのよ。うん、動けないから。だから俺らはまだ運良かったのよここここで止まったから、そいつを右で走っていつてまっすぐこう横で行ったから、助かってるわけで、そのまま残ってたから完全に、もう何秒差だから。だからおれの姉ちゃんもやられたしね、孫を探しに行つてさ、もはや来るっていうのにやっぱり、そういう運命なのか何だか知らないけどね、もう中学校からまた出て、のまれて亡くなったのさ。だから話にも何もならないんだけどさ、そのあとだから行きようないさだつて、どこにもいくところないし、はだかまんま（何も持たないで）だから。なんにも家から取らないで、それでね、バイパスまで抜けたの。バイパスのケーズデンキっていうの今、前はケーズデンキじゃないな。今ケーズデンキになつてるけど。そこに暗くなるまでのさ、それで今度俺の息子が北釜にいるものだから、それが心配で今度探し方してたの。明るいうちなんかもうわからないからもう車めちやくちやでね。どこに避難したかっていうのは分からないでしょ。それでね、暗くなつて

8時半か9時ごろだよ見つかつたの。やっぱり北釜も同じで地震になつた時点で逃げたから皆助かつた、だから自家用車全部流された。それがあの、名取体育館つてあるでしょ？あそこに待つててくれたの。何回もそこにもいったのさ、明るい時も行ったし暗くなつても行つて、それでも見つからばくて、だから9時、10時半から11時ごろの間、ようやく見つかつたの。だからね、やっぱりその逃げる地点までは、あの、一緒にみんなで、1、2人はいたんだ。子供三人ぐらいいたかね、大人子供でいて、俺のうちどうだのなんだのつて俺ほらもともと閑上じゃないから分らないんだなんも。もともと仙台の藤塚つていうところ。あれがもうだからいまのところの土地になつててね、二束三文で売つたのさ、使い物にならないんだもの。なにしても。我々だから土地の値段、3500坪。閑上に来たのはおれの姉ちゃんいたから。親戚もあるから、もうね、小さい時から来るから。元は閑上郡になつてるの。名取郡かな、だから要するに。仙台市ではなかつた。

#### 館腰小学校へ

その後どこにいくかもわからないから、避難所も分からなかつた、だから一応文化会館に、うん。ところがいっぱいでね、食い物がないうらなにやら、どうしようもなく今度がんセンターに行つたの。で、そこで夜の9時ごろかな、10時ごろまでいて、別のところに行つてくさいつて言われて、で、今度愛島に回されたの、愛島の小学校じゃないね。小学校じゃないな、なんだか、集会所みたいところあるのよ、そこに一晩泊められて、それで今度でるとおつかないかなつて見てるうちに館腰小学校、あそこにいったの。だから三日ぐらいなるのさ、ここ。その時寒かつた毛布ひとつでね、くるまつて寝たつて寒くてさ、ストーブたいてくれたんだけどそんな広い体育館みたいところだから、寒くていられなかつたもの、それで飯食えつて言つたつておにぎり一つだけでしょ。息子さんと二人で。女房と。

館腰小学校にはここで来て入るまで。5月3日まで。だから閑上に戻つて逃げろだのなんだのつて言つた人はみんな亡くなつてつていうのさ。戻らなければなんてことないんだけど、やっぱりほら、ね、自分の命よりみんな逃してこいつて、いつてみんな亡くなつてるのが多いのね。戻つたりした人つていうのは。よくよくだからね、自分では、自分の命は大切なんだけど、やっぱりその通りその場にならないとわからないんだ。自分の命は大切だつて誇りはあつたよ俺も。亡くなつたら終わりだからねどうしても。人のことなんかかまつてられないから、とつさの場合はね。

館腰小学校、あんなごちゃごちゃしたところで寒いし何したつて。一週間ぐらいおにぎりしか食べてないよ。何日たつてからかな、10日ぐらいたつてからじゃやらないのかな来たの炊き出しは。とにかく着るものないから寒くていられないわ、物資来たつて俺らは体大きいでしょ。だからないのよ全然。何一つない。いまこそね、金貰つて買ったけどさ、その時はなんか全然ないんだよ、皆休みで。タバコ吸いたつて吸えなかつたしね。ずつと二人で行動した。で、みんなほら知つてる人ばかり多いからね、寂しいだのなんだのつていうのはなかつたけど。うん。

でもほら、あんまり閑上のところつていうのはタクシー回してもほとんどわからないのよ。だつて一日おきで行かれてるでしょ、乗せてさ。だから、あとはほとんどわからなかつたよ。だつて男なんて近所づきあいしないもの。うん。俺はまじめでおとなしい方だから(笑)ろくでなかつたからさ、ろくでなかつたからおれも。おれ飲まないから。飲まないわ今。一滴も飲まないよ、ただこの間な、コップ一つは飲んだけどお祭り、あんな酒うまくないの飲みたいと思わない。ね。うんといまの、

#### 現在のこと

あのほとんどは顔を出さないつてことはさ、市役所きて話してもおんなじことなの。で、この間来たときは全然そういう進んでない

話だから、俺カーツとくる方だからパーツと言ったのさ。だけど俺の言うことなんか聞いてくれないから。うん。で今ほら、家に残っているとこなんか全部潰せっていうこと言ったのさ、そしてたっけそいつの引越料だの補償するっていうからさ、おれもがーつとき「お前らこの甘いんだ！」って。そういうことばっかりするからいったの。でしょ？全額の金額をもらってたら新しく建てようが古くたってようが同じでしょ？金貰ったんだよ全壊扱いで。それでまた出すっていう話ないべっていうこと。そしてらばなんか聞くような話だと今の新しく立ってる家はあげてけるってこともあるって言うてるらしい。嵩上げするわけさ、∞メートルの嵩上げ、そのところを別にしてやってここに∞メートルしたらここからまたボトンというようなこと言う。これは間違いなく俺はテレビだのあとそういう現場だのってみてたから、うん。できることはできるのさ。そういう全壊扱いたのになんでしなくちやならないんだって俺言いたい。そういうような金だのあるなら全部のここにいる仮設に入ってる人あとアパート建ててる人に金くれって。嵩上げなんてすることないから。なんだってその通りだ、だってあの、ほら、堀だのあるでしょ、あとスタンドのタンクだの、ああいうのは全部コンクリで埋めるだけ。コンクリで埋めるっていうことは今の建物だって何年って寿命があるでしょ。そのタンクのとこの周りにコンクリやっただからって言ったって寿命っていうのくるさ、潰れたら終わりだよ。うん。そんな甘い考えばかり起こしてるわけさ、この間の話だよ。

それで道路だつてその通りだよ、ここに一本作ってこのあいつを広くするって言ったってこっちがわが狭ければここで詰まってしまうべつて俺いつてるわけさ。そこでここにたとえばあの、いまこの、貞山堀ここだから、貞山堀のところのここに波よけの集団アパート建てると、波よけっていちいち言うてるんだから。だったら俺市役所をここに持って来いって言いたいの。あっち寿命来てる

んだから今の市役所。で、ここに建てて波よけになつていれればいいんだってこと。で、ここに集団アパート建でないでこっちに建てろって言うのさ今の市役所のところ。この辺の家だつて、お墓だつてなんだつてそのお墓のところ。あの一軒家建てるとおかしいべつてことというのさ、だれもここでもう何百人って亡くなつてるところにね、家建ててさ、いま現になんかおぼけみたいなのできてるんだつてよ。ね。それでここにね、ローソンっていうのあった、そのところに夜中に出てくるんだぞ、それでみんな。あそこ七人いたんだわ。それでね、あのなんかさ、冷たいものはーつと来たりさ、働いてる人のところにきたんだと。だれも俺はすぐだつていう人（お年寄り）でなくて、元気なうちにみんな亡くなつてるんだもの。来るの出てくるのあたり前なのさそういうようなところに家建ててさ、ね、みんな喜ぶかっていうと年寄りばかりだ、行くの。そんなことよりもこっちのね、東部道路のところの西側みんなね、最初から移転する、集団移転つてなればみんな戻つたの。今はなしてここでこういうような話ばかりしてるから、話つていうのは進まないのさ。7,800人だよ大体戻つたつて、ここだと死んだところになんて誰も戻るやついない。

おれのうちにもね、あの、亡くなった、うち流されたけどそのガレキあんどきいたつての。俺のところは5人、5体。だれそこに建てるとつていつたつて建てられないでしょ？こういうようなところになんてね、通り道だったからおれのうちのところさ。でね、市役所あたりで、1メートル∞メートルつていうけどそんなもんじゃなから、十何メートルのやつ来てるから。1、∞メートルなんてどつからもつてきたんだつていつたよ俺だから。あそこの元の消防つてなあ。あのとこに铁塔あるのさ、で、铁塔に上がつて助かった人もいるの。そこがね、13メートル以上来てるの。危ないつてことでもまた昇つて行つたつていうからね。うん。逃げるところなくてすかさずあそこのぼつたんだらうけどさ。だからどこで1、∞メートル

ルの津波来たって、そんな話じゃないって言ったのさ。だからあんまり俺こういうところにきて喋りたくはないの。まともいきいてね、「ああそうですかじゃあもう少しあれだな」っていうんであればさ、なんにも言わないの、ところが違うんだもんそのままそこにだけこういうふうなあの、堤防作るって言ったって「メートルの堤防つかったってとてもじゃないけどそんなもんじゃないから、またやるだろうよ完全にここは。俺生きてるうちくるかこないかは分からないけどな。うん。だからここはもうなしにしてそういうようなのならば今のね、ソーラーパネルってあるでしょ、電気、メガソーラー、それをやってね、みんな名取地区の人にやったらそんなに立派なことないと思うよ。うん。それでここに工場来るとかなんとかっていう、将来はっていうけどそんな将来のことなんか考えられないっての、ソーラーパネルここに閑上の街のところにしたらかなりの電気なるよ。その電気一軒家にやったら電気料の、こう、二東三文でしょ。電気料払うの。そういう考えを起ささないのかって俺言いたいの。それでなんか知らないけどこの地図が、あんたらの教授だか知らないけどここにだから集団アパートのあいつを建てるっていう、案をだしたらしいんだよなんだか知らないけど。なんでここに出さないといけないの、こっち側だめでだめだっていうのにここに堤防作ったからって言ったってここに建て物建てるの何の意味あるの、意味はないのよ。全然。でね、このところ今土手やってるんだけど、これかな、これ土手って言ったでしょ？このところやったってメートル何ぼのをやったってさ、こっち側がもう何年もたつてるものだからネズミのあなだつて何のあなだつてあるわけさ、できればこのところ四郎丸なんかすっかりやられるよ。こっちがもう頑丈になつてれば、それがおんじことさこんど。だから閑上人の考えていうのは俺おかしいの、こっちだけが丈夫にしたって、あ

## 今後の事

これあの道路だから、県道だからね。ここを今あるけど、此処には戻らないよ。閑上のこつちには戻らないから、あの東部自動車道のちよつと手前ぐらいならば戻るけど、ところがこの人の俺知つてるところの田んぼ持つてる人居るんだけど、売らないらしい。そんな誰売る奴いるの。まだその話もやってないんだよ。土地の話も。だから何の進みもない「〇月に市にこれ出すんだろうから国に。それで許可受けるかって思えばできるはずないから。許可落とさないとと思うよ、多分ここでは。このあいつでは。だれも死体あるところ

## 閑上のよいところ

今なんか全然ない。昔はね、静かで、うん。そんなでなんていうんだな、住みやすかったもんな。面白いしね。我々としてみればだよ。みんながそういう風におもうかどうかはわからないけど俺にしてみればよかったのよ。だから今はこうね、死体だのあるところになんて行けって言ったって俺は別にかまわないよ、構わないけど女房子供だの来たときだのつていうのはいやがるべ。ここ死んだ土地だのつてね聴かせられたら。お姉さんも亡くなつてるから、お姉さんも一丁目目で流されて亡くなつてるから。戻るも何も今のところは何にもないの、増田が一番いいの。うん。なんでかっていうと買い物にも便利医者も便利交通も便利それでいいわけなのよ。この辺ならね、それでね、あのここに公団アパートあるのさ、あと一丁目にもあるでしょ？あそこになんで建てられないって言ったんだけどなんか理由があるみたいだな。閑上の町にこだわってたって駄目、なんのいいこともない、今はだよ。昔はうんとよかったんだけど。

## 昔の閑上は

賑やかかっていうことはないんだけどただ静かだった。昔はね、映画館あったパチンコ屋あった、うん。遊郭はあったしね。今はだから何の意味もないのよ。だから慣れたっていったって誰もたとえばね、ここに学校建てるからって言ったって嫌だって言うでしょ。やっぱ。嫌だと思ふよだって農業あったじゃないここに、農業高校ね、あそこだったもうすっかりやられたんだよ。馬だのべこ(牛)だの。あと、ナス畑だ林檎畑だっているあつたんだもの。あといろんなものさ、そういうのも大損害でしょそれこそ、そんなところにみんな来ますか？このこういうの(津波)来るっていうの分かってて。学校ここに建てるって言ったって誰あの許可は下りないと思うよ。

津波なんて一切頭になかった  
閑上2丁目

### 震災の前は

印刷屋、印刷業、自分で。いや、いろいろあつて最初ほら一年ぐらいは自分一人始めて、あと友達なんかによって有限会社を作ろうつていうことで、それでやったんだけど途中でいろいろいざこざになってやめちゃったの。閑上生まれ。閑上一丁目これが生まれたとこ実家。

### 地震の時は

地震の当時は自宅にいました。それで揺れが酷かったの、娘と俺夫婦三人でいたの。娘が二階にいたんで、揺れが酷いもんで俺、「お父さんお母さん地震が強いから家の中だめだ、外に出ろわ」つて外に出ちやつたの。うん。それで、ある程度地震が収まったんで、うちの娘ほら、小学校の子供二人いるのね、で、「心配だから私小学校に迎えに行くわ」つて娘だけ行ったの、小学校に迎えに。俺たちはうちにいて、もうすっかり地震も収まったんで、何分もしないうちに、マイクかなんかで「逃げるー！」つて言われたのね。津波も何も言わないの。ただ逃げろつて声だけで、それで「なんで逃げないといけないんだ」つて津波なんて一切頭ないから。どうせほら娘たちも学校いるもんだから、そこにとりあえず行くこうつてことで女房と二人で行つて、小学校の方に。俺一番最初小学校に行ったときは津波誰かに叫んだんだ。して講堂に、体育館か？体育館に一回行ったつて体育館に水入ってきたんだ。それで「だめだー」つてことで誰かが三階に上がつていうことで全員三階に上がったんだね。三階に上がったら今度雪降つてしまつて。子供たち寒がつてそのなか余震はくる、外見たつて波なんか見えなかつたもんね。それである程度収まつて各教室に戻つて言われて教室に戻つて朝までいたのね。そして今度朝までいるのはいいんだけど水もトイレも全然使えないんだよね。水外にあるもんで女の人とかどうにも、

おしっこが出来ない、水、便座だつてねもう満杯になつてさ、子どもは泣くしね。

### 次の朝に

次の朝になつてお昼ごろになつたのかな、ここじゃ危ないから避難所にどっかに行くつて言われたんだね。それでバスだつて言われて何百人かな？閑上の小学校にいったの。バスも5台も6台も来ないとダメでしょ？「俺は最後でいいから」つて最後まで、今度バスガンリンなくて迎えに来れなくなつたのね。それで俺の家族だけ4人だけ消防車がちょうどいたんで、消防車で館腰小学校に連れて行かれたの。館腰小学校で一晩、館腰小学校に一晩いてね、そこで私長男いたもんで、姉が愛子、仙台の愛子にいたんで、そこで俺と女房だけが愛子に避難したの。そして娘と俺の、婿だから娘の婿と小学校二人は、向こうのところに村田の沼辺に避難したのね。うん。俺は姉のとかかな愛子だったから、愛子でも俺ももうガンリンも何もない食事も何もないつていうことで、今度俺と女房だけは俺の娘が村田にいるわけ、そこで別のところに村田の、両方村田にいたんだけど、下の娘のとか自宅だったからそこにいったのね。そこで一か月過ぎして、やっぱりね、人のうちにいるの嫌だつていうことで今度女房の実家に、女房の実家岩沼なんです、そこで一か月いた。それでももうなんの連絡もないからね、しばらくどういう風にするとかなんにも連絡ないもんで、しようがないつていうんで文化会館に避難してきたわけ。

### 文化会館から仮設住宅に

2か月後だから4月末だね。4月末だね。文化会館はそんなに長くないんだわ。こちらの仮設、ここだと知つてた人はほとんどにいなかつたね。いや話すれば分かるんだけど、俺顔もゆつくり見ないけどさ、顔もほとんど見たことないんだわ。一人や二人なら見るけども。

俺は兄貴亡くなつたしね。兄貴は二丁目、実家だからね、ここに

住んで。遺体とか

一週間ぐらいわからなかった。うちの、この近くで見つかったんだね。そこで近くで見つかったそのボーリング場のとくに安置されてそこに行つて対面したんだけど。その棺桶に入った時点で対面してる。

七丁目からこう来たんだな、こっち（東側）はかなり堤防高かったから、堤防からちよこちよここと入ったけどそんなにはあまり来なかったね。家は一階ぐらいいし津波は入ってこなかったね、住むつていったつて二階は全然壊れて、タンスはめちやくちやくでも住めば、だけど一階直すわけにはいかないんだな、あれ。風呂からトイレからめちやくちやくになったもんだから。家建て直すつてことは、もう全然。だつて年齢が年齢だから金も貸してもらえないし財産も何もないもんで、そして今度俺年金生活でしょ？市に一戸建ての仮設かな？集合住宅欲しいんだけどもつて言ったら、一戸建てでも今度部屋数決まってくるでしょ？家賃に応じて部屋数決まるつてもんだからそれだけだね。おれほんとにアパートなんて住んだことないもんで、やつぱり人との付き合いがあんまりないもんだから、新たに戸建が欲しいなつてね。

仮設では妻と二人で。俺隣の部屋に娘たち夫婦住んでるわけ。でも娘たち夫婦とかもういつたりきたりはしてないね。完全に離れちやつてもう。やつぱり震災のね、地震前はずつと一緒に住んでたんだけど震災になつてからは一緒に部屋別々になつてからは一切口も利かないで俺たち夫婦無言つて感じで、一緒にいればね、なんとかかんとかつていうこともあるんだろうけど。このまま戻つたつてそう簡単だね。前みたいと一緒にこういう話することちよつと不可能だろうね。

### 閑上のよいところ

閑上の、やつぱり、まあ景色つていうのがいいところだったな。だからさつき言つたけど俺がここなんだよねうちね。そうするとここ

二階だとき、こつから金華山のほうみんな見れるのね。仙台市みんな見れるでしょ。風呂に入りながらでもみんな見れるのね。だからそういう景色と。ここで何にも見れないでしょ？もう、で今からそこに行くつて言つたつてもういけないうしき。ほんとにいいところ。だからもう半年以上は川で釣りしてない。もう釣りどころも一切なくなつたし。なんもしてないよね。テレビは見たことないの、ほんとにまあ、ニュースはね、朝飯食つてニュース見て昼もニュース夜もニュースだけだね、あとは本読んで小説読んで、あとは自分字書くのが好きなもんだから般若心経なんて書いてるの。あいつ書くと3時間4時間ぐらいかかるのね一つ書くの。精神統一しないとかけないもんだから。

閑上こんないいところはないと思っていた

閑上一丁目

ご主人のこと

うちの父ちゃんもうんとい人だったの、なんでこんなにいい人亡くなるんだろうねって思ったけども、自分でも。病気を隠してたみたいなのね、血尿出てるって前から分かってたんだけど、私には一向に教えなかったの。そしてね6月8日誕生日だったのね、であのおっきい病院に行ってみてもらってこいって紹介状書いてもらって言ったたら、町医者では膀胱がちよっとあれだねって言われていたつつけやばりあの、社会保険病院にいったら「あら井上さん立派な膀胱ガンですよ」って目の前でいうんだね。私とふたりで行ったんだけど、だから自分はねなんのあの症状もかえないさ、うーんって、で、行く前に今日9月8日で俺の誕生日だから俺なんでもないから帰りに食事して帰ってくるかなって言ったつつけ、そしたつつけ膀胱ガンって言われて即入院して、いったんは退院したんですけども、今度がんセンターに行ったらだめだって言われて、もう一回入院したんだね。で、また退院したんだけどまた二年の一月8日だか8日にいったんだね、あの、熱で、おしっこでなくなっていたら「あー」なんて言われてそして通院してそのうちに入院したほうがいいなって言われて入院してそんなに早く逝くと思わなかったし。でも、去年みたいな暑い年だと長持ちしないからねってその当時は言われてたんだね。そんなこんなでね、だからはやく、その閑上でなくともどっかに住む処を作ってもらえば私は閑上に行きますって兄貴たちにも言ったの。

地震の時

普通の生活してたんですけども、主人が病氣、膀胱ガンって震災前に言われてね。そして震災当時は入院してましたがんセンターに。二日はどこでも揺れた、揺れたってそんなに津波っていうことは全然頭になかったから、分かんなかった。震災後。二日になって

日のちようど〇時半に亡くなったんです(ご主人が)、それからがたいへんだったね。

がんセンターはライフラインは全部だめだったの、だから酸素もなにもかにもみんなダメでね、かわいそうだったな。電気消えたためになんにもね、できなかった。そして常に御飯だのって請求したことない人がね、「御飯出ない今日ご飯出ないんだな」って言われてね、そんなこんなで。して娘家にひとりだったけども、いい年だったから、地震になつて向かいの母ちゃん、7、8だったから、その人に声かけてそれで次の人に声かけて行ったんだけどもその人たちがなかなか動かないんだって、で、一人で行つて、逃げてって後ろちよつと見たらね、何かお寺の屋根のみたいなの、追いかけてきたって。そんなこと娘のことなんか全然思つてなかった。

テレビこやつて見てたら、「あら、仙台空港に水が来ましたって何の水なんだろうな」って思つてパチツつて消えたからあととは分からなかったのね。うん、だから娘がどうなってるか何も夢中だったね、その後が大変だったんだ。あの、亡くなってね、どこに連れて、帰つてつたらいいかわからなかったね、家は流されなくてあったけども、二階はしつかりしてたから二階に連れて行くって言ったのね。そしたらこら誰もね親族も誰も見て「家に連れてこい」っていう人はだれも、いかなかったね。そんで苦労して。でも仕方ないなつて思つて。

そしてね、色んなこと探したけどもいっぱいいっぱいって言われて、あの親戚の人がちようどいてあるあの、葬儀会館にあのそこも揺れて壊れたけども一人ぐらいならつて言われてそこにおいてもらつて、だから何にもしないで送つてしまった。でね、閑上はねうんと住みいいとこだったのね。なんでこんなにいいとこになんでみんな来ないんだつて思つたけども、こんなことになるとは思わなかったもんね。ここに、そして転々としてあの、ね、転々と親戚転々として歩つたけども、娘のどこにも居づらくて、アパート借りて、そ

んときも「〇過ぎてるから、「あんたには貸せないね」って、でも下に娘いたから、その人の名前前で、うん。悔しいね年取るっていうこと。遺骨がねあったから、それを持って避難所に行くのも、だから親戚、そして最後に娘のそこに行った方がいいなって皆兄弟が言うから、でも娘のともね、あのお姑さんいたのね。だから、そこも一か月ぐらいいたけど、あとアパート借りて、名取に引っ越してきました。そんなこんなでね、

### 現在の暮らし

一、二年はね、色んな事考えることもあってあいつもあったけども、夢中で二年は暮らしたけどもこうやって静かになってくるとね、色んな事、で、この頃は娘に責められるのね「いつまでここに」。やっぱり年になってるんだからなにもいいんだけど、毎日働きに行つて帰ってきてここにきて寝て、このまんま「あいつなんだ」っていわれて。この間さ、そいつが、なんていうのかな、ダメなんだねうちの娘、上のと違って、泣いたってしようがないんだけど、あんどきは生かされたんだから一生懸命死ぬまで生きないとね。なんてかっこいいこと言つてたけども、この頃はあんどきね、一緒に亡くなつたほうがいいなって思ったから、悔しいときはね、仏さん御飯だのあげるときにね「いいねーあんたはいつつもここにこしてね、残された人は大変だよ」って気持ちあいつしてるときはカンカンつておつきい鳴らすのね、穏やかな時は「いいねえ」なんて言うけども、いつつもニコニコした写真見るとき、どこになんで、いまそいつで悩んでるのね、娘に。私は一人でその、泣くばかりだつて、だから早くね、私は閑上に帰りたいの。そしてね、家で〇人兄弟の家で三番目だったの、上二人とも皆家買ってね、閑上だったからみんな震災に会つて、(新しい家を) 買って〇月に引っ越すんだよ。そういうこと聞くとますますね、娘も、悔しい。だからね、私ね、閑上の小塚原っていうところだったのね、そこから一丁目にね、行つてずつとん、学校も閑上だったでしょ、だからずつと閑

上でなんでこんなにいいところに、野菜でも魚でもなんでもあいつなものになんでみんな来ないんだろうねなんて言つてさ。でもね、お姑さんに思い「なんぼ悔しくたつて悲しくたつて人前では涙見せて駄目だよ」ってなんていうの、躰られたんだね、だから涙は見せないようにしたいと思つただけど今日は涙。

うん、だから今はね、その早くね、住む場所を静かに。そして娘も、安心して「あのうちは買わないから、どうせ誰もあいつする人もないから、いらないんだわ」っていうのね。そして今あるお金みんな使つたらあとどうするのって言つて、あいつする、公営住宅に入ったら頑張るから、だからそっちも、いや年になったら考えるんだね。私はこうやって働いてばかりいてあと誰にもみとられないうつて。うん、だからそういうことこの間言われてね、それから落ち込んで、私も反動で、外に出るとはしゃぐんだね、うちにいるは何にもだから、言葉もなんにもないんだね。かわいそうにうつて思うけどしようがないだね。だからなんとかね、あのあれは贅沢しなれば年金でなんとかやっていけるんだけども、そのね、住む位置がね、決まれば、和むと思つてすけどもね、

### 仮設住宅へ

仏壇の前でね、だからこう気イライラしてる時は「お父さんいいねいつもニコニコして」ってこんなに苦労してるのになつて、穏やかな時は「いいね」って静かにこう、思つてやるんだけども、こう、イライラすると「いいねそんなに毎日笑つてて私たち苦労してるの」ってカンカンつて音を高く(笑)。だからそんなこんな、うん、私は人前ではあんまりあの、したくないと思つてそれは心に入れてるの。でも悔しかったね。うん、だからね、市役所に行ったのね。父ちゃんは亡くす年金は無くす家は無くすでうんと大変な生活してますつて言つたの。分かりましたつて言われて、でね、子ども、娘たちにあの震災関連とかつていうの申し込んでみたらいいさつていうのね、一応申し込んださ。そしたらその診断書では、「この診断書

では「って。そいつは分かったの私もね、申し込んだのよ。娘たちが「それでいいの?」、それでいいのって言ったって、行って、あそこに行っていてみるからっていったら、診断書持ってこういうわけだって言って、んじやあ保留っていう、預かっておきますって言って、あとからあの、ね、「もう少し詳しい診断書だったらいいですけども」ってただ死亡診断書でしょ?そっちもこっちもね、痛んでたんです。だから私はね、そんなお金なんかいらんだけどもね、って言ったの。診断には、震災のときでもあの、「震災後一週間や10日で亡くなった人の悲しみだって同じだっちゃね」ってはい言ったの、あそこに行つて。「それはそうですね」って、悔しくないのって言えば、「なんで、こんなにお母さん持つてるなら、病院に行つてもう一回書き直してもらつてきてください」そいつもや(嫌)なのね。子供たちも、だからそんなお金なんかいらんっていうのさ。ほんとにね、年金は減らされるね、なんにもいいとこないんだもんね、でもな、生きていくためになんぼかはもらえるから、うん。閑上はうんといいとこだったよね。

#### 閑上のこと

なんだ、忘れたわもう。そんなこんなで流されたから何もどうにもならないけども、でもさ、あそこに行つてみるとあらここにでも建つんだなって思うつて来るの、うちの屋敷見て。それでもね、見ないからだねそれもね、どれだけ酷かったかというのをさ。

大概一丁目の方だから、さっぱりお話ししたことない人もいたけども、ここの狭いところだからほら、みんなとね、うん。だから、私は馬鹿だからね、はしやぐんだから。怒られるの娘にも。この間の夏祭りにも「よくこんなにあつといとき一日そうして」って言われたの(笑)。「よくこんなことして一日こんな外にいてはしゃいでるもんだ」って言われたけども。閑上であったのね、うん。閑上地区であったんだね。でもそんなにあつちではしゃがないの。私はね、閑上の風吹くところには帰つてきたいと思つて、頑張つてるの。で

もね、みんな年寄りばかりだからな、うん、なんていうか希望も何もないんだね。ただただ安心して住めるつていう公営住宅に入つてね。娘は仕方ないさ、どこにもだけど、あのね、最初の頃は「なに、そんなにいやなら一人で暮らしてみろ」って「三日もいられないから」ってね、安月給でごはん炊いたりあいつしたり一人でなかなか。この間言つたら、「今頃出て行けつて言つたつけどどこに出て行けばいいの」って言うから、うん。だからそいつはわからないんだけどもさ、閑上に戻つて、二人で静かに。

#### 集会所での活動

うん、私は来る。来ないとはやらないもの(笑) 嘘、みんなに誘われて、毎回来てる人來ないとなんでつて言われるから、うん、必ず来てるね。でもね、なにさもかにさも人ばかり頼られてはだめだつて思つて私は、うん。あんまりボランティアさんもね、来ないねつて言つたつてやっぱりいつかは自立しないといけないから、そういうのもだんだんなくなるのも当たり前だと思つてるね。

最初の頃人恋しかつたね。みんなの声するとね、あれ誰かいたんだねつて思つて窓から覗いたりしてさ、段々「あらあの人もいたこの人もいた」つていうんで皆ね。最初はだれがどこだつて入つたかわからない。そしてわさわさつてみんな来たんだもんね、4月〇日ね、荷物もそんなにないからほら、さつとして、みんな入つたわ。だから一年ぐらひは夢中で暮らしたね、段々日重ねて落ち着いてくるといふんなことを考えてね。いろんなその市役所にいつた、ここにいつたあそこにいつた、一時の間に一年は暮らしたけど、閑上はね、ほんとにいいとこだった。あそこに帰られないのは、私らはすぐに目の前はバス停だ隣は肉屋だ隣は魚屋だあいつだつてほんとにいいとこに住んでたのね。そういうとこには住めないんだね。

#### 閑上のよいところ

具体的にはうん、なんて住みよいかだね。なんでも人はいいし、食べ物から何でもよかつたね。なんでもつていうかそうするとな、

大雑把になるけど、みんな。ほんとに心から思ってたね私は何でこんなに閑上ってこんなに、野菜だって魚だってなんだっていつぱいあつてさ、こういう風にして新鮮なのばかり食べられてこんなにいいとこないねって思ってたね。みんな、みんな口は悪いけどもみんななんていうの？親切っていうか。口はうん、口はほんとに悪いけども、気持ちはそうではないね。そう思ってる。楽しくね、みんな。

集会所の会合には参加するようにしてます  
閑上一丁目

ずーっと閑上、生まれも育ちも閑上。肉屋をやっついていて商売もずいぶん繁盛した。真面目だもんな。

### 津波の時

地震がらがらーってきたつちや。そんでお客さんが3、4人いたの。店の中に。すぐ「外でろ」って出して、で、出して「とにかく逃げろ」って言ったのさ。「逃げろっていうか家に帰れ」って言ったのさ。言った瞬間に津波来たんだつちやなあ。来たんだ、ほんと。地震から20分ちよいぐらいしたんじゃないかなと感じた。その津波の早いなんの。どうともできなかったから。海の方から。うん。海から町の中に来たのさ、あつちから名取川の堤防ある、お客さん一人津波にさらわれたし。あの津波の速さには驚いてね。テレビだのハワイだのあつちのほうの津波見たけど、あれありえないもんなほんとに。あの波見たときは、店の前人は流れていくしき。うーん。

その、一年ぐらい前にさ、女房倒れたの脳内出血で、そんで右半身不随になつてさ、そんであの、やつぱりあの女房と二人で逃げましましようなんて手すりついていたのさ。うちの中さ、その手すりに縋って水ここまできたの。そんで、逃げれてない、泥がすぐうちの中に入つてさ、女房は身体障害者だから、助かるとは思わなかった

なああの瞬間は。そのまま掴まって何時間縋ってたかな。それで若干水引いたときに二階に上がったんだ。二階で次の日の、何時ごろかな自衛隊かな、に救助されたんだね。

### 次の日文化会館へ

次の日文化会館名取市の、文化会館に運ばれて、そこで二か月ぐらいいたのかな。

混んでた、最初廊下だよ、いたの。部屋満杯でさ、廊下に、はずれだな廊下にいたの。最初廊下だったけども、段々と、中に入る、中が開いて、中に入る。その中も雑魚寝だからまずものすごかった。暖房ついてなかった体育館。冷凍のおにぎり一個に水貰って、寒かったよ。文化会館。

### 仮設住宅へ

仮設住宅では、全部知り合いなの。最初からも、「あ、なんかいるな」みたいな感じだった。仮設はやつぱり今までの暮らしから比べると、狭いとかあるね。

ここの集会とかには参加されるようにして、うん、します。普段はテレビ観賞だつちやね。新聞読んだり、

### 今後の事

生活公営住宅、災害公営住宅に、入ろうかなって。どの辺に建つんだかな。やつぱり閑上はいいねえ。人間明るいさ。こつちのほうはなに考えてるかちよつとわからないところある。土地柄っていうかな、やつぱり人がいいな。

甥から死にたくないと言われ正気に戻った  
閑上七丁目

### 震災前

前は学校の先生を、北海道で学校の先生していた。▶年生と、あ  
と知的障碍者の。生まれは埼玉で、育ちがもう閑上なんて閑上人で  
す。中学校通りの、この辺に住んでたんですね。建売住宅を二軒買  
って、姉夫婦と私ら家族と、もう玄関と玄関向き合っていましたか  
ら、デイサービスでだれがきたとか全部わかるぐらい、リビングの  
前通っていきますんで。

### 地震の時は

津波のときはスーパーに行っていました。姉がですね、七丁目を出  
て一丁目にある借家に入っただんですね。そこでその日は卒業式終わ  
ったばかりだったんで、偶然居合わせて、姉と子供三人男の子、  
姉と、男の子三人いるんですけど、一人は小学校、一人は宮農（宮  
城農業高校）、一人は中学校。その中学校の真ん中を連れて、「買い  
物行く？」って言ったたら「行く」って、暇だから行くっていうんで、  
あの増田の方に来てたんですね。増田っていうより今はなくなつた  
トライアルのスーパーなんですけど、そこで地震に出くわしました。  
車で行きました。

最初買い物してて、突然なんですけどみんな逃げていくんですよ。  
私鈍感だから分からなくて、そしたら陳列物とかがだんだん落ちて  
きて、足場が悪くなってきたんで、なんで逃げてくるかわからなくて  
私も一緒につられて外に出たら尋常じやない揺れに出くわしたって  
いうか、立っていられないぐらいの、うん。地べたに這いつくばっ  
て、「きゃー」とか「わー」とか、うん。そしてクラクションの音な  
んかもプープープープー鳴ったりとか、四号線沿いなんですそのスー  
パーが。バイパス沿いなんで、その後ろに今ヨークベニマルできて  
ますけどそこが元トライアルだったんです。今はだてもん市ってい  
って、逆にだてもんいちがトライアルになったんです。なんで逃げ

るのかわからなくてつられて逃げて、初めて地面の揺れの尋常じや  
ない揺れにびっくりして地べたに這いつくばって立って。それでし  
ばらくたって真ん中と、真ん中の甥っ子と、二人で頭に浮かんだの  
は姉が閑上で働いてるんで、まず姉と子供たち、あと宮農に行つて  
る子ども。とにかく姉と子供姉と子供姉と子供しか頭に浮かばなく  
なって、私も、理性失つたみたいに、ハンドル握って戻ったんです  
よ閑上に。なかなか途中の道路とかも大変でしたけど、で、戻って  
普段CDしか、ラジオに切り替えるスイッチ分からなくて、いつも  
CD かけてたんですよ。それでラジオ、気が付くと大曲すぎて郡山  
運送のところあたりで、何で街場に行く車並んでるんだらうかって、  
思ったら、そこで初めてあのひねったんですよラジオ、偶然にも。  
偶然に、そしたら大津波警報大津波警報、ってみんな車乗り捨てて、  
東部道路に首根っこ掴まれてあがる女性とか旦那さんなのかカッ  
ルなのかわかりませんが、もうスカートがめくれあがるのが襟  
首引っ張られて上がって、そうこうしてるうちに真っ黒い壁が見  
えたんですよ。向こうから。こっち（海側）からこう、こうだけ  
ら、こっちですね。もう車渋滞でした、で東部道路ありますよね、  
ここにミニストップあるんですけどその時点で黒い壁がもう高々と、  
車乗り捨てて今言ったように東部道路に上がっていった人いたんで、  
そしたらそれを見た甥っ子が、私はもう姉と子供姉と子供姉と子供  
姉と子供姉と子供姉と子供とにかくそれしかなかったのが大津波警  
報聞いて、猶更強く思ってたところに津波見た甥っ子が「おちゃん」  
って呼ばれてるんですよ。「おちゃん僕死にたくない、僕死にたくな  
い」って言われてはととなんか正気に戻ったというか、姉と子供か  
ら切り離されて、ああここで死んだらまずいって思って隙間がちょ  
うど80センチぐらいあったんですよ、車と車の。そこにもうギリ  
ギリ入って後で修理しましたけどギリギリ入って。で、もうバック  
ミラーもサイドミラーも見ずに無我夢中で突っ込んでバリバリバ  
リと、で、ターンして、そしたらあの大曲の白十字っていうところ

で、トラックが「もうこれ以上ダメだ津波でダメだ」っていうことで立ち往生してたんですよ、そこまですっかり、あの、道路空いたんで、道路逆走したんです、で逆走して白十字の裏、いわばバス通りから違う道路、細道になんかつつこんで、四郎丸、社会保険病院、社会保険病院まで逃げたんですよ。そこから大変だったんですよ。で、今思うとその真っ黒い壁の津波の中で白黒白黒白黒白黒って見たのは、たぶん車か船だったんだと、うん、もう、ぐるぐるぐるぐる回ってて、で「○ちゃん僕死にたくない」って言われて、それで南社会保険病院の前から、今度は動かないんですよ車が、だから甥っ子に、ガソリン無駄にできないから止めたり消したり止めたり消したり、ごめんなさい（涙）。ついたり止めたりついたり止めたりして、前に進んで前に進んで前に進んで、バイパス裏の道を通って夜中の8時台、8時台ではもう荒浜で300人が死亡とかっていうのも聞いてたんで、ああとんでもないことが起きたんだっていうのが改めて分かって。それでもとにかく避難しなくちゃっていうんで深夜二時までずっと並んで、で、セブイレブン名取北高のセブイレブンのところから入って行って、そしたら夜中に歩いてる人がいて「すいませんここで避難場所近くにありませんか」って言われて、増田中学校に、移動したんです。

### 増田中学校に

もうたき火炊いて入れ入れみたいなの。それであの、体育館の中に入ろうと思えば入れたんですけど、余震でキヤーワーって言って出てくるんですよ。前、余震がグラグラグラグラグラってなるたびに「キヤー」とか「ワー」とか、「おー」とかって、「外出ろ」とかって、「○ちゃんごめんね」って「中に入れないから、一晚」そして軽装だったんですよ。車での買い物だったんで、軽装で冬場、三月でしたけど私もサンダル履きで、あと、ちよっとジャンパーひっかけ、車の中に毛布とかも何にもなくて、後ろの座席の薄い座布団かけて、ごめんねって、「寒いけどガソリン、なにがあるかわから

ないから使いたくないから一晚車で寝ようね」ってまたそして怯えてるんですよ。「○ちゃん地震」「○ちゃん地震」って「うんわかってるここだったら津波来ないから大丈夫大丈夫だ」って、でも私の頭の中では、姉と、一番上と、一番下、もう一昼夜寝れませんでしたよね。

携帯とかで連絡取ろうと思ったけど取れなかった。一昼夜寝ませんでした。そして、ちよつどのあの私の隣に車が一台入ってきましたですよ、そしたら泥だらけになってたんで、「どちらから来ました」って、新聞持ってたんで、そしたら「閑上方面から来ました」って。

「閑上どうなってますか」って、「もう見るもの、無残な姿、無残な街になってました」って。えーって、姉と、子ども、もうだめだったんじゃないかって。で、増田中学校の教頭先生に、車コンコンさされて、中入っていいですよって言われて、寒いでしょうって、毛布もあるから入ってくださいって、言われて。入って、でもそれもやっぱり姉と子供、って、兄は単身赴任で福島にいましたから、で、母が亡くなって一周忌のあとに起きたんで、私一人暮らしでいたんですよ。もし母が生きてたら、何津波なんか来ないからって、ちよつど一年前がチリ地震で、避難勧告が出たんですよ、その避難勧告のときはしぶしぶ避難した母だったんですけど、その晩に亡くなったんですね。具合悪くて、心不全で。で、一周忌を終えて

やれやれってとこで起きたんで、多分生きてたらきつと、避難生活体育館生活でだめだったろうねって、だから、兄弟でよく話すすけど、まあ早く死なれて悲しいけどあれでよかったねって。収まるところにも収まってお墓にも収まったし、一周忌もちゃんとやったし、そういう体験でしたね。で、教頭先生に縋って、「姉と会えますか」って、もう、不自然な質問ばかりうん。ここ追い出されませんか？大丈夫ですか？とか、「会えるから大丈夫できつと会えるから」って、姉は、歩いて閑上から歩いて、子ども連れて、閑上小学校に避難したそうなんです後で聞いたたら、二日目の日に、再会でき

て。

増田中学校に、安否確認とかいろいろあれも館腰小学校とか、あと増田小学校とかいろいろな避難先まわって、いないいない、行って市役所に行って、見ても分からないですって。だから探すしかないっていうんで、最後にたどりついた増田中学校にひよっこ顔でしたんで、ああよかった。「Oちゃん」って、そして今度一番目が心配なんですよ姉は。一番上の子。宮農に行ってた。のんびりやで、そのうちなんとかなるだろうみたいいな感覚を持ってる子なんです、それでもう泣きじやくって、その時私は市役所に確認に行ったときに、あの濡れた靴持って歩いて、偶然歩いてたんですよ。「O!」って。あの帰ってきて、うん。そしてその子は小学校の向かいの民家にガラス窓割って、18名のおじいさんおばあさんたちを二階にあげて、で自分が逃げるときに冷蔵庫から食パン二袋、持ってたやつを食べさせてあげて、だからお札の言葉たくさん来ましたね。うん。甥っ子さんに助けてもらったって、だから今年で二十歳になるんで、10月なんで、その話をしてあげて、ご祝儀やろうかなとは思ってるんですけど、でもそういう体験でした。それから、私感電事故起こしてうつ病になったんですよ。ええ。前に。薬がないもんですから、避難生活もあの、眠れたり眠れなかったり眠れたり眠れなかったりとか、もう、視力も低下して老眼すすんで、で、今は一応O家は全員無事だったんで。ただおじいさん叔母さんとかっていうのは亡くなりましたけど。O家って浪江（福島県）なんです。浪江なんです。

避難所には3月から5月まで増田中学校。途中で移らなかつたです。逆に入ってくる人が、要は名取北高が、あの入学式、始まるっていうんで、あの空いて、増田中はすいてたんです。あの市民文化会館みたいにぎゅうぎゅう詰めでなくて。ランポロン。ランポロンと、そこを詰めて、あの北高の体育館にいた人たちが入ってきたのがやっぱり閑上の人たちなんですよね。

## 仮設住宅へ

桜のほうにはい。最初は姉が一丁目なんで、あの私も一丁目の登録で仮設三部屋あるの借りたんですけど、兄が放射線区域に入ってる会社だったものですからまして独身なんですぐクビになっちゃったんですよ。で、それで9人では住めないっていうことで、法務局に三度も四度も足を運んで部屋を借りるために、何とかお願いしましってこの敷地内で部屋をお借りできませんかって、そして区長さんが、あの口をきいてくださって、今部屋別に。放射線の区域内にはいっちゃったんで、そこを閉鎖する、せざるを得なくて、富岡のほうの会社は生きてるんですけど、その会社でましてや宮城県人で独身でって。まあ首切りやすかつたんでしようね。うん。

最初知り合いはいなかった。元の地区で役員やってたんですね、総務で。自治会の総務で。それで一丁目の方と仲良くなることできて、どこに誰が住んでるとか、名前も分かるし顔も分かるし、で、今年引退しましたけど、若い方に今度。

## 今後は

兄弟一応ばらばらになっちゃんですけど、兄は京都に行きましたんで、今年の2月。っていうのはうちの兄は技術士で、車の設計ですとか金型関係の仕事をしてるんですよ、それで、ちよっとプライドが高いんで、あの極端の話そのプライドを捨てて、仙台地区であるいは身近なところで働けないかっていったら「働くのはいい」と「でも賃金が安くてやっていけない」とだったら関東の方に行つて仕事をするからっていうことで2月に、京都に行つたんですね。で、今私一人暮らし。だから兄は兄で、もう京都から帰ってくるか帰つてこないかは聞いてないですけど、まず行きました、で、姉は家に帰りたくない。私はわたしでそんな資金もないですし、身体障碍者なもので、労災年金で暮らしてるんで、集合住宅に入る。だから、まあ宝くじ当たれば家でも建てたいんですけどね。

閑上はいや、それは津波がきたから。今もテレビの画面見て、念

のために津波に注意してくださいってコメントがあつたの、つくと、やっぱり動揺しますよねここにいても。精神的にもその津波、を、受けてから薬が増えました、はい。

#### 閑上のよいところ

近所付き合いはよかったですねはい。亡くなったこと聞いて残念な、ご家族の方もいましたけど、近所付き合いがいいこと。これに尽きますね、はい。セールスマンとか来ると結構怖い目で威嚇するような感じで、知らない人とか来ると、だから外交慣れしてないっていうのもあるんですけどね。要はあそこ考えてみれば、この閑上っていうのはあの、海でいうなら離れ小島みたいな、あの、中学校小学校だとたとえばあの、この道を挟んでこっちに住んでる方は、あの何々小学校ですよ。この道からこっち側は何々小学校ですよとかって分離するっていうことがなくて、幼稚園保育園小学校中学校って全部閑上小学校中学校なんで、そこから今度高校に行つてバラバラになったりするだけなんで、うん。だから親御さん同士ももう知ってるし。

#### 悩んでいること

うーん、やっぱり復興ですよ。どうなるかって。遅れてるといふよりもどうなるのかって、決まってるので。10月までに採決しないと国からの援助がもらえないですからまた伸びるとなるとここに五年も六年もいるような形になっちゃいますので。

津波のつ字も頭にはなかった

閑上五丁目

私は閑上生まれの閑上育ちだったんですよ。生まれは㉒丁目で、閑上の㉒丁目について、そしてちよつとちよつとちやくなつたからつて閑上五丁目の方がほら、開発されて、そこに家を立てて、こっちはこつちであのほら、住宅払い、住宅に入ってたんですよ。それが払い下げになって、そこにずっと住んでたんですけど、何歳かな子供たちが小学校、中学校の時に㉑丁目の方に、だから震災までから㉓年ぐらいいりますね㉕丁目。

地震の時は

震災のときはちよつど仕事だったんですよ、それで仕事でお惣菜なんかもやってみましたので、でもいつもほら㉓時ごろに火つけるんですよ、ちよつど地震になってしまつて、当時お客さんがちよつどいたんですよ。それでそのお客さんを奥さんと2人で守つて、そしてこんど外に出ることもちよつと危なかったんですけども、物が倒れ、うちの中の、店の中のほら瓶とかいろいろありますからね、倒れてまず怪我してから大変だつていうことで、外に出て、そしてなんていうんですか、その地震が落ちてからお客さんちよつと少し年配の方だったんですよ。それで奥さんと二人でうちが近かつたですから送つて行つて、それから今度私も自分の家がほらちよつと㉒丁目から㉑丁目についていうとそんなに離れてないんですよ。いつもは車で通つてるんですけどその車も忘れて走つていつて、地震だけかなくていうような感じで、ただうちを見て来るつていうような感じで、行つたんですよ。そしてちよつとかなんとかなんて、そんなにもものなんかは倒れたりしてなかったんですよ、そして一旦うちに、父親がちよつと目が不自由だったもんですから、うちにいて家を守つてからあんただけ避難しろつていうような感じだったんですよ、まさかね、一人置いて行かれないからね。そして私が今度、車

取りに行くつてくるからつて車出して、そして娘が富谷にいるんですけども、金曜日つていうと、ちよつと空手うちの実家の兄貴がやつたものですから、空手の練習だつていうことでそしてその娘も三人目の臨月だったんですよ。㉓月28日にあれだったんですけどね。だから荷物だけでもつて、ちよつと外に出ろつていうことで出したんですよ。そして私が車取りに行つたんですよ。そして今度車取りに行つて帰つてきたら誰もいないんですよ。そしてちよつと近所の人がちよつど帰つてきて、前のまず懇意にしてるおばちゃんもいたんですけど、そのおばちゃんとかも「この地震はただ事でない」つていうような感じで、そしてあの近所の斜め向かいの人なんですけど、ちよつど旦那さんが帰つてくる娘さんがいたつていうような感じで、その人たちに乗せられて最初に閑上公民館に行つたと思つたんですよ。その人たちもね。だから私もまず取る物もとれあえず金魚があいつだから金魚がかわいそうだなつて思つてあれしてちよつと直して、もう公民館の方に行つたんですよ。

公民館へ 津波のつ字も頭にはなかった

公民館に行つたら、そしてちよつと、行け行けつて、でもそんなときはね、私が行動を起こした時はそんなになつていうんですか、車の行列とか、そういうのはなかったですね。ただ海の近くだったものから、海がシーンとなつて誰もいなくても「なんだこの不気味さ」つていうような感じでね、津波の「つ」の字が頭から抜けてましたものね全然ね。そして私も車で公民館の方に行つたらちよつど実家の人がいて、兄貴がいてあと母親がいて、その人たちを乗せて、この公民館がだめなんつていうことで中学校まで乗せて行つたんですよ。そんなときもそんなにね、渋滞、まず公民館から出た車とかが結構あつたんですけども、渋滞にはならずにつて、車、中学校において、そして兄貴が「ほらあんたのこの人たちをちよつと見てみるから待つてから」つていうことで、私は公民館に今度車じゃなくてね、車をあそこだつたら大丈夫かなつて

いろいろな感じ。津波が頭の中にないすからね。そして今度公民館まで、また走って。だから私は中学校に車を、ほら、まず実家の人たちを乗せて、そして私は車を置いて、そしてまた今度公民館まで戻りました。「あんたの人たちは誰もいない」っていうことで、だからいったりきたりしてましたね。そんな時はね公民館の方は下は誰もいないから、いないんだっていうことでじゃあ戻るべってことで二人で兄貴とふたりでまず中学校に戻りました。そして途中でなんだか消防自動車の音が聞こえて「あらーこういうとき火事になったら大変だな」ってその津波がわからなくて黒い煙がもう見えたんですよ。そしてあらーこれが津波っていうことがわからなかったから火事っていうことだけね、そして今度途中で水に追いかけられて、うん、そして中学校。ああいうときって走れないよねなんぼあれだつて。そして中学校に避難したんです、兄と。そして今度私も階段二つあったような感じがしたから中学校にね。だから探しに行っちゃって今度水がバーンってきて今度老人ホームの人たちが避難してきてね、階段がもうすぐかかったんですね。私たちも水このぐらいいまですか？濡れて。そしてでも上に上がったからね。それで一昼夜ですね。それでちょうど近所のまず店のお客さんがいて、あと私あの午前中は掃除のほう手伝ってたんですよ閑上クリニックってところにね、その看護婦さんがちょうど患者さんおぶってきたつけ、もう帰られなくなつたからって、まず白衣姿でしたからね。それでその人と後近所の人と一緒に行動してましたね。それで校長室、「ここもまず入れるから」っていうことで、そこで一昼夜。寒かったです、いつもだったからね、ジャンパーとか何か着てるんですけどね。下はまずズボンで、ラップズボンは穿いてたんですけどね、濡れたから大変でしたね。寒さとやっぱり恐怖だよ。うちにありあんのかしらとかなんともかもう、見たつけ船は校庭の前に流れついてるしね。あーこれでは私は海のそばでしたからね、ほんとにここが広浦ですよ？そうすつとここ六丁目、これ五丁目、広浦橋の近くでしたから

ね、サイクルスポーツセンターの向かい側ですからもう、ないだろうなどは思ってたんですけどもね。うん、まずすごかったですねあのときはね、みんながパニックになつてるものねほんとにね。そして今度友達の子供がいらないかなんて、そしてようやく娘に電話繋がったのは、何時ごろだろう、夜遅かったんですけどね。それで「私たちは無事だから」って娘たちは、文化会館ですか。

結局近所の人の機転が働いて、閑上ではだめだから公民館もダメだつて言われたからじゃあ山の方に行くべっていうことで、最初市役所に行ったんですって、そしてつけ市役所から今度文化会館、そしてまず四人でしたからね。おばあさんおじいさんあと娘と子供二人と、ああ娘二人と、子ども三人でしたからねまず。大勢であれだったんですけど。

#### 文化会館へ

そして別々になつてまずあれでしたけども、そして次の日の朝になつて私らはどこだったのかなあ、名取一中って言われたんですけども、ちょうど娘だのおばあさんたちが、文化会館にいるっていうことで、兄貴の息子がまず、迎えに来てそっちの方にいったんです私たちが。私らが行ったときはそんなにまでいなかったです。私はほら娘が〇月〇日にお産だったので、富谷の方に友達もいたり、その、たびたびいたり何かしてね、まずすつと文化会館ってことではなかったんですけども。

#### 仮設住宅へ

一応仮設が私は違うんですよ。ここが1丁目2丁目の方たちだったんですけども、〇丁目ってことは、うちの父親が目が見えなくて、そしてほら親戚のうちに〇日ぐらい、〇日ぐらいいたかな？そしてこうあと兄弟のうちにいったり、そして最後にたどりついたのが娘のところに1か月とちよつとぐらいいたかな？そして今度仮設、そして当たらなかったんですよ。当たらないってほら、1丁目2丁目がいメインですからねこつちね。それでちよつと。

ほんとは私らも美田園だったんですね。ですけども、目が見えなくてちよつと体調も悪かったのかな？でもここがちよつと最初にできた仮設ですから空いてたつていうことで、ちよつと知り合いの人で、おじさんからちよつと声かけてもらつて、そして、5月の4日ですか、入りました。部屋3つ借りました、うちの旦那がね、あの空いてるのが1つの部屋と2つの部屋だからつてちよつとそういう風にして人数多いですからねうち6人ですから。私と旦那とあとばあちゃん夫婦、あと娘と娘の子供ですから9人だったんですね。だからそれでよかつたんですけども、今度、ほら今までみんなずつと一緒つていうような感じで生活してきましたからなんだかみんな一緒に寝つて、三つの部屋ちよつと空いたからつてそこに入れてさせてもらつたんです。借りられたんです。3つの部屋に、6人。でもこのおじいさんが、5月4日の時に入つて、一週間でちよつと咳がちよつと変な咳するなんてうちの婆あちゃんが言うもんですから、病院に。風邪薬なんか飲んでたんですけどね、血圧高いのはまずあれだったんですけども、肺炎になつてつていうことで、だから仮設に入ったのが一週間足らずかな？そしたつて肺炎じゃなくて肺がんだったんですね。だからその震災と関係があるんだかなんだかちよつとわからないんですけども、そして2か月後に亡くなりましたね。だから今は5人なんです。

知つてる人少なかったですね、でもちよつと隣に実家の兄貴のお嫁さんのお兄ちゃんがいたのね、あの人がうちの兄貴のお嫁、ああ亡くなったんですけども、十何年なる、その人の兄貴だったんですね。だからほつとしたんです。そして隣の方もいい方ですね、そして家でね、孫たち来るといきなり（非常に）うるさいんだよね。だからちよつと迷惑のかけつぱなしなんですけども、一応ね。うん、まずほら、上町、上町つて1丁目2丁目の方と私ら5丁目つていう感じで、でも病院にまず勤めたり。こういろんな人がね、ちよつと顔見知りであいさつする程度ですけどもね。うちの主人な

んかはず閉上人じゃないし、朝勤めるとあれでしょ、タクシーの運転手してるんですけど、だからあんまりわからないんです。今日の頃はまずね、ようやくつていうような感じで。うん。でも私たちもまだ仕事があるからね。うん。いいんですけどね。でも店もね、ずつとも閉上の朝市つてご存知ですか？私もそこに入つて店に手伝いにつてるんですけどね、なんか仕事無くなつたつていう人よかはね、まず。うん。さいかい市場つていうところに行つてるんですけど、

#### 不便な点は

やっぱ狭いですからね、それが一番ですよ。うんそんなに広いつてまず、新興住宅街じゃないですけど静かでしたからね。海のそばで。でもね、ほんとに亡くなった人ね、私の友達なんかも看護婦さんしてる人なんですけどね、亡くなったしね。結構あの人もかあの人もかつていつてね、ほんとにね、結構なくなつてますよね。まだ私たちはほら、誰もね、身内の人たちがなくなつてないからね。親戚の人なんかは亡くなつててもね。二年半たつてもなんとなくね何が変わったのかわつて生活のためにほんとにねあれですもんね。食べるためにね。なかなか。

#### 今後の計悪

娘が富谷にいるんですよ。その娘が結局隣にね、家建てたらいいんじゃないかつていう話が最初に出てきてしまつたんですよ。それに二の足踏んでんのがやっぱ私らなんです。閉上離れたくないつて、そうですね。こつちだとほらやっぱね、もう少しぐらいい仕事できるしね。あとうちの主人の実家の方仙北の栗原市なんです。それで去年の4月に母親が亡くなつて誰もいないんですよ。だからその家にもつていつたつて、やっぱ私たちは年取つていきますからね、やっぱ病院とか買ひ物でも何でも結局ね、便利のいいところつてなるとそつちも二の足踏んでしまひつて。そして下の娘と一緒に住んでるんですけども、そつちもいろ

いろあれで、閑上小学校に行きたいっていうような話してるし。やっぱりこつちの学校よりも閑上小学校のほうに行きたいと、行きたいって娘の考えね。孫は「富谷小学校でもどつちでもいいなんていうけどね」いま幼稚園の年長さんで行ってるんですけどね。だから一応はまあ災害公営住宅の一戸建てっていうことだね、そして私たちも年ですからね、家も建てられないでしょ？建てるっていったって結局、ね、ある程度の金額の額は出せてもこれから老後になって働かなくなればね、やっぱりある程度の蓄えもないといけないしね。そういうようなことも考えたりっていうことでちよつと躊躇しているような。だから最初にまずほら、入られなければ公営住宅の一戸建てっていうの、その方があれかなっていうような感じで。あとここ何年間で少しもう少し考え方しよう。でもね、やっぱり閑上やっぱりいっぱい亡くなってますからね。だからなんか閑上になんていうんですか、街の方には帰りたくないっていう気持ちがいっぱいだからやっぱりほら、なんていうの？郡部の方、内陸の方、高柳とか大曲とかそつちのほうにも立つみたいなんです。一応そつちの方が希望してるんですけどね。

### 閑上のよいところ

なににしたってホントに人はいいし、だからなんていうんですか、私この頃ずつと朝市行ってるんですけど、その海見てまず人を飲み込んで、水が入って飲み込んだけども、太陽があがるとことか、なんていうのかな、風がいいですよ。ほんとに太陽あがる時なんてすんごく綺麗ですよ。最高です。そういうの見て、そして家あったとこ必ず帰るときに、その道路を帰ってきてね「ああ……」って思つて。ほんとにいいですね、あれしたらね。でもやっぱ何百人と亡くなつてるとね、ちよつとあの閑上についていうのは。私もひとりでは行けませんでしたもんなんとなくね。うん。車に乗せられてあれだ。でも今度朝市が始まるっていうことでまず今年の四月かな、からはまず運転してここ三時半頃になつて、ねえはやくね、や

っぱりね復興してくればね。うん。そしてやっぱり私らのほらゾーンは建てられないゾーンでしょ？そうするとやっぱりみんななんていうんですか？さいかい市場あるでしょ？その近辺結構、やっぱり閑上の風が吹いてくるからだかなんだか、だからねほんとに美田園や杜せきのしたああいうとこね、最初にもうパツとみつけてアレすればよかったですけど、今はとてもじゃないけども土地を買って家を建てたら、すごい勢いでももんね。注文ね。高いです。ああいうとに住みたいと思ふんですけどね。病院なんかもんね結構ね、いいんだもんね。ここはここで住みいいんですけどね。

津波が家をバリバリと壊していった  
元関上一丁目

### 地震の時は

息子がお客さんやってた(散髪していた)んですよ。それで主人と病院に入院してて、おばあちゃんは施設にお願いしてたんですね。家が揺れてええ。新しくしてから二年弱でその家がつぶれるんじゃないかと思つたぐらいです。あの、ぐらぐらと揺れましたね。その時孫もいっしょにいたんで、孫を抱いて。食器類なんか落ちない部屋のまんなか蹲ってたんですけど、一度地震がやみそのとき窓から外に出たんです、もう裸足です。サンダル履いてたんですけど、そして地震が落ちて、お客さんの、そのお客さんも家に帰りました。電気も消えてるからラジオも聞けない。津波とかなんとかつていうのは全然分からなかったんですよ。思い出せもしないんですよ。息子も物が落ちてこないように車を駐車場の真ん中に止めてきたんですよ。それに色々車に下の孫と水とか通帳とか現金とか入れて袋に入れて逃げる算段はしたんですけど、そのうちに孫のことを思い出したんです小学校一年生の孫がいたんで、それで学校行つてくるつて言つて出かけたんですよ。自転車です。自転車で堤防のところガードあるんですよ、そこをくぐつて、小学校まで行つたんですよ。そこは静かな感じでした。それで、ガードの近くの人も(五叉路の歩道橋の下交差点)の人もここ家の裏に立つてたんですよ。強かつたねとかつて言いながら学校に向かつたんです。ロソンの前を通つて校門から入つていったんですよ小学校に。外の階段から。それで一応三階に行きましたら子供たちは、体育館にいらつていうんです。体育館に一応行つて孫と顔合わせて、でもまだ返されないうつていうんで、一応息子と孫を連れてくるからと言つてあの又校門を出て県道に出ました。そして五叉路の近くの人に校門のところ会つたんですよ。この時も誰も津波来るからつていう人はいないんですよ。そして元のガードをくぐつてこう帰つてくる

予定だったんですよ、ところがこの関上大橋の下は仙台方面に向かう車が、無いんですよ。そして空港に向かう車が渋滞してたんですよ。それでその車の間を通つて、通称まがり新道に来たんですよ。あのこの道路あるんですけど、知り合いの人に「あつちはなんか煙かなんか真つ黒になつてるよ」つてそれが津波だったんですよ(笑)。そして火事かもわからないよつて言いながら走つて、少し行くと緩いカーブになつてるんですよ。カーブを曲がると生協の通りにガレキが押し寄せてきてたんですよ。でも、一瞬結構高さがあつたんで、自転車で降りて戻つたら巻き込まれるつて感じたんですよ。それでそのまま左側の畑少し高くなつてるあそこに行つたら助かるんじゃないかなつて、思つたんですよ一瞬ね。それで知り合いの人で自転車全速力でそこに上がったんですよ。そして一人逃げてきた人いて、私知つてる人なんで、「小畑さん自転車から飛び降りろ」つて言われたんですよ。それで飛び降りたら畑と畑の間に側溝あつたんですよ、私は全然そういうの知らなかつたんで、それで飛び降りてその側溝を飛び越えて歩道橋に向かいました。それであの水は膝ぐらいまで来たんですよ足が濡れたから、滑るんですよ。2、3段上がった時瓦礫ががーつときました。最初の踊り場あたり前まで多分来てると思ひます。それからあの津波を見てた、そこで。車の中から助け求めてる人ですかね、あと私が小学校から戻る時子どもたちは体育館にいたので、小学生も全滅だと思ひましたから私、走つて逃げれるわけになつて思つて全滅だと思つて心配していましたがラジオで関上小学校、全員無事、そのうちにメール見て息子も学校に逃げてるから無事つて。それでほつとしたらあたり見る余裕が出てきたんですよ。あの、堤防すれすれのところを津波が流れて行くんですよ、四郎丸の方へ津波がね。波打つてるからうちの主人が消防団の時大雨等でいつたとき、関上の四郎丸付近ですか？落合の方でよく堤防切れそうだつて土囊積んだりしたもんだから、落合のほうで切れたらほんと仙台市の四郎丸の方も大変だろうなつてそういう気持ちと

か、色々思いました。

### 歩道橋ではドラマが

歩道橋から降りられたのはだいたい八時半ぐらいですね、夜の。でもこの間にはいろいろドラマがありまして、男性の方が胸まで使った橋の上に行つてですね、救助要請しに行ったり、歩道橋の下で船が燃えていました。それもみんなバケツとか流れてきたやつで、消火したりしたんですけど、ヘリコプターが救助の為二度来まして、四人の方が救助、流されてきた方と、あと年寄りの方とあと赤ちゃんがいたんですね。であと中学生が一人、合計四人救助。少しチアノーゼ気味になつてたんで、歩道橋に逃げた人が、閑上大橋に上る消防隊に救助を要請しに行きました。胸までつかつて、それで中にも近くのアパートの人がいて食料品持つてくるからとかつていつてくれる人とかもいたんですね。ただ、みんながどういふ風な感じで津波が来るかわからないから、食べ物食べなくても大丈夫だからつて、そういう感じで止めたんですね。それで夜の時過ぎ違ふ方が、又大橋の消防隊に救助要請しに行つたんですね。したら、ロープ持つてきたんですね。ロープ持つて来て、橋と歩道橋のところにつないで、これで皆つながつて渡ろうつてなつたんですね。それで寒いから水にぬれるのが嫌だつていう人もいたんですね。私は生きたいか、船が爆発しはじまつたんですね、それで怖くていつ倒れるかわからないから生きたいからつて言つて、三人目ぐらいであともう一人大学生がちよつとお父さんの行方わからないつて、あとで生きてたの分かつたんですね、その人を、知つてる人の間に挟んで、渡つたんですね、その最初は消防隊は仙台市の消防隊だから来れないつていうことなんです。管轄違い。でもみんなな渡り始まつたら消防隊の人も来て間に入つて気を付けてくださいますよと、声をかけてくれました。私たちが渡つたときに、警察のバスがいたんで、それに乗つて東四郎丸小学校に行きました。そしてその夜娘とようやく連絡がついたので夜中に娘が迎えに来て娘の且

那がライフケアの方に勤めてるんでそつちのほうに行きました。娘たちも閑上に住んでいました。

娘はデイサービスに勤めてるんで、心配して家に戻る途中、四郎丸のバス停まで来て、それから入れないと言われたらしいです。最初津波だつて言われないんで水害だつて言われたらしいんですよ、私が水害じゃなくて津波なんだつて言つたら、水害っていうのはどこか地震で堤防が切れたのかなつてぐらいにしか思つてなくて、「津波で閑上全滅だ」つていうことを言つたんですね。娘は子どもたちのことを心配してました。

津波が家を壊してくんですね、家がバリバリ、家が流れてきて次の家を壊してまたいくんですね。自転車で来て瓦礫が目の前ですよ。歩道橋に上りながら息子とか孫小学校に行つてる孫それが、一番心配でした。私が孫と息子を殺したつてそういう感じ、そう。私も少し津波つていうことを考えてればよかつたんですけど、よく水害でお店の中に水も入つてきたんで、四段ぐらい高くしたからせいぜい来てもそんなもんぐらいなんじゃないつていうその時は津波のつのも地震の恐ろしさで津波のこと頭に入らなかつたですよ。

### この辺は一番低い

この辺はね、一丁目のバス停の横断歩道橋の所が一番低いんですね。それでここが三角のところの家建つてたんですね、お店やつてたんですね。そこは時々水が溜まつて閑上一丁目は貞山堀のほうが高いんですね。それで水がこつちに流れてきて生協の通りに行つてから貞山堀に行くのです。だからこのところに溜まるんですよ。集会所あたりの前あたりも結構溜まります。前に大雨降つた後には店の前もこの辺も通行できなかつた、膝上まで溜まつて。

### その後の避難行動

東四郎丸小学校にはすぐその日の夜中に、娘が迎えに来て、ライフケアの娘の、あの、且那の車の中で寝ましたけど。次の日も、車

ですかね、二日ほど車で、あとライフケアの方で針灸、鍼灸によってそこに4日ぐらい泊まらせていただきましたね。それからあの、叔母が増田にいるので、叔母のところにお世話になりました。叔母のところについてですね、そして4月の17日ですか、叔母のところのお嫁さんの実家でアパートを改装する予定だったやつがあつて、そこを今大工さんも来れないからつていうことでそこに仮設に入るまでいましたね。アパートに、実家から布団、鍋釜、皿、一応一通り生活できる道具を貰つて、4月17日に引っ越ししまして、それから、5月4日桜仮設住宅に入りました。生活できるすべてが揃つてました。本当に有り難かったです。

### 仮設住宅へ　そしてさいかい市場へ

ちようど桜の、シーズンで、でも、桜感じませんでした。だから次の年に、「ああこんなに桜あつたんだ」つていう、もう生きるのに精いっぱいであるがなかつたですね。

大体知り合いが多かつたんでね。結構まとまりがありましたね。

桜団地に来てしばらくしてお客さんに頼まれ頭を刈つたのが仮設の台所での仕事が始まりました。お客さんが訪ねてきたり、電話をもつたときが開店時でした。人づてで聞いてくれる人もいました。お客から元気をもらい、又避難所でのボランティアで皆の頭を刈りました。まだシャンプーとはできませんでした。三重県のボランティアの方がインターネットで理髪器具を差し上げますと。その方と連絡をとり多賀城に来るといので会いに行き、その時シャンプー台があり、私が興味を持って見えていますと、作つて送りますと言われ1週間程で届き、シャンプーもできるようになりました。

震災後に商工会に行ったら仮設の店舗ができるかもしれないつていう話は、早めに聞いたんですよ。でもなかなか出来なかつたので、仮店舗も探しましたが、トイレ等も付いてる立派なところも金額的に借りられず、台所で頭を刈りながらじゃあ仮設できるの待つてようかつて。

さいかい市場の店は去年の12月23日に鍵引き渡してもらつて、それでそれから改装してですね、建築業者とかいないもんで、自分たち(息子、息子の友達)が断熱材張つたり壁自分たちで塗つたり、息子の友達建築会社にいる人もいるんで、その人に手伝ってもらいながら、店の内装を作り上げていました。2012年さいかい市場のオープンが5月4日だったんですね。その前にこっちでシャンプーできるとなつてから工事してますけどつて言つて、お客様をさいかい市場に来てもらつて仕事やつてたんですね。

### 今後の計画

今後の計画、私ら今市の説明会を聞きに行つてます。私たちの地区は危険区域じゃないから土地は換地なんですよね。ところが人が少なくなつて閑上に帰つていつて商売できるのかやつぱりそれが一番不安ですよ。だからこういう慣れたところでお客さんを送り迎えしながら仕事を続けてたほうが。でも、あまりにもこう土地が高くなつてますからね、この辺求めたくても土地がないから、どういう風にするのかまだ未定ですね。仕事をしないんだつたらどこに住んでもいい。閑上じゃなくてもどこでもいいんですよ。ただ、仕事のことを考えると今のところはまだ決まつてませんね。商店街をつくるつていう、円形の広場を作つて、この周りにとかつていうんですけど、私的にはお土産屋さん商売とかでないもんだから、観光客が来ますけど。うちあたりはそういうお客さんは一切無しですからね。元の閑上のお客さんとか、あとこの辺のお客さんも徐々に、来てくれるんで、できるんだつたらこの辺で店を作りたいんですけどやつぱり、元の家のローンも払つてますしね。それなんです、一番は。

### 閑上のよいところ

私は、槻木から。閑上に嫁に来てすつかり閑上に馴染みました。閑上は顔会つただけでもあいさつもしますよね。うちの娘の旦那も「いろんなところに行つてきたけど閑上が一番こう親しみやすい」

っていうんですかね、仲間に入れてくれるって。余所者でも仲間に入れてくれるって。閑上に住んでよかったって。これからも閑上に娘夫婦は住みたいって言うてるんですけど、やっぱりこう隣近所っていうんですかね、やっぱりそういうこう、閑上の人はどっか外で会ったりすると「どこにいくの」とかそういうのが挨拶代りでそうですね、すぐ「お茶飲まいん」とかなんとかってそういうのがね、懐かしいと皆言いますね。コミュニケーションがとれてたんだよね。閑上は便利な街だったんですよ結構、買い物にしてもわざわざ遠くまで行かなくてもいいし。閑上に戻る人たちは安全な場所がいい。だからあの、こメートル嵩上げすれば、水は来てもそんなんではないっていうけど、その水が怖いんですよね。あんまりあがらなくても今度低いところに流れていくから、やっぱりそういうことも考えて排水とか、考えてほしいですね。もし閑上に戻るとしたら皆とコミュニケーションがとれる町にしたいですね。

助かったのは奇跡なんだね、奇跡なんだね。

閑上一丁目

### 震災前の状況

(夫) .. 自宅は閑上一丁目。

(妻) .. 閑上一丁目。酒屋さんまでは行かないけれども。

(夫) .. 閑上大橋から街から道に入って、200mくらい入ったところの、左のところですよ。信号からね。この通り(妻)さんは車いすで介護が必要)だから、私がつきっきりの介護で。

(妻) .. で、世話になってたり、デイサービス行ったり、お風呂に入ったり、週2回くらいヘルパーさん来たり。リウマチで、歩けなくなりました。

(夫) .. 俺は増田生まれ。

(妻) .. 私だけ閑上生まれ。

### 地震と津波

(妻) .. 地震が起きたときは、いつも来るヘルパーさんではなく、かわりのヘルパーさんが来てくれていたんですけども、地震の時にいてくれて、「大丈夫よ大丈夫よ」って体をさすってくれたり、すごい揺れでガタガタガタガタいってたから、泣きながら「ウワー」って騒ぎながらいたんですよ。

(夫) .. 地震警報? 津波が来るって、街の人が、スピーカーで呼びかけたの。だけれども、そう騒いでも、(奥さんが)このとおりでから、公民館とかに避難しても、ベットと、車椅子と、ポータブルトイレを探さないと、生活できないんですよ。

(妻) .. 地震が終わったら「逃げてください」って、ある人が来たのね。

(夫) .. 市の職員か何かね。でもね、「逃げてください」って言われても、逃げられないんだからさ。車も、人も来てくれるんだっただいいけれども、ただ「逃げてください」って言われたって、どうにもならないんですよ、うちはね。だから、津波が来た時は、もうい

わかって、二人で死ぬ覚悟をしたんですよ。

(妻) .. 「逃げてください」って言われて、呑気に家の中で、「逃げられないよね」「車でも迎えに来たんならね」「だけんどもね」って、そんな話しているうちに、表見たら、向かいの家の車がなくなってたから、「あらー早いね、逃げたんだよね」って話をして。そして、最初の津波だと思いのね。スーっと主人の車が流れてきたのね。「お父さんあれ、車流れていったわよ」って、何分もしないうちに、波が高くなって、下が真っ黒になって、モヤが雲を生んだみたいになって、見ているうちに自分の家に水がバーンっと入ってたって感じ。それで水飲んだり…。

(夫) .. 水飲んだんですよ。でも、最初から二人で「しゃあねえな」ってさ、死ぬ覚悟だったから。何しても…、もう死ぬ覚悟だったからさ、正直。二階建ての下の茶の間にいて…

(妻) .. 2階に上がることもできなかったから…

(夫) .. できないもの、だって。俺一人で、(奥さんは)全然、歩けないんだから。

(妻) .. 持ち上げたっていうけども、その記憶は全然、私は残ってない。津波が名取川からものぼってきたし。

(夫) .. 途中から、横からも来たでしょ、津波が。だから、後ろ前から来たから、これはどうしようもねえなって思ったな。最初は150mmくらい、床から。中間の襖が、茶の間に入ってくる波を防いだんだって。それで助かったのね。2m以上(津波が)上がったんだね、後から階段見たら。びっくりしたの。茶の間の場合、90cmか70cmまでは入ったのさ、水が。「ダメだー死ぬー」って俺騒いで、騒いだ途端に引いたんですよ、水が。助かったのは、奇跡なんだね。奇跡なんだね。あの襖でさ、入ったとき、襖が縦に、防いでくれた。

(妻) .. テーブルが高かったから助かったんだから。

(夫)・・テーブルもね、今、流行りの家具調のやつだったからさ、布団かけたり。水がきたら、浮いたから。一晩はそこで。

(妻)・・表のサッシも、あんまり開かなかったのね。

(夫)・・開かなかったんだよね。ダメさ。

(妻)・・出られなかったから。地震で凹んだ隙間から、水がバーって入ってきたから、それで助かったのかなって思うくらい。だから、テーブルがそつちにいつても、表に、バーンって出されなかった。

(夫)・・仏壇のやつみんな、玄関流れたのね。同じくほら、挟まれたりとかしねかったのね。ここで挟まったり骨折してれば、二人とも、完全にやっぱりダメだったね、正直言つて。水が引くまでさ、そんな時は夢中というか・・大変だったね。身体を抱えて、出してね。一晩ね、いろんなことしてね。

(妻)・・で、次の日、「助けて、助けて」って言つて、人が来たんだけども、「助けてください」って主人が言ったら、「今、自衛隊来ますから」って言われて。津波のあとは、誰も、町の中、歩く人もいないし、車で騒ぐ人もいないし。津波が来ますつてこともないし。だから、全然分からなくて、二人で、一晩したら、何かもう、濡れて。2階はなんでもなかったからつていうので。

(夫)・・茶の間の家具調こたつにね、この人(奥さん)ね、上に乗つたの、うまく。車椅子は流されたから。あの日は寒かったでしょう？布団じゃ俺寒いから、こたつかけてたでしょう。それがね、浮いたんですよ。運良くね。だから結局、助かったの。冷えたからさ。あの日は寒くて寒くてさ。これでは凍え死ぬなって思ったからさ、2階さ行つて、手探りでさ、家内と俺のもの持つてきて、茶の間で、着替えてさ。それで一晩ね、過ごしたの。助けてもらったのは、次の日よ。

### 救助され、病院へ

(夫)・・朝、夜明けたでしょ？一番近くにね、探している人がいるから、その人たちに、騒いだんですよ。夜明けた途端に「助けてけ

ろー！助けてー！」つてね、俺が騒いだの。そしたらタクシー屋さんがいて、「ああ〇さんの声だ、私行つてくるから」つて。「〇さん！大丈夫ですか？」つてね。「助けてー！」「助けさ来たから」つて。病院さかかっているから、ときどきそのタクシー屋、利用してたんですよ。でね、タクシー屋さんも俺の声聞いて。その人、タクシー屋の所長なんだけどもさ。その人にね、はっきり言つて助けてもらったのと同じなんだよね。だつてその人も、まだ、水があるんだから。どこから行つたつて、逃げらんないからさ。

閑上の大橋あるでしょ？「橋まで行けば大丈夫」つて言われたの。けども20m以上あるつちや。いやあ本当に、その所長がね、車椅子全部外で洗つてくれて。俺と一緒に二人で車椅子を運んで。下は注意しなくちゃいけないでしょ。瓦礫なりなんなりあるからね。転んだら終わりだから。本当に限界で、「我慢の限界だ、ダメだ」つて言つてね。ほんでドロドロでしょ？一応、橋まで来なくちゃいけないかったのね。所長と俺とで考えてさ、注意しながら転ばないようにさ。とつても我慢できなくつてさ、50m手前で、我慢できねえから置いたの。しゃあねえから。

そうしたら、道路から車椅子さ、上がらないつて。それで今度、自衛隊だの、富山県の県警の人がちようど来て、その人に手を借りて、閑上大橋の上まで、上げてもらつて助かった。考えてみると、何でもかんでも運が良かったんだよね。大橋まで行けばいいつて言つても、まわりに誰もいないでしょう？だけでも救急車来たりね。助かったからね。

うちの(奥さん)は腹、弱いからね。だから低体温温になつて。ダメだ、これでダメだつてなつてさ。よかつたのはちようどそのとき、救急車がやつて来て。その救急車でかかりつけの病院さ運ばれた。だからね、10日足らずで救急車3回乗つた。保健センターでもダメだつて。病院さ行つてダメだつて言われて。最後は年金病院で...

大橋まで上がればいいって言われた。だけど、待ってる間に低温でダメだつてなつて、でも、手当してもらつて。名取消防署さ行つても、富山県の人は地理わかんないでしょう？ だから名取消防署の人が、家内のかかりつけの病院さ、高砂なんだけどね。年金病院つて知ってると思うけど、今は薬科大学病院つてなつたけどもさ、そこさ何十年もかかっているですよ、うち。「かかりつけの医者どこ？」つて訊かれたから、急がせるつちや。今度、年金病院でも、津波で機材が、検査する機械が、全部ダメになつたんだつて。機材が全部泥だらけになつて、病院の役目果たさないからつて言われて。我々、病院着いたつて思つたら、治療が必要な30人が会議室に入ったの。

(妻)：私は病院に着いた時、担当の先生たちが、みんな看護婦さんたちとか、みんな私の顔見て、うわーテレビで「閉上全滅」つて聞いた時、あなたの顔が浮かんで、心配したのに、「助かってくれてありがとうね」つて、先生方と看護婦さんたちと職員たちに、泣かれつつという感じで。

#### 避難所には行けない

(夫)：次の日の午前中に、29人はね、移転先が決まつたの。うちはこの人だから、院長なり、長年かかっているから知ってるんですよ。4時半まで、一人残されて、心配してもらつてさ。それで決まつたところが名取の保健センターなんです。保健センターさ来たけど、また寒いでしょ。風邪ひく人がゲホゲホ言つてさ。風邪ひいたの見てると、俺ら弱ってるんだ、風邪引いたら…。だから俺、ここではダメだつて言われて。冷や汗ひどかつたけれども、保健センターだから、素通しなんですよ。アコーデイオンカーテンでドアになつて、下から風入んですよ。それでもう、寝れるわけないんだ、寒くて。んで次の日、また、具合悪くなつて。これはダメだつてなつて、保健センターからさ、今度中田の：

(妻)：社会保険病院。

(夫)：社会保険病院に救急車で運ばれたんですよ。

(妻)：だから、避難所生活はしないで、病院を行ったり来たり行ったり来たり：

(夫)：俺だけは避難所に行けねえから、俺からは行かなかった。一緒でねえとダメだ。

(妻)：避難所生活だと、ベットもないし：

(夫)：避難所行かないからそれしかないんだよね。避難所に行くと、家にいるより苦しむから。俺はそこ、わかっているから、だから行かないよつて。

(妻)：主治医の先生や、循環器とか、リウマチ科とか、整形とかの先生たちが行けるところをみんないっばい探してくれて、ベットがないと生活できないから。

(夫)：何十年とかかっているからね。みんなわかっているんですよ。

(妻)：先生方が一生懸命になつて探してくれて。それで名取の保健センターの方に、折りたたみ式のベットがあるから、そこ行きなさいつて。

(夫)：6時までには30名の方が必ずここ出てもらいますつて話だったんだけど、29名の方が午前中に決まつたんですよ。行くところが。うちだけが、事情が事情だから、困つてさ、病院でもね。結局最後には保健センター：

(妻)：会議室から4階まで、移されて、ここ行きなさいつて言われて。森さんはそこに行くからつて言われて、先生方、私の車椅子を引っ張つてくれて、持ち上げてくれて。

(夫)：(年金病院に) いてはダメだ」つて言われてね。俺、医者にも言つたんです。「とにかく廊下でもトイレでもいいから、置いてくれ」つて。「俺は死んだつていいんだから」つて。そしたら医者が「〇さんの言うこともわからんでもねえ」つて言うのね。それでも、「いざこういう身体の人を病院で転送させなかつたら、病院の大問題になるから。だから森さん何とか心変えてね、ここから出てください」

って言われて。それで、院長さんなど来て、どうしたらいいべやっ  
て言われて、なかなか決まらなくてさ。ほれで、<sup>9</sup>時過ぎたんだ。

(妻) .. そういう経過で病院生活。社会保険病院から、「週間くらい  
置いて、手倉田に長男がいたから、そこに連絡してくれて、「じゃあ  
一週間、こちらで生活のベットとか用意しますから」って言うので、  
年金病院に<sup>10</sup>ヶ月ぐらいいて、それからこの仮設に引っ越してき  
た。

(夫) .. 仮設に来たの、みんなより<sup>10</sup>日遅いんだ。<sup>9</sup>月の半ば。

### 震災の体験談

(夫) .. (津波の後) 死ぬ覚悟してたからさ。でも、おかげさんでそ  
のタクシーのね、Hタクシーさんの所長に、まあ助けられたのと同  
じだけどね。ええ。タクシー屋のね、所長に助けられたんだ。タク  
シーの所長の友だちが、『週刊朝日』の記者やってるんですよ。それ  
でね、<sup>10</sup>日目に年金病院さ来たんですよ。こっちは全然分かんない  
のね。タクシー屋の所長のこういう訳で来たんですよ。「インタビ  
ュー、<sup>9</sup>分か<sup>10</sup>分いいですか？」って受けて、「いいですよ」って。  
インタビューしたでしょ？ でね、そのまんま、朝日の週刊誌さ、  
載ったんですよ。「一面半までさ。写真まで載せてさ。それがね、親  
友が盛岡にいるんですよ。で、電話が来て、近くの人のようすがわ  
かんないのに、「何で、誰から訊いたんだ？」って言ったのね。もし  
たら「何でって、週刊朝日に「ページ半も載ってたよ」っていうわ  
けね。それでびつくりして。だからね、知らないうちにね、こうい  
う単行本みたいな本さ、<sup>10</sup>冊あったんですよ。あと、漫画にもされ  
たのね、名前書いてね。連載漫画さにも出たのね。体験としてね(笑)。  
でも連載漫画に出されるとは思わなかったね(笑)。

こうした体験談を残していくことは、それはいいことですね。人  
間ってどうしても忘れがちだからね。市が、それをあとの子どもに、  
伝えたいことを残すために、想いを綴って残すことは、いいこ  
とだと思いますね。「あの時はこうだった」とかさ。

### 家族との再会と亡くなられた方々

(妻) .. 家族と会ったのは、連絡取れたのは、お父さんお母さんもい  
ないから、息子が避難所を探して歩いてたら、私の弟から「覚悟し  
て」、「二週間探しても見つからないんだから、覚悟していなさいよ」  
って言われて。市役所に死亡を届に行ったら、「年金病院にいますよ」  
っていうのを書いてあって、「ああ助かってくれたんだ」ってなつて。

(夫) .. 息子も諦め半分で。

(妻) .. 年金病院来て、「お父さんお母さん、助かってるんだよねー」  
って「ありがとう」って言われたり、なんか先生方に「よかったね  
ー、息子さん会いに来てくれて」って、「息子さんたちもなんでもな  
かったんだー」って教えられて、先生に向かって、いっぱいお世話  
になった。看護婦さんたちも「助かってくれてありがとうねー」っ  
て、私たちが感謝しなきゃいけないのに、逆に感謝されてって  
感じだったね。

でも、閑上の人は、亡くなった人が、同じ名前で、人を尋ねて  
来たんですけど、って言われたら、名前違って、その家族はショ  
ックで帰っていったっていうこともあるし。ヘルパーさんも「早く  
帰りなさいよ」って早く帰したと思ったら、津波にあつて：

(夫) .. 津波にあつて、<sup>4</sup>日後にね、来たんですよ、会社から。帰っ  
てから、どういう足取りだかわかんないから。「何で？」って訊いた  
のね。そしたら、うちの、Kっていう女の子なの。Kっていう子が  
帰ってこないって言うんですよ。ここでびつくりしたの。俺ら来た  
時は「ほんなどころ片付けも何もないから、すぐ、帰れ」って帰し  
たのね。そんだけけつとも、流されたんだよねえ。

(妻) .. まさか、津波来るとは絶対思わなかったもんね。

(夫) .. んで、「<sup>1</sup>ヶ月後だかに見つかったけどもね、その女の子さ。  
(妻) .. 絶対津波は来ないって言われてたから、「ああ、あの時<sup>2</sup>階  
に上げればよかったのかな」と思ったりは…。なんかいまだに、そ  
こは抜けないっていう。

(夫) .. あれはやんねえで、ヘルパーは2階さ上げれば良かったんだなって、後悔…

(妻) .. なんで、私みたいなのが助かって、なんで元気な人たちが亡くなったんだろうって…。私の弟夫婦と孫が亡くなったのを、私は全然知らなくて、お葬式の前あたりに、残ってる弟に「姉さん、しつかりして聞いてください」って言われて。

(夫) .. ショック受けたとき、必ず具合悪くなるんですよ。入院してるしさ。だからね、わかってても、黙ってたの。弟夫婦と、孫が亡くなったけども。後から教えて。

(妻) .. 知り合いの子たちも、同級生も〇〇人ぐらい亡くなってるから、いろいろいろいろショックが、いまだに、なんか、とけないっというか…。でもここで、お茶会とか、いろんなことやってくれるから、そこに来て、車椅子で、ただ一人で来て、まぎらわしてくるって、ありがたいなって。

### 仮設住宅での生活

(夫) .. ここに来て、みんな同じだけどもさ、体一貫になったけどもさ、ボランティアの人たち来てさ、ボランティアの人たちに「ここで明るくされて、負けないで頑張ってください」って全国から来てくれました。

(妻) .. ここに来てても具合悪くて、救急車〇〇回ぐらい呼んで、心筋梗塞って言われて、手術をした。〇〇回ぐらいは入退院をくり返しているうちに、最近は少し落ち着いて。

(夫) .. ボランティアの人たちから助けられてるようなもんだね。ここには知らない人いっぱい来てもらってさ、傷んだ心を慰めてくれたってことは、ここにいる全体の人たちの一番、力になったんじゃないですか。今でも。そうでなかったら大変だもん。引つ込むもん。引つ込むんだ。

(妻) .. ボランティアの人たちに力をもらって。家の中にいるというる考えちゃうから、午前中とか、雨が降らない限りは…。

(夫) .. お茶飲みながら笑ったり、それがなかったら大変ですよ。(妻) .. みんな、閑上の人たちだから、知らない人いないから。「元気の？」とか「大丈夫？」って声かけあってもらってるから、ありがたいなって。

### 介護生活

(夫) .. (妻)さんの) そばさついてなくてはない(笑)。一人でいると、パニックさなるんだ。「どこさいったのか」って騒ぐんだ。だから炊事、洗濯全部私の仕事。そこでみんな、トイレも全部ほら、力がないから。だからベットさ、リクライニングにして、電動にしてるんだけども、この、プッシュをさ、押すことができないんですよ。だから、私がこう、起こしてあげなければいけない。

(妻) .. 私は口だけ(笑)。

(夫) .. だから、家内には悪いけどね、身体悪いとつとまんないですよ。私は正直言って、身体うんと鍛えたほうだから。私も〇〇歳まで野球なりソフトやってたんだから。身体は鍛えてあるから、でもね、ただ長くやっていると、なんでも継続すればいいんだけど、やめるとダメだね。最初、俺、エレベーターとか使ったことないの。〇〇階でも何十階でも。そしたらこの間入院して、試しに階段昇ったの。「階昇ったら、立てなくなったの(笑)。だからね、少しでも身体動かしておかないと。そして、入院している間、時間見て、昇り降りしてたのよ。そしたら〇〇階まで昇れるようになって。動かさないとダメなんだね。

(奥さんが) 介護が必要な生活になって、10年かや? 10年ぐらいになるかな。

(妻) .. そうだね。10年ぐらいになるね。

(夫) .. だから俺、定年1年前に辞めたんだ。

(妻) .. 歩けなくなっただよね。だから人工関節っていうの?

(夫) .. 関節全部、人工関節だから。

(妻) .. 立つことはできるけれども、手は力ないから、服は着れない。

だから着せ替えです（笑）。

（夫）…で、苦しいなって思うと、また苦しくなるでしょ？ だから「俺より苦しい人はまだまだたくさんいるんだな」って思ってた。そう自分に志しながら。苦しいなって思うと、うんと苦しくなつからさ。だから結局、頭で考えないようにしてる。考えたってどうにもならない。考えて悩んだから、歳も歳だから、身体悪くなるから。

### 今後の生活

（妻）…閑上には戻りたくない。

（夫）…だってさあ、何もないでしょう。現場復帰って市長が言うけども、何もない、学校もないでしょ？ 何もないところでねえ、現場復帰たって。子どもがいなくてさ行つたって、町は絶対に町にならないです、私から言う。将来からしても、やっぱりお子さんがいてはじめて、町をよくするってあるんだよ。俺たちはもう終わった人間だから、正直言ってさ。そういう子どもを目の前で見てると、「絶対、お父さんお母さん、閑上には行かないよ」って。

現場復帰たってね、あんなも市長自体が間違ってるんですよ。自分の考えばかりで、我々被災者の言うこと聞かないで、自分の考えばかり。後から俺、議員から聞いたんだけどさ。こないだもテレビで写ってたけども、誰がこれだけ遅らせて、誰が悪くしたんだって。あんな市長で、被災者を苦しめるんじゃないかって。（復興に向けての事業が）今度8月から10月に延びて…。

この間、檀家の供養会やったんですよ。住職のお話あって、そこでの話も、また延びて、来年さ、国からやるって。だから何年で入れるか、災害住宅さ入れるか分からないけどさ。みんな待ってるけど、（仮設住宅は）狭いでしょ？ んで、子どもがいる人はやっぱり大変でしょう？ 3人いたらたいへん。借金しても、金ある人は出る。ここら辺の近辺に、借りてんだよ。そういう有様だから。

我々は、なんぼ儲けたって、何言ったって、結局ほら、年金生活

でしょ？ 家も何も建てられないでしょう？ だから、出来上がるまで、災害住宅が出来上がるまで、どんなに苦しくても、待つしかないなって思ってた、自分ではそう思ってるさ。みんなも（お金を借りた）って言うから、借りた方がいいんだけど、貸してくれる年齢ではないから、貸すところないでしょう？（笑） 何もねかつたって。とにかく、何のことがあつたって、災害公営住宅に入るしかないって自分は思ってるから。いつまでも待つしかないって思ってるから。どんなに苦しくてもさ。

### 閑上のいいところ

（妻）…閑上のいいところは、すごくいっぱいあるんですね。子どもの頃は、お祭りとか…

（夫）…人がね、人の気持ちがね、言葉は悪いけど、人想いですよ。

（妻）…隣近所の人は、街、歩いててもみんな知り合いつて感じだしね。言葉かけてくれるっていうか。年寄り若い者関係なく、言葉をかけ合つたり。お盆だったらまんじゅう焼きもね。

（夫）…俺はわかんねえけども（笑）。

（妻）…あれが興じてね。

（夫）…でも、この間も中学校でやったらいいしね。伝統的なものはやって、それで少しでも心が和めば、それでいいさね。あるものをなくしたんでは、やっぱりね。

（妻）…今は、子どもたちはわかんないけど、お正月っていうと、小正月って言うってね。みんな袋を持ってね、西の方か東の方から来ましたって言うとお金持ちのところはせんべいとかみかんとかくれて、普通の家は何もくれなくて、ただ「ご苦労さま」って言われると、子どもだの、写真屋さんとか、瀬戸屋さんとか、こういうところを見せる方がいいよとかって話し合つて、そういうところを回って歩いたりとか、結構、餅とかお菓子とかもらった。そういうのがだんだんなくなつてきてるって。

(夫) … そうそう、お餅が好き(笑)。なぜかって言うと、昔から田舎っていうか、閑上は漁師町だけでもさ、お餅なんていうのも食べたくても食べられなかった人がたくさんいたでしょう。だからそういうお餅はお祭りとかお正月とか楽しみにしてさ、食べるんだよね。

(妻) … 物売りに来ても、閑上の人たちは、物売りに来た人たちの物は、いっぱい買っって(笑)。

(夫) … これ(お金)だけは… すぐ… 持つてんだ(笑)。本当。今は質素な生活してるんだけどね、昔はほら、魚がウンとあがつて栄えたらしいからさ…。

(妻) … おいしい魚も食べられるしね。

(夫) … 俺らみたいな生活と違うんだ。

### 震災時の要望

(妻) … 何年か後にこんな津波があったら、身体障害者用に車を用意してくれば、そういうのがあったらいいなって。一番大事なことがなつて。「逃げてください」って言われても…

(夫) … 逃げらんねえもん。ちゃんと来て、逃げられるようにして、運んでくれるようにして。マイクで「逃げてください」って言われても、どうしようもないでしょ？ 手前の道路で「助けてください」って言おうと、「今自衛隊来ますから」って慰めの言葉でさ、全然来ない。

(妻) … 何時間も来ない。

(夫) … 俺、後から聞いたつけね、個人的に。俺に「避難してください」ってマイク使っって言ったでしょ？ ダメなんだって。避難してる人優先なんだって。俺みたいな年寄りには、最後になるんだって。それ聞いて、ちよつと考えられないと思っただね。考えてみるとそうなのかなって思ったりとかね。だから、残った人は、みんな避難したけど、みんなわけられたでしょ？ 家族バラバラにされてさ。キレた人が「何でだ？ 家族優先だろ」って言っって、それがあつたか

ら、孤立したつて。

(妻) … サイレンも鳴らなかつたし、市の人も騒いで歩くだけだったし。

(夫) … これは市の決まりなんだからって仕方ないけどね。

津波6メートルは恐怖を感じなかった。10メートルと聞いて恐怖に変わった  
元関上二丁目

### 地震の時は

地震のときは家にいました。金曜日だったものですからね、勤めたときの癖なんでしょうか、まあ普段毎日が本当は日曜日なんですけどね、勤めていた時の癖で、土曜日日曜日になると出かけるんですよ。そんな関係です。あの日金曜日だったものから、明日スキーに行くなんてですね、車にスキーを積み方してたんですよ。ですから家の中でなくですね、外にいたわけなんですけども。えぼしスキー場がやはり近いですから、友達と行くときは、蔵王の方にいきますけど、山形の方にね。震災に会う前の年ですね、今のスキーはカービングスキーって短いもんですからね、その前までは私長いスキー持ってたもんで、恥ずかしくてね。それであの前の年取り替えたばかりなんです。だからなお張り切ってますね、明日土曜日なんで行こうって用意していたところに、地震がきたわけですよ。かなり揺れましたね。3分って報道されてますけど、私からすればもう5分以上じゃなかったかなって思いますけどね。結局、スキー積み終ってますね、ドア閉めようとしているときに地震が来たわけですよ。まあそのうち止むんだろうなって思ってますね、あの、だんだん強くなってきましたし俺も動けなくなってますね、あの、そのまま車にいたんです。で、途中でちょっと弱まったんです。地震が、そんな時に急いで家の玄関までいきまして、そしたら家内と娘が、たまたま家にきていたものから家内と娘がああ、玄関のところまで出てきてですね、玄関の庇のところ立ってたんですよ。外に出るとほら、瓦が落ちてくる恐れがあったものから、こわいなって思ったもので、家の中にも潰れるかもしれないし、ですから庇あるものから玄関のところですね、そこにいて、とにかく止むの地震が収まるのを待ってたわけ

すね。そしたら瓦が二、三枚落ちてきましたね、やっぱりちょっと動けなくなってるものから、で、そのあとにですね、地震がおさまったなあって思ってますね、ちょっと孫たちが心配になりました、孫たちのところに携帯入れたんですよ、そしたら当然繋がらなかったものからね、つながらなかったんですけど公衆電話だとながるっていうこと聞いてたんですよ、あの、緑色の公衆電話ですね、あれですと比較的電話繋がりやすいって聞いてたもので、その半年前にあの、宮城県の内陸地震ありましたよ。築館の土砂崩れがあった、あのときもやっぱり私の息子がですね、築館にいたもんですから、心配で電話入れたら、携帯は電話繋がらなかったけど、繋がったんですよ。公衆電話がですね。それがあつたもので、今度も掛けたら、えー、掛けようと思ったところ。家にがすです。ね、あの、携帯のラジオを聞いたんですよ。そしてお父さん、津波警報出たよって言うわけですよ、逃げようって言うんですよ、私もちょっと孫が心配なものですからとにかくあの公衆電話まで走ったんですよ、家から300メートルぐらい離れてますかな、海の方に向かってね。そうしたら貞山堀の橋あたりです。ね、けっこう避難してくる方がいるわけですよ、避難してね。おそらく公民館か中学校に避難しようとしているんですよ。私が逆行動とってるものから、海の方に向かってね、だれかは分からないですけど、私のこと知ってる人いたんですよ、あの、「なんだ小齋さん津波見に行くのか」なんてね、ええ、冷やかされてですね。それでもやっぱり心配だったものから電話かけにいった、公衆電話で二軒にかけたんですよ、息子たち2件にね。やっぱりつながらなかったんですよ。あの前に繋がったんですよ、今回はさすがに繋がらなかったんですよ。それで今度また大急ぎで家に戻りまして、そしたらもう家内が「今6メートルの津波」ってあの携帯ラジオでいってるよって、逃げようって言うことだったんですよ。ええでもね、6メートルという高さのす

ね、なんか感覚がないっていうんでしょか、認識がないっていうんですかね。で、6メートルではあまりね、こう、正直申し上げまして、恐怖感感じなかったんですよ。6メートルでは。ただそのうちにですね、家の周りから、水が噴き出してきたんです、最初はね、水道管でも壊れたのかなって思ったんですよ。細くちゅーっと湧き上がるものですか、それがいたるところから出てきたものでね、これはちよつと水道管じゃない、これが液化化っていうやつかって思ったんですよ、で、あの隣所ちよつと見まわしてですね、そうしましたらいろんなところから出て来てるものですか、そのうち家内はなおあの、逃げよう逃げようって騒ぐものですかね。とにかくあの、じゃあ逃げようと、避難しようっていうことになりました、家の中をちよつと見たら家具が少し倒れてますけどね、ただ大したことないなって思っ、家にまた戻ろうと思っただけですから、玄関に鍵をかけてですね、ご丁寧に鍵をかけて、今度公民館の方に一応避難したわけですね。

前からそういうときには車を使わないほうがいいっていうことをね、読むか聞くかしてたんですね。そのために車はあの、私の車と娘の車と二台あったんですけども、娘の車は少し動きましてね、道路のほうにずれてきたんですよ。それをわざわざ車庫の中にもう一回入れなおしてですね、だれか通るとほら、交通の邪魔になると思っただけです、そんなに出たわけじゃないんですよ、車庫の中にもう一度入れなおして、それから公民館の方に逃げたわけ。公民館のグラウンドに行ったんですよ、公民館に行っただけでね、建物の中には入らなかつたんですよ。中のグラウンドにいたわけですよ、そうしましたらそこでもやっぱり同じ閑上町内ですからね、顔見知りの方もいますので、まあここにおいても、家にいてもおんなじだなんて話してたんです。結局ほらご存じのとおり閑上は平らなところですからね、公民館も平らなところに立ってますもんで、なおグラウンドにいたものだからね、ここにおいても家にい

ても同じだなんて話をしていたらですね。そのうちに確認はしてないんですけども、公民館長さんかなって思うんですけどね、あの、今警報が変わったよと、6メートルの津波から、10メートルにあの、高さが、津波の高さが変更になったよ、っていうことを言ったんですよ。ただ誰が言ったかは確認してないんですけど、私は公民館長さんかなって思ったんですけどね。で、その10メートルっていうですね、数字を聞いて、これは変だなって思ったんですよ、まあ恐怖感って言いますかね、その時に初めて10メートルっていう数字を聞いて、これはなんか大変なこと起きるんじゃないかっていうのがこう急に浮き出してきたんですよ。んで、それでも、そこから娘と家内にねばらばらになるなよ、絶対離れるなよっていうですね、すぐ中学校の方に避難しなおしたわけですよ。

徒歩ですもちろん、徒歩で公民館に行ってますのでそのまま徒歩です、行く途中はもう道路は少し渋滞してたんですね。車はね、車は渋滞してたんですけどまあ歩く分には歩道歩いて行きましたし、私は比較的あの、足も元気だったものだから、すぐそのまますんなりいけたんですよ。中学校に。

#### 中学校に避難

そして、公民館に行ったときにはですね、グラウンドにいたわけですよ。あの、みんなです、6メートルって聞いたときに、10メートルって聞いてからはですね、中学校にいったら素直に上上がったんですね。これは不思議、不思議だなあ今考えるとねえ、不思議だなあって思うんですけど、公民館にいたときにはグラウンドにいたんですけど中学校に着いたらですね、何のためらいもなく上に行かなきゃいけない上に行かなきゃないって気が起きたんですね、上上がったんですよ。でもまだそのころはまだね、冷静だったんですよ私なんかあの、中学校に行ったものだからね、靴脱いで入らなきゃって思っ、靴脱ごうとしたんですよ。家内にね、いいんじゃないのこのまんまでって言われてね、靴履いたまま、靴脱ぐ

くらいの余裕あったんですね、靴、学校に入るのに靴、土足じゃま  
ずいなって思ったんですけれどね、で、そのときあんまりまだ避難し  
てこなかったものだから、周りの人も何人かあがって行つたの見  
たら、その人方も土足で上がっていくものだから、ああじゃあ土  
足でいいんだなって思つてね、それからやっぱり高いほうがいいな  
あつて思つたんでしょうね、二階から三階に行つて、三階からお  
あの屋上に出ようと思つたんですよ。そうしましたら非常口に鍵か  
かつてたんですね。あの、おそらく中学生なんかでないようにして  
おくんでしょうね、非常口に鍵かかつてたものだから、そこにこ  
う人が少したまつちやつたんです何十人かですね、そしてたちよつ  
とパニック的になりましてね、「なんだ開けるー！」って騒ぎになつ  
て、そして誰かが職員室行つたんでしょうね、鍵もつてきたんで  
すよ。よくあの騒ぎの中でね、あの小さい鍵見つかつたものだなつ  
て思つていたんですけれどね、開けて、私と家内と娘は、非常口  
開いたものですか、屋上に上がったわけです。で、屋上で結局あ  
の津波を見るような状態なんですけれどね、結構時間はあつたんで  
私らがあの、公民館から中学校に逃げて、それから中学校ではそう  
いうハプニングが起きてですね、開かないで、若干そこでも五分ぐ  
らい遅く時間とつたんでしょう。で、それから上がつて、屋上に上  
がつて、それでもやっぱり結構時間あつたんです。で、なんだなん  
でもないかなつて思つていたんですよ、そのうちにあの名取川が  
ですね、遡上してくる、津波というか波を見たわけですよ。で、な  
んだなんだつて騒ぎ始まつたんです、普段あの、中学校の屋上から  
名取川の水面なんか見えませんのね、それが真っ白になつて渦巻  
いて遡ってくるわけですよ。それを見たときになんだーつてなつた  
んです名取川をね。そのあと30秒か1分ぐらいなんですようか？  
してからあの、家がこうじわーつと流れてきてですね、流れてき始  
まつたんです、なんだなんだつてね、そのときもう既に何か所か家  
が流れてくるんですよ、ガレキだけじゃなくね。がれきの先端の

方ですね、二か所ぐらい火がついて流れてきたんです。海の方、  
貞山堀の方を見ると、土煙のようなものがあがつていた。あーこれ  
はたいへんなことがおきてるんだつて思つたんです。ただまあ正直  
言つて何が起きてるのかわからないつていう、状態だつたですね。  
津波だつてぴんとこなかったですねまだね。それがどんどん来るも  
のですからね。あーこれが津波なんだ終つたんだつて思つたわけ  
ですよ。ただ茫然としていただけですね、あとはちよつと覚えてな  
いんです。申し訳ないんですけれど。で、あの、とにかくああこれダ  
メなんだつて思つてるうちに時間も経つて、もう寒さもね、濃くな  
つてきたんでしょうおそらく。とにかく入ろうと、屋上にいてもし  
ようがないし、で、4時過ぎ、4時ごろだつたんですか津波がね、  
ですからやっぱり1時間ぐらいは上にいたんでしよう、暗くもなつ  
てきましたしね、まあまだ三月だつたですから、寒くなつてきたん  
で教室の方にじゃあ入ろうつてことだね、いきましたらもう教室  
一杯だつたんですね三階は、いくとこなくてとにかくずつと端の  
方に行きましたら特別教室ありましてね、特別教室が比較的入れ  
るなあつて思つたものでそこに入つて、そこは特別教室なんで机あ  
んまりないんです、調理台つていうかね、椅子も少なかったんです  
けどとにかく椅子を確保してですね三人分だけは、で、座つてそこ  
にいたつていう感じですよ。まあ何人か顔見知りもいましたんで  
ですね、大変なことになつたなつて言いながら話しながらいてです  
ね。暗くなりましたし、そうしましたらあの、ところどころから火  
の手がね、もうその前から上がつていたんでしようけど、気が付い  
たらもう、どんどん火が大きくなつていくわけです。特に私らが入  
つた教室からは、家がのこつた七丁目がですね、真正面に見えたん  
ですね、ですからあの、一晩中その火の海ですね。火の海を見なが  
ら夜明けを待つたつて感じですよ、時々プロパンガスなんです  
かね、爆発するんですよぼーんぼーんつてね、なんともこう恐ろし  
いつていうかですね、そのうちに雪がちらちらするんですけども、

雪がこう雲が去っていくんですよね。そうすると妙にこう星空が綺麗だったりね、なんかこう、そんなことがこう思い出されるんですね、そしてあの夜明けを待っていたという感じですね。夜が明けましたもんですからね、

皆黙っていた

皆さん、まさに黙ってました。静かかったです。ただしですね、犬なんか連れてきた人もいるんですよ。でもね、あの犬も泣きもせせんしね、かといって文句言う人もいないし、犬もジツとしてますしね。だからみんな仲良くしていたって、私の家の後ろの方なのですが孫さん預かってたものですから、孫おんぶしてきてですね、それが泣いても誰も文句言う人もいませんし、朝方かなんかね、ビスケツトのようなもの出たんですよ、二つ三つですね。そうしましたらあの、そのおばさんがね、私の後ろのおばさんが孫連れてるもんですから、みんな余ったやつ孫さんにやれやれってね、本当に親切っていうかね、まああとはあんまり沈黙だけでしたね。ただあの誰かがほら、かけるわけですよラジオ時々、時々ラジオかけますとラジオからこう色んな情報流れてくるんですよ。ただいい情報が流れてこないんですよ荒浜で200ぐらいの遺体が上がったとかです、見つかったとか、それから私の関係では多賀城に息子いたものですよ、そこにあの、幼稚園の子供居たものですよ、この幼稚園の、たまたまうちの孫の通ってた幼稚園で20人ぐらいの人たちと連絡がつかないんだってですね、放送もしてるわけですよ。内心ね、もう大変あららどうなったんだろうとにかくその連絡つかない人たちのうちの孫たちは行ってないよなって思ったりしながらね、結果としてあの、その連絡付かないのに入ってたんですけどね結果としては。まあ助かったんですけども、そんなことを聞きながらラジオを聞いてですね、朝まで待ってた。皆さんは本当にやっぱり、静かだったってことだけでね、あんまりお話しする人もいませんでしたし、

次の日はああ何にもなくなっただんなあ

次の日の朝夜明けになってですね、すぐ私は、屋上上がったってんですよ、どうなってるのかなって思っただけで、確認しようと思いついてね。そうしましたら、次の日の朝日が、すごく綺麗に上がってきたんですね、逆光なものですから閉上見えませんよ町の中心が。逆光でね、ただ間違いない言えるのはああなにもなくなっただんなってということだけだった。逆光で見えなかったんですけどね、屋上に上がったけど寒かったせいで、屋上が凍ってて危ないんですよ。ええ、でもなんとかとにかく屋上の端まで行ってですね、眺めたんですけど逆光でよく見えないんですけども、確認できたことは何も無くなっただってということですよ。ああ終わったんだなって思ってた。降りてつてもう閉上何も無いわって思ってたんですけど、段々時間たつてきましたしね、そのうち誰いうともなくなんか自衛隊がですね、こっちに向かっているんだってということが、あの、言われ始めたんですよ、言われたんですけど、なかなか来ないわけですよその自衛隊がね。えーあの、考えてみれば道路のがれきを分けながら来るわけでしょうからね。そして先遣隊の方がですね、午後なんでしょうね、記憶あんまりないんですけど、来たときにはほっとしたって感じですね。それから明るくなりましたらね、自衛隊の方々が小塚原の地区ですかね。その辺を、船でこう、ボート出してるんですよ、最初なにしてるのかわからなかったものですよ、そしたらあの救助、捜索してたんですよ今になって考えればね。だからもうその時には既に自衛隊の方は動いていてくれたんですね。ただ私らのほうに歩いてきてもらうまではやっぱり心許なかったですね。で、あの自衛隊の方が何人か来たときには思わずほっとしたって感じでしたね、歩いてきたのが見えたときにはね。

夕方になりましたですね、最初はなんか小学校に入ってる人たちを今運んでるんだって情報は入ったんです。避難所に入ってますね、小学

校終わったら俺たち運ぶんだってやっていうことで、私らもそういう話になりましたんで、そしてあの車に全部乗れるかどうかかわからないので、増田まで歩ける人は歩いてくださいって案内もあつたんです。元気な人たちですわね、増田まで歩ける人は歩いてくださいっていうことで、乗れないかもわからないっていうことで、私たちはとりあえずあの、ここまでは車入れないので、小学校まで歩いてくださいっていうことになったんです。ですからとにかく道路は瓦礫と泥で一杯だったですからね、その辺にある物を靴に巻いて、小学校前まで歩いたわけですね。そのときもやっぱりお年寄りの方にね、皆に手を貸したりね、しながらとにかく小学校まで歩いて、小学校で、初めてあのソーセイジと何かお菓子かなんかもらったんでしょかね。あの順序ですね、小学校に避難した方々はもうその頃あんまりいせんでしたから、あと私らなお中学校から行ったものが、次々とこう並ばせられてですね、食べ物貰って、で、順番待って、私らが最後の組の方だったんです。もう完全に暗くなりましたんで、そのときにあの、バスに乗ってくださいって言われていきましたらね。富山県の消防署だったんですね。すごい次の日なのにもう富山県から来てくれたんだって思いましたね、それも感謝っていうか関心っていうかね、そんな記憶ありますね。したらあとで写真集見ましたらやっぱりあの、富山県の消防署が入ってまして、それで富山県の消防車に先導されながら私たちはどこにいくかわからないんですけどとにかく避難所に行きますって。連絡取りながらおそらくは知ってたんでしょけどね、私らが運ばれたのは一中だったんですね。どこに、着くまでわからなかったどこにつくかね、ついても分からなかったです真っ暗だったですからね、ここどこなんだろうって言うってね。一中だということが分かってそこで今度まあ各々に名前書かせられて、空いてる教室にですね、入れられたわけです。

## 避難所へ

中学校でも名前書かせられたわけですよ、そうするとやっぱりね、なんか気が立ってるんでしょうかね、何回名前書させるんだってね。こうクレームいう人もいるんですけどね、でもそれがやっぱり最終的にそのね、情報つかむ際の最高の情報源だったんでしょけどね。ですからあの閑上中学校でも名前書きましたしね、あとこっちきてからもまた書くわけですよ、そうすると何遍かかせるんだとかね、それはちよつと悲しいなと思いましたがね。一生懸命やってるのに。一中には私はね、二週間だけだったんです。というのはあの、家内がちよつと、体調悪くなりましてね。で、あのここ（現在のマンション）がたまたま娘の部屋、家なものですから、ここにあの、避難してきましたんです。二週間たつてですね、学校始まるっていうので教室を開けてですね、体育館に移ってくれて話だったものから、今でも具合悪いのにこれ体育館に移ったら大変だなんて思ったものだからね、したら娘がああ、じゃあこっちにきたらいいんじゃないのっていうことになって、そしてあのここにとりあえず一旦避難したわけです。ここにしばらくいてですね、あと市の方に行こうというところにいるんだけど、仮設に入れますかって聞きに行ったらですよ。したらああ大丈夫ですよっていうことですね、そしてあの、私住所だったんここにつけてしまったんです。っていうのはあの、退職者ですね、健康保険が切れる関係で、今度国民健康保険にしなきゃなかつた時期なものですから3月4月ですわね、で、その時に閑上の住所でもよかつたらいいんですけど、なんか俺ここに移してしまつたんですね。あのここに住所移したんですけども、仮設入れますか？って聞いたんですよ、そうしましたら市の方では大丈夫ですよっていうものですから、じゃあ申し込みさせてくださいっていうことで一番最後の組ぐらいであの、もしかしたらめ切終わってたのかもしれないですね、でも受け入れてもらったものですからね、で、あの五月の二十日にここから仮設の方に移るわけ。

## 仮設住宅へ

まあ知り合いつてほどではないですけど同じ町内ですからね、同じ閑上の街ですから、大体はこう顔を見た見知りの方っていうか、見たことあるなあってかた、会話はしなくてもですね。ただ私どもの仮設比較的、いろんな方はいってましてね。二丁目七丁目以外にも小塚原地区の方とかですね、あとなんか名取の高館の方とか増田地区とか家が全壊した方なんでしょうか、そんな方も入っていたんで、比較的颜色んな地区の方が入っていたって感じですね。

閑上で生まれて、本当は閑上で終わる予定だったんですけど。

## 二代目会長として

いろんな方がいろんな考えの方がいるっていうことですよ。前会長さんがですね、私より前にあの、家新築されたんですよ。引っ越すっていうことになったものだからね、私たまたまその時は副会長していたもんですから、あとは歳もやっぱり私がその次に年寄りだったものから、前会長さんが俺出るからお前引き受けてくれて言われて、で、私もいつまでもここ（仮設住宅）にいる予定もないので、いざれ出ますよっていうんですけど、「それまでもいいからとにかくあの、引き受けてくれ」っていうことですね、まあ引き受けさせてもらったんです。大体遠藤さんのときにですね、全部、作っていつてくれたものから、私はそれを引き継ぐだけ、ですからね、そして前会長さんの場合は閑上にいたときから区長さんですしね、あの、町内のこといろいろやってたものですから慣れてましたんでね。私は逆にその前の年まで勤めていたものですから、そういうことを一切してなかったんでね。ただ、遠藤さんが敷いてくれたルールですね、それをやってくれればいいなって感じで、やらせてもらったんですけど、だから新しいこともやらないし、別にですね、目新しいこともしなくてですね、申し訳なかったとは思ってるんですけども。

会長として気に懸けたのは一人暮らしの年寄りの方、老夫婦の健康管理ですね。大変だったのは、支援物資ですよ。それをですねあの、数にですね、限りがあるわけですよ。それがあの平等に渡らないんですよ。それをどの

ようにしたらいいかですね、だからまあこの方にはこれをやってこの方にはこれで我慢してもらおうとかですね、あそこは、若い人がいるからこうしようとかですね、まあそんなことをね、本来であればきちっとすべきなんですよけど、やっぱりそういうこう、私情的なことも挟みながらやらざるを得なくなるんですね。それが一番苦労しました。あと、年寄りなんか笑い話になるんですけどね、今の石鹸なんてえらい綺麗なやつあるんですよ、そうしましたらそれを間違つて口に入れてしまったなんてね。そう聞いたものからですね、その次にもまた同じような石鹸来たものですから、これはお菓子じゃないです石鹸ですね、メモを付けてね、それで配布したなんてね、笑い話みたいなことがあるんですけど、あと、賞味期限なんです食べ物、いちいちそれを確認しながらね、まもなく賞味期限切れますので早く食べてくださいとかですね、あとはあの、向こうの仮設には一杯支援の方々がね、芸能関係っていうかたとえはほら歌とかね、入るんだけどなんでここに入らないとかね、まあ済んだことはね、色々ありましたけどね。

**閑上の記憶での活動**（注 この場所は閑上中学校の前にある。この場所を作った方が別箇所に出てくる）

家内が具合悪くなりまして、病院に行ったものから、そして私自身もやっぱりちよつと夜眠れなかつたりね、したものですから、家内と行くようになったんですね。心療内科の先生といろんなお話をですね、治療を受けながらしていくうちにですね、先生が、子どもたちにあの、私がたまたま自治会長していた仮設そこでスカイルームって子供たちのことやったりしてましたんですね。両方から繋がっていきまして、ええ、色んな会話の中でですね、実は建物を作つて「閑上の記憶」のようなね、やりたいんだっていう話はあるんですね、作つたんですね。で、その中で今度いろんな活動始まっていますね、何回目かのわたしが診察受けたときにですね、こういうものをやるので、来て、お話とかなんかですね、やってくれないかっていうようなことを、そうすることがもう私の思つてることなんか。話すことはいいことだと。家内も閑上〇〇〇〇っていうあそこでやっているですね、そつちもあの、心療内科の一つの治療なんでしょうかね。

去年からですね、喋ってみろって言われてですね、やりましたらまあなんとか。まあこの点でね、自分の経験したことを話せばいいんだなって思ったものですから、お話させてもらってるわけですはい。そうですねやっぱいずれあの、忘れられますのでね、ですからやっぱ語り継いでいってほしいっていう、願いですね。

### 閑上には津波は来ないんだと信じていた

ただ閑上にも、地震が来たら津波に注意しなさいっていう碑はあったんですよね。ただね、ああいうものあってさえもやっぱこれだけの犠牲が出ちゃったっていうことですよ。地震があったら逃げなさいっていうね、あったんですけど、やっぱそれも無視した、無視したんじゃないでしょうかやっぱ、「閑上には津波は来ないんだ」と皆信じていた。私もそう思ってた。ただ、飲みながらですね、今回亡くなったんですけどね、私の友人が飲んだ時なんかよく言ったものですよ、大丈夫だ閑上には津波なんか来ないんだからってね、それがまあ夫婦で亡くなったんですけどね、本当に津波は来ないって思っていました。それは、ただやっぱね、今になって地元の新聞でもその前からこう何回かのつかっているんですけどね。今になってめくってみるとね、ここに何編となく来てるんだっていうことだね、それらをやっぱこう、認識を持ってなかったんですかね、だからやっぱそのためにはいずれ語り継いでね、こう、昔話のように、話しておかないと、まあ100年もたれば全員居なくなるわけですからね。昔のあの稲を燃やしたなんか(注 稲わらの火) っていうね、じゃないですけどやっぱ、残しておかなかったらやっぱね。

### マンションに引越す 最初は戻ろうと思ってた

此方の方に、完全に引越したのは2016年9月2日です。結果から言えばここしかなかったっていうことですね、結果から言えば。最初はやっぱね、避難所にいたときはですね、私らと同年代の人もいましたしね、やっぱ閑上に帰ろうと思ってたわけですよ。閑上に帰ろうと思ってたんです。土地どうなるんだろとかね、ですから、市の説明会のときもですね、何度かお聞きしたんです、どうなるんですかっていうようなことをですね。その頃は

まだ結論出てなかったようですよ、市の方としてもまだ統一的なこともできてないような話しぶりだなって思ったもんですから、ずっと待っていたんですけど、段々時間がたってきましたしですね、閑上に戻っても、今後何年先になるのかなって思い始めたんですよ。だから私らのような年寄りにはやっぱ時間との戦いなんですよね。で、閑上に戻るのほちよつと時間的に無理じゃないのかなって思い始めたんですよ、これからの現実ですね、復旧して土をもつて、たとえば土地もらえるから上屋はなんとかなるわけですよ、上屋は、土地さえもらえればね、ただ時間がないんです。いかんせん。で、その次の手をどうしようかと思った時にですね、今度は土地が上がり始めたんですよ、この辺が、で、3000万以上出さないと買えなくなっちゃったんですよ(笑)

その年に買った、早い人はそうなんです、早い人は。ただ私は閑上に帰ろうと思ってたものだからね、そこまではやっぱね、考え付かなかつたわけですよ、生まれ故郷なものですからね、帰ろうと思ってたわけですから。ただやっぱ若い人も考えてうちの近所の人も家建てた人はね、やっぱすぐ買ったそうです。土地は、今買わないと、俺がああ、70までですね、払い終わらないと思つたから、もうすぐ手をうったんだって。そんなことおっしゃってました50代半ばの人なんですけどね、いまやらないともうだめだと思つたから、すぐ手うって、土地だけをとかく手に入れたんだわっていうこと言っていました。で私らもそうやってね、どうしようどうしようって言うてるうちに土地は上がってくるし、そして安くても3000万以上って言われるとね、70過ぎて3000万は出せないわけですよ、銀行の方、不動産にも相談した、相談したっていうか聞きましたらね、やっぱローン組むのも組めないことはないような、組むのも難しいようなね、はっきりしないんですよ。どうしてもであれば息子さんの名前とかですね、いろいろなこう、言われたんですけど、息子は息子で家建ててローン払ってますしね。どうしようかかって思ってるうちに中古の物件も何軒か見たんですけどやっぱね、いいのなくて、だったら娘がじゃあここに来なさいよってもう、ここを、俺の名義にしてですね、私たちはどうせいずれ出るからって

いうことで、だったらこの売買ぐらいだったらなんとか私も払えるかなあって思ってますね、だから娘からじゃあ買おうかっていうことにしてですね、そうしないとあの、金銭的にやっぱね、買えないんですよ、3000万になるんですね、ただちよつとうるさいんです、四号線、バイパスね。

閑上に土地貰って家だけであればなんとかなるんですけど、それにはこんど時間がね、いかんせん、何年かかるかわからないですからね。市の計画通りいってもやっぱり、五年以降になるわけですよ、私らが家立てるまでね。何べんも言いますけど時間がありませんよ。第二の職場で68歳まで、いたもんですからね、地震の前の年まで働いてたものですから、たまたまそのときにあの、健康保険の切り替えになっちゃった、2年間のあの仕事してた頃の退職者健康保険ですね、

### 閑上のよいところ

今になってみれば、潮風ですね私は。潮風はやっぱり何とも言えないですね、夏でもエアコンかけないで済むようなですね、それからやっぱり人情ですか、昔からね、一つの街で生まれ育ってきてですね、私のところの地区なんか特にあの、あまり新しい人が入ってこなかった地区ですからね、ですからそういう人情的なものがやっぱ一番懐かしいですね。とってもいいところだったんですね海があつてね、風、冬になると天気がいい日なんか蔵王連峰がずーっと雪被って見えるんですよ。とってもいいところで好きな街だったんですけどね、できれば何とか戻りたいんですけど。最初あのうちの家内なんかかね、閑上はおっかなかつた、言葉が荒くてね、家の家内はあの別なところの生まれだったんですね。

### 助かったのは私だけ

みんな死んだものですからね、本当に、助かったの私だけなんです、全部死んだんです。(注 涙ぐまれていた)うちの周りで、だからよけいなんですよね、誰かいればね、お茶も飲みにいったりするんですけどね、だれもいないんです本当に、軒並みですからうちと近所は。二丁目は結局あの200人ぐらい亡くなったんですね、あと、同じ新町ですから7丁目でも80人ぐらい、この界限がずつと亡くなってるんですね。まあ自然の猛威ですね、あ

なすごいものがくるとはまさに思わなかつたですね。

閑上の記憶の活動はいつまでやれますかねえ、いつまでやりますかそれが一番心配。だれか若い人こうね、出てきてくれればいいんですけどね、それにあとほら、閑上のかさ上げなんかはじまると、やれなくなるでしょ、工事の邪魔になるでしょうからね、あそこもかさ上げ対象になってますね、あの辺もなってますし。もちろんこの閑上の町も回るなんてことできなくなるでしょ今度工事始まれば。ですからあとはどうなりますかね。落ち着いてからになるのか、また別な方法を考えるのか、閑上の記憶ではあの、ここにながあつたっていうようなですね、調査も今してるんですよ簡単なやつね、学芸員みたいな人ね、ここに港があつたとかね、ここに神社があつた、あとこの家には井戸があつたんですよとかね、そういうことを作ってますね、そこにこう、なんかで立て看板のように表示しようっていうことも、ただ町の復興の工事始まりますとね、それもどこまでできますか、ですから本当はあの、気仙沼のリアスアークって言ってますよね、あんなようなものでもね、作ればいいんですけど将来ね、だから本当の、閑上の町のね、ジオラマでも作ってね、表示してほしいですね、閑上の町はこんなだったんでいうような。

流された自宅を見ながら仕事に向かった

元閑上七丁目

### 震災当時は

市役所ですね。市役所建設課ですから災害等があると自分たちが真つ先に動くしかなんない：部門でしたね。当時もですね。道路啓開まあ、あのような状態になるのは俺はちよつと分からなかったんで。どのような状態だったということ、地元や業者さん、まずですね、どのくらいまで車で行けんみたいなことで、調査をしてもらったですね。いや、大変なことになってた。

地震の時はですね。当然、市役所におりまして。いやこれはすごいなと。役所つぶれんでないかなっていうくらい初めてですね。恐怖っていうのは2階の北側で、いや、これはちよつと：：というなことでですね。外に出ようと、西側にちよつと小高い公園みたいなうん。あそこにですね。みんな避難したと、いうことですね。職員も人くらいで男も人。閑上の五叉路くらいまで来たのかな：？なんか津波が来ると来るといふことで。ちよつと高速道路の：あそこ。ミニストップあるんですけども。その高速道路に。それでこれじゃ逃げれないと車を置いて高速道路にのぼって助かった。というこ

それで避難をして帰って来た人たちの話を聞いて。しばらく帰って来ないんで、もしかするともしかするのかなと思ったり：もしたりしたんですね。その後ですよ、津波が来てる：：そんだけ分かって4時ちよつと前ですよ。津波来たのね。ですから5時：ちよい前ですかね。戻ってきたのは。次の日、俺たち道路啓開にしにくとき。ああ、ここに車置いて、ぶん投げってたんだなというところが分かったんですね。それずーつと写真撮ったやつんなかにずーつとあるんですね。

### 奥さんがいないことに気づく

たまたまうちに残っていたのが、妻と娘。小さい。下に娘がもう

一人いて。いたので：まあ、心配はしてなかったんですよ。私は。最初はですね。3.11の1年ちよつとぐらい前にあのチリ地震の2月28日かきたのありましたよね。あの時にうちの妻と妻の姉と一緒にですね、逃げたんですね。閑上公民館へ避難したと、いうことが実績もあつてですね。その時は私は妻にですね：今度地震来たらば公民館じゃダメなんだと。あの時来なかったつーか来なかったんですね。今度来た時には、もつと北：閑上中学校しかありません。だから3階までしかないんで、屋上に行かないと助かんないよというような話をしたので、私は何も：心配はしてなかったんですね。心配はしてなかった：さっきいた息子なんですけどもこの間第2回目の追悼式の日を追悼文読んだりしたんですけども、そういうので、うちにいる姉ですね。あれと、：仙台南高校（みなみこう）でラグビーやってたんで部活さ行ってたんですね。姉のほうから弟に対して：大丈夫だったのかみたいなことでメールが入ったみたいで逆に今度：：弟が姉にメールを送った時にはもうあとは通じなかったことがあとで分かったんですね。んで、その夜中に電車・バス使つて通学してたので、帰る足がないと。んで、長町の先輩の家に泊まりますみたい。あとは状況変わって顧問の先生が最終的には送ってくれたんですけどね。ちよつと3.11から12分にまたぐくらいの時間に帰ってきたんですね。23時：55分か20分ころだったすかねえ：。で、7丁目まで送つてくださった先生に：途中まで：高柳：昔あの農協の：あそこらへんまで行ったけど行けないと。これはあの大変なことになっているということ。息子も感じて。お父さん、すごいんだよな、大変なことになっているという：ことですね。それと同時に私は：本部戻ってきて、名取市内に災害応急協力会つて、災害があつた時にお手伝いする協力会あるんですね。協力会。つていう団体がありまして。その幹事会社と会長さんとこに明日、3.12に5時半にミニストップに集合をかけてくださいと。まあ、まずもつて道路を作るしかない。孤立

してるといふことが情報でありましたので、小学校中学校、公民館……といふことがあつてですね……そういう協力をお願いを……電気全部消えたんですね。あの時ね。んで、ラジオをつけたらば……情報としては、なんか仙台の荒浜で200人くらいがどうのこうのつていう……で、あと塩釜、多賀城……あっちのほう見ると火が、出ていて……ああ、これは大変だと……ただ、自分の閑上だけはたぶん、大丈夫だろうなつていう俺はそういう甘い……考えはあつたんですね。何もこう情報がなかつたこともありすし……何にも……何にもないんだらうなという感じはありました。して、協力をお願いして帰つてきて……ぼちぼち、閑上の人たち避難してきている方々が市役所にかなり……来たんですね。んで、そのときに初めて……、知つてる人もいたので、いや……体育館さ逃げたんだけども的なことですね。あつて、いや……うちの女房と娘と会わなかつたかつて……そんな時初めてえー……どうなつてんだべなつていう……そこでもあ、会えれば、ああ、会つたよ知つてたよつてなことになつてれば良かったんですね。けども……まあ、いづれまあ、災害対策本部が立ち上がった、大変なことになつていふこととは分かつて……とにかく俺、あれ……仕事としては、道路啓開、道路作らなくちゃということだったので……で、さつき言いましたけども12日朝5時半にミニストップに集合ということ、私もそんな時に、行つて後は業者と一緒に道路……ですね。一手に分かれて、バス通りと火葬場に行くと、ですねあそこに行くとかく切り開いてあとは県道塩釜あたりとかですね。小学校中学校、公民館に行ける道路を早く作らうと。なんつーの、そういう一緒に現場で……

んでああ！もう一つですね。その311の当時、まあ長男が名古屋に暮らしてまして……災害がきて一週間しないで来たんですけど、いろいろ情報をです……まあ、長男なんで、妹に対してメールで名古屋でNHKの、映像をちゃんと見てたんですね。情報を見て……いや、もう仙台空港に来てっからとにかく逃げろと。分かつたお

兄ちゃんつていふな会話が、会話だかメールだか電話だかちよつとあれですけどね。そういう会話をした。分かつた、心配しないで安心してみたいなことで。だから……うーん……まあ……心配してなかつたことがありますねえ。あとは、自分のねそういうま、仕事のこともあつて、まあ、自分のことよりもまずねえ。まあ、かつこよくという訳ではないんですけども、だからあの……うちの……俺んちとはにかくそういうことで非常時には親父いないんだよと。仕事で出て行くんだということの……まあ、備えとかそういうことはあつたんで。さつき言いましたけどね、逃げろよと。というな話をしてたら、もう安心はしてたんだねえ……で、だんだん不安なつて夜中……次の日になるあたりで……閑上の人がぞくぞく市役所の中に避難してきたんで聞いてみたら、誰も会つてないと……知つてる人知つてる人言つてもね誰もなんか……いないと、知つてる人……あ、会つたつていう人がいない。

#### 自宅を眺めながら

で、初めて……ちよつとこれはもしかするのかもしれない……ことを思い出してね。その時初めて。それとですね。311の朝にです……ミニストップ……まあ今もあります。それから少し……50から100m先にですね。自分の7丁目にあつた家が流れてきてたんですねえ。……きれいにそのまま。きれいに。あの……一階の床から上。そのまま。約2キロです。はい。ほんとね、どこさもぶつからないで、きれーいにあつたんですよ。少しこう、ずれたくらい。んで、まさかここにもしかすつといふんでねえかなと思つたりして。まあ、仕事なんで……ああ、あるなつていふ感じ。そのまま通り過ぎたり。その時ですね。行く時もご遺体があつたりですね。すごかつ……たんですね。んで、業者と自衛隊も来て……多賀城のほうからくつつかれてきて、んで、横さ寄せてとにかくあるものでいいからとにかく……その時初めてご遺体を見て、あれ、うちのかみさんでねえかなとかですね。見ながらこう……うん……あの……火葬場のほう

に向かつてですね。仕事を…ですね。しましたね。ずっと…(間)  
ん、ですね。業者と自衛隊との連絡調整とか、はい。入れないよ  
うにしたんですね。とにかく一車線。まずもつて一車線確保とい  
う…

で。それで、えー…小学校中学校の人たちがバスなんかで避難所  
行こう。次の日ですよ？次の日と次の日だね。12と13日ですね。  
私は、11日のまあ、夜中…市役所に泊まり、んで次の日からはで  
すね。まあ、自分の女房…あ、妻の姉が…同じ閑上住んでたんで  
すけど、まあ。仙台かどつかさ行って居なかったから助かった  
んですよ。その姉が文化会館も避難所になったので、なんかこ  
う…うん。一角をこう…陣取ってけたっていうか…あれ。一つこ  
れ島を…ね。豊の部屋だったんですけども。そこに…で、そこ  
から私は、2週間か。3月いっぱいくらいそこを拠点として、役所  
に通ったということですね。

### 奥さんと娘さんが見つかる

それで…娘のが早くてですね。1週間もしないで。ええとですね。  
16日ですね。16日に空港ボウルに行ったらばまあ、誰かかれか見  
ていた人が連絡くれるんですよ。なんか似てた人がいたとか。ん  
で、娘と妻のちゃんとかう…まあ、覚悟してたんでしようね。まあ、  
何かあった時はみんな全て身につけたもの…家族が確認する時こ  
う、迷わないようにということ、とにかくありとあらゆるものを  
身につけていたので、ええ。だから、外出する時はまあ、おつきい  
娘なんかはこれはお母さんかなあつて外出するときに時計は身につ  
けるとかはあるんですけど色々なことがあつて。娘が16日、妻が  
18日…かな？流されたうちの付近で見つかったんですね。生きて  
たんだね。流されたうちが…で、妻は少し手前のほうで、娘は少し  
流されたんですね。あの、東北道路の下までくぐつてまで流された  
んだね。まあ、でもどっちもきれいな顔してたねえ。ぶつかつたり  
なつたりはしてなかつたんですね。

### 避難所生活の後

これで終わって、やつぱり早くつてことであとは民間借り上げ、  
その妻の姉がですね。みんな取つてけえですね。えー早かつたです  
ね。えーつとですね。3月の末くらいには引越しましたね。植松…  
館腰の植松っていうところですよ。3丁目ですね。ただ、線路脇だつ  
たので…うるさいですよ。慣れないんで…1年1ヶ月。お世話に  
なりました。家族3人で。ええ。で、一番最初はその姉のほうも姉  
の…犠牲になつたので姉とあと姉の子供…一週間十日くらい一緒  
にいましたかね。あとは別々に近くに…アパートは2LDKですね。  
車はあつたんですよ。俺も。車で通勤してたので助かつたんですね。  
ええ。役所に駐車場にあつたので…遺体確認で、まあそれはずっと  
安置所に置かれなくて…んでまあ兄がたまたま互理にいたので  
そこに一時運び出して。2つ置いてもらつたんですね。火葬するま  
での間…あ、3月30…ん？んだね。一台目の火葬場が動いたん  
ですね。3月30に…んで、あつ…ですね。3月の末と4月の頭で、  
葛岡で1人1人ねつて。つていう予約を葬儀屋さんを話をしてい  
たらば、いやどうも葬儀屋さん情報で閑上の火葬場が動くよと。全  
部動かないけどもつていうこと。ああ、だつたらばなんとかそこ  
にこう…キャンセルしてもいいからとにかくということ、一緒に  
火葬しちまつたんですね。3月30日でしたね。はい。一緒に火葬し  
てもらつたから助かりましたけどね…。

### アパートの思い出

苦勞つすかねえ。苦勞は…まあ、とにかく仕事がまあ…がれきの  
処理の仕事だつたので、とにかく早くこう…ちゃんとした…仮設な  
んかまだできてなかつたんですね。とにかく早く早く早くまあ、落ち  
着くとこつてか…あとはまあ、息子があん時まだ高校一年なんです  
ね。あ！二年になる年ですかね。もうだいたい一年終わる頃だつた  
ので…とにかくちゃんと…ちゃんとしていたらおかしいんですけ  
どね。住まいだけはちゃんとつていうなことで早く早くというよう

なこと。だから、慣れないところであと：私も閑上で生まれて閑上で育つて：海の音は波の音は聴いても：鉄道のあの、線路というかね。夜中まで走るので、毎日がこう地震だったみたいですね。慣れなかったですね。でもとにかく住むところがないのでっていうところもあつたので。まあ、姉も一緒なつて探してくれたのでえらくえらばんだなあつて思つたつて（笑う）ええ、我慢しよう。まあ、もつとひどい人まづねえ、ずっと避難所にいた人もいたんで：。借り上げになるかどうかは分からなかったけどとにかくどつか住まいを見つけないと動けないので。避難所つてのはほんとに仮なんですね：で、今いた娘と息子あと姉と姉の：娘ですかね。んで、日中もいるわけですよ。避難所に。で、娘も稼いでたんですけど休んでいうつてのでしたらよく休みになって：おれは朝行つて夜帰つてくるだけですから。俺、何も服装つてか市のあの作業服みたいな。行きも帰りも一緒だったんで、周りの人たちも「ああ、あれ役所の人間だな」みたいなことであんなかって。いやちよつと服装も変えた方がいって娘に「お父さん変えた方がいいよ」って「なんかここさ役所のやつがいるんだ」みたいなこと。言うこと言わねえしつてことで。そういうのがあつてね。そういう変な気遣いつつうかね。そういうのはあつたですね。何もなくて：そうですね。あのときも市の職員、まあ、仲間たちがみんな持つてきてくれたり：あ、あとあの名古屋の長男がですね、一週間もしない間に、あん時もね高速とまったりして一日かかって名古屋から来てくれたんですね。車に積めるもの積んで、下着だなんだかんた持つてきてくれましたね。あとはなんだつてな。ああ、炊飯器とか：あとはね：掃除機とか。とにかく積めるもの：を積んできてくれましたね。あとは役所の仲間が。はい。まあ、大きい小さいは関係なく：はっはっはっは（笑う）選ぶはずがないからね。

避難所の時ね。あと、民間借り上げた時も地元の区長さんとか。だからやっぱり分かるんですね。あそこの人は、あそこのアパート

の人は避難者ですよみたい。ですね。あの、まいったね、あの○さんが管理してるアパートだったので、入ったときに米5kgだかなんか。ええ、新米みたいなもらいましたね。あれは助かりましたね。ああいなどころはさすがだなと思つて。

### 市役所の様子

様子：うん。まあ、言つて悪いんですけども仕事の中ではですね。災害対策本部つてのはすぐ作つたんですけども、これがですね機能してなくてですね。まあ、あの本部長が市長なので、まあ、市長の批判になつたんだか分かりませんが、民間、組織でこう、縦割りの組織つてのが分かんない人だつたんだね。だから自分でみんな全て全ていろいろなとこに市長が知っている：なんだれかんだれ呼んで、おれはあの辺がね：市長行つてなとこにつめてみなね。本部が二つあるような恰好の体制が出来上がつてしまつたんですね。だから：どつちの言うこと聞いたらいいですかね。そういうことがありましたね。

### 現在の所に

去年の「月30日に引越しました。とにかくそういう私は自立しなくちゃならないということですね。まあ、さっきいた息子もまあ、震災の時合宿で勉強できないとかがつてやるにやんだしちゃんと落ち着いたとこ、早く早く。んだから、自立：ですね。とにかく自立したいと。早くしないとダメなんだなつて。ここはですね。私の生まれたたまたまですね。んで、たまたま、もともとうちがあつてですね。んで、まあ母が一人で住んでたんですけども震災当時から二年か三年前くらいにどつちか一人で暮らして、ここは空き家だつたんですね。んで地震でかなり古い建物だったので東側の家にこう倒れ掛かつて危険だと。地元のなんか部落会つていうんですかね？部落会の会長さんから電話かかつてきて「いや、あんたんち危ないからはよ壊せ」つて。この辺は津波は来たんですよ。今道路あるんですけど、そこまで何十センチくらいまで来たんですよ。南

側に堀あるんですけど。そこもがれきすごかったんですね。それはここまで来たのかなってびっくりしましたね。んで、たまたま土地があつてですね。うちもまあ、妻とは「丁目：退職したらばゆつくり田舎でもいいからうち建ててみてみたいなことでも言ったんで。んで、子供たち二人に相談したらば、いいかっていったらば、まあしやあねえべって。選ぶっていうかまあ、私はたまたまここに土地があつたからうちが建てられたんですね。土地なければうちは建てられませんでしたね。金銭的に。たまたま土地があつたから建てられた。あと、さつきも言いましたけどとにかく早く閑上の人のためにも、ああ、やればできるんだって言わねえけどもね。はい。戻れると。ちよつと市長の考えとは違ふんですね。んだから、まあ、住所が閑上なんで、冗談まじりで役所ではおれは現地再建なんだぞと言ってるんですね。高速道路から西側だべって言われるんですけどね。この堀から南が仙台市なんです。行政区違うのでたぶん：この辺ほんとは閑上の人たちも現地、内陸内陸西側西側つてたのはたぶんまあ、この辺も含めて高速道路の根っこだとかあの辺とか。息子の高校の同級生まあ、南高なんですけども、常磐線を利用している人たちから比べつと、ここは快適だつて言つてました。朝です、ね、6、7、8時の間に10分ぐらいの間にバスがあるんですね。ここ、終点：終点なんです。四郎丸。駅としては長町まで。そつから泉まで地下鉄で：。ほとんど仙台市。私はええ、小学校の時ええ、いじめられてましたけどもね。なんだおまえ四郎丸だべつてあそこに。小学校は：閑上小学校。こう見えるんですから。これ、動かしてないんですからね。居ながらにして学校が見えるんですよ。ええ、まあ。中学校は見えないんですけども…。

### 閑上の良いところ

閑上の良いところですね。やっぱりの：なんていうんですかね。連結というか連帯感というかそういうのはありますね。ありましたね。最近はそのうのは希薄なつてなかなか計画にもまとまりがな

いつていうなことで。ほんとはまとまりなかつたんだかなあつて。みんな寄せ集まりなんです。今思うと。寄せ集まりで町が出来上がった。だから、ねえ。あの：まあ、「丁目に住んでた時もだけど：ほんとに閑係ないでそのまま返したりとか。だからそういうね：。土日が休みなんですけども。今朝も土日片つぽどちかです。閑上さ、俺ね歩くの好きなんです。まあ、俺もウォーキングして、一時間くるつと日和山公園にのぼつたりとかです。あと必ず自分のうちがあつたところに回つて中学校に行つて、今日も線香あげてきたんですけどね。あそこに。中学生の「名の名前が刻んでありますけども、それが土曜日日曜日とまあ、日日は行かないですけど必ずどつちか一週間に一回は閑上のこう：姿を。まあ、何も変わつてないんですけどもこう行きたいっていうか、行きたいんですね。できれば海までほんとは行きたいんですけどね。私はあの歩くのが好きで7丁目に住んでた時です。土曜日あたり半日くらいかけて浜を：ずつとこう歩いたりつたり。最初は海さ行きたくなかつたんですけどね。今は落ち着いたんでね。行けるよ。うにね。逆に行きたくなつてきましたね。

今後。そうつすね、今後のだからこの間ちよつと副市長には言つたんですけども。辞めてもまあ、再任用でなくてもいいから閑上の街づくりみたいなどころにお手伝いしたいと。相談が、窓口でもあれ。そうつすと：ああ、あそこさ行けばああ、閑上の奴いたなつて。そうつすと今ねえ、各自治体からお手伝いもらつてますけども。関西弁もいたかもしんないけども。やっぱりああ、あそこさ行くとなんか：つてな感じのものもなんか：うん。一つそういうことで。まあ、恩返しじゃないんですけども、したいなと思つてましたね。

ほんとは閑上弁なんですけど俺は高校仙台のほう、まあ、仙台工業：東北弁なんです。そん時ですね。一年で入つてほんとに言葉もそのままだったし、先輩に言葉でいじめられてたですね。野球だったんですけど。先輩におまえその口のきき方はねえべつて。だ

からなるべくなるべくとか思ったりして。まあ、今職場さいてもわざとこう：閑上弁き使ったりするんですよ？だんだんこうねえ：まあ、間もなくあと一か月もすると60なんですけども。親父の年代ってのも多分ねえ、ほんとに閑上出身ってのはすぐ分かるってのはなかなか。言葉はあんまり：なんだねえ。ほんとはしゃべりたいんだけどねえ：。俺たちもだから、俺たちよりも上の人たちとしゃべるときは標準語でしゃべってもしょうがないから、ただ同じ逆に下とのしゃべりしかないもので：職場も下。だからね、なるべくこう：なるべくっていうか、だんだんこう閑上弁がなくなつて：うんまあ、標準語つーか、に近い：ですね。

### 閑上の今後

やっぱりあの、色々騒がれてますけども、すっかり再建というのはないんでしょうけども、ちっちゃくなつてもいいからコンパクトになつてもいいから、やっぱりうん。まあ。そうなつてくつと。市長の代弁するつもりはないんですけども、やっぱり年寄りがますますこうね、えー：閑上さ帰りたいってのもあるし。んだねえ、やっぱり昔の閑上つてのはないかもしんないけども、まあ、なんぼかこう近づけたらいいのかなと思ったり。は思ってますね。まあ、色々今ね、郵便局来ねんだ生協戻つて来ねんだとか銀行はもう来ねんだつていう噂ばかりあるんですけど。ただ、まあ、市長どう思つてつか分かんないですけども、魚もね取れない閑上の中で赤貝と小玉貝だけで漁師の人たち生きていけらんねっちゃなつて思っているんですよ。朝、4時30か5時頃にサイレン鳴るんすよね。市場開くからって皆さんに教えるんですね。並べんじゃないですか。そいつも自分その：閑上海岸つてか海で獲れたものじゃなくてどっかなんか荒浜とかあつちのほうから仕入れてきたやつとか並べてたとかつていうのはありましたね。だから、うーん。今市場も岸壁ですか？震災復興で。復旧で北半分綺麗になりましたよね？あとは南側やるとかきれいになるだけだね。朝市もだね。100店舗ねえんだと思う

んだけど100何店舗くらいかな。みんな他から来てんだよね。閑上の人たちついていないんだよね。だからあの辺はだから実質俺もですね、閑上の朝市一番最初に開いた時にああ、これはいかつたなつて思つたんですね。ああ、魚も地元であがつたやつだとかですね。ああ、これ売れるんだ。

これますますだんだん廃れてきて：今はねえ。志津川とか違つてここから来た人たちが持つてくるんですからね。なんだか生産とかですね。で、寂しく感じるんですよ。だから4月4日に再開したんですけどね、いつまでもつだべなつて心配します。逆に。人も住んでいないのに。やっぱりこんなことという市長の批判になるかもしれないけども、なんで：人間人よりもあいうな施設だけ最初にいくのになつておれ不思議にしようがないんだけど。人だべつて最初に戻つてくんのねつて。こう思うんだけどもさー。なに足んねえ、かに足んないつていわつて：なのかなあつて思つて。おれ順番こ間違つてんでねえかなと思つて。

妻の「あなた」と叫ぶ声が聞こえる

元閑上二丁目

二丁目に住んでいた

私は公民館のすぐ裏、閑上2丁目、亡くなったのは妻、父親二人。全部同居。6人で住んでましたからね。私は震災の時船岡にいたから、会議でね。卒業式でみどり台中学校の卒業式終わって帰りに出席ということでも卒業式だったから妻は仕事休んでたまたまいたんだね。だからそうだったのが重なったんだね。家も連絡したんだけど通じなくて。当日の7時過ぎに子どもがたまたま電話つながったのね。前の日に携帯かってあげてね。今友達のお母さんの車に乗せられて互理に避難してきたと。お母さんはと尋ねた所、死んだのか生きているのか分からない、それでももうすぐ切れちゃたのよ5、6秒。それで夜の7時のニュースで、閑上公民館に何十人避難したとかね、だから避難しているのかなとか思ってたのね、あと携帯でも、メール入ってて、地震怖かったね戸ね、家の中めっちゃくちゃだと、でも家族はみんな親父と本人と、子どもは大丈夫だったということ、3時30分頃かな、メールが入っていたの。

公民館に避難した

私のうちが公民館に一番近い家だったの。二日前の、地震来て津波警報のときは逃げてたの増田に、ちゃんね。今回も(妻が)逃げてるだろうなって思ったら、みんな公民館に集まったんだね、地域の人をほら、町内会の人たちがみんな集まってきちゃって、そこでいろいろ話してたんじゃないかな、当日卒業式だったからね。避難場所だからここ。市長さんはこの間の発言の中で、災害時自分の身は自分で守るんだって発言してたよね。公民館に避難してきたわけだ。自助っていうことで、自分で安全な場所っていうことで、ね。だから避難場所である公民館にみんな避難してきたと、これが自助ですよ。次に、今度共助と、そうすると今度は共助っていうのが何かあったら、町内会ごとに、災害時における役割分担。だ

から、当時も夕方近くになってたから、炊き出しどうするかとか、そういった話をしてたってわけ。それが共助ですよ。だから、町内会の人たちが集まって、そういった話をしてた、共助っていうことで、災害時における今後のみんなはどうして助けあって、やっていこうっていうことで共助、それで最後が公助なんですよ公助。公助っていうのは何かって言ったら自治体が住民を守るっていうことでしょ？それが今回出来なかった、やってないんだあの人。名取市は。だから我々は、色々調べたところ、自助、自分の身は自分で守るって言うことで避難所に避難してきたでしょ？自助だからそこまではやったでしょ、自分で。避難したんだから。共助、だから町内会では、毎年防災訓練やった時に、皆でいろんな役割分担決めて、共助っていうことで共助の分をやって、今回も公民館に集まって、共助って言うことでみんなが役割分担を決めながら今後の、まあ夕方寒さ対策とか、あとご飯の炊き出しとか、食糧関係とかそういったことをやってたわけだから共助。ここに本来であれば公助である名取市が、名取市の、地域防災計画、これだね、名取市の地域防災計画を私は見て、本来何をすべきだったのか、調べたんですよ。それで落ち度がいっぱい出てきたから私は、こんなのは許しておけないっていうことで立ち上がったわけだ。なんでかっていったら、大津波警報の場合名取市は、大体、初動、初動っていうか津波が到着するのが大体5分だと。ということ、40分から50分の間には沿岸住民を安全な場所に避難させなければならぬっていうふうには、自分たちが平成20年の2月に作ってたわけですよこれ。そしてそれは、名取市が市長がね、トップだから避難指示を出した、そして今度消防本部、あとは防災安全課が中心になって広報車、サイレン、ヘリコプターなどを使って、「大津波警報発令されてるよ」だから住民は安全な場所に避難しなさいっていうことを、避難を住民に知らせることになってたわけだ、そして防災安全課から、公民館に、その大津波警報情報を知らせるルートになってたわけですよ。

それが、今回、公民館に名取市の方から大津波警報発令だったというのが伝えられなかった。

そのために館長が、ああいったことをやってしまったわけだ、だから本来名取市が策定していた、名取地域防災計画大津波、ね、想定して作った平成20年の2月だよ、この通りに、住民の命を守るんだっていうね、強い意識があったら、市長はじめ職員がね、大津波警報して14時46分だけかなあ、発令されて、もう、ああ5分震災で49分か、15時、3時15分には、釜石市、大体小名浜とか鮎川にも到達してたんだよ。津波がね。っていうことは仙台湾に来るっていうことがもうわかるわけですよ。それがもう、テレビとかでも放映されてたでしょ？そうすると、閉上に到達するまでに30分以上あったわけだつちや。にもかかわらず、閉上には消防本部とかね、そういったところから、全然知らせられなかったということが名取市の大きな落ち度だと思えますよ。にもかかわらず自分たちは一切落ち度がありません。それで800人も、の、犠牲者が出てね、自分たちには何にも落ち度がないと。そんなのありえますか？と、だから行政っていうのは自分たちの落ち度をね、やっぱり認めないとところなのかなと私は思っていました。あと防災行政無線も予定価格12390万、落札価格5985万円。普通こういう落札っていうのは90パーセント以上が、一般的な落札だと思えますね。下見積もりとかね、やっぱり業者の人から取ってるはずですよ、私も予算とかいうの役所でやってきてるから、その予定価格積み上げるのに積算するわけですよ、人件費とかいろいろなの。それで機械とか、それで積み上げていった価格に対して、半値以下で落札していったっていうのが、この故障の原因をね、招いた一つの、大きな問題点にもなるんじゃないのかなと。そして、今度公開質問状の回答では、本来異常故障になったら、赤ランプが表示することになってるよと、それが表示されなかったから、結局14回も叫んだけど、夜1時30分でしたっけか、異常がわかったと。ね、だから機械そのものが壊

れたんでしょ。操舵室で本当は故障したら異常を知らせる赤いランプが点滅することになってるのに点滅しなかったと、事実。それでいて、名取市は設置した\*\*\*業者に責任はない、名取市にも責任はない、これで、社会の人たちが一般の人たちが聞いたら、みんなああそうですかと、納得しますか？ですから、それで名取市は、五月だね、五月の震災のあった翌月の五月ごろに、広報名取で、防災行政無線のことをね、調べたと。それでもうあり得ないとみんな言ってるんだよ、機械関係の人はね、詳しい人は。防災行政無線の設置された、部屋の、どこかのビス、ねじがおっこってきて、偶然に隙間から入って、また偶然に、このダイオードっていうかねじのところにおっこって、ショートしちゃったと、偶然が偶然、想定外だったってそんなことを言ってるわけですよ。だからその証拠であるねじも見つかっていない。その防災行政無線の部屋の、落ちたねじの、場所も特定できない、その証拠のねじもない。それでいてこれはい。ことの結末を図ったんだね。だから我々には高専の先生に調べてもらったところこういう結果だから、業者に問題ない。名取市も問題ない。これで終わりですと、防災行政無線が閉上に5機、下増田に4機、ね、平成これ20年かな、2月ごろ多分設置したんでしょ。何のために設置したのと。だから防災行政無線鳴ってれば、犠牲になった人の半分ぐらいはね、命が守られたと思えますよ。大津波警報発令中ですと、閉上にも5メートル10メートルの津波が来ますと、皆さん高台に避難してくださいってね、何回も絶叫してれば、みんなびっくりして、逃げてますよこれ。だから我々はこういったもので、当然納得が来ないので、名取市長に公開質問状を提出したんですけど30回も自分たちには一切落ち度がないと、これは、想定外偶発的だからってことを済ませると、それで尊い命が奪われたにもかかわらず、検証もしないって言っていましたよね、あと大きな悲劇であった、閉上公民館から中学校への移動、この間ある人から聞いたら、助かった人からね、大体300人ぐらい公民館に

いたんじゃないかと。そして最終的に38人が二階で助かったと、そうすると300人以上が、公民館に避難した人の中でね、300人以上が犠牲になってるわけですよ、その犠牲になった現場を、我々知らない間に、解体しちゃったわけですよね公民館を、証拠隠滅と言われても仕方ないんじゃないですか？ 笹子トンネルの、ね、バス、ああいうのが福知山の今回の花火、で、事故ね。絶対現場検証するでしょ？ それをしないでもう気づいたら公民館が壊されていたと。そして公民館の屋上には行けなかったって発言してるんですよ、ところが公民館と閉上、名取市働く婦人の家には、公民館にのぼれる鉄のやつがあったんですよ。だからもう公民館を取り壊しておいて、公民館には屋上には行けなかったって言ってるんだよ名取市は。ちやんと証拠写真もありますからね。どこまでしらを切るって言うかね。新しく建てたのね、昭和38年ごろかな、私が入った教室の上だから、私の家がね、たまたま一回だけ学級委員やった時の自分の部屋教室の上に、これも縁なのかななんてね、建てましたけどね。

## 二日前の地震のときには、避難していた

増田まで避難していたと、だから親父は津波くるわけないって言うから、私と女房で親父にね、何言ってるんだと、ね、津波っていうのは前にも来てるんだから、大津波警報で発令されたら、避難しろって、なったら逃げるんだぞっていうことで怒鳴りつけたんだから。だから今回はNHKでやってたように同調行動っていうことで、皆さんが安心感あったわけだ、みんなが集まって、町内会の人たちが一人じゃないから、そういったのに陥ってしまったのよ。結局は公民館に避難したと、町内会の人たちもみんな避難してきて、お互い無事を確認しながら今後、じゃあ、さっき言ったね、ご飯どうしようかとかどこに寝ようかとか毛布とかそういう話になってたと思っただけだね、相当集まってたですからね。だからそのところになちやんと名取市の地域防災計画通り公民館へね、防災安全課から、名取市本部からきちんと伝えてれば公民館長もああいう行動はとら

ないし、住民だってみんなびつくりして逃げてると思いますよね。

私が、この人（飯沼さん）は100人委員会のときに、4月か、いの一歩に、仙台平野は津波の常襲地帯だから、15年前から、浅野知事藤井さん？ 藤井市長、石川市長とかにも、アカ本って本を、贈呈したわけだ。それで私がほら、この人大分激怒したからね、私があればどういったにもかかわらずなんで行政は避難場所とかそういうのを作らなかつたんだと、だからこの人の本の中にあるけど悔やんでるでしょ？ 2万人近くの人を犠牲に出してしまったと、私が20年かけてね、調べたのに何で行政は耳を傾けなかつたんだっていうことで、それで行政に対して被災した中でね、行政に対して色々行動を起こしたのが私だけなのかな。だからこの飯沼委員さんが、「私は遠藤さんみたいな人を探してたんだ」と、やつと、ね、私の今までの仙台平野の歴史を調べたところ、やつと行政に対して今回の質問状って言うのはね、公開質問状、そういうのを出す人が現れたって言うことで喜んでましたね、だからこの本を読むとわかる通り2000年の間に12回津波来てますからね。閉上には赤本に

書いてあるんだけど大体30メートル以上の津波がきたらうと。そしてその津波が郡山までいって、その県庁みたいな建物を流したわけですよ。それで困った、大和朝廷は西暦724年に、鬼門である、奈良から見ても、郡山のその鬼門の延長上の高台、33.268メートルの高賀城にもつてたわけですよ。だから今多賀城あそこ遺跡出てきたでしょ？ それで869年の貞観地震、津波のときに、33メートルの高台だったからあそこがやられなかったわけですよ、そのほかに1611年の慶長津波っていうのが、あって、あと蛸薬師神社って、タコが流れ着いたと、だからこの間委員の先生にもいったんですけど、2000年の間に今回のような津波が仙台平野は12回来ると、だから東京とか横浜、名古屋、大阪福岡あとは徳島とか和歌山すべて大きい川の河口に街っていうのは開けてるんですよ、やっぱり当時は車もないから船で行き来してたわけですよ。だから北前船って

いうのは日本海側、それが仙台の場合には名取川七北川っていうある程度一級河川があるにもかかわらず、その河口に町が開けなかったわけ、なんでかかっていったら何回も津波が来てたから。結局は町を作ってもダメだって言うことで作らなかつたと思いますよ。ねえ、いまあそこ見てみるとこういういた平野の中で、仙台平野も広いですからね、それで河口が開かなかつたのは何回も津波が来てるとこの本にある通りですよ。だから愛島笠島小豆島っていうことで、島がついてるのは、何回も津波が来てるから、だから清水峰神社って知ってます？それは兵庫県の明石市から持ってきたのね、清水峰神社って書くのね。すずみね神社って呼んでるのね、地元の市の職員も、ちがうよと、これは何かかって言ったら、おんなじように関西の方でも地震がなつて大津波が発生して犠牲になつてるわけですよ、その霊を鎮めるため、あとはいろんな伝染病、これが流行っちゃつて亡くなつてる人もいるために明石のなんていったかな、その神社の分霊として、ここにもつて来たんですよ。それであと、那智の三社ありますよね。熊野三社、これもおんなじように那智の、あそこでおんなじように地震津波になつて被害被災者が出てきたんで、それとおんなじように名取に持ってきたんですよ、この本にありますけど、これが1123年、名取老婆の墓って、あのだこだ中庭にありますけど、この老婆が持ってきたんだよこれ。だから名取市に三つあるっていうのが、ただ持ってきたんじゃないやなくて、おんなじ地震津波で、尊い命がね、数多くの命が犠牲になつてる為に、あと伝染病はやつたりするために、鎮めるために振興のためにここに持つてきてるわけ、こういうのがこれを見るとわかる。那智のあれ、それはやっぱり太平洋を見るっていうのもあるし高台多分ね、だからやっぱり歴史を、勉強しないで地震だけね、津波だけ研究してた東北大とかいろんな人いるでしょ？それが杳形遺跡っていうことで、仙台地下鉄の、結局は荒井、始点っていうか出发点の荒井、あそこを掘った時に出てきたわけですよ、それでもう2000年以上の、弥生時

代の水田跡の下から出てきたっていうことで、だから何回も仙台平野には津波が来てたよと、いうことがわかってきたわけですよ。だからそれをこの飯沼さんが調べたにもかかわらず、行政とかそういう教授の人は嘘だ嘘だっていうことで、今になってやっとこれが分つてきたわけですね。だから仙台市は、荒井のほうに荒浜の人を集団移転やつてますよね。だから当然東部道より西側に再建するのが当然ですよ。また180年から220年の周期で来てるんだから、だから閑上現地再建しますよね。だから私が危惧するのは、後世にもおんなじ悲劇をね、繰り返すことになるよと、現地再建したんでは。心配なんですよ私はね。

東部道路のだから東部道路がこつちじゃないと安心して住めないから、何とかここ見つけたんだね。去年、おとしか、おとしの夏だね、やつとつていうかもうほとんど売れ残つてるところなかつたから。ここ逃したらもう大変だなんて思つたからね。

私はだからその日郵便局の駐車場で「時に見て、女房の実家、槻木のほうにいつてね、そしてラジオとか聞いて、荒浜で300の遺体があるとかね、そして閑上に公民館に避難したとかさういつたのを聞いてたから、避難してると、その後一中とか、館腰小学校とか二中とか結局避難、助かつた人ね、救助された人を運んできた、そういつたのを確認しに行きましたね、そしてこれが最後だつていうことで、閑上公民館で助かつた人乗せたバスがきたのね、それを見たらもう80過ぎの年寄りとか小さい子どもしか乗つてなかつたの。なんでこれしか乗つてなかつたのか不思議でいたのね。そうしたところ、ある人から、公民館に避難した人たちが中学校に行けつて言われて、そのあいだで若い人がうんと犠牲になつてるとつていうことを話を聞いたんですよ、それであるほどと思つてね私はね、それからいろいろ調べて、八月の三日かな、河北新報に、公民館から中学校への誘導ミスで、多くの犠牲者が出たと。これだね、これを見て、

やつと閑上のことが出てきたっていうことで、ね。それで私は公開質問状っていう制度があることを分かったんで、だからもう震災の6月ごろから色々全部自分で調べていって、ね。だれかいなかったっていうことで、一年経っても私と同じような考えの人が見つからなくて、やきもきしてたけど、やつと名取市の説明会のときにかな、納得できない人がいっぱいいるっていうのわかってそこからね、

9月5日。あの時に、現地再建、再建なんて言ってるけどその前に、検証が大事でしょ。なんでこんなに閑上で800人も犠牲になったのか検証もしないで、復興復興って騒いでいるけど、それはおかしいでしょ。なんでこんな犠牲者が出たのかをきちんと検証してそれから安全安心な街づくりをしないと、それが順序じゃないですかと。だからあの頃にはもう、公開質問状っていうのを自分ではねってたから、だから震災後の1月ごろからもうね、公開質問状っていうの、なんでだろうっていうこといろいろ調べて、そしてある人から、これは二つの大きな問題があると、公民館から中学校への避難誘導、それと、防災無線の予定価格と落札価格に大きな差があったと、この二つで大きな問題に今後なるぞと、いうようなことをね、ある人から聞いてたから、そういうのを中心に色々自分で調べて、そしてその中で名取市地域防災計画っていうのがあるのを見つけて、これをよんで、今回の震災時に行政は、住民の命を守るために、何を計画していたのか。それをできたのかできなかったのか、それを公開質問状にいったの。ところが市は一切我々には落ち度がないと。到底納得できない回答だったんで二回目も。では二回目のときはね、二者選択にして、震災時こういったもの出来たんですか。名取市は、できなかったんですか？ってやったにも関わらず一回目の回答とおんなじで、市長は二分で退席したからね。その後6月4日に、公開討論会っていうのを申し入れしたんだよ我々は、にもかかわらず市長は9月4日ね、4日。市長はうけませんと。なんで受けないんだと。それで我々はこれではだめだっていうことで署名運

動をして、議会の方に署名を提出したと。議会でも色々追及はしてたのね、名取市にね、にもかかわらずもう、はぐらかしてるわけだ、肩透かしくってて、だから当初名取市は、第三者委員会設置しないよということ言ってましたけど、12月13日の震災のね、議会において私が「0分ぐらいかな？趣旨説明っていうことで、その後議員さん10人くらいから、矢継ぎ早にいろいろ質問受けましたね。全部切り返しましたから。それで全会一致で可決して、これは第三者委員会を設置して、真相究明を明らかにしなければならぬ、そして安全安心な街づくり。やっぱり復旧復興、これが大事だっていうことたちも、銀さん全会一致で可決してもらったわけだからね。これその議員さんは我々の住民の代表だからね、民意ね、やっぱりこれを今度名取市は無視できなくなったわけだ。当初つくらないって話だったけど、なんで作らないんだかね。こんなに犠牲になってるのに、その原因究明もしないなんて。我々から行くと到底考えられないと思いますよ。

例えば、特上の寿司を食べたいと、ネタを3000円の、そしてら落札したら並の1500円で落札したと。すると特上のネタでね、おいしい物を食べたいと、機械だつて、12390万円相当のそういう故障のしない機械を入れたっていう予定価格だと思ってるよ。ところが5985万だから、寿司今言ったけど、それなりの機械しか入れないんじゃないかって私は危惧してるわけね。だって普通の車だつて300万の車が欲しいのに、150万だしたら、300万の車貰えないでしょ？ねえそれなりのものしか多分入れないと思いますよ。だからそういうことが、危惧されるわけですね。なんぼええ、ねえ東北通信政策かな？あそこの許可貰ったって言っても、それだけの機械の性能、これが疑うつてのは当然じゃないですかねふう考えれば。しかもこれ予定価格っていうのは、業者からの多分色んな情報をもとに、専門家いないわけだから、下見積もりとかそういうものを積み上げてこれ作ってるはずだから、謎なんだよねだか

らこれが。半分ね。なんぼ定期点検だなんだって請け負うにしても、こんな安い落札なんてなかなか、昔一円の設計図ってありましたよね、あんなのどちがつて、ああいうのは今ないはずだから、あまりにも不自然すぎるなど、そして2回目の落札は4200万の予定価格で落札4200万、ぴったりだからね。

山の方で心配なのは山火事なんです。ね、団地の人たちは山火事が心配でしょ。大きい山火事なんかあった場合に、それが津波くるわけじゃないんで、そういったやつぱり色々あると思いますよ。今いろいろちよつと私も勉強してるけど、

私は実家、女房の実家、槻木の。それから郵政の宿舎にね、長町の。早くしてくれっていうことで。

### 宮城県沖地震の経験

見つけたね、親父は早くね、女房は29日かな。だからどつかブロックにでもぶつかったのかほら、腫れあがってたから、痛々しいね。だから公民館にほんとね、私さっきも言ったように私の家から10秒ぐらいでいけるんだもんね。だから中学校公民館と中学校の間で見つかったから、だから私は最後ね、あなたっていうことでね、妻は叫んでいたと思うよ。それで一回だけ夢見たんですよわたしね。公開質問状作って出す前3月ごろかな震災後の一年ごろ、あなたの考えは正しいよと、二月だ。あなたの考えは正しいよと、こんなことできるの考えるの貴方しかいないでしょと。あなたがやらなかったら誰がやるのという事で背中を押されたわけですよ。あなたの考えは正しいよと、あなたがやらなかったら誰がやるの？ こんなの公開質問状は誰が作れるのと、あなたしかいないでしょって夢一回だけ見せられた。それもそうだなと、これも人が困ってる時にやるのが私の郵便局長の仕事だなと。私たちは国家国民のため地域のために仕事やってるわけだから、二日間だから私も宮城県沖地震のときも郵便配達してたから、だから郵便局あと隣とガスが出

たから、二日間10くらい炊き出ししました地域の人たちにね。あのご飯炊き出しできますよっていうことで、だから小学生には一粒のお米、これ食べてみると、甘いでしょと、噛めば噛むほど、農家の人が丹精込めて作ったお米ね、だから無駄にしてはだめだよ。当時みんな買い出しなんだしてて、水道も出ないガスもなかったからね、だから55年の経験してるから私はね、南光台配達してたから昔郵便局昭和53年だから、宮城県沖地震。だからあのとき全国からの義援金なんてほら、お見舞いかな、郵便配達しながら100本以上配達してたから、その時にもうちの親戚でたまたま井戸水出て、そこであつたかいご飯でおにぎり作って持っていったらみんなから感謝されたのさ。だからそういうことを経験してるからね、あと被災した公民館にも、女房の実家のおふくろ作ってもらったおにぎり30個とか、暖かいの差し入れとかね、まあやれること、それが我々の局長のね、仕事と。だから救援物資も50箱ぐらい私の方貰ったのはみんな差し上げたから、あとティッシュとかね、我々ができるものっていうことで。今なにがほら、できるんだと、自問自答しながらね、局長って言うか地元の貢献って言うことで、同級生もあと10人いなくなってるから我々、今回でね。私も地元の会長だから、同期会、閑上の。我々の同期の会長。だから男の人女の犠牲になってるから、だからこの人たちの今度やつぱり残された家族、まして小さい子ども、これからの人生で一生でしょ、ねえ、大変なことだつてだから。そういうの考えれば、やつぱりみんななんでだつて疑問はあるわけだから、きちんとやつぱり事実を検証しないとだめですよこれはね。

閑上で生まれて育つて、転勤はない。出張はして歩いたけど。東北の県の郵便局400局以上出張して歩いた。監査っていうので、会計監査、検査員とかつてあるでしょ、制度が。ああいうのの私は立ち合いとか準備とかもやってたから、だから今回の公開質問状も、私は仕事そういった監査っていうのやってたから、根拠規定があつ

て、それで本来どうするべきだったのか、そういうのを取りまとめ  
たわけだ。質問状と回答書、だから文句は言うよ、ただし面と向か  
ってこういったことがやっぱり難しいと思う。ただ今やらなければ、  
後悔するし人生の中でね、そしてタイミング的にもこれを逃してた  
らもうどんどん風化してきているから、これ以上遅らせたらだめだっ  
たね。竹沢さんがブログ出しているのを私が見つけて、そして同級生  
の和尚に、この人たちの家族の住職だったから聞いて、彼に電話し  
て私はこういった公開質問状っていうのを作ってるけど、一緒にや  
らないかっていうことで、それでほら、段々輪が、納得できない人  
たちの輪が広まっていったと。だから私もいつ出してもいいように、  
ずっと、作ってたわけだ。これが。同期会で、二月二日にね、月  
命日にやったわけですよ。閑上離れてる方も半分くらいはいるかな。  
あと毎年のように、えー我々役員で集まったりしてたから、まあ同  
じほら、小中学校一緒だったからね、だからみんな仲良くわれわ  
れいえっ帝光って言うことで、まえからそういう風にやってたから  
同期会ね、だから55になったらどこかに行くからっていつてたん  
だけどさ、40人くらい先生方も1人かな、みんなやっぱり心配して  
くれてね、月命日の二月二日だったね、  
安全っていうかそういうったみんな話合ってきたら、やっぱり  
りあと高台っていう避難場所とかね、だから今私たちが次の世代、  
100年後200年後の人たちに伝える義務があると私は思ってるのね、  
前世から我々にうまく引継ぎがなかったからこんな目にあってるわ  
けであって、それがこの本にある通り180年から220年の間隔で仙  
台平野は大津波が来てるんだから、そうするとやっぱり、こんな文  
書で残したって100年経てばもう100年前の書物とかってなかなか  
ないでしょ？残ってるの、だから私が公開質問状の中に言ってるの  
は、犠牲者一人当たり1センチで名前を刻んでいただいて、その台  
座、3メートルなりして、大体1000人亡くなってるんだから13メ  
ートルから15メートルぐらいの慰霊塔みたいなを作ったその上

にここまで津波がきたって到達の印をつけながらね。閑上の日和山  
が震災になってから見学っていうか見に来ますよね。ここが大惨事  
の現場だと、そしてもう素通りするわけだ、だからそこに大きな慰  
霊塔を作ってもらおう。そして来た人たちがその慰霊塔にね、やは  
り犠牲となった御霊に手を合わせて頂きながら、その慰霊塔を守る  
ための募金箱でも置いてもらってね。それをずっと残していくと、  
そういったものを、つくってもらったほうがいいんじゃないの  
かなと、維持するのも大変だから来た人たちが、ああこんなこと  
とこまで来たんだっていうことでそれをね、200年後にも伝えてい  
くために閑上を見に来た人にね、100円でもいいからみんなやっ  
もらえればそれが、力になってずっとこう、できると思うのね。仙  
台に近いから閑上には来るんですよ。それが必要じゃないのかなと、  
いざれ石だなんだってやっただって100年後にはもう風化して、もう  
読み取れなくなっちゃう。読めないよね。だから錆びないように  
ので、そしてその慰霊塔をね、もし予算があれば避難場所にでも  
するなり、そういうったもので、そうすると閑上から見れば仙台平  
野綺麗に見えるからね、風光明媚でね。そういうった震災を教訓とし  
てね、広くやっぱり国民の皆様、危機意識とか持ってもらうため  
にね、そういうったものが震災の国のそういうった公園を石巻の方に計  
画してるようにだけど石巻ではやっぱり仙台から遠いと思うのね。だ  
からそのためにも、この大川小学校と今大惨事っていうことで閑上  
が二つが今回の大きな大惨事だと思うの、大川小学校も私もま  
だいってないけど遠いでしょ？仙台から。そうするとやっぱり仙台  
に近い閑上、ここにそういうった慰霊塔を作りながらやっぱり各自治  
体でもいまわれわれのやっってる第三者検証委員会の結果注目して  
ると思いません、インターネットで見たら15、6の都道府県で地方版で  
第三者委員会設置されましたっていうことで、報道になってますか  
ら。それだけいま首都直下地震、相模湾から日向灘までの南海トラ  
フ地震、これで各自自治体では対策やっってると思えますから、ついで

うことは、住民の命を守ると、一人の犠牲者も出さないような、やっぱり安全安心な街づくり、今回の検証結果ぜひ、役立ててもらいたいと思っはいるね。

### 名取市の復興が遅れているのは

被災した住民の、話を聞かないで、現地再建を決めちゃったからでしょ。自分のブレーション、いうこと聞く人を側に置くっていうことであれがそもそも間違いだと思ひますよ。だから隣の岩沼はもう来年の春には、集団移転でも入居しますよね、それは岩沼市は地域住民の代表者がみんなの意見を持ち寄ってあとは市の幹部がそこで話し合っ、じゃあ早く再建するには集団移転で玉浦西地区に近くは集団移転をやるうと、まあ何人かは反対して人いますけどね、それでも土地組合みたいな作っ、ここ坪単価はなんぼで売ると、そして貴方たちの被災したところはなんぼで買うよと、そうするとその差額があるから、それを貴方たちはどれぐらい用意すればいいよと、そういつたシミュレーションも、早くやつてくれたし、あとその土地、災害つていうか再建の街づくり、阿留多伎さんもやつてくれたでしょ？600世帯位かな、そうするとこう地域の人たちが集えるような芋煮会とかできるようなそういつたものをいち早く岩沼市は立ち上げて、動いたわけだね。ところが名取市は舐先構想つていう構想を出したでしょ。350億円使っ波を分けるんだと、だつて来た波つていうのは来るんだから、ねえ、そしてあと5700人で800人が犠牲になつて4900人でしょ？そしてもう避難したり、家建ててる人もいりわけだから、5500人の街を作ろうと、最初いつてたでしょ？それがそもそも間違いでしょと、無理な計画を立てたわけだ、だから被災した人の意見も聞かないで5700人の街で800人が犠牲になつた4900人だと、そうすると子供たちはトラウマで、もう津波見てるから、もう閑上に戻りたくないよと、あとは町の中にみんなすんだ人は、便利でしょ？鉄道があるから、それなのにまた閑上に戻つてバスの本数もない、人送り迎えしないとだ

めだ、ね、人商店街医療金融機関もないところに戻ろうつて言っつて戻つて来いつて言っつたつてやつぱり無理でしょ？新しい生活して便利などころに行つてれば、それを無理やり作るうとした、ね、だから浅はかだと思ひますよ私は、そして被災した人の意見も聞かないままに、やつてきたから、がれき処理だけは一番でしたよ。

一度カナダに帰ったけれど日本に戻ってくる

## 震災の前は

2009年の8月からALTをやっていた。現在は閑上中学校(仮校舎)。と二つの小学校、館腰小学校下増田小学校、と閑上小学校。ALTの主な仕事は英語の授業で英語の先生を手伝ったり、発音とかあと単語の発音、あとは、生徒がわからない部分を教えたり。あとは授業以外は生徒たちと話したり、小学校で外国活動の大体は英語、あとは広東語喋れるので、広東語の授業もやったことあります。で、小学校で英語を楽しく勉強、勉強って言うか遊び?ゲームとか。大体は5、6年生は週一回で授業あって、あともし時間あったら1年生から4年生までも教えて。

地震はあまり体験したことはなかった。国はカナダでほとんど地震はない。

## 地震の時は

地震の時は閑上中学校の卒業式でした、あの日は中学校にいました。朝は卒業式で、もう人が、子どもたちが少ないから、皆もう午後学校から離れて、それで午後先生たちと弁当食べ終わったら体育館で片付けしはじめて、そして地震があつて。立ってられないくらい揺れた。みんな体育館出て、そのままグラウンドに座った。最初体育館の前について、そのあと校庭に行つて、あとはえーとなんか津波くるといふ報告を聞いて、そしてみんな学校に入つて、校舎に入った。あとは小学生外にいた小学生も学校に来てあとほかの人も。地震があつた時、中学の前にまだ人が歩いてた、先生が、子どもたちに中学校に入らつて、そして私小学生と一緒に教室にいた。小学生は6人ぐらいいた。2階の教室にいた。津波くるまで教室に。津波が来て、あとは学校の玄関にいつぱい車が来て、流れてきた。部屋の上とか校庭に船とかも来て。校庭に船がいつぱい来て、学校の前に屋上、人が乗つて。あの時の一年生が、何人3、4人か、屋上の人を助けた。そのあとはいつぱい人が教室とか図書館とか、皆

いつぱいいて。図書館は2階にあつた。3階まで津波は来なかった。

津波は、窓から見た。津波がまた大きいのが来るといふ報告があつて、皆が怖くなつて、それで皆2階から3階に移動して、でもそれは来なかった。2回目は来なかった。でもずっと揺れた。教室、廊下で外見たり職員室に行ったり。何か手伝うことがあつたら手伝つて。みんな寒いから、服とか靴下とかを探したりしていた。食事とか、水とかは、あの日の弁当とか何人か先生は食べてなかったから、それを少し食べ、あとはクラッカーとかもあつて、少し食べた。トイレはあんまり行けなかった。非常用のトイレがあつて。

夜に何人かの生徒と一緒に職員室で座つて、寒かつた。できれば寝ようと思つた。それで、夜中人の音が聞こえて外から、真つ暗。先生たちが何人か電灯を持って人を探して、救つて、もう服とかもびしょびしょで。誰か人が入つてきて津波なんか被つた人がびしょびしょになって、あのとき水はそんなに高くなかつたから、学校に来て。夜中はあんまり眠れなかつた。寒くてあとは爆発音も外で聞こえた、外の。中学生とあんまり会話はしてなかつた。ちよつと不安だつた。

## 翌日は

次の日は、たぶんはやく、4時5時ぐらい。まあもう明るかつたですけど、外見て、屋上も行った。閑上の周りを見て、大変で、ずいぶん変わったなつて感じだつた。1階にも行つて、廊下とか泥だらけに。そして午後から人が来てバスで、最初の人を避難所に送つてもらつて少しずつ。ずっと最後まで男の先生は最後のバスで帰つた。夜になって、バスで館腰小学校が避難所になって、館腰小学校に行つて、あの日パン貰つて食べてすぐ寝た。毛布も貰つて。先生たちも何人かあの体育館で、下には何か敷いてなくそれに寝た。

次の日起きて、体育館が閑上の人々と私の生徒とか生徒の家族とか、で、市役所の人やパンを配つたり、して館腰は名取市の小学校だから、小学校の先生とも会つて、そして1週間、5日間ぐらいで

毎日食事を配ったり手伝ったり、服を館腰の近所の家と寄付された服とかそれを配ったり、手伝ってた。閑上中学の生徒さんなんかも何人か手伝った。

館腰小学校とか、中学校とかばらばらになって、そして自分の家族もまだ見つけなかった人とか。一緒にいなかったから、心配だった。ずっと日館腰小学校の外出てなかったの、外の世界がどうなってるか全然分からなかった。

### 急遽カナダに帰ることに

その後先生の家に行っちゃって休憩した。シャワーもして、そのあとお母さんが電話で聞いて、「早くカナダに戻ってください」って、お母さんから電話きて、戻ってこいと。すごく泣いてて、私帰りたくなかった。まだ学校で手伝って、でもお母さんがすごく心配で、あの日ちようどオーストラリア大使館が、バスで、仙台からバス、東京までのバス、大使館のバスがあって、先生を頼んで、地下鉄の駅まで送ってもらって地下鉄で仙台まで。仙台の市役所まで。

東京まで大使館のバスは東京まで行った。本当に悔しかった。なんか急に子供たちと先生たちも全然何も言わずに。行っちゃった。東京からは、あの時パスポートもないし、そして次の日大使館、カナダ大使館に行って、臨時パスポート貰って、あとは東京の税関で手続きをして、一日で全部終わって次の日カナダに帰った。カナダには一か月いた。カナダにいるときは、ずっと心配してた。あとはカナダで、色んなイベント、募金のイベントとか、参加したりあとインタビューされたり。

カナダにいるときずっと先生とメールしたり名取の状況はどうって聞いていて。それで学校始まることを知ってお母さんと相談して。また日本に戻って。お母さんはとても心配してたけど、まあ私の気持ちをお母さんにかけてくれて。

### 日本に戻ってくる

月末ぐらい。二十何日に日本に戻ってきた。閑上中学校は不二

が丘小学校に間借りしていた。生徒さんとかも再会した。始業式の日にはバスがあって、名取にすぐ帰った日は、新しいアパートに入った。私のアパートは一丁目だったけど二階だったから、荷物は大丈夫だった。最初周りのはがれきがいっぱいあって、そして戻ってこれなかった、行けなかった。

それでほかの AIT の方とか教育委員会の方が荷物とか運んで、新しいアパートに入った。

同じ日に不二が丘の校舎に行って、先生とあって、すぐ次の日にちよっと忘れたけど次の日に同じバスが出た。なんかみんな子どもたちが色んな避難所とか別な家とかにばらばらになって。そしてバスがあって、子どもたちとバスで学校に行った。皆の学校に行く笑顔があって、友達どおしがまた出会って。自分のクラスとか、「新しいクラスは誰が担任」とかみんな笑顔が。

### 2011年からは

普段通り AIT の仕事をやっていて学校に行って、多分前とあまり変わらなかつたと思う、まあ全然ちよっと違う部分もあるけど大体同じ。たぶん自分の考えることがちよっと変わったかな。閑上中学校は一人の人が亡くなって、子どもたち亡くなって私の友達も亡くなってで、たぶん自分のなんか人生の価値観とか考えることが変わって。

閑上中学は公園の方に仮のプレハブで 2012 年の 8 月から。もうすぐ一年。プレハブに移って自分の校舎があって、皆元気に、もつと元気になったかな。あとは仮設校舎だけど結構立派な、うん。あとはエアコンもあって夏るときはみんな、特に去年はすごく暑かったから、みんないっぱい使ってたそれはよかった(笑)。プールはないけど、「月の頭から不二が丘小学校のプールを毎日行った。

新しいところはとても便利です。名取駅の近くで、ほんとに電車、駅も近いしあとは自転車どこにでもいける。でも閑上に住んでいたアパートはとても新しく、なんかシャワーの機能がすごくよか

った(笑)。部屋も新しく、でも、閑上の時は遠かった。バスも少なかった。今のアパートから、中学までは、20分ほかの学校も自転車。大体20分で。

### 閑上の思い出

閑上の思い出は、カナダで住んでたところは海全然見えないから、ほんとに初めて海の近くに住んで、10分で自転車で見える海が。あと田んぼもきれい。あと、閑上だけではないけど晴れた日が山が見える。中学生の印象は恥ずかしがり屋だけど皆いい子供たちです。英語が恥かしくて喋れない。そして頑張ってるところが、見える。みんなが。なんか皆学校が好きっていうところが見える。私写真が好きなので学校の写真は結構とりました。みんなの笑顔とかも。それが、とても素敵。

### 今後は

ALTの仕事は来週まで、そのあとは一回カナダに帰って9月末は東京の方で新しい生活。仕事とかが住むところも全然何も決まってるけどでもなんか新しいことに挑戦したい。

今の仕事は5年までできる、でも私4年目、やりたいこともやって今いろんなことをやって多分私の性格は、すぐ飽きちゃうところが、そして新しいことを体験経験したいから、たぶん今のときは一番いい、あと、今年30になってもなんかもっと、真面目にじゃないけど、うん。なんかまたもっと自分の道を見つけない。日本が好きなのでまた日本で、住んで、続けたい。

女性の死に拘った  
元関上六丁目在

### 地震の時は

当日はちょうど3月11日は当時ファミリーマートでバイトをしてたんですね。ちょうど当日が10日の夜からの夜勤が入ってしまっていて、夜勤が終わってちょうど家で昼間寝てたんですね。ちょうど寝てる場所に大きい地震が来て、自分で自分、趣味でいろいろ登山とかまあアウトドア結構やってたんですね、トランシーバーとか、登山グッズとか装備とか全部持ってまして、地震きたあと外出たら地割れは起きてるわ近くの家はもう崩れてるわで、これはまずいなってことで。装備類一式身につけて、最初津波来るって思わなかったんですね。誰も経験ないっていうのもあれですけども、その前の日とかも結構津波警報出てて実際来なかったんで、まあ来ないんだろなあまた、って思ってた。ただ地震自体は強かったんで。まあ近所行って、最初、親と妹避難させてから、自分は残って、近所のお年寄りの避難誘導とか他の車で移動する人たちに乗せてもらったりとかしていました。あと結局個人的に家燃えてほしくなかったのので、近所のガスボンベとかしめ方したりブレーカー下げたりして走りまわって、かれこれ一時間も多分してないんですけど、そんな感じでやって。ある程度一段落したんで、一回家の2階登って様子見てから逃げようかなって思って様子見てたらなんか海のほうから音がして、なんか最初車がぶつかったような音がしたんですね。だから急いで逃げてる人たちでも事故ったのかなって思って窓の外見たらもう、百メートル先ぐらいまで黒い壁が来てるんですね。黒い壁っていうか最初津波ってわからなくて、その波の上を車がプカプカ浮いてるっていう。アパートの3階ぐらいにこう車が浮いて、これは津波だと思って、その瞬間もまだいまいちピンとこなくて、次の瞬間にそこにあった知り合いの家の屋根がひっくり返ったんです。ゴンって、「これ津波だ」ってなって、もうその段階で百メートル先

まで来て、もう逃げようないじゃないですか。走ってももう無理だと思って、もとから地震とかの時ってよくトイレが丈夫だっというじゃないですか。柱入って、そこにもう最初から潰れてもいように布団とか一式用意してたんですね。でそこに潜り込んで、窓の下にまだ人とかいたんで、一応「津波来てます」って言って、叫んでから毛布かぶってトイレに飛び込んで。最初は静かで、なんにもこないって思ってたらやっぱ津波が来た瞬間すごい音して、「やばい家ごと潰れるなあこれは」って思って、地震と揺れが違うんですね。なんか地震っていうのはこうガタガタって感じなんですけど、津波当たってるような揺れてるなんかドーンドーンってなんかこう大きなビルが揺れてるみたいな揺れ方して。最初津波が当たってるんだって思ったんですね。いつまで耐えられるのかなって思ってた。で、そして、なんか結構多分一瞬だったんでしょけど自分のには10分ぐらいずっと津波にあたってたんじゃなかったというぐらいです。途中で少し静かになったなって思ったらもう壁に亀裂が入り始めたんですね。そしたらなんか車が突っ込んで来て、流されてきて、なんかこう壁が壊れてフロント入ってきて、潰されると思ったら、運よく車だけ流されていって。で、壁の外見たら津波でもう周り何もないって言うのがわかって、まもなくして、揺れが収まったんですね。本人の体感的には10分ぐらいだったよいうな気がするんですけど、止まって。一応トイレのドアを開けて、廊下出て、階段見たら階段からは埋まってたんですね瓦礫で、ないうというより、多分家の一階が全部瓦礫入ってきてたんで。下は降りれないと思っで一応他の部屋も全部見たら部屋は残って。とりあえずどうしようもないから窓開けて外見るかと思ったら外一面海ですねもうなんか川っていか海みたいになって、何もなくなってます。その時まだ気づかなかったんですけど、実際は家の丁目りだっただんですけど、で、こっから「丁目のうらやすってあるの分かりま

すか？この貞山堀ってあるじゃないですか。これ通り越してそっちまで流されてたんです家ごと。

### 家ごと流された

家ごと(笑) 後で測ったら300メートルぐらいあるじゃないかってことになって「おおー」って。だから実際揺れてて水きてると思った間はなんかどうも家が流されてたらしいんですね。スピンしながら、逆に土台が外れたおかげで無事潰れずに流されたのかなって思ってる。で、最初流れ着いた時もその家のなか見て一回屋根に出ないと思ってる。隣にも家ぶつかって流れてきて、その一階の屋根みたいなのに乗って一応屋根に出たんですね。で、その時カッコがもう一人だけジャンパーとかブーツとか登山用の一式つけてたんで。今度屋根に上がって、様子見て、周りに何も無いんでどこにいるかもわからないんですね。最初もうてつきりうち以外全部回りが流されたんだらうなって思ってる、海沿いに松林あったの分かりますか？あれも津波のあとほとんどなくなってる、もうどこがどこか。ほんとどしたら松林あるほうが海だな。って言うのが分かるんですけど、見たら松林がないんですね、あっちこっちにちよいちよい木が残ってるなあって感じで。多少パニック状態なんでもどつちが海かほんとにわからなくて、屋根登ってとりあえず逃げられるにも結局、海の方に逃げたらまずいじゃないですか。できれば海じゃない方に逃げたいんで、方向確認するにも家は近所じゃないし、もうその木とかの目標もないしで、仕方がないんでとりあえず一応屋根登って、このへんに家が引つかかって残ってるのか結構あつて。震災後の河北新報の一面にあつた写真ってわかります？閑上の、アレのど真ん中にあるのうちなんです。で、流されて、屋根登って、とりあえずもうどうしようもないんで、人いなくなつて探してたら最初二人、屋根の上に登ってる人いたんですね。でこえかけ、そしたら屋根に登ったけど降りれないと言っていて、写真でもあつたと思うんですけど、火事が起こってたんですね。そこいても

まずい、煙もきてるしまずいっていうことでもう流れてきてる畳？それ発見して足場にして登って肩貸しておろして。

### いろいろな人を助けよう

片方はあの30歳ぐらいの方でもう一人の方が35歳ぐらいの、大学生の人だったんですね。両方女性の方だったんですけど。今度反対側から声が聞こえて行って見たら、中学生の、あとから分かったら友達の弟だったんですけど、それもいて引つ張りあげて。そして今度奥でおいさん、屋根沿いに動いてたのが足場なくて動けなくなってるってことで今度そっちに行つて落ちてる板とかまたなんだかんだ使つて飛び跳ねながら移動して。当時残ってた人って津波こないと思つて家で片付けしてたみたいなんです、聞くと。だからみんなもうスリッパとか裸足つて状態で、結局瓦も濡れて滑るしで瓦礫もあるし動けないんで、俺だけちよいどブーツ履いてたんで、そのおいさんとかも引つ張りあげて。あと民家の中に「民家の中に凍えて動けない人いる」っていうんで、じゃあ行きますって言つて行つて。引つ張り上げて出して、最後六人ぐらいになって、ちよいど屋根平らなところあつてそこで一回休憩して近所の人にそこにいた人たちにどこの人なのっていう話に最初なつたんで。ああ、丁目ですつて話したら、皆七丁目七丁目七丁目って言つたんで、いやあおかしいなあ七丁目から海に引き潮で流されてきたのかなあ。丁目までつて思つたら、冷静に考えたらよく見たらうらやすは流されないだろうさすがにこれは自分の家が流されたんだらうってなつて、ガスボンベ栓閉めないじゃないですかやっぱ。なんでもう栓閉めないやつがもうその辺流れてきてて明らかにガス吹いてるんですね。下見するとシューっていつて。で、まずいつて思つて最初に「タバコ吸う人居ますか」って言つて、タバコ吸う人何人かいたんで、「タバコはガスが危ないんですわなくてください」って言つて屋根の上で皆移動できるとこ限られてるんですね。途中から雪が降ってきたじゃないですか。雪で滑るわけで、どうしようもなく

て火が来た段階で今いる場所も最悪自分の命一番大事にしてくれって言って、そこから六人で今度屋根の上移動し始めて、移動できるところを自分が探しに行ったんですね、瓦礫とかあるんで最初見にくるからって話して。

### 女の人が怪我をする

屋根の上移動してて、その過程で途中で屋根から落っこちたんですね、落っこちたというか。屋根というかなんというかこう家横倒しになってる家とかもあつたんですね、窓が横になつてるじゃないですか。その上にたまたま雪で滑って落ちたんですね、結構な高さメートルぐらいのところから落ちただけだったらよかつたんですけどガラスで手首切っちゃつたんですね。止血するにも一応止血の仕方は講習受けてたんですけど結局あの状況だと止血する道具がなくて自分で一応震災のためにって言って救命キットとかトランシーバーなどしてたんですけど、津波くると思わないんで地震で多分余震でやばいだろうからって荷物とかそういう装備を外に出してたんですね、そしたらもう案の定流されちゃって、手持ちの装備がほとんどなくて、あつたのが携帯とラジオで、もうしようがないからイヤホンで止血するって言ってイヤホンで止血したんですけど、結局イヤホンだと止血なんてまともにできないんです、本人は最初大丈夫だつて言ってて、途中でもう結局足場なくなつて、民家のガラスを割つて入つて、今度毛布みつけてその低体温なつてる男性の人に毛布かけたり、あと俺たまたま濡れなかつたんですけど、ほかの皆濡れてたんで、服ある物で適当に着替えちゃつて話して、他人家だけこの場合仕方がないって言う話して、ある物きてくれって話して着替えさせて、で結局行く場所なくて、携帯で一回警察に電話繋がつたんですよ。自分の携帯最初何回かけても誰にもつながなくて、うちの妹にメール送つたらたまたま届いたみたいで「今どこにこいてういう状況で負傷してるのもあるから」って位置ここらへんだからっていう話して、携帯ってGPS（ごうごう）じゃなく

すかGPSのあれで緯度と経度送つてここににいるからって言って消防か自衛隊に行つてくれって言ったたら、なんかうちの妹だか家族に言つてくれたみたいなんですけど「今は助けられない」って言われたみたいで、家族は歩いて小学校まで避難するように言つて実際は中学校に逃げたみたいですね近いで、なんかもう津波来てしまつたとかなんかで、うちの親も地震きて10分ぐらいで避難させたんですけど、妹も、その建物にいる間まあその自衛隊もこないつてなつて、しようがないからとりあえず110番して、そしたらたまたま一回だけ110番かかったんです、そしたら警察に「こういうわけにいるんですけど」っていったら、「どうしようもないんでがんばってください」って言われて電話切られて。がんばってくださいってどう頑張るんだって思いながら。まあそんなもんだろうなつて思つて、そういう話皆にして、まあ警察も自衛隊もこの状況じゃこれはない、俺自衛官目指してたつていうのもあつて、そういう事情は分かつてたんで、ヘリが上空飛んでたんですね、ヘリも見るとなんのヘリかわかるんですね。いつでも最悪川に飛び込めるようにしておこうつてなつて、その段階でヘリが飛んできて、あれ自衛隊のヘリじゃなくて報道のヘリなんです、ヘリの機種とかでわかるんで、あれ報道のヘリつてわかるんですけど、みんな救助のヘリだと思つてしまふんですね、サーチライトとか当てられると、みんな手振り始めて、助けてくれつて上空だけど、実際はヘリつて乗つてると音や声聞こえないんです。ローターの音で声も聞こえないし、煙とかもあるんで高度下げられないので、あの高度だと搜索救難用のヘリじゃないとカメラとかついてない限り見えないんですね人とか。こつちもライト振つてるんだつたら別ですけどないんで、結局そうすると報道のヘリとかも実際は映してそのまま飛び去るじゃないですか、結局、そうするとみんなは見捨てられた気づかれなかつた。って駄目だつて言つて、なんでもう最初からあれは報道のヘリでそういうピックアップの道具とかも積んでないし、助けとか元か

ら無理だからって言う話して、結局食べ物とかももうないし水もないんで、あんま叫ぶとかえって体力消費するからって話もして、みんな納得させて、だから叫ぶのはやめようって話をして、多分もうここらへんに人居るのは気づいてるだろうって話もして、基本自衛隊でも何でもそうなんですけど、夜間って基本日没になると救助作業しないんですね。航空機って基本安全の問題で飛べないんで、そういう話もして、もう日が暮れてきたから多分この後は救助来ないから、って話もしてくるとしたら翌朝だからって話をして、それまで体力を温存してなるべく安全なところにつけて言う話をして、結局火がやっぱり家とその隣にはちょっと間があつたんもしかししたら止まるかなって、風向き的にも逆風だったんで、海の方向かってたんでこつちまで来ないかなって思ってたらなんか雪降ってくるって同時に風向きが真逆に変わったんですね。そしてもう火が一周してきて、結局家も燃えたんですけどダメだここにいたら燃えるって話してて、家なくてまあ瓦礫をぎりぎりわたって行けば次の家に行ける感じだったんですけどそこもパツと見てもう三軒先から先田んぼなんです。で水深を物干しざおで測ったらどうみても物干しざお全部埋まると、<sup>10</sup>メートル以上あるって言うの確認したんで、これをこの人数で泳いでって、普通の人が泳ぐの厳しいじゃないですか服なんか着て、だから泳げないっていう厳しいな話して、皆も最初は水には入りたくないって言って、いいから三軒だけでも先に行こうって話になったんですけどこの火のペースだと確実に三軒先も燃えるし三軒先って言うのはちようど多分うらやすがこの辺なんで、ちようどこのへんなんですわね流れていた三軒先が。そうするともう上から見た段階で中学校が一番近い高い場所だったんで、うらやすが、でもうこつちまで行っちゃうとうらやす遠くなっちゃうんで、中学校まで行くしかないけどこの距離を中学校まで泳ぐのは無理だろうと、<sup>10</sup>メートルの水深だから休むこともできないし、途中何か休む建物も何もないから無理だって話をして、でもやっぱり皆水に入りたく

ないって言うてなるべくあの家を移動したいって話になって、だから仕方ないし、俺もなんだかんと言え立場じゃないんで、もう最悪ここからは自己責任で自分の判断でって話して、俺はもうあくまで対岸のうらやす。対岸って言うても結構川って言うか水の幅が<sup>100</sup>メートルぐらいはあったのかな。結構あって、今見ると多分テイザンボリぐらいの幅あったんですよね、<sup>50</sup>メートルぐらいなのか、水深測つてもどう見ても足付かないなって、一応でも結局そっち行くしかないなって思ってた結局津波って一波来ると二波目も来ると三番目も来るじゃないですか、余震とかもあって、当ても結構余震で家揺れてたって思ってた後から聞いたら二波三波だったらしいんですけど、家揺れてて、そんな時はもう余震だと思ってたんですけど、津波くるとここにいたら、次津波着たら確実に終わるって思ってたんで、それを説明して二階に結局屋根の上のぼってるんで下の水面まで降りるにも結構大変だったんですよ。

#### うらやすまで泳ぐことを決意

ふすまとかロープ使つてさきおりに残りの人を肩貸して降ろして、こつからはもう瓦礫わたつて向こうの最後までとりあえずいくだけ行くか、川渡つてうらやすの方行くかは任せるんでって話して。うらやすのところの前まで行って、水に入つて、結局俺は水に入つて、とりあえず向こうの対岸まで行ってみますって話になって、ちようど人居るのは見えてたので、ライトとかで、向こうにも人居るみたいなんで浮くものペットボトルなりなんなり探してくるんでって話して入ったら最初こう入れたらたまたまなんかプロックかなんかのそこにあたってみたいで浅かったんですわねそこ、で油断してはいったらプロックじゃないところ入つたみたいでずぼっていつて消えてみてた人みんな「あつ」みたいな感じになつて、浮き上がつて「あーすいませんなんか深い」って言って、その時の恰好が趣味も入ってたんですけど普通に趣味で軍用メットとか持ってたんですけど軍用メットに軍用コートに迷彩のパンツにブーツだったんで、

皆自衛隊だと思ってたらしいんですけど、後から聞くと「自衛官だと思ってました」って言われて、詳しいしなんか自衛官だと思ってましたって言われて、その恰好だったんで結局泳ぐにも結構重くて、ブーツはだめだつてブーツ一回脱いで、対岸に思いっきりぶん投げで、とりあえず泳いで対岸たどり着いて、それみたら中学生から順に皆泳いできて、一応もし泳いでくるならつてタンスとか引き出し分かりますか？プラスチックの洋服ケースで使うプラスチックケース、衣装ケースみたいな、あれつて水入らなければ浮くんですよ。あれなんか用意しておいて、もし来るんだつたらこれ使ってくださいって、俺先行くんできて。行って、で戻れるときは戻りますつて話したんですけど実際戻れるかどうかなんてわからないんで、万が一のときはこれ使ってくださいって用意だけして、みんなそれ使つてきて、対岸についてうらやすについて、そしたら先生、うらやすの先生いて、いやここにも避難してるのいっばいいるからつて話になつて中いって、「中でたき火やつてるから」っていわれて「あつたまつてこい」って言われて言つたら、うらやすのホールみたいなの分かりますか？真ん中の。なんか中の真ん中にホールあるんですよ、ほんとはたぶん食堂かなんかなんですけどそこに30人ぐらいいたのかな、いて、焚き火してたんですね。その焚火も室内でほんとになんか天井も高いんですけど窓全部閉めきつてやるんですよ。寒いから。で、空気が明らかに入つた瞬間がおかしいつて先生呼んで、ここ絶対酸素濃度おかしくないですか？酸欠になりますよつて「窓開ける」つて言つて窓開けて、一回焚火の前であつたまつて、その段階でTaさんもその時はまだ調子普通で。

## 女性の死

結局Taさん亡くなるんですね。そのあと低体温、止血もできない、ほんとだったら縫合とかできるけど、道具が全部流されたつて言つて、一緒に助けたおばさんつて言うのがそのTaさんの両親だと思つてたら後々聞いたら両親じゃなくて友達の両親で、閑上の友

達のうちにたまたま遊びに来てたみたいで、今年卒業でもうすぐ東京に帰る予定だったんですよ。それで今仙台の大学に来て、もうすぐ東京に戻るから家にきてつて言うので来てたみたいで、その日はたまたま地震のちよつと前30分ぐらい前に「夕飯食べに来て」つて言われて向かつてきて、地震きて、どうも娘さんとかは皆最初に避難して、そのおばさんKiさんつて人だったんですけど、Kiさんつていうそのおばさんが忘れ物したつてつて話になつて、Taさん車あつたみたいで、戻りますつて言つて戻つたところに津波がきたみたいなんですね。あとから全部調べて、その時はもう全然分からなかつたんで。でもこう個人的にはその9人助けてそのあとうらやすでも何人か助けたんですけど、Taさんだけ結局なくなつちやつたんですよ一人だけ。でも俺的には結局その屋根から落ちたのも俺がもつと注意してれば落ちなかつたし、結局津波のあと屋根に上つた時点では一切怪我もなんもなかつたんですよ、全然元気な状態でもうだから津波で亡くなつたつて言うよりはほんとにもうそのあとの移動の段階で手首切つたことが原因で亡くなつてるんですね。だから人から見たらタダの事故だろうと。事故つて言つちやえば事故なんですけど、俺の中ではそれが納得いなくて、いなくて、そのうらやすの間もなんにもできなくて、結局翌朝の4時ぐらいに心停止になつて、先生とか介護関係者とかもう医療スタッフいたんでみんな心肺蘇生やつて、一時間半ぐらい4時前ぐらいに心停止になつてから5時過ぎまでずつと心肺蘇生やつてたんですけど結局戻らなくて、5時半近くに亡くなつて。でも結局全部終わった後でも今度翌日になつてそのTaさんのときも、俺は最初元気だったんでまあ大丈夫かなある程度、出血も止まつてたみたいなんで大丈夫かなあつて思つて、瓦礫の下とかベッドの下なんて年寄り結構流されてたんですね、中でやつぱり津波で潜つたはずなのに生きてる人居て、結局18人ぐらい助けたんですよ。生きてる人いっばいいらつしやつて、「助けないと」つて言つてもうみんなで瓦礫よけて、

もう8時ぐらいからもう11時過ぎまでずつと瓦礫よけで、お年寄り引つ張り出して、このままじゃ低体温でまずいからって全員焚火の前に連れてって、車いすとかも拾ってきたりもう担架布で作ったりして運んで、やっぱ中にはなんか亡くなってる方も結構いたんですね。でなくなってる人もそのまんまにできないからって言って、一個決めてそこ遺体安置室みたいにして、全部運んで、結局助ける過程で結構瓦礫の下になってる遺体踏んでたりとかもして「踏んでる」ってすぐに引つ張り出して、そういうので4時間ぐらいたって、へりは夜間飛行はできないんだと、夜間仮に飛んでも、ラベリングっていうんですあのワイヤーあれ降下する救出が、こういう場合はラベリング降下だけこの状況じゃ火災の風圧でへりホバリングできないし、暗くて無理だつて話して、「叫べば場所分かってもらえるんじゃないの」って言う人もいたんですけど、へりはローターの音で聞こえないつて話もして「じゃあどうすればいいの」つて言う話になって、とりあえずここで明日の朝までどうにかすれば、基本救助活動って六時で終わるんですけども、六時に始まるんです朝の、たぶんふつうは9時に始まるけど、こういう状況だったら多分もつと早く始まる、夜明けと同時に始まるだろうから、その段階で合図を送ればいいと思うつて話をして、みんな納得させて、食料も今探してくるからつて話して、全員落ち着かせてからその遺体回収、生きてる人助けたりとか食料探ししたりして、その過程で万が一のばあいまあ夜、絶対夜救助来ないと思つてもああいう状況じゃ言えないんで、ボートとかつて言う可能性もあるんで発煙筒とかないとわかんないだろうなつて話なつて、で、先生がその辺に俺のとスタッフの車何台か引つかかつてつて言われてたんで、それに行つて発煙筒とつてきますつて。車つて発煙筒ついてるじゃないですか、それを知つてたんでじゃあ発煙筒持つてきますつて、発煙筒持つてきて、あと消火器もあったほういいですねつてそのボンベもその辺にいっぱいあるし、火も向つてきてるんでつて言つて、あと対岸の火も見

張つとくんできてつて言つて消火器とりあえず集めますつてスタッフ何人かで消火器集めてもらつて、消火器つて比較的重いんで、あんま流れてなくてスタッフ大体ある場所分かつてたみたいなんで探してもらつて10本ぐらい集めてもらつて、引火するとまずいからこれ周りおいといつてつて常にだれか見張つてつて話して、そしてまあなんだかんたんで8時ぐらいになって、「Eさん心肺停止になって、年寄りとかも低体温症で結構なくなる方いて、朝遠回りしてつと土手の方通つて最後三階建てのうらやすの方に翌朝の10時ぐらいには移動したんですけど、今度移動の段階で食料とかカニ缶とか使えるだけもつてつてつて動けない年寄りも全員おぶつて二人がかりとか車いすで運んで、距離にすると直線だとすごい近いんですけど結局迂回していくようになったんで、100メートルぐらいあったのかな結構な距離あつて、往復してる中で今度三階建ての方結局上浸水してないんで向こうもスタッフとかいてラジオでなんか「津波警報がまたでた！」つて言つて、また来るつて話になつて「みんな走れ！」つて言つて、走つて、結局遺体とか一番最後にしようつておきつぱなしになつてたんですね、でも俺の中ではもう他にお年寄りとかも多数いたけど、そっちまでは面倒見れないからつて言つて、俺の中ではせめて「Eさんの遺体だけでもつて、家族に返したいなつて結局遺体一階にあるんで津波来たらまず流れるじゃないですか、そのまんまにしといたら。で、戻つて、最初は先生とかにも「戻るなダメだ」つて言つて「生きてる奴が大事だ」つて駄目だつて言われたんですけど、五分待つても津波来ないので「これは来ない」つて言つて一人で走つて戻つて、最初普通にもち上げて行こうと思つたら重いんですね。よくドラマとか見ても死体は重いつていうけど、ほんとに重くて、結構力とかには自信あるほうだったんですけど80キロぐらいだったらあがるかなつて思つてたらほんとに重くて全然上がらないつて、仕方ないから引きずつて途中も床に一回降ろして休んだりして、泥まみれになつたけど申

し訳ないけどそのまんま運んで、でもそれでも三階建ての手前で俺も食ってないし夜勤明けでもうノックダウン状態で遺体そのまま外に置きっぱなしになって。俺ももう動けなくなつてスタッフの人きて「遺体は諦める」つて言われて俺だけ連れていかれて。で、もう遺体もとりにあえずそのままシートだけかけて置いて、今度三階建ての方行つてまた遺体運んだり食料探ししたりで、三日ぐらい過ごして。

### うらやすを出てから

救助来なくて、一応二日目に一回ここにいってもダメだ助け呼ばないつて、当時まだ携帯もつながらないし「じゃああっち側に行けば消防とかいるから呼びに行こう」つて話になって服とか食料も食料はなんか備蓄の倉庫が流れてたの発見したんですねうらやすにあったやつ。それを俺とスタッフで取りに行きますつて取りに行つて、スコップとかで壁なんかもう、ちようど倉庫つて家にあるような倉庫で、戸がスライド式の。なんか運の悪いことに扉が下になつてしまったんですね、なんとかあけて取れるものとうつて言つてとつて持つてつて、食料はあつたけど服がないつて今度始まつて、じゃあ中学校とかに多分避難所として稼動してるだろうから俺とか動けるから、瓦礫とか水、泳いでみたり瓦礫の上飛び跳ねたりしてなんとか中学校の方まで行つて、小学校行つて、で小学校行つてなんかやっぱりなんもないなあつて言つて音楽室とかいいたら、なんかコココーラとか飲み物がやたらいっぱい山積みになつてたんですね。後で聞いたたらなんかちようど自販機の補充にきてたトラックが近くに流されて、その運転手さんが持つてきて皆で運んだらしいつて。それ持つていこうつて言つて。これ持つてくかつて言つてなんかいろいろ持つて選んで、全部はさすがに持てなかつたんで、二人だつたんで二人じゃこれ全部運べないし服もあるけど運べないなつて言つてたらやっぱみんな同じこと考えた近所の人が結構入つてきて、名前とか聞かなかつたんですけど近所の20代ぐらいの若い人いて、

「よかつたら手伝いますよ」事情話したら、「手伝いますよ」つて言われて、じゃあすみませんお願いしますつて言つて手伝つてもらつて、ジュースとか服運んでもらつて、こつちの街中は水引いてましたね。うらやすのところは水浸しだったんですけど。

### ボランティア始める

両親とかとは一週間後ですね。会つたのは。遺体回収だのその三日間は孤立してたし、もう街中ぬけてからもPaさんのことかなんだかんだで忙しくてそつち優先しちやつてたんで。それも終わつて、一安心になつてまたボランティア始めたりして。結構いろいろやつて、遺体回収の案内やつたりとか、安否確認からあとあの途中で極楽湯、であの、お風呂提供つて言うんですか、あの企画とかやつて、あれ太田さんとふたりで回して、バス案内したり毎日行つてタオル配つたり、あとボランティアの管理したりとかいろいろやつて、ボランティアの管理のボランティアです。

### 助けられなかった人も

結局助けたのが大体18人ぐらい助けられたんですね、18人ぐらい助けて、助けられなかった人が30人ぐらいいて。

### 今後は

今後住まいのこととかはうちの両親はなんかどうももう閑上には戻りたくないみたいな感じで、理由としてやはりそういうことがあつた場所は嫌だし、あとその思い出すつていうのもあるし、名取が丘に住んで結局閑上つて海沿いのはずれじゃないですか、名取が丘だとけつこう街中なんで、こつちのほうが便がいいつて住み慣れたつていって。

### 閑上の良いところ

閑上あの、やっぱあの近所間のコミュニケーションが多いですよ、あとみんな閑上の人たちはフレンドリーですねやっぱ、閑上のいいところはフレンドリーなところですかね、ただ震災前とかそんな近所の人にあいさつするとかちよつとお茶飲みに行くぐらいだつ

たんですけど、震災後ですか、色々働いてたんで、結構顔色々知ってる人多くて、市役所で働いてる時とかも声かけてくれて、そういう意味ではみんな覚えてくれてるんだなあみたい。地域の輪つていうと、フレンドリーな感じはいいですね気楽に話せるっていうか。

地震が来て正直ほっとした。前から地震が来ると言われていたので元関上三丁目

#### 地震の時は

元は関上三丁目。日和山のすぐ近くです。

地震の時は自宅にいました。すごかったです。もう立っていられなくて。玄関から逃げられるような状態にしていました。玄関の太い柱のところにつかまってました。下駄箱は倒れるし。これはまずいと思いました。もうすごかったから、とてつもなく揺れて一瞬だめかと思いました。その時は一人でいて心細かったです。しばらくして大きな揺れが止まりました。すぐ家の中を片付けなくてはと思い、夢中になって片づけをしました。茶の間のところ、仏さんは花瓶は倒れなかったから少し安心しました。台所を見たら冷蔵庫は倒れてなかったんだけどあたり一面凄かった。茶碗とかね、とにかく早く片付けることにばかり夢中になってました。

あっその前に、ちよつと外に出て道路に行きました。そしたらみんな近所の人たちが出てて、瓦落ちたとかみんなで三分ぐらい話して、ほつと安堵したような顔でした。宮城県沖地震来るって言われて、オオカミ少年じゃないけど何回も言われてきましたから。今後はそれほどの大地震にはあわずにすむと思うとほっとしました。

片づけに必死でした。多分皆さんもそうだと思います。30分以上も片づけした後、停電に気付き携帯のラジオを思い出しスイッチを入れました。津波が来ると……。でも大したことないと思っただけ、今までも関上には津波は来ないと謝った先入観を持ってましたから。津波が来ても、1mぐらいだろうと自己判断し、それでも車で逃げることにしました。とりあえず免許証とバッグだけもって、着の身着のまま出ました。すぐ戻ってくるつもりではいきました。避難する通りは迷いましたが、バス通り、中学校、生協の通りは渋滞すると思い、斎場を通り、小塚原に行き、県道は知らないで田んぼの中の宮農方面に向かって塩釜亘理線の県道を越えればと考え運転しま

した。その道路はあまり車は通行していなかったと思います。交差点を慎重にわたつてからコンビニに寄りました。まず安心しました。みんなコンビニでパンとか、食料品いっぱい買つてるので、自分もペットボトルのお茶やパンを10個ぐらい買いました。その時コンビニの前の道路にサラサラと水が流れてきました。まさかと思ひながら慌てて車に乗りすぐそこから脱出しました。間一髪でした。さらに西方のエアリ方面に脱出しました。ラジオもつけて、仙台の藤塚あたりに200人が砂浜に打ち上げられたと聞いたときは、恐ろしくなりました。仙台空港にも津波がきたニュースで事の重大さを知りました。それでも我が家は床下の水位と思つて、戻ろうとしました。この時までまさか津波で閉上の町が亡くなるとは夢にも思ひませんでした。

消防団がいて、もう行けないよと言われ、二か所の検問で戻れないことを知りました。バイパスに出ようと走行したが、大渋滞車が全然動かず、困ったが増田に弟がいるからとりあえずそこをめざし、何時間もかかつて着きました。雪もちらついたり、夜になり、泊まることにしました。主人は仕事でしたが携帯はつながりません。嫁にも何回も携帯しましたが、つながらず心底困りました。それでも夜遅く連絡が取れたときはほっとしました。

### 公民館には避難しなかった

多分私は渋滞すると思つてました。とにかく県道より西方に逃げることを決めました。逃げる際も県道は大渋滞するからそこを走行してはまずいと思ひました。朝、晩は渋滞してたから。

### それからの避難

弟の家には二泊しました。ガソリンも少ないし、今動いたつてやたらとガソリンなくなつてしまうから動かなくていいと弟に言われ、皆で買ってきたパンを夕食にしました。二日目は姉がおにぎりを大量に持つてきて事なきを得ました。主人は近くのホームで働いていたから、二日ほど宿泊しました。その後利府の次女の家で生活しま

した。長女は仙台市荒井にいたので、孫の世話、食事作りなどそこでも生活しました。食料確保が一番大変でした。

だいぶ期間が過ぎてからアパート探し、美田園物件探しましたが、空きがなく、今のアパートを借りました。入居したのは四月中旬からでした。第二の人生が始まりました。

### アパートを借りる

さみしいのね、友達もいなく、近所の付き合いもなかったから。家財道具等何もかも流出したので、不自由と戸惑いは大でした。今まで何気なく生活していたのが、一瞬にして慣れない生活になったから大変でした。家財道具、必需品の購入が思うようにならずに苦勞しました。冷蔵庫、ガス代電灯など売り切れ状態でした。かろうじて購入、確保しました。

このような生活は今まで経験したことももちろんありませんし、毎日の生活を送っていました。必死なだけどころなくの生活です。閉上の地域の方々が当方面に生活され、時に顔見知りの人と会うと、お互い無事を確認し、色々とお話をしたり言葉をかけあつていきます。懐かしさがこみ上げてきます、とてもうれしくなります。

日本赤十字からの支援物資は大変ありがたく、生活を援助していただききました。また、いろんなところや企業からの心温まる支援は私たちを元気づけるものでした。遠い長野からの炊き出しで、皆で頂いたおいしい蕎麦など涙が出るおもいでした。一般の借上げ賃貸も徐々にご配慮いただきありがたいと思つていきます。また、賃貸も金額補助していただき感謝しています。

### 一番悲しいのは亡くなった人のこと

一番悲しいのは亡くなった人のことです。親戚、友人、知人、近隣の人、大在の方々が亡くなつて言葉を失いました。震災前まで気軽にお茶っ子したり、お話した方々が一瞬にして命を奪われたのですから減入つてしまいました。

## 今後のこと

今後のこと、もう閑上には戻らないつもりでいます。土地をかさ上げしても住みたい気持ちがありません。何十年も住んで閑上の良さは心に十分染みております。思い出は一生胸にしまっておきます。

**このサロンは**（注 名取市では見なし仮設住民に対して、何カ所かの拠点サロンを置き、支援員を配置している）

このサロンは、去年の、確か24年12月17日に開設していただきました。閑上に住んでいても初対面の人も多く何回かお話ししたりして、友達になったことが一番大きいです。同じ被災している者同士心が通い合えることだと思います。福島からの方もまじえ、和気あいあいという雰囲気です。バッグなどの物づくり、西本願寺さん、また、遠方からの元気づけの支援は減入っている心を明るくします。ストレッチにできるだけ欠かさず参加しています。皆さんが集まると笑い声が絶えません。本当にサロンに来てよかったと思います。ありがとうございます。

## 閑上のいいところ

これはいっぱいあります。気軽に言葉をかけあって話しやすいところ。事件とか事故もないし、安心して住んでいられるところ。私も嫁にきてここで一生を終えたらいいなと思っていました。食べ物豊富だし、気候もいいし地域の人もいい人ばかりです。みんな知っているから安心感があります。いつも子供とか孫に自慢していました。ここはいい地域だと。閑上は雪も少なく、冷房もいらず、食べ物豊富で、新鮮な魚が取れて生活はしやすかった。

大震災にあつて、とにかくこれは天災だから仕方ないと思つてます。日本の国に生まれてよかったと思つています。国を挙げての復興や支援、全国からの多数の方々からの支援、応援に深く感謝申し上げます。これからの人生を前向きに生きたいと思つています。

不幸な偶然が重なって・・・

## 閑上七丁目

### 地震が起こったとき

住所は閑上の7丁目、浦安の通りの田んぼ沿いの家でした。

震災の日は家にいました。あの日家族と一緒にいて、母親が具合が悪くて、その日仕事を休んでて看病をしてたんですけど。その日の午前中に閑上のクリニックに行つてですね、帰つてきて。午後帰つてきたときに妹も、名取北高だったんですけども、その日試験日、試験の最終日だったんです。期末試験の最終日だったんですけども、母親が心配で帰つてきたんですよ。部活動やってれば、高校に残つてるつてこともできたんですけど、その日は母親が心配で昼ごろ戻つてきたんですね。

地震の後は、たまたま父親と電話が繋がつて「名取の商工会館に営業あるから向かつてただんだけ大丈夫か」という電話が来まして。中田の方から走つてきたのか分からないんですけど、大体その辺りにいたような口ぶりだったんですけど、電話した時に。閑上の方に戻つてきてくれて、近くまで戻つてきてくれましたね、会社の営業車で。

母親はその2週間前から風邪引いてた感じはあつて、その日クリニックでインフルエンザつて言われて。就職活動中だったんですけどまたま休みでして、「母親の看病よろしくな」つて父親に言われてまして。地震が来てからは、最初自分は昼寝してたんですけど、とんでもない揺れで飛び起きて、部屋の電気が落ちて壊れてしまつたり、テレビとかが吹っ飛んできて壊れてしまつたりとかして。尋常じゃなかったですね。家の中が散らかつてしまつて、そのうち寝ていた母親も起きてきてですね、妹は家の「階にいたんですけども。父親から電話がかかつてきたのはそんな真つただ中だったんです。

## 津波

あの日は妹も、自分も荷物をまとめていたんですね。母親も寝間

着姿だったのが普通の私服姿に着替えて出て来たりして。ラジオも付けたんですよ、あの日。テレビはダメだったので、完全に。途切れ途切れに確かに大津波警報が聞こえていたんですけども。妹も携帯電話でSNSかなんかを見ていたのか、「閑上中学校にみんな逃げています。」とは言っていたんですけどね。だから荷物をまとめたり、そのうち父も戻ってきたりして。

家の様子を見たり、隣近所、人んちとか心配になつて声をかけたりしているうちに、足元に黒い波が来まして。その時、みんな外に出てたんですね。妹と母親が、隣の家にもちよつと耳が悪くて足が悪くいおばあちゃんがいたんですけども、そこに行つて。で、父親と自分は道路のほうにいたんですけども。火事でも起こつてるのかなつていう感じだったんですけど、煙が上がつて。今思えばそれは、津波で家を砕いてる煙ですよ。まあ全く気付かなくて。音がもう、「また地震来るのか？」って感じだったんですけど、外に行つた時の状況が。

閑上はずいぶん前に洪水つてあつたんですけども、それと同じような水がサーって流れてきて、母親が「津波！」って。おばあちゃんのとこで言つて、父親が「2階に2階に」って言つて、それで自分はそれを聞いたつてこともあるんですけど、正直なところ自分の荷物が心配で、駆け上がつていったんですけど、一目散に。階段駆け上がつているときに、階段のぼつてる時に玄関で父親が母と妹を待つていたように見えたんですけど、それが最後の姿だったんですけども…。

母親と妹が隣のばあちゃんを連れて来ようと、家に来ようとしていたのか、父親がとりあえず待つてたんですけど、玄関先で。それでまあ、自分が駆け上がつて、2階に駆け上がつた瞬間には2階ごと自分、流されてしまったので。で、2階の窓ガラスが割れる音がしたんです。「地震でも割れるもんなの？」って思った瞬間にはもう、家がもう、家が流れて。で、閑上中学校が見えたんですよ。家の廊

下が流されてつて、廊下が消えて。その奥に閑上中学校が見えて、グラングラン揺れてるような感じで見えて。それで、多分、もう沈むと思つたんで、家の中にいても。たまたまベランダ側の窓が開いていたので、そこから流れるように抜け出したんですけど、自分が、色々がれきに挟まれたりトタンにつかまったり、また流されて流木とかにつかまったりを繰り返しながら、どこからか流れ着いた人の家の、屋根が流れてきて、そこを目指してはいずれあがつて、救助を待つていたんですけどね。

救助を待つてる時も火事が、火の粉が飛んできたんですけど、自分のところまで。自分の近くにも人がいたんですけど。父親とその赤ん坊で流されてきた屋根の上に乗つかつてた人、それとまた別に離れたところでも流されてきた屋根に体育座りしている女の子がいたんですけども。結局次の日、父親と赤ん坊のほうは自衛隊の方に一緒に結局助けももらったんですけども、女の子のほうはちよつとなくなつちやつて、多分入水自殺したんだらうなつていう。すごいヒステリックになつてたんですけど、「お母さん！お母さん！」って言つて。それで翌朝明るくなつてから、その赤ん坊の父親が、「近くに女の子がいたんで、自衛隊さんお願いします」って言つてたんですけども、つてことがあつたし、火事がすごかつたじゃないですか。その燃えさかる家の中に人がいるわけですよ。なんかもう、なんか、小学生くらいの姉妹が、それも、もう、うん…、初めて、人が亡くなるつていうか、命が消えるつていうのを目の当たりにして、においもきつかつたんですけども、その、叫び声つていうのがいまだに耳に残つて。もう、家々がもう火事で全部崩れては燃え移つてつてのを繰り返してたんですけど、爆発も起こつてましたし。

そういう、まあ流された、人が流されたつていうのを見た人はいたんですけど周りに。自分はそういうタイプではないんですけど、そういう人を見てはいなんです。そうやって亡くなった人は見たんで

すけれども実際。うん、まあ、なかなかそういうのを伝えたとこ  
ろでっていう部分はあるんですけども。当時取材を受けた時にも、  
全部伝えなきゃいけないっていう気持ちで話していたんですけど  
ども。結局、津波の検証という枠を超えて取りあげられたわけでは  
ないので。なかなか自分にあつた部分が伝えられないなって気持ち  
もあつたりして、うん。

その、ちよつと不謹慎なんですけれども、その亡くなっている方々  
もいるのに、その、火事の、火事の炎つてあつたかたつたんですよ、  
すごく。もう雪降つて寒かつたんですよ、全身ずぶ濡れだつたんで。  
でも、火事の火のおかげであつたかたつたつて思えた、という、複  
雑な部分があつて。だつて火事場で亡くなっている方たくさんいら  
つしやいましたから、当時。

母親は佐々直に勤めてたんですけど、従業員みんな避難したみた  
いなので、出ていた人は。具合悪くなくて会社に行つてればつて思  
う、思うところもあるし。父親も、なんでその日に限つて名取で営業  
があつたのかなつていうのもあつたし。妹も家に戻らないでいつも  
通りに部活をしていればと。だから危ないのは自分だけだつたと思  
うんですけど、そう考えると。あの日は、揃つて助かつたつて人も  
いるんですけど。まあ、揃つたがためにつてことなんです、うち  
は。ちよつと、逃げる準備もしてつて。だけど遅かつたんです、う  
ち。うーん、かなり悠長に考えてたのかな。

「一年前もあつたんですよ、津波くるつて、ええ。だけど全然そん  
な、みんな呑気でした、今思つたら。どうせ来ない、来ないだろ  
うつてとかつてつて、公民館集まる人もまばらだつたし、あの日。  
町内会長とかも、メガホン持つてスピーカー持つてなんか、「逃げて  
ください」みたいなこともつてたんですけど。あの日はもう、な  
んにもそういうこともなく、みんな自分の判断で動いてましたから  
ね。

車とかで猛スピードで走つていく、家の前を走つていった人たち

もいたんです、あの時。だから、だんだんその、五叉路で渋滞  
なつてたとかなんとなんて話聞くと、ああ、そんなみんな、避難  
してたんだーみたい、うん。全然もう、話でしか聞いてないです  
けど。ちよつと他の人とは違う体験なんですけど、自分は。実際流  
されて。

### 避難生活

それで、自分も救助されて閑上小学校行つた後に館腰小学校に移  
つたんですけれども、それが大体△時ごろだと思つるので、大体ほん  
とに地震から△時間後に、自衛隊の方が、ボートで来たんです、  
閑上小学校の方から。それで、自分以外にも、鉄骨の家だつたかな、  
流されなかつたんでしょ、火事を免れた家の方と一緒に救助  
されて、県道塩釜線のふちにボート付けて、小学校の体育館で毛布  
にくるまつていたんですけど、間もなく移動することになりまして、  
すごく閑上が危ないつてなつて。

それでそのバスに乗つて館腰に行つたんですけれども。ずっと  
震えが止まらなくて、あの、毛布とか頂いてたんですけども。  
次の日の夜になつても全然、夜になつてもですね。館腰小に一緒  
行つたときに、たまたまバイト先のおばちゃんの、その娘を探して  
るつてことでお会いして、その人が助かつて、その人が流れ着いて  
助かつた小塚原のおうちの方と一緒に館腰小に来てたんです。そ  
の後一緒に行動し、バイト先が一緒だつたおばちゃんと、それで、  
その人んち、小塚原で家が残つた方のおうち2階部分で、△晩くら  
い泊まつたのかな、「△晩△晩泊まつて、そのうち自衛隊の方が来て、  
ちよつともう危ないですからつてことで避難所の方に避難したんで  
すね。

最初文化会館に入りたかつたんですけれども、そこは人が多過ぎ  
て、駄目だったので、自分の母校である名取北高の方で一週間ほど  
お世話になつて。妹の担任だつた先生と妹と自分、弓道部で一緒  
だつたんですけれども、お世話になつた顧問の先生もいらつしやつ

て。いろいろ話をするために名取北高の体育館の方で「週間くらい。そのあとは隣の増田中学校で、増田中学校にいる時点で民間借上げの手続きしたので。避難所とアパートの行き来してってことになるんですけども、2か月くらいだったのかな。

父と母と妹は、2階に逃げて流された時点でもうだめだと思ったんで、自分は運よく3人とも遺体見つかったんでよかったですけども。避難所生活しながら、そのうち叔父叔母つてのが東京と埼玉にいるんですけどもバスでこっちの方に来てくれたんですけども。叔母と一緒に遺体探しをしてくれましたね。それで、1週間後に父親が見つかり、その次の日に妹が見つかって、で、その次の週の水曜日、24日あたりに母親が見つかりまして。閑上の火葬場で遺体を付すことができたんで。ほんとに、まあ、自分の場合は運が良かったですよ。そのほかのこともいろんな意味で。大変だつていう人はたくさんいただろうし。火葬するのも大変だつていう。

一人になって心細かったのもありますし、避難所で一緒になった人、近所の人もいたんですけど、そういう人たちと話したりとかしたりして、気持ち保つてた部分がありますよね。避難所がなくなってしまうってときにはちょっと不安にはなりましたけど。

増田中学校では別に活動は何もしてないです。掃除するくらい。食事の手伝い、皿洗い程度。そんなにずっと避難所にいたわけじゃないので。たまに顔出して食事もらうのもだんだん心苦しくなってきましたですね。寝る場所がアパートっていう。それでアパートは、たまたまその知り合いの方に紹介してもらって、叔母もちょっとそこ工面してくれて金銭的に、当時は。それで、すぐ決まって。いまだにここで住んで、て感じでしたね。それでそのうち取材受けたりであまり落ち着かない状態ではあったんですけども。

### 妹がテーマとなった演劇

最近でいえば、自分の妹の担任の先生だった人が演劇部の先生で、妹のことを題材にした演劇が、このあいだ全国大会に行きまして、

それで、文化会館の方で閑上の人によってやっていたんですけど。それで「近所さんだった人とかいろんな人に連絡をして。それで来ていただいてっていうこともあったんですけども。

こうやって、地元残ってるから、そういうこともできたのかなーなんて思ったりしてて。どうでしょうね、そうやってお酒の場であったりお茶飲みの場であったり、食事の場でいまだに交流ある方は結構いますね。演劇は妹がテーマで、鎮魂の意味も込めて、ほとんどフィクションなんですけど、題材が閑上なんですよね。その演劇が全国大会に行つて、優勝は出来なかつたみたいですけど。その先生が、震災の年から、「妹さんを題材にした演劇書きたいんです」って、「いいですかね」ってなんて言われて、すぐにもう「お願いしましゅ」ってことでやつてもらったんですよ。そしたら、いつのまにか東北大会で優勝して、今度全国大会に行くんだって今年、連絡来まして、先生から。その北高の演劇部の学生さんを、この前、日和山に連れて行って演劇のワンシーンをやっただんで、その場で。「閑上の風を感じさせたかった」っていうことを先生が言つて。その先生自身も、日和山に登って脚本書いてみたいで。それで、学生さんも思うところがあつたのか、ちょっとシーンとなつてしまつてですね、あの、初めて来た人もいたんで。

その先生は、定年後は閑上に住みたいって言つた人で。閑上の魅力語つてくれたんですよ、コミュニティが密なこととか、閑上の出身の学生さんが素直な子が多いとか、なんか他の地域に見られない、いい部分もあるよねって。本人たちは嫌なのかもしれないけど言つてたりして。それで再確認した部分がありましたよね。「あー、閑上ってそう映つたのかなー」って。増田の方の人たちから見るとそう見えてたのかなーって。閑上に対する愛着が湧いてきましたよね、そういう話聞いて。

### 閑上の人との関わり

いろいろ話を聞いて、自分、これからどうしようかなって。ほん

とに全然、足取りすんごく重いです、今。あの、なんか、なんだろう、震災をきっかけに、自分だけ時間の流れに、流れから取り残されてる気持ちになって、なんかうまくいってないなあって気持ちはあるんですけども。

今こうやって、唯一、閑上の人と話して、その時に「あー、そうだったよねー」とかって、そうやって心晴れる気分はするんですけども。ほんとに、避難所で一緒だったおばあちゃんとかによく遊びに行ったりしますから、よく、いまだに。もうそういうことですか…。

震災前は閑上から離れるつもりだったんですけども、閑上のことあんまり好きじゃなかったんですけども、震災をきっかけにすっかり閑上の方にお世話になってるので。なんか、地元に残りたいてって気持ちが芽生えましたし、どうにかして閑上に、っていう風な気持ちにも少しはなってるのかなっていうとこなんですよね、今。閑上の人とは、お茶飲みにいたり話したりっていうのがあったり。

あとは、保健センターのカウンセラーさんが毎年被災した人を集めてって、毎年つかもう、何か月にいっぺんかイベントやつてるんですけど、そういうのに参加したりっていうことをやってますね。今は、今度も10月、10月かな、10月の第二土曜日だったかな、に、「めぐり愛会」っていう、被災した人が集まって芋煮会するんですけど。っていう活動を、活動っていうのかな、うん、ただ参加してるだけなんですけど。そんなにも顔出ししたりして。そこで知り合ってた人んちにも遊びに行ったりもしてますけど。閑上の人にも会えるんで。自分の知り合いではない閑上の人にも会える機会も多いので。離れた人も来てるんで。そうやって、閑上のなまり言葉で喋ってるの聞くとああ、いいなって思いますよ。今すぐく年配の方たちが多いんですけど。

### 閑上の人の気質

嫌だなーって思ってたのが、祖父母、ばあさんとかのお茶話、孫

自慢みたいなの。あと、祖父母が〇〇士だったので、声かけられるわけですよ、年寄りの人から、自分が。でも、自分、全然わからないわけですよ。それで、挨拶しないとまた陰口たたかれるし、みたいな。異様にそういう、人んちの細かい事情まで知ってる家が多いかなっていうか（笑）、話がほとんどそれっていうような。

もうびっくりするんですよ、この間、〇〇さんとかで何々買ったとかなんとかっていうような、話も出てくるし、「ええ？！」みたいな。だから、中学校で授業受けてるときに、犬が田んぼ走ってる。「あー、あれどこどこさんちの犬だ！」（笑）。とかって言ってる人もいたし。ほんつとに恐ろしいですよ（笑）。

ほんつともう、そういう環境だったのでみんな親戚みたいな。全然もうそういうのがもうほんとに嫌で嫌でしようがなかったんですけどね、今は心地いいんですけどねすごく。家族いなくなっただけというのが影響してると思うんですけどすごく。ええ、そうですね、うん、ありがたいなーと思って。だってそうやってまだあーって言うてる人たくさんいるんですけど、ここにきてくれるお客さんだつてこの間だつて「あー、〇〇ちゃんこのだよねー」って「あー、そうですー」って言って。自分は知らなくても。

全然地元の友だち少なかったですよ。顔は知ってるくらいで同級生との交流全然ないって言っても過言ではない。1人かな。ほんとに親友っていうのは。あとは全然。そういうのも影響して地元に着元々なかったんですけど。友人も外で働いてるんで、宮城じゃなくて。会う機会もお盆の時だけだったりする。だから、震災後ほんとに、いろんな、そのモンゴル行ったりもですけどめぐり愛会もそうですけど、避難所で知り合った人もですけど今は付き合い濃いですけど、かなり。

若い人同士っていうのとは違うんですが、親世代とかじいさんばあさんの伝え聞きみたいなのがあったんで。こっちは聞かされる

側ですよ、子どもは。それで、葬式あるたびにとか、あの人んちはこうとか。っていうのは、そんなですね、会話は。楽しんでる節はあったんじゃないですかね。特に女性の方とか、閑上の。うちの旦那がー、とか何々ちゃんかどうのこうのー、とか。そういう気質ありますよね。あの嫁さんっていういじめられるみたいなのか。閑上に入ってきたら。よそ者、よそ者っていうかそうやって鍛えられてんだんガサツになっていく(笑)。閑上の人になっていくっていう感じのありますよね、あの今はあちゃん世代の話聞いてても。うちの母親も、大変だったよなー、うちのばあちゃんにいじめられてっいう。いじめられてっいう言い方もおかしいですけど。みんなそうなんですよ。苦労はありますよね。母親の苦労はよく聞かされてたんで。

今思えばすごい個性が強いついていうか、閑上の人って。ほんと強烈な人はたくさんいました、閑上には。

バイトしてる時も思ってたんですけど。閑上っていうかまあコンビニですよね、小塚原のファミリーマートで。煙草の名前でお客さん覚えてたりとか。ああ、この煙草のおじさん亡くなったんだっけみたいな話もしたりして。その従業員はみんな助かったんですけど。娘探していたおばちゃんもそうですけど、やっぱり家族でダメだったって人もいて。

市役所とかでも声けられたこともありましたし。ファミリーマートの人ですよねとかって、「ああそうです」って。NHKでテレビに出た時期だったので。あの、「昨日テレビに出てましたよね」、「大変でしたよね」、みたいな。全く、全然、会話はなかったのに、そうやって会話する人とかも、小塚原の人だと思っんですけど。声かけていただいていたいなーと思っました。

### 震災を経て

最初の方は、大学の方のカウンセラーとかを利用していたんですね。で、そのうち大学卒業になって、名取市の方の精神カウンセラ

ーみたいな方を紹介していただいて、色んな被災地回っていたり、ってこともしてましたね。去年は。南三陸とか岩手の方であったり気仙沼とか石巻、ボランティアみたいな感じで。見て回って、ひどいなって。

閑上もみんななくなっちゃったけど。そこで生活してかなきゃいけない大変な人たちの話を聞いて、複雑な気持ちになったりもしましたけど。そのあと、震災の後、ほんとに色んな人と知り合いになって、震災がきっかけで被災者招待ということで、モンゴルに行ったこともありましたが、それで、今でも交流ありますし、そのご縁で、モンゴルの学生とか、閑上につれてきたりってこともしたり。留学生のお手伝いみたいなこともしたり。

震災の年に▲年生だったんです。▲年生になるところだったというか。当時は確かにまだ○年生だったんですけども、▲年生になって、結局今は、浪人してます。いろいろバイトは転々としてはいるんですけど、就職活動もしていたんですけど。尚綱さんにも行ってきたんですけど(笑)。

ただやっぱり、震災の年は全然そういう気持ちになれなくて、なかなか身が入らなくて。それで公務員目指すって方で、頑張っていたんですけど、ちよっと今年駄目だったんでどうしようかなっていうところで。で、司法書士事務所で一時期バイトもしていました。大学で学んだのは法律です。色んな人と今はこうやって、年配の方ともお話しするってか、知り合いの方も増えましたし。いろいろ話を聞いてはもらってはいるんですけども、どうしたらいいのかなくて。

やっぱり、閑上に戻りたくないとか、行ったら思い出すって言うって頑なに行かない人とかもいるもみたくないんですけど、自分は全然そんなことなく、結構しよっちゅう行ってるんですけど。車でドライブしながらって。前まではすごい身が引き締まる思いが強かったんですけどね。今は、なんか全然そんな抵抗なく、普通に。戻っ

てきたーみたいな感じで。

たまに区別がつかなくなることも前はあったんですけど。寝て覚めて起きたらアパートで、ああアパートだったみたい。あのー、なんだろう、全然家族の夢とか見てなかったんですけども、最近たまに見たりして。なんかもう、泣きながら目覚めるみたいなきこともあったりして、「あ、あれ？」みたいな。

自分の家、家族、写真好きだったんですけどね。それで、4000枚ぐらい見つかった。アルバム単位で。その写真整理してる時もまた辛かったんですけども。あとまた見つかったっていうのも持ってきていただいて。その整理もやらないとなあって、だんだん状態が悪くなるんで。

声とかもすつかり、家族の声とかどんなだったっけって感じなんですけど正直。写真っていう形で残って、自分見たことない写真とかも見たりして、そうやってああ、写真残してくれたんだなあみたいな、思いもあったりして。ほんとに写真見つかからないって人もいる中で自分たちはほんとに運よくたくさん見つかって、持ってきていただいて。ほんとにね、遺体もすぐに見つかって。被災した人の中で家族亡くした人の中でもだいたい運が良かった方なのかなっていう。それを基準に考えるっていうのもおかしな話ですけど。って思ったりしてて。

他の被災した人の話聞くともう、分りかかれないですね、ほんと。なんか、いまだ見つからない人とか、複雑な気持ちになりますよね、同じ関東でも。言葉選ぶし、とても。たまに「まだ見つかってないんだー」って人とか、そういうときはやっぱり、あー、発言気をつけないとなあって思ったりして。

同じ家族亡くした同士で話してるとすごく気が楽っていうのもあるし、そういう気遣わなきゃいけない部分で、なんか、ねえ、余計追い打ちかけるように傷付けてないかって思っちゃうときもあるんですけどよね会話してて。同じ関東の人同士の中とはいっても。

## 取材を受けること

自分どっちかって言ったら目立っちゃったんで。その、テレビに取り上げられたり新聞載っちゃったりして。みんな知ってるんですよ。だから、実際自分が話聞いてみると、「ああ」って、自分だけじゃないなって思ってる。自分よりひどい人はたくさんいるって思っている。そういう意味で、自分だけが不幸じゃないなって。なんか、そういう思いになることもありますね。自分だけが不幸じゃないっていうか。ほんとに自分だけが特別なんじゃないかって思ってる節はあったんですけども、今は全然、いけないなあと思ってる。ちよつと考え改めるようにしてますね。

マスコミの取材には、事実を述べてたんで、気持ちの部分って伝えられてないんですよ絶対。整理ついてないし、気持ちに。今となっては冷静に判断できて、まだ喋れるようにはなったとは思いうんですけども。なんかほんとに「伝えなきゃ伝えなきゃ」、あったことほんとに全部話して、って感じだったので。だって、取材拒否してた人が圧倒的に多かったって感じなので。みんな喋りたくないって「なんでやー」って感じで。それで、取材されて嫌な思いましたことも……。だって勝手に連絡もなく普通に放送されてってこともありましたし。なかなか、結構デリケートな部分突かれるものなんだなーって。実際に取材を受けて感じました。

## 今後の展望

何も考えないで出たんですけども。最初は「伝えなきゃ」っていう思いで。意外に言葉に縛られる感じはあってですね、自分。就活がニュースとかに取り上げられたこともあったんですけども、BSのテレビに。それで地元に残りたいとかって言ったのが、出ちゃって、それでこだわってる節はまだまだにいうか、地元についていうか、今となってはそんなことはいいんですよ、別に。でも、

内定もらったところも、結局は地元離れなきやいけなかったんですけども、辞退しちゃうって。

今はこうして、なんだか、何をしたいんだろうって感じ。色んな人に相談はしてるんですけども。あとは自分次第だなあと思ってる。ほんとにここで働いてる人もそうでですけども、なんか、頑張んなきゃいけないあつて思ってる。思ってるはいるんですけど、なかなか何をしたらいいんだろうって。ほんとに話を聞いてやることしかなくなつて部分はあるんですけどもね。とにかく、今まで出逢ってきた人、これから出逢う人との交流を大事にしていくしかないかなつて部分はあるんですけどもね。そういつた意味では恩返しつてわけでもないんですけど、できる範囲で返していける人間になりたいと思つています。

手を振って流されていく人もいた  
元関上六丁目

### 震災の前は

以前はの丁目ですね。浜やの前あたりに。昔のまんまの住宅、入った時の、払下げになった時の住宅で、ちょっと足し増しただけ。私は関上生まれの関上育ち。最初からね、そこに住宅、<sup>30</sup>年に住宅建てたのね、百何戸ぐらいね、そこに福引で当たってそこで新所帯始まったの、そして結婚式しない前にそこに入ったのね。それからあと結婚式上げたんだけど、うん。

### 地震の時

地震のときね、私丁度<sup>11</sup>時頃に友達の家で漬物持って行ったのね。そのうちでお客さん来てたのね丁度、置いてすぐ帰ったのね、家に入るとまた何にもできないからって思つて私ちよつと<sup>11</sup>丁目の方に少し庭つて、家庭園みたいな野菜作りしてたところあるのね、そこにいったのね。途端に肥料やるかなつて思つたら地震になつて、そこに座り込んでとまったのね止まるのね。そしてやっぱり車に縋つてこう揺れてる人もいればね、ブロック倒れてきたりなんかしてね。収まつてから今度自転車で<sup>10</sup>分ぐらいしたかわからないけど、そこに帰つたのねうちに、うちにはいつたらもう開かないのね玄関も戸が開かないし、ぐるーとまわつて前にいったら、開いていたのね。そして片付け始まつたのね、そしたらそこに孫が帰ってきたの、孫、学校から帰つてきてバスで帰ってきたのね、で、バスの中でやっぱり揺れたらしいのね、バスで日和山で下りたから歩いてくる途中にみんな逃げる人居たんじゃない、会つたんじゃない？そして乗せていくからとか言われたんだつて、「ばあちゃんいるから」つて戻つてきたんだね。そして今度私片づけ方したから「ばあちゃん早く逃げるから早く逃げるから」つて言うのね、だけでも片付けしてたのね、そして孫が何回も言うから、自分が来る途中で早く逃げろつていわれたつていうか、「早く逃げるから」つ

ていうのね。逃げると思っても何を持って逃げればいいか分からな  
いでうろろうろしてたのね。台所にいくと思つて皆洗濯物戸棚からみ  
んな落ちて出たのわ。だからそっち側にもう毛布だのかかつてるん  
だけども、取りに行けないからじゃあこっち側のこつからこつ一つ  
だけ持って逃げたのね。「ばあちゃん何もって何で逃げるかなあばあ  
ちゃん歩けないから」って言つてたの、「ばあちゃん自転車で行くか  
ら」って言つてたの。「あんた何で行くの？」って言つたつけ歩いて  
いくつていうんだつちや、「なんだ自転車あるのに」って言つたんだ  
けど歩いていくつていうから「じゃあばあちゃん自転車で行くから」  
って言つて自転車で行つたのね。そして、公民館で待つてるから  
て約束したのね。そして公民館にいつて待つてたのしばらく門の中  
に入らないで門のところ待つてたのね。なかなか来ないんだね。  
しばらく待つてただけどもそのうちに中学校に移動してください  
つて言われたのね、それで私も今度行つてしまつたのわ、会わない  
けども、だから孫とこう離れ離れになつてしまつたの、そして今度  
私も一人だから、自転車で行つたの。逃げるときも誰とも、一人ぐ  
らいしか会わないんだね、静かで歩く人もいないし。そして中学校  
の方に今度自転車で行つて、昇降口で少し待つてたの誰も知つて  
る人居ないから、そしたらなんか黒い、黒くはないんだな、茶色い。  
中学校の昇降口に行つてうろろうつて立つて見てたのね。そしたら  
茶色の風でバーツと飛んできたような茶色のきたのね、わーつて思  
つて私もバタバタ上上がったのね。そしたらすぐこう流れ  
てきたんだね。そしてほらみんな手振つたり助けてつて言う人もい  
るし。なかなかね、どうにもならないからね、ただ見てるだけだつ  
たのね。うん、そしてそこに一晩いたんだね、

そして今度暗くなつてから各教室回つて歩いてきたのね、メモと  
るのね。そしてあらー、孫に電話してもらいたいんですつて言つ  
たの、公民館の方につて、電話通じないからダメですつて言われた  
の、そして名前なんて言うのつて言われたから言つたのね、その先

生が中学校の先生ほら前知つてたんだね、学校卒業したばっかりだ  
からね、そしてあらーそういう子供見当たらなかつたつて言われたの  
ねこの教室には。「あーだめなんだな」つて思つてそして一晩やつぱ  
り心配だつたのね、そして次の日になつたら廊下に貼られたから公  
民館にいる人の名前ね、あーいたんだなあつて思つてそして安心し  
たの。そしてあの、ずつといたの？つていつたの、そしたら一回や  
つぱり出たんだつて、こつちに移れつて言われたから、そしてサイ  
トウ病院あたりまで来たらしいのね、けど戻つたららしいのまた、  
そしてそのあと来たんだかもしれないよ、うん。一晩心配だつた  
のね。そして次の日が来て上上がったつてそしてみんながらーつとな  
つて、そして間もなくさがつたりなんだりして。私ちよつと具合悪  
くなつたの、しばらく横になつてて良くなつたけど、だからちよつ  
と具合悪くなつたのね、中学校で、しばらくベッドに寝かせられて、  
あと落ち着いたけどね。

#### 避難所に

そして避難所の方に今度ね、歩かれる人は小学校まで歩いてく  
ださいつてなつたの。私歩けないからじゃあだめだなつてなつて、  
歩かれる人たち、<sup>心</sup>、<sup>心</sup> 回ぐらいこう運んだのね。だんだんこつちま  
で道路も整理なつて、中学校まで、大体中学校、あの、あそこのと  
ころ、津波が道路まで来たんだね。学校のは入口まで来ないけどあ  
そこの小塚原に来るところのあそこまで来たんだ。そこまで歩いて  
行つてそしてバスで一中に、一中に、一中の約束、最初が館腰のあ  
れなんだけど、途中に一中に代わつて一中に行つたのね。そして一  
中に行つて名前書いて教室に入つてね。そしたらあとほら、姪っ子  
が迎えに来てくれたのね。うん、そして今度名前書いたけどつて思  
つて消して、姪っ子の迎えに来てくれたので、お父さんの弟の家に、  
泊まつて、そこに何日、一週間ぐらいだね、一週間10日ぐらい世  
話になつたんだね。うん、四人五人も世話になつてられないから娘  
がアパート借りて、<sup>心</sup> 丁目借りたの。増田の五丁目借りて、そこに

アパートに入ってたの、一か月ぐらいそこ出てから、仮設に移ったのね。

### 仮設住宅

ここは五月の下旬30日ぐらいに来た。知り合いってほら、9丁目も隣組っていうぐらいの近さだから。隣組と同じぐらいの。みんなここ知っている人ばかり。だから安心したの。向かい側みれば昔いた人入ってたから安心したのね。お茶会とかは最初からだね。顔見ただけでこう安心感持っしね、皆隣近所だからね、いいな一っと思って。入る前にどこに入れていいんだかな一っと思って、ムサシ（愛島東部仮設）のほうがいいな一っと思ってたりしたのね。そして今度こっちのほうがいいところに入れてくれてね。

私は長男といえるのね、あと娘と孫たちは増田9丁目に今いるのね。離れているの、アパートに。学校あるし、だからやっぱり駅の近くだからじゃあかえっていいんじゃないの動かないでって、動かなかったの。連絡はほら仮設空いたけどって連絡あったけど。孫も二人いたからね、学校なんだまだランドセル流れてしまったから貰ったり、あと制服も貰ったり友達からもらったりして間に合わせてるの。

### 困ったことは

セトモノって食器類なんかなかったり箸ないとか一通りそろえるまでね、鍋なんかはこう入ってたから、バケツも入ってたし一応そういうのも間に合ってたけどやっぱり小物ね。アパートに入った時にもらったのもあったけども兄弟からとかってね、友達からもらったのって娘たちほら職場の人たちに貰ったらしいのね、だから不便だっというのはいくらでもないけども、さしあたってご飯食べるちやわんだの箸だのちよつとね、

狭いってねえ。キリないからね、そしてなんにもないところだからそんなに狭いと思わないしね、ないからね、今なんて窮屈な思いするけどね。物増えてきてるしね。

楽しみは、プランターに野菜作ったり花植えたりしてるのね、あ

とここでパッチワークしたり色んな行事あったりするのに参加してる。

### 今後のこと

うちではね、やっぱり閑上に帰らないっていうので、愛島の方に今あれしてるんですけど。前から土地売って上の方に来いってはいわれてたのね、だから考え中だったんだけどだからこの際だからやっぱり、何回も避難したりなんだり体の方も動かないから、家に誰もいないとき一人で逃げるのにも逃げられないし、今はこういう風にして動くけど段々と動かなくなればやっぱり避難しないところいいなあって思って、避難のないところ。

### 閑上のよいところ

閑上はなんでも魚も活きいいしね、なんでも豊富だからね、住みはよいんだけどね。気候はうーん、そんなには悪くないね、今になって年取って風邪ひきやすくなってるね、寒いとか、そんなに気候だって苦になることないしね、雪も多く降るわけじゃないしね。



なければという気持ちになっています。

閑上に暮らして50年が過ぎますが、始めの頃は海辺の元気な人たちに圧倒されてなじめない時期もありましたが今はすっかりなりきっています。気候も暖かく、魚も野菜も新鮮でおいしかったです。友達も知り合いもたくさんできて楽しかった日々が一瞬にして失われてしまったことが、いまだに信じられません。

#### 今後は

現在は増田地区のアパートで生活していますが、いずれささやかに我が家をと主人と話し合っています。閑上に帰るつもりでしたが、町の復興がなかなか進んでいない状況なので自分たちの体力を考え別の場所も今は視野に入れていきます。生かしてもらった今を大事にし、自分に出来ることを頑張っていきたいです。多くの人から励ましと支援に感謝し、小さな我が家の完成を皆に報告できる日が早く来ることを楽しみに主人と共々健康に注意しています。

閑上に帰る自信はない。でもやっぱりいいなあという気持ちはある。

## こちらの生活に慣れようとしている

だいぶこっち(秋保)の生活にも慣れてきた。この辺の人も良くしてくれるから持ち帰ってきたんだなあ。「手拭に使えるからパーパー使えるべ」あと、缶詰も持つてきもう、やはり津波のことは忘れようと思ってるし、できたら思い出さないようにと。でどこが開けるものがないさ、今度、缶詰どうやってあけるのかなあっていうこと。私は教員をしていて、閑上中学校が最後の赴任地です。地元に来るのが嫌だ。なな。そして、そういったものを食べていた。それから自衛隊の人が最初来たときけどね。24時間監視されているような。こっち(秋保)はね、新任教頭として川崎町の寒いからもう一晩過ぐすのに何かください」って言った。なんせ、中学校に移動し富岡中学校に赴任したとき、アパートを借りて住んだことがあった。教頭つて学校の定ちが寒いので皆持つて行つてしまったんだ。残つてなかつたんだよね。そうして一番忙しいんだな、実際は。だいたいどの学校でも一番早く学校に来て、一番遅れでよければと言つて、結構な数の固形燃料を置いて行つてくれた。で、夜は固形変えるんだからな。夏、今の時期だと閑上から通えば通えるんだけど、冬はそう燃料があつたまろうとした。やっぱ気持ちだね。で、その火を使つて割り箸にソーセイ

ない。朝、出勤できなくなるとまずいので、秋保の磊々峡の近くにアパートを借少をさして一晩明かしたんだ。

年間居たことがある。だから震災後すぐ、秋保には確か一杯アパートがあるなと思ひ目  
した。3月の末にはこっち(秋保)にアパートを探したんだ。まだ、借り上げとかのシ避難所の迎えがなかなかきてくれないんだ。それも午後になつてからやつときてく  
テムが決まっていなかつたけど。

## だめだと思われているところに逃げ込むしかなかった

地震の日の夜公民館のことが全然話題に載つてこない、放送でね。あー、我々は死ぬで降りるわなんてね。あと、増田中学校のところで降りるわつて、中  
だと思われているだわな。だめだつてところに逃げ込むしかなかったからね。だろ校に知り合いがいるみたいで、降りた人もいるしなあ。残つた我々は消防  
我々はだめになつたと、一時思われていたのかもしれないね。公民館に残つてしまふ部まで行つて、そこからどこかに連れて行かれた人もいた。そしたら「じゃあ残つた  
中学校にたどり着いていない人たちは、みな助からなかつた」と一時は思われていた伊名取二中に行きますから」つてね。名取二中に連れて行つてもらつたんだ。二中に  
しれないね。だからきつとあまり放送にも出てこなかつたんだね。公民館の2階は避難所の人たちが先に半分ぐらいいいたのね。避難はだいたいそんな感じ。

込んだのは50数人いたけど、それぞれ誰かかれか亡しているんだよね。私の義兄避難所には五日間しかいなかった

の家はここ(公民館東隣)。義兄は身体が悪くてこっち(施設)うらやす)に入つて、そ五日間くらいしかいなかった、色々形が出来てきたので、俺いいわなつて思つて、  
ちで助け上げられたただけだね。姉と甥っ子たちは車を出すといつてさつき(公民館)裏目はもう終わり。あんまりいると今度はみんなそのことに頼つてしまうから。ち  
場)のところに来たんだよね。中学校に移動しなさいつていう頃になって来たんだ。姉自分たちでやっていかないと。だんだん俺も重荷になつてきた。それで五日くら  
と甥っ子2人、それと叔母さんだったかな。結局、車で流された。姉と長男はひくをからかなあ。一週間かな。避難所にいたのは五日か一週間くらいだと思ふ。北釜  
つてね、次男はたまたま自動車のガラスが割れて、そこから外に出ることができぬ校長さんと事務長さんに私が去ることを伝え、あと、閑上地区はどうしようかなあと  
さんと助かつたんだつて。

## 二日目

二日目は、一日目より水引いて、中学校に行つていなくなつたものだから、残おを役みんなやつてくれてね。

は我々ぐらいになつた。中には漁師さんもいたんだ。「館長さん、いまから生協にいっ避難所を出てから

食料を調達してくるから」と言つて、でていき、生協からソーセイジなどを持つてきた。

「館長、これ袋に入つてるから大丈夫だべ」て、言つて持つてきたんだ。あと、パー

れた。寝たきりのおばあちゃんやんは救急車に乗せてもらつてあと、我々はマイクロバスに

もう既に、三月中旬にはこのアパート(秋保を借りる契約をしていたんだ。た無駄なお金を。大体副市長さんは今忙しいんだからこんなことで時間もつたいないんじれなかった。娘が結婚して、長町のマンションにいるのね。うちの家内は仙台から来ていますか」って言ったんだ。なんだかんだといってね、でも、せめて6月いっぱいまで行つた。車は名取市役所に置きっぱなしだった。群馬にいる息子たちが、来てねださいってことになった。ろくな仕事もしないで金をもらうなんて嫌だなあ。でな。ああ、日曜日かなあ。なんかその時誰かの車に乗ってきたんだよな。私も娘と市の職員の人事も6月に合わせたから6月に合わせて公民館関係の人事もするので、ろにいつて、一か月ぐらい過ぎたかな。家内の車が無事だったので、そこから3月までやってくさいということになった。ここでごたごた揉めていても。忙しいさな避難所に顔を出した。やはり心配だね。まだ、公民館館長の肩書が残っていたな。一人のくだらな話で時間潰すのもつたいないだろうと分かったので、6月いやれることはそれぐらいだし。あと、毎日通つたのがあの遺体安置所。毎日行つるば肩書だけつけておくことにした。でも嫌だね、ろくな仕事しないで。5月になつたの。知つている人いるかどうか見て歩いたんだ。200体ぐらいならんでいたのかな。あんな(秋保)に引越してきた。ここから二、三分いったアパートなだけだね。隣のなに並んでいると、あんまりなんともしないもんなだね。うちの姉とか甥っ子も鬼塚とかよくしてくれた。

からないものだから、どっかにいるんじゃないかとずっと毎日見て歩いたな。だいたい遺体が運ばれてくるのが朝一回夕方一回なのね。その時に知つてる人いないかどうか見に行つ越そうとしたのは行くわけ。知つてる人がいれば、その人の関係者に連絡して確認してもらうとか、で悪い感じはしないし、周りの人たちがいいわけね。公衆浴場で近所の方とかと、会そんなこんなしている何日後かにうちの姉が運ばれてたんだね。ただ全然分からなわけ。で、色々話したりしてね。いい人たちがいっぱいいるなあって。いつまでもた。その辺を何回も歩いてるのに、そのうち、甥っ子が「なんか俺のおふくを奪たしてもしようがないし、いつになるかわからないでしょ。残されたいなんだけどさ。ちょっとおんちゃん確認してくれない」と、電話をよこした。俺は限りあるわけで遅くなれば遅くなるほど我が家に住む時間が無くなるたらやっぱりそうだった。そのところを何日間か歩いてたんだけど、わからなわけの話、じゃあいつそのこと家を作るわつていうことになった。じゃあどそんなこんなで結局知つている人居れば教えてあげたいし本当に毎日朝晩通つてたに任ろうか、地元閑上には、もう帰れないだろうと思つているので、私の気持ちとしてね。

公民館もなくなつたし、6月いっぱい公民館は一年終りでしょ。

公民館長の職を辞し秋保に引越す

引越したのは5月かな。公民館もなくなつたし、6月いっぱい一年になる額を俺かんできてちよつとした地震でも安心していられないだろうね。そんな落ち着館長を辞任するからつてことで市役所に行つて辞表を出してきたの。そうしたらな気が持ただからね。そんな落ち着かない気分では嫌でしょ。また、閑どうのこうのつて。最初教育委員会の方に出したら「いやちよつと預らせてください戻れば自分は自由のきかない身になってしまふでしょ。名取あたりの地区は地価がつて。「でも俺3月いっぱいやめるんだからね」なんて言つて。仕事もないし、無駄なら、こつちはどうだろうと考えた。仙台に行こうかなあとも考えた。でも仕事を金払うこともないなんて、月20何万だかの報酬があるんだね。そんなのなんかも争なわけじゃないし。大体私は家の中にいるよりも外で畑とか庭とかいじつてのが好ない。「仕事もないし、仕事があるのなら報酬もいるけど、公民館らしい仕事もなげん秀だから。アパート暮らしはなかなか難しい。ここは地価は安いし。建物の値段つからそんな無駄な金を人に払うな」つて。そしたら、3日して電話があり、「じゃあいつのは都会もどこも変わらない。また、ここは高速の入り口に近いでしょ。息子なんだな」つて思つたら副市長さんが会いたいと言つてのことだった。総務課乗るのに便利だし。しかも温泉あるしつてことだね。ここに決めたんだ。でもなん行つたら課長と副市長がいて、「辞表を出されても困る」つて言われた。「何言つてるの、

かまだ自分の家って感じはしないけどさ、うん。やっぱり閑上がずつと長くいたときゆかい市場に行ってみたりする。ただ、積極的にはいかない。なんかやっぱり嫌な  
だしね。でも、実際自分は閑上に住む自信はないし。  
んだな。一軒に行くときみな回らなくちゃならないから。だから自分から積極的に買い物  
には。ある店だけで買い物をするとはかの店に義理を欠くから。

### 玄関にあった閑上にいたときの表札 気持ちはやはり閑上

家は流されて何もなくなっただけど、なぜか公民館のグラウンドから助かった甥っ  
子が表札を見つけて持ってきてくれたの。あれ、べつたらこい(平ったい)から、地面にペ  
タツとなっていて、その上を水が流れて行ったんだと思う。立体物でないからそれだけ  
が残ったの。捨てられないから持ってきて、ドアに貼っておいた。新しい表札はまだ作  
っていない。そのうち取り替えなきゃ。気持ちはね、やっぱり気持ちは閑上にあるのは  
確かなんだよね。本当に嫌だったらいらないもんね。自分ではそういう風に意識したく  
ないんだけど、どこか意識してるんだよね。閑上に。(注 涙ぐまれていた)やっぱりいい  
なあって。気持ちはあるんだね。

### 閑上の良いところ

私は海で、魚釣りをするのが好きだから、船を置いたりして。レジャーに不自由しな  
かったのね。そんなところもいいし、なにがいいんだろうね。人の結びつきが強いんだ  
けど、逆に邪魔になるところでもあるんだよね。だからあの絆っていうけど、しがらみ  
じゃないかと思うの。下手に……その絆というつながりが強いっていうのはあまりにも  
縛りが出てくるからそういうところはプラスマイナスの部分だよ。特に私みたいに自  
分勝手に生きたい人間にとってはね。下手するとやはり束縛される感じがしたりするの  
ね。結構自由にはやっていたつもりだけどやはりその縛りがかかってくるから嫌だよ。ね。  
何がいいって言われると困るな。何かがいいんだろうね。やはり気持的にふるさとな  
んださ。だから余計にふるさととは遠きにあるかと思うの。中に入ると荒ばっかり見  
えて嫌だけど、やはり離れてみると。学生時代は離れていたからやはり懐かしかったよ  
ね。帰省すると、名取駅を降りてもまだ匂いはしないんだ。名取駅からタカヤナギに入  
ると潮の匂いがしてくるんだよね。閑上に帰ったなあっていう懐かしさ。離れていると、  
変なところが見えないのでいいところばかり。今なんかいいところばかり。

大学生としてボランティアをしなきゃと思つてました  
元関上五丁目

## 震災の時

震災時は、大学が春休み期間でした。その日は祖父と弟と三人で自宅にいました。地震が起きた時、揺れが今までに経験したことがないくらい大きいものだったので、「すぐに逃げなきゃ」と、思いましました。そこで祖父と弟の二人を車に乗せ、公民館のグラウンドに避難しました。その時は正直、津波が来るかどうかというより、今の地震って宮城県沖地震かな、これからどうなっちゃうのかなってことばかり考えていました。飼っていた犬を小屋に入れたままにして逃げたので可哀想なことをしました。

公民館に移動したあと、防災無線も聞こえなくて、これからどうなのか不安で一杯でした。そんな時に弟が持つてきたラジオから高台に逃げてくださいとアナウンスしていて、公民館より高い建物は小学校か中学校だったので、とっさの判断で小学校に移動することにしました。車で小学校に避難する際に、中学校に向かう車が渋滞しているのを見たので、渋滞を逃れるためにわき道を通りました。

私が小学校に着く頃には、津波がすぐ近くまで迫っていて、車から降りたときに「津波が来るぞー、早く上に上がれー」という叫び声が聞こえたので一目散に校舎の二階までのぼりました。もし、わき道を通ってなかったら、逃げ遅れていたかもしれないですね。

校舎の二階から黒い波が押し寄せるのを見て、本当に津波が来たんだと果然と眺めていました。

## 小学校に避難

小学校に避難して、教室の床はタイル貼りで底冷えが激しかったため、とても地べたに座っていられるような状態ではありませんでした。そこで底冷えを防ぐために画用紙やカーテンを床に敷いて辛うじて寒さをしのぎ合っていました。私は寒さによる体力の消耗を

防ぐ意味で横になっていました。津波によって流されてきた瓦礫と大量の海水によって、孤立した状態になり、水が引いていかないという自衛隊が救助にいけないと学校の先生からお話がありました。

小学校で一晩過ごすことになり、何もすることが無かったので、教室の窓から遠くを見て、家は大丈夫かという心配もしていました。周りに居た人たちは携帯電話で家族や友人の安否確認をしていました。また、ラジオ等で情報の収集もしました。余震が起こるたびに、いつになったらこの揺れは収まるのだろうかという不安を抱えながら夜が明けるのを今か、今かと待っていました。学校の先生方は、自分たちの家族の安否の不安を抱えた中でも、水が止まってしまうとトイレ掃除などを行うなど精力的に動いてくれました。

次の日、朝、自衛隊が瓦礫を掻き分けて救助に向かっているという連絡を小学校の先生から受けて、よし、助かったと安心する事ができました。自衛隊員が着いたときに救援物資として、パンや飲み物が配布されました。その後先生から、名取市内の別な小学校に移動するようにとの連絡を受け、迎えるバスが来るまで教室で待機していました。その間、続々と自衛隊員に救助された人たちが、小学校に運び込まれている様子を見て、衝撃を受けたのは今でも覚えています。

迎えるバスが着いたと連絡が入り、歩いてバスに向かいました。その時の外の光景を見たとき、変わり果てた閑上の姿に啞然としていました。

## 館腰小学校に避難

館腰小学校の体育館には、閑上だけでなく多くの方々为非難されていました。中は、暖房が効いていて、支援物資として毛布なども配布されていたので、寒さを防ぐことは出来ました。救援物資としてパンが配布されていたので、食べるものには困りませんでした。ボランティアの人が来てくれて、おにぎりを握ってくれたり、炊き

出しなんかも直々あり、温かいお蕎麦や汁物をいただく事が出来ました。

大学は、5月の下旬まで休みだったので、避難所に居る間は、日中は本を読んだり、運ばれてくる救援物資の搬入のお手伝いをしていました。携帯電話が津波で流されちゃったので、早く友達に会いたいという気持ちで過ごしていました。

避難所生活は3ヶ月くらいでした。その間、様々な方から支援を受けてたので、とてもありがたかったです。

### ボランティアに加わる

避難所生活を通して、大学生として何かしなきゃという思いをずっと抱いていたので、大学が始まってからすぐに大学の災害ボランティアに登録しました。授業があつたのですがすぐに活動に参加は出来ませんでした。秋ごろに私が住んでいる仮設住宅の集会所に行つたときに、ボランティア活動をしている学生を見つけたので、ここでの活動だったら出来るなと思えました。そして、活動していた人に声をかけ、次回の活動から参加する事にしました。それから、何かボランティア活動があるたびに率先して参加していました。関西や関東から大学生がボランティアに来てくれて合同でキャンドルナイトや催し物をやったりして、すごく充実した日々を過ごさせていただきました。

### 仮設住宅に

私は、以前は一軒家に住んでいたのですが、仮設住宅の中はだいぶ狭く感じます。住んでみて、閑上にいたときより山が近くなったって感じます。逆に海が遠くなってしまったので、夏に友達と海に行ったり、プールに行ったりという機会が少なくなりましたね。あと、花火を見に行くにも車や送迎のバスを利用しなくてはならなくなつた事に不便を感じます。

しかし、悪い事ばかりではありません。ボランティア活動などを通じて、それまで顔も知らなかった方々と接する機会が増えて、人

のつながりというのを強く実感します。関西や関東から大学生がボランティアに来てくれて、他の大学生との交流も出来た事も非常に大きいです。

### 閑上の良いところ

閑上の良いところですか。そうですね。海は近いし、空気は良くて過ごしやすい。それと毎週日曜日に朝市がやっていて、新鮮な野菜や魚を買うことができて便利。

あと、花火ですね。ものすごくきれいなんですよ。毎年、友達と見に行っているんですが、いつ見ても感動しますね。

山形の人にも大変お世話になりました  
元閑上三丁目

### 地震の時は

3月2日は寒い日でした。いつもなら午後からは畑仕事に行くのですが、その日はなぜか畑に行きたくなく、家でテレビを見て一人でした。夫は名取の眼科にいつておりましたので、地震は夫が眼科から帰る途中ですぐ家の前まで帰ってきていました。地震の揺れが強かったので、自分の家の駐車場に入れなくなつて道路に止まっていたのです。私はあまりにも地震が強かったので外に逃げ出しました。地震が収まるとすぐ家の中に入ってみましたら大変な事になつていたので片付けをしていました。その時空港に勤務の長男から電話が来て、仙台空港は津波が来てもう水浸しになつているから早く遠くへ車で逃げろ。と言われてすぐ夫と二人で車に乗り、5丁目の道路から閑上の火葬場に通じる橋はもう段差がついて危なかつたです。それまでは防災のサイレンも消防車もまだ何の知らせもなく皆んなまだ避難する車もなく、道路は空いていましたので、ミニストップから空港線を通つて名取のイオン駐車場で一晩中車の中で過ごしましたがその夜は閑上の方に行き、救急車、消防車のサイレンが鳴っていましたので、次の朝12日に閑上の様子を聞きに市役所に行きましたが、もう市役所の中は大勢の人でごつた返しでした。

### 閑上は全滅だ 避難所に移る

市役所で近所の人に会い、「もう閑上は津波に流され全滅だ」と言つて泣いていました。私たち二人は文化会館に10日程避難しましたが酷いものでした。私たちは津波の翌朝15日文化会館に行ったので、入る場所も毛布もなく、ただ通路の所が空いていたのでそこへ水の入つていたダンボール空箱を敷いて、粉塵の舞い上がる冷たい床での起床、トイレはダンボール箱。トイレは水が出なかつたので、ダンボールの箱に丸い穴の空いた中に何か入っているそれに皆するので、トイレに行くとアンモニアの臭いで具合が悪くなりました。私も体

調を崩しました。文化会館での職員の対応の悪さは酷いものでした。  
子どもの所に避難

文化会館には10日ほどして体調もますます酷くなつて手も震え、字も書けないまになつたので、山形の子どもの所に行つて、病院に連れて行つてもらい助けられました。山形の子どもの所に行つてやっと暖かいふとんに寝たときは涙が止まらなかつたです。山形の霞城公園が避難所になつているので行つてみました。福島の人たちが多かつたですが、福島の人たちはみんな暖かい布団上下に毛布そしてストーブを付けてもらいました。私も霞城公園の市の職員の方々がボランティアの方々にお世話になり頭の下がる思いです。霞城公園が閉鎖になり、落合のスポーツセンターに変わりましたが皆さん職員さんにやさしく頂いたことが一番嬉しかったです。山形には4月までいました。

### 仮設住宅

平成22年1月5日植松入生の仮設住宅に入居しました。始めは狭くてよく物を落として壊したりしましたが、だんだん慣れてくると座つていて手が届く場所なので動かなくて取られるのかなと思ふようになりました。ただ隣の差があまりないので、大きな声でお話が出来ない、床が冷えて大変でした。

尚綱さんからの色々な支援や生徒さんたちが寒い日に仮設の窓ふきなどあるいは爺さんたちの将棋の相手をして頂きどれほど頭の活性化をしてもらつたことでしょう。また、編み物やお茶会等本当に有り難いことでした。

元の家は先祖代々の土地でご先祖様が大変苦勞して取つた土地だから私はこの閑上は絶対離れない、この土地を守らないといけないと心に決めていました。でも私の土地は貞山堀の東側で家も建てられない所です。また夫の姉、親類「人くらい亡くなつてるので、そんな所に家を建ててそこで気持ちよく住めるかと言われるとやっぱり閑上を捨てる、何とも言えない悔しさ、悲しさがこみ上げてき

ます。でもこれからは津波のあまり来ない安心して住める所に行きたいと思いました。

### 閑上のよいところ

閑上のよいところは、魚介類がおいしかった。口は悪いが人情が深かったです。春は日和山のお祭り、秋は湊神社のお祭り、夏は花火大会です。私が今回感じたことは、今日本が平和だからこそ全国から色んな人たちや支援物資がいただけたのではないのでしょうか。これももし戦争中であつたならば日本中は物資の不足人の不足で支援などして貰えなかつたと思えますので、戦争だけはどんなことがあつてもしないで下さいとお願いしたいです。

もやに湿った大漁の  
うたが流れる貞山堀の  
わすれたいのに  
わすれたいのに  
思い出させる事ばかり  
ああ閑上

閑上の夜は花火

息子には化けてでも出てきて欲しい

元閑上二丁目

### 地震の時は

あの日娘の卒業式だったんで、中学校で卒業式が終わった後に、公民館の隣にあった働く婦人の家で二階で、謝恩会をしました。ちようどみんなでお弁当を食べてわいわいしてて、まあ時計を見るともうすぐ三時だから、じゃあ一旦中締めをして、残る人は残ってコーヒーでも飲もうかって言ってこう立ち上がった瞬間にあの大きい揺れがきたんですね。それで揺れが収まってからとにかく二階からみんな下に降りて外に出て、私はもう自宅が公民館のすぐ隣だったので、自宅の様子を見に行ったら、外側は特にこれといった被害がなさそうで、ただ家の中がもうすごいことになっていました。主人の両親が一丁目の方に住んでたので、主人の両親のことが気になつて、自転車に飛び乗って、主人の両親のところにもまず向かいました。

子どもは娘と、当時中学一年生の息子とふたりです。娘はわたしと一緒にいたんですけど息子は卒業式が終わった後にお友達の家遊びに行っていました。それ主人の両親の無事と、犬が大丈夫だったことは確認して、今度は息子が心配だったんでまた自宅に戻ったんですけどその時に犬が騒ぐんで、私は自転車のかごに犬を積んで、主人の両親には「寒いから上着着なよ」って一言だけ声かけて「逃げろ」って言うのは一言も言わずに、そのまま戻ってきちやったんです。自分がいた公民館周辺はこれといって大騒ぎしてる人はいなかったんですけど、日和山から向こうの人たちが、みんな避難指示が出て公民館のほうに来てるのを見ました。

娘は私が主人の両親の家に行つてるときもそのまま公民館のグラウンドにいたようです。あととはもうたぐさんの人たちが公民館のグラウンドに集まってきていたので、私もその近所の人たちと一緒にグラウンドに留まったんですね。大津波警報が出るよとかね、高

い津波がくるよっていうのはだれからともなく声は聞こえてたんですけど、そんなにすごいのが来るって夢にも思いませんでしたし、その大津波警報っていうのがどこまでの大津波なのか一切自分の中にもほんとに気持ち的にね、そこまですごいっていう感覚が一切なかったんで、余計なところをうろろするよりも、この場所にとどまったほうがいいんじゃないのかなって思ってた私にもいかなかったんですね。そうしてるうちに公民館から中学校に避難した方がいっていう避難指示が誰からもなく出たんですけど、私は犬がいたので、まあどうせ中学校に行っても犬をね、連れて校舎の中にはいるっていうことはできないだろうし、道路がもう大渋滞だったのは見えていたので、車で移動、混んできるところ移動するよりも、このままここに近所の人たちと一緒にいたほうがいいんじゃないかってことで、あちこちに移動はしなかったんですよ。でも東のほう見たら、真っ黒いこう壁が見えて「なんだろうあれは、火事じゃない？」って誰かに伝えようとしたら、どなたかがあれが津波だ！って大きな声で騒いでそれで慌てて公民館の二階に駆け上ったんですね。

### 津波を見て息子さんは走ったが

本当に二階の足元すれすれのところで水はとまったので、私は一切濡れることはなかったんですけど、私の何人か後ろにいた人は、もう娘の同級生の男の子とかはそのまま波にもってかれちゃったり、あと娘の友達なんかもうほんと足元ザブザブ濡れながら上にのぼったりしていききましたね。本当にたぐさんの人がグラウンドにいたような気がするんですけど、建物に上りきれた人間が「O名弱でしたので、ほんとうにたまたまですわね。息子はわたしよりちよつと先、児童館のあたりなのかな？」に、やっぱりお友達と一緒にいたらしいんですよ、それで波が見えたので、中学校目指して走ったらしくて、家の息子はわたしと一緒に太ってたんで走りきれなかったようで、二週間後に閑上クリニックについて、本当にこの今の建物の隣、

あそこのがれきから見つかりました、なので私は息子を火葬することもできませんでしたし、お墓に入れることもできて、いずればね、同じお墓に入ることができるとは、今まだ一人の方が行方不明で同じお墓にすら入ることができないという現実がね、あまりにも悲しいことなので、ほかの方々と一緒に協力をして、行方不明者の搜索活動を今手伝ってます。

### 閑上公民館では

公民館で、一晩、公民館でとにかく一晩明るくなるのを待って、それで少し日が明るくなってきたらやっぱりご家族を探しに来る方が閑上じゃない人がよそからこう何人か来るようになって、それ以外の様子はどうですかって聞いたらもう高柳周辺、高速道路のインターあたりまで水がいつって大変なことになってる、そしてたまたま仙台市内で仕事してた主人とは夜中に一回とか二回だけ連絡がついてたんで、私は娘と一緒に公民館にいるけど息子がわからない、おじいちゃんおばあちゃんがどうなるかわからないっていう話だけはしてたので、まあ主人が来るのをとにかく待とうと思って、そのまま明るくなるのを待ってました。少し明るくなってくるとそうやっていろんな方々が、あと近所で助かった人たちがまあ公民館に向かって歩いてきてたりしたので、全身ずぶぬれになった児童センターの先生とかお子さんとか助けに行きました。お昼前ぐらいに主人がきたんです。で、「小学校と中学校とみてきたけども、おじいちゃんおばあちゃんいないし、息子さんも見なかった」ってでも、ほら、知ってる人はいっぱいいて誰さんと会った彼さんと会ったっていうような話はして、私も姑とかおじいちゃん息子が心配なんです、とにかく下に降りようと思っただけなんですけど、もうがれきがすぐくて、もうほんと降りてちよつと二、三步あるいただけで釘で足がきれちやつたぐらいで、ああこれは無理だっと思ってるうちに、自衛隊の方が入ってきてくれて、とにかくここから出ましようっていうことでもう道なき道を、こうがれきを寄せ集めて道を

作ってくださったところを歩いてとにかく中学校まで来ました。中学校からさらに五又路まで歩いたら、市役所のバスが迎えにきてくれたので、息子のことを残していくわけにはいかないと思いながらもとにかくここから出ようっていうことでバスに乗せられたんですよ。

### 世界全部がこんな状態だと思っていた 名取一中へ

もう自分のなかでは世界全部がこんな状態のようになってたから五分も走らないうちに、なんでもないあたりまえの世界が周りに広がって、いったい自分がいたところはなんだったんだろうって本当にびっくりしましたね。夢のかな幻のかなって思いましたあの時は。それで私はあの名取一中っていうところに連れて行かれたので、そのまま一中で約一か月間、そこに生活をしてました。とにかく息子を探そうっていうことでまず館腰小学校とか、名取西小とか、名取北高校とか閑上の人たちがいそうだったところとはとにかくありとあらゆるところを回ってもらって、その日はね回りきれなかったんですね。12日ですよ、連れていかれて、その日はもうすぐ暗くなつたんで、一晩そこで明かして、で、13日の朝からも避難所ついていわれるようなところは全部まるく一回って、それでも息子がいないなってなって、あとはもしかしたら病院かなにかに運ばれてるんじゃないかってなつたんだけど、もう探しようがなくて、とにかく市役所に行って、安否確認だけは一応確認してそれで置手紙っていうんですか？みんなベタベタはつたのを私たちもはって、とにかくもう自分たちが動いてもどうしようもないから、このまま一中に待つしかないって、一中でそのまま待ちましたね。

おじいさんおばあさんも、結局亡くなって、おばあちゃんは一週間後に、おじいちゃんは一か月後に見つかりました。まずは保育所に行っただけ、行方不明者リストを作ってもらってそのあと15日から空港ポウルが開いたっていうんで、空港ポウルに見に行っただけ

んな知った顔だったから、あらーあらーってほんとに。うん。ただね、どの顔見てもみんな知った顔なんだけど、とにかく自分はどう息子を探すって必死だから、この人もあの人もって思っているが、ほかの人のことを気遣う余裕は一切なかったですね。

**息子さんが見つかる でも顔を見るのができなかった**

見つかりました。ただおばあちゃんとはほんとうに綺麗な形で見つかったので、よかったですけど、息子はねだいぶ潰されちゃったようで、お顔が見れませんってなっていました。私は勇気がなくて見れなくて、足だけを見たらもう間違いない息子の足で。ただ主人だけは顔確認したって言って。でもそれがどういう状態だったかは私も聞けなくて、でも間違いない息子だったから、ただそのときにはもう二週間たつたときだったので、かなりの人が見つかって、なんて言うんだろ亡くなって悲しいよりも、見つかった嬉しかったんですね、不謹慎ながら。もしかしたらもうみつからないんじゃないかって本当に心配したんで、不謹慎だけど悲しいよりももう本当に、「ああ出てきてくれてよかった」って思いましたね。今になると、なんであのときね、ちゃんと顔を見てあげなかったかとか、もつとね、ちゃんと触ってあげなかったのかなって思うんだけど、あの時はねもうほんとに現実を受け止めるのが怖かった。だからほんとに亡くなった息子の体を触ることもできなかったし、あと警察からね、去年かな、爪が帰ってきたんですよDNAがどうのこうのっていうことで、私は息子の身体からね、爪丸々一枚はがされてることすら気づかなかった。指も足もねちゃんがあるって勝手に思い込んで火葬しちゃったんですね、もしね、爪がはがされてるってその時気付いてれば、もう少しかけてあげる言葉があったのになあつて。ほんとにいまはね、後悔がいっぱいいろいろなこと。生まれたときにね、確認されますもんね、必ず手足あるか。それなのにね、送り出すときには何にも見ないで、見るのが怖かったんですよ(涙)。ただね、こういうふうに普通に当たり前前に落ち着いてから

だと、みんなちゃんと着物をきてて、綺麗にしてから送り出すでしょ？私は息子に洋服ひとつきせてやれなかったし、ただ、ほんとにもう東京とかのね、火葬場に、一人だけ送って焼かないともう間に合いませんって言われたんだけど、山形とか東京にね一人でやることだけはどうしてもできなくて、待たされてもいいから自分の手で骨を拾いたいって言って、それでちよつと待たせてもらって、閑上の火葬場で火葬だけはできました。火葬まで二週間ぐらい時間かかったけどなんにもしてあげられなかったし、触ることすらできなかった。ただね。いまでもまだ見つからない人居るから、それを思えば見つかるだけで幸せだろうって言われることもあるから、同じお墓に入ることができただけでも幸せなのかなって今は。思いますね。私は親なのにね、守ってあげられなかった。

**お化けでも出てきて欲しい**

なんかお盆のころに東京新聞とかにね、今ね、仙台のタクシーの運転手さんの中で語られている話があります、仙台で男の人をね、乗せた、行き先を聞くと「閑上まで」って言われたから車を走らせると、途中で男の人がいなくなつてた。閑上のお化けっていう話がありますっていうことを新聞の記事に乗ってるんだよってある方が教えてくれたけど、私ならなんにも怖くないなって思った。

今でこそこそうやって来ていただけの方にね、ようこそいらつしやいましたって気持ちがあるんですけど、最初の頃は物珍しく来る人たちのことを、心の中ではようこそいらつしやいましたって気持ちにはなれなかったんですね。それで、本当にポロポロになった建物の前でね、ピースサインをしてね、被災地来ましたみたいな写真を撮る人たちを、ほんとにあの時ね、なんてことする人なんだろうって思って、ここをどこだと思ってるんだって、たかさんの人が亡くなったところでピースサインなんかしてって思っていた。何回ここで喧嘩したか。わからないぐらい私もかなりたかかったんです

が、でもやっぱり少しづつ時間がたつていくと、忘れられるっていうことがとても悲しいことなので、たとえどんな形あつても、まずは来てもらうこと、そしてね、ここで起きたことを知ってもらうことが大事なんじゃないかなっていう風に考えが変わりました。中学校前に勝手に献花台を作って、勝手に慰霊碑を建てて、そしてここで勝手にあの日のことをしゃべりだしたのが、語り部の最初だったんですね。

私なんかはもうほんとにお化けでもいいから会いたい。私は息子が亡くなったのを理解してるから、お化けじゃなきゃ会えないから、お化けでもいいから会いたいって思うけど。

震災のことが少しづつこころ忘れられていくことも悲しいなって思いますね。中学校一年生でした。13歳。お盆だからって言って同級生が何人か手を合わせに来てくれたけどみんな大人になって、自分の中ではね、自分の息子はいつまでも中学校一年生だけど、周りには大人になるから。高校生、今は生きていけば高校一年生になりました。

#### 何度も死のうと思った

いままでのこと、夢みたいですよ。ただうちには娘がまだいるし、自分もやらなくちゃいけないことがいっぱいあるだろうから、ほんとはね、何回も死んじゃおうって思ったんです。何で生きてるんだろうって毎日思ってた、それでまだ解体される前のね、公民館に勝手に上って、ベランダから下見でも大した高さじゃないからここから落ちてでも死なないだろうなって思って、今度中学校に行つて、学校の三階から外見ると、ああここから落ちたら死ぬるかなって、考えると、この犬普段一切鳴かないんだけど、そういうときだけワンワンワンワン鳴くんですよ。もう10歳のおばあちゃんなんですけど、ワンワンワンワンって鳴くから、ああ飛び込んだじゃだめだって言ってるのかなって思った。

#### 中学校の前に記念碑を建てる 息子さんのゴールを作りた

とにかく私は閉上に来ることが全然苦痛ではなかったの、震災

の翌日からは息子を探したり、あとは何か自宅のものが流れ着いてないかとか、息子のね、鞆ひとつないかってことももう閉上に来てたんですよ。でも最初のうちは探すように田んぼとか入つたりしてもいろんなものがあつたけども、段々と片付き始めて、いつの間にかきれいに片付いて、ほんとにその年のお盆には今の景色と変わらないぐらい綺麗にかたづけちゃって、なんにもなくなつて、そのうちだれももう工事の人以外来るつてことがなくなつて。誰もいなくなつたでしょ？だからそれがすごいもう悲しくて、もしかしたらこのまんま何にもなくなつたことにされちゃうんじゃないのかなってというのがすごい心配になつたんですよ。なんか誰もね、亡くなつた人のことで悲しんでる人もいないような気がして、もしかしたらこのままもうほんとに蓋をされちゃつて新しい町が出来て、津波なんて過去の話ですよつてされてしまうんじゃないかっていうのがものすごい怖くて、勝手に中学校の教室から机を引っ張りだしてきて、ペットボトルおいてお菓子を並べてお花を供えたんです。そしてあ次の日に来たたら私が置いたのではないものが置いてあつて、ああここに來てるのが私だけじゃないんだつてそう思つたので、ここに子供たちが生きた証のね、記念碑を建てるにはどうしたらいいのかって考えて、相談させていただいたのがあの国際クリニクの前生だったんです。そして先生は「多分そう思つてるのはあなただけじゃないから他のご遺族の方にも声をかけてみたらいいんじゃないの？」つていうことで、ほかのご遺族の方々の連絡先をちよつと調べさせていただいて、第一回目の遺族会を開いたのがその年の二月。自分は慰霊碑が欲しい、私は手を合わせる場所が閉上に欲しいつて、贅言言えば息子が走つてね、目指した中学校にゴール地点を作つてあげたいつて、そして賛同してくれる方が何人かいらつしやつたので、じゃあ一緒にやりましょうつていうことで、慰霊碑の形と設置場所と遺族会のなかで決められて頂いて、ほんとに遺族会のお金で建てようつていうことで。ただあその場所は市の場所な

んで、とにかく場所だけはお借りしたいっていうことを、あとはね一切迷惑をかけませんって約束で勝手に慰霊碑を設置して、次の年の3月11日には慰霊碑の除幕式が出来ました。除幕式が出来た後には、私が毎日あのお花のお水とかを替えに来るときに先生が水道ないと不便だよね、できればお掃除道具を入れとく場所も欲しいねって言うてる話がどんどん大きくなってこの場所（閑上の記憶）がオープンしたんですね。それでここが4月の22日にオープンして、第一回目の語り部の会って形で私が話を始めたのがその時のゴールデンウィークです。

### 人々の記憶から消えることが一番怖い

私だけじゃなく皆自殺のことは考えたと思いますよ。遺族会の中には私の様に両親が生きててお子さんだけ亡くなった人とか、あとには本当に家族全員亡くなって、お父さんだけになった人とかいろいろいて、みんなね、やっぱり表向きは明るく振る舞って、本音は誰も本音は言わないんだけど、ポロツと端々には生きてる方がつらいって皆おっしゃるから、やっぱり私だけじゃなく皆一回は死のうと思っただらうなって。ただ、死んだらね、だれがじゃあ仏壇にお花あげるのかとか、だれが一周忌三回忌ってお参りするのかって、そう考えると、やっぱり自分が死ぬってことは考えられなくなるよね、うん。一緒にだったらいいけど後で追うっていうのは難しいねって、たぶんみんなも同じじゃないのかなって思います。

たくさんの方が来てくれるようになった、ものがあると、そこを見に来る人がいる、なんでもなかったなんにもないまじだったのが、あれができたことよって、ここでは「人」が犠牲になったんだねって、あの日は何があったのかとどうだったのっていうふう聞いてくれる人もいるようになりましたし、自分がもしかしたら一番嫌がってた観光地になっちゃったのかもしれないけど、それでも忘れられるって言うことのほうがつらいから、体がなくなることもつらいけど、記憶からいなくなることのほうがもっと悲しい。私たちは

親だから忘れないけど、贅沢言えば周りの人たちにも覚えていてほしいし、親が死んでも子供たちが生きてたんだよってことを分かってほしいなって親のエゴですね。

できればたくさんの方が目指して走ったこの中学校がね、ゴール地点であってほしいな、だからおぼけが見える人がいけば「もう走らなくていいから」って、伝えたいなあって思ってもいるんだけど残念ながら私は一切感じないので。見えないし感じないから伝えることができないんですけど。

### 午前中は仕事して午後は閑上にできるだけいたい

行方不明者の多くはこの辺りは嵩上げされたら二度と出てこれないでしょうから、土が入る前に自分たちが暮らしたところをやっぱりもう一回ね、見るべきだなって思うし、私は何か思い出がね出てくればいいなって思ってる。現に今日もキャッシュカードとかね、免許証とか、まだまだ出てくるんで、ほんとに、結婚指輪とかね、私この間パスポートも拾いましたし、まだまだ土の中からはいろんな生活が出てくるんで、そういうものが何も探されないまま土を被るって言うのがやっぱり悲しいから、自分の中のけじめとしてじゃないけど納得することの一つとしてね、まずは探してからそのあと土を入れたらなんとか、私は現地再建に賛成でもないし反対でもないんで、この町がなくなることは悲しいけど、この町で生活するのは私も無理だなって思ってるんで。でもここから離れることもできないんですよ。なのでこうやってしつこく毎日来てますし、多分これから私はここには住めないけど、毎日通おうと思ってるんで、住めなくても通うことはできるからできれば毎日通いたいなあって思ってます。

### 閑上のよいところ

人と人とのつながりの濃い町は、ないんじゃないかなって思ってるんですよ。ほんとに隣近所昔からの知り合いがいて、ね、おかげのやりとりとかもあったけど、それ以上に閑上の人って、本当に

親戚以上に深い付き合いをするところで、まあ子供会の行事とか、町内会の行事が盛んでっていうのもあるんだけど、本当にこの人この人は親戚なのかなって思うぐらい深い付き合いをして、実は全然赤の他人だったり、なんかそういう人と人とのね、つながりが深いのが、苦手な人には嫌な街でしょうけど、閑上生まれ閑上育ちのことをみんな閑上人って呼ぶけど、本当に閑上人になりたいなって思うぐらいこの町が好きです。

### 今後の事

この町がね、本当にばらばらになったりなくなってしまうことはすごい悲しいんです。本当にいい町でしたから。でも今と同じ町では同じことが起きたときにまた同じような思いをする人が出てくる。私はずっと一本の信念としてね、活動してるのは、もう二度とね、悲しい思いをする人がいないようにってこの想いだけでずっとこの2年半生きています。よくね、ほら何か一つ願いがかなえばどうですかとか聞かれるけど、最初は息子が生き返ればいいってそうしか思わなかったけど段々時間が経つてくると、うちの息子だけが生き返っても、またこの町が同じことを繰り返したんでは、また私と同じようにね、悲しい思いをする人がいるから、やっぱり悲しい思いをする人がいない町になってほしいし、していかなければいけないし、それを目指してね、進まなくちゃいけないだろうなって今は深く思ってます。去年の12月にね、あの津波警報が出たときもまた防災無線鳴らさなかったりとか、無線が壊れてましたって一言で済ましたりとか、同じことを繰り返そうとしてるから、そうじゃないよって。もう同じ思いをするひとがいらないようにしなくちゃいけないんだよっていうことを、やっぱり住んでる人間としてはね深く深くしつこいくらい、自分は今関係ないからいいやじゃなくて、しつこいくらい言わなければいけないだろうなって思ってます。

### ご主人は一切責めなかった

元には戻らないし戻れないし、まして我が家はもう息子が生き返

らない限り復興は絶対ありえないし、元の生活に戻るってことは絶対ありえない。ただ生きて行かなくちゃいけないし、娘の成長は楽しみなので、それなりの生活はしていきますけど、多分私も主人も後ろ向きながら前に歩くんです。前を向いてはもう歩かない、歩く必要がないです。ただ後ろ向きながら歩くしかないね、って私はそう思っています。主人はね、私を一切責めなかった。なんで助けなかったとかね、なんで早く逃げなかった、なんで両親に逃げろって言わなかったって、むしろ私が逆の立場なら私は主人をすごく責めたはず。でも主人はね、一切何も言わないで、津波の話はしなくて。津波の映像も見ないし、津波のニュースも見ないし、閑上のことがテレビで映ってても一切見ようとしません。それが主人の供養の仕方だと思います。私が、顔を突っ込んでいろんな活動してることも多分主人は知ってるけど、それに対して何も言わない、止めるつもりもないし、続けていいよってもしも言わない。

津波に親子ともども流される

元閑上七丁目

### 地震の時

地震のときは家にいました。ちょうどシフト休みだったんで。揺れたねかなりね。そして時間が長いでしょ？まず行動としては、地震来ましたよね。そして私は落ち着いてね、それで女房があたふたしてる時に、まずは落ち着けと、逃げようとしたりしてたからね、まず逃げるな。中にいろ、そして私丁度孫が前の日泊ってたんで、孫を抱っこしながらアイスを食べましたね。そして地震を収まるのを待ってました。それから、一応その時ね、ほかの同じ閑上でも「丁目って言うのは回線が別なんですよ、電気の回線がね、まずテレビが映ってたんです。それでまずそこで地震のニュースを見て、そして最初に出た言葉が、テレビでね、女川で、10センチの潮位をかんじましたと、いう言葉を聞いたまずね、それであんなに大したことないんじゃないかって思って、そこから今度外に出てうちのものが、どうなってるか確認してぐるっと回ったら全然問題がなかったんで、それで車も一応貞山堀沿いに移動しておいて、それから今度家に戻ってまず何かあったら困るなって言うことで、まず家の中の金庫の物を出したりそれからガス電気こういったものも全部、元栓きって、それ大体それやって30分ぐらいですか？まず片付けやっただのかな、それから貞山堀を見たんですよ。貞山堀を見たら、全然水がない、じゃあお母さんちよつとこれ、一応避難しようやっついていうことで閑上中学校に、まあ時間すぎ、30分すぎたからだね、に、避難しました車だね。閑上中学校に車で。その時30分後でも全然車は混んでもいないし。避難してから校庭にいたんですよ、それで海を見たんですよ、ちよつとあの町内の私の家が「丁目ですから、5丁目6丁目こつちの方から来る海を見てたのね、そしたら真つ黒くなってきたんで、あああれが津波なんだろうなと思って、ええ、だからそれに対してはもう対応する余裕はあったんですよ。ところ

がまさかこつちのね、(北の)川の方から、津波が来ると、真横からね、思わなかったんで、私はあの、その津波に中学校の一番東の端にいて、そのまま津波流されまして、この辺のお寺の物が流れてきたり、まず中学校に行ったときはね。こつちから来たから、だから横向いたときにはもう、津波が横にいたという感じだったので。えつと閑上の一歩東端にいたんですよ、野外音楽堂っていうのがあるんですけど、その脇に行つて、それで中学校の一番に西端まで流された。運良かったんですよそれで。田んぼの方に行つたら多分助からないでしょうね、校庭の前だったから、校庭の前を流れたから、それでちよつとプールがあつて、プールがちよつと高くなつてるんでそこで波がぶつかつて波の勢いがそこで弱くなったのね。それで浮き上がることが出来たんです。それがなければ、私も行き止まる寸前でしたから。それで助かりました、その時まあ私と娘二人がおんなじところに流されたからね、そして女房子供には、もう、その瞬間に大声あげて騒いでなんとかかんとか海岸の方まで女房と孫は行つたんで助かつたんですよ。娘は足の裏がまあ、土踏まずですか？そのところの肉もう全部持つてかれて、今は大丈夫ですけど。瓦礫は普通は来るんですけども、ちよつと中学校と、ここ中学校ですよ、この度往路挟んでここが田んぼなんですよ、だからがれきが、最初瓦礫来る前に水がでてきて、だからまだ瓦礫が来ないから、私も無傷で、本当にかすり傷ひとつなく、起き上がることが出来まして。大変だったんだけど、まず自分ではこの水は飲んじやいけないなって思ったから、まずは口は絶対開かないって言うことで、目はあけたけど、目は開いたら真つ黒だったんで。そのあとたまたま起き上がった場所に、まあ流れてきた屋根があつたんですよ、それに縋つて、女房よりもまず娘の方が私の方が心配だったんで、一緒に流されたんでね、そしたらすぐそばに浮き上がってきたんですよ、すぐ引き上げて、そしてみてみたら、娘の足がね、血だらけなんで、なんだって言ったら、本人はもう全然分から

ないんですよ、津波のあれでね、だからそしたらですわね、間もなく今度二階の部分だけが流れてきたんですよ。そしてその屋根とぶつかっただけで今度そのうちのまあ要するに壁だね、蹴破ってそっちのうちの方に移動して。あんときになって足の力っていうのは半端じゃないもんだね。そこでたまたまあの、そのうちの二階の流れてきたところね、そこにロフトがあったんですよ、ロフトがあつて、そこに上がったらすわね、まあ衣類とかそういうものがいっぱいあつたんで濡れた服をその場で着替えて、娘の今度血止めをするために、そっちのほうのほうでちよつと時間かかったけどね。だからみんなが見てるあの閉上がバリバリ壊れてる風景、私は見てないんですよ。もうすぐ水の中にいたんで、だからみんなが恐ろしいって言うのはみてない、ただ私がこつ怖かったのはやつぱりこつ、流れて、縋りついた屋根、それに縋ってたとき、目の前をですわね、人が流れてくんですよ。私を見てるんですよ。でも私どうすることもできなかつたね今回は。だからあのばーちゃんはその場所からいっただけまづ多分亡くなつたんじゃないかな。ちよつと流れの一番早い場所の方に流れて行つたんで、私もほんとに5、6メートルずれたらそのまま速い流れの方にいったでしょう、ちよつとあの中学校の南門つてあるんですよ、この、建屋のこの南側に、ここにちよつと門があるんですよ、こつち皆流れて行つたんで、私らはたまたまこの真ん中でとまつたんだけど、こつち流れたら本当にまづ流れがこつちいうふうにあの、校門ですから門柱があつて、そこが流れが速かつたんですよ、だからあそこに行つたらもう助からないだろうな。ちよつとこの辺で人が結構見つかつてますんで、死体がね。でも、そのあとですわね、私の場合はある程度こつ、水かさを確認して、ああこのぐらいいたらまあ中学校に移動できるなあと、いうことでもまず中学校に移動しまして、まず女房、孫の安否確認、それを確認して、安全を確認して今度もう一回その流された家の方に戻りまして。今度娘に、戻りました、その時ですわね、たまたま学校か

らの命令だったのかなんかしらないけども中学生のおにいちゃんやつが二人きてくれました、とにかく一回学校に私安否確認に行つたときに大体見てますから、じゃあここにある服申し訳ないけどつて言うことで、袋に入れて、全部中学なんでも、体操着とかもあつたんだけど、それはあんまりだめだから、服類関係とかは全部服に詰め込んで、学校のお兄ちゃんたちに渡して、だからずいぶんあれで寒さしのごことが出来たんじゃやないかなあつては思うのね、その流れてきたうちの方はちよつとわからないけど、うん。その家には悪いけどね。

その日は、その日は中学校に行つて、そしてうちの娘まづ怪我でも大けがの方だったんで朝一番に運びますと、いう連絡をもらいました、ところが待てども待てども全然来ない、そして結局一番最後、夕方だねもう暗くなつたからね、ころにやつと、車が来てくれました、それでこの名取第一中学校の方に避難しまして。娘は名取市の職員さんが車で待機しててそこから今度病院まで。

#### 避難所へ

一中へは四人で。津波あつた日はまず中学校ね、閉上中学校、その次の日だけ、もう一日だけ、あとはあの、娘が上余田っていうところにアパートに入つてたもんで、そっちの方に移動しまして、そこで約一か月間ぐらい。やつぱり娘が怪我して、入院してるしそれから孫がいるし、つていうこととにかつアパート探したら、まあそこしかなかつたんだけどね、戸建てのど真ん中だったんだけど、そこを借りまして。女房が、娘が入院してるし、まづ面倒見なくちゃいけないっていうことで。

#### 仮設住宅へ

去年の11月、役所の方からはそのアパートでるときにもこの仮設に入る際、なんか市からの証明書が欲しいと言われて、まあ先生にはたまたま安定剤貰つたから、安定剤貰つたということを書いてもらつたら、すぐサインになつてここに引越してきたんですよ。

やっぱりあの交差点のど真ん中、そしてあそこ特にあの震災でダンブが多く通るようになりましたよね、つねに地震が来てるような感じ、それからうるさい、特に私前の会社ときは夜勤やってたからあの、日中ねられないですよ。

ここはいろいろな所から来ている人がいるが、そこはなれあいじやないですかうまく話し合いの持って行き方、結構ここできてから新しい知り合いが出来ました。私ここを希望したんですよ、ここには七号棟が大体まとまったのが7丁目の人がいるんで、一緒に飲み仲間だったんで、それで希望しました。今ではこうやって全然知らないね、同じ閑上でも1丁目こっちのほうなんで、全然違うんで、普段は全然つながりはなかったんですよ。

#### 副会長として

多分前の会長が私を副会長にということと推薦したんじゃないかと。副会長の仕事っていうのはあくまでも会長ができなかったの、補佐、ですね。例えば役所の中に行くときとか用事がありますよね、その時どうしても会長が都合がつかないって言うときに行くとかって言う仕事なんですけども、だからなんか行事があるたびになぜか私が半リーダー的にうごいてやってきました。ええ、行事のねリーダーだね。交通の便とかとは、私が知らない日中まあいろんな人が来てやってるけど、これも自治会とは関係ないね。ひよりのほうの仕事なんで、自治会のあれはここにきてから、三階ぐらいやったのかな、でも今までやったことないような大規模なことをやるんで、

#### 今後のこと

まず私は、震災に会ったときから絶対私は閑上に戻るぞ、ただ女房の方がね、なかなかもう絶対いやだっというところで、まあ賛成はもらえなかったんですけど、じゃあ上から順序にね、この場所はどうだこの場所はどうかっていうことで、途中色々探したんですけど、そしたらここも嫌だここも嫌だ、となつてじゃあお前最後に

はどこに戻りたいんだって言ったたら、やっぱり最後は閑上に戻りたいって。母ちゃんがもともと閑上なんで、私はもうね、最初から戻るつもりでいたから、私の元の土地、駐車場がまあ、カーポートはなくなつたけど、駐車場の石とかまあそういうものはまた綺麗に敷いてあるんでそのまま残してくれってことでそのまましてたんですよ、そしたら災害危険区域になつてしまつてね。もうこう建てられないんだな、こう、ここが今度復興する場所であつたんだね、ちようどこの場所から行つて、観音寺さんだからどうか、お寺が、東禅寺、観音寺さん、ここだ、これ観音寺。この横からこっち側が、復興する場所なんで、私らが一応集団移転扱いになりますんで、その時この閑上中学校当たりなんですよね。まあ結局土地を買つて、家を建てるということからね。

#### 閑上のよいところ

私にはストレス解消には最高、私釣りっこが好きなんですよ、海釣りがね、あの、投げ竿で思いっきり遠投する、あれ最高の爽快ですよ。いつでも時間あいてる時はいつでも行けるんで、ええ。

やっぱりこの震災になつて行方不明者が四十何名もいると、いう話を聞いたらね、釣る気は起きないね、そして今閑上の海岸入れないでしょ？やつてるのはあの、一番前です、一番前とあと川の方。もつと最先端のところであつて、やっぱり私ら砂浜だとね、100メートル以上投げるからね、それがもう最高なストレス解消ですよ。七丁目でも私らグループが六人ほどいたんですけど、しよつちゆう飲み会、やつてたんで、だつて月1、2の割合でやつてましたんで、あとは友達なんでも来いだからね、どこかのうちに集まつたりとかあと飲み屋にいつたりとかして。それから4丁目にいたんで、ここは中島丁つて一つのグループでまあ運動会とかかあつたし、その今度私そこから7丁目に行つて、引越して兄貴の仕事で大工さんがあちこちにいたもんですから、大体閑上全般的に私知ってるんですよ、だからどこに行つても、私は友達はいくのね。ただ女

房はあんまり動かないほうだったから。だからこのところに私らこう、6人、そこで全部で私らの班が9世帯あったんだけど全部私以外引越したんでね、もう家バラバラに建てちゃったんで、家建てるときは名取市内かあと四郎丸が。

車ごと流された

閑上六丁目

あそこに住んでどのくらいなんだろうな、46年、閑上に46年ぐらいたかな。

### 地震の時は

地震のときは、家にいたの。うちにいて、お昼食べてゆっくりしていたから来たから、あー地震だっと思ってたらもうガタガタガタガタ家の中が倒れはじめたから外に飛び出した。家が潰れると思って外に飛び出して、で、庭の木にしがみついて、揺れるのを収まるまで待つて。それから今度うちの中に入ったらほら、倒れたものやら柵のこういう食器とか散らばったからなんにも考えないでそれを片付けたよ。倒れたもの二人でお父さんとあげたりして。そういうことして、やっぱうちの中ちよつと片づけてたね。うちのこと片づけてるうちに、あれーなんだ、早く誰かに押されるみたいにこれはこんなに大きな地震だから、津波がくるな、そこをもう半分でやめて、30分以上40分ぐらい。うちのお父さんは外に出て、道路に出て後ろのうちの瓦は落ちる、前のほうのブロックは倒れるそういうの見てるのよ。私それどこじゃないから、それでお父さん、逃げるから早く自分の薬、薬じゃなくて、「通帳ぐらい持つて」っていつて、まず寒いからジャンパーと帽子かぶって私も、あとお父さんの一週間前に貰ってきた薬が袋に入ってたままあったから、それバーンと入れて血圧の薬だからね。それ持たなかったら大変だったのね。それを袋に入れて。なにかあったらこれ持つて逃げようっていつもバッグ一つお金ちよつと入れて、通帳と、それは押し入れちよつとあけるとね、すぐ取り出せるの。何にも持たない、それだけ。その時ほら、猫もいた。炬燵見たら、二匹寝てるんだけど、あとの二匹は、びっくりしてぱーつと飛び出していつてそれつきり。でも、炬燵に寝てる猫は、もしね、水がきたって床まででしよって思った。床まで来たら猫は二階に上がればいいんだからってそのまま逃げたね、

また家に戻れると思って。それが悔やまれる、でもどうしようもなかった、連れては逃げられないしね。かわいそうだった。なんか人間もそうだけど動物に対してはうんとキツイの、ぐつとくるの。

### 津波がきた

車で逃げたのが、小学校の近く。保育所の前が家なんだ、保育所のすぐ前がうちなの。

途中歩いてる人やら自転車で行く人だのぞろぞろだったね。車はでもすんなり、走りましたよ。息子たちのアパートがあるところに行つたの。ここまではこないだろうと思つてここからこう。そして嫁の車がないのね。あらどこいったんだろうと思つてるうちに、嫁が帰ってきたの、そして近所の人に避難した方がいいよつて言われたんだつて、犬乗せて子供二人乗せて避難したの。そのうち間もなくだったの。津波が田んぼを回つて来たの水が。泥水がよろよろによるよつて少し見えた、あー水来たつて言つたら、嫁がばあちゃんはやく車に乗つてつて言うから、すぐに車に飛び乗つてお父さんはお父さんで息子のところに自分も車から降りていたの、けどその時お父さんの姿見ないでワツと乗つてしまったから、車がこっち向いたらそつちに行けばいいんだけども行かれない、そのまま走つたら、走つたらまもなく後ろからどーんとトラックが追突した。それでガラスがガチャガチャ割れて、その拍子に田んぼに突っ込んで、逆さに。それで田んぼに入つていったの。そのとき水がわーつと押してきたのよ後ろから、で、田んぼにボーンと逆さに車入つていったときはもう終わりだなんて思つて神様つていって、運転席から水がじゃんじゃんじゃん入つてきて、あー危ないつて思つて今度、すぐに後ろ窓開いていたから、ガラス割れたから、あれで助かつたの。でなかつたらもう、あと、ぎっしり入つたから、その車が、水で今度田んぼの真ん中らへんまでボンボンボン、流されていくの、こう逆さになつてたのがこう、いい塩梅にね、なつて流されていくんだけどそのうちにほら、脱出したの。子供一人ずつ

抱っこして、その時に最後にほら、犬も、いたから、あつぷあつぷあつぷあつぷおぼれて一番後ろで。二歳の子供と四カ月の孫がいた。お父さんは自分の車のところにいたの。窓から、顔だして助けてーつていって、男の人が二人きて、助けてもらつた、北高まで連れて行ってもらつたのお父さんが、それも全然知らない。私ももう、田んぼの中だもの。海の真ん中みたいな感じで。お父さんの方は早く助けてもらつたみたい。でもお父さんもびっしりこう、濡れて。

私たちは田んぼにずっと取り残された、あと近くにも何人かいたの、近くに何人もいたの。明るいうちからだよ、助けて助けてつて、ヘリコプターも飛んでくし、全然何も、取材のヘリコプターだから。田んぼが海みたいになつたの。あの大きなワゴン車の屋根、上まで水が、一メートル以上だね、二メートル近くね。屋根に登つたけど滑るのよそれが。犬はちよろちよろ、子どもも、二歳の子供は泣くよ。四か月の夢中だから赤ん坊だから寝てるけど、二歳の子供は泣くよね、びっくりして。じゃぶじゃぶ濡れて、なんて言つたら、地獄だつたなあ。今考えたら。それでも風邪ひかなかつたんだよ。あんなにあの寒くて凍えてぎぶぎぶ、絞れるようになってね。風邪ひかなかつたの。あれだけ不思議だった。風邪ひかないの、次の日朝五時に消防の人、ボート漕いできたの。その時孫二人と嫁、とにかく病院に連れて行つてもらつてつて言つたの。子どもが濡れてしまったから、救急車で私立病院に運んでもらつた、そしてじゃあばあちゃんとわんちゃん後は後でね、つてすぐ来るからねつて、そのすぐ来るからが、一時間たつてもこない。でも孫たち行つたからほつとしたの。そして今度、ボートが迎えに来たときは私ももう足立でなくなつてきたの。ボートに乗り移れなくなつたの。足が感覚無くなつちやつて、だから車の屋根からボートにスポーンと滑り落ちて行つた。あとそのボートに乗つて漕いでるうちに今度吐き気がして、げげつとボートで、吐いたの。うん。すごかつた。そ

ん時消防署に連れていかれたら、畳のあれがあるのねちよつとき、  
休むところあるのね、そこに毛布こう何枚か敷いてやって、ああこ  
こで休んでいいのかなって思つて横になつたら、「ここに寝ててダメ  
なんだ」って怒鳴られたり、あとわんちゃん連れて行つたでしょ、  
「だれだここに犬連れてきたの!? 犬ダメなんだ外だ!」って怒鳴  
られて、すごいんだよ。とにかくあと、あの、低体温になるから着  
替へしてつて言われて、若い男の人に、水色の紙のズボン持つてき  
て、これはきなさいつて、全部脱がされて、ごみ袋に脱いだ物入れ  
られて、すつぽんぽんに紙のズボン一枚履いたの。それでも濡れた  
の履いているよりはよかつたよ。あと毛布一枚。それでそこでどの  
ぐらい休んだかな。五分ぐらい休んだかな、で、今度消防の救急車  
だよ、増田小学校に連れて行かれたの。消防署ではスリッパ履かせ  
られたの。自分裸足だから、消防署でね。履いて、何人乗つてたか  
な、四人ぐらい乗つたかな、犬持つて、それで増田小学校に着いた  
らだよ、着いたら、車止まった時点でだよ。若い男が、これ消防署  
のスリッパだからつて足から取られたのスリッパ。それで、小学校  
に車から降りていくときだよ、裸足で私降りて行つたんだよ。あれ  
は私ずつと忘れられないよ。それで、裸足で、あの寒い時だよ、裸  
足で増田小学校に車から裸足で降りて行つた、感覚もなかつたの足  
の、私耐えて行つたら近所の人たちは来てたの、あの全然被害受け  
てないさ、ちゃんとした洋服着て、私らはこんな格好して頭もこん  
なになつていったの、そして大きいストーブたいてさ、暖かい。そ  
して「わー暖かい」つて言つたら、女の人、わー裸足でかわいそう  
つて言つてね、何か探してきてやるからねつていって、増田小学校  
と書いたスリッパ探してきてくれて、これ履いてつて言われて履か  
してもらつた。そのときは忘れられない今でも。なんで消防署で  
スリッパ一足に、これは消防署のだつていって車から降りる前に取  
り返したんだよ、あれだけはずつと忘れられない。でも無我夢中だ  
からそんなの頭に、そんなのいつまでもあれしてなかつたけど、そ

ういうのね、すごいね。それでほらつと車の上で助けて助けて騒  
いでるでしょ? そうなのに消防の車がね、もう四台もこう土手なん  
だから田んぼのそつちね、名取川あるでしょ? そこまでいったんだ  
流されて。土手に車いるの。夜電気カーツと付けてあるの、それで  
名取消防署です必ず助けに行きますから頑張つてくださいつて騒ぐ  
だけなの。来ないの。ガードレールがあるために、ポート行けない  
から、前から回つてきますからなんだつて、そういうことばかり  
言つて朝になつてしまつたの結局。ようやく水が引いてきてからよ  
うやくこうやつてきたの。自分たちも危ないから来ないのよ。だつ  
ちやうだからね、消防署でだつて自分たちも危ないから来ないの。  
で、車に車の中でみんな入つてるんだ。で、〇〇さんつて人ね、穴  
の開いたポート漕いできたんだよその人。その人が今度ポートから  
歩いて自分も濡れて歩いてきて、車にのつかつてきたの、屋根に、  
そしてうちの嫁の肩を、背中こうさすつてやつたりして、五時ま  
でいてくれたのその人。その人のところまでいけないでいるの、  
大河原にいるつていつてたのね、そして今度そつち、東部の仮  
設に入ったみたいなのよ。だから行かなくちゃつて思つてるの。自  
分が着てきたジャンパー脱いで嫁にかけてくれて、がんばれーが  
んばれなつて励ましてくれたのその人。私はこういうこと忘れ  
ない。

#### 増田小学校では

朝になつて、本当に卵の一回り大きいおにぎり。何にも味のな  
いの。貰つて食べたの、皿も何も、手に付くのよベタベタと。卵より  
一回り大きいから、犬に半分やつて、犬だつて食べたいでしょう、  
私の半分食べて、手もなめさせて、また食べて暖かいなあつてこう  
してストーブに離れないで当たつて、そしたらどこかの男の人が  
朝になる前かな、夜のうちか、珈琲、あつたかい珈琲とか、男の人  
知らない人だつた、缶コーヒー私に持つてきたの、飲めつて、見た  
ことない人。それおいしかった。口も乾燥して喋れなかつたの、つ  
ばも出なくなつたの、口からつばも出なくなつてね、口がからつか

らになつてね、喋れないのね。こう、あれ、舌がほら乾いてしまふと喋れないでしょ？喋れないから黙つてこうして、その人缶コーヒ―持つてきてくれて、その缶コーヒ―飲んで、おいしかったね。おいしかった、その缶コーヒ―知らない人に、ああいうときの親切は忘れられない。スリッパ持つてきてくれた人も缶コーヒ―の人も、それで朝になつておにぎり犬と半分食べて、それで今度お昼になつて、あとおにぎり配達するよつて言つたら、別の犬抱いてたものだからもつらつてきてやるよつてもらつてきてもらつてまた半分わけしてワンチャンと半分食べて、そしてうちに娘と孫があちこち探して歩いたのね。病院まで行つたつて、病院に行つたかどうかわからないつていうので、あちこち探して、それで増田小学校に来たら、二人できて、わーつてほつとして、それでそのまんま毛布だけは、今思うとその毛布持つてつてもよかつたの。娘のところに行つたら何にもなくて、娘も引越して一年もたなかつたから、名取が丘、娘と孫だけ暮らしてたのね。だから毛布だけは置いてその恰好でいったの。スリッパ履いて、それでお父さんもどこにもいないつて言うんだよつて言うのね。だから娘のところに行つたときは、心時ごろかな、じゃあお父さんは、明日探そうつてそして、とにかくいつて孫のズボン履いて着るものは着替えて、で、お父さん探そうつて途中でいったの。お父さんはもう玄関に泥だらけで座つたの、娘の家に。近所の人に途中で車、途中で会つて、乗せてもらつて名取が丘にいったらしいの、お父さんの車も流された。無いの車もそのまま、お父さんダメだと思つたね。死んだものだと、玄関に座つてうわーつてみんなびつくりして。お父さんも、中に入つて自分で脱ぐことできないんだすつかり、もう、お父さん寝なさいつて寝かせて、靴下からズボンから全部こうして脱がしてやつて、そしたら男いらないから男の履くものが無いのお父さん。本当に履くものなかつたどうしようと思つた、はーつて思つて、大きかつたズボンが、男の女のはかれるから、じ

やあお父さんこれはいてくださいつて紙のズボン、それお父さんにはかせて、私が孫のズボン、そしてお父さん三日間紙のズボン履いて。三日間紙のズボン、そのうちに石巻にいた、仕事に行つた息子が、心配したから歩いて帰つてきて途中から誰かの車で乗せられてきてそれから息子がバイクであちこち買い物歩いたりしてお父さんにもパンツとか、なんとかつて色々持つてきてくれて。それまで男の人居ないからお父さん大変だったの、すつぽんぼんで、炬燵に入るつて言つたつて電気来ないから布団かけるとあつたかいからこうして、こうしてだよ。本当に惨めだった、電気水道ガスもない。プロパンだつたらよかつたんだけど、都市ガスだから。三日間温かいお茶も飲まなかつた、ペットボトルの水はあつたけど。娘の家には、心か月いた。

#### 仮設住宅へ

仮設の月々日に移つたの。だけど娘のうちにいても大変だった、買い物、イオンまで。

仮設に来たら隣組とか、びつくりしたよ。みんな隣組の人がいたの、あそこ全部、昔の隣組がいたの。びつくりしたねあれには。会長がそのように固めてくれたの。の丁目こつちの、こつちはの丁目でね。この人たち、の丁目、そして来てどういふ人と一緒になるかなつて思つてね、心配して入つたんだけど、全部顔見知りの人と一緒になつたの隣近所。だからほつとしたよ。あれは、助かりました。全然知らない人ではね。本当であればほつとした、ほんとの隣の人、家の隣も閑上にしたときほんと隣だし。そういうひとが全部入つて助かつたよほんとに、それはよかつたね、入つて。

#### ご主人が亡くなる

の月々日に引越してきて、の月一日の朝、朝、の時、もうの時半ごろ、起きるんだな眠れなくて。それでも、私は朝寝坊だからの時まで寝てた。こつちきても。だから自分で散歩に行つてくるの朝早く起きて、で、帰つてきて自分でお湯沸かして、お茶入れて飲

んでるの。ピーナッツせんべいが好きでさ、ピーナッツせんべい、それ一枚、食べてお茶飲むの好き、ずっと日課でそれやって、その日も、その日はね、<sup>9</sup>時に目が覚めたの。そしたら台所のちっちゃいテーブルでお茶飲んでるの、背を向けて私トイレに、お父さん今日散歩言ってきたのって言ったたら、うんって、その時の返事がちよつと弱い返事だったな。お茶こっ一杯ついで、ピーナッツせんべいも、そしてなんだ、気分、なんか気分悪いから、もう一回寝るなって、全部脱いでパジャマに着替えたの、散歩いってきて。そしてほら、まだ布団畳んでなかったから、<sup>9</sup>時ごろ、で、休むって横になったの、病状が酷かったんだなって思って今考えたら。隣の孫がドンドンドンと歩く足音がうるさい、カーテンも引いたの。横になって。その前に少し静かにしておくかって思って茶の間の戸閉めたら、トントンとしたの、何？って言ったら肩こりのシップ薬あるじゃん。塗るやつ病院からもらってきてあるのよ、それを持って来いって言うの、つけてやろうって思ったたら、右側に自分で塗るの。

こうしてばーってそこが苦しいってばーと塗るんだよ。そしてそういうときこう、救急車なんて頭にならないのね。静かに寝かせておこっかって思ったのね。うるさいというから、カーテン閉めて、隣にうるさいよー静かにしてないじゃん今具合悪いって言うからっていつて、寝かせて、ついてればよかったんだけど、また閉めて、その部屋モップかけて、外の花に水かけたりしたの、そのうちにぐつとあったのね。どれっていつてみたら、ぐつたりしてたの。だから熱出たのかっていつて、タオルで冷やしてみても、胸触ったら冷たいのね、意識ないんだその時、あつという間だったのだから、心臓って左でしょ。でも心臓って急に悪くなるね。そして三日前から右腕が痛くて気分が悪いって、腕が痛くて気分が悪いって三日前に言っていたの。前の亡くなるなる前の日はね、甥っ子が塩釜の甥っ子が来て、喜んでみんなで寿司食べてなんだって喜んで、あいつが最後だったな。食べたり飲んだりしてそういうの、次の日の朝、その時、

記念写真撮ったの、日曜日に甥っ子がきたから、お盆の13日に気仙沼に行くから、おんちゃん乗せていくからね、いやー仮設つてどういうところかみんなで玄関で記念写真撮ったの、それが最後のお父さん、その写真が遺影になったの。前の日の写真が。前の日記念写真撮ったら次の日の朝なくなつて、なんていうことだろうね。引越して二ヶ月で。だからその頃はまあ夢中で過ごしたから二年後から具合悪くなった感じだね。不安定になったの。今年になつてからあの、具合悪いのが取れたみたいで日中でも薬飲まないと居られなかったの、

#### 自分も具合が

不安定なの。ダブルだったんだ私ね、津波でやられて今度お父さん亡くなつて、何が何だかわけがわからなくなつて、1月に病院初めてかかったの。100ずっと続いたの血圧が。それで病院にいったほうがいいって言われて看護師さんに。そして血圧の薬とそういう薬飲むようになったの。ああ、お父さん10月に亡くなったんだから、亡くなる一か月前に薬飲み始まったんだ。1月だからね。血圧が、お父さん亡くなる一か月前から飲み始めたんだ、そして安定剤はお父さん亡くなるから安定剤飲むようになったの眠れなくて朝<sup>4</sup>時ごろまで眠れなくて。まだ前後する。だからそういう薬はここにきて初めて飲むようになったのね、お父さんが亡くなつてからはしばらく家に閉じこもつてたでしょ？ここに出てくるようになったのはいつからなんだろ。

#### 集会所には

お父さん亡くなつてから集会所には出てくるようになった。亡くなる前はまだ引越してきたばかりだもの。二ヶ月間は、ここにはあんまりこないね、うん、亡くなつて、半年ぐらいして出てくるようになったのかな。そろそろ出てきたらつて言われて、それで出てきてはじめてたらやっぱりみんなとこう会話するから、あの、面白くなつて出てきたね最初のうちは。今はもう嫌になつたけど、距離

置くのもだけど、その頃はね、ああこういうのだって思ってた元氣貰ったから。ここにきて始めたらしいものももらえるのよ。着る物でも何でも。ここ来るといいなーってその頃着る物何もないでしょ。裸で逃げたから、食べ物でも着る物でも、なにかかにか貰えたね。最初の頃やつぱり飢えてたから。なんでも。着るもの食べ物飢えてたでしょ？あそこいけば、いいお茶もみんな飲んで、ああいうものももらええると思ってた。最初は喜んできたね。ほんとに今は来ない。色々、人間の本心が出てくるのね。ほんと、出てくるの。今まで大人しかった人たちが和やかに口を出さないから、心に、三年目に入ると出てくるのよ、そうするとやつぱり距離置くようになるの。そういうのあるから、あんまり、近寄らない、距離を置く、そのようにしてね、ここにもあんまり出てこないようにして、なんか楽しくなくなった。人間仲間良くなるとそうなるね。先のことを考えるとまだ頭痛いけど、仲間もよつとあんまりよくない。あんまり、よくない。色々そういうのが出てくるからね。お互いにこう遠慮し合ってる方がいいのね、ただ遠慮がなくなると、だめなの。そういうのがある、少しはね、そういうのがあるとみんなうまくいくのよ、それを全部ばーつと出してしまおうとよくいかないのよ。長くなるとそうなるのね。人間ってね。そんなに近くでこんなに付き合いたことないでしょ？それが朝から晩まで一緒、そうするとよくいかないなんだな。そういう状態、今は。こういう人たちきてくれて色々いいよ。

### 今後のこと

私家ではやつぱりそういうところに入れなから、息子と一緒に入るからお母さんも一人いないから、そうすると公営住宅に入れないな。一人で入るとアパートみたいなのところしかないさ、集合住宅。だからこんど一戸建に入ると、あつち四人でしょ？私と五人って言うよ、なんか100万もかかるよ。入れないんだ。だったら、100万払うんだしたら、ほかのところでね、それ考えてるの、今はまだ未

定だけど、まだなにもしてないけど、それが今、ほんと求めて、息子も仕事の仕事だからこういう密集したところに家買えないって言うの。塗装屋さんだから、荷物がほら、倉庫して荷物だなんだあいう危険物っていうのは早く言えば、密集したところにはね。愛島の方でもいいって言うけど私は嫌だ山の中嫌だ。冬は寒くて。これからのことを考えると、また頭が痛い。これからのことを考えると、はあー大変。この頃毎日それ考えてるね。だから夕ご飯食べると、友達と2時ごろ散歩するの夜。ああいいなーって。ここだれそれさんのうちだよ、ここだれそれさんの家だよ。って。閑上の人結構建ててるの。そういうの見て歩いて毎日歩いています。夕ご飯食べたから、だから夜テレビ見るっていうかなんか、ご飯食べてからずーつと歩いて、うん。テレビも見たくないんだもん。昼間ほとんどみないよ、テレビ。うちにいるときかけっぱなしなんにも見たくないんだテレビかけっぱなし、今テレビ見ないの、見たくないの。目もあれだから、目も弱いから、テレビ全然興味なくなった、ドラマも見たくないし、やつぱり今は今後のことが一番心配だな。地震保険入っていなかったし、田んぼ流された時あの時運を使い果たしたんだね

### 閑上のよいところ

気仙沼名の生まれ、お父さんは石巻なの。石巻、そしてここに来る前館山にいたの、千葉の。お父さんの仕事で、お父さんね、缶詰会社で働いてた。缶詰、閑上の〇〇水産ってところで今度缶詰やるから、人が欲しいって、連れてこられたの欲しいって言われて。それで引越してきたの、桃の缶詰作ったかなあ、そしてカニの缶詰始めたの、カニ、カニが上がったから。カニの缶詰、閑上でカニあがったのこういううちっちゃいの。カニの缶詰で、一応工場長で、働いてました。

ここにいたおかげでいろいろな人と知り合いになってよかった、なんてね。そういうことあるんだよ。

津波の方に避難してしまつた  
広浦

我々もいま反省していますが、我々は広浦と宮農(宮城農業高校)の近くのね。今までは宮農高に、避難するようになってたわけ。海の近くの方に逆に、っていうのは、増田川あって、増田川の氾濫のために海側に農学校に避難するっていうこと決めてたの。ところが津波の避難、今回は津波だったから、逆に海の方に逃げなくちゃいけないわけだ農学校に逃げるっていうことは。逆に海側に逃げる、こっちから海の方に。本当は川があって、川が手前であつて、川が氾濫した場合は宮農の学校に避難するよっていうふうに決めてたのね。ところが今回は津波だから海から来たわけでしょ、海から来たのに海側に逃げる避難経路だったんです。

### 津波の時は

もうすとーんと、電源とまつたから。それでああこれは大変だから大きい地震だったから、すぐに自動車を開けて、ラジオ聞いたら仙台市の方で6メートルの津波っていうの、すぐに情報はいつたから、じゃあどれ逃げるかと、そしてジャスコに避難。だから津波の状況とかどういふ風に来たかかっていうのは全然見ていない。それどころが、ああいう状況になって家に戻つたのが四日後だったんですよ、戻ることできないんだ。瓦礫から水一杯あつて、四日後。やつと歩いて水の中ぐぐつていって、やつと家に行つたら、とにかくね、悲惨な状況だったからね結局。流されたしね、家も。私たちは最初は増田小学校に避難したのね。最初の夜は。イオンから増田小学校に避難をして、そこでおにぎり一個ずついただいて、夜ね。そして寝るところもうないのね体育館いっぱいだったから。で、車に戻つて、三人で車の中で寝たのね、その時は、当然あの時雪降つてたからね。それで朝になつて、何にも食べるものがなくて増田小学校にね、それで名取市の避難場所そいういえば札幌ビール指定されてたなつて思いがあつてサッポロビールの工場に行ったの。そして

つけね、飲み物食い物までみんな使えるのね、だから食うものも飲み物もトイレの心配もなくて、その日の次の日の一日はそこで生活したの。サッポロビールで。だからその日は食い物なにも心配なかったの。そしてその日の今度夜、おれのかあちゃん姉が岩沼の里の杜にいるのね。そして、その日の次の夜の夜岩沼に行つて、今度はその夜のご飯を頂いて、そして、10日間泊まったの、姉のうちに。10日間泊まつて食事もいただいて、いつまでも、世話になつてはいられないって思つて今度仙台市の四郎丸、姉の実家前入つたところそのまま残つたのね。そしてそこに入つたらつていうことですから6月の10日から一日増田にいて二日目岩沼にいてそれから10日だから6月の末頃ですよ、四郎丸に今度うち、そこに住んだらつて言われてそこに引越して。四郎丸、仙台四郎丸、そして二か月ぐらいいたのかね、ここに仮設に移つたのが7月1日です。だからその間四郎丸に部屋を借りて住んでたのね。無料で、その時はなかったの、まだまだ。地震のすぐ後でしたから、借り上げも何もなくて、ええ、仮設にこう移動するようになってから借り上げのお話が出てきて、その時はなかったの。だから無料で面倒見てもらつたのね。そして7月1日にここにきて、そして、あとずっと。

### 仮設住宅

村の人だからみんなね、みんな知つてる方だから。皆さん知り合いないんです、あれ昔からの人たちだからね、何代も続く家庭だからこの辺は、街場と違つてね。昔からのほら、何代も続く農家の方々だからさあ。だからお付き合いが広いんだね。だからこの辺の村の人はだいたいみんな知つてるのね。そして、この時は、集団移転の会長してたわけさ、そして今年の6月1日から自治会長になつたの、兼務してるんです今。だから津波どうなつたのって聞かれてもね、実際わからないんです。

苦勞はないんだけど、やっぱりほらね、苦勞っていうよりも、み

んなのがやっぱりね、少しでも役に立てばっていうやっぱりね、精神だね。うん。会長としてなにも金貰ってるわけでもないし、ゴミ集めてゴミ投げして掃除してさ、セッティングするわけでしょ？副会長と俺とき、だからやっぱり皆さんの少しでもお役にたてばとね。定年にもなったしね。前は勤め60歳で定年で辞めて。農家はしてないんです、私あのサラリーマンですんで、最初から。実家は、実家は農家で、私はこっちに別家になったから。生まれたときからずっと、下増田にここにいるわけ、サラリーマンだから。農家はね、趣味だ、趣味です。生まれ育ちはずっとここ、広浦ですから。

最大の目的はここなんです。ここで生活をして一年でも早く復興しなくちゃない、街づくりをして、移転をして、そして充実した安全安心な街づくりをして、そしてそこ（集団移転先）で生活をするっていうのが自分的な最終的な目的目標なんです。ええ、そこが最終の目的の場所なんです。だからここはあくまでも仮設住宅であって、最終最後はみんなでよかったねというような街づくり、して、そこでよかったねと、そういう、ここが最後の目的なんです。ここにいるのが目的じゃなくて。

今ね、おかげさまで昨日もね、なんとかね、あの、今から場所選び、地盤できたもんで、どこに住みたいかっていうことで、土曜日曜日、ここで、美田園集会所で10時から、夕方5時まで、土曜日曜日とその地盤をここに住みたいっていう地盤を申し込むんです、土曜日曜日、そして月曜日は公民館で午後から、そして火曜日からは法務局の2階で場所選びとして、そして抽選日が、9月の17日、抽選日、第一回目の抽選日が、9月の17日ということ、当たった人は、第一希望第二希望第三希望あって、第一希望と抽選がびつたんこあえばもう決定はされると、こういう運びになってるんです。

### 新しい街では

新しい街づくりの考えは、先ほど言ったように安心安全な街づく

りということ、まず最初は、今の地盤よりも10メートル嵩上げをします。高さ、10メートル、上げると、その仮称（美田園北）で言うけども、美田園のパチンコ屋の北側、パチンコ屋のそこ、あそこ10メートルあげると、パチンコ屋さんの地盤と同じ高さになるんです、っていうことは、パチンコ屋の上に入らなかつたそうなんです水が。だからあの津波の高さ来てもこの仮称だけでも、美田園北の新しい移転地には水が入らないっていうのが前提で、そして、このこの土地ありますよねこう、ここに調整地あるんですが、ここに東、北、南側、西側、遊歩道を作ると、遊歩道を作って、そしてあの、散歩道っていうかあの、歩道を作ると、車通さないで歩道を作ると。そして、昔ながらあのイメージを大事にするためにイグネを作りたい。イグネをここに作って、そして、散歩をするということ、これを充実したい、そして木も植えて、ベンチも植えて、照明を明るく、うん。そして緑のある、散歩のできる街づくりをしたいと、さらには上ばかりじゃなくて下も、フット的っていうんですか、下の方にも歩いて下も見えるように、下の方にも照明をつけると。で、さらには中央線、北と南、パチンコ屋の市道、ここが今度は県道になりますから、ここがね、あの閉上線、閉上線がここになりますので、メイン道路、あつちがメイン道路だったけどもあれがここになるんですね。そしてパチンコ屋のところを新しく作る市と、名取市と、ここを、綺麗な石組みで綺麗にすると。人の方はまだなにも、言うことはないんだけど。だね、閉上は閉上の方々でまたね、違う場所にあるいは一部来るのかどうかわかりませんが、でも、要するに安心安全な津波も来ない、公園も作って運動場も作って、歩道も、年寄りもね、安心して生活できるね、子ども、孫遊んでれば、ばあちゃんじいちゃんもベンチに座ってこう見ていられるそういう環境を作りたい。そして日陰も作ってね、災害公営住宅の脇には非常用のトイレを作ったり、消防署置くとこ、消防車を置くとこも全部そろえて、そして綺麗な街づくりをして、そして敷

地内には道路には電信柱を建てないと。私有地のところに電信柱を立てると、ですから道路は道路の、普通この辺の道路、道路に電信柱立ってるよね、それで車往來する人も大変だったという事で、敷地の中に電信棒を使って道路には立てない。そういう街づくりをしていこうと、そしてうちも、うちも景観を、家の景観、屋根、色もできるだけ統一して（杜）せきの下みたいな感じで、で、家建てるのも最低一メートル、左右、隣との境界線一メートルを離していうと。そしてブロックする場合は下から60センチ、最大で。そしてそのブロックもカラーブロックを積もうと。あの普通のセメントじゃなくて、カラーブロックを60センチ、最高で60センチ、そしてそこからフェンスする場合は最大で1500、それ以上は作っちゃだめですよ。そして隣も見えるような開放感がある見える街づくりをしていくと。

### 広浦のよいところ

広浦はね、下総で一番ね工業地帯の多いとこだったんです、学校ももちろん宮農あったんですが、下増田、名取市、この下増田感覚で、広浦っていうのは工場一杯あったんです。工場だから、工場があるっていうことは働く場所がいっぱいあったわけ、あの広浦地区。だからいま全然ないですから、今は生活が大変ですんで、がれき処理とかね、もう、働く場所がない、なくなっただけね。同じ町内会も工場がいっぱいあったために御祝儀とかお酒とか飲みきれないくらい、日常で助かったんです、企業からね、ご祝儀とかお祝いとかいろいろ、ただ働く場所があったために、遠くに出かけなくても近くで農業しながら、朝晩とか、土曜日曜日農業して、そして会社勤め、けっこうここでした。ここにもあるように、宮農自体だってなんでもできてるからさ、あの、農業で教えるんだね先生ね。成田、ほら成田もあるけども、成田なんかもあるし、いっぱいここに大きいとこしかないけどもいっぱいあったんです。

何もなくて買うところはなかったんだけど、働くところはいっ

ぱいあったの。だから金使うことなかったの、店ないから。だからみんなお金いっぱい持つてる（笑）今は、金ないんだけど使うところはいっぱいあるの。

氾濫もしたの。貞山堀、工場の貞山堀西側の堤防上から超えて、農学校もがぼがぼになってこのとこ大変だったときもあったの。貞山堀の上から超えてきたんだ。土手から。増田がもう決壊したの。阿武隈川も決壊したんだよこつち側。北側の堤防、昔。阿武隈川側も決壊したんだぞ北側、こつちがわが、だから水浸しになったんだからみんな全部。

震災後ご主人が病気になる

下増田

震災前のお住まいと暮らし

住んでいたところは、下増田って言うのね。

私は閑上出身。下増田に嫁いだ。旦那は勤めてただけど、33歳になつてから定年になるでしょ。嘱託で入つと安くなるし、「若い人に使われるの嫌だ」って言って、農家。土地もあったから、兼業から専業になつたんです。

元のうちに居たのは、みんな農民。私らは次男と一緒に3人でこつちさいたの。長男は、旦那の土地に別に家を建ててたの。そこは、長男夫婦と孫2人でした。

地震が起こったとき

うちは農家だから、野菜を農協に出して、3月11日は金曜日だったよね？ 明日は休みだから、〇〇ホテルに、観劇って、踊りなどね、劇があつたの。それ見に行こうって、近所の人2人、奥さんたちと、うちの旦那と4人で行つたんです。

そしたら、3時に終わるから、荷物を片付けていたの。そして地震がなつたのね。この地震が、すごいんだもん。12階建てだから、これで潰れたら…。12階の2階にいたの。それでも潰れたらと思つたら、私、腰抜けになつたの。そして歩けなくなつたの。旦那に、「早く行くぞ」と言われたけど、私「ここでいいわ」って言ったのです。

近所の人たちは、外に逃げるのが早かつたのね。支えられて外に行つただけど、階段下りるとき、すごい揺れて、シャンデリアがバラバラ落ちてきたの。私ら早く逃げたから、道路さ出ただけど、今度、道路が陥没して、なかなかこちらに来られなかつたの。時間かかつたの。

長男家族の状況

そして、ずっと来たら、旦那が「玉浦の裏口行くか？」って言う

たのね。「あー、あっち行かないほうがいいよ。こっちのみんなの車のおり、流れたほうがいいよ」って言ったの。津波は見なかつたから。そして、車のなかで、仙台空港に津波がきたって言ったけど、滑走路にさーっと、水が流れた程度だと思つたの。わかんないから。見ないから。

そしたら、ここに来るときね、6時間かかって、下増田小学校まで来て行けなかつたの。文化会館に戻つたの。文化会館に行つたら、うちの長男の嫁がいたのね。あーどうしたんだろうと思つたら、ちようどいたの。お父さんが「どうした？」と言つたら、2番目の孫が高校生で、仙台空港でバイトしてたと言うのね。

長男の仕事は夜だったから、うちにいたのね。自分の娘を仙台空港に迎えに行つたら、まだその時は津波はこなかつたんだって。車に乗ろうとしたら、車がパンクしてたんだって。白砂の方見たら、津波が流れてきたんだって、それで仙台空港に泊まったんだ。ちやね。2日間。パンクしてないで乗って来たら流さつたのね。それで命あつたのですね。

次男を探す

次男いたのね。それも夜の仕事だから…。私、12、13日に、下浦の橋まで行つてみたの。その時は水引いたからね。うちさは、行かないの。道路に家がドンとあつたから。「次男坊うちでないんだんやー」って、13日の日、言つたの。そしたら近所の人からね、「お宅の息子さん流さつて」って。毘沙門ってあんのね。その「橋んところね。そこまで流さつて、そのハウスのパイプ掴んでたんだ。」って、人の話ね。和尚さんがその学校の通りを歩つてたんだって。電気点けて歩つてたから明かりが見えたから、次男が「助けて」って言ったみたいなのね。あのととき雪も降つてて寒いからね…。

今度ね、その路地さ上がって来たんだって。そしたら、下増田小学校に連れてかれたんだって。本人も無我夢中だったからね。自分も薄々覚えてるみたいで…。「何にすがつたの？」って言つたって

無我夢中だったんだって。

そしたら岩沼の：病院に行ったんだっちなね。わたしら病院に会いにいったんだけど、人がいっぱいいろいろ、さくら幼稚園とか体育館とかわかれて置かってんだよね。だから会えなかったの。もしたらば、少し若いから体調も良くなって今度増田の第二中学校に送られたんだって。そこに会いに行ったのよ、連絡来たから：。その時は電話も何にも通じなかったからね。行ったらば、会えたのね。だから、助かる人よね、流れる人といるんだよね。「命があったんだ、あんたは」って言ったの。やっぱり若かったんだか、体力もあったんだか。そしてダウンっての着てたんだって。ダウンっていうジャンパーの：膨れるつちや、水吸つとね。そいつは脱いだ覚えあんだって。そしてね、今でも津波のことさ言うと「言わないで」って言われるの：思い出すから：言わないでって：。

次男が最初言うには、自分の家に、瓦、落つたかなと外に出て見たんだって。そしたら、瓦は落ちてないけど壁などは落ちてたんだって：。そして、津波が流れてきたから、車で逃げたんだって。そして、後ろから津波が来て、車から出たのかなんとかかって：。夢中だって言うってたもん。無我夢中だったって、何にすがったんだが：。命があったんだね。流されれば、亡くなる人も多かったのにな。助かる人もいたんだね。命があつてよかったです。

### 避難所生活

私らね、文化会館にいたのね。7人で登録してたの：。あの土地ね、寒いし、人も大勢だし、あと食べ物もなかったし：。あの当時思い出すと涙が出てきます。ガソリンだつてね、2日も夜、車の中で寝てて、20リッターぐらいしかなかったのね。そういうこともあったんです。

そして今度ね、うちの旦那ね、文化会館で、大勢だからストレスも溜まったんだと思うのね。みんな咳もしてるし風邪もひいたのね。私らカウンターの前にいたら倒れたのね。「あらどうしたの？ 眠い

んなら布団さ、布団ってないんだけどね。：こっちさ寝たら」って言ったのね。また同じとこで倒れたの。そして、国際クリニクってあんのね。文化会館の責任者の人が連れてきてくれたの。インフルエンザって言われたの。そしてね、今度隠れ座っていうの？ 文化会館の：隠れ座に：2階に休ませられたんだけど、うちの次男が帰って来たつちや：第二中学校から。「このまんまじゃわかんないから東北病院に連れて行ったら？」って言われたの。そしたら肺炎になつたの。「もう危なかったね」って言われたの。入院したの：。今は回復はしてはいるんだけども：やっぱりね：本当ではないんだね。本当にね、このことで辛いことばっかりだったんです。

そして今度ね、8日いたのね、文化会館にね。そして今度、仮設に来て：。

避難所ね：。人がたくさんいてさ、食べ物だつて、800人だったから、貰うのには、大変だったね。あんな思い、ほんとにしたくないね。着る物だつてないし、それもさ、観劇に行つて、すぐ帰つてくんだつて思つて薄着で行つたし。こんな津波来るつていうんだらば、厚着で行つてさ、いいの着てくるとよかつたね。

### 旦那さんの病気

仮設に来て、うちの旦那ね、やっぱりまた、ストレス溜まったんだと思うね。「横っ腹痛い」って言うのね。「なに、誰でも痛いんださ」って私が言ったの。そしたら午後になつてもまだ痛いって言うの。岩沼の病院に電話したの。「来てみたら？」って言われたの。「明日検査受けてみたら？」って言われたの。今度、がんになつたの。肺がんだったのね。今度、宮城県のがんセンターに移されたの。

がんになる前には、白石の人が避難所に見舞いに来てくれたのね。だからって、うちの旦那が白石のその家に行ったのね。電話持つてるでしょ、電話取ろうとすんだけ言葉がわかんないの。私が「何したの？」って聞いたの、そして何の言葉だかわかんないの、なんか、ろれつがまわらない。そしてあつちで白石の人が、「救急車呼ば

る？」って言うの。「いいから落ち着くから」って言って落ち着いたのね。そしたら落ち着いて、ここまで帰ってきたの。1時間かかるの、白石から。そのとき次男が「あつ、これはおかしい」って言って、また東北病院に行ったの。そしたらね、脳梗塞になつたの、今度また…。息子に病院に行けと言われて2回とも…。そんなことばかりでね、悩んでいるんです。

今、旦那は、入院はしないで、毎日一回ずつがんセンターに行ってるんですけど、酸素が足りないから酸素をしてるんです。

その中でもいろいろ…。悩んでるんです。だから、うち建てるのだから…。どうしようかな…。公営住宅に入ったらいいかなあて思っているんです。

何にもなくなつたからね。さっぱり、片付けさえできなくて…。だから、旦那は余計ストレス溜まるんでない。そしてここさいるの「嫌だ嫌だ」って今でも言われんの。次の場所に「いつ行くんだ」って言われっけども…。だってまだ始まってないもん、あつちね。だからね。農家の仕事したいけど何にもないからね。

### 現在の仕事と今後の不安

私は今、ガレキに行ってるの、毎日。ガレキってね、みな流さつたでしょ。そしてゴミだの、そいな拾ってる。あと、畑に石など流れてきたのを、毎日掘ってる。午前中だけね。年も年だから…。

私も旦那に内緒で小遣いね、タンズなどっていうとわかんなくなるから畳に隠してたの。そしたら全部流されてさ…。やっぱりね、小遣いっていうの欲しいっちゃ…。旦那には内緒でさ、へそくりって…。もったいないねえ。嫁さんがそいなこと言うの。いつもガレキさ行って、嫁と言ってるよ。「もったいなかったねえ」って…。やっぱり嫁だからね、旦那さんに内緒で使うときもあるから。

これが大変だよねえ。今までただで生きさせてもらってるけど、これからは金掛かるし、あと、年寄りだって税金取られるし…。心配です。

だからね…。宅地のお家は買ってもらえるんだけど、うち建てたらいいんだか、公営に入った方がいいんだか。公営だっていっても高いし、一戸建てならば借りて入ってもいいんだけど…。やっぱり、隣同士見えるようになると私、嫌だなあて感じるから。公営でも見えても、公営の方がいいのかなあと思ったりして、悩んでいるんです。結構高いんだもんね…。公営も管理費取られるから…。

先のこととは、だいたい決まつたんだけどね。でも、やっぱり公営さ入つかねえって。管理費の分など駐車場代別なのね。取られんの。やっぱり夜、隣同士で…。ほら公営だって隣同士見えんけど…。「やんだなあ」ってうちの旦那も言うからさ、公営のほうがいいかなあなんて言ったり…。もともと農家なので、家が離れてんの、うんつと離れてんだけどね。そして、年だしやっぱりなんか考えられたもんじゃないんだわ。

長男も仙台に移つたしね。次男は別に、この仮設の部屋を借りたんです。移転先では、次男と一緒に住む予定です。次男は、今は別の仕事をしています。

### 下増田の良いところ

やっぱり、近所が一番良かったと思いますね。やっぱり離れるのが辛いです。住みやすかったです。隣が離れるからのうのうとしてね。仙台空港はすぐ前で見えるし…。綺麗ですよ。今度こつちさ来ると、家ばかりしか見えないでしょうが。風景がね…。風景が違ふもん。健康が一番です。

## 地震の時は

飛び出しても、それでもみんなついてくる人もいるし、みんな杖ついたりなんだりしてね、いっぱいあの中学校に避難してるのよ。でもその人たちのあとをついたんでは、なかなか進まないでしょ。それで私は歩けるからね、歩けるからさーさーと中学校まで入ったの。そして何気なく中学校の門に入ろうとして今度東の方ちよつと振り向いたね。真つ黒い私は雲だと思つた。あれが波だったの。波とは見えなかつた雲だと。こんな真つ黒い雲、こんな。そして中学校に行つてだね、二階まで上がらないうちに、若い人たちが下から「水だー！」っていつてもうこここね。膝から下濡れてあがつてきたのよ。うん。だからあの道路歩いてる人は皆流れたね。あの手押し車推してる人たちもいっぱい歩いてた。もう少し早くね、津波の情報をあつたらば、あんなことにはならなかつた。

もうあの、ほんと中学校に上がった時はね、私ほら南側の教室ね、ここに頭を付けたせいでね、ここ流れる、うちは流れる船は流れる、車なんかピカピカつけたまんま流れてくるんだよ。窓を見たつきり「はー！」って行つたきり動かれなかつたから、もうなんともいえなかつた。うん。どんどんどん流れてね。うちの中で手振ってる人もいるんだよ、おそらく助けてつて振ってるんだと思うよ。その人たちだつて行かれないでしょ。うん。うちの弟もすぐそばにいるんだけど、やつぱ地震になった途端に、何かとろうと思つて二階に上がったらしいのね。そうしてるうちに水きて、二階と一階が離れたんだと。そして二階に上がったまんまうちとともに流れて行つたの、それで小塚原の家のとこにくつついたんだと。ねつぱつたんだと。そこで一晩中ね、水の中にいたらしい。うん。そしてもうどこまで上がったつていつたら結局こういうとこに写真とか免許とか飾つておくでしょ？あそこまで上がったの水。屋根にね、頭着くばかりだったの。そしてそのどっかにすがつて、そのまま流れ

て行つたんだつたの、一晩中水にいたの。

## 避難所へ

中学校で一晩ね。もうどうにもならないから、食べ物がないし。100円で売ってるポテトチップス、薄いのね。一袋100円、あれ一枚。そして今度次の朝、朝ないじゃん？それはソーセージね、ソーセージを三分の一ね。

あの市営バスもさ、市営バスちようどあの閑上に着いたんだつちやね。だからあの運転手さん亡くなつたんじゃないかな。ねえ。そのバスからは逃げただけども、バス自体が。花屋さん（注 フジフラワーのことか？）あつたさ、あそここの二階に上がったの。花屋さんの二階にバスあがつてたの。だからやつぱり、17.5メートルつていうけども、もつとあつた。

## 復興は

住民もね、やつぱりもうもう一つ悪いのはね、私いつつも感じるんだけどね、石巻だとかね、三陸町だの気仙沼に行つて感じるんだけどね、あつちのほうはお寺がね、山の上にあるの。そうするとね、登米とか一関に避難してる人たちがね、お彼岸お盆には必ずお墓があるから来るの。閑上はね、お墓もないの。無いんだもん。だからお墓も無いからね、慰霊塔もないでしょ？閑上慰霊塔もないんだもん。それどこにいつても当然になつてるの金かかつてるじゃん大曲。観音寺はまだいいよ本堂つくつたから。ご先祖様祀るつていつたつてどこにいけばいいかわからないだもん。こんなのおかしいじゃないですか。

だからね、あの、三陸町とか気仙沼はね、あつちのほうは山の方に墓建ててるじゃん。だから、お寺がなくても、お墓参りはできるとご先祖様の墓があるから。閑上は私行くたんびにね、骨おんなじとこに、うちなんかほら、ご先祖古いから。うち古いものだから骨こんななつて、骨真つ白になつてるよ。で、誰も線香つけに来ないじゃん。閑上は。だから行つた帰りに寄つて、線香つけて帰る

の。で日和山に登って、誰もあの、語り部がいるとかって言うけども、誰も説明する人いないから、たまたま私あの、アルバム持ってたのね、地震のときの。それで見せてこうだったんだよって言ったから、「わーありがとうございました」って。戻る人は最初はなんか40パーセントだか50パーセントあったんだけど、33パーセントが今度23パーセントになってる。今度ね、あのなんかの風聞だけど、5メートル嵩上げしたときに200世帯を作ろうとしてるんだよね。200そして行かないんじゃない？なんかね、この間の新聞に載ってるのを見ると東部道路の西ではないんだね。西の方にもつくるって、言ってるんだけど、全然できそうにもない。

だから閑上に帰るっていう一つの、なんていうか気持ちはないもの。また津波って。もうあのへんに行ったらね、地震なんて津波が来ると思ってるからいたたまれないよ。心配だね。一回ものすごいトラウマを受けてるわけで、心に傷を受けてるわけだから、その心の傷っていうのはそんな簡単に治るものではないんです。

米や野菜を作りたい  
杉ヶ袋

### 震災の時

震災になる前ね、家にいたのさ、うちにいてね、作業してたのさ。そして作業してる中にほら地震があつてね、それでずいぶん強い地震だなんて思ったのさ、それでハウスの中で作業してたからね。ハウスの中はね、カボチャだね。うちら段取り（準備）したわけさ。それで地震になってね、ずいぶん地震強いなって思ってたわけなにもかにもね、ハウスから出られなくなるぐらい地震強かったね。そして外に行つてね、そしてあの、こうお家見たつけさ、屋根が作業場の屋根がこう、屋根だけバーツと下がるんだね。だめだなんて思ってたのさ。作業ばかりならいいけども、あとは津波とか全然分かんなかったからね、作業場出てまあ作業場潰れたとかはね、大したことじゃないと思つて。

うちは懸向だからね。西になっていくと、杉ヶ袋。杉ヶ袋字懸向つてとこだね、前の住所はね。地震が来て、まあハウスから出てね、そして作業場見たつけ屋根が、屋根だけほら二階の屋根だけほら、これダメだなんて思つて、ただ俺作業場だけが潰れればいいなって思つたんだ。それで後から地震が、だんだん弱くなって、うちの嫁がほら、ちようど作業場の中で働いてたわけさ。小松菜の市場に出荷するのにほら小松菜袋詰めしててさ。したつけうちの嫁が大津波来るつてわけさ。なんだ大津波また来ないんじゃないのかつて思つたのさ。したらとにかく大津波来るつてラジオで聞いたからね、大津波来るつてわけじゃあと、いや大したことないなって思つたけど、嫁にね、「とにかく行くぞ」つて車に乗つて下増田小学校に避難したわけさ、うん。そして下増田小学校に避難したんだだけでも。えーつとあとは隣の、かあちゃんたち乗せて行つたからね、だから心ぐらいで下増田小学校に避難したわけさ。結果ほら、下増田小学校じゃだめだから、じゃあ名取市の体育館、あそこじゃな

いとだめだつてわけで行ったわけさ。津波来るつていうことを、津波つていうのどういいう津波だか分からなかったんだよ私も。そしてそのまま今度色々館腰のまず、公民館ですか？公民館に避難したわけさ、うん館腰の公民館になんばかな。そこに避難して、そしてあとはそこにしばらくいてねお世話になって。

### 館腰公民館に避難

公民館に避難した。そしてそこにお世話になって、そしてなれば、1か月、1か月ぐらいたかかなちよつと忘れたけどもね、それから今度娘がうちの娘が嫁にあげた娘が亙理町の逢隈にいるのさ。そいつさ、ちよこちよこ公民館にきてさ、心配してるからね。で、またあつち水道だの電気だのまだつかないかってわけさ、「うんまだ今少し我慢しないと」なんて、そしてそれから電気だの水道だの使つてほら、そして娘のそこに行つたわけさ。娘のそこに行つてそこで一か月ぐらいたね。一か月経つて電気など付いてから呼ばれたわけさ、うん。そして娘のそこに行つて一か月ぐらいますか？そして今度こつちも大体仮設にね、入ることになってそのうちに仮設入つたの6月の、ああ6月9日ですか？6月9日にはいったわけさここに。

### 仮設住宅に

6月9日です。そして仮設入つてまず、狭いところでは、入つててさ。前ほら家農家だったものだから。農家いたからあれ、だから今頃（その頃）じゃあ潮風で田んぼだの潮風で、今から田植するのなつてちよつとこの学校の裏の方に行つたわけさ。そしてたら潮風なのに田植えして、そして田植えに行つてね、やつぱり、我々も農家これ田植えだのね、だのすればいいんだなつて思ったのさ、田んぼもないからさ。だからその時、あの、農地もなんもないからね。ただこの街つていうのはやつぱり他で田植えだの披露してる（見せている）のは好ましかったね。

副会長は二年、もう改選期だからね。そしてわけさ、また副会長

なんて俺なんにもわからないけど。仮設つて会長まず一人でやるからね、だから会長それでやつてるから我々それで助かつてるのさ、それでもやつぱり一応やつぱり会長ばかり一人でやるのもだめだからね、我々もまず手助けするけどさ、やつぱりあれだった場合は二人でここにきて色々支援物資だのね、色々ほらみんなと仮設にいる方に分けて渡してるからね、そういう仕事たままたやるわけさここで。あとは別にまあここにはいつて、入つても狭いことは狭いのさ仮設は。でもまず二年と何か月いるからね、なんぼか慣れ始まつたんだけど、でもやつぱり気になるねやつぱりね、

息子は私の場所よりは少し、二、三軒離れてるけどね。たまに手伝いするかななんて言うけど「いい」なんて言うからさ。ただね手伝いしてもね、年取つてるから俺（笑）。息子が畑を借りているのは名取の本郷、本郷つていうところ借りてるのさ、畑。反分ぐら借りてるんだね。そしていろいろ野菜作つてね、あとあれ、市場に出さないでスーパーに出してるらしいんだね。三人通つてるわけさ。それでスーパーに出すんだね。色々ほら、そこらにトライアルだのあと、フレッシュあるからね。みんなスーパーさ、あと岩沼のジャスコに出してるらしいんだね話聞くと。うんうん。

前の畑つていうのは塩被つちやつて、まあ早い話原野のようだね、草ぼうぼうだからさ。

今までほら、今まで農家やつてね米大体一反からなんぼとれたつていうのね。今は全然そういうことないからほら、今ね、田んぼなんて作れないからね。でも私の田んぼはほら今集団（移転）にしたからさ、俺任せる（そのままにする）のさ。やつぱりほら色々なあれ、耕谷のすかあれ、あそこアグリのあたりね、植え方ほら作つてるから多くさ。そういうのにみなするんだわ。今まで私らのあれ作つてる田んぼや畑はね、まずいくらかね、買いに来るんだけどもね、それで今まで作つてる土地をさ、貰うんじゃない今まで作つた土地を、いくらつてほら作られることになつてるんださ。今ほら田ん

ぼだつてみんな任せてる（そのままにしている）からね、農地だの  
ぜんぜんないからさ、作業するところ作業場もないからね。今まで  
農家やっててさ、なんにもすることないからね、うん。

### これからのこと

なにもあの、今まで働いたあれ、まず米だのなんだのってなんぼ  
か収入あったからね、今まるつきり収入ないからね。うん。だから  
どうしてほら払ったらいいかとかやっぱりそれ一番心配だね。息子  
と同居の予定。土地はあつてないんだからね。今のところに、土地  
はあつてね、家買えつてね、やっぱり米を作ったり畑作ったり野菜  
作ったりつてできればいいんだけど、でもまるつきりだからね。  
うん土地のないことが一番辛いね。だからまず何十年としてこうい  
う震災になつてからやっぱりまるつきりなんかね、収入もないから  
ね。収入があればいいんだけど、でもまるつきりないから。ほんとは我々  
まず年金暮らしとかなつたらね、だからただここにばっかりいて息  
子たちほら土地借りて農家やつてるからね働いてるからさ。おれら  
余計なこと言つてもね、息子になんだかなあつて言われてから大変  
だからね。だからみんな息子に任せて、そしてどうだこうだつて言  
わないでね、そつちのほう一番いいなつて思つてるんですわ。ほん  
とはいうとあと今度構わなくなつてから大変だからさ。

ここ交通の便はいいねやっぱりね。いろんなあれね、野菜だのと  
かもみんなスーパーあるからね。ただあんまり交通の便が多いなん  
てやっぱりあんまり買つと今度お金が大変だからね。病院にやっぱ  
り半月にいつぱんずつだね。血圧、血圧の薬貰いに行くね。あとは  
体に異常ないようだけどね、だんだん年取つてくるに従つてね、体  
異常出てくるからそれは分らないけどね。前は農家やつてれば体、  
毎日ね。休みなしだからね。今ダメだよやっぱりね、今は。

杉ヶ袋で生まれて父の代から全部こちらに田んぼなり全部継いで。  
だから先祖代々の土地だから痛ましい（残念）のさ、本当にね。こ  
の辺は来年あたり米作るつてような話してるからさ、あの行政委員

もやつてあの、なんていうんだあの、除塩ですか？除塩やつてるん  
だ今ね。あつち元の家、戻られないんだもんね、戻られないか  
らやっぱりこつちの現在田んぼだの畑だのあるところをまずなんと  
かね、作られるつていうような話なんだけどさ。でも農地も何もな  
いからほら、やっぱり自分としてはやれないんだね。慣れてる農地  
はないからね、まさか農地今から買つて作業するつていうのは大変  
だからね、

苦労つてね、最初は仮設入つた時はまず暑いのに苦労したね、夏  
なんか暑くてさ。で、我々の今入つてつてるような棟に入つてるん  
ですよ。それがね、そういうのなんか太陽当たらないからね、だか  
ら寒いわけさ冬は。今はまずね、夏だから涼しいけどさ、でもやっ  
ぱりけつこうやっぱりね、夜も暑いときは暑いしさ。前任んでると  
こはいいのさ、夏涼しくて冬は暖かい。今のところはいいけども段々  
にあの、10月2月なるとやっぱり夕方〰時ごろから寒くなるね。  
まるつきり暑いのは海の方は何にもないからね、海風が来るんだ。  
やっぱり新鮮な野菜作つてね、食べられましたから、ここは食べ  
られないからねこんなね。

北釜に行くとき大きな声で呼び掛けています  
北釜

### 地震の時は

私が地震にあったのは、荒浜にいった時ですね。亘理の荒浜で。保育園に孫迎えに行ったものですから、もう少しで保育園に付くっていうところで地震にあつて、地震が落ち着くのを確認して、それから保育園に慌てて行ったら、子どもたちが皆校庭で並んでいました。そこから先生にいつてうちの孫を連れて、で、すぐ我が家へ向かったんですよ。道路はアスファルトが剥がれてなんかごちゃごちゃになってましたけども。その時はもう夢中で、家がどうなってるのかっていうのも分からずにもうハンドルこうグチャグチャ切りながら、帰ってきました。で、家についたみると、家の周りの塀は落ちてたんですけど家はあつたんですね。中に入ってみたら、なんですか、色んな食器棚とかがひっくりかえつていたので、「ああ今日これ片づけて寝なきゃな」と思ったら消防の人たちが、津波来るとんだよって、地元の消防の2・3人だと思うんですけど、来るんだよっていつてきたそうですが私には聞こえませんでした。そのあとうちの弟町内会の役員してたんで、またすぐ来て、何してるの早く逃げるって言われて、それまで津波来るって思わなかったものから、慌てて仙台空港に孫とお父さんと三人で行きました。仙台空港が津波震災の避難場所と決まっていたし、前の年に、チリ地震の時に一回避難したものですから。でもチリ地震の時は来なかったもので、練習だねっていうような感じで帰ってきたので、頭にはもう津波のときは仙台空港だつて、それは分かってたんです。

### 避難所へ

ターミナルは3日ほどいましたね。で、一日目は国際線の待合室に入ったんで、すつごく寒かったんですよ。一世帯に毛布一枚っていう、割り振りだったので、ただ食事は秋の月とジュースと笹かまです。それが三食です。でもそれ貰えたんですね。トイレはね、

みんな詰まってだめだったんです、だから最後には大の方はビニールの袋に新聞紙敷いて、自分のお尻にあててするっていうやり方でした。もう水が流れないので、だから部屋どの部屋もみんなトイレ臭かったですもう一杯になって。避難したのは主人と弟、あと保育園の孫です。名取二中に三日目に連れてこられたんですね。二中に来て初めておかずっていうかご飯はなかったんですけどおかずがね、あのスパゲッティとお煮つけとかっていうのいっぱい並んで、そこで好きな三点まで取りなさいって言われてそれが初めての食事しました。長男が増田に家建てていましたからそっちは大丈夫だったんです。息子が二中に迎えに来てくれたもので、そのまま息子の家に孫連れて行きました。近かつたんですよ避難所と。

### 仮設住宅へ

仮設に来たのは5月の末主人と二人で。こういう狭い家とか長屋とかって入ったことなかったものだから、すごく最初は緊張して音出すなよとか、もう皆水だす音も掃除機の音もみんな聞こえるじゃないですか、だからそれは神経使いましたね最初は。そして始め入って一週間ぐらいはもう頭からなにかどう圧迫されるような感じして、とつてもつらくて、で、あの、娘達が借りた家に一回泊まりに行ったんですね、そしたらなんだか自分の頭からぼーって上に抜けるような感じしましたね(笑)。それで泊まってまた来てっていう風に、少しずつここに慣れていきましたね。

町内の人はおりましたけどね。でも、家はあの、この16棟ですから後ろにスロープ付いてますでしょ、そうすると隣とちよつと遠いんですよ。座つたらもう座つたまんま、なかなかね。

### 今後のこと

集団移転待つてるんですけど、後継者がいないものですから、公営住宅に入って、一戸建ての公営住宅頼んです。ちよつとやつぱりあの、なんたら、寝て目つぶると、前の家がこうバツと見えてきたり、あとやたら心臓が苦しくなったり、胸が締め付けられるよう

なったり、色々体に異変が出てきたものですから。元の家には何回か見に行ったりはしていますが土台だけで、何もありません。近くで暮らしていた姉がまだ見つからないので北釜に行くとき大きな声で呼び掛けています。返事はもちろんありませんけどね。北釜地区で一人だけなので多分探して貰えないと思います。

メロンハウスも全部流された  
北釜

### 地震の時は

地震のときはね、家にいました。農家です。息子たちと農家ね、家業は農家です。そうしてね、地震強かったから、一時私ね、外に出たんです。そしてあの木をつかんで座ったのね。そして、弱くなつた隙を見て家に入って私の部屋に入って、あとほら、保険とかね、高齢者だからお医者さんにかかるのに、そういうのを持って、こんなに強いんだから必ず津波は来るんじゃないかなって私は思ってたんです。そして、私ほら息子夫婦に、年寄りだから、私は津波来るかもしれないから、空港に避難するってうちの後ろの電信柱に、避難場所は空港になってたってあったのね。だから私は空港に避難するからって言って家を出た途端に津波情報が入ったんですよ。で、最初はね、メートルって言って、歩いてるうちにメートル。そうしてね、今度10メートルぐらいって。携帯で。これはと思つて携帯持つて携帯を聞きながら、うん、そしたらね北釜の集会所の前に行ったら大津波来るって。乗馬クラブの、前の方なんだけど、まあ海に近いところ、海がこう。うちの後ろの道路が仙台空港につながってる道路なんです。息子たちは歩いてだと思えます私よりも、遅いから。だから私ね、空港に着いたときはまだ津波は来なかつたです。30分ぐらい、歩いて、自転車途中に置いて(笑)それで大丈夫だなあつて思つて歩いて、空港に行つて30分ぐらいね、時間30分ぐらい経つたらね、なんかね、海の方に白い雲みたいなほら、薄いピンクっていうんだか白だか海沿いをずっと向こうのほうにね、こう行くんだよね。私なんだかそれがわからなくて、「あれは何なの火事なの？」って聞いたつけ誰も返事する人居なかつた。そしたら津波で砂が、舞い上がつて。それでそうして流れたんだね、そうしたらね、空港のほら、二階に上がつて、東の方ほら、海の方見てるわけ男性の方がね、そしたらああ来た来たっていうの

ね、何来たんだって思ったら津波来たんですよ。そんなに早く来るとは思わなかったの。そしたらね、まもなく空港に来たんだよ。そうしたらほら、駐車してる車はね、浮いて横になったりね、して流れていくのを見ました。だからそしたらあの、駐車、あの自動車に乗る人あれ、駐車するあそこに屋根あるでしょ？こう、そしたらあの屋根すれすれまで来たんですよ。そしてね、あの、ターミナルの中は、二階のね、すれすれになったんですよ。私たちは最初は二階なの、そしてそういう津波来たんで三階に上がってくださって言われたの。で、萩の月と、笹かま、ちっちゃいちっこい、あと水とですか、それがね二日ぐらい続いたよ。

### 具合が悪くなる

でもね私ぐらい悪くなってね、あの、津波の夜はねうんと冷え込んだんですよ。そして左の膝から下、なんだかね、こう、痛いっていうんだか何だかおかしくなったのね。でもどうしようもないから。そしたら血圧あがってきたんだよ。そして二日目の日、あの、今度目眩と吐き気、夕方になったらね、二日目、そうしてお医者さんがいたから呼んでやるからなんて言われてやっぱりね、血圧が200に上がってますって。それでもいっばいいる、避難者がいるから私だけ具合悪いってなんのあれもないんだよ。ダンボールの箱を壊したのに、寝せられたの。上にもかけない。だから余計ね。そしたら先生が、血圧を下がる薬をうってやるって言われて、でも170よりは下がらなかつたんですよ。そしたつげあの、先生が明日一番で救急車で、病院に行きましようって言われてね、そんなに早くはなかつたけど、「時か過ぎたわね、そして、どこに連れて行かれたらと思うたら、なんか川沿いどこだか走るんだよ。こうして上みてるとね、そして私なんだかさ、「あんた」って言ったつげさ。そしたら、国際クリニック、国際クリニックに行つて、点滴一本してね、そうしたらね、あそこにも患者さんかけるものがなかつたんだよ。で、足が冷たく酷かったのだからホツカイ口無いんですよ。

って聞いたつげ、無いっていうんだよ。足冷たくて、何にも感じなくなってるんですけどもって言ったつげ無いっていうんだよ。だからそしたら点滴一本終わったら帰つていいですよっていうんですよ。そしたら血圧さっぱり170のまま。それで、どこにも行くところが無いから、うちの嫁さんが私についてきたから、だから嫁さんに「あんたどこに避難していくの」って聞いたの。そしたらお姉さんの家に避難すると思う、「だったら、私も連れて行つてくれ」って嫁さんにお願いで、そして嫁さんの姉の家に四日ぐらいましたね。んでもさ、考えてみると私嫁のお姉さんの家に来てお世話になるなんてあれだなんて思つて薬も無くなるから、今度孫が、農協に下増田の支店に勤めてたから、そして乗せてもらつて、内科なんかにもいかなんといけなから、あと眼科にもお薬貰わないといけなからと言つて、孫娘に乗せてもらつて今きた耕谷の妹のところを一時、あれして、そして耕谷から娘と妹と旦那に、内科と、あと眼科に連れて行つてもらつて、そして今度お昼ご馳走になつて、仙台の息子のところに行つたんですよ。

息子のところはね、仙台駅のね、東のマンションにいるんですよ。大丈夫で、そしたらね、息子がいないんですよ。単身赴任で東京のJR、今池袋にいるんですよ。それで息子もいないし嫁さん一人で私も気遣いするしね、お湯もないしお風呂もないでしょ？そしたら二番目の息子が若林にいるんですよ。そして「日目の朝かな、電話よこして、「お風呂に入ってるのか」っていうから「お風呂に10日ぐらい入らないわ」って言ったのね。そしたら家では弟の家みたいに立派でないけどお風呂もあるから迎えに行くって言われて、そして迎えに来てもらつてお風呂に入つたりしてね、日ぐらいいましたかね。それも4日ぐらいいて、お世話になつて、その間にほら北釜の流されたところを見て連れて行かれたりして、全部がなくなつたのね。ハウスも全部流されちゃつた、メロンの苗。それもせっかく作ったのも流されちゃつて。

ほら、うちの息子もほら、あんまりに手をかけるなっていうのね、こんな塩水に浸かったものは使用できないから手をかけることないって言われて、そして仙台にまた戻ったら今度東京にいた息子が新幹線動かない、バス出たんだよね JR のバス。それで迎えに来て、そしてまた下の息子のところに一泊して次の朝、今度ね横浜に行っただけです。私の娘が横浜に嫁いだんです。そしてね、私も娘のところにいるの安心したの。農家なんですよ横浜でもね。だから家はほら農家の建て方だから、私お世話になってもあれだなんて思っただけ、そしてあの、息子に横浜の娘まで連れて行ってもらったの、そうしたら娘に「どこの浮浪者来たと思った」って言われたの。ほんとにね、弟と一緒に来なかつたら母だと思えなかつた。血圧は下がらないしね、やっぱりほら着替えもないんだものね。そしてね、娘のところに行っただけ、2か月半行ってきました。だからね私子供四人いていやーよかつたなーって思いました、本当にね。

### 仮設住宅に

仮設には長男夫婦、と、お母さんと別々に。今までは津波の前は同居して。私一人、あとほら息子夫婦と下の娘、孫娘が親と暮らしています。血圧も横浜いつたらまあ下がった。

知り合いとか、皆さんお知り合いです。やっぱり北釜の人たちが多く、入ったからね。あと杉ヶ袋とか、あと、杉ヶ袋が多分多いね。

だから大体北釜の人たちと交流はして、今は楽しく過ごしています。友達も、そこにいた人たちも私。

やっぱり狭いけど、しょうがないよね。仮設住宅だからねしょうがないよね、でもほらね、家賃も出さなくて入れて頂いてるんだからありがたいです。買い物は、自分で食事の方は一人で。別々に。

あのね、来たとき娘に送られてきたのね、そしてそういう食事の方もお話したのね。そしたら家の嫁さんが、おばあさんは、お料理上手だから一人で食べたい物作って食べたほうがいいんじゃないって、そういわれたの、私も家に、北釜にいたときは、そうつくってほら

ね、家族で食べたから、だからそうするって娘もそうしたほうがいいんじゃないって。そしてね、あの、お煮つけとかおかずね、多く作った時は、こっこのほうに、お兄さんの方に持ってきた方がいいんじゃないっていうことになって、そしてね、別々に。買い物も一人で私のことはね、自分のことは全部。あのほら、金銭のこともお金のことも自分でお金を下げたりそういう風に使うのはね、そういうふうにして自分で自由にしています。病院にはタクシーで、でもな、名取駅で降りて歩いてくるのはあれだけでもやっぱり、タクシーで行った方がいいんだよね。

### 今後の予定

住まいの方は、集団移転にするみたいなのね、だから私も一緒に多分生活できると思います。

### 北釜のよいところ

北釜のいいところってやっぱり町内会の人たちとはやっぱりね、なんていうのかな、みんな知りあいで、仲睦まじくね生活してるって、私もあの、津波のときはほら、北釜の老人会の会長してたんです。だからね、あの、高齢者も結構ね、参加してもらおうように色々、だから交流はよかつたです。

北釜 住みやすかった

北釜

### 震災前は

北釜に引越してきたのがきつかけなんです。越してきて丁度9年目なんです。たまたま家を建てるっていうことで移転先を探していたときに知り合いの木工さんが北釜にいい物件を知りました。北釜どうですかというのでやりとりしまして、仙台にいい物件があったにもかかわらず北釜に決めました。

### 地震の時

ちょうど仙台の大きな施設で仕事をしていました。地震が少しおさまったと思い、すぐに施設の責任者と話し合い、お客さんを全員帰すことにしました。本当は自分もすぐに帰ることが出来たのですが、店のこともあったので最後まで残ることにしました。高速道路が通行止めになっていたので、高速道路の下の荒浜の道を通っていました。施設にいた時から10m以上の津波が来ると分かっていました。施設にいた時から10m以上の津波が来ると分かっていたのですが、チリ地震の時に1m弱しか来なかったもので、とりあえず家に帰ろうと海の方へ向かいました。その時、前の方から光ったりしてる物が見えてきた。よく見ると、波だと分かり、急いでUターンして農道を使い戻りました。とりあえず海の見える高速道路に車を置き、上がったのですが、そこから見た景色は

今までに見たこともない、信じがたいものでした。家や車が次々に流されるのを見て、孫や息子、家族の事を思い出し、心配になりました。息子に電話してみると孫がいました。「動なの？」と聞いたら、「家にいる。一階からドンドンツツって音がする。怖い」と言いました。家にいると言っていたのですが、その家の一階部分は津波にのみ込まれ、倒れそうだったそうです。しかし、孫の声を聞き、もう一人の孫も息子も生きていることが分かり一安心しました。

インターから抜けて今度とはかく北釜に帰るつもりでしたが今度は中に入れないのです。ですから4号線から行くこうっていうこと

で4号線から来まして、最初にイオンモールのところから入ろうとしたんです。そしたらこの高速道路が満杯でそこから車が先行けなかったんですよ。ここもだめだしこの裏もダメだったんです。そして次の耕谷のところの道路を行ったらとにかく規制かかってないから入れるんですよ。入れるんですけども水が入ってて道路間隔が見えなくなっちゃったからどこまで入っていったらいいのかわからないから、途中まで入ったんですけどこれ以上入っていても道がもう水で見えないんですよ。だからこれはまずいかなって思って一回抜けまして、今度は逆に今度は飛行場のところの、普通の高速道路からの道のところに出ましてあそこから下りましたあそこは水が引き始めたんですよ、岩沼の方。そのままストレートに行って飛行場に入りまして、そしたらあそこはもう元々は十字路のトンネルから先まで水が来たんですけどそれが引き始めて、結構あの十字路のセブイレブンの先までずっと引き始めたものだからギリギリまでとにかく行くこうと思ひまして、まあ飛行場に避難してるという話は連絡取れていたもので、待ち合わせ場所をその飛行場のところにしました。そこに向かってくるようになって言う指示をしまして、そこで子供たちと待ち合わせた。その日はもう、入りようがないって言う、緊急自動車も閉上の場合のはあ、大南から入ったんですけど北釜は完全にシャットアウトされて、入る道が全部塞がっちゃったんですよ。で、北釜自体入る道が無いって言うこと、まあ実際的に北釜に入ったのは翌日なんです。ただ翌日のときに普通の道はもう水が抜けなくて、溜まり過ぎて入れないもんで、それで飛行場にそのまま向かっていく形で入れないって言うことがあったものなんです。その裏側に、川があるんですけども、川沿いに行きましたら瓦礫だけ超えて行けば行けるって言うことで、岩沼寄りの貞山堀にぶつかってる川沿い行ってそれから貞山堀をいって、北釜に入るって形で歩いていきました。今度探しに行ったら息子たち居

ないんですよ。足跡だけ残ってて、いなくて。まさかその飛行場に、行ったとは思わなかったものだから。だから、海の方と両方に足跡があるんだけど、すっかり誰もいないって形で、その辺で探したんですけど、消防団の方が、まあとにかく向かったからっていうことで聞いたものでもんで、飛行場のほうに向かうということになりました。

### 空港（飛行場）に着く

あとは空港に行くのに瓦挫がうんと多いもんで、瓦篠の中を歩くって形なもの

です。息子とは飛行場で会えて。次の日飛行場に向かったっていうことで、ただ実際的に孫たちになるとやっぱり家の周りとか前後に亡くなった方がいるものだから。まあその辺は一年ぐらいたつまではその状況の話できなくて、一年ぐらい経ちましたらこうだったあーだったって話すようになりましてけど。ですからあそここのじいちやんが亡くなってたよとか、そういうのはやっぱり分かりましたからね。でもそのままもう二日ぐらいはそのまま放置して、消防団員も警察も手を出さないでくれって自衛隊が来てから手を出してくれって言われていたものだから、歩くところには必ず遺体が車の中にあつたり、そういうのもいくつも転がってるところを歩きざるを得ないという形でただ異常な世界でそれが当たり前でね、気にしないでもう歩かざる得ないってこと歩くしかありませんでした。

### 避難所へ

飛行場に二日間いまして、飛行場の外側は完全に車が入るようにはならなかったんですけども、二中（名取二中）の方に北釜の人は避難所に移動しますっていうことで、二中に5月の末までいた。そうですね5月の末に仮設が出来て移動ですから、まあ二ヶ月。二中の体育館に。閉上の方も一部いたんですけども100人以上は北釜いましたので、北釜で150人ぐらいいたのかな。配膳とかいろいろ係決めたりしまして、あと場所的にも壁（間仕切り）が出来たのはか

なり最後の最後で、間仕切りできてから一ヶ月もない、半月ぐらいかなと思うんですけど、結構あの三陸の方で間仕切りがどうのこうのって、間仕切り無かったんですね。間仕切りはプライバシーっていうよりなんとなく枠っぽくなって、高くないやつを使いました。それから息子の子どもがいるって事で第②へ。（注 美田園第2と第3仮設は名取市北釜の住民が入っているが、第3は下増田小学校に隣接しており、子どもを持つ方が多く入居している）

### 仮設住宅

美田園2と3は違いますね、やはり、3の方は完全にママ友達が必ずいるという形があるんですけど、向こうの第2は年配の人も多いというのがありますので、違った感じがあると思いますね。第3は若い人も多いから、イベントなんかでもどうしても時間帯も限られますし、平日のお茶会なんか本当にないんです。逆に、週末にやる形の場合はある程度出たらえればそれで、その辺の違いは出てくるんですけども、ただ大きいところのその年配の人までいるところだったんで、平日でもやってもいますよって話はあるんですけど。

### 今後のこと

住まいは、北釜の集団移転を進めており、造成も決まり、造成後は10年ぐらいおかないと言われていますが、来年の7から8月ぐらいが目安で、住むには半年から一年はかかると思います。場所は抽選をして決まり、孫たちと並びの場所になりました。

### 北釜のよいところ

飛行機がうるさいといいますが、家は二重サッシでしたので、雨の音も聞こえないくらいでした。冬は仙台よりも暖かく、名取（下増田）だけなら冬も普通タイヤで走れるくらいの気候です。環境的には住みやすいです。家にいる犬は津波に遭いながら助かりました。海沿岸を散歩するのが好きでした。今後の移転地の環境は、北釜とは違いますね。

亡くなった奥さんが皆に感謝されていたことを聞き、皆の世話をしようと思った

元閑上六丁目

## 地震の時は

そうですね。3月11日は当日ずっと自宅におりました。地震のくる前にですね名取市の消防署から電話があったんですね。それは家内に対する電話なんですけども、あのいつもこう、自分で救急車をしよつちゅう呼んでる方がいて。必要ないという大変ですけども、そういう方いたみたいなんです。その人の様子を見てきてくださってという電話が入って、家内にそのことを伝えて、しばらくして地震と遭遇してしまってますけども。その時間帯が14時46分というんですけども。家内は様子見に行った家で地震にあつてしまってますけども。私はそのときちょうど二階にいました。二階の踊り場まであがったときに地震が来られて、柱にしがみついても立ってられないくらいの激しい横揺れと縦揺れが続きましたよね。それでなんですかね、自分が訓練してるので普通だったらこう机の下に隠れるわ、ベッドの下に隠れるわってことをとっさにやんなきゃねえはずなのに、こういうときに限ってものすごく揺れが大きかったので、気が動転してんのね。そういう行動とっさにはできなかつたのね。そういうの覚えてますね。それで揺れが収まったので二階から降りてって、一番最初にお袋どうしてるかなってお袋の様子を見に行ったら、お袋ベッドの上で横になってたんですけど。それで大丈夫かって声かけたら大丈夫って言うんで、それで今度姉の部屋に言ったら姉も炬燵にしがみついてて、まあ怪我も無くな。という状態は確認できたの。そんなしてるうちに家内が戻ってきたので、無事ということお互い確認し合ったので。家内にちよつと強い地震だねってことで、津波来つかもつしんないから閑上公民館にまず避難しとけ。という指示をして。家内もはいって。お袋と姉を車に乗せて、出発しようとしたら隣の〇〇さんっていう女性の

方が、私も一緒に避難するんでこの車に乗せてって下さいって言われて。その女性も乗せて避難をしましたよね。で私はその後自宅に防災ラジオっていうんですかね、行政側から配置されていた。まああの町内会長という立場もあつたので。そういうラジオが全く作動してないことに気が付くんですね。テレビも停電になつてるし、防災ラジオなんか情報入るんだらうなあというのを期待してスイッチを入れても何にもなかったというのを覚えてますね。接続はコンセントです、はい。それがいずれも非常時のときに共有にはセットしてたんですけど、まあそれは作動しなくて、どれくらいの規模の地震だったのか、津波が来るのか全く情報が得られない状態。それと行政側に要望していただいた防災無線も全くならなかつた。そういう状況でしたよね。情報がないんですけども、外に出てみたらもうアスファルトも剥がさつて、互いに支え合つて立っていったかなアスファルト。んで液状化がはっきりわかるくらい、もう土から水が噴き出てきてる状態が見えたんですね。それとブロック塀が倒れてるとか。まあそういう状態で、たまたま副会長と偶然会うんですけども、それしたら副会長が「会長、カーラジオで3メートルの津波がくるって報道があつた。」と。じゃあ避難指示はないども、とにかく避難させてということ。お互いに身の危険感じたら逃げろよと。それで役員会を開く時間もなかったんですね。たまたまお互いに顔見知りの人間同士で手伝うって人が何人かいたんで、その人達に行き当たりばったり避難しろという指示をまずやんなさいと。いうことで30分くらいですかね、そういうことの避難指示をまあ数人の人でしたけどやりましたね。でその中の一人がそろそろ避難しましょうってことがあつたんで、その人が車出すつて言うもんだからまあその車で一応避難するんですけど。その前に避難指示こちら出してるのに、地域の人達の反応はいや津波こないんでないの、といった声結構あつたんですね。いや来ないんじゃないかって来つかもしれないし、来なかつたらそれでいいじゃんって。

まあそんな会話をしたこと覚えてますけどね。でも本当に閑上の人は津波来ないんだって教えられてたけども。先人からずっとそういう話は聞かされててそれは知ってましたから、まあだけでも今回は3メートルって数字もわかったし、そのあと我々が避難しようとする頃には6メートルって情報もラジオから入ってきてたってことも聞かされてたんで、まあこれは避難しなきゃって状況でしたよね。まあ車に乗って避難している途中も。あっその前にもう一つあったのが、消防自動車、火葬場のほうから来て、もう早口に逃げる逃げろってことをもういっぱい言っていましたよね。いっもだとそこで一回止まって、世間話すつと挨拶くらいするんだけど、その日に限ってはそんなことなくて、とにかく危機感いっぱいみたいな命令口調の話が印象に残ってますよね。

#### （閑上の津波の碑）

津波の碑に関してはここにあるよっていうのはよく防災訓練とか総会とかではねときどきお話がありました。うーんと、日和山神社の階段あるじゃないですか。の向かい側のちよこつと窪んだとこ、左側にあつたんですね。北側です。であれが今回の津波で倒されて、それで裏側の方に転がってたっていう。まあ誰かがあそこに持ったのかもわからないですけど、もともとあつた場所はあそこではなかったね。今のあずま屋建ちましたよね、あそこの入り口のことです。そこに津波がいつ来て、どの高さで来たかっつてのは書いてあるんですけど、その話はしてましたよね、うん。あれは昭和三陸津波ですから、昭和33年くらいですかね。あんときはですね今回の津波の来ないというのの一つの前提でして、チリ津波もあつたと思うんですね。あの時5メートルの津波が来るぞという報道があつて、避難指示もでた。それに対して公民館と小中学校に避難した人の数が450って聞いてましたんで、まあそれなりの人が避難したんですけど、実際に来た津波が50センチだったわけです。まあそういうこともあつて、じゃあ3メートル、6メートルって言われても、な

にこないだの報道はこうだったっちゃっていう人も結構それを真に受けなかったって人がいっぱいいたのかなって気もありますね。

#### チリ地震（昭和35年）の話

以前（昭和35年チリ地震）も津波来てるんですけども、その時は船が一艘難破してるんですね、その船に乗ってる方のうち2人亡くなってる。でその船に乗ってた人が現在生きてる人もいて、その体験談も実は防災訓練の中で発表してもらってるんですね。生き残りの証人だっていうんで。最初は嫌がったんですけど、やっぱりそういうのは本当に体験した人じゃないとわからないだから、お願いしますって言ったら、んじゃ〇〇さんのお願だからやるわって言うて。うん、聞いてくれたんですね。それが市役所でもセンサーショナルだつて、そんな人がいたんだーってびっくりされたと思うんですけど。それは津波の来る3、4年前ですね。うーん津波来る意識なかったですね。ただ堤防が少し壊れたと。でその時に私も実は津波というか、名取川の川底が全く見えたんですね。それで私も記憶あるんです。35年なんで私17年生まれですから「あつくりです。全くこう川底が見えて、津波来つから逃げろって言われて多分川から離れたと思うんだよね。だから津波の高さとかは見なかったけど、川底だけは見た。だからそのときに津波ってのはいったん引いて、また来んだったのは体と頭の中に覚えてたんですね。それはあります。それから志津川の湾、海水が引いていくの電車の中から見たことあつて、そのときにカニだのなんだのが持っていたのを見てはいるんですね。青い海水が真っ黒になったとかね。そのときに電車の中から見た津波ですよね。まあ大した高さではなかったんでしようけど、とにかく海水真っ黒になったことは、引き波がいっぱいあつたつてことだと思っただけです。だからあとにはそこに留まっていたわけではないから、どのくらいの高さが来たとかはちよつとあれですけど。そういうのちよつとみたことはありました。

## 公民館に避難

3月11日は公民館の方に避難しました。それでねえ行つてすぐ確認したのはお袋と姉の存在を確認したんですけど、まあそのときはすでに研修室つてのが一階にあつて、まあそこにも5、60人の人がいたんじゃないですかねえ。その人達つていうかというからお袋と姉を確認したもんだから、ちよつとグラウンドの方に目をやったら、どうも公民館長を先頭にして町内会の役員だとか消防団の人達だとか、あとは区長さん達とかね。そういう方々が公民館に来た人たちを中学校の方に二次避難させてる光景が私見してしまうんですよ。公民館にそんなに人入れないという判断なのかなあと思いつながらその理由も聞かないでね、私もその行動に参加してつたんですよ。でそうやってるうちに〇〇つて閉上の消防団長が逃げろつて声を大声で叫んだんですよ。私が声の方見たときにあの津波を見てしまうわけですね。そのときに見た津波つていうのが、あのーどす黒い帯状の水蒸気こつちに向かつて来てたつていうか。そうです。それで高さが二階建て二つ足したくらいの高さに見えましたよね。だからメーターの津波来たつてのは納得できるというか。それでその声を聞いて、その津波を見てしまったもんだから、公民館に逃げ込もうとしたときに女の人が車から降ろされて、その人が歩けないつてこと分かつたから玄関に立て掛けてあつた立て看板を担架代わりにして、その女性を立て看板に乗つけて、二階さ上がつてく途中に、5、6人で担架もつて上がったと思うんですけど、こう二階に到着する前に水入つてきてましたね。じわじわつて感じだったね。だから自分たちは靴も濡れないうちに二階に上がつちやつたんですよ。ただ消防団長が一番最後に建物に入ったために、腰から下は全部ずぶ濡れだったんでね。それで二階で見た光景というのは、南側の窓越しに建物が流れていく光景だとか、船が流れていく光景つてのが目に飛び込んできたんですよ。それでまあ、これ以上水が増えてきたらとか、あと余震も震度7以上のやつ何度も来てたんで、まあ

建物壊れたときはみんな一緒だからなみたいなね、開き直りの心境になりましたよね。そのときねえ40、4、5名の方がいて、すぐになんかわかんないですけど、名簿作りやつてるんですよ。生存者つていうか避難者の名簿作りしてたんですよ。名前と町名と性別と年齢ですか、その四つをチョークで段ボールに書いてもらつたんですよ。それを集計して、カレンダーの裏側にマジックで書いて、それがどんどん増えていくわけだから、できあがつた段階でハワイボードに一目でわかるように写し替えをして、次の日それをもう一回清書して中学校と小学校に、公民館にはこの人たちが避難をして生存しますよつていう情報を提供したというか。そういうことやつてるのと、それからあと公民館に廊下とか床にあつた水をね、全員で掻き出しをする作業をやつたりとか、してましたよね。あとペットを連れてる家族が何組かいたのね。その人達を一般の避難民と区別をします。ペットの人達は上のホールありますよね、ステージつて言うのかな。ステージちよつと高くなつてるんで、そこに犬を連れてる方々は・しましよつと、場所をね。あと女性は働く婦人の家つていうのが隣の建物にあつて、公民館の隣ですね、まあ繋がつてるんですけども、そこに女性とか年寄りが入つてくたさいと。そういう仕分け。それから世話人の男性は公民館の大広間に待機と。まあそうだね、三種類に分けてますよね。そこで今度夜の食事がありませんけど、公民館長になんか食い物あんのつて言つたら、今日卒業祝いを幼稚園と中学生がやつてましたと。その残飯あるんだつて話聞いて、じゃあそれ持つてきてくださいつて言つて。それをテーブルの上に乗せて、全員に見ていただいて。

### 奥さんがいない

まあ家内はいたのかなあと思つて探したんですけども、実際には見当たらなかつたんですよ。まあそれつきりなんですよね。まああとで聞くとね、どうも公民館から自分がお世話している生活保護者の方々をどうも避難を手伝つたんですよ。自分の車に乗せてそ

うということやってみたいですね。まあそれが判明するのが自分の運転した車の中に二人の女性が遺体で見つかったということで、まあそれが証明されるのかなあという。それが五月の二十七日ですかね。貞山堀、貞山河から車が引き上げられたときに遺体が二つあったと。まあそういうことしてたんだなあという。

### 中学生の活躍

中学生が5、6人いたんですよ。たまたまお祝いをやってグラウンド遊んでたんだってね。その遊んでた子供たちがたまたま津波だつて逃げたときに、うん。私がそれ始めたら自分たちで今度スコップみたいなもの持ってきて、それで水かき手伝ってくれたりね。本当に頼もしく思いましたね、うん。私が指示したわけではないんですけど、あーこいつ早く出さなきゃダメなんだなって思ったと思うんですけど。だからそういうことがあって、本当に災害のときつつのね、中学生はものすごい使い物になるなあっていうの感じた一瞬でもあったね。それが後で今後の災害対策の一つとして中学生の利用っていうのは。というのは私中学生に実は消防署の役割みたいなのを体験して欲しいなと思ってるのね。それでできればあの子達ものすごい力もあるって印象だし、要介護の人達の運搬などに力になってもらえないかなあっていうことが浮かんでしまってますね。できればそういう方を年間何回かいいので消防署に勉強に行ってもらって。で緊急のときは自分たちの町の人をこうするんだよってことを啓蒙されればさ、全くこう環境づくりにもなってくんでないかなあ。まあそういう風にこれからの防災にもね、提案していききたいって。小中学校の委員会の中でもその話はしてるんですけども、まあそういうことが本気になるってたら、いじめなんかなくなないかなあって思ったりもしてるし。本当にね勉強させらったというかね。行動見てふっと思い立ったっていうかね。新町辺りでもねえ中学生にリアカー引つ張らせて要介護者の運搬をさせて訓練やってるの知ってたから、そのリアカーが日和山町内会のリアカーだったし、〇〇さ

んとはそういう防災関係の色々会ったときに話してたから、たまに物の貸し借りもありましたしね。そんなこともあって、やっぱり中学生ってのは本当もったいいえーなあ人材だなんて思いましたよ。ね。

### 奥さんの実家へそして家族を探す

次の日の朝に家内の実家に電話をして、でまあ家内の実家に、この文化会館にいた、空手の師範なんですよけど、うちの息子たち教わった。どこさ帰んのって言われて、この辺だつて言ったら、んじや送ってくからって言われて、まあその人に送ってもらって、家内の実家に行ったんですよ。まあそつから家族の連絡待ちだったんですよけど、待てど暮らせど来なくて。兄貴の車で一回自宅見に行ったらもう建物も何も跡形も無くなってたということ。それから4、5日したあとに増田中学校の隣の幼稚園で、身元不明者の受付始まってたんですよ。とりあえずそつちに届出しとこうかなと思つて、行きました。そしたらもう400人くらいの方がね、受付させていました。係の方の質問に答えられなかったことがいっぱいあるんですよ。警察が聞いてくる一つ一つが全くわからないですよ。特徴とか。服装であつたり、そうそう、全く答えられない。わかりません、わかりませんでしたのよ。だからやっぱり常日ごろ子供家族の特徴は掴んでおく。そこで感じたのは、やっぱり自分の家族の特徴なんかについていう、もちろんほくろとか何か分かる場所があれば一番いいんですけど、そんななかったら下着なんかに名前書いとくのが一番いいのかなって。まあそれがせめて身内の証だよっていう風に、なるかなあと思いましたがね。上着なんかは津波とかくると剥がされてしまうみたいですよけど、まあ下着くらいはなんとか残ってるんですよ。だからそういう物に名札を付けとくっていかさ。いや、そんなの言つてられないですよ。あのねえこれで、その下着で自分の息子だつてわかった人いるんですよ。自分の買ってきたパンツが、息子うんと気に入らなかつたの。けどもな

んかわかんないっすけどその日は、息子そのパンツ履いたんですね。それで遺体安置所に行ったときに、遺失物の中に自分の買ってあげたパンツあった。あら俺そんなのいらねえって言ってた履いてたんだって言った人がいて、これで分かりましたって。だからよくあの遺体も損傷してないんですけども、実際にあの長時間水に浸かったりしてるから、もう変形してる人がいっぱいいるんですよ。ただ名取の場合はねえ、遺体が大切に扱ってもらったというか。仙台辺りだと数も多いからだけっど、口の中にはヘドロ入ったりしたのそのままだって。だから見るに堪えらんねえ顔なのいっぱいあったんだね。だから名取は全部洗っていただいて、そういうの取ってもらって、なおかつ死化粧までしてもらったから。だから一瞬見た瞬間に笑ってるような顔つてのいっぱいありましたよ。あと遺体安置所で分かったのが、ショック死が多かったんでねえかなって印象だよ。ていうのは口歪んでるかってのあんまり見かけなかったんだよね。だからあの津波がきてドンときて、もう一瞬でアツとなって死んでんのかなって。うちの息子なんかもう見つと笑顔のような感じもしたよ。みたいなんだよね。っていうのはどつから車降りたのかっていうのもわかんないし、実は車まだ見つかってないんです。まあ多分だから火災にあってんじやねえかなって感じすんのね。なんにもないんです。だからあれ息子なんですよビックデータ（注）ZINKで放送された）であのこっから来たのが息子なんじやないのって、あの線だね。でなんだろうね大曲つとこまで流さってんだよね。大曲つていいうと増田、閉上線の、郡山運送つてあるじやないですか。あその南側の田んぼの中まで流さってた。まあ息子の会社の社長が見つけたんですけどね、遺体安置所で。電話貰って私が確認に行つて、息子に間違いないっていうことで。一番最初に見つかったという。まあ見つかったのはお袋が一日早いですけど、お袋だって私が認定するのに一週間くらいかかってるんですね。最終的には歯形の照合してもらって、ああお母さんですって言われ

て、うん、つていうことがあるんで。お袋が19日ですかね、3月の。息子が20日。家内が27。姉が30日ですかね。まあ早い方でしようね。結局いつまでも火葬しないわけにもいかないので、息子とお袋は実は上山で火葬、そうです。たまたまバラバラに行く予定だったんですけど、あのー遺体がキャンセルあったらしいのね。まあ私のところに葬儀屋さんから連絡入ったので、だから一回でできるならその方が、つて言ったら、じゃあ一回でできるように交渉しますって言うてくれて、それで一回になったんですね。まあその代り夜10時のかま入れでした。うん、帰ってきたときにはもう午前2時頃になってましたけど。あと姉と家内は東京で茶毘にふされてるんですけど、結局遺体の損傷が激しかったのと、家内は自分の目で家内だつて発見してあげられなかったの、身元不明者は名取市で引き取り4月1日に東京で火葬にするよって告知があったんです。それの自分の家内だつていうのわかりませんでしたけど、まあ遺骨の隣に遺留品が置いてあって、その最初に行ったときに遺留品がヘドロで全く色も何も判別できないような遺留品だったんですよ。でそれから3、4日経ったあとに、また遺体安置所に行つたときに、なんか気になったんですよ。その遺骨のところにまた行って見たんです。そしたら遺留品が全部きれいに洗濯されてんですよ。外から見てもわかるくらい鮮やかな色の物になって、それがたまたま家内の実家のお姉さんにその特徴しゃべったんですねマフラーの。決め手がマフラーだったんですけど。これ、奥さんのだっちゃって言われたんですよ、その遺骨の前で。えって私が言つて、誰から貰ったのつてなつて。それから思い当たるところに電話をしてつたら、私くれましたつて人が判明したんです。色はつて言つたら、ピンクだつて。どんな特徴なのつて言つたつて、手編みだしやつて。長さもどうつて言つたつて、それがビタビタつて当たつたわけですよ。そういうこともあって、でもあの頃ちようどほら遺体のとつかえがいっぱいあったんですよ。早く最初に持つてきたい

つてのがあるんでしょけど、そういうの新聞紙にいっぱいあったんで、まさかよそのうちさどつ代えられたら困るなあと思って、兄貴と私のDNA貰って1ヶ月半くらいかかったんですけど、まあ姉は私が姉だつての分かってたんですけど。まあ結果的に5月の25日ですかね。4人が全部揃ったのはね。

### 遺体が見つかった後は

最初はねえ何もする気力も何も浮かばなかったし、新聞を見れば涙、テレビを観れば涙、そんな本当に毎日を送ってましたよね。でもたまたま避難所行ったときに、皆が奥さんからいろいろとしてみらって感謝していることを聞き、自分もいつまでも鬱いではいられないと思いました。そうしてうちに仮設住宅の説明会つてのが開催するよつていうのが発表されて、自分もいつまでも家内の実家にいるわけにもいかなかなあつて思ってたんで。まあそこに行くんですけど、そこに行ったときに、あれ会長でねえのつて言われて、振り向いたら日和山町内会となり組の方だったというこで。そこで聞いた言葉が、会長さんが亡くなったんだか、生きてんだかみんな心配してるよつて、顔出してもらえませんか、みたいなこと言われて、まあそれで次の日から全ての避難所を訪問するんだつて、自転車だね。そうです。そこで生きてる方々というか、助かった方々と再会するわけですよ。まあそういうことをやってる中でその聞こえてきたのが、流さつたうちの跡地はなくなんだろうかとか、我々バラバラにされんのかとか、なんかいろんなこ思いしゃべつてる言葉が聞こえてきて、ああ、新聞紙上でも抽選で、あの仮設住宅入る順番を決めたとかなんとか報道されてたじゃないっすか。だからあんなのがまたこう、周りの人達から見れば知らない人と一緒になんのやんだつて声がいっぱい聞こえたので、こいつは阻止しなきゃねえなつて自分なつてつたんだね、なんか知らねえけど。行政側にそれをいうと、行政側はまともに返事しないわけですよ。まあそれでも粘り強く、仮設に応援に来ていて、応援部隊にその要請を

してたのね。そうすつとあの人達必ず毎日報告書みたいな書くんだろうから、こういう要望があつたつてことは毎日そこに行けばね、少しは上さ届かないかつて。まあそういうこと考えながら、やつてましたよね。まあそうですね。そんな感じでそういう声があつたし、行った先々の応援に来ていてる部隊の方々に、お話をしたと。いや、名取市もそんな感じだつたと思えますよ。私もちよつと露骨だつたんですけど、あんまり仕事報告しないよ、みたいなこと言つてましたから。何時間か残業すればできることを、抽選だのつてかつこよく言つてるけどそんなもの仕事の放棄の何ものでもねえよつて。なんかそんな乱暴な言葉言つてましたよね。そしてたまたまねえ、当時の総務部長さんつていうのが、県から出向してきてた方なんだよね。その人の同級生が、昔の職場で30年私と一緒に仕事した人間だつたのね。ほんで私のいいこと悪いことみんな教えたらしいんですよ。高橋善夫つてこういうやつだつて。俺はいきなりこう仕事鍛えらつてたとか、おしらつてんだとか。まあとにかくいきなり乱暴なやつなんだつてみんな教えたらしんですよ。でそしたら挨拶行つたんですよ。そしたら、ああ高橋さん、わかつてますから。つて言われたのね、総務部長に。それで私は、こういう今テレビで放送されるようなこと名取もやるつていうんだつたら、それは私は許せないですよ。解決策が無いんじゃないか、これは抽選という綺麗な言葉だつけど、そんなものは仕事の放棄の何ものでもねえつて。私はそういうに判断するよつて。そういう風に言つて歩くからねつて言つてさ。市長にもあつて、市長にも同じことを言つてるんですよ。でまあそれがここに引越してみたら、こつちが要求してたそつくりになつてたみたい。逆にびつくりしてしまつたということだね。

### 仮設住宅の自治会長に

ここは五丁目、六丁目の人が、90%以上ですね。あとよそから来てる人が10世帯くらいありますけど。まあでもね、ここの人達

とは総会の席上で、私みんな家族だよーっていうあいさつしてるんで、まあみんななんとなくね、温かい雰囲気の人達のいるところだなあって思ったのか。そのあとねお互いにお互いを認め合って、まあここでいろんな行事に参加してもらったりしてね。生活してるんで、いいのかなあって思ったりもしてます。

うん、6月の11です。うんとそうですね、最初ここに22人くらいの班長さんが、22棟あるもんだから、その1の付く方が、暫定班長さんということで、まあそれで自治会を作りなさいという市役所からの指導があったみたいなんですけど、まあトップになる人がいなかったみたいです。私がたまたま、市役所の人達から、このリーダーの人達に、こういう人来るんだけれどもって、言ったらいいんです。日和山の会長来んの、来んだってわーって話になって、そしたらみんなで手伝いながら、会長に会長なってもらわねえかってなったみたいで。まあそれで7月の半ばくらいまでに自治会が立ち上がったと。まあここにいる人達っていうのはそういう意味では自分の健康管理ね、自己管理の他にそうやって周りから見守ってもらって。まあそういう意味ではありがたいなあと思ってますよね。

### 仮設で心がけていること

まあ心がけているのはやっぱり、みんなここにいらっしゃる方々ってのは結構65歳以上の方が四割もいますので、まあそういう高齢者の方々の健康であったり、またはあれだけの悲惨な体験をしてるんでね、まあそういうものが少しでも早くこう忘れろとは言えないんですけども、元気になってほしいなみたいなのがずっとあって、まあそういうものを排除とまではいかななくても、低減するために、何ができるのかなっていうことを考えながらやってきたつもりですけど。でまあ最初の頃もね、ここでお茶会とか集まると、本当に3月11日のつらい思い出しなくて、まあ無表情の人が多かったっていうの記憶にありますね。そういう人たちを笑顔にするのに何すればいいのかなってことで始まったのがイベント、を多く取り入れよう

かなあと思うことだったと。まあおかげさんで色々なイベントの方々が来てくれて、でその方々とお話合いをするうちに、元気になってきたなあっていうのがここ最近感じることですかねえ。

表の日程表はみんなこうすべての物流さっちゃって、でお金をかけないで、なんかこう情報交換ができることないかって考えたときに、たまたまぼだじに行ったら、ホワイトボードが一個流れ着いたので、まあそれを拾ってきた。それを活用をするようになったというね。まあ言ってみればホワイトボードっていうのは回覧板なわけ、まあそれはなぜかって言うとお金もないので、金をかけないでみんな情報伝達する方法として、考えついて、また引きこもりも引く張り出そうということ。それからここでホワイトボードにもちよつと工夫があったんですけど、例えばあのミュージシャンが来るときにね、歌姫来るとだけ書いて、んで誰という風に思わせる。そういう期待感を持たせるようなホワイトボードの利用の仕方みたいなのもちよつとこう、意地悪に考えたというか。歌姫は、そんな有名な人でもないんですけども、はいはい。まあそういう風に。まあ歌う人女の人歌姫ってよく言うじゃないですか。まあそれがヒントだったんだね。まあそれが発表される2日くらい前まで伏せとくわけですから。それが結構話題性になって、うん。ここでいろんな会話が弾むというか。まあようはお金をかけないで何ができるかなあって考えたときに、そうなる。でたまたま自治会ができたら私のところにお金が送られてくるようになったんで、まあ今度は自治会の運営費に使うというように変わっていったというか。まあ周りからの援助、いろんな意見等がね、私にいろんな知恵を授けてくれたのかなって気がします。

最初は名取市の生活再建センターというか、あそこ経由で。あんなにかやつぱり、自治会がいち早くできたこともあったと思うんですけども。まあそういうことで美田園にまずやってみようみたいなことがあったのかなって思ってますね。でそのまあ受け皿になった

美田園第一の住民が、まあそういう人たちに感謝しながら、まあ接触してつたつていう部分が評価されたのかなあつて思うんですけど。意外とそういう方々も来てましたけども、あとは外人さんがね。一回その美田園に訪問していただいたら、なんか評判良かったのかどうかね、その後ずっと外人さんは美田園ばかりとかね、そういうことがあつたり。あとはいろんな団体さんが来てますけど、例えば国際ライオンクラブの代表の方がお見えになつたりですね。本当にこの美田園第一の印象がいいんですかね。どっか紹介して下さいって言われたときにその美田園第一ですか、みたいなこと言っていたのかなあつて思つて。まあそういうときもそうですけど、ここの仮設の中でも女性がほとんどじゃないですか。やつぱりここの中にもいくつかのグループあるんですね。でそのリーダーを集めてそれからもう一人ぐらいリーダーを出そうとすると、うまくないつてことわかつてるんですよ。そういうことで、お山の大将は作らないと。それでみんな大将になつてもらつて、なんかイベントあるときにその人に声かけると、それ相当の人数が集まる。まあその方がこういふ仮設の経営には役立つてんのかなあ。まあこれもやつぱ女の人達から教わつた知恵ですよ。でこの間実は21人集まつて、7つにグループできるつて聞かされたんですよ。現実になんかそういうグループがある会社にあつたんですよ。そいつを聞かされた瞬間に、ここでリーダーを集めて、それから誰かトップ出ろつて言つてるようじやダメだなあと。それから一切やつてないです。みんな会長ですから。まあそういう話をして、みんなに会長なつてもらつてるつもりです。

### 自治会長として

私はまあみんなここからね、閑上の方々が独立するまで、残つていようかなというのを考えてます。ちよつと生意気かもしれないけど、うん、まあ私がいなくても誰かやつとは思うけども、あのここまで来たんだから、みんなで一緒に最後までいてね。同じ閑上に帰つて、

まあそこで町内会でも作ればいいかなあつて思つてるんですけど。まあそこでまたね、仮設でやつてきたような賑やかな町内会を作つて、楽しく生きられる、そんな町ができたらいいかないかなと思つてます。

### 閑上のよいところ

自分は生まれも育ちも閑上ですけど、よそに無いものつてのはあるような気がするんですよ。あの海が見えて山が見えるんですよ。蔵王連峰であつたり、泉ヶ岳であつたり、名だたる県内の山と海が見える場所つていうのそうざらに無いと思うんですけども。非常に四季折々の山の型が見えたりしますし、あとは潮風においてもすかね。まあそういう非常に自然に恵まれてるところで、貞山運河なんかあつて、そういう歴史もあるよなつてのはあるけど。私だから今回こんなことがあつてしまったからですけども、実は伊達政宗のね、あの閑上に関わつた演劇をさ、小学校の子供たちにやらせたらどうかかなと思つてるんですよ。それを閑上の一つの歴史として、そういうものがあつたらいいかなつて思つたりね。そういうものつていうのちよつと今提案していこうかなと思つて。

足腰を鍛えて頑張ろうと思います。

閑上六丁目

### 閑上に来た経緯

中学、高校に通ってた時は、仙台の立町に住んでおり、増田の人に嫁いで、閑上の分譲地に家を建て、8年後流されました。主人は2年前定年間際でのんびりともせず亡くなりました。

### 地震の時は

自宅に居りましたが、冷蔵庫、戸棚全部倒れて、そのままにしていたら、向かいの奥さんが旦那さんと車に乗ってラジオを聞いたらしく「すごい地震だから逃げないとだめだ。」って言いに来てくれたので、前回自宅に戻るが大変だったので、躊躇していたんですけど思い切って避難場所の公民館に逃げました。

なかなか中に入れなかったら、女の方が出てきて「ここも危ないから中学校へ逃げなさい」って教えてくれ、中学校へ向かいました。中学校の階段も車いす等ですごく混雑してなかなか上がれなかったが、その間恐ろしい津波が来たんですね。下を見たら海になっていました。今考えると恐ろしい黒いうねりも流されている人たちも何も見ていないので幸いでした。思い出してうなされる人たちが多く中でよかったですと思いました。

### 中学校から避難所へ

みんな集まっている場所で寒さに耐えて風邪気味で咳が出ているので、静かにしていたら、私を探していた娘と名取北高校で落ち合い、北高から増田中学校の体育館にお世話になりました。父母や先生方に親切にしてください、支援物資等等皆様のご厚意に感謝の連続でした。

### 仮設住宅

9月に仮設住宅へ引っ越ししました。毎日集会所で催しがあり通っています。備え付けのマッサージ器を8分くらいかけ、ラジオ体操をまじめに続けました。皆に健康面で迷惑を掛けたくないのです、足腰

を鍛えて頑張ろうと思います。

息子さんはなかなか逃げなかった

## 地震の時は

地震、のときはね、会社はね、私らは心時だったのねお昼食べたの。最初にお昼食べに来て会社さ行って心時、頃。心時頃、揺れでテーブルの上のものが落っただんぢぢや。テーブルめちやくちやにみな壊れでばさ。出るにも出られないんぢぢや、外さ。そして私は、ほんとにすぐ行かなくちゃってすぐ家に帰ったの。そして息子に早く避難しなくては駄目だと言って。家ん中もやっぱし家もガラスだらけ。だけど2つあったサイドボードは倒れなかった。いるはずの息子の姿が見合えなかった。

うちの旦那は仕事。仙台に行ったの。仙台だから。近所の娘さんたちと車で避難した。あの公民館に行った。早く行ったが、ここも危ないから中学校に移った。そして3階に上がった。中学校には人が一杯いた。一番早かったから1組に入った。

外を見たらなにあれあれって、真っ黒いものが上がってきたのが見えたんだもの。あー津波だ津波だって。息子が来るはずであったがどこに行っただか分からなかった。夜になっても旦那は来なかった。旦那は市役所にいんだって、心日。その後一中に行った。一中は、比較的閑上の方多かった。一中はほんと閑上の人が多かった。毎週ガソリン入れに山形行っていた。山形さ行った方が入れられんかもん余裕で。

## 息子の死

息子はけんのんたがり(過度の潔癖)だからお風呂さ1時間も入っているの。歯磨きも何時間でも磨いてんの。仕事は夜だから日中帰ってくることも。

遺体は地震の夜に上がった。何時何分て書かってんだもの、遺体に。全然何も、傷も何も無いんだもの。だから途中で逃げだのさ、途中で逃げだんだけども追いかけられたんだぢぢやわ、波に。追い越さったんだぢぢや、多分そうだと思う。高柳まで流された。そ

のまんま、きれいな顔してた。東京の長男が、先に分かった。心日目に、私らが心日目に会ったの。んだがら、んだがら、亡くなった息子は、上がったのはその日の夕方。んだがらごも傷付いてないぢぢや。

私らなんて靴履いたまま家に上がったつけ、だれ、今、まだ危ないから逃げろって、言われて、んでほら逃げて早く避難してよーって、あのほら、何も持たないぢぢや。自分ではほらまだ戻って片づけっからーの気持ちだったがら。

小学校の体育館流されたものあった、写真、子どももの心つ、アルバムの、そいつだけ見つかった。あと何も見つかんねーな。孫たちの写真もアルバムもなんかも全然ないぢぢや。自分の写真も、何にも無いぢぢや。ただほら子供たちのちやつこい時の写真、アルバムだけ見つかった。んだがら、息子の遺影の写真だって、同級生にアルバム持ってきてもらって、中学校の写真だあいつ。

## 一中では

避難所では班ごとに分かれていた。心人の人たちの色んなの持ってくる人たち、家の、コーヒーとかお茶とか、全部ほら、駆け込み寺に置いて後ポットも置いて、砂糖もなにもかもほら無いものをほら取ってきてけたりさ、どこかに行つて取らせたの。みんな家族みたいに分け合つて。出かけていくときには「出かけてきまーす」ってそのグループさ断つてくの。で今日はお願いしまーすって言うていくの。誰かが来たときにほら、受け取ってーって。

## 仮設に来てから

5月に来てから、最初はだれがどこにいるのか分からなかった。今では集会所によく来ている。ここさ荷物運んできた時は肉屋さん一番早かった。だんだんと知り合いがいることが分かった。

公民館まで歌を歌いながら避難した  
元閑上6丁の目

### 閑上の昔

昭和3年5月5日生まれだからな。誕生日ほら端午の節句、うん子どもの日の前だから、みんなお祝いして：うん。住んでいたのは閑上6丁目。日和山のとこのあの佐々直の向かい側のあたりだな。閑上育ち、閑上生まれで、閑上で結婚して、閑上の人と結婚して。浜で結婚したの。閑上の昔ってやつぱり、うーんおれがいたころはあれだよ。活気はよかつたさ、あれ、よそから人来てたから、昔はでもいー丁目9丁目はー、埋め立てだもんね。

魚はカレイと、タコでも。そうだ、カニ。うん、なんでも獲れたんだ。それを駕籠かなかに入れてきてな。それでそういうの売らせられたんだ、そしてそんなとこに嫁に行ったんだ。うん。イサバ(五十集)。イサバにいつて歩いたんだ。オレ歩いたんだよ。嫁に行ったからすぐ売らせられたんだから。うん。売って来いつてすぐ言われたわ。主人は死んだんだわ。24歳で。

### 地震の時は

一人でいて、向かいの人とお茶飲んだの。それで向かいの人が片づけ方してるから、「あんた片づけるのなんかいいから家いきな。」って言ったんだけど、もしたら旦那さんが迎えに来たの。そこからへん片づけてたんだわ。もしたらね、隣組の人ね、〇〇さんつて言うんだけど、「コトちゃん！早く逃げろー！津波が来るぞ！早く逃げろー！」つて。「何持つて逃げればいいのー！」つて言ったから、「パンツ持つてけばいいのー！」つて、ははは(笑)。だから30万流されたんだおれ(笑) 持たないで逃げたの。だつてまだねえ、うちに戻ると思つてたんだもんねえ。そしておれは歯忘れたんだもんな。この歯な。歯忘れたから戻つてきて、そうしたら隣の息子が言うんだ、「おばちゃんどうしたの。」つて、だから「歯忘れたんだ！」つて言ったつて、「ああく。」つてなつて、「じゃあ先行きなさい。お

れも行くから。」つてなんていつてたつて、あの人死んだんだ。隣死んだの。息子。それでおれ生きてたの一人。ははは(笑)。だからおれ一人津波に押されて助かつたんだおれ。

公民館まで歩いて行つた。ルンルンで気分が歌を歌いながら。なんていうことない、いつも歌だの踊りばかり踊ってるからな。その気持ちで行つたの。そしてな、友達を、〇〇ちゃんの待つたの。だけどあの人たち逃げたんだな先に。だからおれ一人で自転車引つ張つて荷物付けて歩いたの。荷物付けて。自転車歩いて。自転車引つ張つて。おつかないから乗らないんだわ。そして行つたんだ。一人で誰も来ないんだからおれ一人で行つたの。そして行つたつてあれ、「津波だー！ー！」つて後ろで騒いだの。後ろでな、玄関の前で。そして自転車ばーんつて投げて荷物抱えてあがつて行つたつて、人に手を引つ張られたの。行かせてくれたの二階に。

公民館に避難したんだ、そんな時。うん二階に。二階に行つても誰もいないんだそれでね。

二人いたの。二人つていうのは、体の悪い人。担架で乗せられてきた人がこの人二人いたの。男と女。それでそこで寝たの。三人でそこに寝たわ。

### 次の日は

アパートで水ひいてから、閑上のアパートばかり(だけ)助かつたんだね。その人たちが今度歩いてきたんだ公民館に。その人たちもそこにいられないから、「あんたらも歩いていきなさい。」つて。私だからならなつたまま歩いていけないから、「いかない。」つてそこにいたのさ。中学校に行かないで公民館に。ほら行きたいつてなつたつて歩いていけないんだなあ。一日ぐらいいたんじやないかな。そこから今度車きて避難所に今度。

### 避難所へ

二中だ。二中。畑の中にある。救急車の人に頼んだの。「おれさー、閑上の人たちどこにだれいるんだかわからないよ。」つて。「とにかく

く行ってみるから。」って言われて着いたのが、一中だったんだな。そのところに北釜の人に混じっていったんだ。救急車でね、「病院に行くんですか」って言われたから「行くんです」って言ったの。血圧の薬もないからなあ。ねえ、薬なくなつたから病院に連れて行って言つたけ、連れて行かれたのな。おれが一人で行つたつけ一杯で入れないんだ。だから「いいから」って、「薬少し飲まなくたっていいからわ。避難所に連れて行ってください。」って言ったつけほら二中に連れて行かれたの。それでそこにいても閑上の人たちいないんだなあ。三日目に娘がきたの。訪ねて行つたんだ。みんなに聞いたんだって「わたしと娘がきたの。コトちゃんいませんか。わたしと娘のコトちゃんいませんか」って。そしたつけ皆「見ない見ない」って、だれもまだ見なかつたんだおれ一人でいたんだもの。うんそれで、市役所の人たちがね、「誰だか一人言うときかない人がいる」「公民館にな、いるお年寄りがいたんだ」って言われたんだって。だからおれの娘「はあ〜」ってなつて、「私のお母さんじゃないかな」って思つたんだってなあ。常にいうこと聞かないからな。うん、それで訪ねてきたんだ。でもわからないから、その人が、「どこに行つたかは分からないけど行ってみる」って。「あそこにいた人たちは二中と一中に行つたから。」って。だから行つたら会つたんだ。「おかあさーん」ってそこで涙の対面。「よかった、死んだと思つたんだ私。」なんてなあ、それだから今度、ガスもないしお風呂も入るところないし。臭い体でいたんだ。何日も。洗濯もないんだもん。シャワーとか、ないし、なんにもない。おれんとこは。ないよあんな学校だもん。体育館だもん。べろーんと大きいところで何にもない。最初ねー、シャワーで足とか洗つてもらつたの。足も洗うところないんだもん、何にもないんだあんな。雪は降つてくるし寒いしな。いろいろあつて、5月までいた。

### 仮設住宅では

便利だつて。ここな。集会所はあつたよ。最初から。ボランティア

アの人たち来るんだ。色々ねえ、踊りよ歌よ落語だのねえ、あとねえ、なんかいろいろの来るよ、そういうこんどもあれ、阿波踊りだつてか、あいつだのくるんだ。こいつが一番なんだ。ねえどこにも行くところないもの。笑つて皆でお茶飲んで、これ、今日も喜んで来たんだわ。ほらみんなパーマかけに行くだの、あっちのほうに連れて行かれて、ねえ皆いないからなあ。今日は二人だけでな。

食事作るわ。やつぱり自分で食べる分ね。作るの。野菜売られるから、野菜買つてここに置いたから、いろいろなのね、炒めたり、大根すりしたり、ゆがいておひたしにしたりね。食べるの。買い物は売りにくるから、ほら野菜売りに来るしき、あと牛乳屋さんだつて来るし、薬局屋さんも来るし、魚屋さんもくるんだもの。だからね、日曜日土曜日買い物に行くんだ。連れてられていくんだ娘に。だからね、そういうのは不自由しないんだ。週に二回くるね魚屋さんね。うん。

### ここがいい

便利だわー。閑上に行きたくないわ。ははは(笑)。行きたくないわおれはー。あんな津波のところにまたああいうの来るところに：来ないつては言えないもんなあ。ここがいいわあ。こんないいところないさ。駅は近いしねえ。だからさあ、買うとこすぐあるもんねえ。そうだなあ。家賃出したつていいからなあ。本当にな。やつばここはいい場所だなあ。いいよねえ広いならねえ。四畳半二つだからなあ。荷物置くとねえ、ほんとにやつとほら、孫だとか来ると狭いんだよねえ。おれんとこ孫三人いるし、大きい孫。あと夫婦して五人。私と、そうすると八人で寝るんだ。

### 閑上のいいところ

お祭りだーあと、食べ物ねあ、お魚いっぱいだし、うん。朝市とか毎週あつたから。うん。魚だのな、果物だのなんでもほら、うん：おいしいからねえ。果物うちに来るんだね、なんでもほら、食べ物豊富だしね。人間が一番、人が。優しい。人の触れあいな、

触れあいがいんだねみんなね。だれもいじわるする人いないから  
ね、結局仲良かったなあ。隣組だってみんな一致したんだな。何か  
あっても。お茶のみもしたし。

閑上の人たちには会ったら挨拶しろといわれた  
閑上六丁目

### 地震の時は

日和山集会所前なんです。うちは。ここの集会所に来る人は知り合いです。

地震あった時すごかったのよ、びっくりしたもんね。ものすごかったでしょう、ね。ほんとに普通、なんて言ったらいいんだ今までにないような動き方でねえ、揺れだったからびっくりしてねえ。テレビ見てて、「5時近くだったから来たのって。14時ね、うん。だからドラマ終わって(笑)、ご飯の準備するかなって思って立った途端に、立った途端にぐらぐら来たんです。車で逃げただけけど。車はね、乗せられていったの。近所に店やさんあるんですよ。その店やさんのばあちゃん一人にいるんです。日中、だから一人であれだって思って、私誘って逃げようと思って、行ったんです。そしてそこに、そのほら、ばあちゃんの、甥っ子の奥さんがきたんですね車で。赤ちゃん連れて。それで「ばあちゃん一緒に逃げよう」っていうんで、そこに私行って、「じゃあ一緒に」っていうことで、乗せられて便乗していったんです。その車に乗る前に、揺れたでしよ？揺れて私テーブルの下に隠れた、隠れたって棚から神棚からお守りだの落ちてきたのね。そしてああこれではだめだと思って、少し止んだときに玄関の戸開けて外に行ったら、あの、アパートの駐車場の土のところからヘドロがブクブクって、液状化、あーこれは参ったと思つて、全然津波のこと頭になかったのね。でも今度は大変だつて思つて店屋さんに行ったのねリュックしょつて。その店は雑貨みたいなの。色々売つてるのね、食べ物から衣料品からなにからね、そこに行つてそのおばあちゃんと一緒に逃げようと思つたらそこにほら来たから、一緒に車に乗せられて逃げただけどね、小学校に、うん。だから小学校に行つてよかったのね。それで、小学校の方に逃げた。最初公民館に行つただけけど、公民館グラウン

ドにいっぱい人いたんです。だからああだめだつて思つて、「じゃあおばちゃん小学校に行くからね。」つて。またここに来たらいいさ。ねえ。残念だね。寂しくなるね。本当ねえ。

### 小学校の校舎に

公民館や中学校じゃなくてねえ。もう一回出たり入ったりしなかったのはよかったけれども。校庭に車止めて、で、すぐ校舎に、行ったときに、もう誰もいないの。余裕あったから私たち。逃げたときちようど。渋滞も全然、してないしてない。だから余裕あつて小学校の、裏側の駐車場に、そこに少し止まってあれしてたのね、落ち着いてたの。そしたら10分20分たつたら、車どんどん入つてきたのね、校庭に。うん。なんだかその時無我夢中だったんだけど、誰か来て案内されて「二階に上がれ」とか言われて、うん。で上上がったんだねえ。そして上から今度「三階」って言われて、三階から今度「屋上」って言われてね、それで屋上で津波見たわけだね。おっかなかつたねあの時はほんとに。屋上にいて、雪降つてきたりしたでしょ？寒くなつたりして、そして少し落ち着いてから下に降りて、それで各自教室に入ったわけ。別にどこどこつて言われなくても勝手にみんな教室に入ったわけなのね。そして寒かったからカーテンとかみんなね、窓のカーテンとか壊して、自分のところに、ほら子供たちいるからねえ。子供にかけてあげたりなんなりしてね。一晚そこで過ごしたんだね。すごかつたね、ほんとに。火事はほらガスボンばんばん破裂して見えるしね。真っ赤になつて。息子とは連絡全然取れなかった。私携帯持つてないから、全然通じないさ、三日間行方不明。でもほら分かつて、娘のところにかけてもらったのね、そしてね。うちの甥っ子の奥さんにね。娘のところによつと通じて、「お母さんなんだ○○から電話来たよ！」つて、息子かけてたのね。娘のところ。お母さんから連絡あつたからつていうことだね、「ない」つていうことで、そして私「ほらこういう

ところにいるから、またきたら連絡して」って、いって、そして三日後に館腰のほうに移ったから私。うん、次の日だね。館腰の体育館に。バスで、うん。私たち館腰の体育館じゃなくて教室に案内されたの。「あんたたちは教室に入りなさい」って言われて。ところが教室じゃないのよ。廊下に、ね。だから廊下では寒い夜になって寒いでしょ。それじゃあダメだからって私たちは体育館に行ったのよ。うん黙って行ったの。いちいち言わないってそんなのもういちいち言ったら大変でしょう。

それで体育館に行つて、そしたらすみの方開いてたから、その隅にね。陣どつてね。そしてそこにずーっといたわけ。そこにずーつとだわここに入るまで。〇カ月間。大変だったね窮屈だったからね。結局ね。もうほんとになんていうの？こう、切り、輪切りみたいな感じでこうね、自分の場所は自分の場所つて囲んでね。結局ね。館腰の方はねダンボール使わなかったの。使うと隣の人になにやつてるか、何やつてるつていうか、話もできないし。それでうん、館腰は使わなかったのね。どうしてもやりたいていう人はやりなさいつて言ったけど、ほとんどしなかったね。着替える場所は、個室あったから、個室あったの。控室みたいな、あったんです。小学校の女の子たち着替えるところが、だからそこで着替えてたねみんな。食事とか食料とかは、ちゃんと来てました。あの、自衛官の人たちね、作ってくれて、一か月作ってくれたね。だからその点は楽だったね。あといろいろと支援物資来たし、服だのなんなのつてね。贅沢言わなければそれね、我慢してきていられるからね。

息子は三日後ぐらいにね、あの市役所のあれ見てきたつてね。貼つてあったのねええええ。ただお風呂がひどかったね、風呂ね。無いかから結局、ね、一か月1回ぐらいかな、1回ぐらいかな？あの極楽湯のね、無料券貰えたけど、1か月に1回か2回だかね、ただで貰えて、それで入りに、貰って入りに行ったり、あともらい湯して。

うん、あと私はうちの姉に行ったのね、仙台まで通つて(笑)、息子

の車でね。

あそこね、閑上がほとんど。閑上の人たちだけだったね。だから顔見知りだからね。うん。班とかに分かれてたね。うん、10何班まであったんだ。15班ぐらい分かれたね。

### 仮設住宅の生活

仮設住宅への入居は5月29日。ははは(笑)、みんなそうだね。雨の降る時ね。自衛隊の人たち運んでくれたから助かった。私頼んだのね、市の方に。「車ないしあれだから、ちっちゃいからこまつてたから」ってね、そしたらあの自衛官の自衛隊の車、トラック来てくれて、それに〇軒乗せて引越したんだね。だからね、ほんとにあの時自衛隊の人たちねえ協力してくれてほんとに助かったですね。息子と二人で。

買い物とかそういうのは、車に乗せられて私は。一週間分買つてくるわけ、だから日曜日の休みのとき行つて。だから病院なんかも、うん土曜日？個人病院だから土曜日行つて息子に乗せられてね。休みのときに。あと休みでない時もあるから、結局ねタクシーを利用するほかないんですよね、電車で行けないとこね。ええええ。不便などこにあるんだほんと。眼科とかね。買い物は今楽。向かいにできたから。ね、来たばかりのときは不便だ不便だ言つてたけど。

### 閑上の印象

私は元々仙台出身。こちらにお嫁に。閑上の最初の印象はうんちよつとね、来たときは、「あれー大丈夫かなあ」って思ったのね、離れ小島みたいな感じだったんです閑上。そういうふう感じたの私はね。離れてるでしょ？だから病院とか大丈夫かなあつて思ったけども、やっぱり住めば都でねえ。ええ。主人はこの閑上の人で。ほんと。実家よりもこっちの方が長いもんね。ほんとにね。

### 集会所のこと

最初はこの四人で、うん。今までね、結局一か月に一回、四人だ

けで、お茶会やってるんです。四人だけで。そうして現在に至るわけね。結局ね。ボランティアとか来るとお互いに声かけあつて行く行かない、つていう感じだね。用事ある時はいけないし、病院とかなんとかつてときはいけないし。必ず声かけあつてくるから

#### 今後のこと

今後のことねえ、ほんとにねえ、私は閑上に戻るつもりでいるんだけど、どうなるかわかんないけど、これから2、3年のうちに何があるかわかんないけど、うん。息子は反対してるの。でもね、どうなるかわかんないんだからね、そこはまだはつきりしないけど。だからここに居る間少しでもお金貯めて。ははは(笑)

#### 閑上のよいところ

口は悪いけど、気持ちはいい人たち。気持ちわかるとね、最初は「なんだこの人」って思うかもしれないけど、ねえ。口悪いってホントに、だけど気持ちすごくいいの。そして人のこともね、結局言うことはいうけどあととはカラツとしてるのよ。そんなときだけでね、根に持つて言うてるのではないから。だからうちのおばあちゃんにも、おしゅうとさんいたから、じいちゃんばあちゃんいたから、ばあちゃんにも言われてたのね。「閑上の人たちは口のうるさい人たちだから、挨拶ねされたら必ずお返ししろよ。挨拶だけはしろよ」って言われてたのね。で、それは確かだなって思つて、今ね、現在考えると。ばあちゃんの言うことほんとだったなって思つてるけどね。その挨拶だけでも違いますからね。うん。

口伝いに広まるから。早いのがねえ、恐ろしいのだから。ほんとに、だからこつちでも言つてたけども、ほんとに。いいことはそんなに伝わらないけど悪いことはばばーって広まるから。私もずーっと勤めてたけど、ほんとに家のおばあさんは「閑上でなくて、閑上以外のところで働け」って言われたのね。そして私スタンドで働いたんだけど、「10年近くかなあ。スタンドの事務やってたのね。だけでも、結局うちのおじいさんが、体あれになつて、痴呆症にな

ったりして、うちのおばあさん一人で大変だからって、辞めて、閑上で働くようになったのね。近くの会社にね。三人見たもんね。じいちゃんおばあちゃんおとうさんと、三人で。送りました。

津波が来るときは、サイレン、無線、広報車で知らされると訓練していた  
関上三丁目

## 地震と津波

3月10日から、私は石巻に泊まりで仕事に行っていました。スポーツ用品、卓球台の営業・販売です。3月10日の朝から、11日までです。家族は9人でした、私を除く8人で家にいましたね。

地震があった時には、両親と私の妻は自宅にいました。子どもたちは、下の娘は小学校5年生だったんですけども、学校にいました。中一の長男は、卒業式が終わったんで、友達のところへ遊びに行っていたんです。小塚原の方に行っていたんですね。その日に限って、息子がうちの母親に、遊びに行くところの住所と電話番号と誰々君のうちだつてことを書いて、メモ紙を渡して行ったんだそうです。初めて、これは初めてなんです。それが不思議だった。

うちの妻がですね、パート先から1時ごろ帰ってきたんです。その時、うちの母親がびっくりして、孫がこういふふうになんかたんだなつたていうね、メモ書き残したよつていうことで、なんかその会話が、女房との最後の会話になったみたいだつていうか…。

それですぐ地震があつて、母親に言われて、女房が息子のところへ迎えに行くよう、「小学校に避難しなさい」と、言われたらしいんですね。母親に「一緒に逃げましょう、避難しましょう」つて言ったら、「先に行きなさい」と。父親は水門の管理を国土交通省から任せられてたんで、停電であっても水門を閉めに行つてたらしいんです。潮位を観測したり。で、自家発電装置しか使えないんで、それは、Kさんがたまたまそこを通りがかつた時に、2人で発電機を回して、回つたと。

あとは、上屋から津波が来るのが見えて、逃げたんですが、Kさんは南に逃げたんです。たぶん、うちの父は家に戻つたと思うんです。うちは三丁目バス停の辺なんで、Kさんは、西側に行つて関上小学校へ行ったわけですね。うちの父親は水門から下りて、家に行

つたと思います。なぜならば、2階の私の遺留品が、中学校のあたりで見つかつているんです。で、父親も関上中学校の南側で見つかつてるんですよ。ちようどクレジットカードとか、JALとかANAのマイレージカードなんかを私が引き出しに入れてたやつが、すっかりそのままの状態で見つかつたんですよ。例えば2,000円札が4枚とか、のし袋とかいろいろなやつが入つてるのがあつたんですけど、現金でちようど一万くらいで戻つてきたんですよ。あと、小銭とかあつたじゃないですか、そういうの、机がそのまま流れていったんですね。

父親が見つかつたのが、中学校南側の田んぼなんです。だからここまで流れてきたんですよ。隣のうちの人の車も、ここで見つかつたんですよ。流れは一緒なんです。それを考えると、父親は自宅にいたという判断はつきます。

## 妻と息子たちの避難行動

母親は、その時に女房に、「私たちも後で小学校に逃げるから。」つてことだつたらしいんですよ。たぶん母親は、見つかつたところが名取インターの近くだったんで、公民館に行つたんじゃないかと。公民館に近所の人といて、すぐ近所の人といたと思われます。その方もね、インター付近で見つかつてるんですよ、御夫婦で。だから、これは震災後にわかつたことなんですけど、公民館のグラウンドに避難して、流されて、助かつた人がいるんですよ。家族8人で避難して、その人だけ助かつたわけですね。どこで助かつたかというところ、小学校ちよつと先で、インターの方に流れてくるじゃないですか。だから、母親の見つかつた場所から推測すると、ここにいたか、ここからもう危ないからこち行きなさいよ、つていうことで、逃げて行つたんじゃないかとは思つてます。だから、名取インター付近で300数名の方の遺体が上がつていふことは、たぶん公民館から移動したつていうことが考えられますよ。

妻は小塚原の方に行つて、息子と友だちの中学生8人を、小学校

に避難させたんです。「なんで避難しないんだ。」って言ったら、子どもたちは、大きい地震になった場合は、防災訓練で、サイレン・無線・広報車で知らせると聞いているわけですよ。その時、マニユアルに沿って5人で話し合ったそうです。「おお、これはずいぶん長く、こんな初めだし、津波来るよな。」という話になったんだって。

「うん、そうか津波来るな、どこに逃げる？」ってなつたんだって。その時に、じゃあ東部道路ってあるから、そこに逃げようかとか、ってなつて。でも、「待てよ？」ってなつて、防災無線鳴るはずだよ、津波来るときは、サイレン鳴るはずだよ。それが無い。で、市の広報車がくるっていう風に教えられているわけですよ。それも来ないってわけですね。まあ、30分かそこらの間に、子どもとしても、来ないって結論だったんですよ。もし来たら、もし津波が見えたら、ミニストップ、もしくは東部道路の上を上がるというふうに考えていたようです。後で息子から聞きました、それは。

うちの女房が来て、津波が来るからから逃げようということ、  
「あ、やっぱ来るんだ」という判断で、DSとかゲーム機とかそういうのを持って小学校へただ逃げた。自転車で乗って行ったんですけども、小塚原からだから、逆方向ですね、東へ向かうわけですから。ただ、名取方面に行くドライバーから、「津波来るぞー。あぶねーぞ。なにやってんだ逆だぞ。」って言われて、小学校が避難所だからっていうことで、守っているわけでも、住民は。

でも、小学校の西側に堀があるじゃないですか。あそこに差し掛かった時に、息子とか子どもたちにも、津波が見えたんです。水、波が遡上するのが見えたんで、「津波だ」と思って、もう、車がどんなに来るんで、自転車では行けないと。9人ですから。そうすると、一列でもたいへんなので、もう自転車捨てましょうと。見えた、津波が来ている。それで、走って西校舎の方から入って行って、廊下に入った、廊下の向かい側から津波が来た。北校舎の方から津波が入ってたんですね。津波が来たんで、窓を開けて上がったそう

です。A、B人。うちの息子はまだ廊下でなくて、外の窓にぶらさがってた。それを見つけた同級生が、息子の首根っこを、うちの妻とがつかんで流されないようにしたと、そういう状況だったそうです。  
仙台市内から閑上へ

私が地震にあったのは、仙台市の国道4号線、仙台市民球場のところです。国道4号線で地震にいました。石巻から戻って宮城野体育館で仕事を終えて、泉方面へ向かうところだった。

当初ね、3月2日に丸一日かけて納品予定、石巻市の体育館に納品をする予定だったんですよ。それが、5日前に時間を早めて、12時までに終わらせてくれという話になって。12日にプロレスが入っているのを忘れていて、「朝早く1時ぐらいからやって下さい」と言われたら、前の日に泊まらないといけないっていうこと。朝1時半ぐらいまでに着いて、納品の準備をしていたわけですね。12時に終わって仙台に向かったと。

なぜか、役所の人も、代理店も我々も急いでいた。だから、当初の予定どおり、3時ぐらいまでに終わらせて下さいって言われてたら、危なかったんですよ。山の上からも逃げろっていうことで、下っていたと思います。

こっちに来て、A号線で被災したんですけども、その時に、新幹線の高架橋が見えたんですよ。ちょうど見えるところでした。その電線がですね、揺れてたわんでるんですよ。もしかしたら折れるんじゃないかなって思っていたら、そのうち「か所折れたんです。ドミノ倒しのようになりました。電線が折れていた。」

ラジオから、強い大きな揺れが来ますので、車を止めて下さいって。それでフワフワして、ああ「ダメだ」と思って、止まったらガンと来たんで、「ああ、これが宮城県地震か」と思いましたよ。それにしても長いなと思いましたよ。車の中で揺れるんでね、もう脱出しようとしたんですよ。したら、シートベルトが首にね、からまって締められて、揺れで動くから外れないですよ。で、少し緩

なくなった時に外して、車から出たの。ホント道路を這うような状態で外に出た。路肩の方にいたってどうか。それで、電線がドミノ倒しに見えた時に、その辺の田んぼとか空き地みたいなのところが、ポコポコ、ポコポコいう感じで地面が出てくるんですよ、揺れて。

35年前の宮城沖地震の時は、同じく東北大学の近くにいましたけど、道路が波状になって、アスファルトが。あの時もすごいなって思いましたけど、今回はそれ以上に、ホントにポコッ、ポコッと盛り上がる感じ。下からモグラが出てくるような、突き上げられて。あんな感じです。

で、後ろの方でなんか変な鈍い音が聞こえたんですよ。回れ右してみたら、もう黒い煙が、仙台新港のコンビナートが爆発したの。そんで、煙突がね、<sup>ウ</sup>本ぐらいあつたと思うんですけど、そのうち<sup>ウ</sup>本の煙突が煙が出なくて、ちょうど煙突の<sup>ウ</sup>分の<sup>ウ</sup>が真っ赤っかになってた。燃えてるといいうか、たぶん中が折れちゃって赤くなってる。ああ、もう溶けるんじゃないかなって。それで、「ああ、これはダメだ」と思ってた。

でも、揺れがおさまってから、近くのいる人と顔あわせて、男同士ですけど、「いやすごい地震だったね。」皆、動揺してました。その時に、ラジオもね、揺れてる時に切れたんですよ、「ピーッ」って。で、気が付いたら、ラジオから、「すごい大きな揺れでした、今確認を取っているところです。皆さん津波に注意をしてください。」って言うって。じゃあもう戻ろうと。たぶん停電になってるはずだから、地元に戻って家族がいるから避難させないといけないなと思ってる、戻るようにしたんですよ。

それから10分ぐらい経って、本社から電話が入ったんで、とっただけ切っちゃったの。もう南に向かうところがね、ちょうど渋滞しかけてたんで、箱堤交差点を左折したんですよ。卸町東の方に向かい、これもまた右折したんですよ。七郷中学校方面に行こうとしたんですよ。産業道路渡って、ちょっと行ったら左側にセブンイレブン

があるんで、その駐車場が空いてたんですよ。車止めて、会社に電話をかけました。そのまんまりダイヤルしたんですよ、050のね。そうしたら一発で繋がったんですよ。そこでなんだかんだって、まあ、こつちの状況を2、30分話したんですよ。で、そのあと、東京の友達から<sup>ウ</sup>、<sup>ウ</sup>人電話入って通じたんですよ。そこで、30分ぐらい時間があつたんですよ。で、コンビニに行つて私の飲み物買つて。

ラジオでは、3m、6m、12mとか、女川でも10mの津波が来たみたいなのを言ってるし、これはあぶねななあとと思って。またコンビニに行つて、菓子パン6個とペットボトル500のやつを6本買ったんですよ。家族の人数分だけ。他の人はいっぱい買つてましたよ。

そのコンビニで、買い物に並んでいる時に、近所のおばさんだと思ふけど、アイスクリームのところで、「アイスクリーム？ 冷蔵庫使えないですよ。」って。でも、自分のうちは停電してないと思つているんですよ。「これいるね、これいるね。」って買い物カゴに入れてる。こんなのいるかな、と思ひながら見ていました。

あとは、面白いのは、缶詰取つたい人がいて、それキャットフードなんですよ。「それキャットフードですよ、猫いるんですか？」って言ったら、「いない。」って、で、カゴに入れてるんですよ。もう焦ってるし。慌てふためいている感じ。

で、「津波来るかしら？」「ラジオで来るって言ってますよ、あれだけ言われたら来ないはずない。」「ここまで来るかしら？」「それはわからない。」っていう会話はした記憶がありますよ。

セブンのコンビニを出たのはね、3時40分ぐらいなんです。それから七郷中学校のところに出て、荒浜方面目指したんですよ。その荒浜方面に向かつていく時に、田んぼの用水路に、今考えると、水が溢れていたんですよ。「あれっ？」と思った。東部道路のけた下あるじゃないですか。その100mか200mぐらい手前で、前に車いたんですよ。かなりゆっくり走り走りますよ。「何でゆっくりなんだ？」

と思つたら、けた下の先々が普通見えるんですけど、黒かった。けた下の先が黒かったの。多分津波だと思つたら、あれはね。

そうしてる間に、あれなんだろうと思つたら、けた下から男の人が、手を振って走ってきたの。多分止まれっていう。前の車も減速したんですけど、突っ込んできたんですよ、けた下に。で、その時に、俺も減速してたから、水しぶきがバツと上がったんですよ。ああ、津波だあと思つて。すぐ「ターンしました。で、後ろの車も「ターンして、もう窓開けて」「戻れ戻れ！」つつつても皆聞かなかつた記憶があります。

荒井小学校のところでも車の西行きが止まってしまつたんですよ。ちよつと行くと、左側に仙台東高校に行く農道があるんですよ、そつちに出たんですよ。もう、のろのろで進んだけど、左側を見たら東部道路がありますから、けた下、小さいけど道みたいなのところから水が溢れ出てるんですよ。ああやっぱ津波だ、と思つて。

そしたらね、東部道路の上側が煙がねモクモク、煙っていうか、燃やしてる煙じゃないけど、土煙みたいなやつが上がつてました。それでずーつとノコノコノコと東高校の方に出て行つて、途中でね、車が動かなくなつたんで、前の車についてつたんですよ。めちやくちやに、左、右に曲がつて。そしたら、着いたところがね、門暮つていうところで、仙台東高校のちょうど南の街の方にフツと出たんですよ。そして結局、六郷中学校の方まで行つちやつて、JAのスタンドのおじさんが道路に立つて、「もう行けないからここから先。」「スイマセン、あの今泉インターのところにいけないんですかね？」つて言うと、「いやあつちもダメ、津波でだめだ、戻れ」つて言われたのね。仕方なく戻つて、それから1時間半かけて名取市役所まで行きました。

でも、素直に名取市役所に行ったわけじゃなくて、高柳の郡山運送があるじゃないですか。あそこに行った時に、パトカーと消防車が道をふさいで、「「ターンしなさい」と。で、「どこに避難した

らいいんだ？」つて言つたら、「あー、車だったら今日はそしたら市役所の駐車場に行つてみな。」つて言われて。で、ずーつと行つたら、名取北高にも避難する人もいて。「あれ？北高つて避難所だったかな？」と、思いながら入る人もいるし、その前のコンビニの駐車場もいっぱい車止まつてるし。恐る恐る市役所の駐車場に行つたら空いてて、職員がいて、「あつどうぞ、空いてるとこ止めて下さい。」つて言われて止めて。

なんだかんだして一時間経つたら、市の職員が、水とバナナとパンを持ってきてくれたの。で、市役所の庁舎はいろんな人でごつた返しだったんで、その日の夜は車に。ずつとラジオとメールとか、電話はいろんな人にかけてっぱなしですね。自分の居場所と状況を知りたいと思つて。

### 家族との連絡

会社と友達から連絡取る分には、私の妻の携帯と自宅の電話番号を教えて、時間あつたらかけてくれと。途中で、東京とか大阪からメール入りましたから、連絡取れないよつてことで、俺が今どこにいるかを教えてくれるつて。それで、メール入れてもらうようにしたんですよ。

私も今ここにいてるつていうメールを、災害の関係で、東北放送かどっかに入れたのかな。2、3回、11日と12日と、13日だったかな。それを見て、友達が訪ねてきたつてのもあつたし。

二日の晩は、車の中でラジオを聴きながら、「たぶん、俺一人になるんだろうな」と思つてましたよ。状況がだんだん、携帯のワンセグでテレビ見ても、もうダメだこりやと、思いました。で、「15時過ぎぐらいにラジオを聴いてたら、閑上小学校の当日、今日登校した児童は全員無事ですつていうアナウンスは入つたんですよ。あつ、俺と娘の心人は助かつたと思つて。

何でダメかつたのはね、父親が水門には、たぶん、何があつても閉めに行つたなつと思つたんで。停電だから、自家発電でもし一人

だったら、かかんないな思ってた。何回か心人でかけたことがありませんから。そうすると、母親がそれを見ているだろうなあ。たぶん、それを置いては行けない。息子はどこで遊んでいるかわかんないし、もしうちにいたら、たぶん、うちにいるだろうなって。

ただ、その一年前に、チリ津波の時には、父親だけを置いて公民館に避難しました。避難指示があったんで。でも今回は、公民館じゃなくて、揺れが大きかったんで、小学校で頭があったと思うんです。

娘が助かったということで、二日の晩、深夜になって、心人は確定と思ってたわけ。その時思ったのは、いずれは明日になるし、どうすればいいのかな、どうしていいかわかんないですよ。これから先のことは考えられなかった。

12日の朝4時前くらいに、だんだん薄明るくなってきたので、市役所のロビーに行ってみた。地元の方知っている方もいっぱいいて、そのうちに近所の先輩と会って、お話し。まあ、「寒いから私の車の中でちよつと話しませんかと、腹減ってるでしょ」ってんで。菓子パンとかあったんで、わけてあげて、状況話したら、最初は私に同情されたんですよ。「大丈夫だよ、お父さんも家族も皆いるよ。」って言われたんですよ。その方もあの当時は、両親と奥さんと、子どもさんたちも独立してたんで、人家族だったんですよ。それで、地震の後、心時半ぐらいに奥さんと電話通じたっていうんですよ。

「あーよかったですね」って。で、心時頃メールしたら、電話とメールしても繋がらないって。で、「避難しても、その頃は繋がらないでしょう」という話をしていたんですよ。「そうだよ」って。もしたら、「心時ぐらいはどこにいたんですか？」って聞いた。「両親は公民館に避難させた。それで、着替えとか持って来るのに、うちに寄って今、車に乗って自宅の前だよ」ってことだった。「そうか、じゃあ、あと迎えに行くからな。」みたいな感じで電話を切ったらいい。後でわかったんですけど、その方の奥さんは、車の中で亡くな

ったんですよ。で、御両親は助かったんですよ。

それがね、朝の心時ぐらいのラジオで、多数、閑上の街の中が渋滞していた、という情報が入ったんですよ。はつきり言って、もう声かけられない。で、そのあと「心時ぐらいになっちゃうとね、もう、気の早いかたは、その辺まで見て、報告に来ている人がいましたから。で、状況聞いたらちよつとやっぱり、どうも「けっこうな数の方が亡くなっているよ」とかね、「火事だよ」とかね。まあ、仕方ないから。「閑上のうちないよ」って言われて……。いや、やっぱりダメかなと思ってる……。

あとはもう、市役所のロビーに行くと、「避難者名簿とかそういうのわかんないのか？」というやり取りをしているんですよ。でも、こういう状況でどうやって避難者名簿すぐわかんのかなって。電話もつながらないし、わかるわけねえだろうなって思ってた。自衛隊が救助に向かっていますってことだったんで、できるだけ多くの人を助かってほしいなっていうことだけでした。まあ、それしか言いようないですよ。

当日、私がここにいますっていうことを、メールで読んでもらったと思うんで、親戚が何人か市役所の方に来てくれたんですよ。とにかく、俺は市役所にいるので、ここ行ってこれて。それで、親戚の連中が何人かで、手分けして探すからっていうことと。

あと、弟夫婦も閑上にいました。弟夫婦は心人で、仕事行つたから大丈夫だなって思ってた。姪っ子は同じ小学校心年で大丈夫だとわかった。で、甥っ子が当時高校一年かな、高校生だったんで、そこだけ心配だった。でも部活やってたんで、まあ帰ってねえなと思ってた。後でわかったんですけど、帰ってたんですよ、それがね。12日の昼すぎに、甥っ子が自宅にずっとどまつた。そののがわかって、もう流されてんじやねえかってことだった。それれもまだ未確認。だから、13日の朝か昼ぐらいに、甥っ子は無事だと、いうことがわかって。弟の家族心人は大丈夫だった。あと

は、おばさんの家族が上町にいるんですけど、そこは全員助かったってのはわかったんですよ。

それで、私は、12日の夕方、家族が館腰小学校に運ばれたんですよ。迎えに行ったらもう、座るところがないような状況ですね、あそこは。それで避難してる人の中でも、文化会館がいいよってことを言われて、迎えに来てもらったんですよ。隣の方から。で、我々も人運んでもらって、文化会館に行っただですよ。

でも、文化会館のいいところは皆埋まっちゃって、後から行ったらホントに、寒くて寝れないんですね。そしてまた連絡あって、保健センターは少し空いてるよ、と。2階の和室、畳の部屋が空いてるから行って行っただですよ。まあまあ、4人ぐらいい寝れると、バラバラにですけど。そこで過いで、12日の夜から13、14、15、16日の昼まで、保健センターにいたんですよ。で、13日からは、弟家族も保健センターにいるようにしたんですよ。我々はね。

いろいろ両親のこともあったんで、親戚の人たちも来たりしてたんで。13日中探して、どこも見つからないことがわかって。14日だけちよつと待とうということ、14日、1日待って、15日に両親の行方不明、搜索願いっていうか、届けを出しました。

16日の昼過ぎから、我々は増田西小学校に移動させられました。増田西小学校は、16日から約一週間が教室です。22日までいたのかな、確か。それ以降は体育館でした。4月3日までか。増田の名取駅前のマンションが見つかるまで。ホントは3月27、8日くらいに見つかったんですよ、大矢さんから返事もらったんですけど、ガスが通んなかったらどうしようもない。水道は大丈夫だった。電気と水道は大丈夫だったんですけど。どうしても風呂がね。ガスが通る4月3日に引越したんですよ。賃貸ですよ。運よくそこが見つかったんですよ。もう名取はないからじゃあ仙台に行こうか、という話までなっていたんですけど。

## 避難所生活からマンション生活へ

教室にいる時はね、避難所でもうちの教室は〇家族だったんですよ。私の家族と、弟家族と、別の大人だけの〇人の家族に当たって。部屋っていうか、教室は余裕を持って使えたんですよ。そこまではまだ、良かったわけですよ。それが体育館に行ったら、全員もうギシギシですよ。

寒さが一番堪えませんでしたね。特に寒かった、すきま風。朝、洗顔とか、歯を磨いて顔洗って、全部外の水道でやるから、それが一番きつかった。あと、トイレですよ。教室にいる時は、教室のトイレをつかえたんですよ。体育館に入ってから、仮設のトイレしか使えなかったんですよ。

敷布団、掛布団は女房の親戚からかき集めて、そして、いろんなもんもらいました。いろんなものがないから。マンション見つけた日に、電化製品だけ買いに行っただですよ。そこで手に入れたのが、テレビ、洗濯機、冷蔵庫、炊飯機、念のため電気ポッド、掃除機、その〇つは買って。それとね、シャワートイレのウォッシュレット買ったの。あるものしか買えなかったんで、選べなかったんだよ。テレビは4月の15、6日ぐらい。20日後です、来たの。炊飯釜と電気ポッドと掃除機は、すぐ持って帰りました。冷蔵庫も10日ぐらいかかったし、洗濯機も一週間ぐらいかかったかな。シャワートイレも10日ぐらいかかったですかね。それでもリストアップしたものは買ったので、生活できると一応満足しました。

あとは、買えないんですよ。それから一週間くらいして、私が千葉に行って、テーブルとか、カーテンとか、テレビの台とか、今まで生活していたレベルに、ホントにわずかですけど、近づけたかったんで、買ってきました。

移動は、運ぶ時は会社のトラックで運んでもらって。私は高速バスの往復で帰ってきました。東京に行ったときに、家族には悪いけども、2日間外食ですよ。正直こんなに食べていいのかな、みたいな。またこっちに戻っても、あんまりやっているとなくて、もう

決まりきったメニューだったじゃないですか。だから、向こう行っても、好きなものとか食べられなかった。結局、食べないから、菓子パンとかそんなのばっか喰うから、胃がやっぱり小さくなってるんですね。だから、食べれなかったですね、向こう行ってもね。

あとは、食器類とかもこっちで売ってなかったんですね、その当時は。だから、そういう細かいのとかも買ってきて。食器が発砲スチロールとかそういうのも嫌ですから。あとは、こっちであんまり手に入らない、例えば切り餅とか、餅はね、震災の時とか便利だったんで。あとは、嗜好品とコーヒーとお茶はやっぱりいつもどおり飲みたいなと思ったんで、そういうのも買ってきましたよね。それは4月のね10日ちよつと過ぎぐらいかな。

## 仕事への復帰

仕事に復帰したのは、4月の9日ですよ。今でも覚えてます。4月の9日です。お世話になってる代理店へ挨拶しに。営業ができる、仕事ができる状況ではないですから。お互いに被災してますのね。会社からは、まず両親を見つけるようになってことで、無理しないようにって言われていたんですけど。

今は、09年10年とかから比べると、数字的には80%くらいですよ。75から80くらいかな。予定していたものがね、全て、2011年はクリア、リセットになってますんで。去年がまあまあ、半分も戻ってないんですね。

復興で、例えば支援事業と称して、商品をいろんなところで割り振りますから、着る物とかそういうところのメーカーさんはよかったですおもいますよ。我々はどうしても、あんまり、日常なくてはならない物ではないんで、どちらかと言えばいたく品ととらえられるんです。また、ただ去年ぐらいからはね、卓球台もないと困るからって、送りましたけど、送っただけで。去年ぐらいからぼつぼつともっといいのを買いたいとかで、それがちよつと増えたんですけども、今

年はまだ落ち着いてますけども。だいたい入るところって、学校とか新しく作っているとこなんで、学校が統廃合が多くて、そうすると影響はします。

## 現在のマンションへ

去年の6月に、増田のマンションのオーナーが、6月いっぱい契約を打ち切りたいという連絡が入ったんで、そのマンションを購入するか、出るか、どつちかなんですよ。ただ、3LDKだったんですけど、狭かったんですね。どうせ買うんならちよつと広い方を。ホントは戸建てが希望だったんですけど、なかなか高騰しているじゃないですか、便乗したいなので。

そしたら、しばらくはマンションの方がいいのかなと思って。ちよつとね、去年の8月ぐらいに、杜せきのしたで、マンション建てますよって、工事やってますけど、あそこにエントリーしたんですよ、新しいマンション。まあ、1年くらい延長できるだろうな、してくれてるよな、って甘くみていたら、一カ月も経たないうちにそういう通知が来ましたんで。もうそれは、延長ができない感じだったんで。聞いたたら、築24、5年のやつだったから、ちよつと高いかなくと思っただんですね。入る時に、売りに出していたマンションを借りたんですよ。その時に売りに出したのが850万なんですよ。で、「いくらくらいなんですか？」って聞いたたら不動産屋が、「相場でいくと1300万以上ですよ。」って。高騰してる。そしたらちよつと買いたくないなっていう。壁や浴室にビビが入ってるんですけど。不動産屋・大家さんが来るからっていいので待っていたけど、来なかったんで。

こっちもシビレきらしてたんで、いろんな物件探したら、11月の頭かな？ 今のところに住んでた人が、不動産屋を通して、「3月に引っ越ししますよと。もし、買うんだったら見られて、決めて下さい」って連絡が入ったんですよ。名取のマンションよりも10年

以上若くて（新しくて）、広さも4LDKで広かったんですよ。で、金額もね、ホントに200万も違わなかったんです。だったらこれは買いたなって思ったんで。あとは、マンションだったから少し古くなっても、戸建てよりは売り易いし、転売しやすいいし。すぐ決めよう。迷ってても仕方ないからって。それで、6月に引っ越ししました。

最初に入ったマンションは、みなし仮設になりました。みなし仮設の扱いだけでも2月くらいまで、家賃は毎月支払っていました。ホントは、大家さんは、あとこれ「どうせここ一回、二回払ったあと、払わなくてよかったのに」とか言われましたが、不動産屋が払ったかかないとだめだったというから、払うことになったの。勝手なことばっかいうんですよ。東京の方なんでね。見に来るからしたら、こっちはすぐに来て決めたいわけですよ。それが結局来なかったんですよ。それからよつとやっぱり、面白くないという部分もありますし。

現在の住所は中田です。だから名取市民じゃなくなりましたよ。どういうわけか知らないけど、マンションのすぐ後ろが名取川の堤防なんです。そこをずーっと東に歩いてたら閑上に着くんですよ、ホントに。このマンションの後ろの土手をずーつと行ったら閑上に着くなっと思ってる。これも何かの縁なのかなって。

### 閑上のいいところ

うーんと、いいところ…、みんなさ、なくなっちゃからね…。

今、名取と、仙台に移ってきてマンション住まいしていますけども、隣近所のコミュニティ、これは全くないですよ。挨拶してもしませんからね。名取のマンションにいるころも、隣の方は、左の方は全然挨拶しないで、右隣の人は挨拶するわけです。なぜならば、右隣のおばあさんが、うちの父親を知ってたみたいで。だから、いるときに気にかけてくれたから、やっぱそういうのはうれしかったですね。地元にいる継続っていうか。今はそれがまったくないですから。

仙台市のマンションでは、隣の方は東京の、関東の方なんです。

仕事で来てるんで、全くわからない。だから、こっち側が被災者ってことも知らないし、そういうレベルですよ。名取にいる頃は、何件かが、あそことあそこは閑上の人だっつてというのもわかってる。そこで、ちよつと差別みたいのには、あつたことはあります。「家賃払ってないんだよね？」みたいなことを言われるんです、陰でね。

閑上の場合、近所はだいたいほとんど知っている、もつと私たちが小さいころは、隣近所でよくご飯を食べるのはあたりまえだったんですけどね。

小さい頃はね、小学生の頃は、水産加工業の小さい工場がはいっぱいあつたの。環境とか、そういうのが整ってないから、臭かったんですよ。貞山堀は異臭、においがきつかったし、魚は加工するから、やっぱ臭いわけですよ。それが嫌だった。それはね、私も朝市のSさんも言ってますよ。「オレもいやだった。おんなじだったな」って。例えば、笹かまぼこ工場で焼いているところを見てみると、

「おい、（製品になんかないようなやつ）食べる」とか、そういうのあつたしね。町の中が家族のような、親戚のような、お節介が日常のまちでした。

ボランテイヤ いろんな体験をした

## 震災の時は

当時は2年生ですかね。2年生の確かちょうど3月11で、卒業式ですか、弟の1卒業式。ちょうど弟の卒業式の日で。中学校ですかね。名取第一中学校っていう、一中の卒業式で、震災の日に妹と一緒にそのエアリですかね。エアリに行つて、こうお祝いを買おうみたいなことで、その震災のときにエアリにいまして。それでちょうどいろいろお店屋さんまわつてた時に、最初そんな気付かなかったんですけど、知らない買い物客の方がいて、揺れてないかって言つたときにはもうすでにそのエスカレーターに乗つてたんですけど。妹と一緒に私が前で後ろで、揺れてないって聞こえて、したらどンドン揺れ始めて、どンドン、二階の電気屋さんにちょうど着いちやうつてところだったんですけど、妹は急いで降りられたんですけど、私は即座に反応できなくて。でも下に行きたくてあわあわしてるうちに、どンドン揺れがひどくなつて。でもなんとか妹が手引つ張つてくれて、下に降りれたんですけど。急いで、エスカレーターから降りれたまでは良かったんですけど、私がどんくさいあまりに結構揺れてないかって言われてからずいぶん時間がたつてしまつたので。最初結構小さい揺れから、どンドンどん大きくなつていつて。やっぱりなんですかねえ、こうとつさに建物の中にいるよりは、多分出口が近かつたので、外に逃げたかつたんですけど、間に合わなくて、途中で止まつちやつたんですね。あともうちよつとで出口だったんですけど、結構揺れがマックスに近くなつてしまつて。一瞬、もういいかなつと思つてしまつて、あつと思つたんですけど、もしたらまた妹が、お姉ちゃんつて聞こえて、見たら衣装とか服とかいろいろ売つてる、大きな机の下に隠れてて、一緒に店員さんと、そのとき全然全く知らない買い物客の方と一緒にその下に隠れたんですね。でも最初ぱつと見たときに、あれ私入れるスペース無いじゃないかと思つて。もう私のことはいいいからと思つて、

もうこうやつて立つてたら、全然大丈夫つて言われて、そのまま入つてたんですね。もしたらこう店員さんとかもすぐくなんでしょう。あーいう非常時なのに机の中に入つてくたさいとか、妹もしつかりしてたんですけど、プロ意識っていうんですかね。私はパニックになつてて、フード付きの服を被つてたんですけど、妹せつかくそれとか被せてくれてんのに周りがよく見えないからとか言つてぱつとつたりとかして。もしたら一緒にいる知らない買い物客の方が、3階に子供たちを遊ばせておくスペースがあつて、そこに子供がいるのつて言つて、ちよつとパニックになつてて、でそれでしばらくなんですかね。体感時間的には結構長かつた気がするんですけど、ずーつと揺れてて。でその近くに結構ガラス製品とかあつたので、倒れてきてて、私身体半分ぐらい出たので、妹に引つ込んでつて言われたときに、近くに棚とかも倒れてきてて、ガシャーンとガラスの壊れた音がして、しばらくこの状態が続いて、でまあ地震終つたときに、店内が全部、机から出たときに店内とかも停電してて、なんですかね。煙みたいなのもあがつてて、別のところから店員さんですかね。男の人が出てきて、急いで、私たちはホントに近かつたので出口が。急いで気を付けて出てください。みたいな感じで、一緒に入つた方と妹と出つたんですけど。で私たちはすぐ出られて、いったん駐車場の方でちよつと待機みたいにしてたんですけど。でまあしばらく啞然、何が起こつてるか分からず、しばらくこうやつて、でそのとき携帯もあつたので、みんななんですけど、みんな携帯開いて、一斉に情報集めようとしてて、私も。それからちよつとパニックになつたので。啞然としていて、出てからは収まつてたんですけど、みんな情報集めるので。でだいたいで多分私はそこに30分くらい。駐車、車で来てたんですけど、一階に止めてたので、もうすぐ車には乗つて、しばらく様子見てたら、3階とか2階にいた人とかは、時間差とかでバーつて出てきて、2階に駐車スペース。2階の屋上とかに止めてた人は、勝手にこう車

降りてくる、あれ使つてのぼつて行くとして、いろんな人に怒られたりだとか。死にたいのかとか。それぞれ。車取りに行こうとして、勝手に逆走、なんて言うんですかねえ、上からバーって行ったりして。まあそういうの見たりして、だいぶ落ち着いてきてから、エアリがこういう状態なので、家とかもう崩れてるんじゃないかと思つて。でまあどうにか家に帰ろうと思つて車に乗つて、家に行こうとしたら、信号機とかも。車は一階のちょうど駐車スペースだったので、私はすぐ2階じゃなかったので帰れたんですけれど。でそっからふつうに帰ったんですけれど、やっぱり途中の信号機とかも、全部止まつてたりとか、電信柱折れてたりとかして。戦争あとみたいになつてまして。帰るのにですね、バイパスを通らなければいけないくて、もう信号機とか止まつてるので。多分バイパスの脇からこう来るんで、バイパスの人たちブンブン飛ばすんで、多分渡れないか帰れないかと思つたんですけれど。

### 道路では皆譲り合つた

最初に一番感動したのが譲り合いで、バイパスの方ばーつて通つてる人がきちんと時間ですかね。間隔をあけてあつち止まつてくれて、脇から来る車通してたりして。非常時だったんですけれど、そういうところ日本人すごいなあと思つて。遮断機が壊れてて、多分誰かが外したんだと思うんですけど。でそこ通つて家に着いてく途中も結構私の住んでるところなんですけれど、結構はずれつていうか田舎なので、結構昔の瓦屋根みたいなのも多くて、こう道にバラバラつともう瓦とか壁も崩れてたりして。でうちに着いたので。うちは見たら家族とかも外に出てて、無事だったんですけれど、中に入つたら結構やっぱり中ぐちゃぐちゃで。ただやっぱり海岸つていうか沿岸部ではなかったたので、まあちよつと家の中がだつとして、壁崩れてそれくらいだったたので、全然大丈夫だったんです。

### その日は車の中に

やっぱりその日、数日間ぐらい震災の余震ですか。余震がひどか

つたので、1日目は家の中ちよつと見て、あと家の中にいたらちよつと危ないつてことになりました。近くに公民館もあったたのでそつち避難してもよかつたんですけれど、私はこう、公民館に行かずに、車のお父さんの車に、当時雪も降つていたんですけれど寒かつたので、ちよつと暖房もたきつた家の毛布引つ張り出してそれを広げて。その日はとりあえず私の家族に関しては車で一夜を過ごしてつていう感じですね。でその間も携帯はまだ電池残つていたので、車で。で携帯ですかね。最初にやっぱり心配になつていろんな人にメールだの携帯だのどう連絡取ろうとしたんですけれど繋がらず、でも夜くらいになったら友達と連絡取れて、今こういう状態だつて言われて。当時ですねえ、後々ニュース見たらホントだつたんだと思つたんですけれど。荒浜ですか。死体が300体とかいうのが回つてきて、現実的に全然リアルじゃなくて、信じられないんですけど。そのときはもう全然まさかつて、いろんな情報が断片的に入つてきてまして。そんなふうな感じ。

それでまあ次の日になつて、ホントにすぐですか近くに公民館がありまして、でも公民館で配給つていうんですかね。次の日にすぐに配給が始まつて、私の住んでるところの近くにですね、大きなパンの工場みたいな。結構工業地帯みたいなのがあって、山崎パンですかね。パンのような工場がお弁当とかいろいろあるんですね。なのでそういう方々がパンを近くだつてことで配給してくれて。結構当時いろんな場所場所によつて食料が全然ないとか言われてたんですけれど、でも私が住んでた名取市の地区はすぐ配給も始まつて、結構食べ物全然困らなかつたんですね。水とかも他のところだと市役所に行つて、千人くらい並んだりとかして、水くむのだけでもそんな状態だったんですけれど。またそこも水も全然苦労しないでくめまして、すごい恵まれた。

車みたいなタンクで運んできて。給水車です。給水車で運んで来て、それを汲ませてもらつて。で水とかもだからあつたんで。そ

れでこう水とかもあって、ただやっぱり電気とか全部ライフラインが止まったので、やっぱりこうなんでしょう。建て替えたのでだいたいオール電化とかにしたので、やっぱりこう、まあガスとかも全然来なかったんですけど、全然電気とかライフライン使えないので、だいたいロウソクとかこう立てて、夜はロウソクとかこうランプ立てて、あとはこうラジオですかね。手回しで充電できるような。ラジオでこう情報取りつつ、まあしばらく生活するっていう。で朝になったら家の中を片付けたりですとか、だいたいあとはこう3日4日くらいはほとんど家の中の片付けだったりですとか、あとこう配給に行ったり。

### ボランティアを徐々に始める

そのときにもう震災起こって6日目5日目くらいだったのでだいぶ私は、家の方も落ち着いてきて。でだいぶ余裕があったというか、だったのでその時になにかしなければなあってのはあったんですけど全然具体的に浮かばず、ってときにそういうお話を聞かせていた。だいて。かつそのお母さん幼稚園も再開できなくて。保育所で結局再開できないので、今じゃあ何やってんのかーって言うたら、市役所の方でおにぎりとか作ったりだとか、そういうパンの仕分けとかもして、こう。そういうののボランティアを、お手伝いをしていから、みきちちゃんもし余裕があったらとかそういうのもやっているよって教えてもらって。そのときに初めて、あっそういうことはできるのかっていうのがちよつと具体的に。なのでそれが一番きつかけですね。そのまえにちよつと閉上の避難所に来た方の実際の状況も見て、かつ具体的な方向性を示していただいたので、こうこれじゃないかなってパツてすぐなって。ホント電気も回復してたので、パソコンで近くのお手伝いできるところないのかなあって調べたときに、確か震災後一週間後に、たしかその当時災害、名取市災害ボランティアセンターが立ち上がって、ちよつとホームページが出てきたんですね。そこでもう受付が始まるからっていうことで、

とりあえずこう家から自転車で行ける距離だったんで、はい。結構近くだったんでそのまま行って、登録するところから始まりましたよね。それでちよつと一番初めのボランティアが館腰小学校の仮設トイレの掃除とかだったんで。それから私は比較的近くに住んでいたんで、でも学校も休講っていうかそんなだったんで。で家もだいぶ落ち着いてきて、周りも落ち着いてきたので、うん。じゃあボランティアっていうか活動かなあと行って、そっから通い始めたのがボランティアするきっかけですね。はい。

最初はですね、後々尚綱が大学っていうこと社協の協議会の方と一緒にスタッフとしてお手伝いすることになるんですけど、当時は本当に社協の方だけでやってまして。でもホントにすごいなと思っただのが、混乱することなく体制が出来上がったので、震災ずつと大きな地震が起きる起きるって言われてきたなかで、きちんと。私は起きるって言われてたにも関わらず、家とかに特に防災グッズ用意してたりとか、日ごろから気にかけていたわけではないので。だからそういう風にこうやっぱり市役所の方でしたりとか、福祉協議会の方は体制整えて。まあ後々いろいろやり方変わってっただんですけど、私はホントに初日の方とかもしっかりマッチングして、その依頼が来てる館腰小学校でしたり名取市役所に行って、活動して帰って来るっていう流れで混乱もなくスムーズ運んでたんですけど。でやってくなかで、あちらの社会福祉協議会の方だけに任せるんじゃないかって、実際に現場に行つて友達でしたりですとか活動した人たちがこここうだったっていう意見を取り入れて。例えば土砂出しに行ったときに、靴長靴だけ最初履いてっただんですけど、釘とかがあつてそれでこう長靴貫通して足に刺さって病院行きって人がいて、そういう報告をボランティアが言ったら次から長靴の中に鉄板敷きましようとかなったりですとか、お互いボランティア方々と、社協っていうかセンターの協力してやってたような形で。私はしばらくくずつと通ってたんですけど、あと妹も一緒に途中から行きだす

ようになって。あとあつちの方でまた同級生に会ったりですとか。でそれですばらく一緒に活動してたときに、尚綱の場合ですと男の子って言うか、多分今は在学中ですね。子ども学科のZ君っていう男の子が最初に地元の大学ですのお手伝いできることがあればみたいな、確かその一声がきっかけで尚綱がお手伝いに参加することになったんですけれども。でそのときに以前私大学のほうでボランティアほうに登録だけしてまして。それで急に知らない番号から、今だと全然その当時はわからなかった、全然知らない人から電話が来て、明日から社協の方々と一緒にスタッフとしてお手伝いしてくれっていきなり言われました。あつとりあえず誰かもわかんないんですけど、あつわかりましたって言って、そのまま次の日から社協の方々がやってたお仕事のちよつとお手伝いみたいになって、私はまあそこから最初は普通に土砂出しでしたりとか、市役所に行つていろいろ物資の仕分けでしたりとか。あとはこう避難所に行つてお掃除でしたりとか、やらせてもらつてたんですけれど、それから毎日毎日いろんなところから支援してくれる方たちがいます。毎日ですね、書類で紙に生年月日書いて、住所書いてからこう名札作つてマッチングしてつていう流れだったので。私は尚綱の大学生は最初受付の部分と、あと資材ですね。使い終わった土砂出しとかで汚れた資材を清掃したり管理するのと、あと最初のほうは社協の方たちがやってたんですけれど、マッチングのほうのときのお手伝いですかね、声掛けでしたり。そういうののお手伝いに入ります、だいたいそれがもう5月の下旬ぐらいでしたかね。それからもずっとそういう風なスタッフのほうに徹してまして、それでずっと続けて、まあ大学もたしか二か月遅れぐらいですかねえ。5月に始まつてたんですけれども、だいたい授業でそのときにボランティアで一週間連続でお休みすると、申請がおきるつていうのがあったので、ずっと受付の方について全然現場に行けなかったもので、行きたいなあと思つて。そんときに一週間使つて、カーネーション農家の片付けですか

ね。閑上でたしかカーネーションが有名で。そのカーネーション農家の片付けですかね。ちよつど3月ぐらいの。ハウス、おうちも行ったんですけど、ハウスのほうで本当にもうダメになつてしまつてお花が。それを全部引っこ抜いて、土砂も掻き出しつてのをずっとやってました。ビニールハウスの中だったのですごい熱中症とかですね。具合悪くなる人も多発してまして、そういうことがあつたらまた今度社協のスタッフの方と話し合つて、何時間にも一回は休憩入れてだの細かいルールが追加されてつていうのを何回も繰り返し繰り返し返してつてきまして。で一週間くらいそのときにまた尚綱生の女の子もそういう制度を使つてた。当時結構いたんですよねその制度を使つて。そういう子たちと回つて一緒に活動したりですね。でそしたら6月ぐらいに確か正式に今の組織ですかね。ボランティアセンターが立ち上がつてつていうのがあつて、それでその一員ですかね。今までこう、尚綱の学生みたいな立場でやつてたんですけど、そのボランティアが立ち上がることで、まあそつちの意識つていうか、一員だつて意識しつて、まあ活動が始まつて。だいたい8月まで開いてたんですけれど、だいたい7月とか8月に入つたあたりからは毎日こうセンターが開いてたのが、金曜日と土曜日2日制みたいになつて。だつたので朝大学に行く前にこう朝の受付参加したりとか、そういう風にちよつと参加しつて、そうですね。

### ボランティア学生がタクシー使うなんて

学校に行く日は車で、あとは最初はずつと自転車だったんですけど。ガソリンはそうですね、私の車とかお母さんの車そのときは入れたばかりだったんですけれど、あんまり車使わなくて。やつぱりお母さんやお父さんは職場に行つて様子を見なければいけないつてことで、ちよつと車で職場に何日かしたら出てつたんですけれど。私はそこまで車は多用せず、まだ電気も来てなかつたりしてたんで、信号とかもないんで、怖かつたんです。ずっと自転車か徒歩とかつてのを続けてまして。まあだいたい大学が始まつて、そのボランテ

イア参加したあとに、大学に行かなくてはいけないってときに、私は車があったので、車で通って。最初はなんですかね、でもやっぱり大学始まったあと、ボランティア行きたいってときは、あそこらへんってなかなか交通の便がバスがそこまで通っているとかも無かったので。最初の何日、制度でタクシーで通ってくる。それくらい人が必要だった時期もあったので、学生ではそれ利用してた子も何人かいたりして。まずそういう風に大学がしてくれたんですけど、学生が申し訳なくなつて、使えなくなつたっていう。けどやっぱりボランティア行くのにタクシーってなつて。結局使い辛くなつて、それで。ただ私の車に乗せて行ったりしてたんですけど、軽なんで、そんなに乗れなくてですね。だから何人かはタクシーとかで最初行つてたんですけどそのうち、ボランティアなのにタクシー使つてるのがよくわからないみたい。ちよつと違うんじゃないか。つてなつて、あんまり学生は使わない。それか私が乗せて来るか。つていう形になりました。当時一緒にやつたときは生涯学習センターの尚綱の方の受講生のおばさまがたですかね。と一緒に活動、受付とかやつてたんですけど、おばさまがたはタクシーとか近くの方は歩いてくるとかそういうのも利用してたんですけど。まあ学生はそういうの申し訳ないという意識が強いのか、あんまりこう使わずに。なかなか被災者の方もあまり目にする機会はなかったと思うんですけど、やっぱりこう。結構細かい人は細かかったのであんまり違うなあってなつて、結果私が車に乗せて行くみたい。そういうのを繰り返して行つてる学生も何人かとかですね。今もやっぱり仮設とか行く時も、あそこも、まあなとりん号つて通つてるのでまあなとりん号使つてる人もいたんですけど、まあ仮設行く時もまあ乗せて来れる人は駅から、まあ一緒にみんな来てみるみたい。できるだけーその大学とか負担にならないというか、こう交通費出してもらいながらボランティア行くの抵抗感というか、があったので、あんまり極力は。

### ボランティアセンターは閉所に

まあ閉所しまして、そのときやっぱりいろんな方々と繋がりができたといいますか。社協の方はもちろんのこと、当時いろんな大きな企業さんが入つてたりしまして、▶さんが名取の社協には入つてまして、だったのですごくいろいろな企業さん。あと福祉大さんでしたりとか、いろんなところがその当時も週替わりとか毎日もう交代で来てくれたので、まあすごいこう災害ボランティアセンターとしてはすごくいろんなところの協力も得られて。他のところ、岩沼でしたりとかいろんなところにそういうボランティアセンターあつたんですけども、名取は他のところに行つた人に聞いたところ、ボランティアの方にですね。聞いたところ、名取はすごいって言つてました。制度が管理からそのマッチングにいたるまでが全部もうきちんと整理されてるからすごいね。でも一瞬ちよつとねえ、その人結構口が冗談っぽいので、軍隊みたいだつて最初言われたんですけど、あーそうか、すごいやっぱり他のところと全然違うつて言われたんで。確かにきちんと書いてきた資料の数も把握したりですとか、もう人数のこととかすごいそこらへんがきちんとしたので、そこまで大きな問題も起こることなく、その閉所するまでに、無事にこゝういたれたんじゃないかなつて話聞いて思いました。当時はすごいんだなあって思つてまして、そのときもいろんな企業さんでしたりとか、他の大学の学生さんでしたりとかとお話するようになつて、まあ今でも交流があつたりするので、そういうところはホントに。

んでそのあとに閉まつて、まあ今度大学の方でも本格的にそのタスキというかSVS（尚綱ボランティアセンター）つんでしようか、ボランティアセンターが立ち上がったんで、今度はもうセンターが閉所したので、仮設住宅のほうの支援に取り組みたいなのはあつて今もそれがやっぱり一番の目的で。当時は私が一番上の学年で、ホントに。3年生になった、そうですね。それで1年なつ

て、それからこうやり始めて、だいたい9月か10月頃から本格的にその一愛島の方に行くようになって。ただ生涯学習センターの活動でしたり被災、避難所の方にこう演奏しに行くでしたり、歌うたいに行くみたいな活動もいろいろやってたの聞いてたので、そういった講師の方々に来てもらいなごう。最初はだいたいお年寄りの方々がこうやっぱり仮設に多かつたので、簡単なストレッチ体操ですとか、オカリナ演奏しながら歌うたったりとか、まあだいたいあと集まってお茶飲みみたいな。そういうこうあんまり一人にしないというか、そういうのをだいたい軸にしながらこう、活動してた感じですね最初の方は。でも歌謡曲、ムード歌謡みたいな、なんて言ったらいいんですかね、黄色いさくらんぼとかいろんな(笑)でも愛島ですね、仮設ごとにいろいろ特色があるんだなあと思つたのが、やっぱりすごい閑上はその、愛島の仮設は閑上の方が集団移転してきたので周りもこう知り合いで、あつ何丁目のまるまるさんだねみたい。すぐこう仮設ってどんよりした雰囲気があるのかなって思つたら、もうこうみんな逆にないわい。みんながみんなってわけじゃないんですけど、比較的みんなもフレンドリーで、浜独特の元気の良さっていうか、フレンドリーさっていうか、があつたので比較的、最初も行つても警戒されるっていうか人も集まるのかなって状況だったんですけど、比較的ホントに通つてるうちにうん。皆さんの方からこう馴染んできてくれまして、だからすごいこうやりやすかつたというか、すごく楽しいという雰囲気というか。いろんな人がいたんですけど、そこがやっぱり一番初めだったので。でそのあとにまあ入生でしたりとか山元町の方に行つてみたりですとかもあつて。

### ボランティアで事件が

結構いろいろ。事件はですね結構年明けてからでしたかね。ちょうど中華丼とかを作つてた時で、ホント結構厳しくそこらへんは言われてみたいんですけど、やっぱり食中毒とか起こつたりとか、

まあいろいろ、火も使うものですので、危険だつてことは言われてたんですけど、結構そこらへん大丈夫だろーみたいな感じで言つてたみたい。私最初の料理のやつには参加できなくて、最初の時にそう言われてるの知らなくて、行つたときにこうすごいピリピリした雰囲気、なにと思つたらそういうことがあつたので。それからけどいろいろ改善したみたいだつたんですけど。結構最初ちよつと押し付けっぽくなつてたんですかね、こつちが良かれと思つてやるみたいな風はあつて、でもそういうことがあつたので私も気付かされた部分っていうのは、そのことだけなんですけど、やつてるうちにこれってやっぱり結構自己満足というか、ホントに被災者の方のことを考えてやつてるのかなっていうのは何度か度々思つたりはして。そこが課題なのかなと思いつつ。だつたのもつと話を聞かなければという事で、そこからそうなつたりはしたんです。どういふのがやりたいですかあー？みたいだつたり。

今までは聞くよりもこつちで設定して、こういうのがいいんじゃないかみたいな感じだつたんですけど。聞き入れることに最初にこう調査すること、あつちも受け入れやすいというか。いきなり来てこんなやつちやいますみたいなのだとええーって。別に私たちやりたくないし、って方もいたりとか。あと尚綱のたまに、こういうのやるって言つて、みんなわーってなつてるのに、実際蓋開けたら違ふことやつてるときもあつて。そこをそこが多分一番反感かつたのかなと思ひまして。リス作るよつて言つたのに、やつたの細かいストラップ作りで、見えないんだけど。とか、よくわからない講座やつちやつたりとか、子供の虐待を防止するためとか。そういう、勉強になるんですけど、それは果たしてここでこの場であつてことなのかつてのはよく疑問で言われて、そういうのつてあんまり上の方々にいかにないで、学生の方が言いやすいんですかね、でそのときに仮設の方々からよく言われてたので、こう。ねえ、歌うたつた、あつてもそれは閑上の年寄とかは、入生の方なんです

すけど、入生しているんな地域から来てたので、やっぱり近所関係も閑上の愛島と比べると、結構閑散としてましたというか。こうそのかわり集まると絆固いというかあ。だから自治会がすごく強くて、だったので社協の人と、自治会で集まった人達が一緒にこう来たボランティアさんを見てるというか。何かあれなところがあつたらすぐ注意されるみたいな。例えば歌うたいに行つたときに、自治会の方とか社協の方に言われたのは、先生が一人で気持ち良く歌つてて、全然音量高すぎて聞こえないからもちよつとボリューム下げて欲しいですとか。映画最初上映してたんですけど、最初きみまろで、きみまろさんのトークのライブとか。愛島の方ではすごい好評でバカうけだったんですよ。それを同じように入生でやつたら、ああいうのは不適切内容もあるからちよつとつて寅さんになつたりとか。結構とかもあつたので、なるほど全部同じやり方でやつてもダメなんだ。その仮設とかそういう状況に合わせて変えなきゃいけないのかなつていうのもある意味気づきだったので、全然言われて、私は全然良かったんですけども。ただやっぱりボランティアという体で行くのにあつちからちよつとね、つて言われるとすごい凹むといいますか。いろんな面ではあつてたりはしたので。

今でも若干しこりが。最近やっぱりお仕事とかで行けてないんですけど、しこりも残ってる部分もあつたりとか。ただ今は自治会長さんが変わったみたいで、その方が愛島の仮設みたいにしたっていう勢いで、で、変わってくるんじゃないかなつていう。今までよりかはまた別の風が吹くかもしれないのかなつて思つて。でそうですね。何がいいのか悪いのかなかなか私は判断がつかかねるんですけども。ただボランティアもだいたいぶ震災から月も経つて、そのあいだあいだでこう、いずれかはこう、支援つていう形は続けられる限り続けていくんですけど。支援だけではもとの生活つてものがあるの、お茶出しとかも無料でしてたんですけど、そういうのつて周りのお店屋さんとかも経済も回らなくなつてから、お金とり

ながらとかそういう細かい話をいろいろ聞こえてきたりするの。そういうのにも情報を聞いて、そういう風に合わせてやつていかなければいけないのかなと思つてたんですけど。だったので今こう、私は卒業してしまつたんですけど、カフェやりたいねつてちゃんと、例えば仮設の方々とメニュー考えて、被災地のいちごとか使つたパフェとか。じつさいやつてるところありまして、それは無料提供つていうよりはちよつとお金取つて、もし仮設で開けるなら仮設の方がこうそれでこうそういうやつやれるように。そのカフェ作つたりとかやれるようになっていう。そつちの方向性に持つてく。ずっと支援してくだけの一方通行から、お互い一緒にやつてこうみたいな。もあつたので。やっぱり時間の経過につれて私はすごい勉強になつたという。

### 名取のよいところ

名取のいいところつてやっぱり人の為つていうか、みんなが丸となつてそういう大変なときに活動できる場所ですかね。ホントに他のところではないんじゃないかなつて思つて。今年の4月の6日も被災者の方々への支援がまだまだ必要だけれども、一回センターが閉所してしまつたので、結局みんなばらばらになつたんですけども、ときみんな活動して、またみんな活動したいというところで。それを目的としたボランティア同窓会みたいな開催されて、またみんなその時集まつて、新しくまた仲間つていう。そこにまたボランティアしたいつて人が登録しますと、社協の人がバックアップしてくれて、また仮設とかで活動できるように新しい組織みたいなの立ち上がったみたいなんですけど。

閉所したのは2011年の8月。被災の年のホントにだから実際のセンターで活動した期間は5ヶ月とか半年。

あとはやっぱりこう、ホントみんな人柄が優しいと思つたね。絆が強いというか。田舎ならではの感じがしますけど私は。そうですね。やっぱり、うん、そういう感じでしたね。だったのでこうい

う震災のときは強みになるというか。